

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第150集

そうさく かね ばい せき に
惣作・鐘場遺跡Ⅱ

2008

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県瀬戸市は、県の北部、岐阜県との県境に位置します。市域は濃尾平野北西部から山地にかけて広がり、庄内川源流の自然豊かな地です。古くより窯業産地として知られ、「せともの」は陶器の代名詞となっています。近年は窯業とともにセラミック産業として再生し、近代化が進んでいます。

この地も近代産業の発達によりますます開発が進み、これにともなう埋蔵文化財の調査が増えています。今回の惣作・鐘場遺跡の調査は国道改良工事にともなうものであり、産業の発達と軌を一にする交通の増加を因とするものです。この調査により、古代の人々の生活、中世の村の様子的一端が明らかになってきたと思われます。本書はその成果をまとめたもので、この地域の歴史を考える上での一助となることができましたなら幸いです。

最後に、発掘調査にあたりまして御理解、御協力をいただきました地元住民の方々をはじめ、関係者並びに関係各機関に厚く御礼を申し上げます。

平成 20年 3月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 林 良三

例言

1. 本書は愛知県瀬戸市惣作町及び鐘場町地内に所在する惣作・鐘場遺跡（遺跡番号 030792）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国道 248 号道路改良工事に伴うもので、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託され、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが実施した。整理作業及び報告書作成は同センターが行った。（中途より財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターに改組）
3. 調査期間は平成 12 年～16 年である。
4. 調査は藤岡幹根（現小牧市立一色小学校教諭）、鶴飼雅弘（現東郷高校教諭）、成瀬智弘（現豊野高校教諭）、樋上昇、宇佐見守、武部真木、川添和暁、早野浩二、酒井俊彦が担当した。
5. 調査に際して以下の関係機関から指導・協力を受けた。
愛知県教育委員会文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター・(財)瀬戸市埋蔵文化財センター・愛知県建設部道路建設課
6. 遺物整理、図版作成については以下の方々の協力を得た。
調査研究補助員 八木佳素実
整理補助員 中村たかみ、牧ゆかり、斉藤佳美、山田有美子、伊藤ますみ、三浦里美、後藤恵理（敬称略）
7. 出土遺物については以下のように外部委託を行い、その結果を掲載した。
土壌分析（株）パリノ・サーヴェイ C14 年代測定（株）パレオ・ラボ 山茶碗胎土分析（株）第四紀地質研究所
8. 本書の編集は酒井俊彦が行った。
9. 今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第 VII 系に基づくものであり、海拔標高は T.P.（東京湾平均海面高度）による。
10. 調査及び本書の作製に当たり、次の諸氏に御指導・御助言を賜った。
渡辺誠（本センター専門委員） 岡本直久（瀬戸市埋蔵文化財センター）（順不動、敬称略）

目次

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過	1
第2節 遺跡の立地と環境	4

第2章 遺構

第1節 基本層序	8
第2節 縄文時代の遺構	12
第3節 弥生時代の遺構	16
第4節 古墳時代の遺構	20
第5節 古代の遺構	79
第6節 中世の遺構	83
第7節 近世の遺構	125
第8節 自然流路その他	129

第3章 遺物

第1節 土器・陶磁器類	130
第2節 土製品	232
第3節 石製品	234
第4節 木製品	245
第5節 金属製品	255
第6節 その他の遺物	257

第4章 自然科学的分析

第1節 山茶碗及び古瀬戸施釉陶器の胎土分析	258
第2節 炭化物の放射性炭素年代測定	272
第3節 植物珪酸体分析	277
第4節 惣作・鐘場遺跡における古環境変遷	286

第5章 まとめ	290
---------	-----

插图目录

第1图 調査区位置图 (1/4000)	3	第56图 SB033(1/50)	54
第2图 遺跡位置图	5	第57图 SB036・040(1/50)	56
第3图 遺跡周辺 (1/25000)	7	第58图 SB037(1/50)	57
第4图 基本層序 (1)	10	第59图 SB038(1/50)	58
第5图 基本層序 (2)	11	第60图 SB039(1/50)	59
第6图 SB001(1/50)	13	第61图 SB044(1/50)	60
第7图 SB002(1/50)	13	第62图 SB041(1/50)	61
第8图 SB003(1/50)	14	第63图 SB051(1/50)	62
第9图 SB004(1/50)	14	第64图 SB052(1/50)	63
第10图 SB005(1/50)	14	第65图 SB060(1/50)	64
第11图 SB007(1/50)	15	第66图 SB062・063(1/50)	65
第12图 SB019(1/50)	15	第67图 SB065(1/50)	66
第13图 01A区 SK02(1/50)	15	第68图 SB201(1/50)	67
第14图 01A区 SK171(1/50)	15	第69图 SB202(1/50)	68
第15图 SB220(1/50)	17	第70图 SB204-206(1/50)	69
第16图 SD212(1/50)	18・19	第71图 SB203(1/50)	70
第17图 SB213(1/50)	23	第72图 SB207(1/50)	70
第18图 SB216(1/50)	24	第73图 SB208(1/50)	71
第19图 SB217(1/50)	24	第74图 SB209・210(1/50)	72
第20图 SB218(1/50)	25	第75图 SB214(1/50)	73
第21图 SB221(1/50)	26	第76图 SB211(1/50)	74
第22图 SB222(1/50)	27	第77图 SB212(1/50)	75
第23图 SB223・224(1/50)	27	第78图 SB215(1/50)	76
第24图 SB225・226・228(1/50)	28	第79图 SB230(1/50)	76
第25图 SB227(1/50)	29	第80图 SB266・267(1/50)	77
第26图 SB228(1/50)	30	第81图 SB262(1/50)	78
第27图 SB238・239(1/50)	30	第82图 03B区 SK206(1/50)	78
第28图 SB242(1/50)	31	第83图 SB018(1/50)	80
第29图 SB243(1/50)	31	第84图 SB043(1/50)	80
第30图 SB244(1/50)	32	第85图 SB064(1/50)	81
第31图 SB247(1/50)	32	第86图 SB272(1/50)	81
第32图 SB257(1/50)	33	第87图 SB263(1/50)	82
第33图 SB259(1/50)	33	第88图 SB287(1/50)	82
第34图 SB265(1/50)	33	第89图 SB050・055(1/50)	90
第35图 SB268(1/50)	34	第90图 SB006(1/50)	91
第36图 SB270(1/50)	34	第91图 SB010(1/50)	91
第37图 SB271・275・276・278(1/50)	35	第92图 SB007(1/50)	92
第38图 SB274・281(1/50)	36	第93图 SB008(1/50)	92
第39图 SB277(1/50)	37	第94图 SB009(1/50)	93
第40图 SB279(1/50)	37	第95图 SB022(1/50)	94
第41图 SB280(1/50)	37	第96图 SB023(1/50)	94
第42图 SB285(1/50)	38	第97图 SB026(1/50)	95
第43图 SB286(1/50)	39	第98图 SB029(1/50)	95
第44图 SB290・297(1/50)	39	第99图 SB030(1/50)	96
第45图 SB292・293(1/50)	40	第100图 SB048(1/50)	96
第46图 02B区 SK134(1/50)	40	第101图 SB054(1/50)	97
第47图 SB011(1/50)	46	第102图 SB056(1/50)	98
第48图 SB012(1/50)	47	第103图 SB058(1/50)	99
第49图 SB014(1/50)	47	第104图 SB057(1/50)	100・101
第50图 SB025(1/50)	48	第105图 04Ca区 SK964(1/50)	102
第51图 SB028(1/50)	48	第106图 04Cb区 SK500(1/50)	102
第52图 SB027(1/50)	49	第107图 04Cb区 SK100(1/50)	102
第53图 SB031(1/50)	50	第108图 04Cb区 SK352(1/50)	103
第54图 SB032(1/50)	52	第109图 02A区 SK19(1/50)	103
第55图 SB034(1/50)	53	第110图 02B区 SK58(1/50)	103

第 111 図	SD053-055 断面図 (1/50)	104	第 166 図	古墳時代土器 (12)	154
第 112 図	SD053 断面図 (1/50)	105	第 167 図	古墳時代土器 (13)	155
第 113 図	SD053・054 断面図 (1/50)	105	第 168 図	古墳時代土器 (14)	156
第 114 図	SD055 断面図 (1/50)	106	第 169 図	古墳時代土器 (15)	157
第 115 図	SD086 断面図 (1/50)	106	第 170 図	古墳時代土器 (16)	158
第 116 図	SD089 断面図 (1/50)	106	第 171 図	古墳時代土器 (17)	159
第 117 図	SD090 断面図 (1/50)	107	第 172 図	古墳時代土器 (18)	160
第 118 図	SD056 断面図 (1/50)	107	第 173 図	古墳時代土器 (19)	161
第 119 図	SD092 断面図 (1/50)	107	第 174 図	古墳時代土器 (20)	162
第 120 図	SD104 遺物出土状態図 (1/50)	107	第 175 図	古墳時代土器 (21)	163
第 121 図	SD084(1/50)	108・109	第 176 図	古墳時代土器 (22)	164
第 122 図	SD093(1/50)	110	第 177 図	古墳時代土器 (23)	165
第 123 図	SD116 断面図 (1/50)	111	第 178 図	古代土器 (1)	167
第 124 図	SD080・083・084 断面図 (1/50)	111	第 179 図	古代土器 (2)	168
第 125 図	SD083-085 断面図 (1/50)	111	第 180 図	中世土器 (1)	180
第 126 図	SD105 断面図 (1/50)	112	第 181 図	中世土器 (2)	181
第 127 図	SD121-125 断面図 (1/50)	113	第 182 図	中世土器 (3)	182
第 128 図	SD132 断面図 (1/50)	113	第 183 図	中世土器 (4)	183
第 129 図	SD007(1/50)	114	第 184 図	中世土器 (5)	184
第 130 図	SE01(1/50)	115	第 185 図	中世土器 (6)	185
第 131 図	SE02(1/50)	115	第 186 図	中世土器 (7)	186
第 132 図	SE03(1/50)	115	第 187 図	中世土器 (8)	187
第 133 図	SE07(1/50)	115	第 188 図	中世土器 (9)	188
第 134 図	SE04(1/50)	116	第 189 図	中世土器 (10)	189
第 135 図	SX014(1/50)	117	第 190 図	中世土器 (11)	190
第 136 図	SX015(1/50)	117	第 191 図	中世土器 (12)	191
第 137 図	SX025(1/50)	118	第 192 図	中世土器 (13)	192
第 138 図	SX019(1/50)	118	第 193 図	中世土器 (14)	193
第 139 図	01A 区西斜面 (1/50)	119	第 194 図	中世土器 (15)	194
第 140 図	00A 区南斜面 (1/50)	120・121	第 195 図	中世土器 (16)	195
第 141 図	04E 区杭列出土状態 (1/60)	122・123	第 196 図	中世土器 (17)	196
第 142 図	SX201-203(1/50)	124	第 197 図	中世土器 (18)	197
第 143 図	SB230(1/50)	126	第 198 図	中世土器 (19)	198
第 144 図	SD003(1/50)	127	第 199 図	中世土器 (20)	199
第 145 図	SD003 断面図 (1/50)	127	第 200 図	中世土器 (21)	200
第 146 図	SE05(1/50)	127	第 201 図	中世土器 (22)	201
第 147 図	SE06(1/50)	127	第 202 図	中世土器 (23)	202
第 148 図	SX024(1/50)	128	第 203 図	中世土器 (24)	203
第 149 図	NR01(1/50)	128	第 204 図	中世土器 (25)	204
第 150 図	00B 区断面図 (1/50)	129	第 205 図	中世土器 (26)	205
第 151 図	縄文土器 (1)	132	第 206 図	中世土器 (27)	206
第 152 図	縄文土器 (2)	133	第 207 図	中世土器 (28)	207
第 153 図	縄文土器 (3)	134	第 208 図	中世土器 (29)	208
第 154 図	弥生土器	135	第 209 図	中世土器 (30)	209
第 155 図	古墳時代土器 (1)	143	第 210 図	中世土器 (31)	210
第 156 図	古墳時代土器 (2)	144	第 211 図	中世土器 (32)	211
第 157 図	古墳時代土器 (3)	145	第 212 図	中世土器 (33)	212
第 158 図	古墳時代土器 (4)	146	第 213 図	中世土器 (34)	213
第 159 図	古墳時代土器 (5)	147	第 214 図	中世土器 (35)	214
第 160 図	古墳時代土器 (6)	148	第 215 図	中世土器 (36)	215
第 161 図	古墳時代土器 (7)	149	第 216 図	中世土器 (37)	216
第 162 図	古墳時代土器 (8)	150	第 217 図	中世土器 (38)	217
第 163 図	古墳時代土器 (9)	151	第 218 図	中世土器 (39)	218
第 164 図	古墳時代土器 (10)	152	第 219 図	中世土器 (40)	219
第 165 図	古墳時代土器 (11)	153	第 220 図	中世土器 (41)	220

第221図 中世土器(42)	221	第246図 木製品(3)	248
第222図 中世土器(43)	222	第247図 木製品(4)	249
第223図 近世土器(1)	224	第248図 木製品(5)	250
第224図 近世土器(2)	225	第249図 木製品(6)	251
第225図 近世土器(3)	226	第250図 木製品(7)	252
第226図 近世土器(4)	227	第251図 木製品(8)	253
第227図 近世土器(5)	228	第252図 木製品(9)	254
第228図 近世土器(6)	229	第253図 金属製品	256
第229図 墨書土器	231	第254図 玉類	257
第230図 狛犬	232	第255図 金属関連遺物	257
第231図 加工円盤	233	第256図 三角ダイヤグラム位置分類図	262
第232図 土錘	233	第257図 菱形ダイヤグラム位置分類図	262
第233図 製塩土器	233	第258図 Qt-Pl 図	263
第234図 銅鐸型土製品	233	第259図 SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図	263
第235図 石鏃(1)	236	第260図 FeO ₃ -TiO ₂ 図	264
第236図 石鏃(2)	237	第261図 K ₂ O-CaO 図	264
第237図 有舌尖頭器 石錐 スクレイパー類	238	第262図 暦年較正結果	276
第238図 打製石斧	239	第263図 各地点の植物珪酸体含量	279
第239図 磨製石斧 石棒 石錘	240	第264図 植物珪酸体群集	283
第240図 敲石	241	第265図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図 作成地点	288
第241図 磨石類	242	第266図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区の層序断面写 真	289
第242図 砥石	243	第267図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図	289
第243図 砥石 硯 紡錘車	244		
第244図 木製品(1)	246		
第245図 木製品(2)	247		

表目次

第1表 調査工程	1	第10表 測定試料及び処理	275
第2表 胎土性状表(1)	265	第11表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の 結果	275
第3表 胎土性状表(2)	266	第12表 各地点の植物珪酸体含量	279
第4表 化学分析表(1)	267	第13表 珪藻分析結果(1)	284
第5表 化学分析表(2)	268	第14表 珪藻分析結果(2)	284
第6表 タイプ分類表	269	第15表 花粉分析結果	285
第7表 組成分類表(1)	270	第16表 植物珪酸体分析結果	285
第8表 組成分類表(2)	271	第17表 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における放射性 炭素年代測定結果	288
第9表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の 結果	273		

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯と経過

1. 調査の経緯

今回の調査は、国道248号道路改良工事にともない、愛知県教育委員会を通じて愛知県建設部道路建設課の委託を受け、(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが平成12～16年度に実施した。全21調査区、総調査面積は28650m²である。なお、東海環状自動車道関係で本センターが平成14年度に実施した本遺跡の02D区の調査に関しては、「鳳山C窯跡 惣作鐘場I」で調査報告を行った。

遺跡は愛知県瀬戸市惣作町、鐘場町地内に所在し、庄内川の支流である赤津川の右岸の河岸段丘上に立地する。この地域は水田などの農耕地として利用され、宅地あるいは工業用地としての利用は進んでいないため、これまで遺跡を調査する必要が生じる開発は少なかった。調査以前には、付近の遺跡としては調査区の北側丘陵上にある大目神社古墳と大目神社遺跡、及び南側の赤津川沿いに太子縄文遺跡、太子遺跡などが存在することが認識されていた。

道路改良工事にともない、平成10年度に愛知県教育委員会は遺跡の南部の道路建設用地内の試掘調査を行った。その結果、古墳時代から近世にかけての遺物等が出土することが認められ、惣作川より南の区域の遺跡範囲を確認した。同教育委員会から委託を受けた本センターは、平成12年度より赤津川から惣作川にかけての地域の調査を開始した。また、同年度に惣作川以北の範囲調査を行ったところ、縄文時代から古墳時代の遺物が認められ、大目神社古墳の所在する丘陵にかけての河岸段丘上にも遺跡が広がることが確認された。これにより本センターは平成13年度以降、北部地区にも対象地域を広げ、調査を実施した。

国道248号道路改良工事と東海環状自動車道関係で本センターが行った調査は、平成12年度南部2調査区計4400m²、平成13年度南部3調査区・北部1調査区計5860m²、平成14

調査区	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
00A 00B	2000												
01A 01B 01C 01D	2001												
02A 02B 02C	2002												
03A 03B 03C	2003												
04Aa 04Ab 04B 04Ca 04Cb 04Da 04Db 04E 04F	2004												

第1表 調査工程

年度北部 2 調査区・南部 2 調査区計 5465m²、平成 15 年度南部 2 調査区・北部 1 調査区計 4850m²、平成 16 年度南部 5 調査区・北部 1 調査区計 10200m²である。調査面積の総計は 30775m²である。

これまでに検出された遺構・遺物は旧石器時代終末から近世末までの時期に及ぶ。出土遺物量は本センターが標準的に使用する内容量 27L コンテナでおよそ 700 箱である。また、(財)瀬戸市埋蔵文化財センターによる本遺跡の調査が平成 14・15 年度に行われている。現在、環状自動車道と国道改良工事に関わる部分について調査は終了している。

2. 調査の経過

愛知県教育委員会の平成 10 年度の試掘調査では、遺跡の西から南側を流れる門前川より遺跡中央部の惣作川までの範囲に 20 ヶ所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、門前川及び惣作川河谷を除いた段丘上に縄文時代、古墳時代後期、中世・戦国時代及び近世の遺構・遺物が認められ、遺跡が広く展開することが確認された。これに基づき、平成 12 年度より調査を行なった。また、同年度に惣作川以北の区域内について赤津川との間の遺跡の広がりやを確定する試掘調査を本センターが行った。試掘トレンチ 17 ヶ所を設定して調査を行ったところ、縄文時代及び古墳時代前・後期の遺構・遺物が検出された。この結果、遺跡範囲は惣作川以北の赤津川河谷に至るまでの段丘上に広がり、縄文時代から中世の複合遺跡と認識された。また、惣作川を挟んで 2 地区にわたり、両者に遺跡としての性格に差異があることが認められた。

平成 12 年度の調査では、00A 区において、縄文時代、古墳時代及び平安時代竪穴住居が検出され、この時代の集落址が展開することが確認された。00B 区は遺跡の所在する段丘下にあり、門前川河谷の遺物包含層が検出された。

平成 13 年度は、前年度の範囲確認によって惣作川以北の地区の調査を開始した。01A 区、01B、01C 区では、前年度と同様に古墳時代及び縄文時代の集落址を確認する。北部地区の北辺の 01D 区でも、古墳時代の竪穴住居と掘立柱建物が検出され、当地域でも集落が存在することが確認された。

平成 14 年度では、北部地区の 02A 区、02B 区で古墳時代集落が検出され、01D 区から南に展開することが確認された。また、02B 区で弥生時代後期の竪穴住居を確認した。南部地区の 02C 区では中世包含層と中世以後の道路が検出された。02D 区では中世初期の掘立柱建物が検出され、集落が確認された。

平成 15 年度は北部地区 01C 区で古墳時代竪穴住居 1 棟を確認する。南部地区では、03B 区で古墳時代の竪穴住居群を検出し、遺跡中央部において同時期の集落が展開することを確認した。03A 区では中世溝などを検出する。

平成 16 年度は南部地区の遺跡中央部と北部地区の計 10200m²の調査を行う。04B、04C、04D 区において中世 14～15 世紀の溝によって囲まれる集落を検出する。04B 区の集落より一段低い面において中世から近世にかけての水田が検出された。この地区と北部地区の 04A 区において古墳時代竪穴住居群を確認し、この時代の集落は遺跡全体に展開することが確認された。また、04C 区で近世の掘立柱建物、井戸を検出し、本遺跡が旧石器時代から近世に至る複合遺跡であることが明確になった。(酒井俊彦)



第1図 調査区位置図 (1/4000)

第2節 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

遺跡は瀬戸市の東部、惣作町及び鐘場町地内に所在する。瀬戸市は愛知県の西部北端、名古屋市の北東に位置する。市内は尾張平野を囲む山地帯から尾張平野に移行する地域にある。市域の南東部から北部にかけては木曾山地に続く山地帯、中央部は平野に移行する丘陵地帯となり、西部は尾張平野の一部となる。市域の北西部の境界は庄内川であり、これに合流する河川が東の山地帯から発し、尾張平野にむけて流下する。北から水野川、瀬戸川、矢田川があり、流域に沿って丘陵部に盆地を形成している。

遺跡は矢田川の支流である赤津川の左岸に位置する。赤津川は市の東辺となる三国山と猿投山とを含む山地塊を源流として西流し、市域の東部で南に流れを変える。海上川と合流して矢田川になり、再び西流した後、庄内川に合流する。遺跡は赤津川が南流する部分にひろがる赤津盆地の中央部分に所在する。東側は三河山地に連なる山塊で、西側は丘陵地帯を挟んで市街地である瀬戸川の盆地となる。

遺跡は北東から南西に流れる赤津川東側に面した2段からなる河岸段丘上に立地する。標高は159～174mを測る。南流する赤津川に平行して、その支流である惣作川と門前川が流れる。惣作川は遺跡が立地する段丘に連なる山地塊の東側から南流し、遺跡範囲の中央を横切るかたちで赤津川と合流する。この惣作川の河谷によって遺跡は南北の2地区に別れる。遺跡の北部は赤津川と惣作川に挟まれ、北東から南西に延びる舌状の河岸段丘上に展開する。北端は赤津川の河谷となる。門前川は遺跡の東側の山塊から発し、遺跡の東側を流れて遺跡の南の境界部で赤津川に合流する。南部は赤津川と門前川の河谷に挟まれる比較的広い段丘上に立地する。

現在の遺跡及びその周辺は農耕地となっている。大部分は昭和期以降の土地改良によって整備された水田である。河谷などの傾斜面の段差が存在するが、段丘面上は全体として緩やかな傾斜地となっている。

2. 歴史的環境

瀬戸市は、古墳時代より窯業生産の影響が顕著な地域である。本遺跡を中心とした赤津盆地では、ことに中世から連綿と継続して築かれてきた古窯跡が集中する。赤津盆地周辺では東側の山地から市内中央部にいたる丘陵地帯の斜面に多数の古窯跡が確認されている。

本遺跡北方の丘陵地帯には八床古窯跡群が所在する。昭和36・44年に調査が行われ、20基が確認されている。すでに消滅している窯体が多いが13世紀の山茶椀及び古瀬戸施釉陶器と15世紀の古瀬戸施釉陶器を生産している。北東の山地部には3基の15世紀の古瀬戸施釉陶器窯からなる鶯古窯跡群が所在する。本センターは東海環状自動車道建設にともなってこの中の1基の調査を平成11年から12年度にかけて行い、窯体、灰原と製陶工房跡を検出している。

赤津盆地をとりまく、丘陵及び山塊の斜面は特に古窯跡が密集する。西北～西側の丘陵上には馬ヶ城、大栃、椿、保手、銭亀、銭東など古窯址が立地する。いずれも13世紀の中世山茶椀および古瀬戸施釉陶器と15世紀の古瀬戸施釉陶器を中心とする窯である。大部分が山林で、開発が進んでいないため調査例は少なく、現存するものが多い。盆地の南西部は比較的古窯跡が少ない地域であるが、川合古窯跡群などがある。この地域で県道瀬戸設楽線建設にともない、本センターは平成15年度に万徳峠窯跡と川合D窯跡の調査を行っている。万徳寺峠窯跡は13世紀の山茶椀と施釉陶器である四耳壺などの瓶子類との併焼窯であることを確認している。川

合D号窯跡の窯体は調査されておらず、灰原のみが確認され、山茶碗と古瀬戸施釉陶器を併焼している。

赤津盆地東方の山地の谷斜面にも凧山、呉、神田、巡間、白山などの古窯跡が分布する。確認されているものでは、中世13～15世紀の山茶碗と古瀬戸施釉陶器の生産窯がほとんどである。本センターは東海環状自動車道の建設にともない、この地区の窯跡の調査を行っている。平成13年度に巡間E窯跡、平成14年度に凧山C窯跡の調査を行い、前者は窯体が2基確認され、13世紀の山茶碗と瓶子類の施釉陶器を併焼している。後者は2基存在し、14世紀の山茶碗と施釉陶器を生産していることを確認している。また、県道瀬戸設楽線建設にともない、単独の古窯跡として近世17世紀の施釉陶器生産窯2基が確認され、瓶子窯跡を調査している。窯体の調査は行われていないが、近接する河道沿いに堆積する遺物包含層を調査し、窯生産品と工房関係の木製品・金属製品を含む各種遺物を検出している。

赤津盆地南東から南側の山地帯から丘陵地帯にかけては2～3基程度を単位として横根、平林、笹松、篠田などの古窯跡群が展開する。これらは13～15世紀の山茶碗あるいは古瀬戸施釉陶器の窯跡である。開発が進んでいないため、調査されたものは少ないが、扶桑古窯跡群は一部が調査されて消滅している。



第2図 遺跡位置図

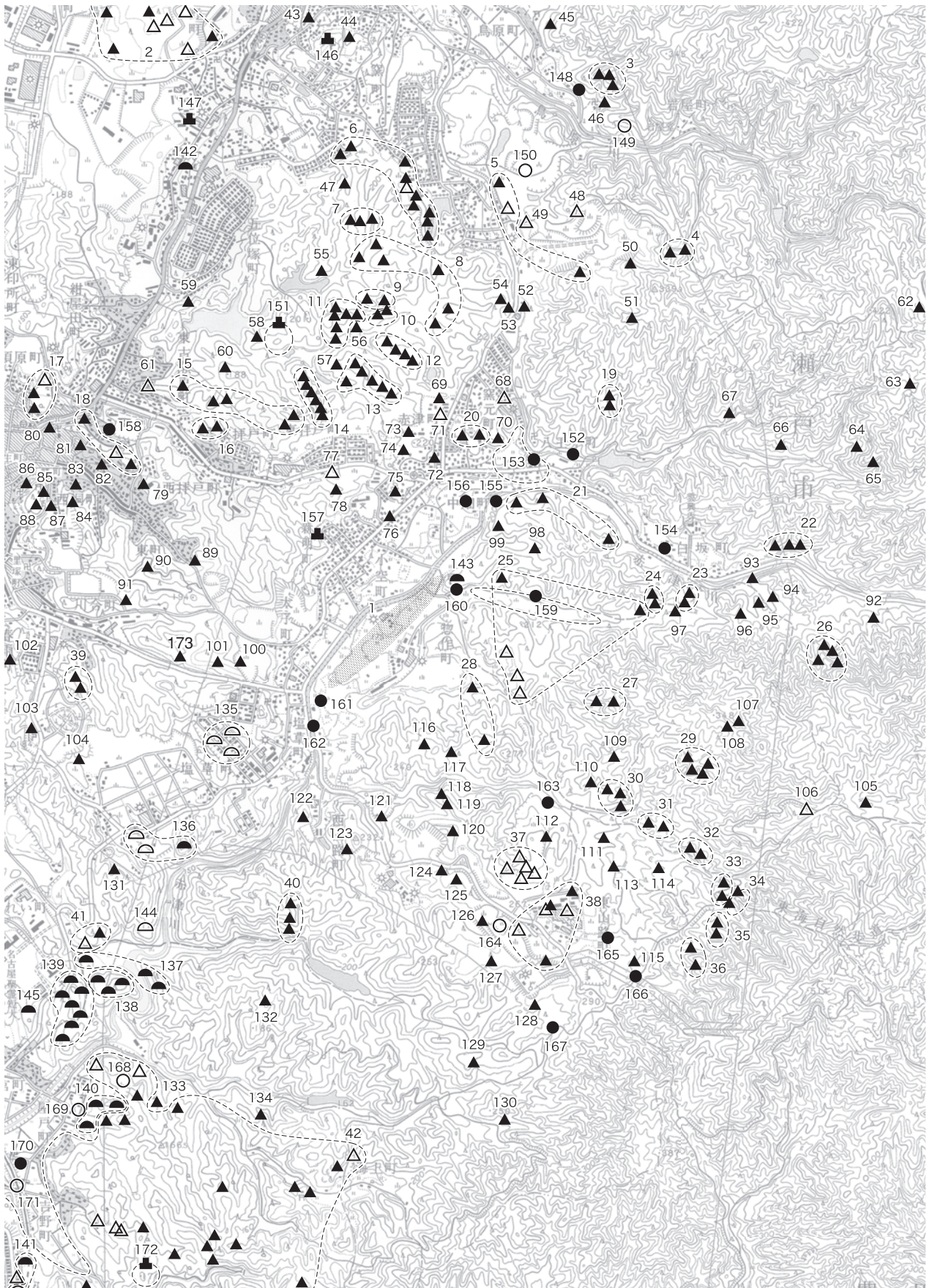
赤津盆地の中心は市街地であり、開発行為による消滅例が多い。中世窯以外に近世以降の連房式の窯跡が含まれる。また、隣接する瀬戸盆地には近世以降の窯跡が分布する。市街化進み、消滅している窯も多い。近世以降、近代の窯跡が確認されている。

赤津川下流域には30基以上からなる広久手古窯跡群が所在する。12～15世紀の山茶碗と施釉陶器の生産窯が主体であるが、11世紀の灰釉陶器窯が存在する。

古窯跡群以外の遺跡としては、古墳時代後期の群集墳が分布する。赤津盆地の南部地域に多く、万徳寺、塩草、高塚山、塚原、川原山、吉田等の古墳群がある。調査例は少ないが、塚原古墳群は昭和40年に調査されている。本遺跡が所在する段丘に連なる北の丘陵上には、単独で大目神社古墳が存在する。

この地域では古窯跡および古墳群については確認された例が多く、それ以外の一般の遺跡は比較的少ない。近年の開発行為によって調査例も増えてきており、本遺跡もその例に含まれる。これまで調査された遺跡では、本センターが関わったものとして八王子遺跡、長谷口遺跡、凧山屋敷遺跡、吉野遺跡がある。これらは東海環状自動車道および県道瀬戸設楽線建設にともなうものである。八王子遺跡では、縄文時代早期の竪穴住居が確認され、縄文時代早期から中期の遺物および中世の遺物が検出された。長谷口遺跡は縄文中期及び弥生時代の竪穴住居が検出された。凧山屋敷遺跡では、中世末から近世にかけての屋敷地が確認されている。吉野遺跡では縄文時代と中世の遺構・遺物が検出され、盆地の沖積地において縄文時代中期後半から後期前葉の竪穴住居が確認された。赤津盆地とその周辺には、岩屋堂遺跡、鳥原遺跡、針原遺跡、太子縄文遺跡、山路縄文遺跡など縄文時代の遺跡が多い。その他、太子遺跡、山路遺跡など旧石器時代の遺跡が少数ある。(酒井俊彦)

1 惣作・鐘場遺跡	31 北平1・2号窯	61 菊畑窯	91 稲荷窯	121 山路C窯	151 馬ヶ城
2 八床1～21号窯	32 平林1・2号窯	62 乗越窯	92 長首西窯	122 清掃センター窯	152 長谷口遺跡
3 鶯1～3号窯	33 笹松北1・2号窯	63 蜂窯	93 城ヶ根口窯	123 高島屋窯	153 八王子遺跡
4 柿宜1・2号窯	34 笹松1・2号窯	64 滝下窯	94 城ヶ根東窯	124 清水北窯	154 白坂雲興寺遺跡
5 針原A～C窯	35 笹松東窯・南窯	65 長谷口A窯	95 城ヶ根窯	125 清水窯	155 凧山屋敷遺跡
6 境1～10号窯	36 鳥屋口北窯・西窯	66 滝窯	96 城ヶ根西窯	126 大松窯	156 赤津遺跡
7 殿原1～3号窯	37 扶桑1～5号窯	67 木下川窯	97 新迫間奥窯	127 山路西山窯	157 赤津城
8 馬ヶ城A～F窯	38 山路A～F窯	68 百日窯	98 凧山窯	128 大平窯	158 古瀬戸小西遺跡
9 大柵北1・2号窯	39 川合A1・2号窯	69 白山社窯	99 瓶子窯	129 隠屋窯	159 惣作遺跡
10 大柵南1・2号窯	40 篠田1～3号窯	70 帆立北窯	100 太子A窯	130 海上A窯	160 大目神社遺跡
11 椿1～6号窯	41 塚原1・2号窯	71 唐三郎窯	101 万徳峠窯	131 若宮A窯	161 太子縄文遺跡
12 保手1～4号窯	42 広久手1-28号・C-H窯	72 作助窯	102 春雨窯	132 海上北山窯	162 太子遺跡
13 銭東A～C窯	43 品野馬場窯跡	73 赤津A窯	103 春雨A窯	133 百代寺窯	163 山路遺跡
14 銭亀1～6号窯	44 円六窯	74 ちんちん山窯	104 塩草A窯	134 海上B窯	164 海上遺跡
15 井守沢A～C窯	45 浄源寺西窯	75 小左衛門窯	105 松平窯	135 万徳寺1～3号墳	165 東山路遺跡
16 金剛院裏1・2号窯	46 浄源寺窯	76 西窯A窯	106 鳥屋窯	136 塩草1～3号墳	166 山路縄文遺跡
17 夕日A～C窯	47 五位塚A窯	77 拝戸窯	107 横峰北窯	137 山口堰堤1～3号墳	167 大平縄文遺跡
18 王子沢窯・中窯・奥窯	48 仏供田1号窯	78 秋板窯	108 横峰窯	138 高塚山1～3号墳	168 屋戸遺跡
19 神事池西窯・東窯	49 三つ窯	79 洞窯	109 上山路A窯	139 塚原1～7号墳	169 屋戸遺跡2
20 窯元A・B窯	50 五葉窯	80 寺本窯	110 孫右衛門窯	140 川原山1～3号墳	170 吉野遺跡
21 凧山A～C窯	51 赤津長根窯	81 日面窯	111 平西窯	141 吉田1～4号墳	171 吉田遺跡
22 呉1～3号窯	52 針原窯	82 仲洞窯	112 穴山窯	142 五位塚古墳	172 塔山城
23 神田東1・2号窯	53 サカイ窯	83 平右衛門窯	113 上山路B窯	143 大目神社古墳	173 川合D窯
24 神田西1・2号窯	54 奥白根窯	84 元十窯	114 平窯	144 山口堰堤北古墳	
25 巡間A～E窯	55 萱原窯	85 朝日下窯	115 山路八幡窯	145 北山古墳	
26 白山1～4号窯	56 大柵西窯	86 西郷A窯	116 音玄窯	146 山崎城	
27 城狭間上窯・下窯	57 馬ヶ城C窯	87 朝日窯	117 音玄東南山窯	147 阿弥陀峰城	
28 門前A・B窯	58 馬ヶ城西窯	88 経塚山窯	118 田尻東窯	148 鳥原遺跡	
29 横峰南1～4号窯	59 水源池西窯	89 東町A窯	119 田尻窯	149 岩屋堂遺跡	
30 横根1～3号窯	60 留林窯	90 権八窯	120 石坂窯	150 針原遺跡	



第3図 遺跡周辺(1/25000)

第2章 遺構

第1節 基本層序

1. 調査区と周辺の地形

遺跡は赤津川の東側の河岸段丘上に立地する。河岸段丘は大きく上位と下位の2面が存在する。二つの面は遺跡北部の赤津川上流では緩やかな傾斜で比高差は1m前後であるが、南端部分では3～4mとなり、傾斜は急角度である。上位段丘面は平坦で北西方向に緩やかに高度を上げる。中央を南北に流れる惣作川によって、遺跡は南部と北部の2地区に分かれる。

南部地区

01A区は北東から延びる河岸段丘南端の下位段丘面に相当する。この段丘は東から南側は門前川の河谷に面し、西側は赤津川の河谷である。00A区、02C区から04B区は上位段丘面に位置し、北東から南西に伸びる河岸段丘の中央部分にあたる。03A区から04Db区の南東側は門前川河谷で、耕作地化しているため緩傾斜である。調査区の南東辺が河谷の斜面にあたる。00A、03Aの隣接地には東の山塊からの採土による小丘陵状の比高差約15mの盛り土が調査区に平行して存在する。本来の地形の状況が不明な部分があるが、門前川は本来、河谷の東側に流れていたものが、河谷の西側に人為的に流路を移動し、03Aから00A区では近接した位置を流れている。00A区西側は赤津川河谷であるが、03A区から04Ca区の北西側は上位段丘面及び下位段丘に至る平坦面または緩やかな斜面で赤津川に向かって高度を下げる。04Ca区から04B区東半は下位段丘面である。04B区北側は惣作川河谷である。

01A区の標高は約165mで、北側の上位段丘の00A区との境界は3～4mの比高差のある急傾斜地である。00A区から03B区にかけて緩やかに傾斜して高度を上げ、04E区から04B区の段丘中央部は標高約173～174mの平坦面である。

北部地区

調査区全体は大目神社の北東方向の丘陵から南西に伸びる細長い河岸段丘上に位置する。02B、04Ab区の南西端は惣作川河谷である。調査区の南東半04Abから03C区と02B中央は上位段丘面に相当する。02B区北半から02A、01D区は下位段丘面にあたる。04Ab区南東側は惣作川河谷の傾斜地である。02A区と01D区の北端は赤津川の河谷で急傾斜地となる。

調査区南西端は標高176mをはかる。調査区南東半の上位段丘面で標高178～179m、北西半の下位段丘面で178m弱の標高である。

2. 基本層序

南部地区(第4図)

A:01A区南壁 01A区は全体が下位段丘面に位置する。基本層序はa現耕作土b旧耕作土(2-4)c中世遺物包含層(5)で、cは基盤層の黄褐色シルト層直上に部分的に薄く広がる。表土は薄く、現代までの耕作作業の掘り返しが基盤面に達しているため、基盤上において検出可能な遺構のみが検出された。

B:00A区北壁 00A区は全体が上位段丘面にのる。基本層序はa現耕作土(1-5)b旧耕作土(6-10)で旧耕作土が基盤にのる。Bは比較的厚い表土部分である。

C:03A区北西壁 03A区は南半が上位段丘面で、北半は下位段丘への傾斜地である。基本層序はa現耕作土(1-4)b旧耕作土(4-6)c中世遺物包含層(7)である。全体に表土は薄く、部分

的には現在の耕作土が基盤面にのる。傾斜面には中世遺物包含層が遺存する。

D:04F 区北西壁 01B 区、04F 区、01C 区は上位段丘面に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-3)b 旧耕作土 (4-5) である。これらの調査区は全体に表土が薄く、現在の耕作が基盤に達する部分が多い。

E:03B 区北西壁 03B 区と 04E 区の北西側は上位段丘面に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-7)b 旧耕作土 (8) である。全体に表土が薄く、現在の耕作が基盤に達する。03B 区南東部から 04E 区にかけては近年の耕地整理による削平が行われている。

F:04Cb 区北西壁 04Cb 区、04Da 区、04Db 区および 04Ca 区北西半は上位段丘面である。基本層序は a 現耕作土 (1-2)b 旧耕作土 (3-5) である。全体に表土は薄く、現在の耕作が基盤面に達する部分が多い。遺構の検出は基本的に基盤面上である。

G:04Bb 区北西壁 04B 区から 04Ca 区は下位段丘面に相当する。基本層序は a 現耕作土 (1)b 旧耕作土 (2-5) である。04B 区北部では表土は薄い、南東部側では中世以降の旧耕作面が数層あり、遺構検出面は比較的深い。

北部地区 (第5図)

A:02B 区南壁 02B 区南端は惣作川河谷である。基本層序は a 現耕作土 (1-2) である。基盤は河川堆積の砂礫層である。

B:02B 区北西壁 02B 区中央は上位段丘面に相当する。基本層序は a 現耕作土 (1) である。表土は薄く、耕作によって削平が著しい。A から B にかけては、近世の耕地造成によって下位段丘から上位段丘の斜面が階段状になっている。

C:02B 区北西壁 02B 区北半は下位段丘面である。基本層序は a 現耕作土 (1-2)b 旧耕作土 (3-4)c 黒ボク堆積層 (5-6) である。c は無遺物層で基盤面とも考えられる。遺構の検出は c 層の上面および基盤面で行う。上層面で古墳時代から中世の遺構、下層面で古墳時代初期の遺構を確認した。

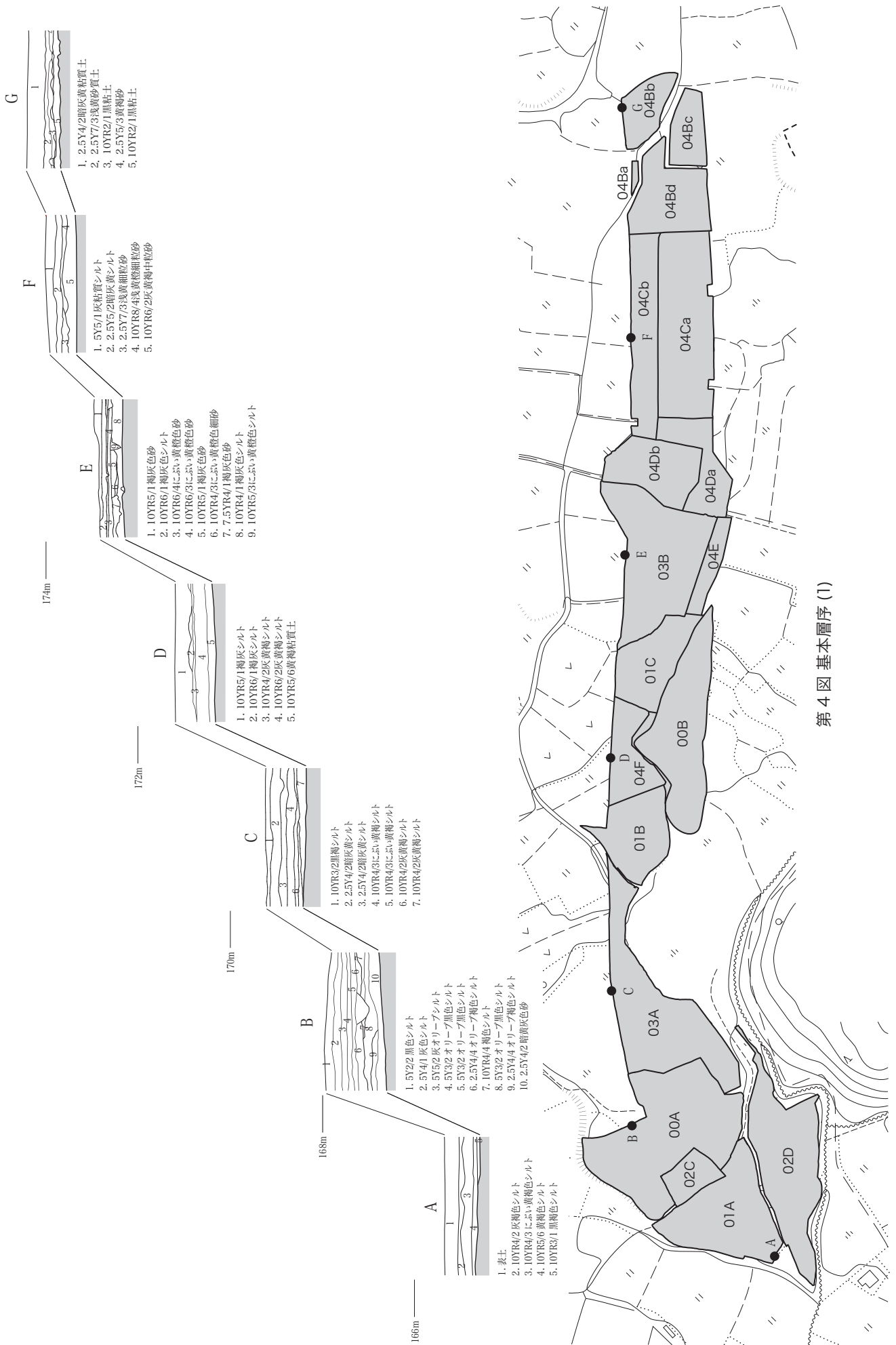
D:02A 区北西壁 02A 区は下位段丘面に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-2)b 旧耕作土 (3-4)c 黒ボク堆積層 (5-6) である。遺構の検出は c 層の上面および基盤面で行う。上層面で古墳時代から中世の遺構、下層面で古墳時代初期の遺構を確認した。

E:01D 区南壁 01D 区は上位段丘に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-3)b 旧耕作土 (4-5) である。遺構検出は基盤直上で行う。

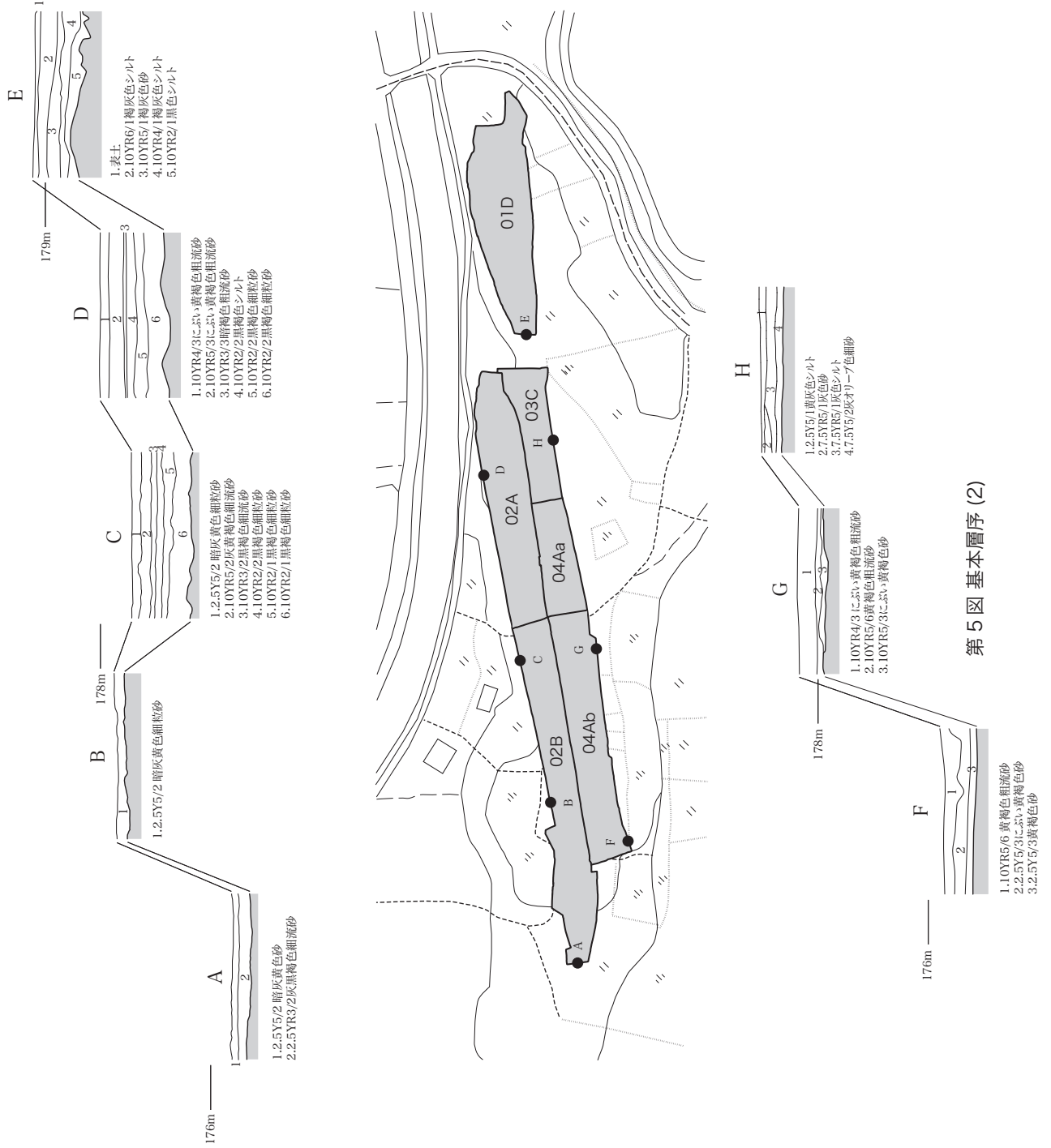
F:04Ab 区南東壁 04Ab 区南端は惣作川河谷である。基本層序は a 現耕作土 (1-3) である。基盤は河川堆積の砂礫層である。

G:04Ab 区南東壁 04Ab 区、04Aa 区は上位段丘にあたる。基本層序は a 現耕作土 (1-3) である。表土は薄く、現在の耕作が基盤面に達している。遺構検出は基盤面で行う。

H:03C 区南東壁 03C 区は上位段丘に位置する。基本層序は a 現耕作土 (1-4) である。表土は薄く、現在の耕作が基盤面に達している。遺構検出は基盤面で行う。(酒井俊彦)



第4図 基本層序 (1)



第5図 基本層序 (2)

第2節 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構としては竪穴住居7棟と土坑2基及び遺物包含層を検出した。

1. 竪穴住居

SB001(第6図)

01A区の中央北寄りで見出した。削平が激しく、南西側の壁溝は見出されない。平面形は、直径約3.8mの円形となる。壁溝は、幅約10cm、深さ約1cmを測る。ほぼ中央で、一辺約60cmの隅丸方形をした石と土器片を併用した炉を見出した。土器片は炉の内側に二重に貼り付けられ、底面中央が被熱する。

SB002(第7図)

01A区の中央北寄りで見出した。削平が激しく、南西側の壁溝は見出されない。平面形は残存する壁溝から、長径約4.4m、短径約4mの楕円形となる。壁溝は、幅約10cm、深さ約3cmを測る。柱穴は楕円形をしており、柱跡と掘りかたが明確なものもある。住居の中央北東寄りで土器片が出土した直径約50cm、深さ約10cmの土坑(SK125)を見出した。

SB003(第8図)

01A区の南端で見出した竪穴住居で、下層にSB004・005がある。平面形は、長径約3.7m、短径約3.3mの楕円形をしている。埋土中より土器片・石鏃・剥片・礫などが出土し、大型の礫は石囲炉に使用されたものとする。

SB004(第9図)

01A区の南端で見出した。平面形は、直径約3mの円形である。住居の中央西寄りで直径約60cmの円形をした石囲炉を見出した。炉の中央は被熱していた。

SB005(第10図)

01A区の南端で見出した。平面形は、直径約2.8mの円形である。壁溝は幅約10cm、深さ約10cmを測る。ほぼ中央で、直径約60cmの円形をした地床炉を見出した。炉の中央には大型の礫が2個置かれ、その下が被熱していた。

SB017(第11図)

00A区の中央で見出した竪穴住居で、約5m北にSB019がある。平面形は長径約5m、短径約4mの西側に膨らむ不整の円形である。壁溝が住居の周囲を巡る。住居内には多数のピットがあり、柱穴を明確にしごたいが、柱数は4本か5本と考えられる。住居の中央やや東寄りで長辺約1.2m、短辺約1.0mのやや胴張りの長方形をした石囲炉を見出した。炉の上面は顕著に被熱する。炉の中央には直径約25cmのピットがともなう。炉内や柱穴(SK131)から土器片が出土した。

SB019(第12図)

00A区の中央やや北寄りで見出した竪穴住居で、約5m南にSB017がある。削平が激しく、壁溝は南西側を見出すのみであった。住居内には多数のピットがあり、柱穴が明確にしごたいが、柱数は4本か5本と考えられる。中央部が被熱した浅い掘り込みを伴う地床炉を見出した。

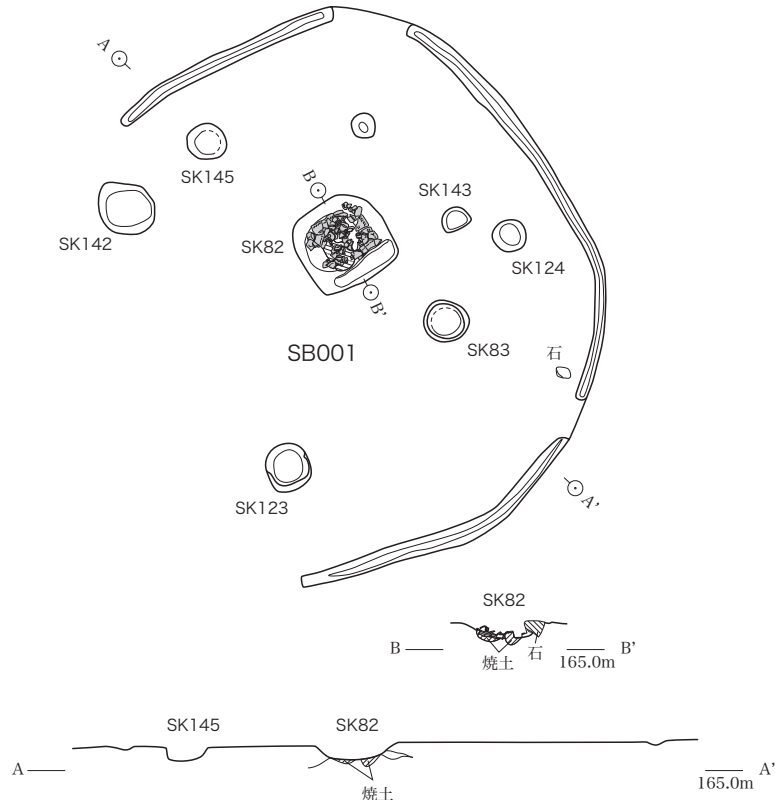
2. 土坑

SK02(第13図)

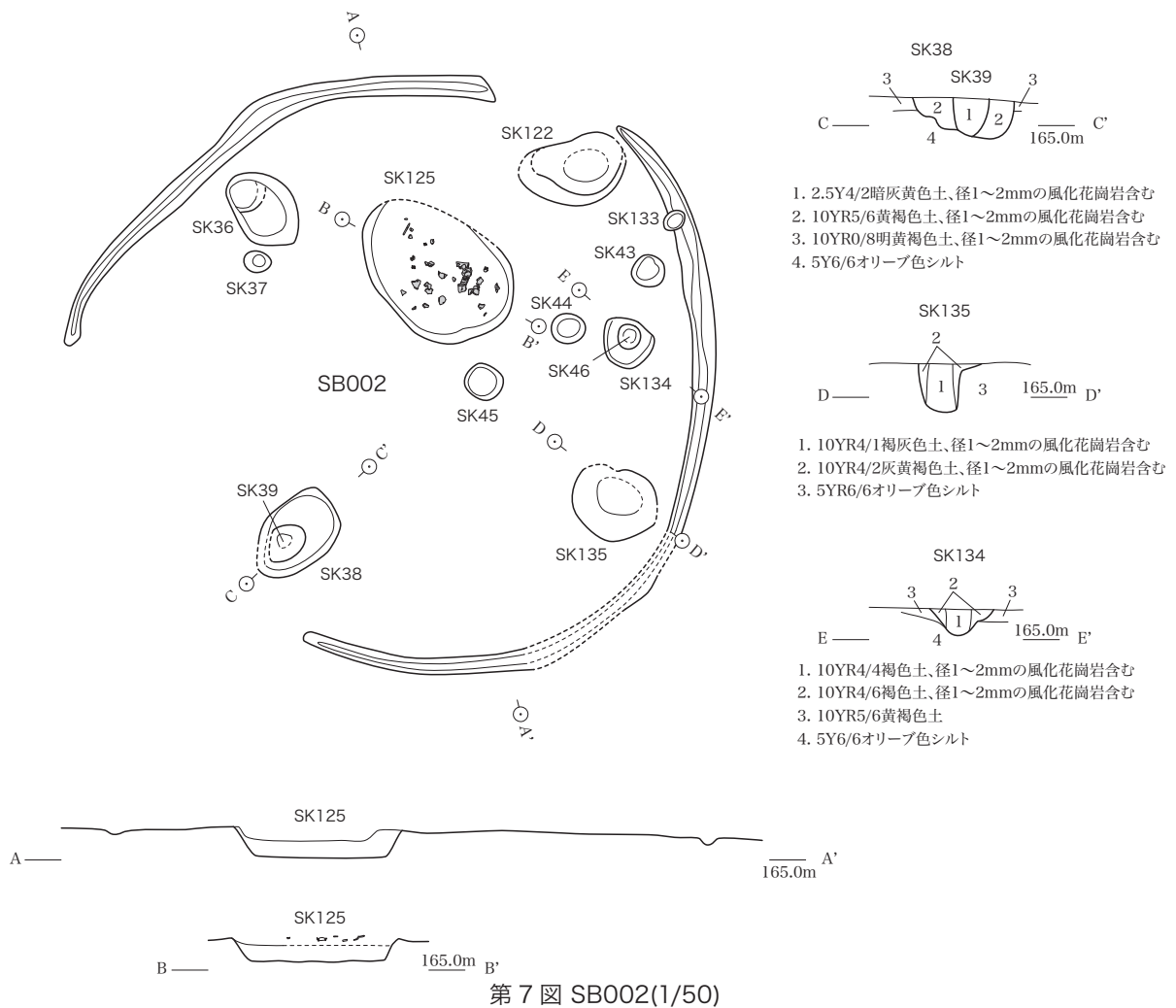
00A区の中央やや北寄りで見出した。東に隣接してSB019がある。長辺約90cm、短辺約75cm、深さ約70cmを測る。入口が狭く、底部に行くほど幅が広がる形状をしている。

SK171(第14図)

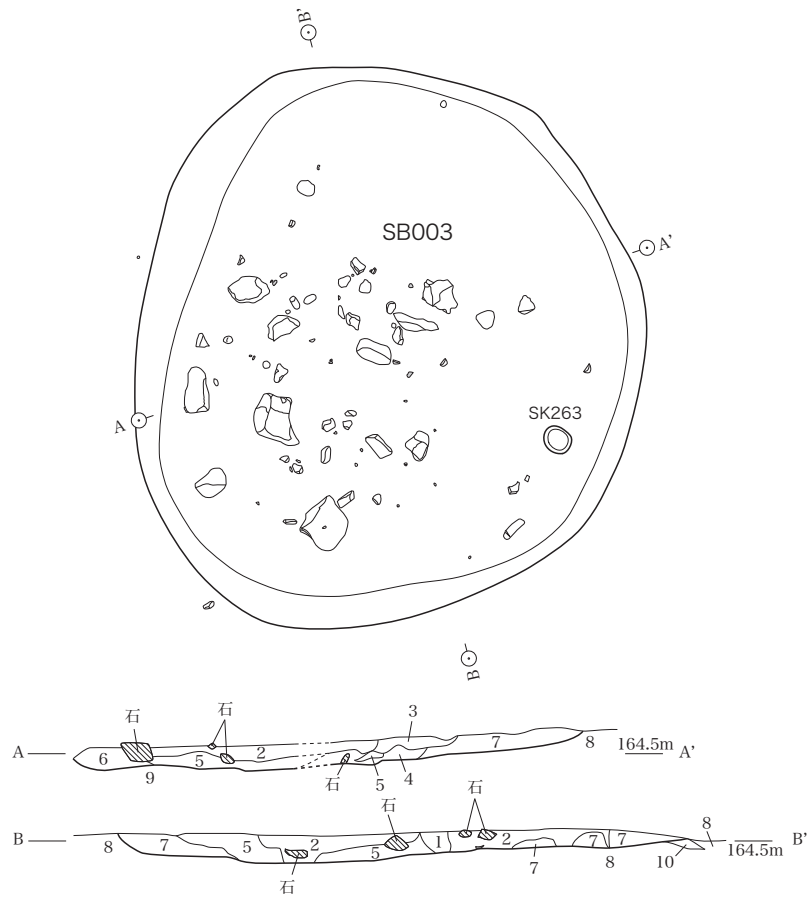
00A区の中央で見出した土坑で、南東に隣接してSB017がある。長辺約60cm、短辺約40cm、深さ約40cmを測る。入口が狭く、底部に行くほど幅が広がる形状をしている。(宇佐美守)



第6図 SB001(1/50)

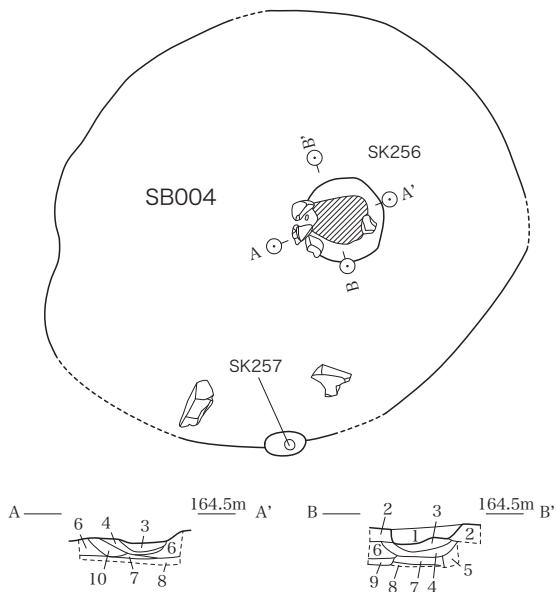


第7図 SB002(1/50)



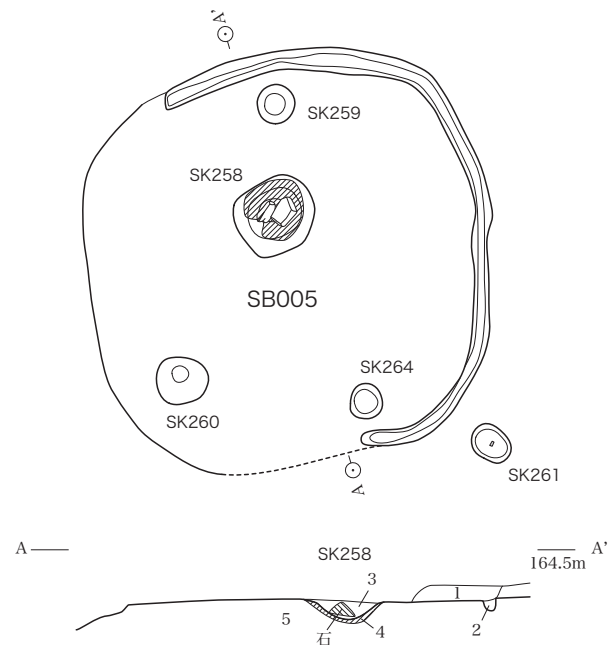
- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 10YR4/4褐色土、径1mm程度の風化花崗岩含む | 6. 7.5YR4/3褐色土、径1~2mmの風化花崗岩含む |
| 2. 7.5YR3/3暗褐色土、径1~2mmの風化花崗岩含む | 7. 7.5YR4/6褐色土、径1~2mmの風化花崗岩含む |
| 3. 7.5YR4/4褐色土、径1~2mmの風化花崗岩・マンガン塊含む | 8. 7.5YR4/3褐色土 |
| 4. 7.5YR3/2黒褐色土、径1mm程度の風化花崗岩混じる | 9. 7.5YR4/3褐色土 |
| 5. 10YR4/4褐色土、径1~2mmの風化花崗岩含む | 10. 7.5YR4/6褐色風化花崗岩 |

第8図 SB003(1/50)



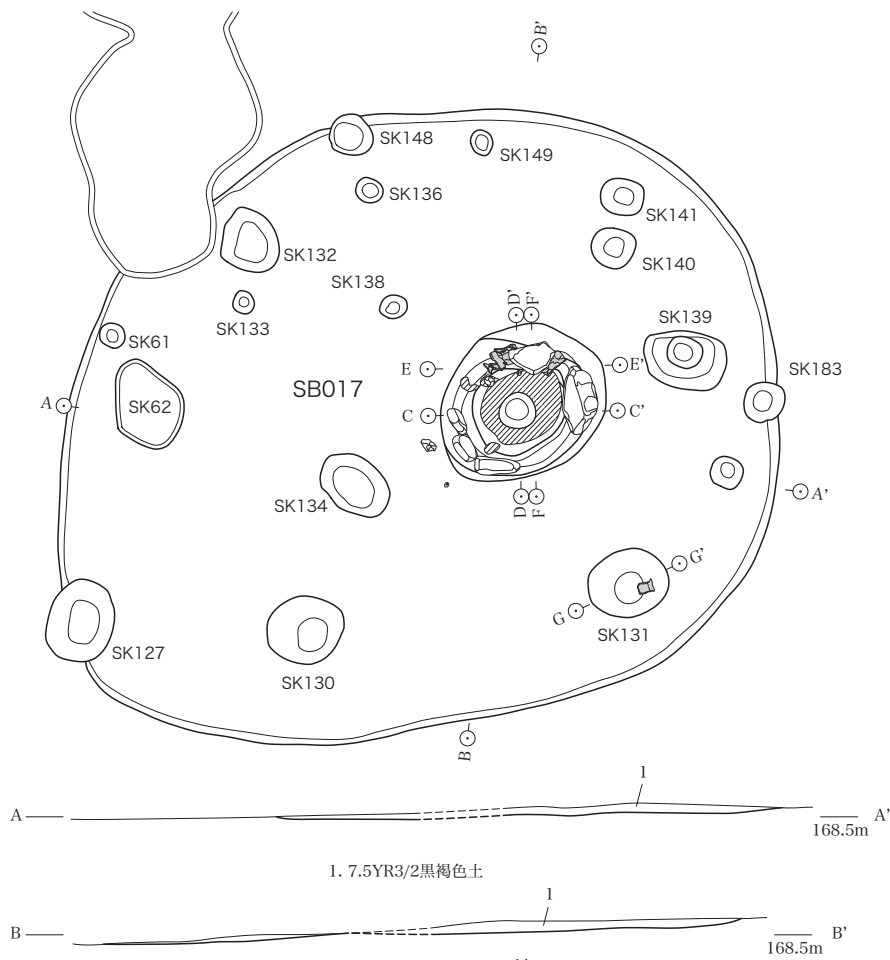
1. 10YR4/6褐色土、焼土塊含む
2. 10YR4/6褐色土
3. 焼土
4. 2.5YR4/6赤褐色土
5. 10YR4/6褐色土
6. 7.5YR5/6明褐色土と2.5Y6/4にぶい黄色土の斑土
7. 7.5YR7/2明褐色中粒砂
8. 7と同じ、7層との間に2.5YR4/6赤褐色中粒砂層入る
9. 2.5Y6/4にぶい黄色土
10. 6に2.5YR4/6赤褐色土含む

第9図 SB004(1/50)

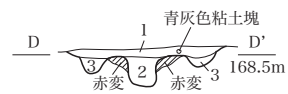


1. 10YR4/3にぶい黄褐色土風化花崗岩含む
2. 7.5YR3/4暗褐色土
3. 10YR3/4暗褐色土
4. 焼土
5. 2.5Y4/1黄灰色極粗粒砂

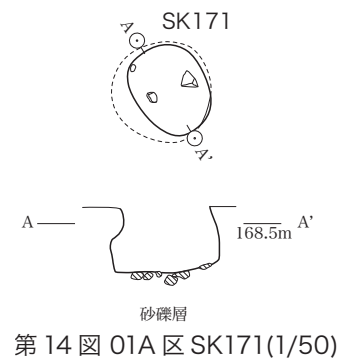
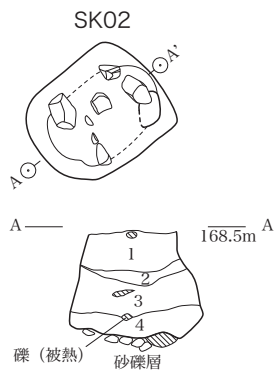
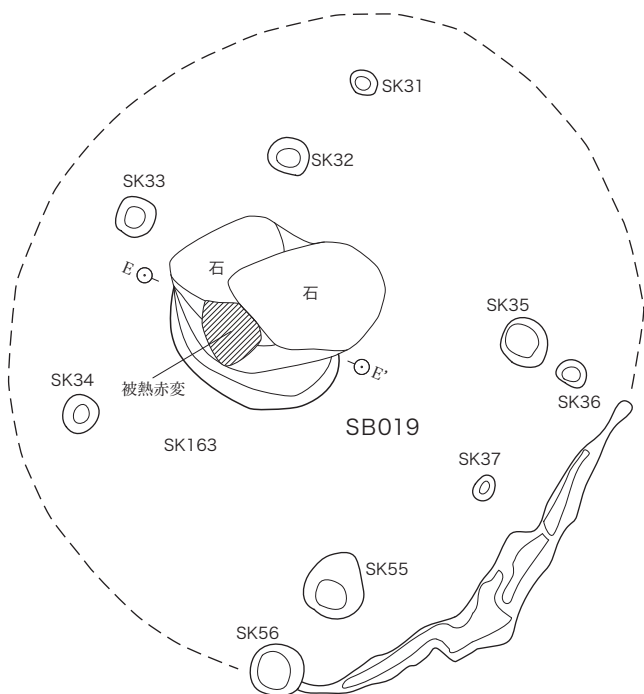
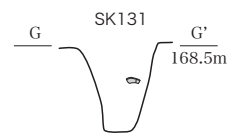
第10図 SB005(1/50)



第11図 SB007(1/50)



1. 7.5YR4/3シルト風化した花崗岩粒含む
2. 7.5YR3/1シルト質粘土
3. 7.5YR4/4シルト



第14図 01A区 SK171(1/50)

第13図 01A区 SK02(1/50)



1. 7.5YR4/3褐色シルト風化した花崗岩の砂粒含む
2. 7.5YR4/3褐色シルト
3. 2.5YR4/6褐色細砂(焼土)
4. 7.5YR4/4褐色シルト砂粒含む

第12図 SB019(1/50)

第3節 弥生時代の遺構

この時代の遺構は北部地区の02B区を中心に検出された。南部地区においては、03B区で検出された。遺物は01B、04E区などで出土したが、ごく少量であり、遺構は確認されなかった。

1. 南部地区

03B区の調査区北端部で竪穴住居1棟が検出された。

SB04

中期の遺構と考えられる。大部分が瀬戸市埋蔵文化財センターの調査区にはいり、本調査区の境界のトレンチにかかったため、遺構の全体の状況はわからない。残存長4.1m幅1.1mを測る。出土遺物はない。

2. 北部地区

02B区から02Ab区に遺構が集中する。竪穴住居2棟、溝1条を検出する。竪穴住居は中央の上位段丘面上に位置する。北方の丘陵から伸びてくる段丘の先端に立地する。溝は下位段丘部分に惣作川に平行する方向で北東から西に伸びる。

SB219

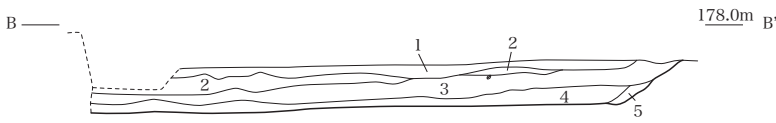
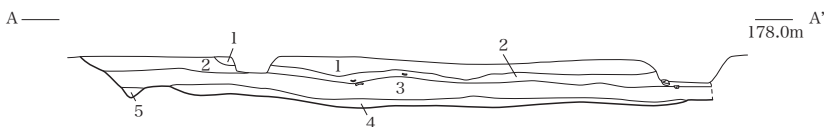
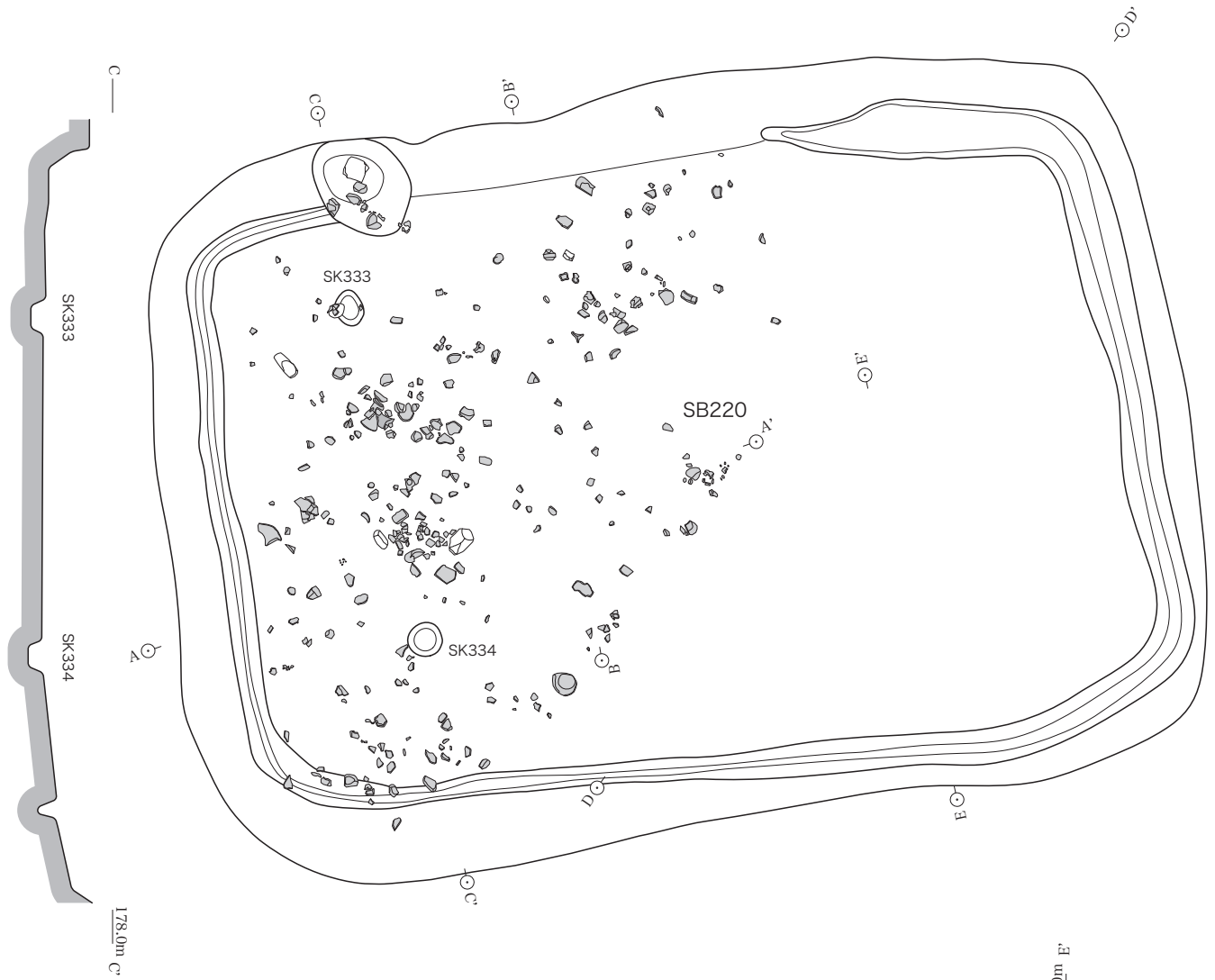
後期に属する。上位段丘の北側斜面に近い部分で検出される。耕作による削平により、遺存状況は悪い。北側2/3は中世以降に斜面が削られ、消失している。長軸は南北方向をとる。残存長4.5m幅2.3mを測る。柱穴は2基検出された。遺物は少なく、砥石が1点出土している。SB220(第15図)

後期に属する。上位段丘のほぼ中央で検出される。東西に長軸方向(N-83°-E)をとる。一部04Ab区にはいる。基盤に比較的深く掘り込んでいて、長軸4.4m短軸2.3m深さ0.6mを測る。西半床面に柱穴と考えられる土坑2基を確認する。北側の一部を除いて、周溝が巡る。西半部の遺構埋土上層より土器、及び銅鐸型土製品が出土した。

SD212(第16図)

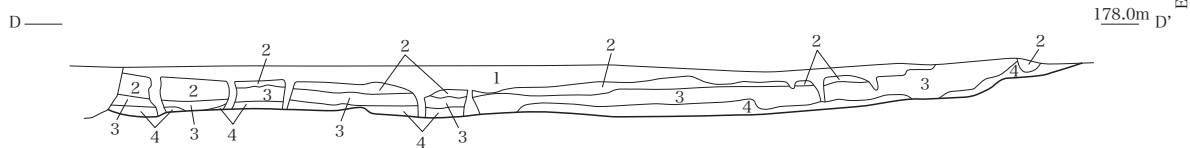
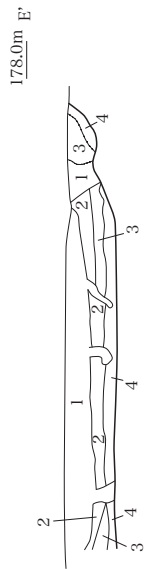
弥生時代後期から古墳時代前期に属する。02B区～04Ab区の南部下位段丘面に位置する。04Ab区では北東-南西方向で、02B区では東西方向であり、04Ab区ではほぼ惣作川に平行する。02B区では下位段丘の斜面の裾に沿った方向をとる。最大幅5.4m深さ1.3mを測る。04Ab区では北東端に向かって浅くなり、調査区内で消滅する。溝断面は緩いV字状で、斜面は一時的な流水によって削られ、大きな凹凸となる。底面に近い両側は挟りがはいる。溝埋土は東側ベルトの断面では、上層からa細かい砂礫土b黒色土c粗い砂礫である。cは底面に近い挟りのはいった部分で、bは上半の斜面を埋め、その中央がa層となる。遺物は、bからcの下半部にかけて古墳時代前半の土器がまとまって出土している。また、bの斜面に接する最下層から弥生時代後期の土器が少量検出された。

溝は弥生時代後期に掘られ、その後、土石流などの一時的な流水によって大きく形状を変えられたものと考えられる。その時点の埋土がaとして残存する。その直後、bの下面のラインで再掘削が行われ、bが堆積する過程で土器廃棄が行われた。aは再度の流水で埋積したと考えられる。溝は弥生時代後期では防御的な機能が想定される。その後の掘削によって維持されたことが推定されるが、古墳時代初期に機能を失ったものと考えられる。(酒井俊彦)

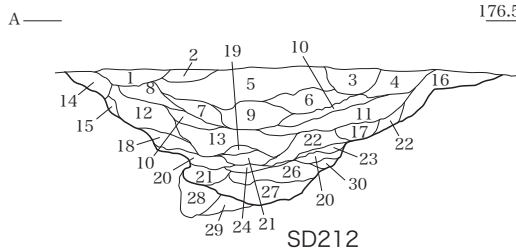


1. 10YR3/2黒色細粒砂
2. 10YR3/2黒色細粒砂
3. 10YR2/2黒褐色細粒砂
4. 10YR2/3黒褐色細粒砂
5. 10YR2/2黒褐色細粒砂

1. 10YR4/4褐色砂質土粗粒砂を多く含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト10YR4/4褐色砂を斑状に含む
3. 10YR2/3黒褐色シルト10YR4/4褐色砂を斑状に含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト10YR6/6明黄褐色砂を斑状に含む

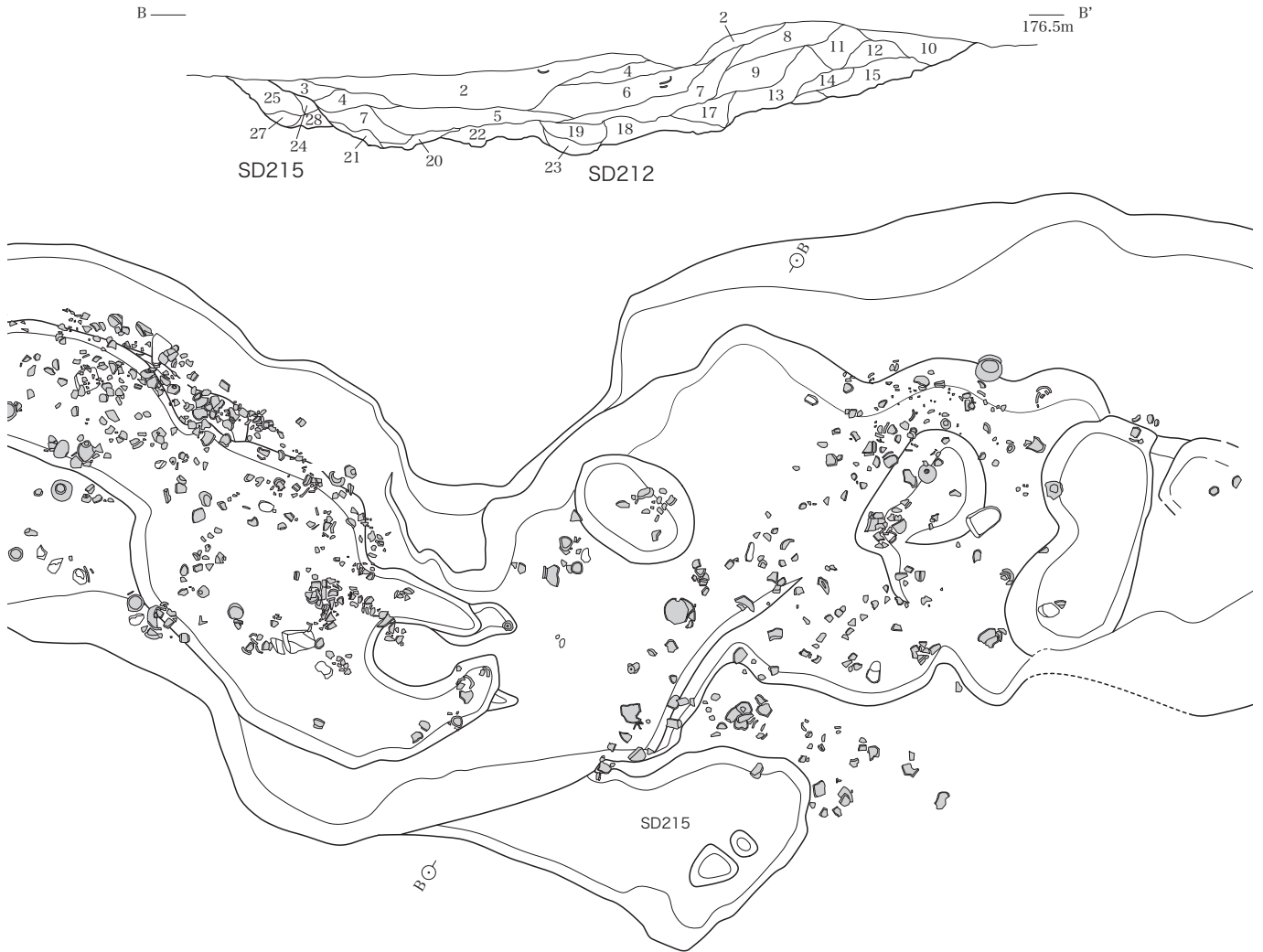


第15図 SB220(1/50)



- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土 2. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂 3. 10YR3/3暗褐色細粒砂 4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 5. 10YR4/3にふい黄褐色粗粒砂と10YR5/2灰黄褐色粗粒砂の斑土 6. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土 7. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂 8. 10YR3/2黒褐色細粒砂 9. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR5/2灰黄褐色粗粒砂の斑土 10. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土 11. 10YR2/2黒褐色細粒砂 12. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土 13. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土 14. 10YR5/4にふい黄褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土 15. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR6/4にふい黄褐色細粒砂の斑土 | <ol style="list-style-type: none"> 16. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR5/6黄褐色細粒砂の斑土 17. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR5/6黄褐色細粒砂の斑土 18. 10YR3/2黒褐色細粒砂 19. 10YR4/1褐色細粒砂と10YR4/6褐色中粒砂のシマ状の堆積 20. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 21. 10YR5/2灰黄褐色粗粒砂と10YR5/8黄褐色粗粒砂のシマ状の堆積 22. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の斑土 23. 10YR6/4にふい黄褐色極粗粒砂 24. 10YR4/2灰黄褐色中粒砂礫を中心とする層 25. 10YR6/6明黄褐色粗粒砂と7.5YR5/6明褐色極粗粒砂の斑土 26. 10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂 27. 10YR7/2にふい黄褐色極粗粒砂 28. 10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂 29. 10YR7/6明黄褐色極粗粒砂 30. 10YR6/4にふい黄褐色極粗粒砂10YR3/2極粗粒砂が20層との境に入る |
|---|--|

1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土
3. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
5. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土
6. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
7. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土
8. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3にふい黄褐色細粒砂の斑土
9. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/3にふい黄褐色細粒砂の斑土
10. 10YR4/6褐色細粒砂と10YR5/4にふい黄褐色細粒砂の斑土
11. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土
12. 10YR5/4にふい黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
13. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR5/4にふい黄褐色細粒砂の斑土
14. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
15. 10YR4/3にふい黄褐色細粒砂と10YR5/4にふい黄褐色細粒砂の斑土
16. 10YR5/3にふい黄褐色細粒砂
17. 10YR4/6褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
18. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土
19. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の斑土
20. 10YR5/2灰黄褐色中粒砂
21. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土
22. 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/3にふい黄褐色粗粒砂の斑土
23. 10YR3/2黒褐色極粗粒砂
24. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土
25. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の斑土
26. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の斑土
27. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の斑土
28. 10YR2/1黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色中粒砂の斑土



第 16 図 SD212(1/50)

第4節 古墳時代の遺構

1. 古墳時代前期

古墳時代前半の遺構を取り扱う。この時期の遺構はほぼ北部地区に集中する。02A・02B区の低位段丘面及び04A・02B区の上位段丘面で検出された。

a. 竪穴住居

(1)02A区

SB213(第17図)

下位段丘黒ボク層の下面で検出された。長軸は南北方向(N-35°-W)である。残存長5.3mで比較的大形である。底面の堀方は凹凸があり、その数cm～十数cm上層で床面が確認された。南東の柱穴2基が認められた。床面上で少量の遺物が出土した。

SB216(第18図)

下位段丘黒ボク層の下面で検出された。長軸方位不明である。遺構の大部分は調査区外である。底面の堀方は平で、直上で土器が少量検出された。柱穴は確認できない。

SB217(第19図)

下位段丘黒ボク層の上面で検出された。上・中層の埋土は細礫を含む砂である。長軸方向は南北方向で残存長3.8mである。底面堀方は凹凸があり、直上のブロックを含む層の上面で固く踏み固められた床面を検出した。周溝は全体を巡る。柱穴は確認されない。床面上で木材の炭化物を検出した。建築部材が住居の辺から直角に倒れたものと考えられる。遺物は土器細片が少量検出された。

(2)02B区

SB218(第20図)

下位段丘黒ボク層上面で検出された。残存長5.3m幅3.6mである。長軸は南北方向(N-37°-W)である。床面堀方は凹凸があり、直上のブロックを含む層の上面で固く踏み固められた平坦な床面を検出した。周溝は検出されず、柱穴は4基確認された。床面上に径数cm～30cm程度の礫が出土した。人為的な廃棄と考えられる。これらに混じって土器が少量検出された。

SB221(第21図)

上位段丘基盤面で検出された。平面正方形(長軸4.7m短軸4.6m)に近く、東西方向(N-51°-W)に長軸をとる。底面は凹凸があり、床面は確認できない。柱穴の土坑は4基検出された。底面近くから土器が比較的まとまって出土した。

SB222(第22図)

上位段丘面で検出された。長軸を南北方向(N-44°-E)にとる。長軸4.0m短軸3.6mを測る。柱穴、周溝は確認できない。底面は部分的に低い、床面に相当し、直上から遺物がまとまって出土した。角礫が床面上で検出された。

SB223・224(第23図)

竪穴住居2棟が重複して検出された。埋土の状況から新旧関係は古SB224→新SB223である。SB223は深い掘り込みで、SB224はこれを埋めた面が床面に相当する。SB223は底面の凹凸があり、柱穴は2基検出された。2棟とも大部分が調査区外であり、遺物は少量出土した。

SB225(第24図)

奈良時代竪穴住居に切られる。上位段丘の縁辺に位置するため、近世以後の削平によって大部分消失している。遺物は少ない。

SB227(第 25 図)

上位段丘に位置する。正方形に近い平面形で、長軸短軸とも 5.2m を測る。長軸は N-41° -W である。比較的大形の竪穴住居で、柱穴 4 基を確認する。北隅に貯蔵穴が検出された。中央やや北西よりに土坑がある。3 方の壁際に周溝らしき掘り込みが認められるが、南東辺は幅広い落ち込みとなる。基盤面で検出されたが、比較的底面までの掘り込みは深い。貯蔵穴と考えられる土坑より土器が集中して出土した。

SB228(第 26 図)

SB225 の下部にある。大部分消失している。底面は凹凸がある。遺物のごくわずか出土した。
(3)04Aa 区

SB238・239(第 27 図)

上位段丘に位置する。表土が薄いため耕作等による削平遺や、新しい遺構に切られ、遺存状況は悪い。SB238 は長軸を東西方向にとる。SB239 は南北方向にとる。いずれも柱穴、周溝は確認できず、遺物も少量である。

SB242(第 28 図)

上位段丘に位置する。長軸を東西方向にとる。比較的大形で残存長 5.3m 幅 5.1m を測る。周溝、柱穴は確認されない。削平により遺存状況は悪く、出土遺物は少ない。

SB243(第 29 図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる (N-78° -W)。長軸 4.8m 短軸 4.0m を測る。中央やや西寄りに炉が検出された。削平により遺存状況は悪く、出土遺物は少ない。

SB244(第 30 図)

上位段丘に位置する。南北に長軸をとる。削平により遺存状況は悪く、出土遺物は少ない。

SB247(第 31 図)

上位段丘に位置する。他の遺構に切られ、削平により遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB257(第 32 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB259(第 33 図)

上位段丘に位置する。他の遺構に切られ、遺存状況は悪い。遺物は少量である。

(4)04Ab 区

SB265(第 34 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB268(第 35 図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる (N-59° -E)。長軸 4.7m 短軸 3.2m を測る。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB270(第 36 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB274(第 38 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる (N-23° -W 長軸 4.3m 短軸 4.3m) 遺物は少量である。

SB275(第 37 図)

上位段丘に位置する。SB278 に切られる。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB276(第 37 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。SB275・278 に切られる。遺物は少量である。

SB277(第 39 図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB278(第 37 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。ほぼ南北に長軸をとる (N-3° -W 長軸 4.3m 短軸 4.0m)。中央に炉跡と考えられる浅い土坑を確認された。遺物は少量である。

SB279(第 40 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる。遺物は少量である。

SB280(第 41 図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる (N-82° -W)。長軸 5.6m 短軸 3.6m を測る。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

SB281(第 38 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる (N-23° -W 長軸 4.3m 短軸 4.3m) 遺物は少量である。

SB285(第 42 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-13° -W 長軸 4.5m 短軸 4.5m)。遺構の遺存状況はやや良好である。周溝がほぼ全体に巡る。中央西寄りに炉跡が 2 基確認された。遺物がややまとまって出土した。

SB286(第 43 図)

上位段丘に位置する。東西に長軸をとる (N-78° -E)。長軸 3.8m 短軸 3.5m を測る。中央やや東よりに炉跡を検出した。周溝が部分的に認められた。遺物は少量である。

SB290(第 44 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる。柱穴は 2 基確認された。遺物は少量である。

SB292(第 45 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる。柱穴は 2 基確認された。遺物は少量である。

SB292(第 45 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる (N-54° -W 長軸 4.2m 短軸 4.0m)。遺物は少量である。

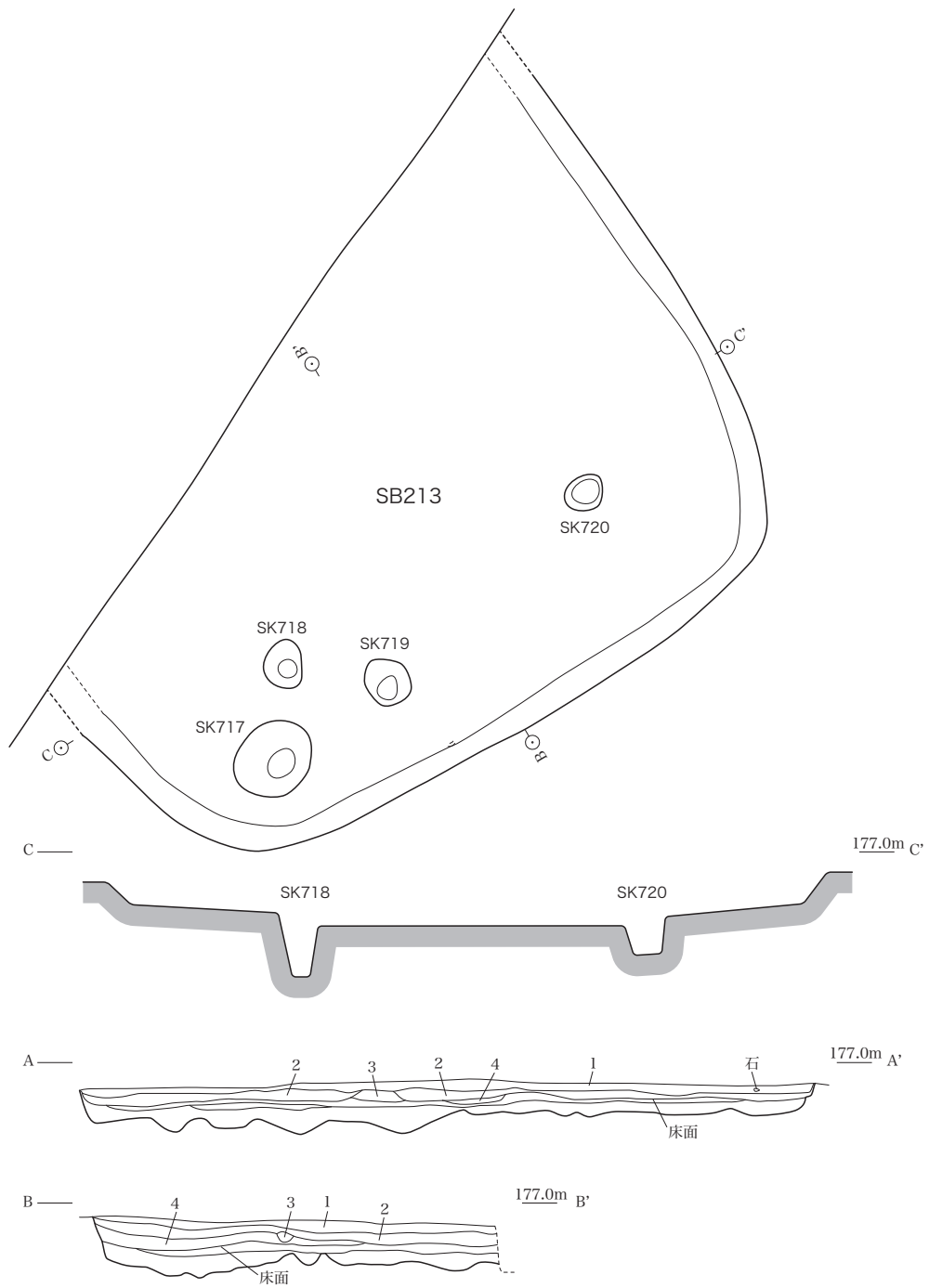
SB297(第 44 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺物は少量である。

b. 土坑

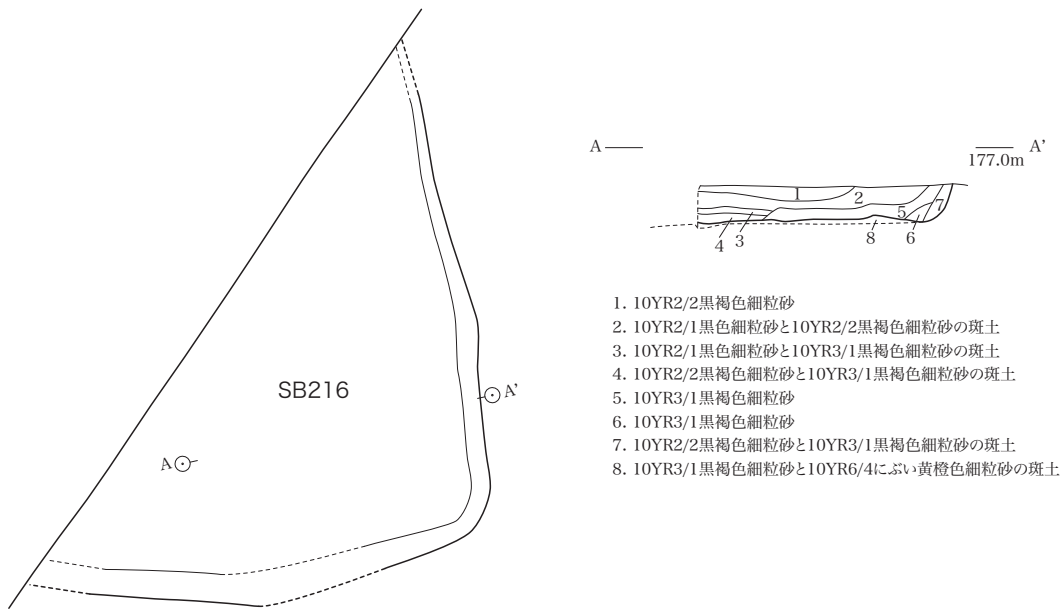
02B 区 SK134(第 46 図)

東西に長軸をとる。浅い土坑で長軸 2.6m 以上短軸 1.5m である。SB222 を切り、これと同時期の土器がややまとまって底面から検出された。(酒井俊彦)

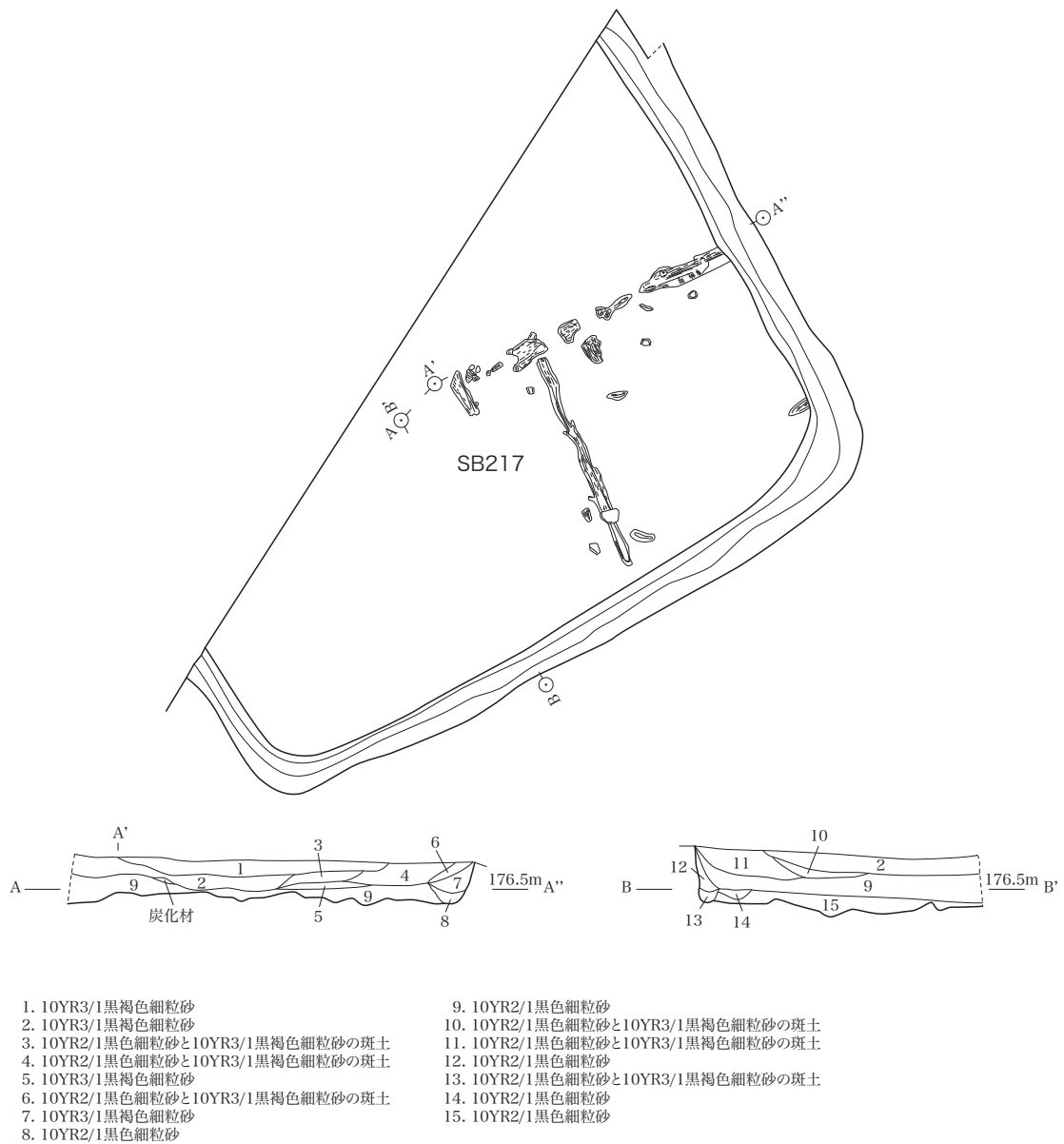


1. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土
2. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
3. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
4. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土

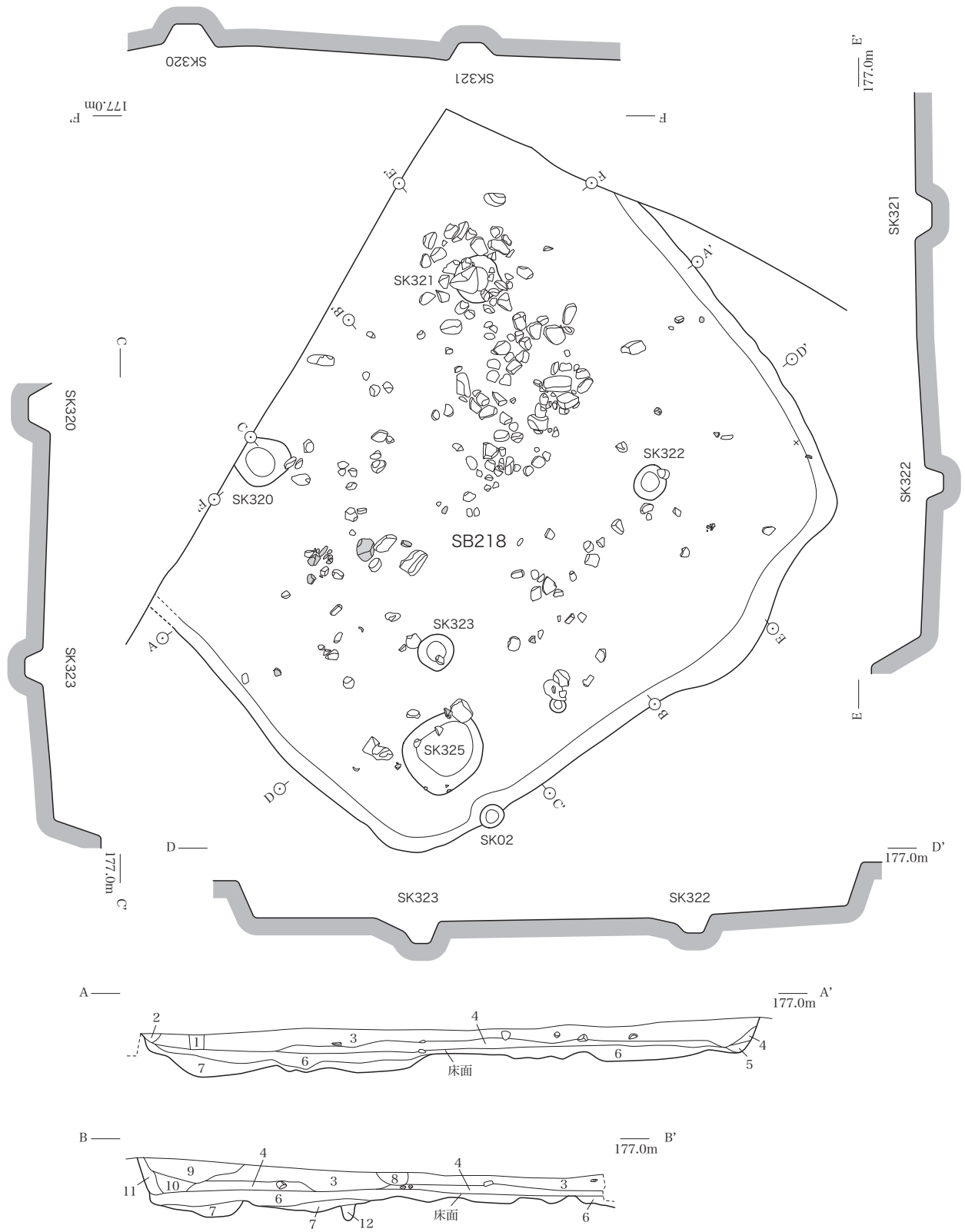
第 17 図 SB213(1/50)



第 18 図 SB216(1/50)

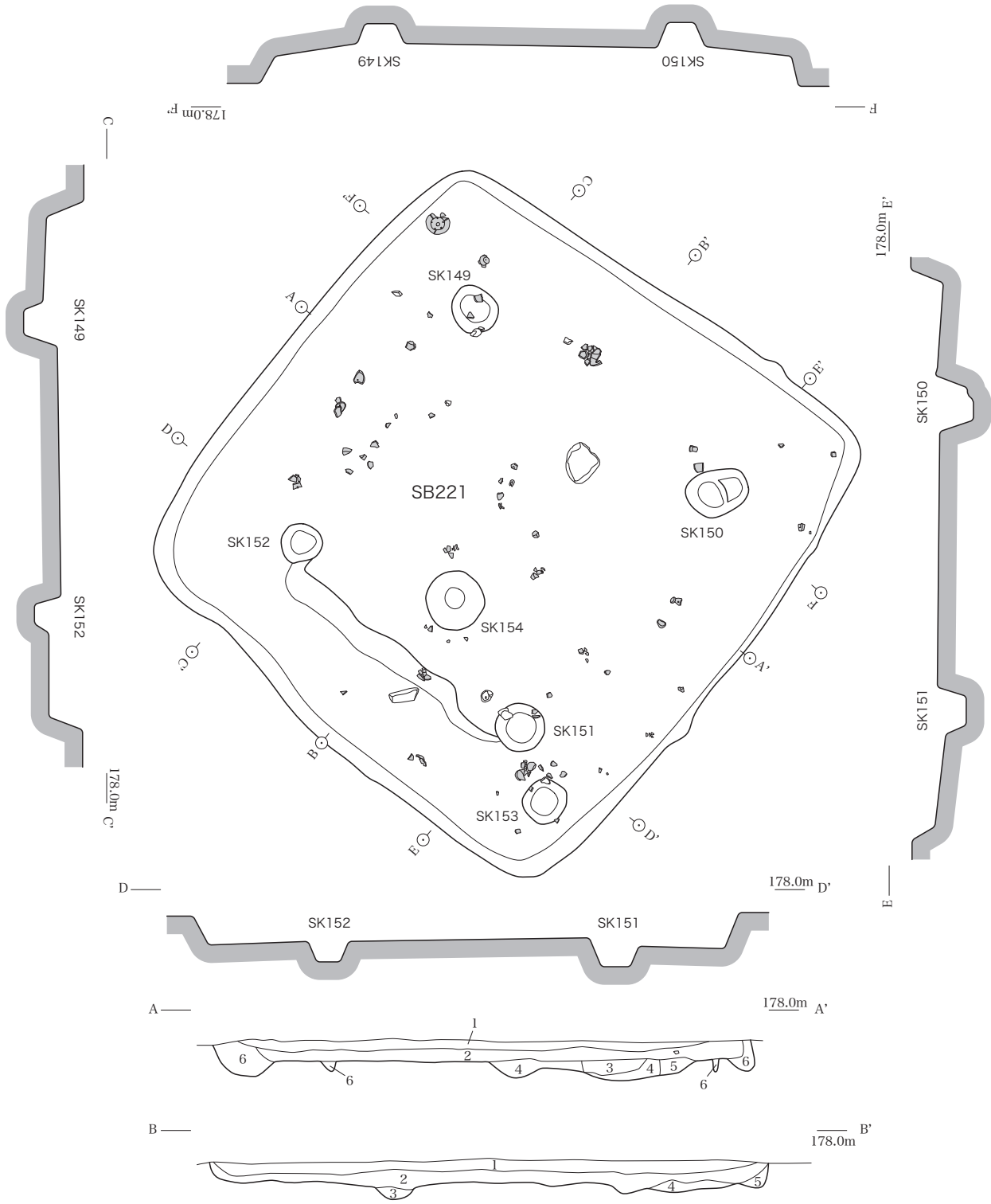


第 19 図 SB217(1/50)

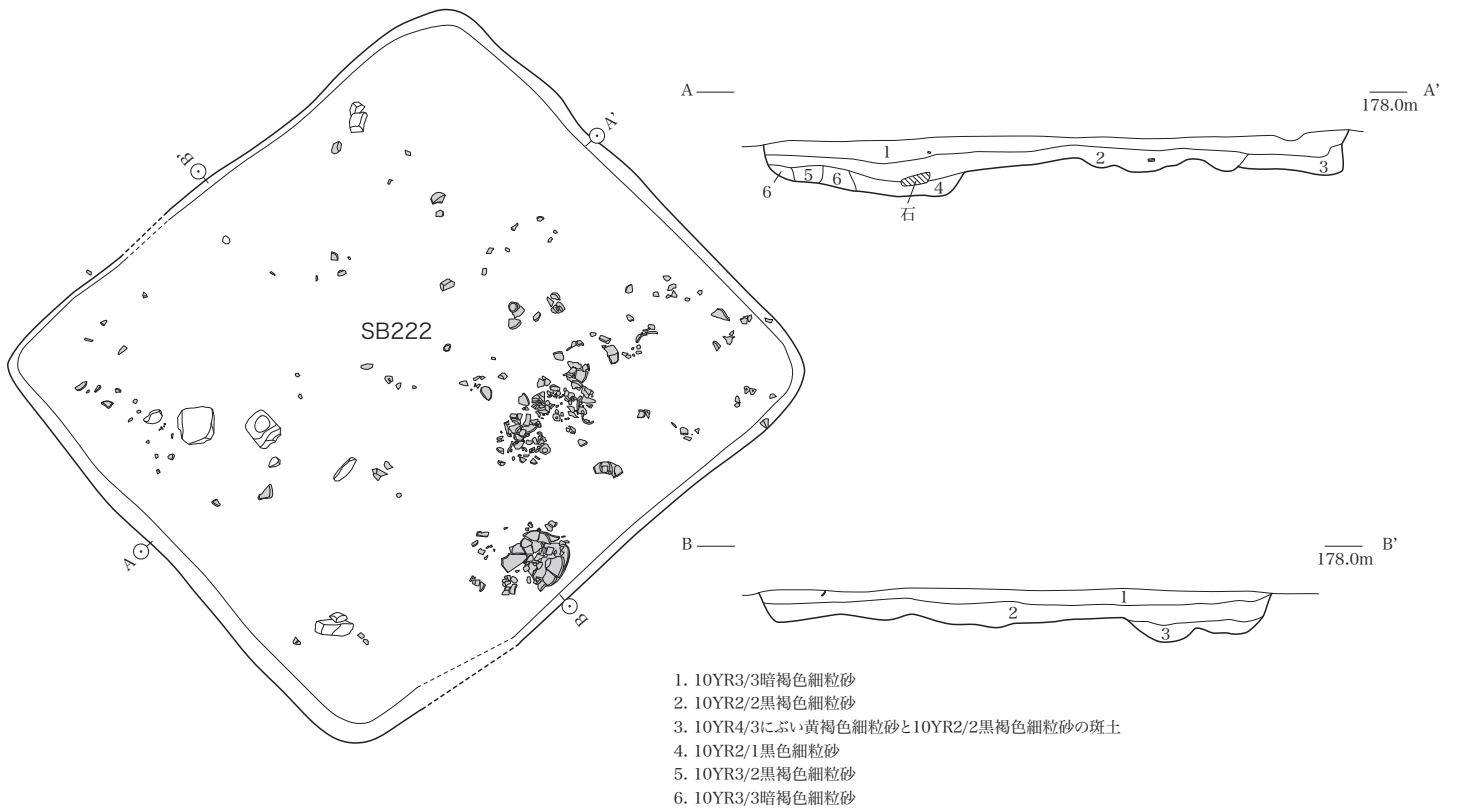


1. 10YR3/2黒褐色細粒砂
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂
3. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂
5. 10YR3/2黒褐色細粒砂
6. 10YR3/2黒褐色細粒砂
7. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土
8. 10YR2/1黒色細粒砂
9. 10YR3/2黒褐色細粒砂
10. 10YR2/1黒色細粒砂
11. 10YR2/1黒色細粒砂
12. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土

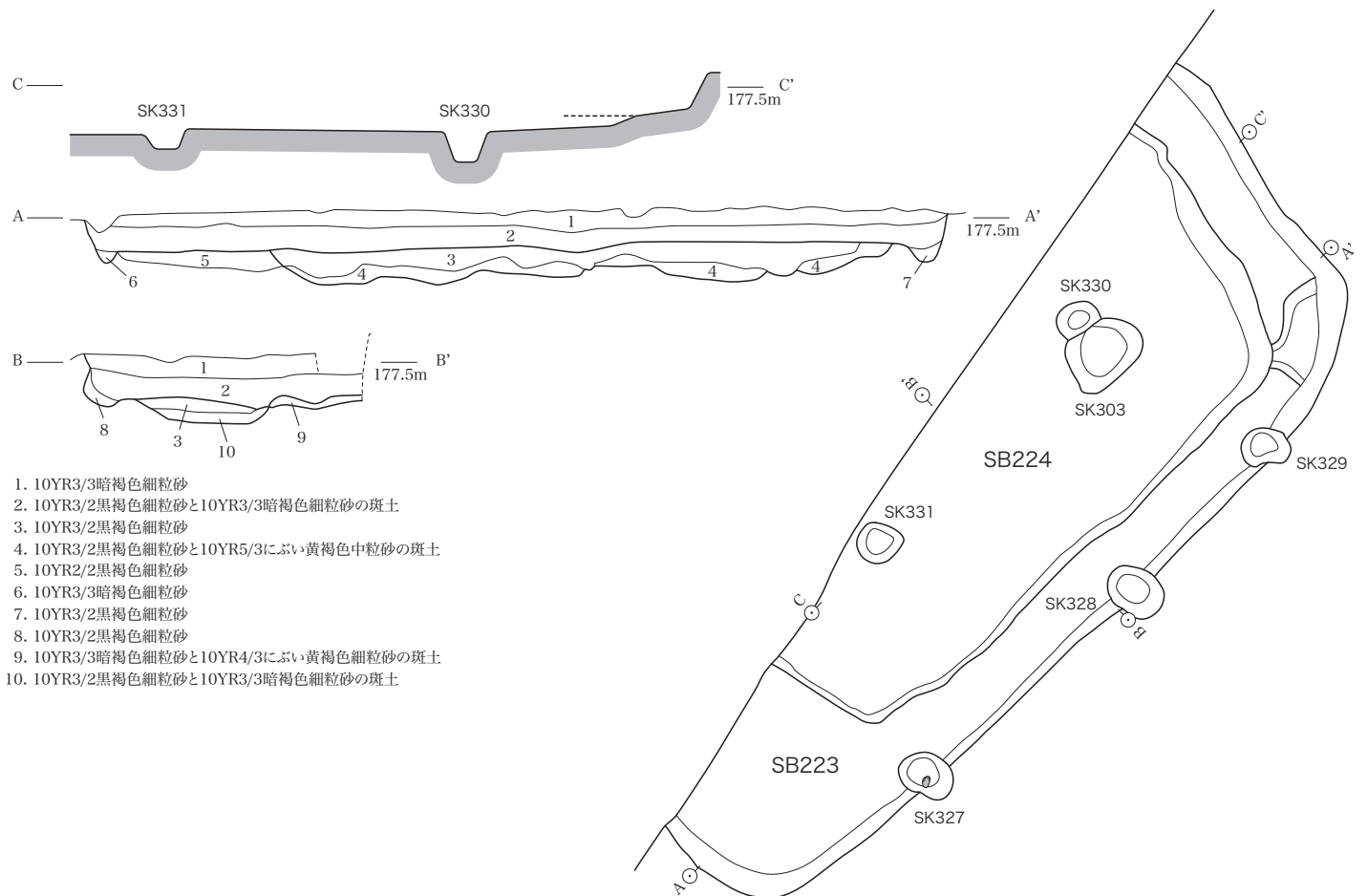
第20図 SB218(1/50)



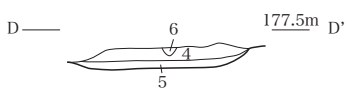
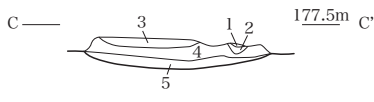
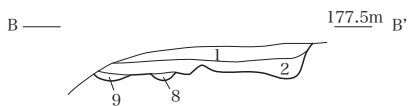
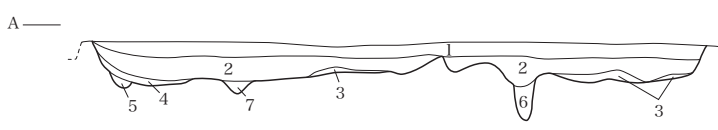
第 21 図 SB221(1/50)



第22図 SB222(1/50)



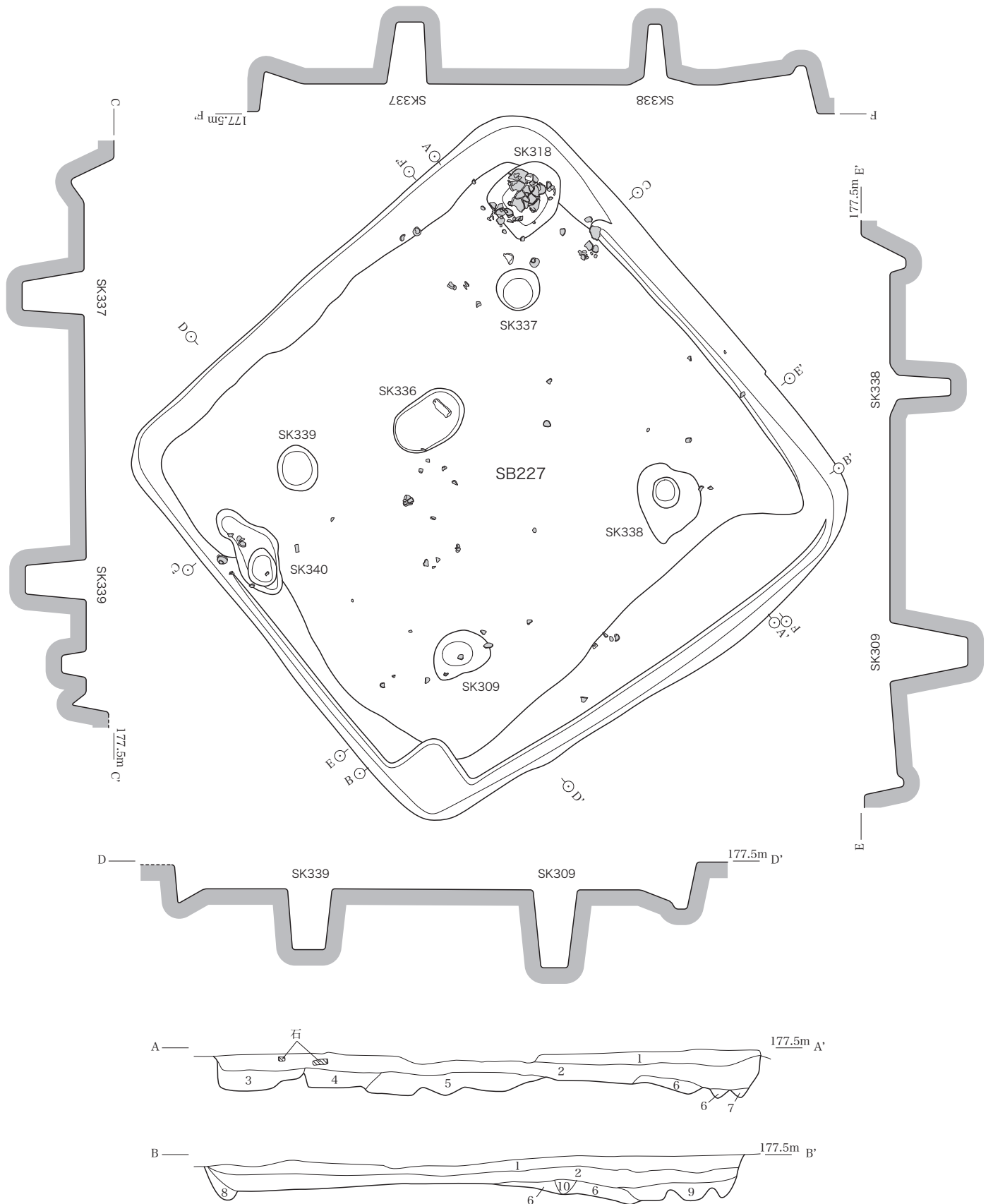
第23図 SB223・224(1/50)



1. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
3. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の斑土
4. 10YR3/2黒褐色細粒砂
5. 10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土
6. 10YR3/3暗褐色細粒砂
7. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土
8. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土
9. 10YR3/2黒褐色細粒砂

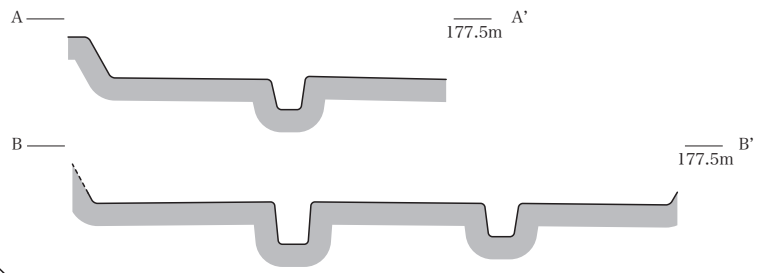
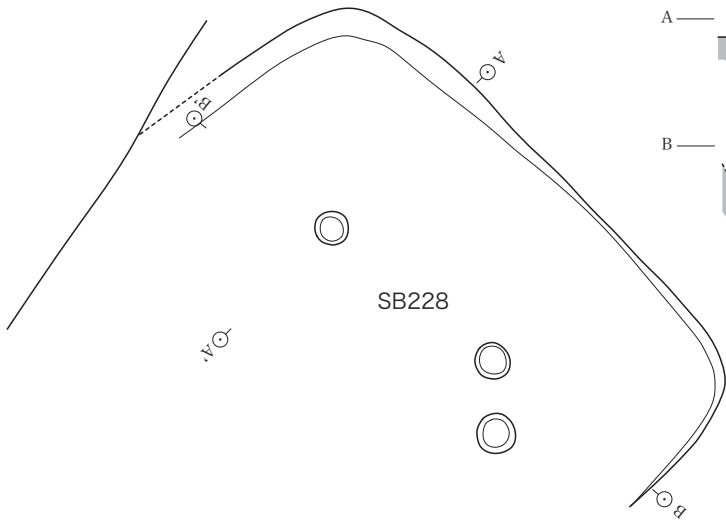
1. 10YR3/2黒褐色細粒砂
2. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
3. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/4暗褐色細粒砂の斑土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
5. 10YR2/3黒褐色細粒砂
6. 10YR3/2黒褐色細粒砂

第 24 図 SB225・226・228(1/50)

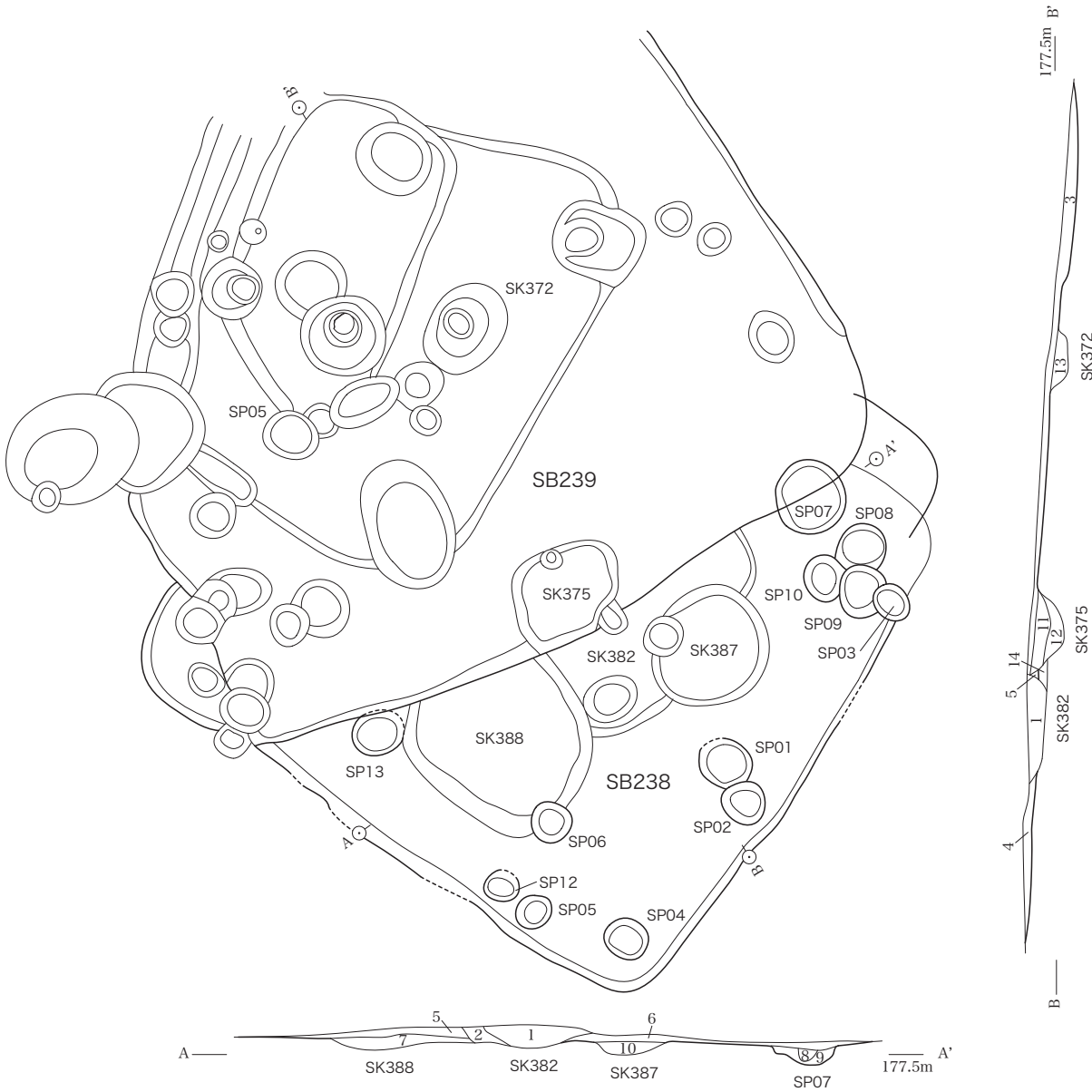


- | | |
|---|---|
| 1. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR2/3黒褐色細粒砂の斑土 | 6. 10YR4/3にふい黄褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土 |
| 2. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土 | 7. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 |
| 3. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 | 8. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 |
| 4. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR2/3黒褐色細粒砂の斑土 | 9. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 |
| 5. 10YR2/3黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 | 10. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土 |

第25図 SB227(1/50)

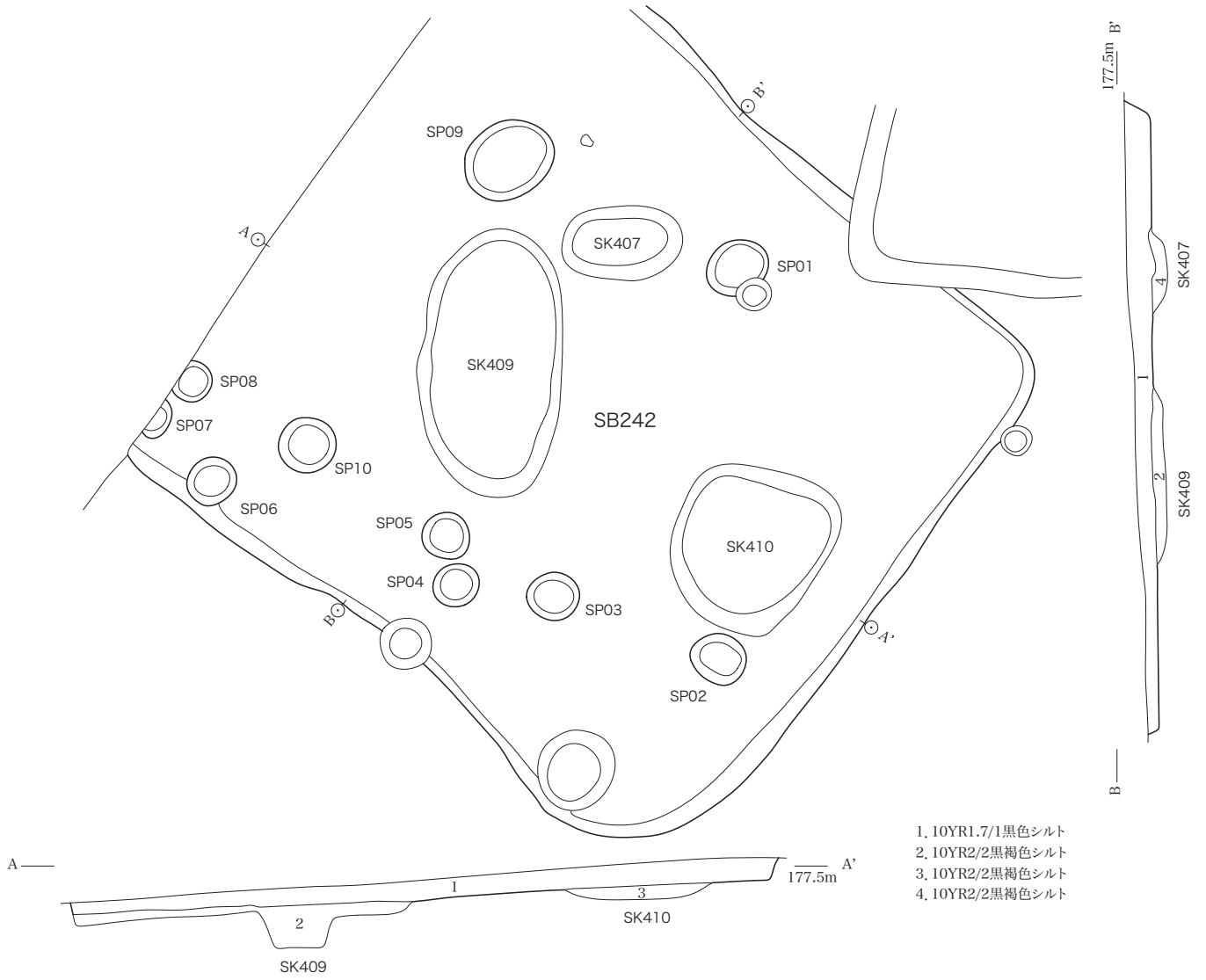


第26図 SB228(1/50)



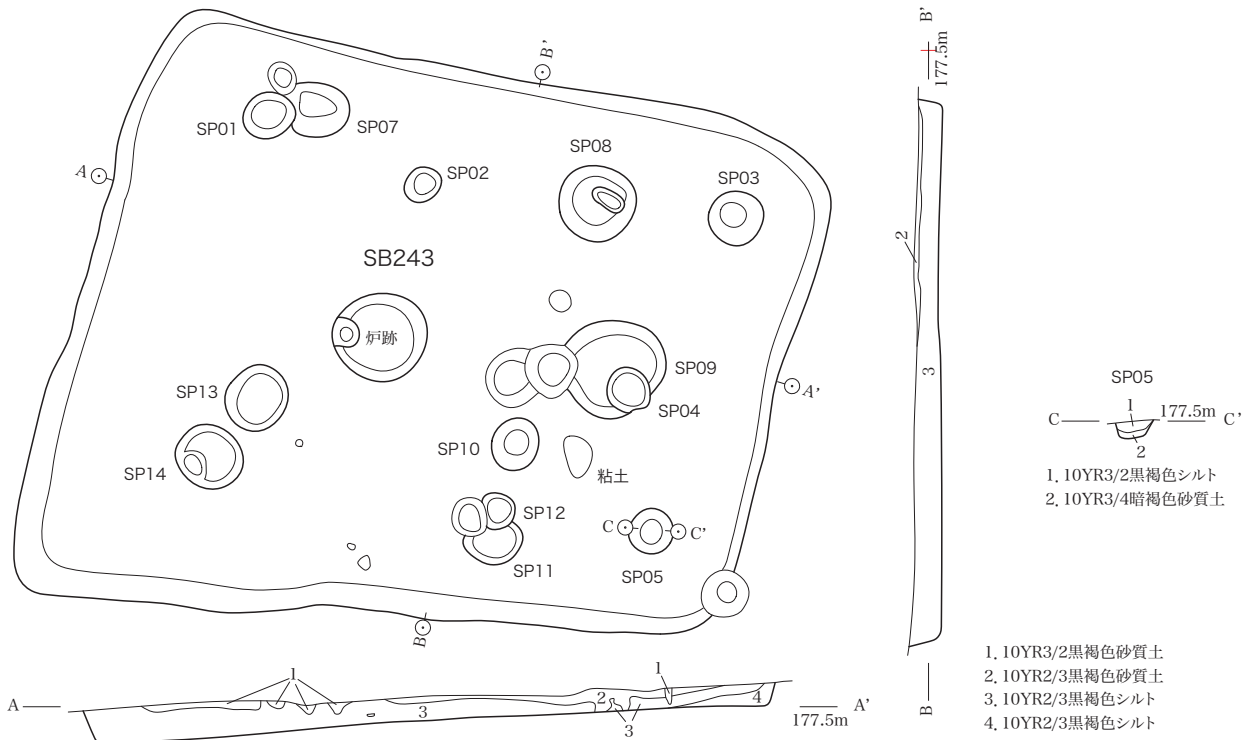
- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1. 10YR2/3黒褐色シルト | 8. 10YR3/3暗褐色砂質土 |
| 2. 10YR4/2灰黄褐色シルト | 9. 10YR3/3暗褐色シルト10YR5/3にふい黄褐色土を斑状に含む |
| 3. 10YR3/3暗褐色シルト粗粒砂を少量含む | 10. 10YR4/3褐にふい黄褐色シルト10YR3/2黒褐色土を斑状に含む |
| 4. 10YR3/3暗褐色シルト粗粒砂を少量含む | 11. 10YR3/2黒褐色シルト10YR8/4浅黄橙色細粒砂を斑状に含む |
| 5. 10YR4/4褐色シルト10YR3/3暗褐色土を斑状に含む | 12. 10YR3/4暗褐色シルト |
| 6. 10YR4/2灰黄褐色シルト10YR3/2黒褐色土を斑状に含む | 13. 10YR1.7/1黒色シルト10YR2/2黒色土を斑状に含む |
| 7. 10YR5/3にふい黄褐色シルト10YR6/6明黄褐色土を斑状に含む | 14. 10YR3/4暗褐色シルト粗粒砂を少量含む |

第27図 SB238・239(1/50)



- 1. 10YR1.7/1黒色シルト
- 2. 10YR2/2黒褐色シルト
- 3. 10YR2/2黒褐色シルト
- 4. 10YR2/2黒褐色シルト

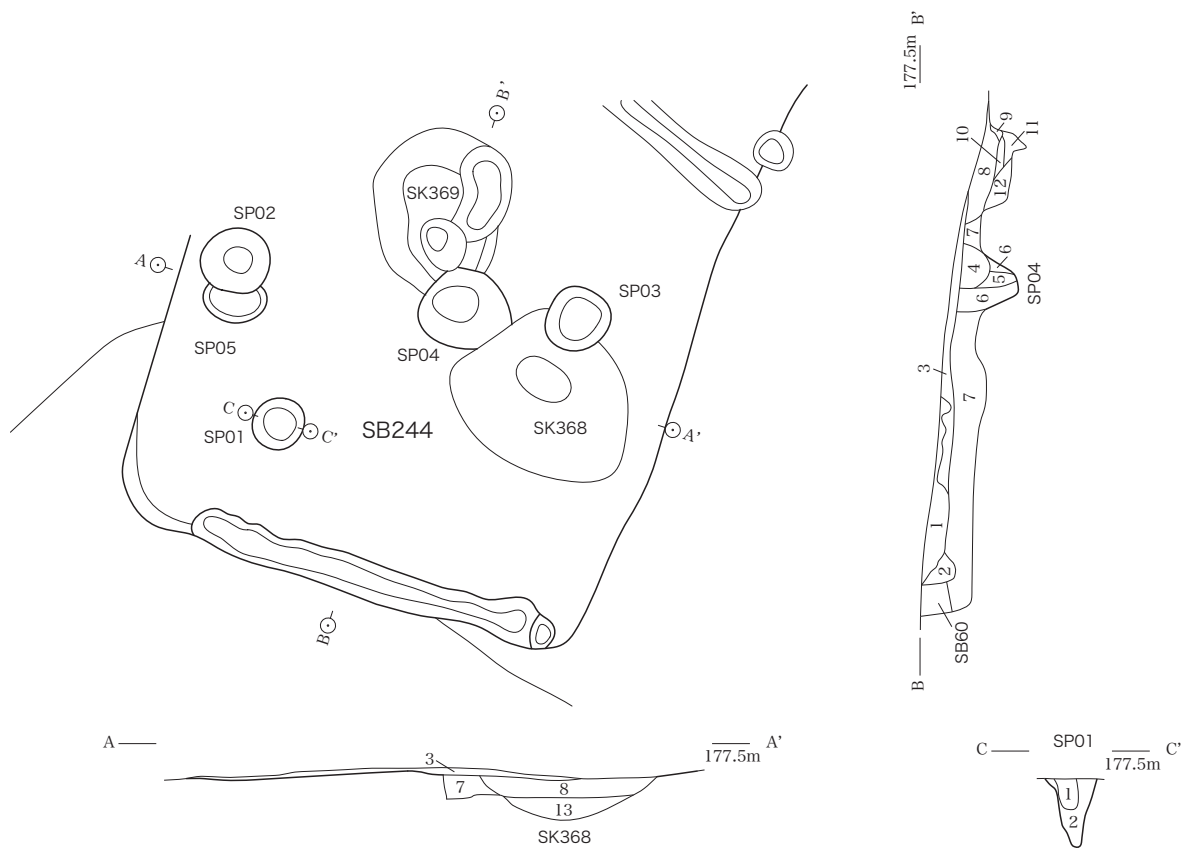
第28図 SB242(1/50)



- SP05
- 1. 10YR3/2黒褐色砂質土
- 2. 10YR3/4暗褐色砂質土

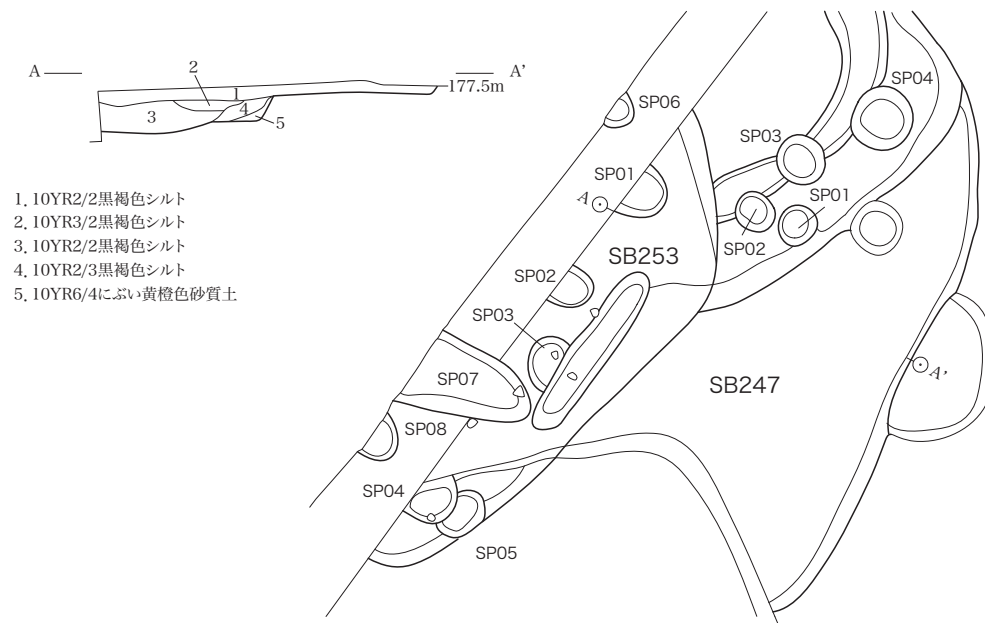
- 1. 10YR3/2黒褐色砂質土
- 2. 10YR2/3黒褐色砂質土
- 3. 10YR2/3黒褐色シルト
- 4. 10YR2/3黒褐色シルト

第29図 SB243(1/50)



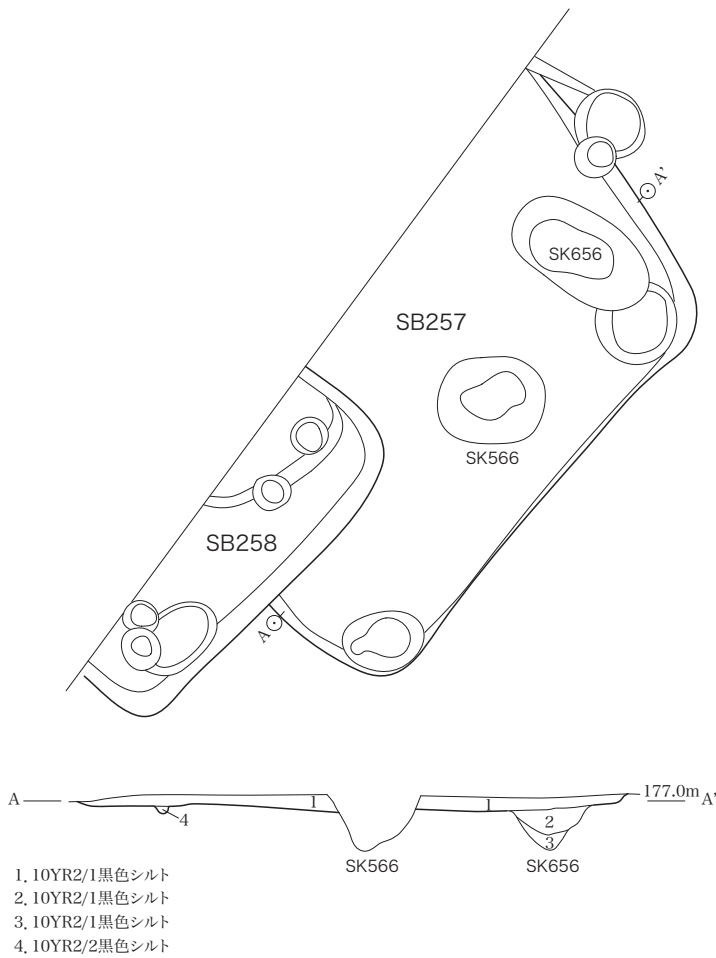
- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 10YR2/2黒褐色砂質土 | 8. 10YR2/2黒褐色シルト |
| 2. 10YR2/3黒褐色シルト | 9. 10YR3/2黒褐色シルト |
| 3. 10YR2/3黒褐色シルト | 10. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト |
| 4. 10YR2/2黒褐色シルト | 11. 10YR2/2黒褐色シルト |
| 5. 10YR2/2黒褐色砂質土 | 12. 10YR2/2黒褐色シルト |
| 6. 10YR2/2黒褐色砂質土 | 13. 10YR3/2黒褐色シルト |
| 7. 10YR2/3黒褐色砂質土 | |

第30図 SB244(1/50)

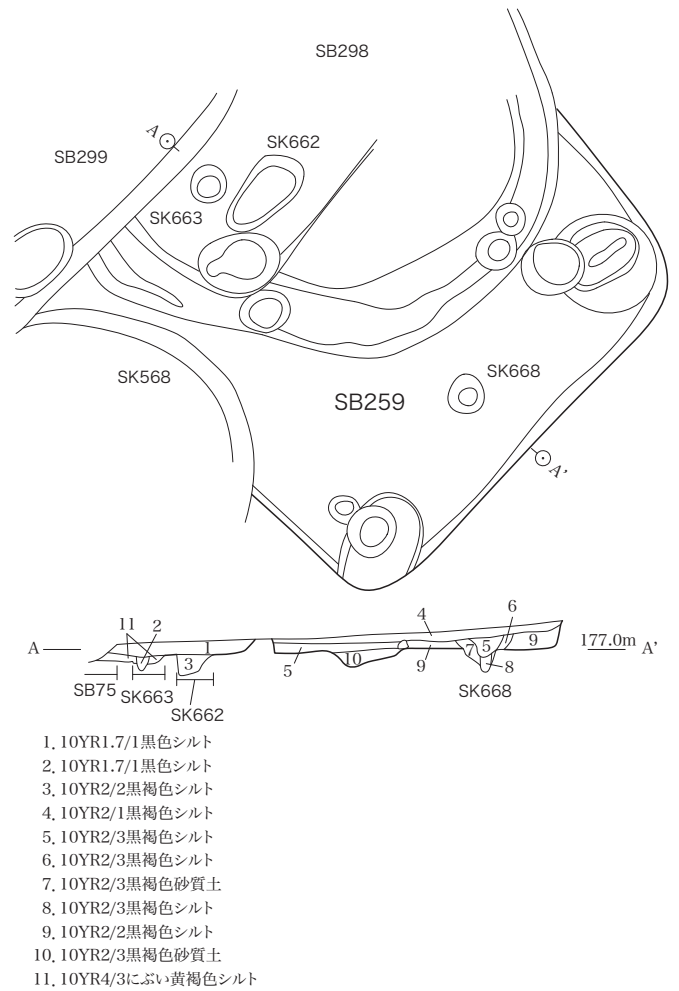


- | |
|---------------------|
| 1. 10YR2/2黒褐色シルト |
| 2. 10YR3/2黒褐色シルト |
| 3. 10YR2/2黒褐色シルト |
| 4. 10YR2/3黒褐色シルト |
| 5. 10YR6/4にぶい黄橙色砂質土 |

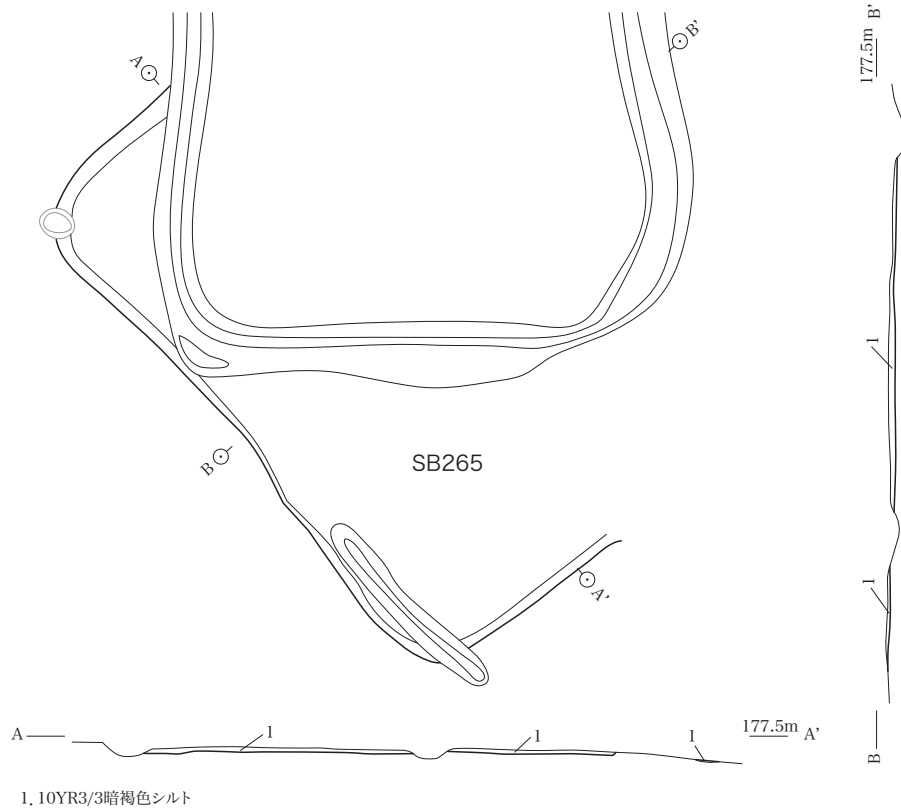
第31図 SB247(1/50)



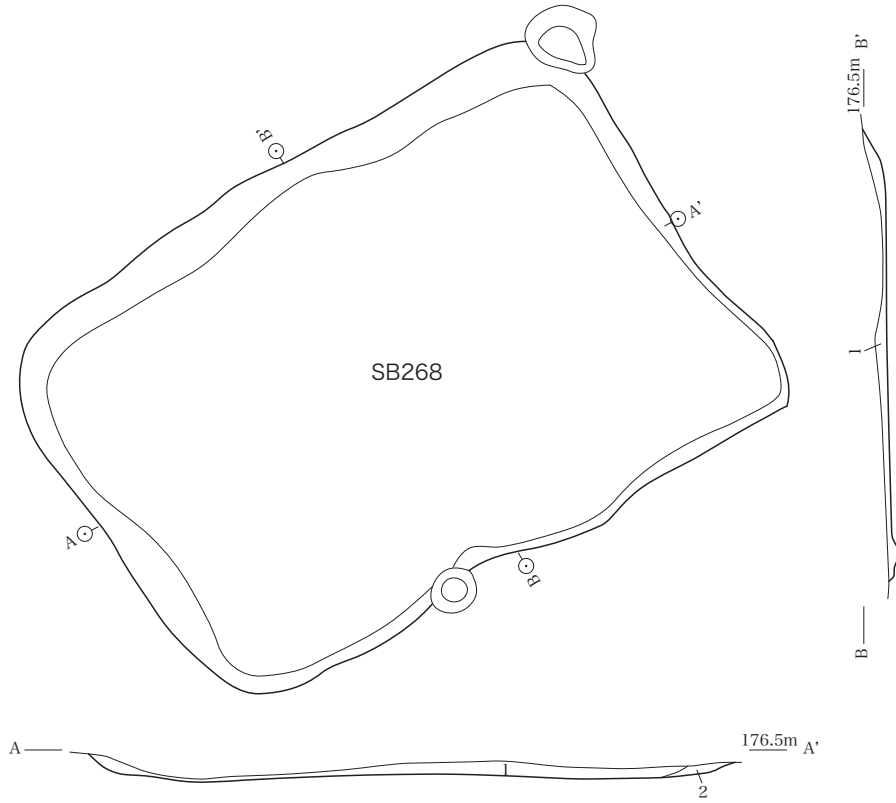
第32図 SB257(1/50)



第33図 SB259(1/50)

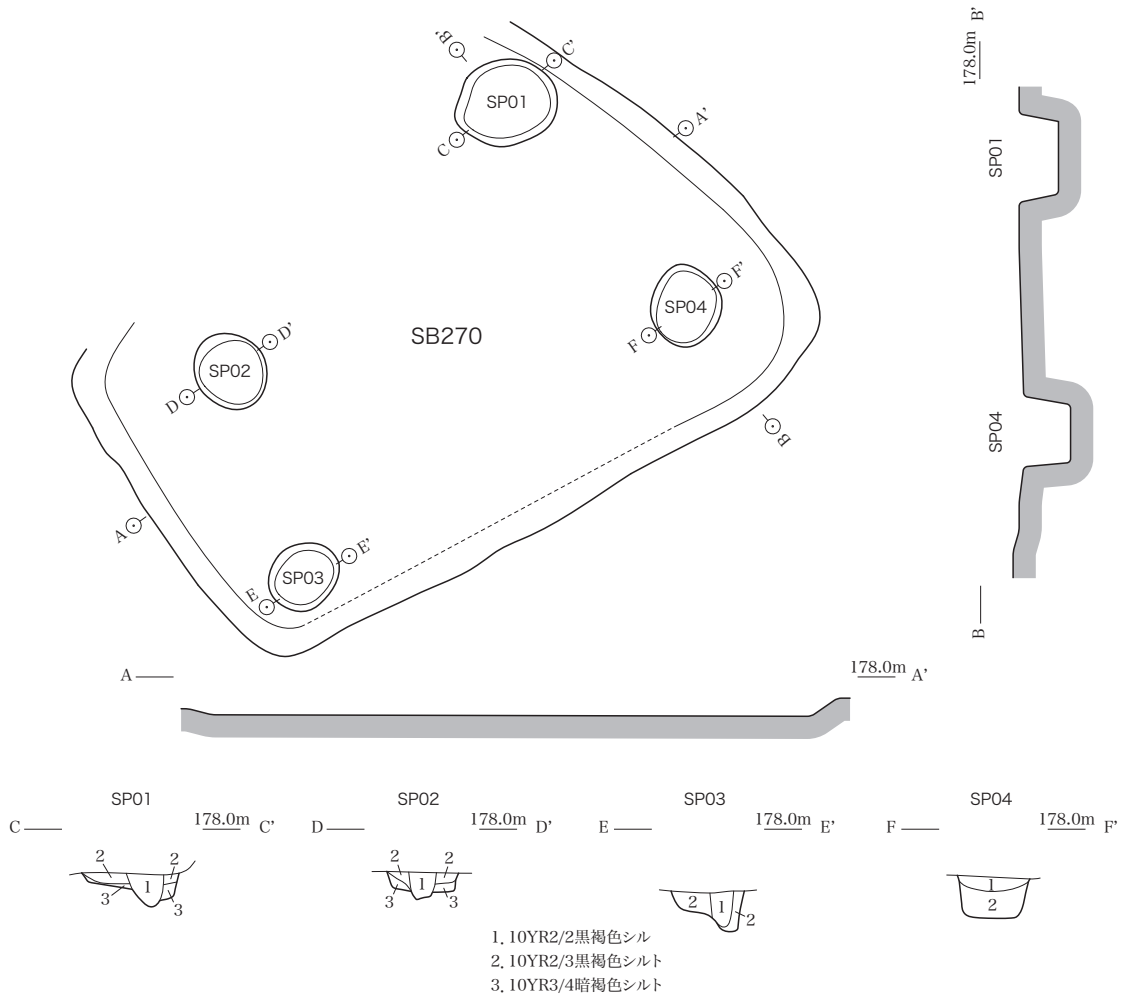


第34図 SB265(1/50)

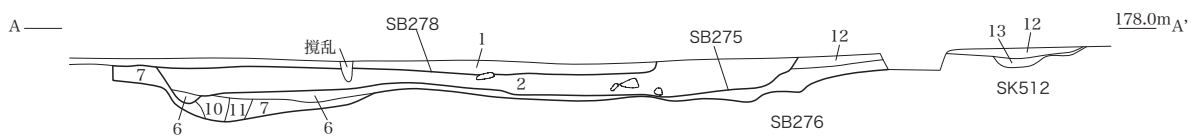
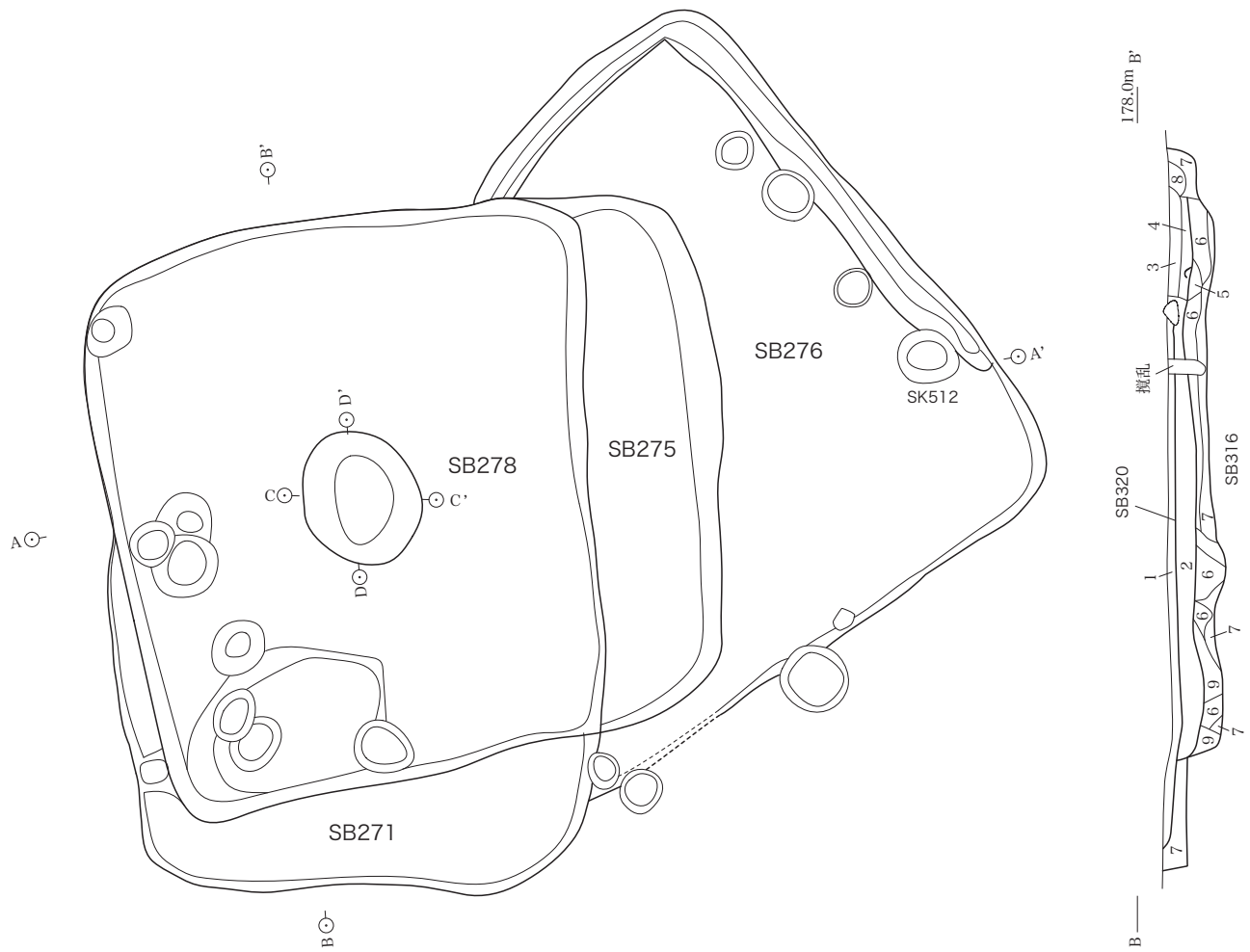


- 1. 10YR2/2黒褐色シルト遺物、炭化物を少量含む
- 2. 10YR2/2黒褐色シルト10YR3/4暗褐色土を斑状に含む

第35図 SB268(1/50)



第36図 SB270(1/50)



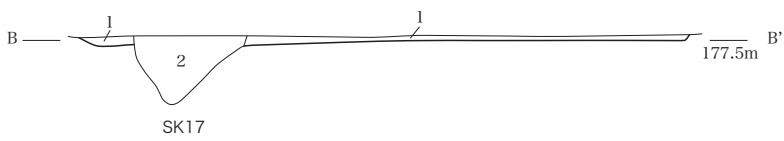
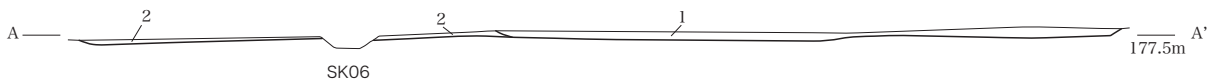
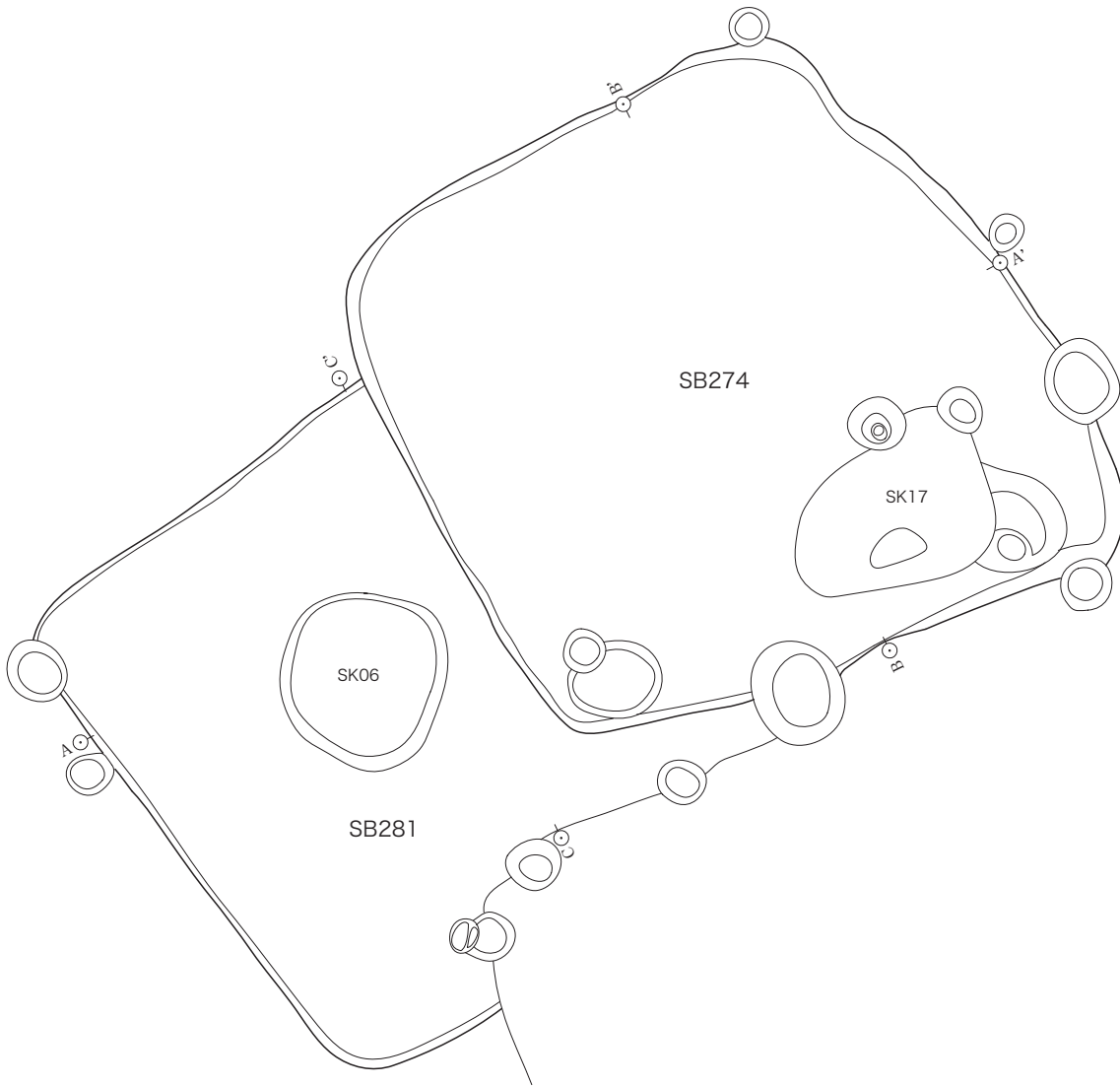
- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1. 10YR2/2黒褐色シルト粗粒砂を多く含む | 8. 10YR2/3黒褐色シルト10YR4/3褐色粗粒砂を斑状に含む |
| 2. 10YR2/2黒褐色シルト10YR5/6黄褐色粗粒砂を多く含む | 9. 10YR5/6黄褐色シルト10YR5/6黄褐色粗粒砂を多く含む |
| 3. 10YR3/2黒褐色シルト10YR3/1黒褐色土を斑状に含む | 10. 10YR3/1黒褐色砂質土10YR7/6粗粒砂を斑状に多く含む |
| 4. 10YR3/2黒褐色シルト10YR3/1黒褐色土を第3層より多く、斑状に含む | 11. 10YR3/3暗褐色砂質土粗粒砂を多く含む |
| 5. 10YR3/2黒褐色シルト粗粒砂若干含む、 | 12. 10YR3/2黒褐色シルト粗粒砂を若干含む |
| 6. 10YR3/4暗褐色シルト10YR2/1黒色土 | 13. 10YR4/4褐色シルト粗粒砂を多く含む |
| 7. 10YR4/6褐色砂質土粗粒砂を多く含む | |

C ————— 178.0m C' D ————— 178.0m D'



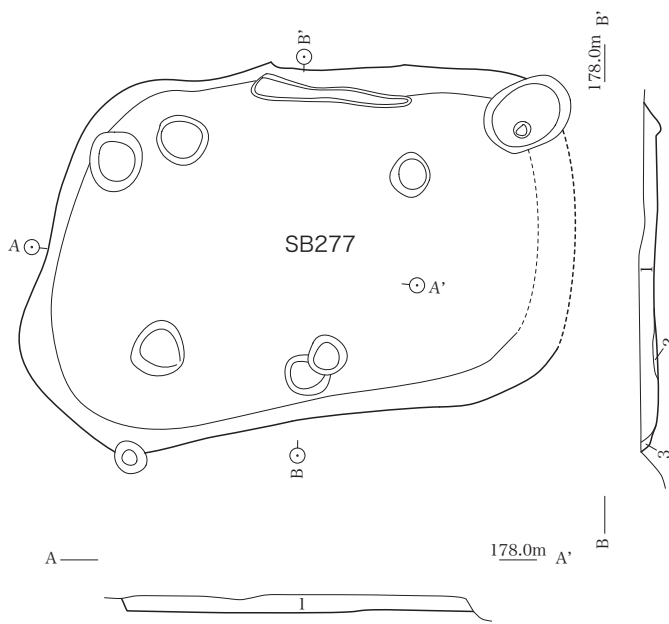
1. 5YR5/6明赤褐色シルト焼土を多く含む

第 37 図 SB271・275・276・278(1/50)



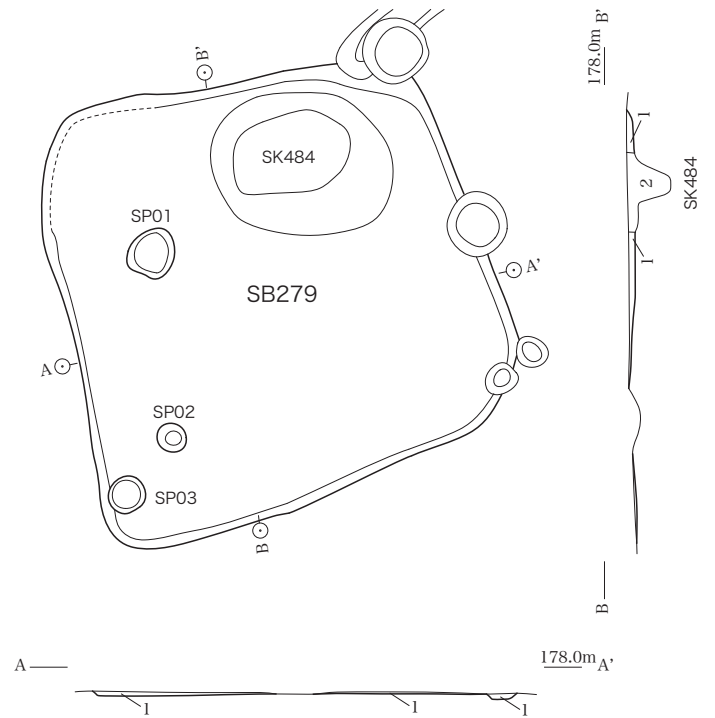
- 1. 10YR5/3にふい黄褐色シルト粗粒砂を若干含む
- 2. 10YR4/4褐色シルト粗粒砂を若干含む
- 3. 10YR2/1黒色シルト10YR4/3にふい黄褐色土を斑状に含む

第 38 図 SB274・281(1/50)



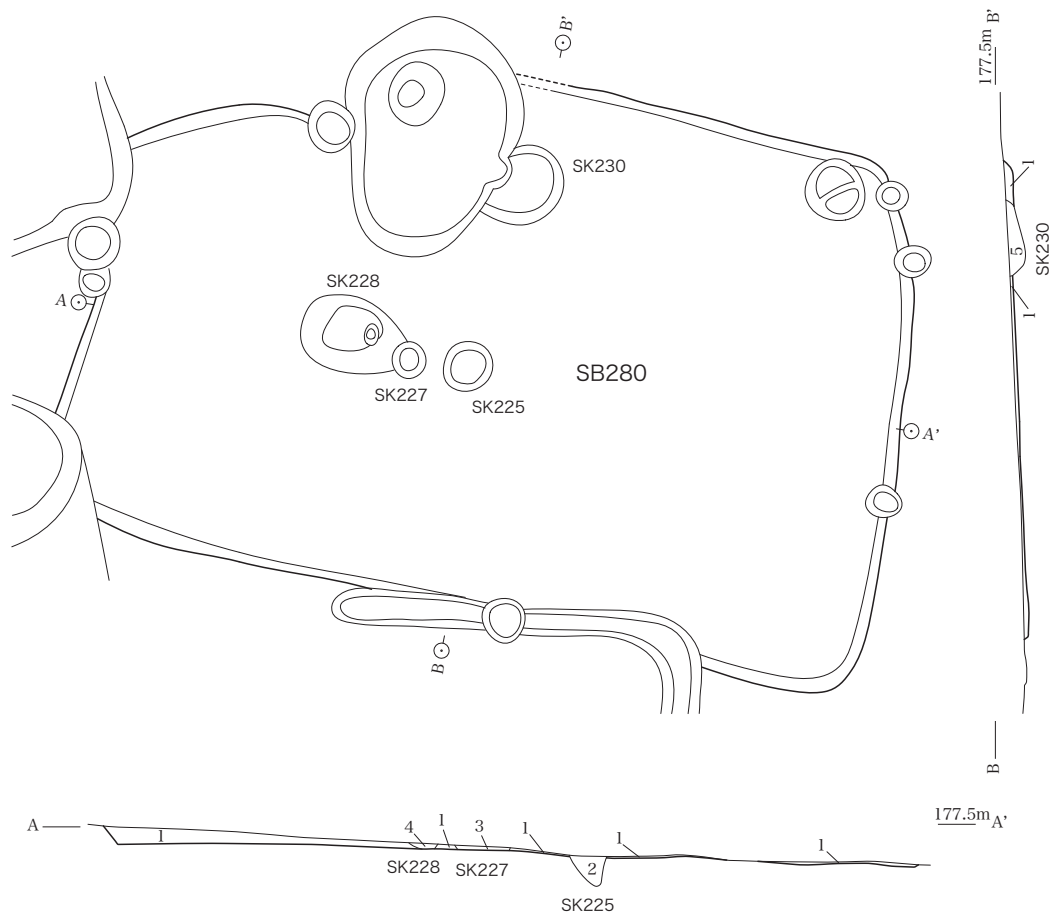
1. 10YR3/4暗褐色シルト10YR5/3にぶい黄褐色土を斑状に含む
2. 10YR3/4暗褐色砂質土粗粒砂若干含む
3. 10YR3/3暗褐色シルト5YR5/6明赤褐色焼土、炭化物を少量含む

第39図 SB277(1/50)



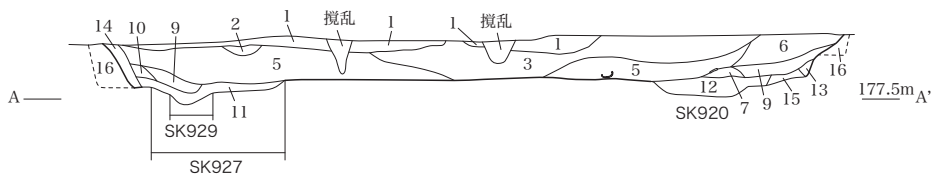
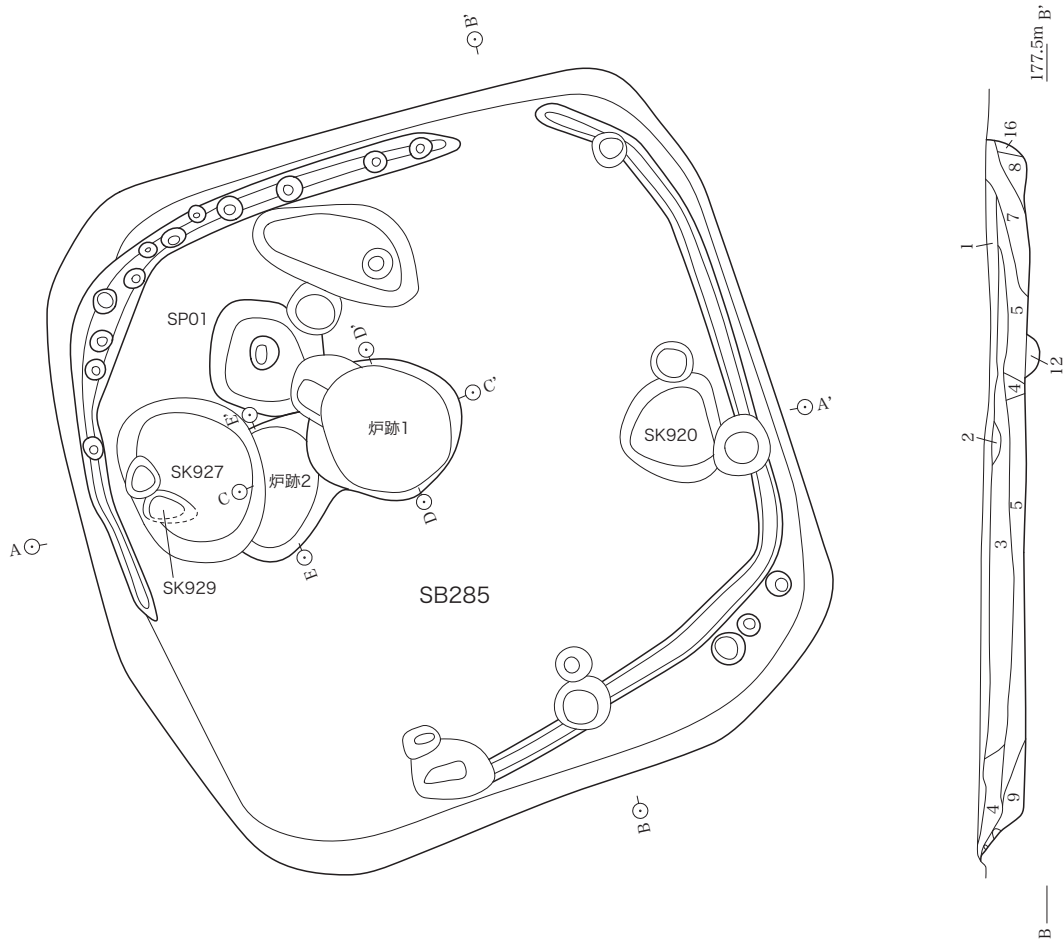
1. 10YR3/4暗褐色砂質土10YR3/2黒褐色砂を斑状に含む
2. 10YR2/3黒褐色シルト粗粒砂若干含む

第40図 SB279(1/50)

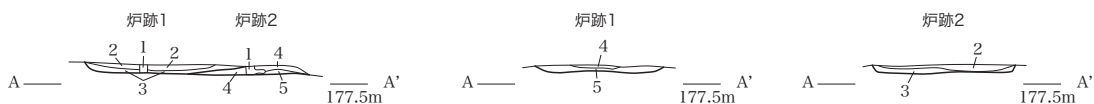


1. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質土粗粒砂を多く含む、炭化物を微量含む
2. 10YR2/3黒褐色シルト
3. 10YR3/3暗褐色シルト
4. 10YR3/3暗褐色シルト
5. 10YR2/3黒褐色シルト10YR4/4褐色土を斑状に含む

第41図 SB280(1/50)

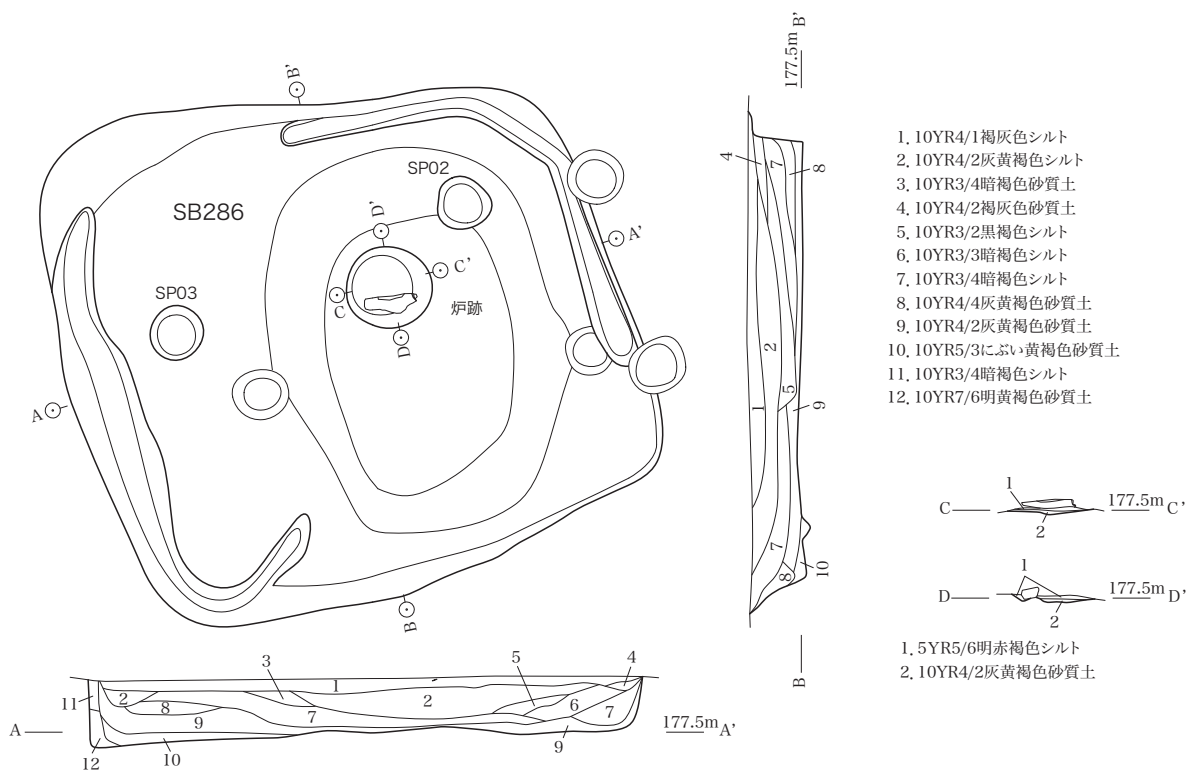


1. 10YR3/3暗褐色砂質土10YR6/6明黄褐色粗粒砂を斑状に含む
2. 10YR3/3暗褐色砂質土10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂を斑状に含む
3. 10YR3/2黒褐色砂質土10YR6/6明黄褐色粗粒砂を斑状に含む
4. 10YR3/4暗褐色シルト10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂、10YR7/4にぶい黄橙色粗粒砂を斑状に含む
5. 10YR3/2黒褐色砂質土10YR6/2灰黄褐色粗粒砂、10YR6/8明黄褐色粗粒を斑状に含む
6. 10YR3/3暗褐色砂質土10YR4/4褐色粗粒砂を斑状に含む、炭化物を少量含む
7. 10YR3/4暗褐色砂質土粗粒砂、10YR4/4褐色砂斑状に含む、焼土を少量含む
8. 10YR3/4暗褐色シルト粗粒砂、10YR6/4にぶい黄橙色砂を斑状に含む
9. 10YR3/2黒褐色砂質土粗粒砂、10YR6/3にぶい黄橙色砂を斑状に含む
10. 10YR3/3暗褐色シルト10YR5/6黄褐色砂を斑状に含む
11. 10YR3/2黒褐色砂質土10YR4/6褐色砂、10YR6/8明黄褐色砂を斑状に含む
12. 10YR3/2黒褐色シルト10YR4/4褐色土、10YR6/3にぶい黄橙色砂、10YR6/6明黄褐色砂を斑状に含む
13. 10YR3/3暗褐色シルト10YR5/6黄褐色砂を斑状に含む
14. 10YR5/6黄褐色砂質土10YR6/8明黄褐色砂を斑状に含む
15. 10YR5/6黄褐色砂質土
16. 10YR4/6褐色砂質土

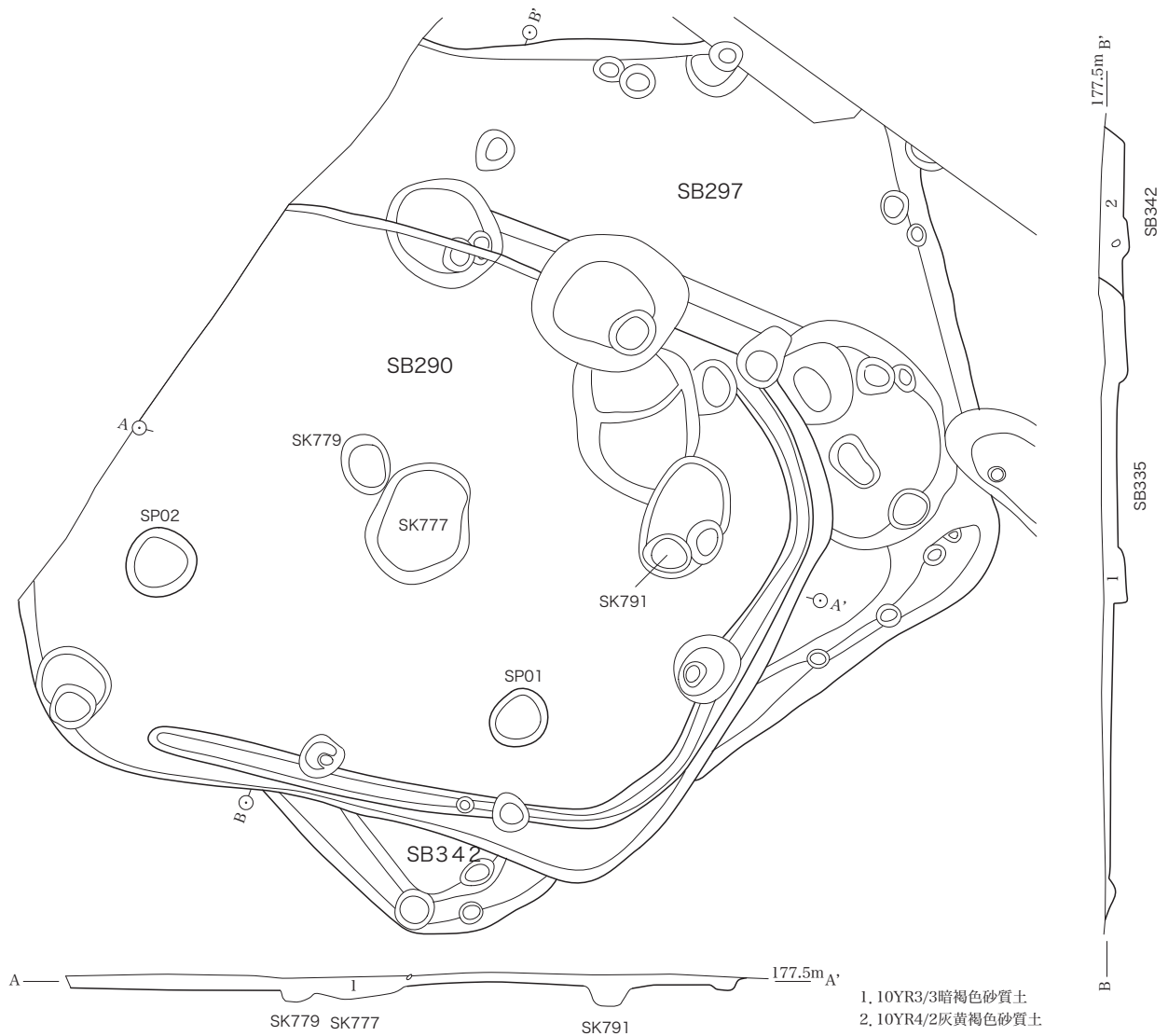


1. 10YR4/6褐色砂質土粗粒砂を多く含む
2. 5YR5/6明赤褐色シルト焼土を多く含む、10YR5/6黄褐色粗粒砂を若干含む
3. 10YR2/3黒褐色砂質土5YR5/6明赤褐色焼土を少量炭化物を少量、粗粒砂多く含む
4. 5YR5/8明赤褐色シルト焼土を多く含む、10YR5/6黄褐色粗粒砂を若干含む
5. 10YR5/6黄褐色砂質土

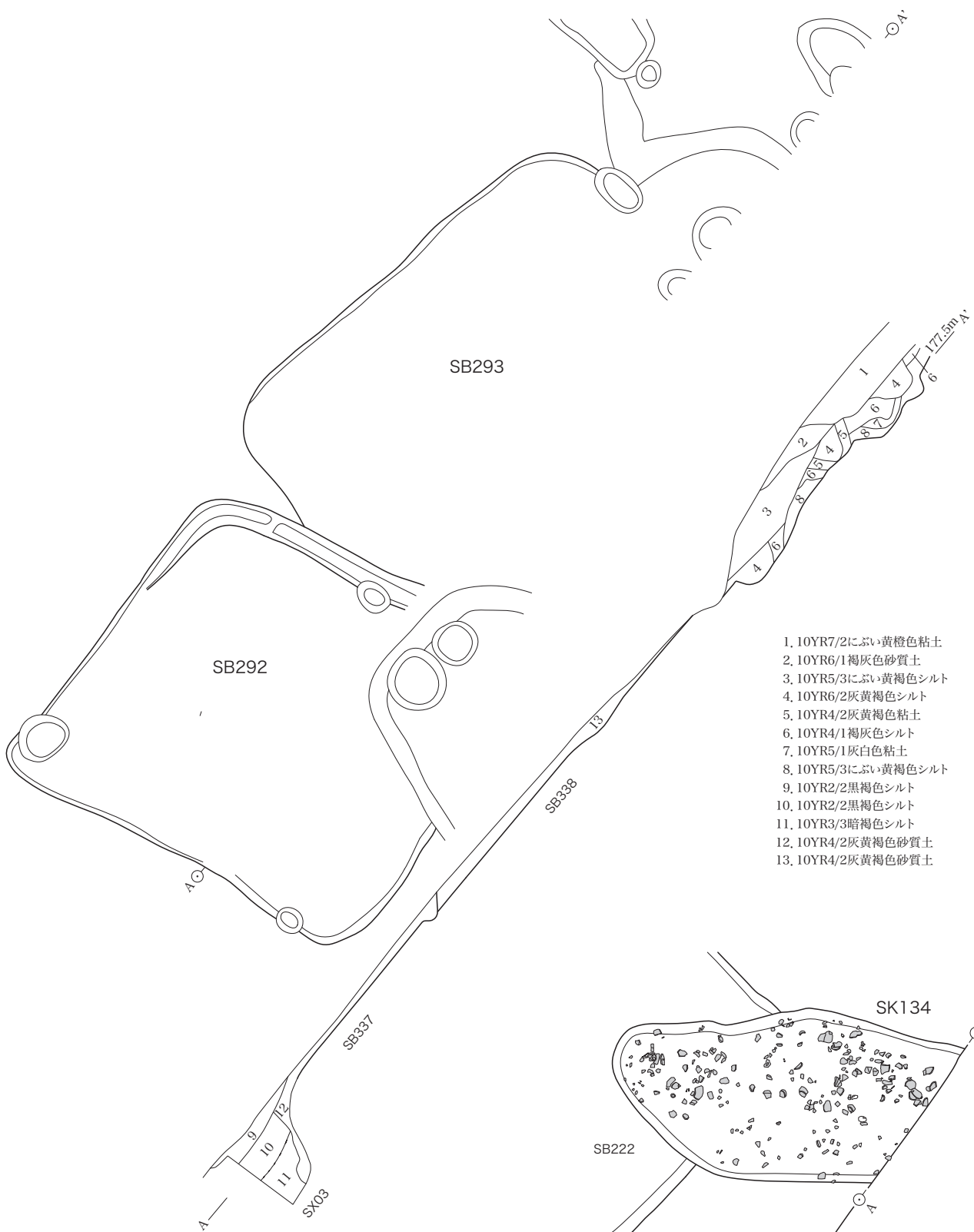
第 42 図 SB285(1/50)



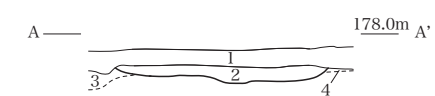
第43図 SB286(1/50)



第44図 SB290・297(1/50)



第45図 SB292・293(1/50)



1. 表土
2. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
3. 10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土

第46図 02B区 SK134(1/50)

2. 古墳時代後期

古墳時代後半の遺構が対象となる。この時期の遺構は調査域全体に検出された。

a. 竪穴住居・掘立柱建物

南部地区

(1)00A 区

SB011(第 47 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-7° -E)。比較的大形で長軸 7.2m 短軸 6.2m を測る。柱穴、周溝は確認されない。近年までの耕作による削平により遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出され、これを中心に床面に焼土と粘土粒の混入土が広がる。竈本体は良好に確認されなかった。出土遺物は少ない。

SB012(第 48 図)

上位段丘に位置する。長軸は東西方向をとる。SB011 に切られ、遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出され、床面上北東隅に焼土が検出される。竈本体は良好に確認されなかった。周溝は検出されず、柱穴は 4 基検出された。出土遺物は少ない。

SB014(第 49 図)

上位段丘に位置する。耕作による削平により遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出され、竈本体は良好に確認されなかった。周溝は部分的に検出された。柱穴は 3 基検出された。出土遺物は少ない。

(2)03A 区

SB025(第 50 図)

上位段丘に位置する。削平により遺存状況は悪い。竈、柱穴は検出されない。周溝が部分的に確認された。床面上で須恵器などが少量出土した。

(3)01B 区

SB027(第 52 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-13° -E)。長軸 5.8m 短軸 5.7m を測る。耕作による削平により遺存状況は悪い。床面上南東隅に焼土が検出される。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる土層が検出された。周溝は南西辺などに部分的に検出された。柱穴は 4 基検出された。遺物は床面上、竈下の落ち込み、貯蔵穴と考えられる土坑などから比較的まとまって出土した。

SB028(第 51 図)

上位段丘に位置する。耕作による削平により遺存状況は悪い。竈は確認されなかった。周溝は検出されず、柱穴は 1 基検出された。出土遺物は少ない。

(4)01C 区

SB031(第 53 図)

上位段丘に位置する。北部 1/3 は 03B 区にはいる。長軸は南北方向をとる (N-41° -W)。長軸 5.9m 短軸 5.3m を測る。床面中央は長軸に沿った方向で落ち込みが認められる。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。竈は若干住居外に張り出す。高まりの中より、須恵器と支柱石が出土した。周溝は竈部分を除いて壁際全体に検出された。柱穴は 4 基検出された。北角に平面方形の貯蔵穴が確認された。遺物は床面上、竈下の落ち込みなどから比較的まとまって出土した。

SB032(第 54 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-8° -W)。大形の住居で長軸 6.8m 短軸 6.5m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。竈は若干住居外に張り出す。竈下の落ち込みより須恵器、土師器がまとまって出土した。周溝は竈部分を除いてほぼ壁際全体に検出された。柱穴は 4 基検出された。北東角に平面方形の貯蔵穴が確認された。遺物は床面上、竈下の落ち込みなどから比較的まとまって出土した。

(5)03B 区

SB033(第 56 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-20° -W)。大形の住居で長軸 6.3m 短軸 6.1m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。竈下の落ち込みより須恵器、土師器がまとまって出土した。周溝は検出されなかった。柱穴は 4 基検出された。北東と南東隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上、貯蔵穴から少量出土した。

SB034(第 55 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。竈は検出されなかった。周溝は竈部分を除いてほぼ壁際全体に検出された。柱穴は 2 基検出された。遺物は少量検出された

SB036(第 57 図)

上位段丘に位置する。竈は検出されなかった。周溝は部分的に検出された。柱穴は検出されなかった。遺物は少量出土した。

SB037(第 58 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-34° -W)。ほぼ正方形の大形の住居で長軸 6.7m 短軸 6.6m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土が混じる高まりが検出された。高まり中より支柱石と須恵器、土師器がまとまって出土した。周溝は竈部分などを除いて全周する。柱穴は 2 基検出された。北隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上、竈下及び周囲から比較的多量に出土した。

SB038(第 59 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。竈は検出されなかった。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は少量出土した。

SB039・042(第 60 図)

上位段丘に位置する。竪穴住居 2 棟が重複しており、新旧関係は古 SB042 → 新 SB039 である。SB042 は長軸を南北方向にとる (N-21° -W)。長軸 4.3m 短軸 3.8m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土が混じる高まりが検出された。SB039 は長軸を南北方向にとる (N-23° -W)。大形の住居で長軸 6.4m 短軸 6.0m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土が混じる高まりが検出された。北隅に貯蔵穴と考えられる土坑を検出した。両住居とも周溝は検出されなかった。SB039 の柱穴は SB042 の床面で 4 基検出された。

SB041(第 62 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-8° -E)。長軸 5.5m 短軸 5.3m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に高まりが検出された。周溝は竈部分などを除いて検出部分は全周する。柱穴は 1 基検出された。北東隅に貯蔵穴がある。

遺物は床面上、竈下及び周囲から出土した。

SB044(第 61 図)

上位段丘に位置する。長軸は東西方向をとる (N-70° -W)。長軸 5.3m 短軸 5.0m を測る。竈は検出されなかった。周溝は全周する。柱穴は 2 基検出された。遺物は遺構埋土中より床面より浮いた状態で出土した。

(6)04Db 区

SB051(第 63 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-12° -W)。長軸 5.2m 短軸 5.1m を測る。竈、周溝は検出されなかった。柱穴は 4 基検出された。遺物は床面上から少量出土した。

SB052(第 64 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-9° -E)。平面長方形で長軸 5.2m 短軸 3.9m を測る。竈、周溝、柱穴は確認されなかった。削平が著しく、遺存状況は悪い。遺物は床面上から出土した。

(7)04Cb 区

SB060(第 65 図)

上位段丘に位置する。竈本体は良好に確認されず、竈を中心に焼土混じりの高まりが検出された。柱穴、周溝は検出されなかった。北東隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上から少量出土した。

SB062(第 66 図)

上位段丘に位置する。SB063 に切られる。削平により遺存状況は悪い。周溝、竈、柱穴は検出されなかった。遺物は少量出土した。

SB063(第 66 図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-17° -E)。削平により遺存状況は悪い。長軸 5.7m 短軸 4.0m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に焼土の混じった高まりが検出された。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は床面上で少量出土した。

SB065(第 67 図)

上位段丘に位置する。中世遺構によって大部分が消失する。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に焼土と粘土の混じる高まりが検出された。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は床面上から少量出土した。

北部地区

(1)01D 区

SB201(第 68 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる (N-21° -E)。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に高まりが検出された。周溝は東辺のみ検出された。柱穴は 2 基検出された。北東隅に貯蔵穴がある。遺物は床面上、竈下及び周囲から少量出土した。

SB202(第 69 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる (N-38° -W)。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に高まりが検出された。周溝は北辺で確認できなかった。柱穴は検出されなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB203(第 71 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる。竈、柱穴、周溝は確認できなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB204(第 70 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に高まりが検出された。柱穴、周溝は確認できなかった。遺物は床面上、竈下から少量出土した。

SB205(第 70 図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は南北方向をとる。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に焼土が検出された。柱穴は 2 基検出された。周溝は確認できなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB206(第 70 図)

上位段丘に位置する。大部分が調査区外となる。削平が著しく、遺存状況は悪い。竈、柱穴、周溝は確認できなかった。遺物は床面上から少量出土した。

SB207(第 72 図)

掘立柱建物である。上位段丘に位置する。2 間×2 間で 2.5m × 2.8m の小形の建物である。時期を確定できないが、調査区内に他の時期の建物が存在しないことから、当該時期に所属するものとする。

(2)02A 区

SB208(第 73 図)

下位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-33° -W)。長軸 6.0m 短軸 5.6m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝は東辺と南辺の一部に確認された。柱穴は 4 基検出された。遺物は埋土中、床面上、竈下及びその周囲から出土した。

SB209(第 74 図)

下位段丘に位置する。竈、周溝は確認できなかった。柱穴は 1 基検出された。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB210(第 74 図)

下位段丘に位置する。小形の住居で SB209 によって大部分切られる。竈は北辺に確認され、焼土が検出された。柱穴、周溝は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB211(第 76 図)

下位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-2° -W)。長軸 5.0m 短軸 4.9m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈下の落ち込みのみ確認された。周溝は西辺のみ検出された。柱穴は 2 基検出された。遺物は埋土中、床面上から出土した。

SB212(第 77 図)

下位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる (N-23° -W)。長軸 5.5m 短軸 5.2m を測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されなかった。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB214(第 75 図)

下位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる (N-69° -W)。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出

された。周溝は検出されなかった。柱穴は2基検出された。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

SB215(第78図)

下位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。長軸は東西方向をとる(N-8°-E)。長軸4.5m 短軸4.4mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、竈本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝、柱穴は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

(3)03C区

SB230(第79図)

下位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。竈、周溝は確認されなかった。柱穴は1基検出された。遺物は埋土中、床面上から少量出土した。

(4)04Ab区

SB215(第81図)

上位段丘に位置する。削平が著しく遺存状況は悪い。斜面部分は近世以降の削平で消失している。竈、柱穴は検出されない。東辺に幅広い周溝がある。遺物は床面上から少量出土した。

SB266(第80図)

上位段丘に位置する。長軸は南北方向をとる(N-34°-W)。長軸4.1m 短軸3.8mを測る。遺構北辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝は確認されなかった。柱穴は3基検出された。遺物は埋土中、床面上、竈下及びその周囲から出土した。

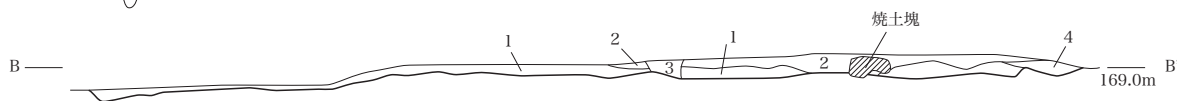
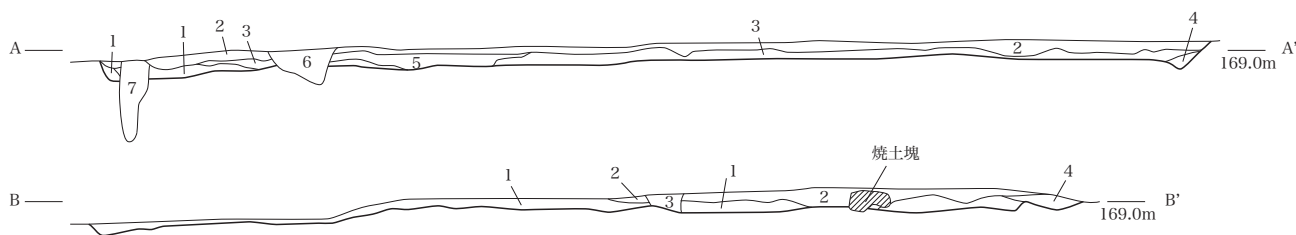
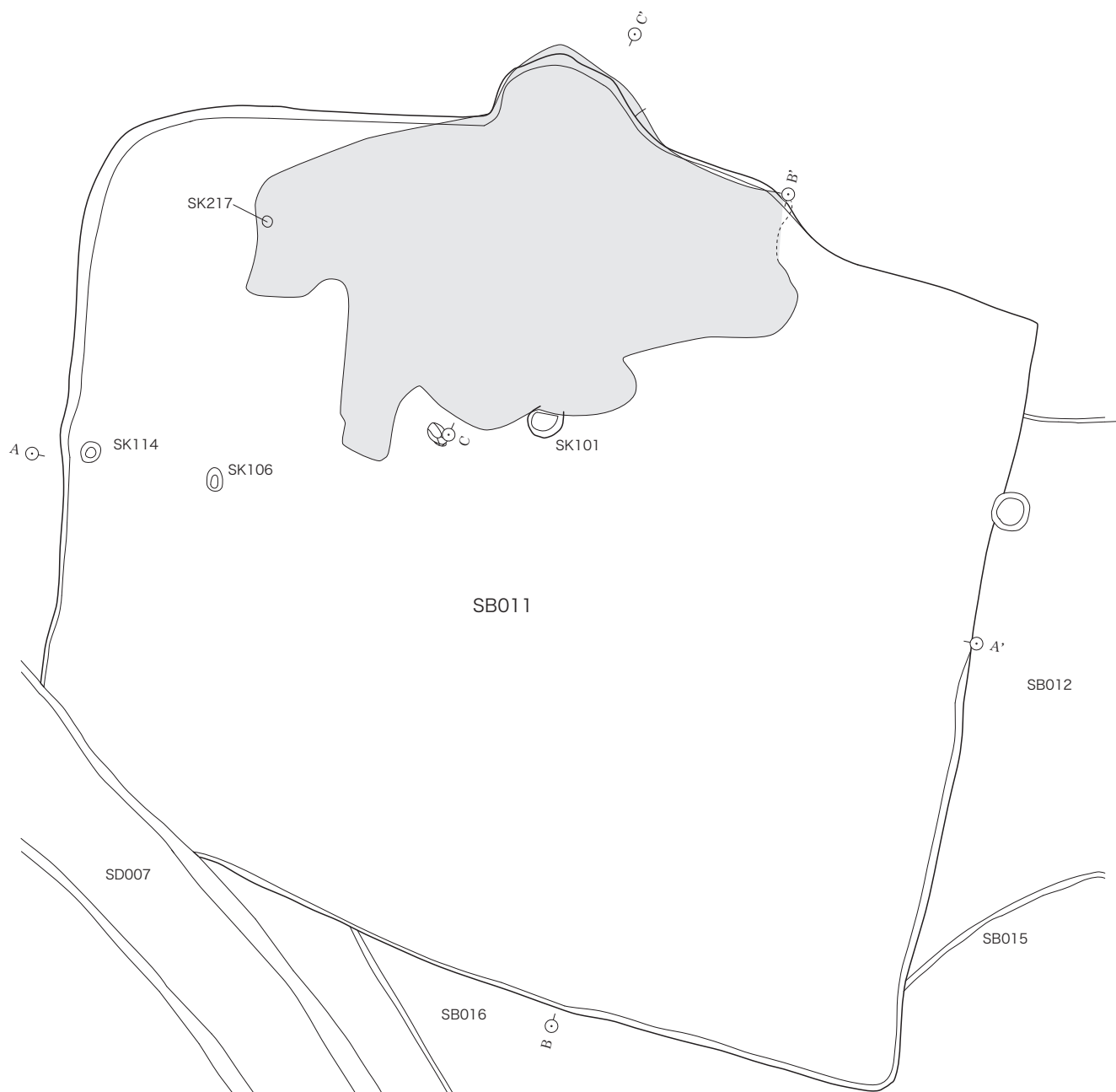
SB267(第80図)

上位段丘に位置する。長軸は東西方向をとる(N-65°-W)。長軸4.3m 短軸4.1mを測る。遺構西辺に竈が検出されたが、本体は良好に確認されず、竈を中心に粘土と焼土の高まりが検出された。周溝は南辺に確認された。柱穴は検出されなかった。遺物は埋土中、床面上、竈下及びその周囲から出土した。

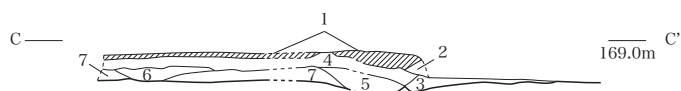
b. 土坑

03B区SK206(第82図)

03B区のSB035の南側に位置する。長径2.8m 短径2.5m 深さ0.2mである。削平により浅く、底面は平である。埋土中より、比較的まとまって土師器、須恵器が出土した。(酒井俊彦)

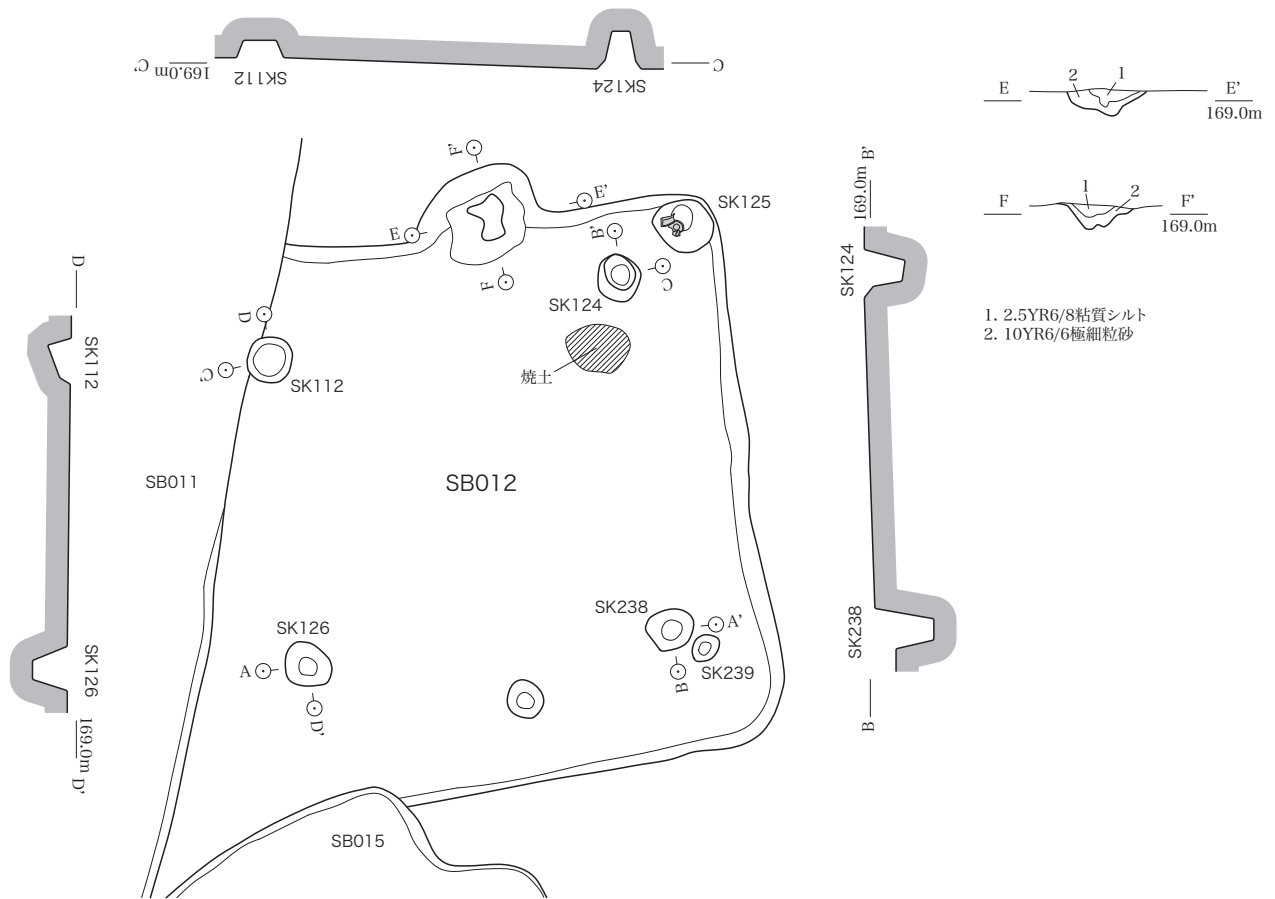


- 1. 10YR5/3にぶい黄褐色土
- 2. 10YR5/3にぶい黄褐色土、焼土塊多し
- 3. 7.5YR4/3褐色土、黒褐色土ブロック多く混じる
- 4. 10YR3/2黒褐色土に1が斑入
- 5. 10YR4/3にぶい黄褐色土
- 6. 1と同じだが焼土の入り強い(SK106)
- 7. 2.5Y3/2黒褐色土(SK114)

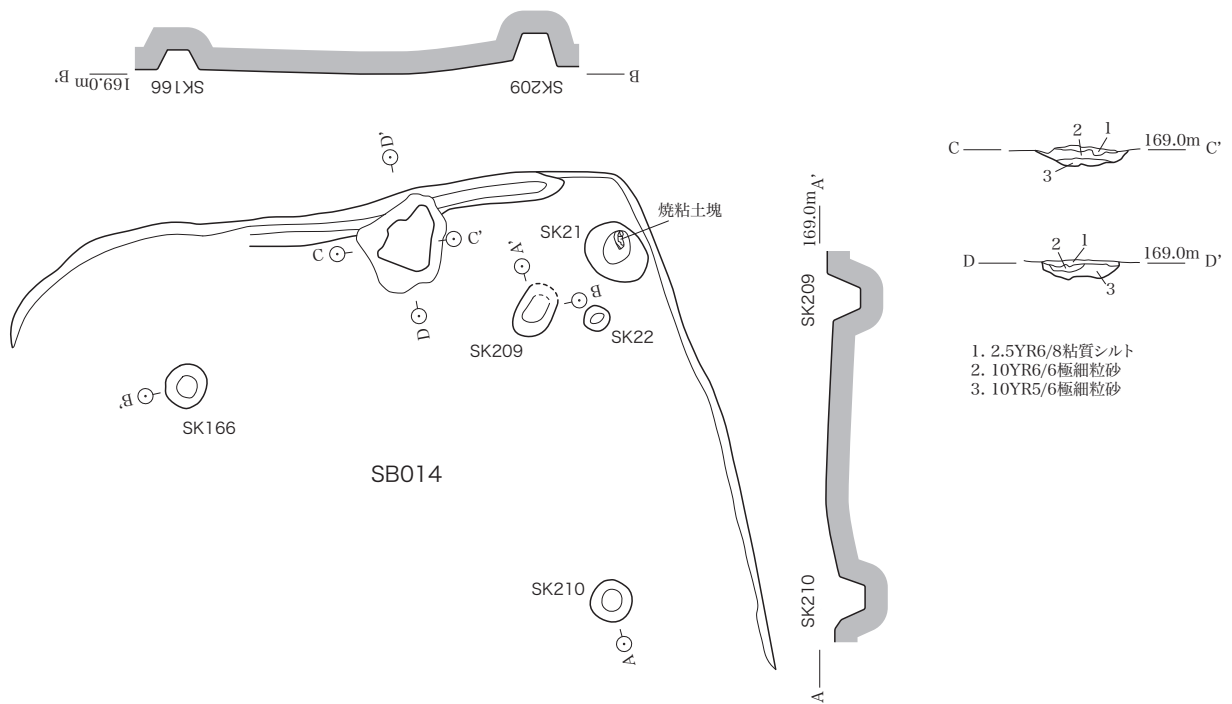


- 1. 2.5YR6/8橙色シルト質粘土
- 2. 10YR5/4にぶい黄褐色極細粒砂
- 3. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂
- 4. 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂
- 5. 10YR6/6明黄褐色シルト
- 6. 10YR5/6黄褐色細粒砂
- 7. 10YR6/6明黄褐色中粒砂

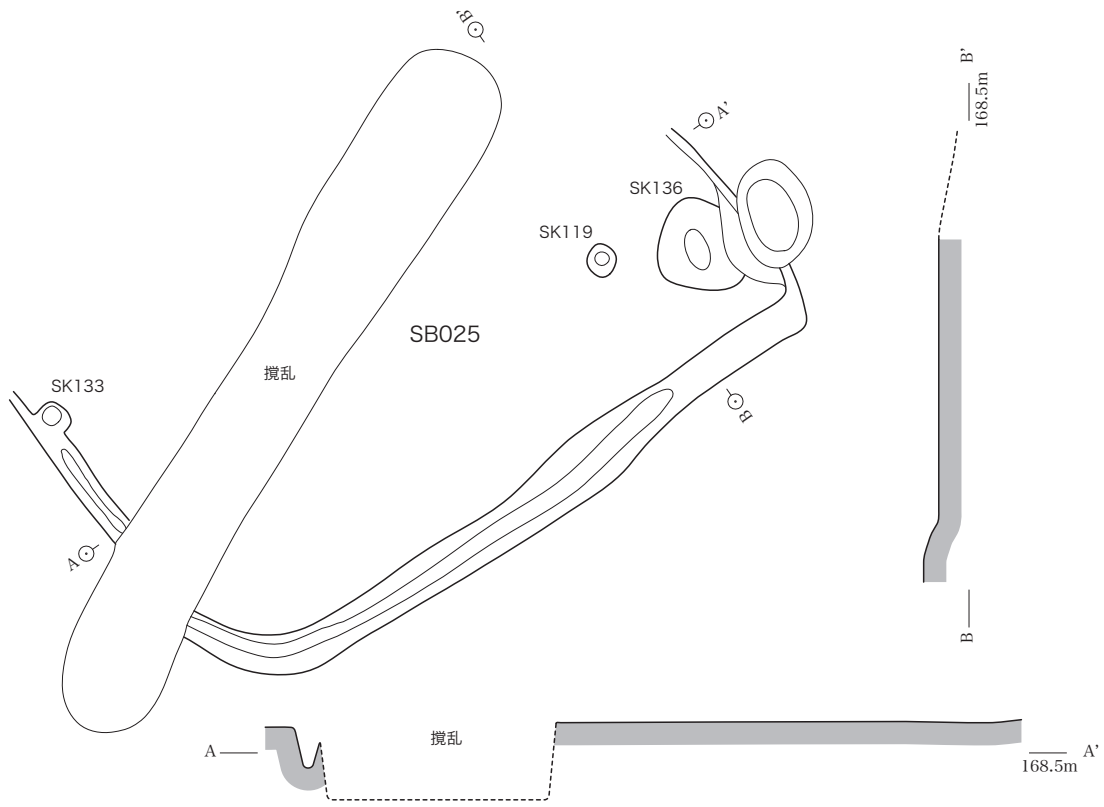
第 47 図 SB011(1/50)



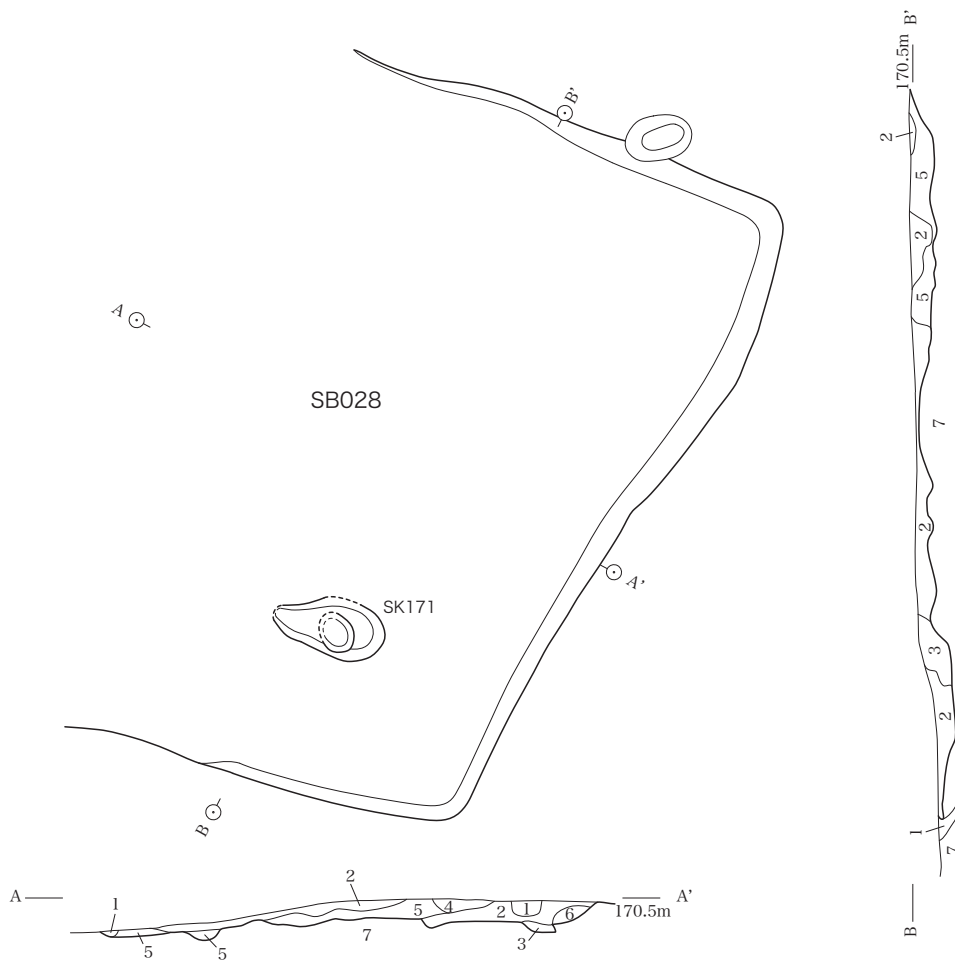
第48図 SB012(1/50)



第49図 SB014(1/50)

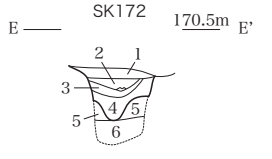
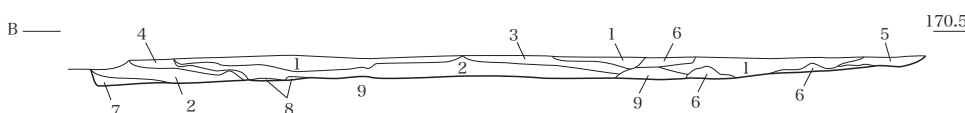
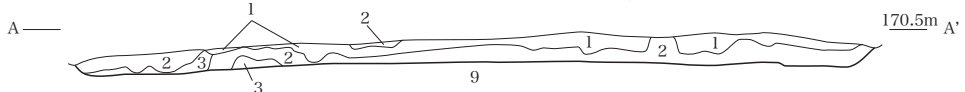


第50図 SB025(1/50)



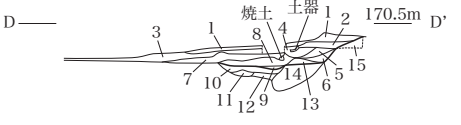
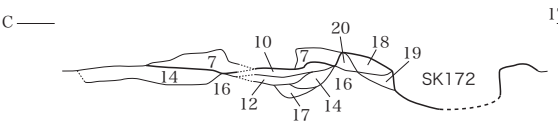
- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 10YR3/1黒褐色土 | 5. 10YR5/4にぶい黄褐色土 |
| 2. 10YR4/2灰黄褐色土 | 6. 10YR4/6褐色土 |
| 3. 10YR4/3にぶい黄褐色土 | 7. 10YR5/4にぶい黄褐色土 |
| 4. 10YR5/8黄褐色土 | |

第51図 SB028(1/50)



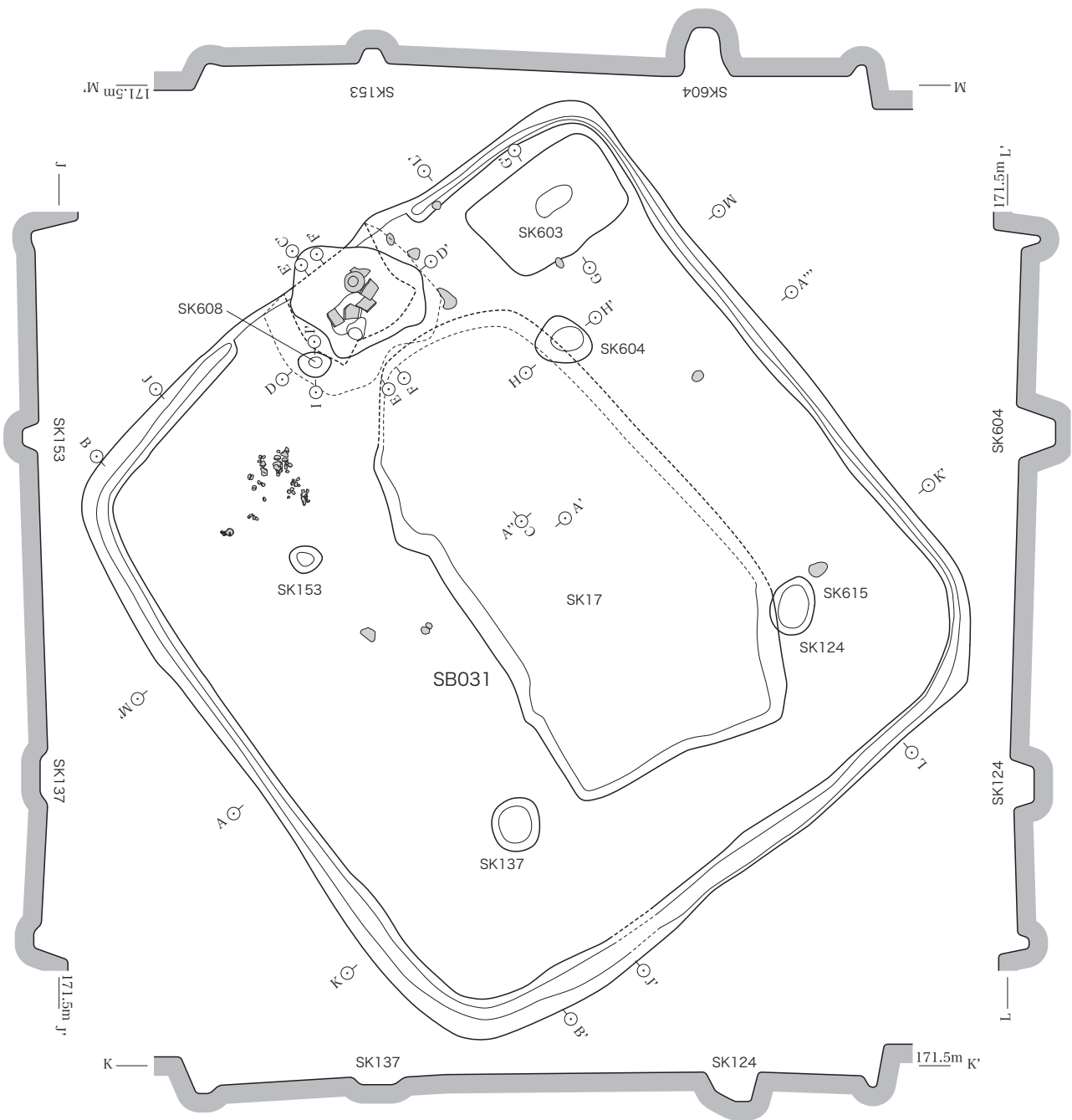
- 1. 10YR5/8黄褐色土
- 2. 10YR3/2黒褐色土
- 3. 10YR3/2黒褐色土
- 4. 10YR4/3にぶい黄褐色土
- 5. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土
- 6. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土
- 7. 2.5Y4/1黄灰色風化花崗岩
- 8. 10YR4/6褐色風化花崗岩
- 9. 2.5Y6/3にぶい黄色風化花崗岩

- 1. 10YR4/2灰黄褐色シルト
- 2. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
- 3. 10YR6/4にぶい黄褐色砂
- 4. 10YR7/3にぶい黄褐色砂
- 5. 2.5Y6/3にぶい黄色砂
- 6. 2.5Y7/2~6/2灰黄色砂

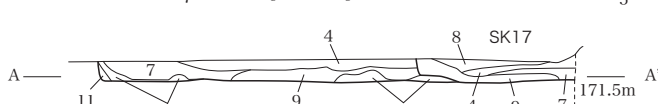


- 1. 10YR4/3にぶい黄褐色土
- 2. 10YR4/2灰黄褐色土
- 3. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質土
- 4. 10YR3/3暗褐色粘質土
- 5. 10YR4/3にぶい黄褐色土
- 6. 10YR4/4褐色土
- 7. 10YR4/1褐灰色土
- 8. 10YR7/6明黄褐色土
- 9. 10YR7/6明黄褐色土
- 10. 2.5Y4/6赤褐色土
- 11. 2.5YR4/4にぶい赤褐色土
- 12. 2.5YR4/2灰赤色粘質土
- 13. 10YR4/2灰黄褐色土
- 14. 10YR4/2灰黄褐色土
- 15. 10YR5/6黄褐色土
- 16. 7.5YR7/6橙色粘質土
- 17. 7.5YR5/4にぶい褐色土
- 18. 10YR4/6褐色土
- 19. 10YR4/6褐色土
- 20. 10YR4/2灰黄褐色粘質土

第52図 SB027(1/50)



第 53 図 SB031(1/50)



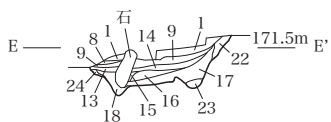
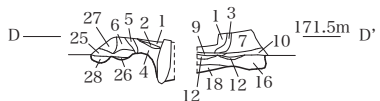
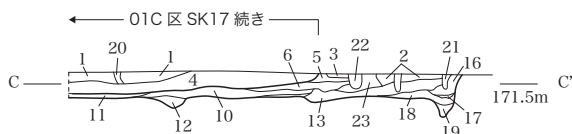
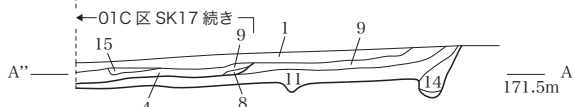
<01C区 SB01>

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 0. 10YR3/2黒褐色風化花崗岩 | 6. 10YR3/1黒褐色土 |
| 1. 10YR4/6褐色土 | 7. 10YR3/2黒褐色土 |
| 2. 10YR4/4褐色土 | 8. 4cに10YR3/1黒褐色土混じる |
| 3. 10YR4/4褐色土 | 9. 10YR3/1黒褐色土と10YR3/2黒褐色土の斑土 |
| 4. 10YR6/8明黄褐色土と
10YR3/2黒褐色土の斑土 | 10. 10YR7/6明黄褐色土 |
| 5. 10YR5/4に黄褐色土 | 11. 10YR4/2灰黄褐色土 |

<03B区 SB13>

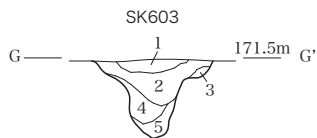
1. 10YR4/3に黄褐色細礫級砂混じり砂
2. 10YR4/3に黄褐色細礫級砂混じり砂
3. 10YR6/2灰黄褐色シルト混じり細砂
4. 10YR4/3に黄褐色細礫級砂混じり砂
5. 7.5YR3/1褐色細礫級砂混じり細砂
6. 10YR4/3に黄褐色細礫級砂混じり細砂
7. 10YR4/4褐色細砂
8. 10YR2/3褐色シルト混じり砂
9. 10YR4/2灰黄褐色細砂
10. 10YR4/1褐灰色細礫級砂混じり砂
11. 10YR4/1褐灰色細砂
12. 10YR3/3暗褐色細砂
13. 10YR4/1褐灰色シルト混じり砂
14. 10YR2/2 褐色細砂
15. 10YR5/4に黄褐色細砂

16. 10YR4/4褐色砂
17. 10YR5/3に黄褐色砂
18. 10YR3/3暗褐色細砂
19. 10YR3/3暗褐色細砂
20. 2.5Y4/1黄灰色細砂
21. 10YR6/1褐灰色シルト混じり細砂
22. 5B5/1青灰色砂
23. 10YR3/3暗褐色細砂

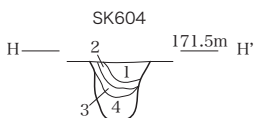


1. 2.5Y5/1黄灰色細礫級サバ混じり砂
2. 2.5YR4/6赤褐色シルト混じり砂(焼土)
3. 5YR4/6赤褐色細砂
4. 10YR5/1褐灰色細砂
5. 7.5YR3/3暗褐色細砂
6. 2.5Y4/2暗灰黄色細礫級サバ混じり砂
7. 2.5Y4/1黄灰色細礫級サバ混じり細砂
8. 10YR3/2黒褐色シルト混じり砂
9. 10YR3/1黒褐色シルト混じり砂
10. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細砂
11. 2.5Y7/2灰黄色細砂
12. 10YR2/1黒色細砂
13. 7.5YR3/3暗褐色シルト混じり砂(焼土)
14. 10YR4/2灰黄褐色細礫級サバ混じり砂

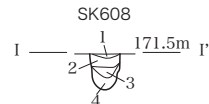
15. 10YR4/1褐灰色細礫級サバ混じり砂
16. 10YR4/2灰黄褐色細礫級サバ混じり砂
17. 2.5Y4/1黄灰色細礫級サバ混じり砂
18. 10YR5/1褐灰色シルト混じり砂
19. N5/灰色シルト
20. 2.5Y6/2灰黄色細砂
21. 10YR6/1褐灰色シルト混じり細砂
22. 10YR5/1褐灰色細砂
23. 2.5Y6/1黄灰色細礫級サバ混じり細砂
24. 10YR4/2灰黄褐色細礫級サバ混じり砂
25. 2.5Y5/1黄灰色細礫級サバ混じり砂
26. 2.5Y4/2暗灰黄色細礫級サバ混じり細砂
27. 10YR4/1褐灰色細礫級サバ混じり砂
28. 10YR5/4に黄褐色細礫級サバ混じり細砂



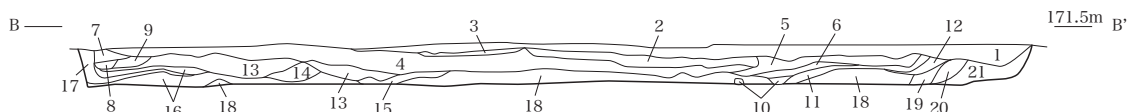
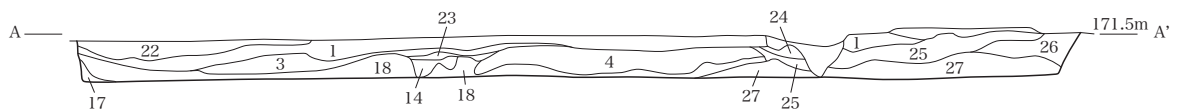
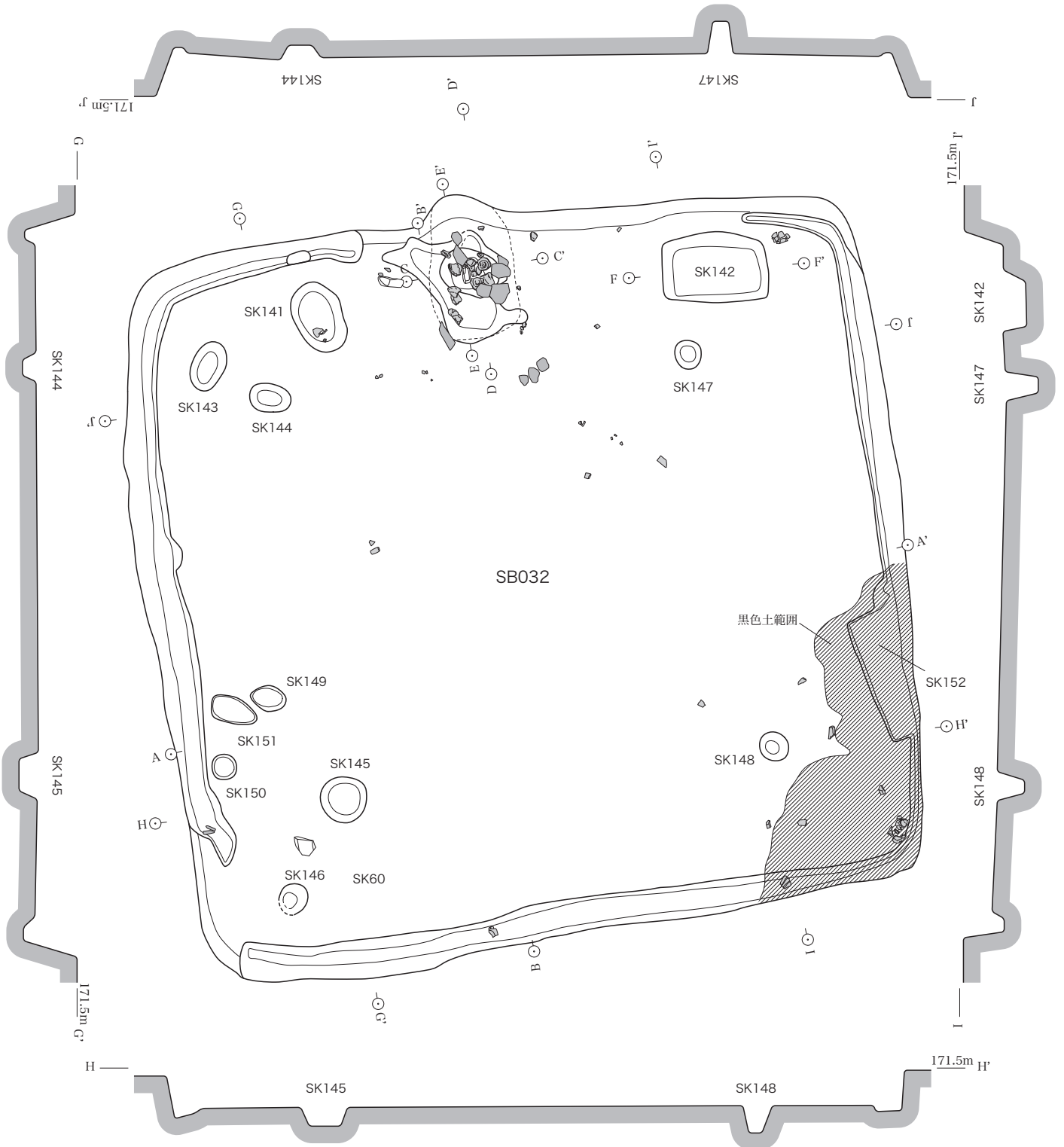
1. 10YR4/4褐色細礫級サバ混じり砂
2. 10YR4/2灰黄褐色砂
3. 10YR5/4に黄褐色砂
4. 10YR4/3に黄褐色細砂
5. 10YR4/2灰黄褐色砂



1. 10YR4/3に黄褐色砂
2. 10YR3/4暗褐色砂
3. 10YR4/2灰黄褐色細砂
4. 10YR6/3に黄橙色細砂

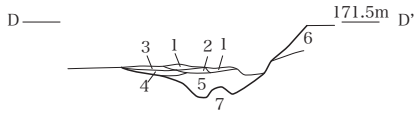
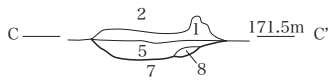


1. 10YR4/4褐色細礫級サバ混じり砂
2. 10YR3/1黒褐色細礫級サバ混じり砂
3. 10YR4/4褐色細礫級サバ混じり砂
4. 10YR3/1くろ褐色細礫級サバ混じり砂

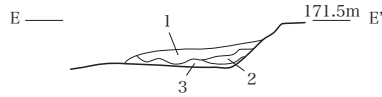


- | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 10YR6/8明黄褐色土 | 8. 10YR3/2黑褐色土 | 15. 10YR4/4褐色土 | 22. 10YR4/2灰黄褐色土 |
| 2. 10YR5/2灰黄褐色土 | 9. 10YR5/6黄褐色土 | 16. 10YR5/4こぶい黄褐色土 | 23. 10YR4/2灰黄褐色土 |
| 3. 10YR5/6黄褐色土 | 10. 10YR5/6黄褐色土 | 17. 10YR3/1黑褐色土 | 24. 10YR5/3こぶい黄褐色土 |
| 4. 10YR5/2灰黄褐色土 | 11. 10YR3/1黑褐色土 | 18. 10YR4/3こぶい黄褐色土 | 25. 10YR4/2灰黄褐色土 |
| 5. 10YR5/6黄褐色土 | 12. 10YR3/3暗褐色土 | 19. 10YR3/2黑褐色土 | 26. 10YR4/4褐色土 |
| 6. 10YR5/2灰黄褐色土 | 13. 10YR4/4褐色土 | 20. 7.5YR3/3暗褐色土 | 27. 10YR4/2灰黄褐色土 |
| 7. 10YR5/6黄褐色土 | 14. 10YR6/6明黄褐色土 | 21. 7.5YR3/2黑褐色土 | |

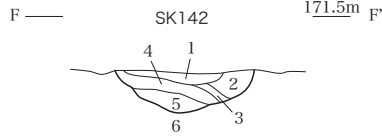
第54図 SB032(1/50)



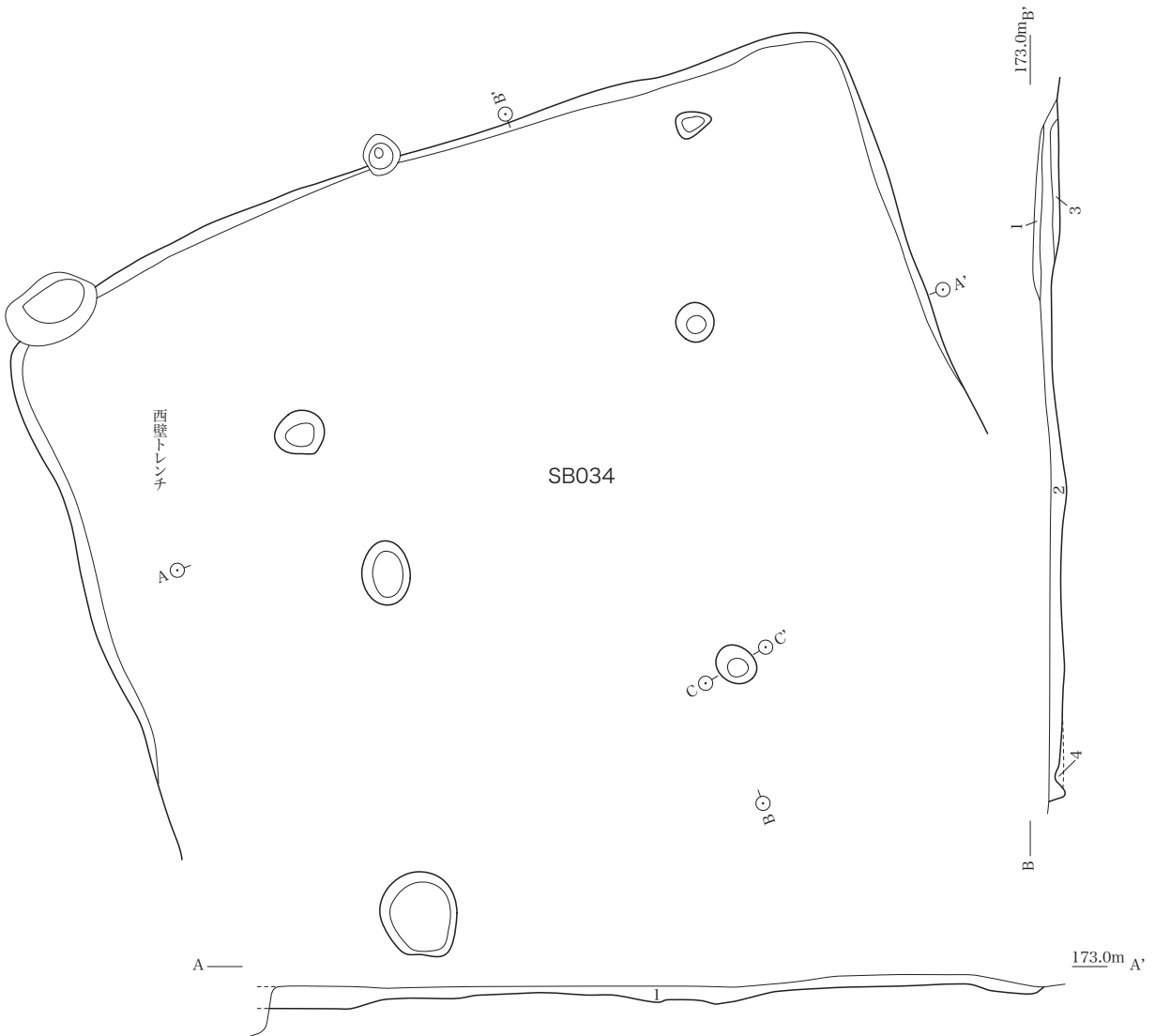
1. 10YR3/1黒褐色土
2. 10YR3/1黒褐色土
3. 5YR4/6赤褐色土
4. 5YR3/4暗赤褐色粘質土
5. 10YR3/2黒褐色土
6. 10YR4/6褐色土
7. 10YR6/4にぶい黄褐色粘質土
8. 10YR5/4にぶい黄褐色土



1. 10YR4/2灰黄褐色～10YR4/3にぶい黄褐色シルト
2. 10YR4/1褐灰色～10YR4/2灰黄褐色シルト
3. 2.5YR5/6明赤褐色シルト



1. 10YR4/2灰黄褐色シルト
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト
5. 10YR5/2灰黄褐色シルト
6. 10YR8/3浅黄橙色細粒砂



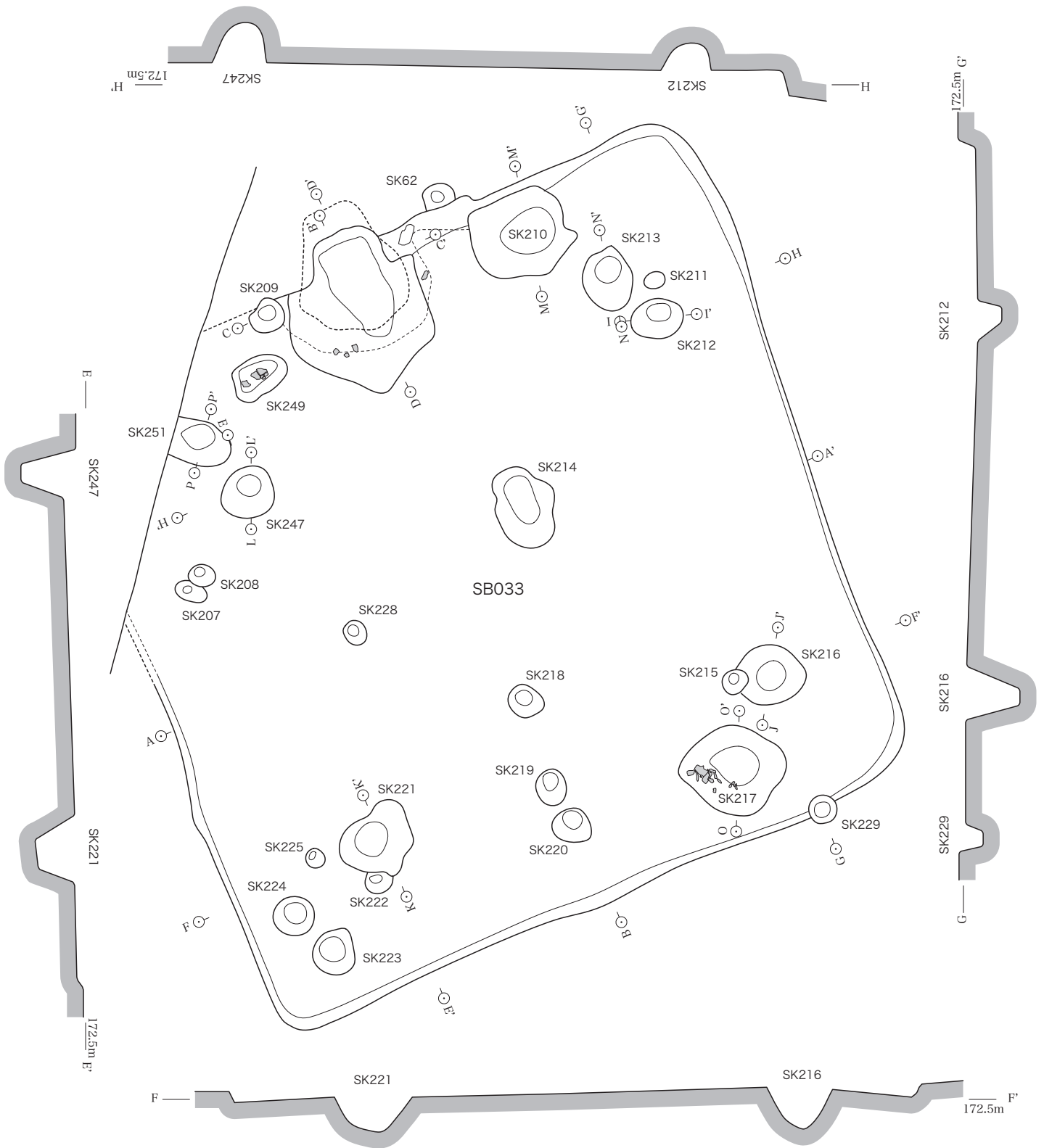
1. 7.5YR6/6橙色粘質土
2. 10YR3/1黒褐色シルト
3. 10YR3/2明褐色粘質土
4. 7.5YR5/6橙色粘質土

C — 173.0m C'

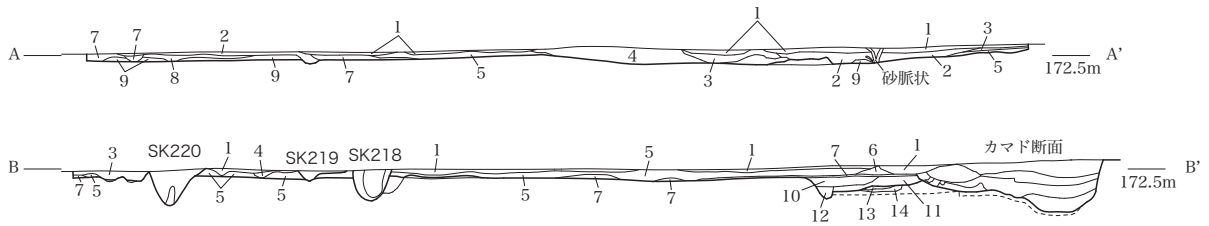


1. 10YR2/3褐灰色細粒砂
2. 10YR5/6黄褐色中粒砂
3. 10YR6/6明黄褐色シルト

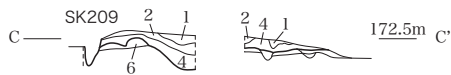
第55図 SB034(1/50)



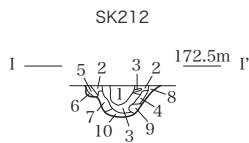
第56図 SB033(1/50)



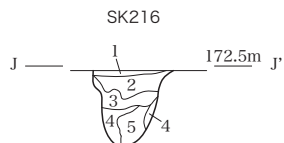
- | | | |
|--------------------------|------------------------|---------------------|
| 1. 7.5YR3/1黒褐色砂 | 6. 5Y6/2灰オリーブ色細砂 | 11. 10YR6/3にぶい黄橙色細砂 |
| 2. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂 | 7. 2.5Y5/1黄灰色細砂 | 12. 2.5Y4/1黄灰色細砂 |
| 3. 2.5Y5/1黄灰色シルト混じり細砂 | 8. 10YR4/3にぶい黄褐色サバ混じり砂 | 13. 10YR6/2灰黄褐色細砂 |
| 4. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト混じり細砂 | 9. 2.5Y5/1黄灰色細砂 | 14. 10YR6/3にぶい黄橙色細砂 |
| 5. 10YR5/2灰黄褐色細砂 | 10. 10YR6/2灰黄褐色細砂 | |



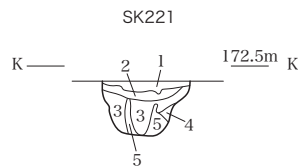
1. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂
2. 10YR3/2黒褐色砂
3. 2.5YR5/8明赤褐色細砂質焼土
4. 10YR3/4暗褐色細砂
5. 10YR4/2灰黄褐色サバ混じり細砂
6. 7.5YR5/4にぶい褐色砂
7. 2.5YR5/8明赤褐色細砂質焼土
8. 7.5YR5/3にぶい褐色砂
9. 7.5YR6/4にぶい橙色細砂
10. 2.5Y6/3にぶい黄色細砂



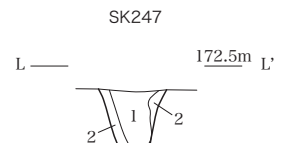
1. 10Y5/1灰色粗砂
2. 10Y5/1灰色砂
3. 7.5YR4/4褐色砂
4. 2.5Y6/2灰黄色細砂
5. 10YR4/2灰褐色砂
6. 7.5YR3/1褐色シルト混じり砂
7. 2.5Y7/3浅黄色細砂
8. 5YR6/6橙色細砂
9. 2.5Y8/3浅黄色細砂
10. 2.5Y6/2灰黄色シルト混じり細砂



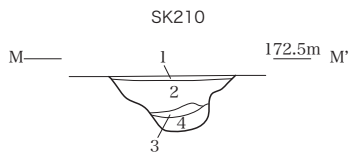
1. 10YR3/1褐色砂
2. 10YR4/4褐色砂
3. 10YR3/3暗褐色細砂
4. 10YR6/4にぶい黄橙色細砂
5. 7.5YR3/3暗褐色細砂



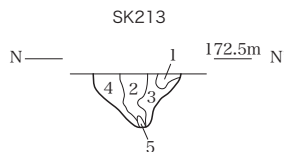
1. 10YR4/2灰黄褐色砂
2. 10YR3/4暗褐色細砂
3. 7.5YR3/2褐色細砂
4. 7.5YR5/6明褐色細砂
5. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂



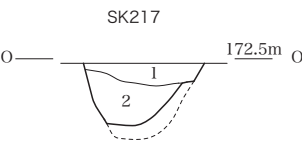
1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト混じり細砂
2. 10YR6/2灰黄褐色シルト混じり細砂



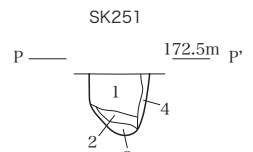
1. 10YR3/3暗褐色砂
2. 5Y3/2オリーブ黒色砂
3. 10YR3/4褐色砂
4. 10YR4/4褐色細砂



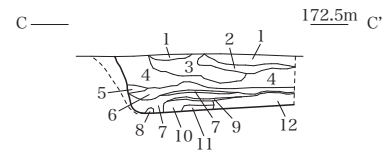
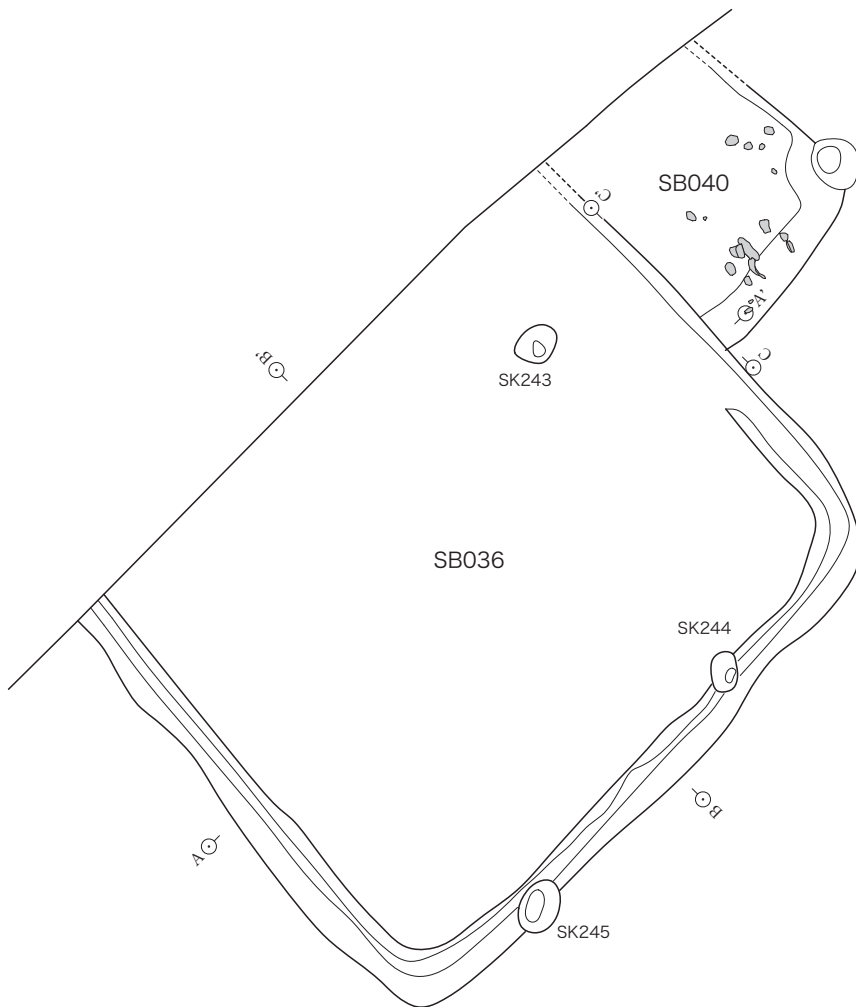
1. 7.5YR5/1褐灰色細砂
2. 10YR4/2褐灰色細砂
3. 2.5Y5/3黄褐色細砂
4. 7.5YR6/4にぶい橙色細砂
5. 2.5Y6/2灰黄色細砂



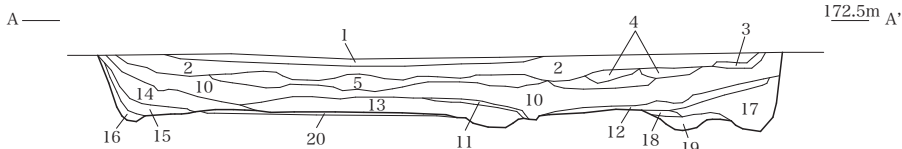
1. 10YR2/3褐色砂
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂礫



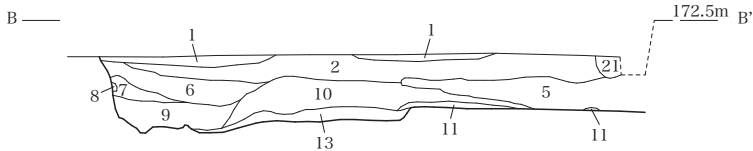
1. 7.5YR5/2灰褐色 細砂
2. 7.5YR4/2灰褐色 細砂
3. 7.5YR5/2灰褐色 細砂
4. 2.5Y6/1黄灰色 細砂



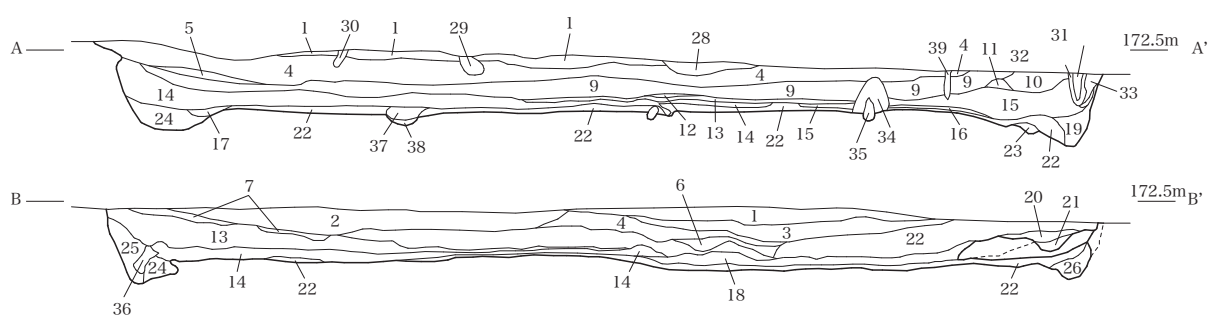
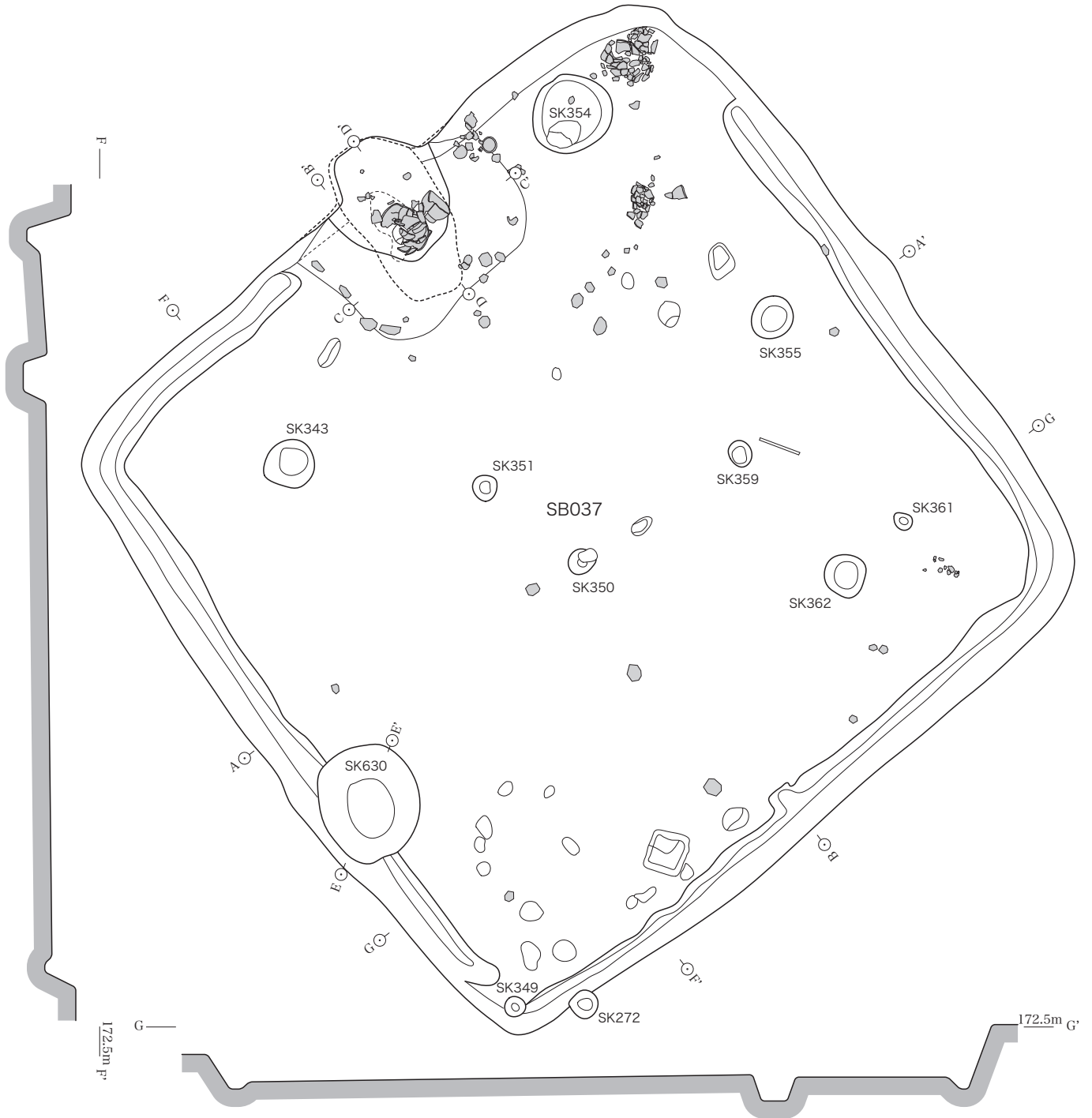
1. 10YR4/3にぶい黄褐色細礫級サバ混じり砂
2. 10YR4/1褐灰色細礫級サバ混じり砂
3. 10YR4/3にぶい黄褐色細礫級サバ混じり砂
4. 2.5Y4/1黄灰色細礫級サバ混じり細砂
5. 10YR5/2灰黄褐色砂
6. 7.5YR5/3にぶい褐色細砂
7. 7.5YR3/1黒褐色細砂
8. 7.5YR4/4褐色
9. 7.5YR5/4にぶい褐色シルト混じり細砂
10. 10YR6/3にぶい黄橙色細砂
11. 7.5YR8/4浅黄橙色シルト混じり細砂



1. 2.5Y5/2暗灰黄色細礫級サバ混じり砂
2. 10YR5/2灰黄褐色細礫級サバ混じり砂
3. 10YR6/4にぶい黄褐色細砂
4. 7.5YR3/1黒褐色細砂
5. 10YR4/2灰黄褐色砂
6. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色
7. 10YR3/2黒褐色細砂
8. 10YR4/2灰黄褐色細砂
9. 10YR3/2黒褐色砂
10. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂
11. 10YR6/2灰黄褐色砂
12. 10YR3/1黒褐色細砂
13. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト混じり砂
14. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
15. 10YR3/3暗褐色細砂
16. 10YR6/4にぶい黄橙色シルト混じり砂
17. 10YR3/3暗褐色細砂
18. 10YR6/4にぶい黄橙色細砂
19. 10YR5/4にぶい黄褐色細砂
20. 10YR6/3にぶい黄橙色砂
21. 10YR4/1褐灰色砂

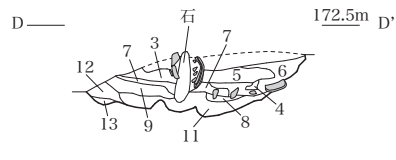
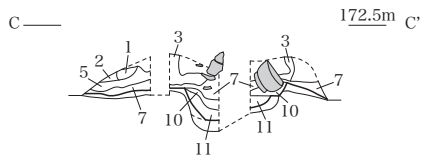


第 57 図 SB036・440(1/50)

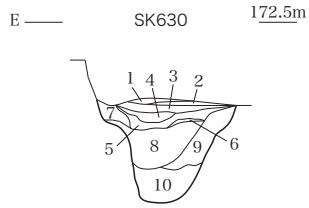


- | | | | |
|-------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 1. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 11. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂 | 21. 10YR4/1褐色灰砂 | 31. N6/灰色細砂 |
| 2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 12. 2.5Y6/1黄灰色砂 | 22. 10YR4/2灰黄褐色細砂 | 32. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 |
| 3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 13. 10YR3/1黒褐色砂 | 23. 2.5Y3/2黒褐色シルト混じり細砂 | 33. 10YR4/4褐色砂 |
| 4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 14. 10YR6/1褐色灰砂 | 24. 10YR2/3黒褐色細砂 | 34. 10YR5/2灰黄褐色砂 |
| 5. 10YR4/4褐色砂 | 15. 10YR4/4褐色シルト混じり砂 | 25. 10YR4/4褐色細砂 | 35. 10YR3/3暗褐色砂 |
| 6. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂 | 16. 2.5Y5/1黄灰色砂 | 26. 10YR5/1褐色シルト混じり細砂 | 36. 10YR3/1黒褐色シルト混じり砂 |
| 7. 10YR5/6黄褐色砂 | 17. 10YR3/2黒褐色砂 | 27. 10YR6/6明黄褐色シルト混じり細砂 | 37. 10YR3/4暗褐色細砂 |
| 8. 10YR4/1褐色シルト混じり砂 | 18. 10YR6/2灰黄褐色細砂 | 28. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 38. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト混じり砂 |
| 9. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト混じり砂 | 19. 10YR4/2灰黄褐色砂 | 29. 10YR4/2灰黄褐色砂 | 39. N6/灰色砂質シルト |
| 10. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 20. 10YR4/2灰黄褐色シルト混じり砂 | 30. N6/灰色砂 | |

第 58 図 SB037(1/50)

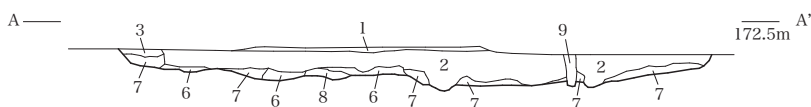
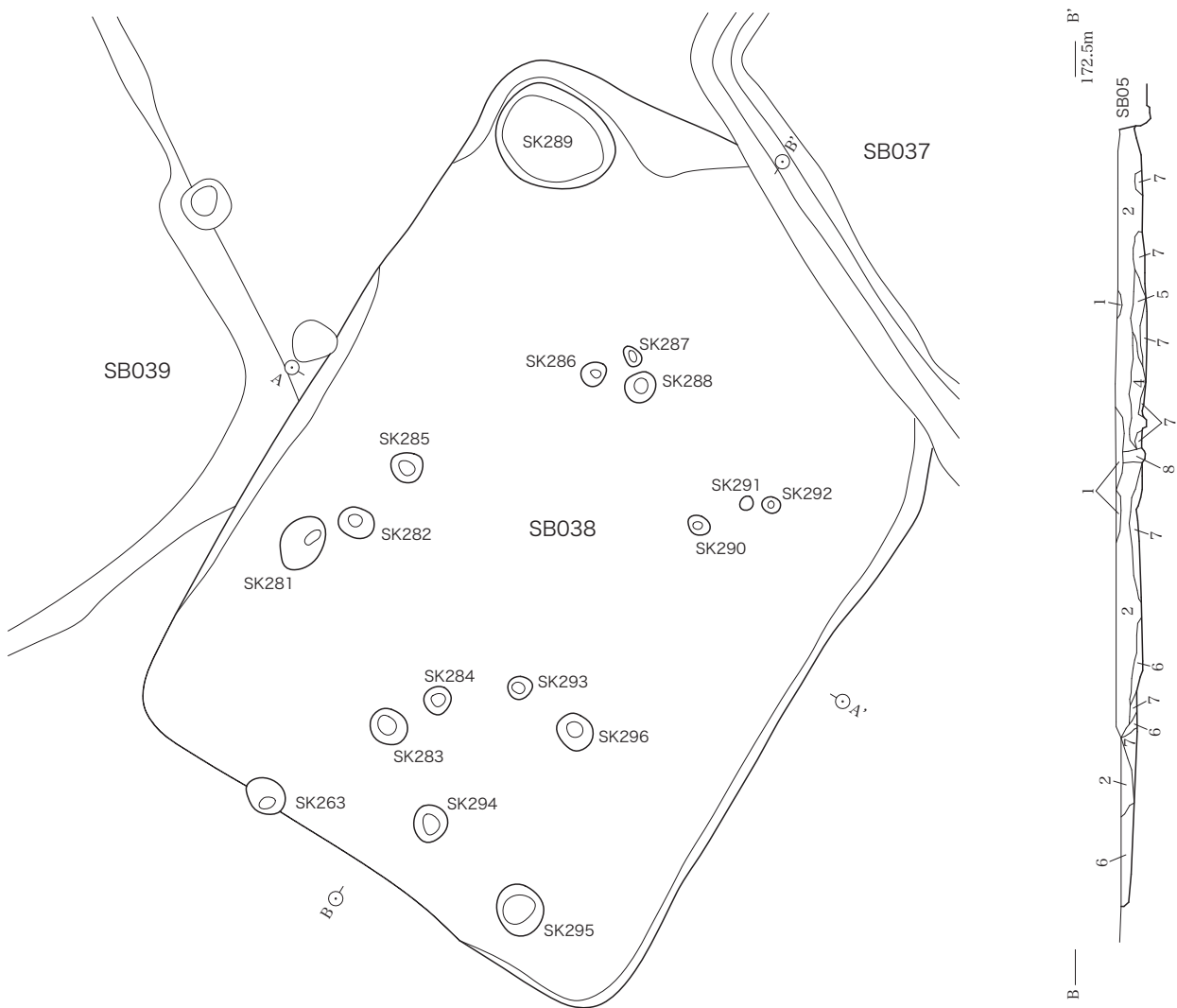


1. 10YR5/2灰黄褐色細砂
2. 10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト
3. 5YR6/8オリーブ色砂質シルト(焼土)
4. 10YR5/6黄褐色シルト混じり細砂
5. 10YR4/2灰黄褐色細砂
6. 7.5YR3/1黒褐色シルト混じり細砂
7. 10YR4/1褐灰色砂質シルト
8. 7.5YR4/3褐色シルト混じり砂
9. 5YR4/4にぶい赤褐色シルト混じり砂(焼土)
10. 2.5YR4/6赤褐色シルト混じり砂(焼土)
11. 5YR4/2灰褐色砂
12. 2.5Y5/3黄褐色砂
13. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト混じり砂



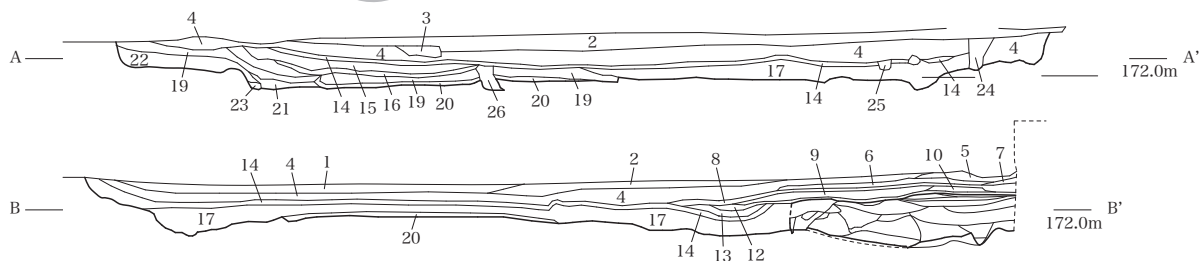
- SB05.SK630半裁断面地.
1. 10YR3/4暗褐色細礫級砂混じり砂
 2. 10YR3/4暗褐色細礫級砂混じり砂
 3. 10YR4/6褐色細礫級砂混じり砂
 4. 10YR5/2灰黄褐色細砂
 5. 10YR3/1褐色砂
 6. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
 7. 10YR4/2灰黄褐色細砂
 8. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂
 9. 10YR5/3にぶい黄褐色細砂
 10. 10YR5/3にぶい黄褐色細砂

第58図 SB037(1/50)



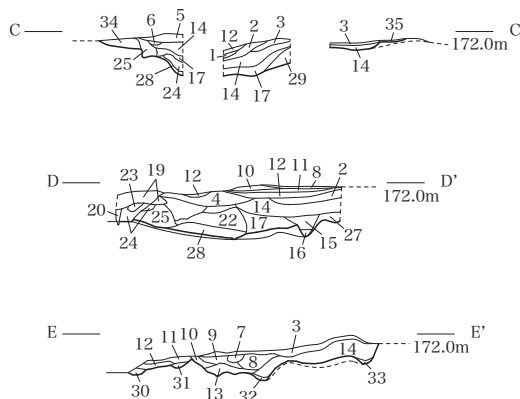
1. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト
2. 7.5YR3/1黒褐色シルト混じり砂
3. 5Y6/1灰色砂
4. 10YR3/4黒褐色細砂
5. 10YR3/2黒褐色細砂
6. 2.5Y6/2灰黄色細砂
7. 7.5YR4/3褐色細礫級サバ混じり細砂
8. 10YR4/1褐灰色細砂
9. 10YR4/2灰黄褐色砂

第59図 SB038(1/50)



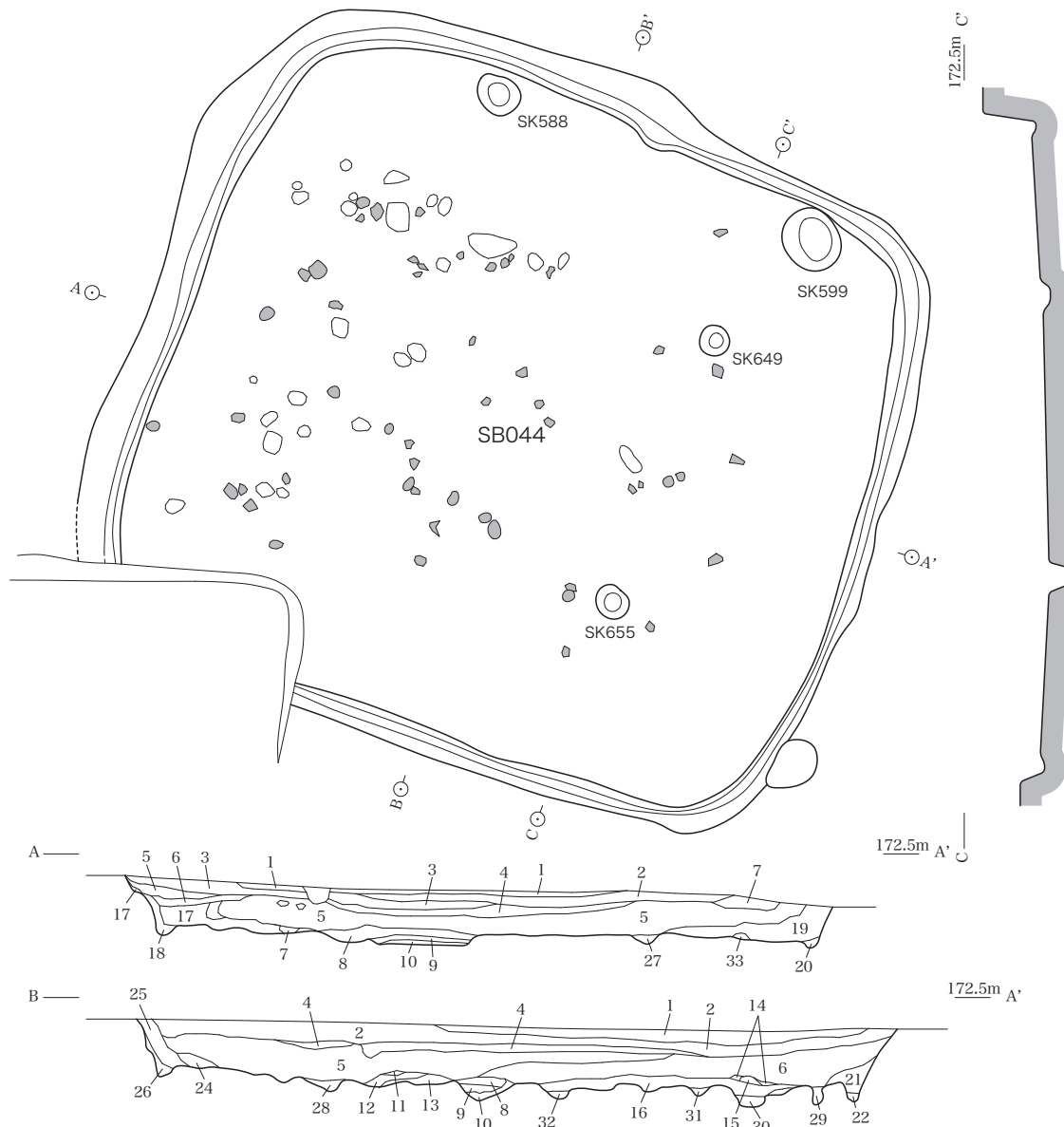
- | | | | |
|-------------------|-----------------------|---------------------|---------------------|
| 1. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 | 8. 10YR2/2黒褐色細砂 | 15. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 | 21. 10YR4/1褐色細砂 |
| 2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 | 9. 10YR4/2灰黄褐色細砂 | 16. 2.5Y5/1黄灰色細砂 | 22. 10YR3/2黒褐色砂 |
| 3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂 | 10. 5YR4/4にぶい赤褐色砂(焼土) | 17. 10YR4/2灰黄褐色砂 | 23. 10YR3/3暗褐色砂 |
| 4. 10YR4/2灰黄褐色砂 | 11. 2.5Y2/1黒色細砂 | 18. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂 | 24. 10YR4/2灰黄褐色砂 |
| 5. 10YR5/1褐色細砂 | 12. 2.5Y6/2灰黄色粘性シルト | 19. 2.5Y4/1黄灰色砂 | 25. 2.5Y3/3暗オリーブ色細砂 |
| 6. 10YR4/1褐色細砂 | 13. 7.5YR5/4にぶい褐色砂 | 20. 2.5Y5/1黄灰色細砂 | 26. 10YR4/2灰黄褐色細砂 |
| 7. 10YR5/2灰黄褐色細砂 | 14. 2.5Y5/1黄灰色細砂 | | |

第60図 SB039(1/50)



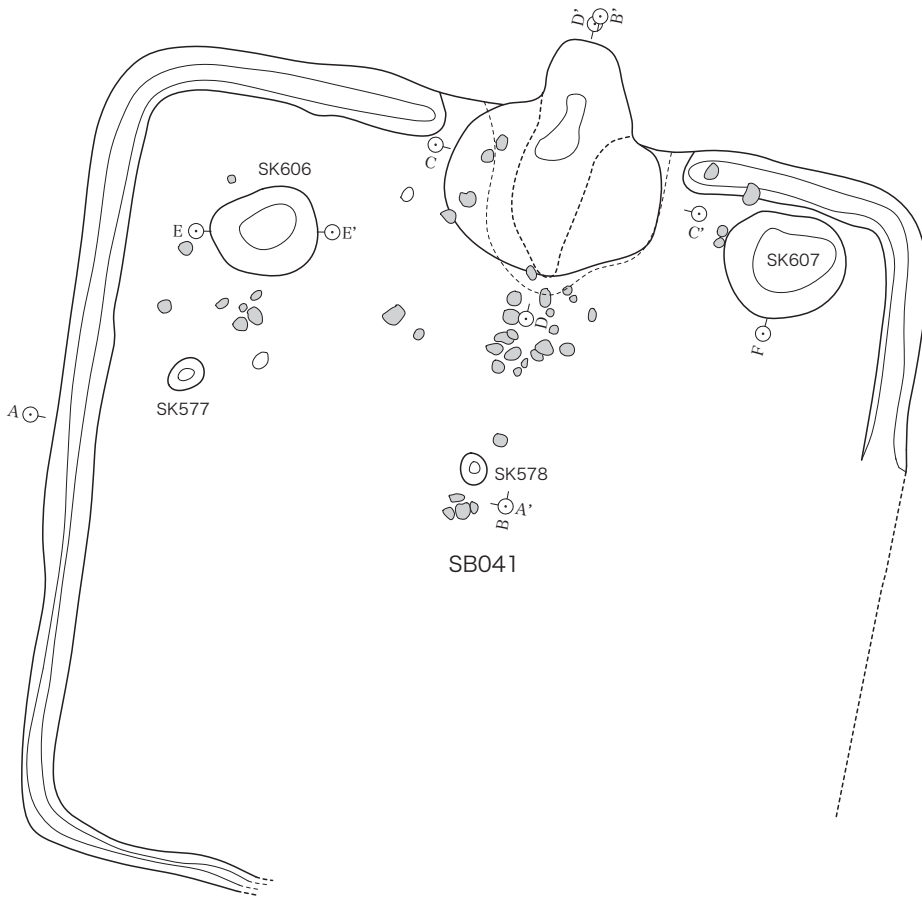
1. 10YR4/2灰黄褐色細砂
2. 5Y4/1灰色砂
3. 10YR5/1褐灰色砂
4. 5YR3/1褐色シルト混じり細砂(焼土)
5. 10YR5/2灰黄褐色細砂
6. 2.5Y7/2灰黄色細砂
7. 2.5Y4/1黄灰色砂
8. 10YR6/1褐灰色シルト混じり細砂
9. 10YR5/2灰黄褐色砂
10. 2.5Y4/1黄灰色シルト混じり砂
11. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト混じり砂
12. 10YR5/1褐灰色細砂
13. 7.5YR4/2灰褐色細砂
14. 10YR4/1褐灰色細砂
15. 5Y4/2灰オリーブ色シルト混じり砂
16. 7.5YR4/2灰褐色細砂
17. 2.5Y4/2暗灰黄色細砂
18. 7.5YR3/2褐色シルト混じり砂
19. 7.5YR5/4にぶい褐色細砂(焼土)
20. 7.5YR5/1褐灰色細砂
21. 7.5YR3/2褐色砂
22. 7.5YR4/2灰褐色細砂
23. 10YR5/2灰黄褐色細砂
24. 10YR6/1黄灰色細砂
25. 10YR6/2灰黄褐色細砂
26. 2.5Y5/1黄灰色細砂
27. 2.5Y5/2暗灰黄色細礫級砂混じり細砂
28. 5Y3/2オリーブ黒色細礫級砂混じり砂
29. 10YR5/2灰黄褐色細礫級砂混じり細砂
30. 7.5YR5/1褐灰色細砂
31. 2.5Y4/3オリーブ黒色細砂
32. 2.5Y5/1黄灰色細砂
33. 10YR3/3暗褐色細砂

第60図 SB039(1/50)

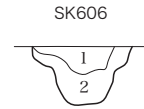


1. 10YR6/6明黄褐色細礫級サバ混じり砂
2. 10YR4/4褐色細礫級サバ混じり砂
3. 10YR5/1褐灰色砂
4. 10YR3/4暗褐色砂
5. 10YR3/2褐色砂
6. 10YR4/4褐色細砂
7. 5Y3/2オリーブ黒色砂
8. 10YR4/2灰黄褐色細砂
9. 2.5Y6/1黄灰色細砂
10. 10YR5/2灰黄褐色細砂
11. 5Y3/2オリーブ黒色細砂
12. 10YR4/2灰黄褐色細砂
13. 2.5Y5/1黄灰色細砂
14. 10YR2/3褐色砂
15. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
16. 10YR4/1褐灰色細砂
17. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
18. 2.5Y4/1黄灰色砂
19. 10YR4/2灰黄褐色砂
20. 2.5Y4/1黄灰色砂
21. 10YR4/2灰黄褐色砂
22. 2.5Y4/1黄灰色砂
23. 10YR4/4褐色シルト混じり細砂
24. 5Y5/1灰色細砂
25. 10YR4/2灰黄褐色砂
26. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
27. 2.5Y7/1灰白色細砂
28. 10YR5/4にぶい黄褐色細礫級サバ混じり砂
29. 2.5Y5/2暗灰黄色砂
30. 10YR4/2灰黄褐色細砂
31. 10YR5/1褐灰色細砂
32. 2.5Y4/1黄灰色細砂
33. 2.5Y5/1黄灰色細砂

第61図 SB044(1/50)

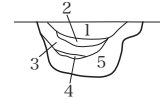


E ————— 172.0m E'

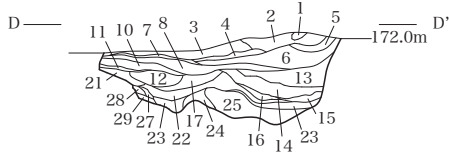
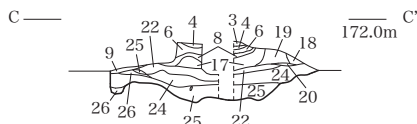
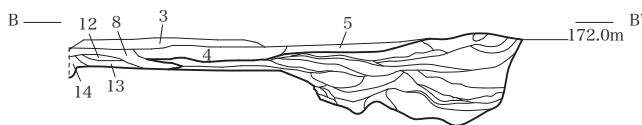
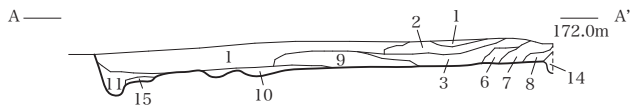


1. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
2. 10YR4/2灰黄褐色砂

F ————— 172.0m F'



1. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
2. 10Y3/1オリブ黒色砂
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂
4. 10Y3/1オリブ黒色砂
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂

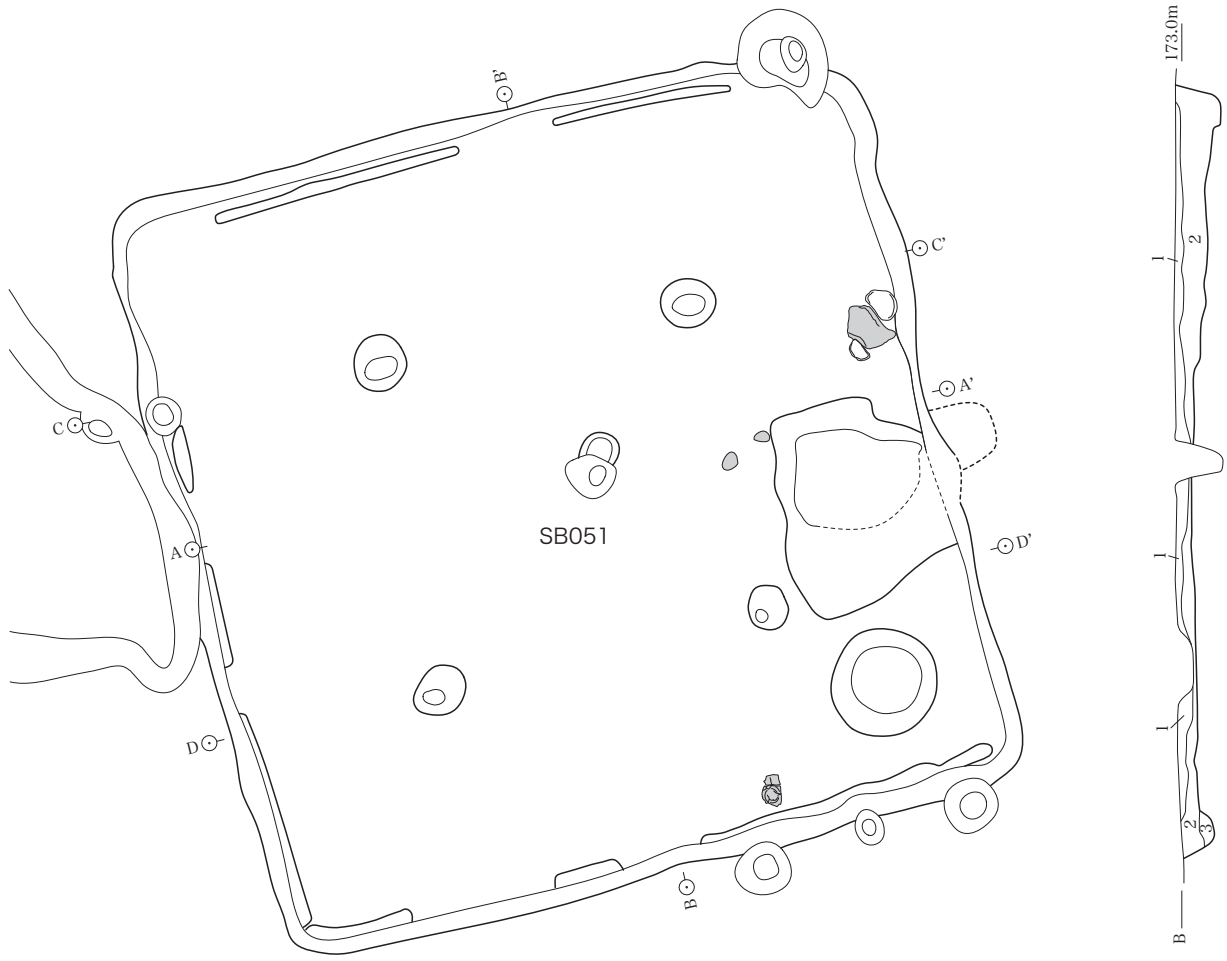


1. 10YR4/1褐色細礫級砂婆混じり砂
2. 10YR6/3にぶい黄色細砂
3. 2.5Y5/2暗灰黄色細礫級砂婆混じり砂
4. 2.5Y5/1黄灰色細礫級砂婆混じり砂
5. 2.5Y6/1黄灰色細礫級砂婆混じり細砂
6. 10YR6/2灰黄褐色細砂
7. 2.5Y5/1黄灰色細礫級砂婆混じり砂
8. 10YR5/1褐色細砂
9. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト混じり細砂
10. 2.5Y4/1褐色細礫級砂婆混じり細砂
11. 2.5Y3/3暗オリブ褐色シルト混じり細砂
12. 10YR3/1褐色シルト混じり砂
13. 7.5Y4/1灰色
14. 2.5Y4/1褐色細砂
15. 2.5Y5/2暗灰黄色細礫級砂婆混じり細砂

1. 5Y4/1灰色細礫級砂婆混じり砂
2. 10YR5/1褐色細礫級砂婆混じり砂
3. 2.5Y6/1黄灰色細砂
4. N6/1灰色粗砂
5. 10YR3/1褐色砂
6. 10YR6/2灰黄褐色細砂
7. 10YR6/1褐色細砂
8. 10YR6/3にぶい黄橙色細砂
9. 10YR5/1褐色細砂
10. 10YR4/1褐色細礫級砂婆混じり砂
11. 2.5Y3/1褐色
12. 7.5YR5/4にぶい褐色細砂
13. 10YR6/1褐色細砂
14. 10YR5/1褐色細砂
15. 10YR6/1褐色細砂

16. 10YR5/1褐色細砂
17. 7.5YR4/1褐色シルト混じり細砂
18. 10YR5/1褐色細礫級砂婆混じり細砂
19. 2.5Y6/2灰黄色シルト混じり細砂
20. 10YR5/1褐色細砂
21. 7.5YR5/2灰褐色細砂
22. 7.5YR4/3褐色細砂
23. 10YR3/2褐色細砂
24. 10YR4/1褐色シルト混じり砂
25. 10YR5/1褐色細砂
26. 7.5Y5/1灰色細砂
27. 7.5Y4/4褐色細砂
28. 10YR4/1褐色二酸化マンガン結殻
29. 10YR5/2灰黄褐色シルト混じり砂

第 62 図 SB041(1/50)



- 1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト
- 3. 10YR3/2 黒褐色粘質土
- 4. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土

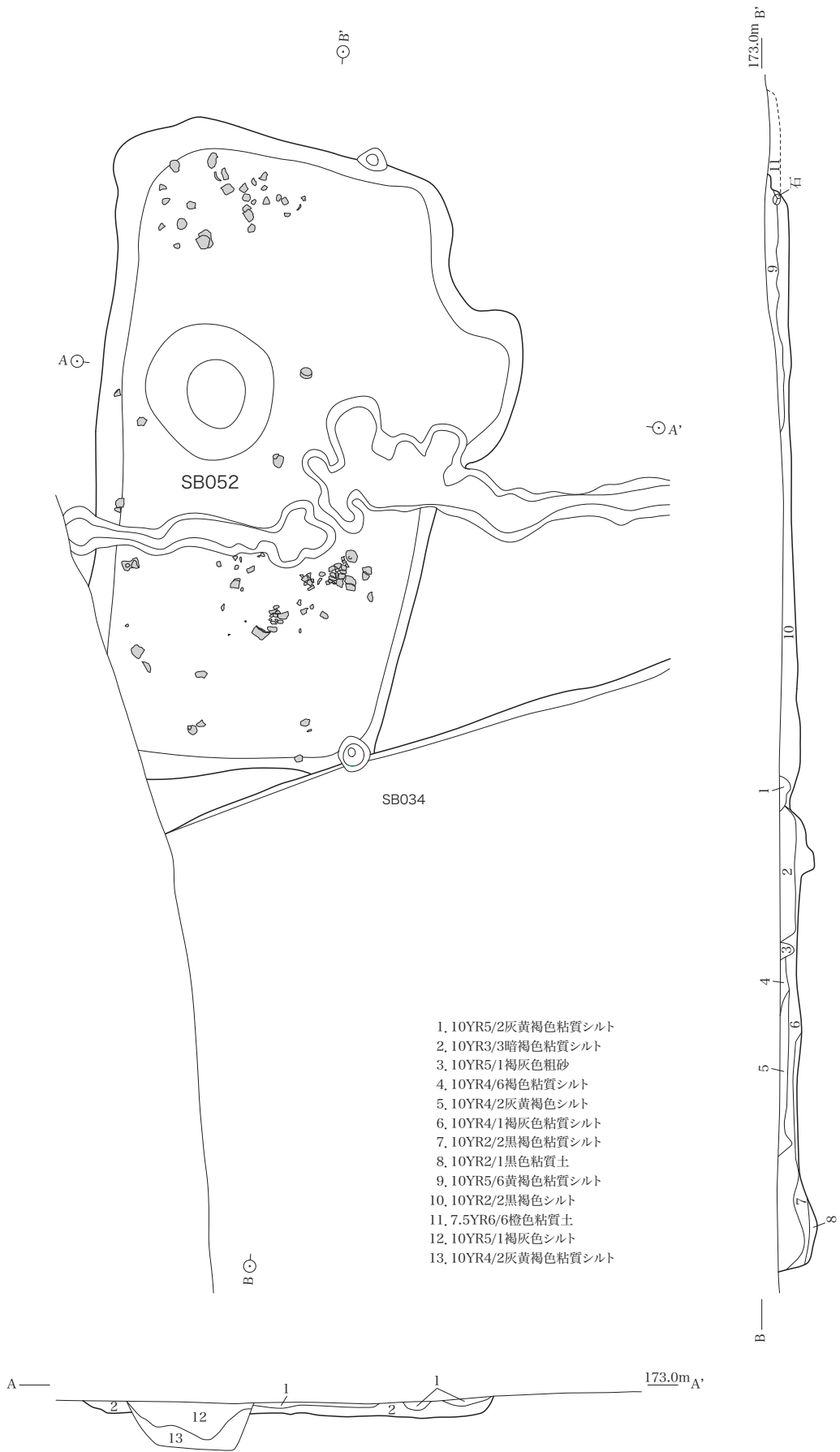


- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/3 黒褐色砂質土 2. 10YR4/6 褐色砂質土 3. 10YR3/2 黒褐色シルト 4. 10YR2/3 黒褐色土 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/3 黒褐色砂質土 2. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 3. 10YR6/6 明黄褐色細粒砂 |
|---|--|

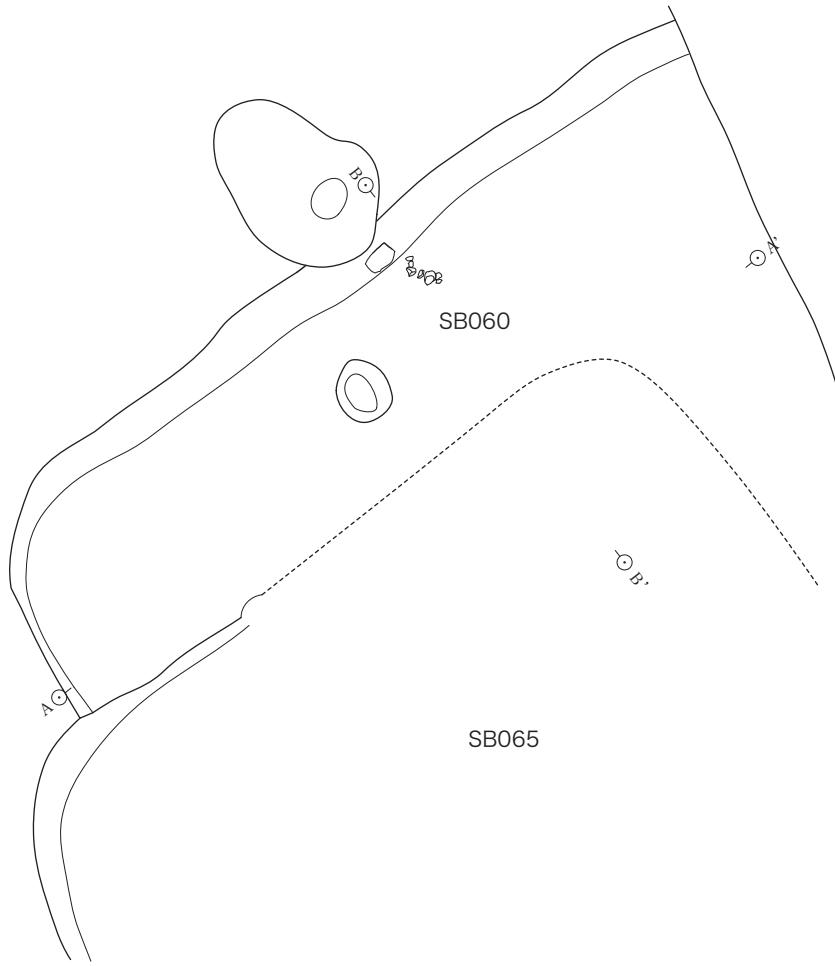


- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/3 黒褐色粘質土 2. 10YR2/3 黒褐色粘質土 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 10YR2/3 黒褐色砂質土 2. 10YR2/2 黒褐色シルト 3. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 |
|--|---|

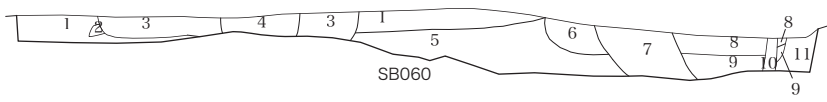
第 63 図 SB051(1/50)



第64図 SB052(1/50)

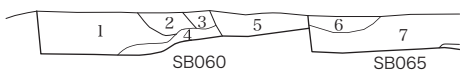


A ————— 174.5m_A



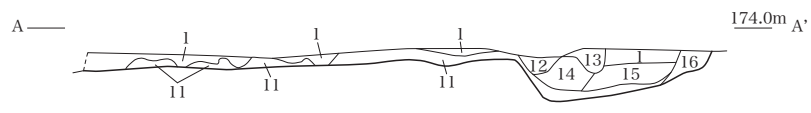
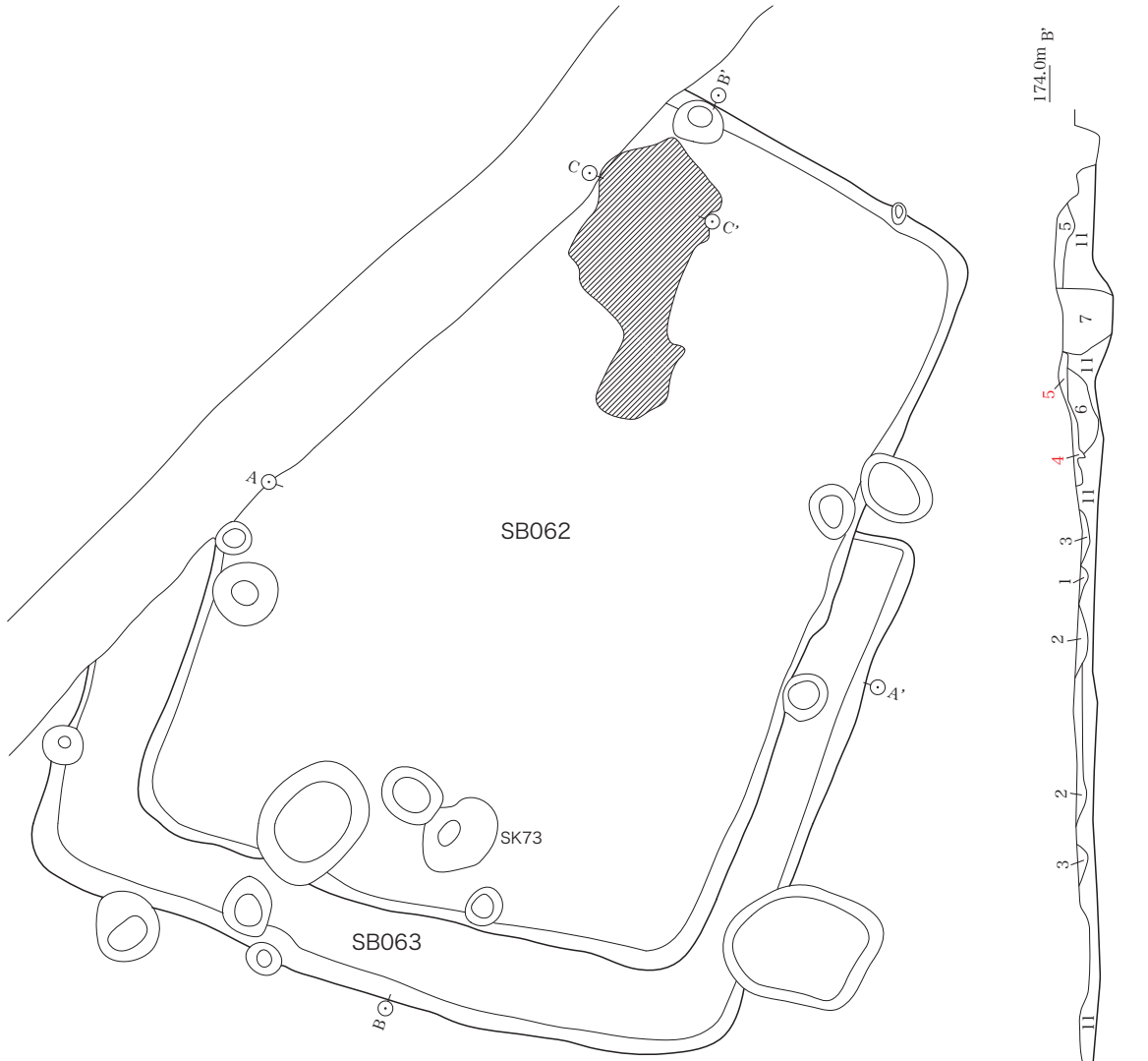
1. 10YR8/3浅黄橙粗粒砂硬くしまる
2. 10YR8/1灰白中粒砂鉄分混
3. 10YR8/3浅黄橙粗粒砂
4. 10YR8/1灰白粗粒砂
5. 10YR4/4褐細粒砂
6. 10YR5/3にぶい黄褐中粒砂
7. 10YR4/1褐灰粗粒砂
8. 10YR4/3にぶい黄褐
9. 10YR3/4暗褐細粒砂
10. 10YR7/1灰白シルト
11. 10YR4/4褐粗粒砂

B ————— 174.5m_B

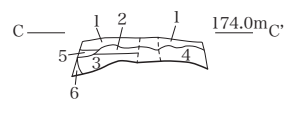


1. 10YR4/4暗褐細粒砂
2. 10YR6/4にぶい黄橙粗粒砂
3. 10YR6/4にぶい黄橙粗粒砂
4. 10YR6/3にぶい黄橙粗粒砂
5. 10YR8/1灰白粗粒砂砂利混
6. 10YR6/4にぶい黄橙粗粒砂
7. 10YR8/1灰白細粒砂

第65図 SB060(1/50)

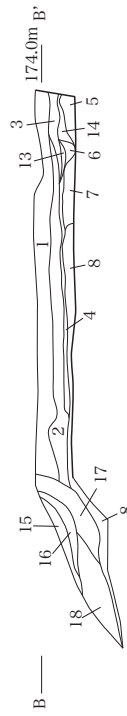
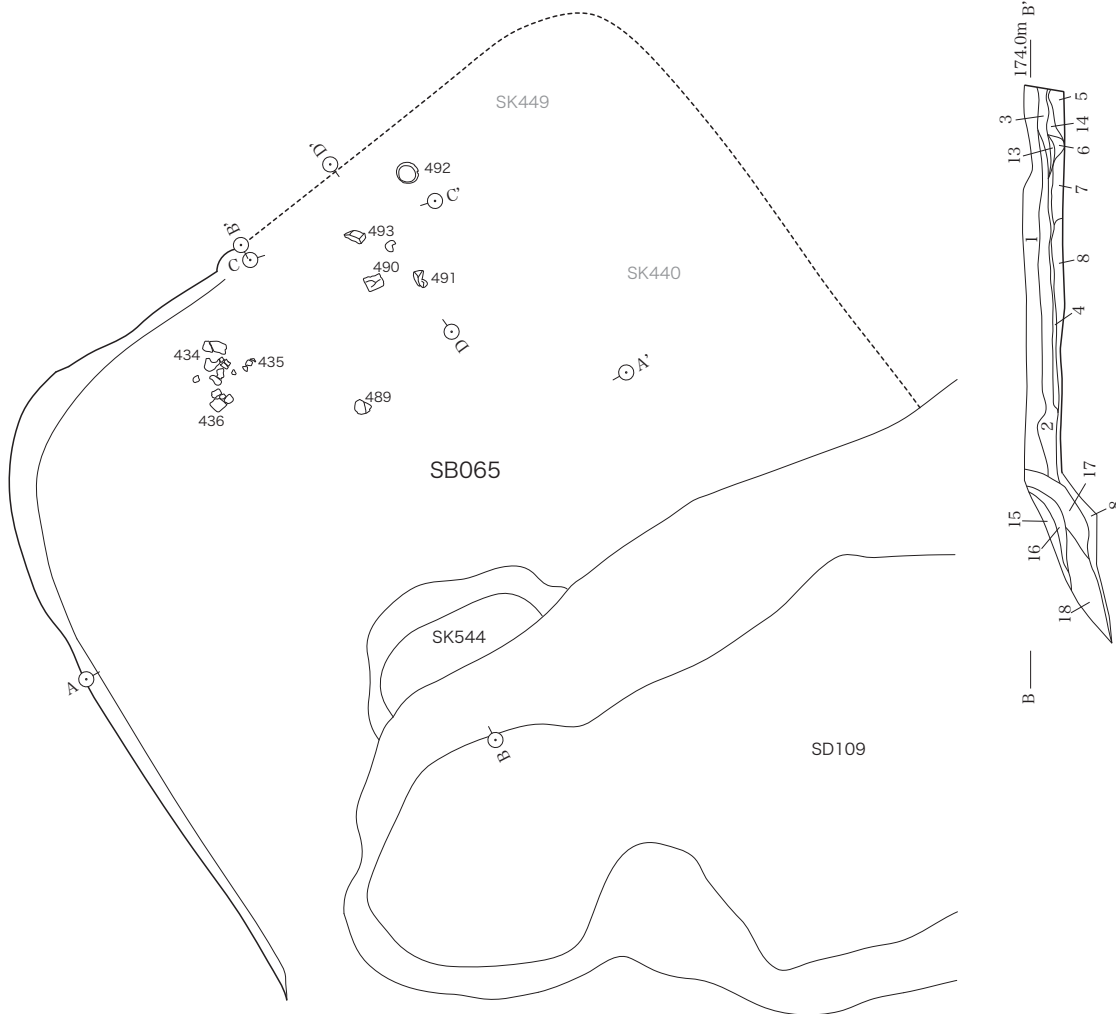


- 1. 7.5YR5/6明褐色シルト灰白色細粒砂との斑土
- 2. 10YR7/2にふい黄褐色細粒砂シルトとの斑土
- 3. 10YR5/6黄褐色シルト浅黄色細粒砂との斑土
- 4. 7.5YR5/6明褐色シルト浅黄色細粒砂が斑入
- 5. 5YR7/8橙色
- 6. 10YR5/2灰黄褐色シルト浅黄色細粒砂の斑土
- 7. 10YR4/2灰黄褐色シルト黄灰色細粒砂との斑土
- 8. 10YR4/2灰黄褐色シルト浅黄色細粒砂との斑土
- 9. 10YR5/4にふい黄褐色シルト浅黄色細粒砂との斑土
- 10. 10YR7/3にふい黄褐色細粒砂褐色シルトが斑入
- 11. 10YR5/4にふい黄褐色細粒砂
- 12. 7.5YR5/6明褐色シルト黄灰色細粒砂との斑土
- 13. 7.5YR5/6明褐色細粒砂細粒砂がブロック状に混じる
- 14. 10YR5/4にふい黄褐色シルト細粒砂がブロック状に混じる
- 15. 10YR3/4暗褐色細粒砂浅黄褐色細粒砂が斑入
- 16. 7.5YR5/6明褐色シルト浅黄褐色細粒砂との斑土

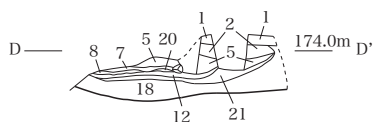
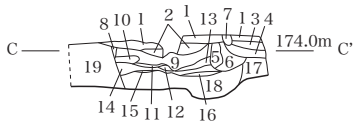


- 1. 5YR7/8橙色焼土
- 2. 5YR7/8橙色焼土
- 3. 10YR7/3にふい黄褐色細粒砂
- 4. 10YR4/3にふい黄褐色シルト
- 5. 10YR7/3にふい黄褐色細粒砂
- 6. 7.5YR4/4褐色シルト

第 66 図 SB062・063(1/50)

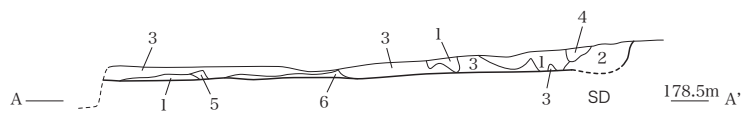
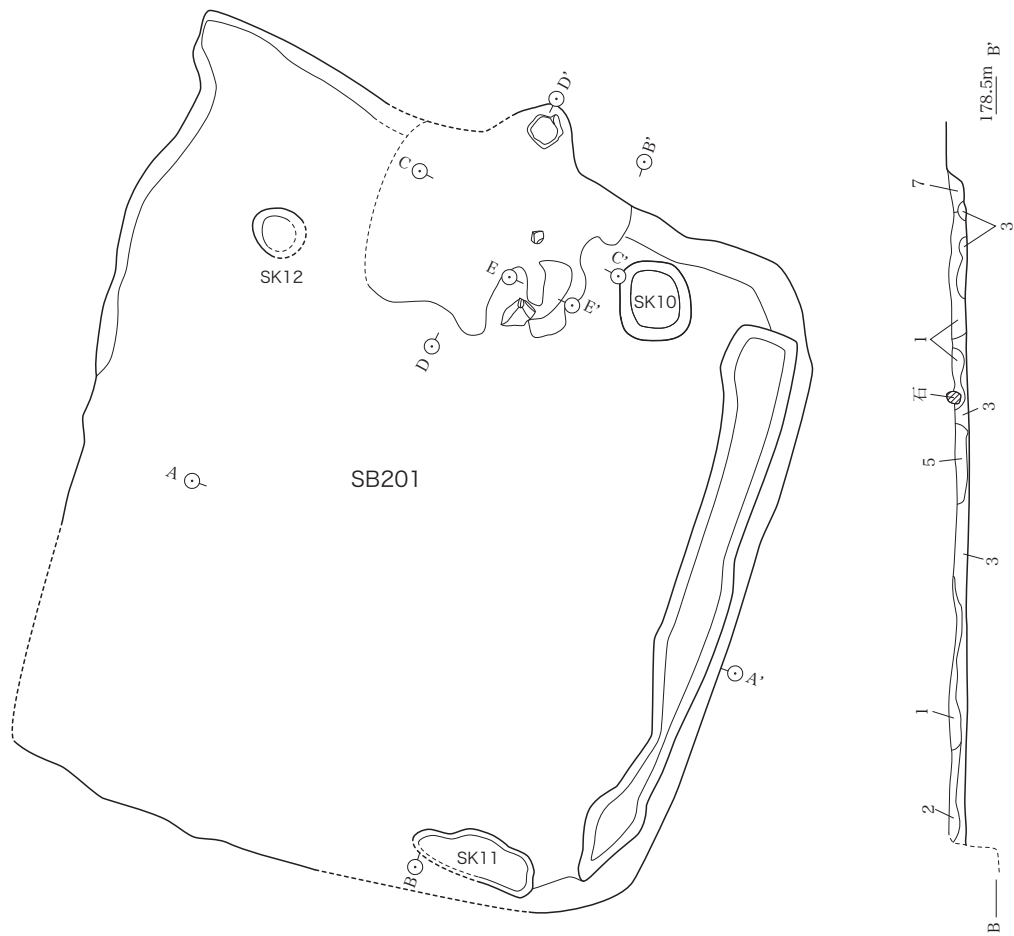


- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 10YR5/1 褐灰色細粒砂 | 10. 10YR5/4にふい黄褐色シルト |
| 2. 10YR5/6 黄褐色中粒砂 | 11. 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂 |
| 3. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂 | 12. 10YR4/6 褐色砂質シルト |
| 4. 10YR5/3にふい黄褐色粗粒砂 | 13. 2.5YR4/6 赤褐色粗粒砂 |
| 5. 10YR4/1 褐灰色シルト | 14. 10YR4/1 褐灰色細粒砂 |
| 6. 2.5YR4/6 赤褐色シルト | 15. 10YR8/2 灰白色砂利 |
| 7. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂 | 16. 10YR7/1 灰白色粗粒砂 |
| 8. 10YR4/1 褐灰色細粒砂 | 17. 10YR4/2 灰黄褐色粗粒砂 |
| 9. 10YR4/1 褐灰色細粒砂 | 18. 10YR8/1 灰白色砂質シルト |

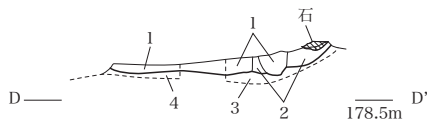
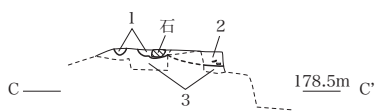


- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 10YR8/2 灰白色細粒砂 | 12. 10YR7/4にふい黄橙色細粒砂 |
| 2. 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 | 13. 10YR7/2にふい黄橙色細粒砂 |
| 3. 10YR6/1 褐灰色細粒砂 | 14. 10YR2/1 黒色炭化物層 |
| 4. 10YR5/1 褐灰色細粒砂 | 15. 10YR1.7/1 黒色炭層 |
| 5. 2.5YR5/8 明赤褐色細粒砂 | 16. 7.5YR5/6 明褐色中粒砂 |
| 6. 10YR7/2にふい黄橙色細粒砂 | 17. 10YR7/1 灰白色シルト |
| 7. 2.5YR8/1 灰白色細粒砂 | 18. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト |
| 8. 2.5YR5/8 明赤褐色細粒砂 | 19. 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂 |
| 9. 10YR7/2にふい黄橙色細粒砂 | 20. 10YR6/8 赤橙色シルト |
| 10. 10YR6/6 橙色細粒砂 | 21. 7.5YR5/6 黒色中粒砂 |
| 11. 10YR7/2にふい黄橙色細粒砂 | |

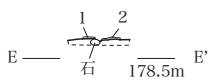
第67図 SB065(1/50)



1. 10YR3/1黒褐色細粒砂
2. 10YR2/1黒色シルト
3. 10YR3/2黒褐色細粒砂
4. 10YR3/2黒褐色細粒砂
5. 10YR6/4にぶい黄橙色細粒砂
6. 10YR6/6明黄褐色細粒砂
7. 10YR3/2黒褐色細粒砂

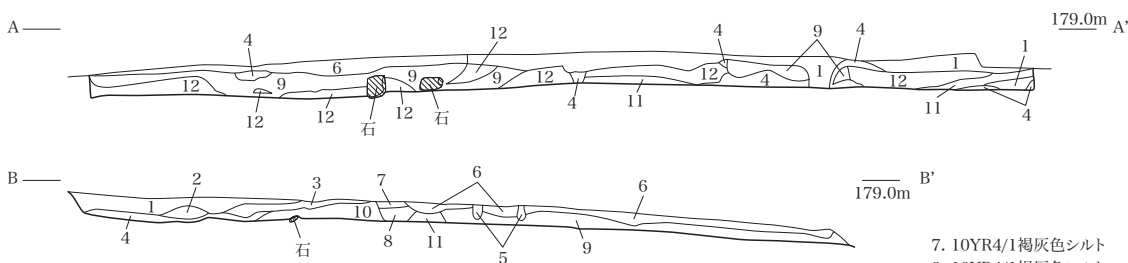
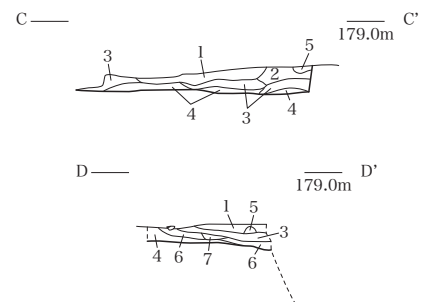
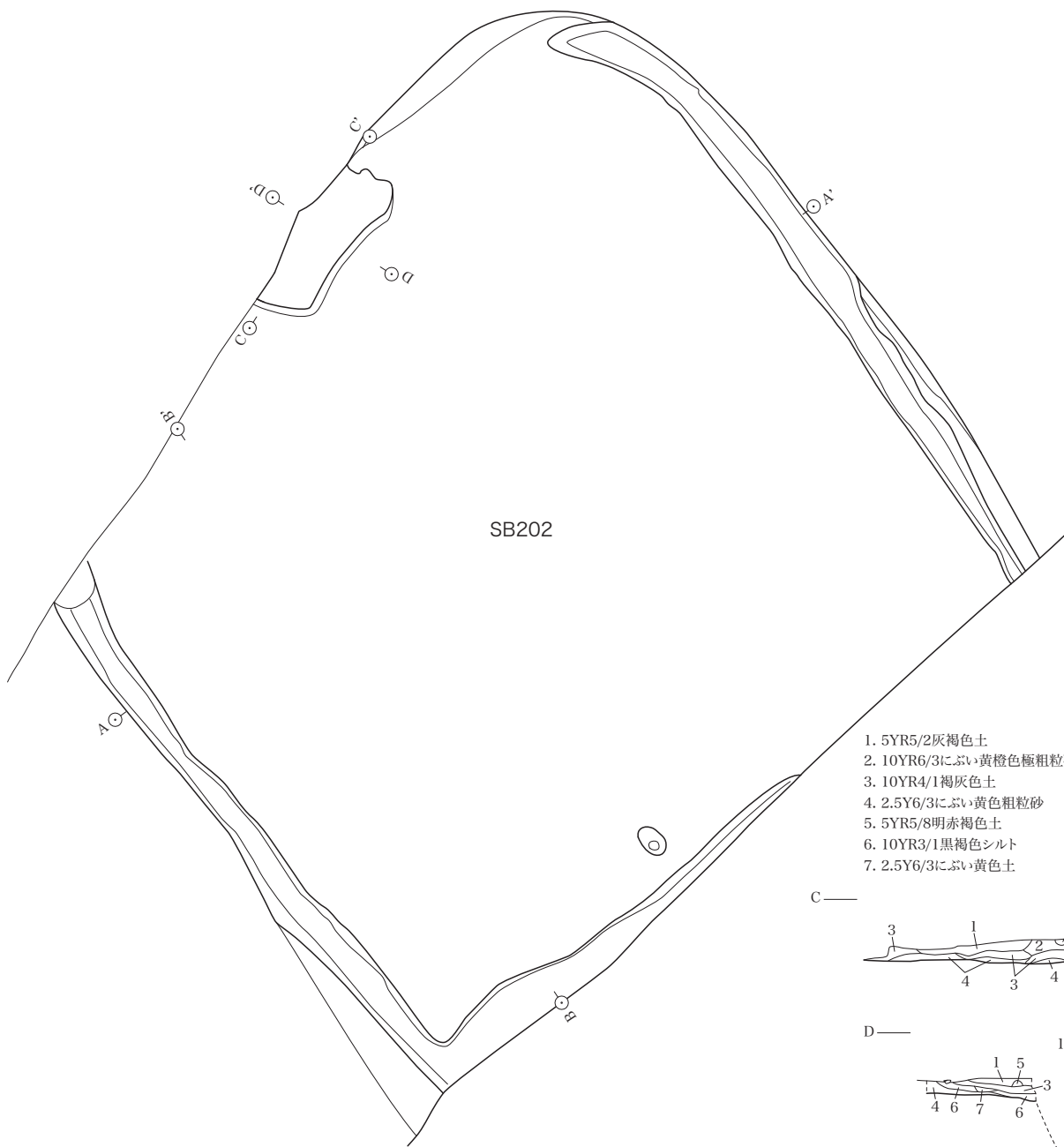


1. 10YR7/8黄橙色粘質土
2. 10YR3/2黒褐色シルト
3. 10YR3/2黒褐色シルト
4. 10YR2/1黒色シルト



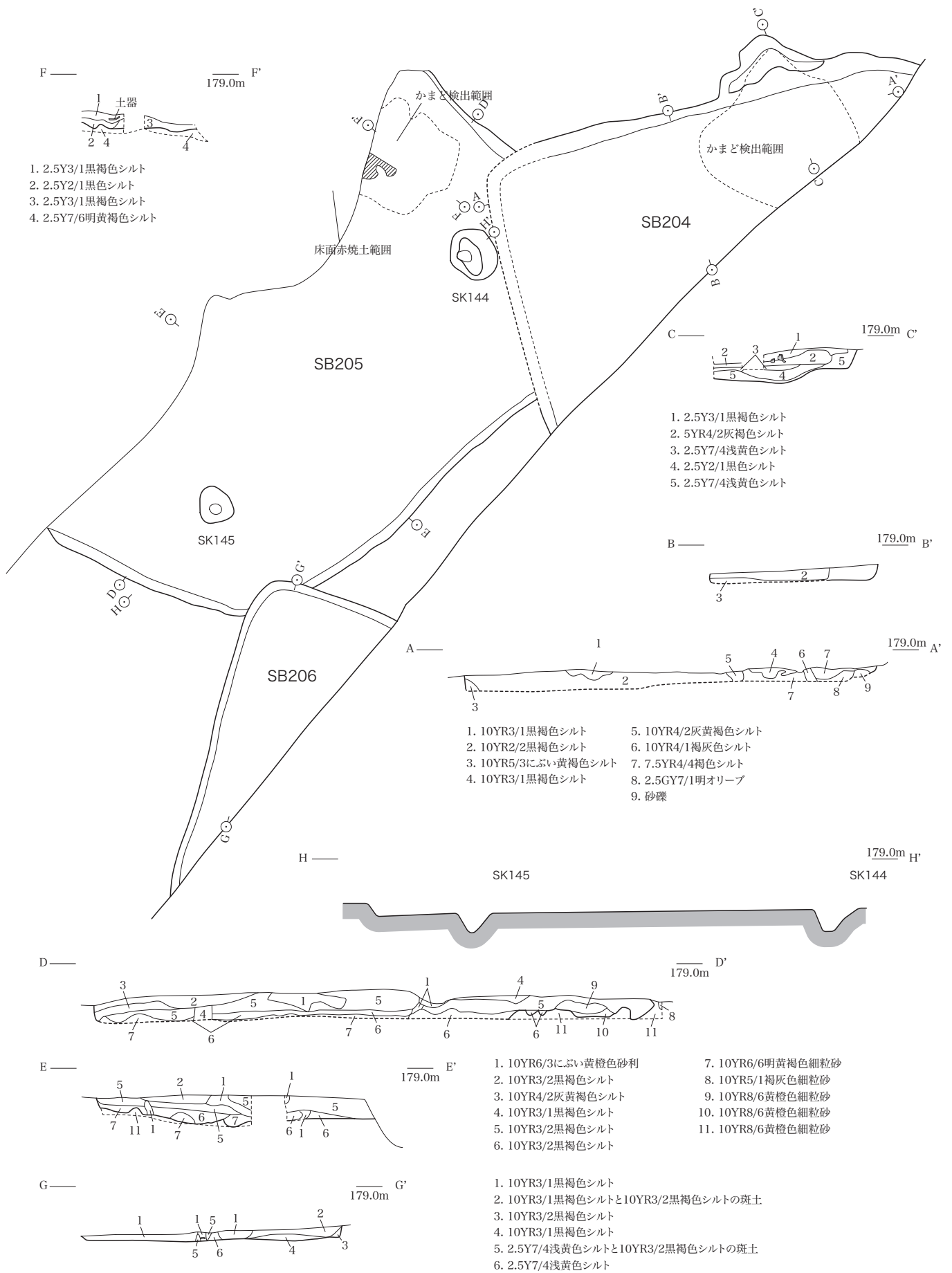
1. 2.5Y7/8黄色中粒砂
2. 2.5YR5/8明赤褐色中粒砂

第 68 図 SB201(1/50)

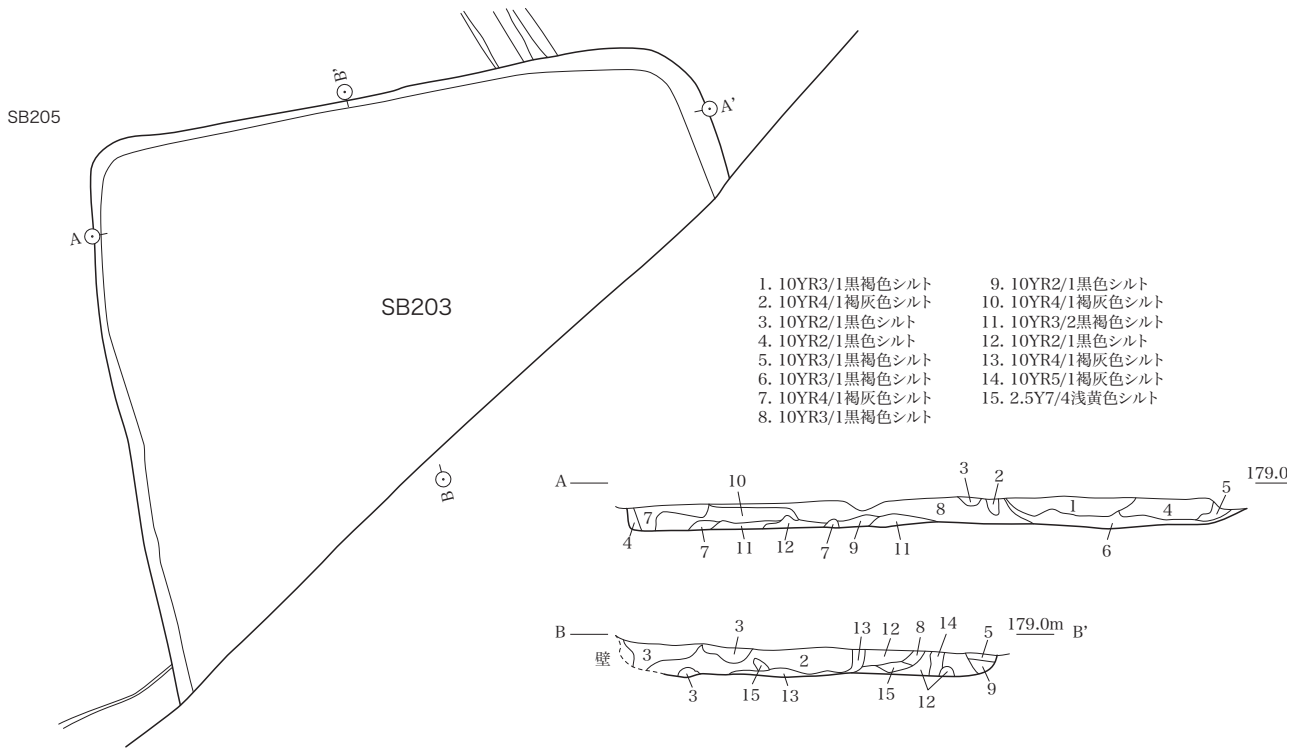


- | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|
| 1. 10YR2/1 黒色シルト | 4. 2.5Y4/1 灰黄色シルト | 10. 10YR3/2 黒褐色シルト |
| 2. 10YR2/1 黒色シルト | 5. 2.5Y5/4 黄褐色シルト | 11. 10YR3/1 黒褐色シルト |
| 3. 2.5Y6/2 灰黄色シルト | 6. 10YR3/1 黒褐色シルト | 12. 10YR3/1 黒褐色シルト |
| | 7. 10YR4/1 褐灰色シルト | |
| | 8. 10YR4/1 褐灰色シルト | |
| | 9. 10YR4/1 褐灰色シルト | |

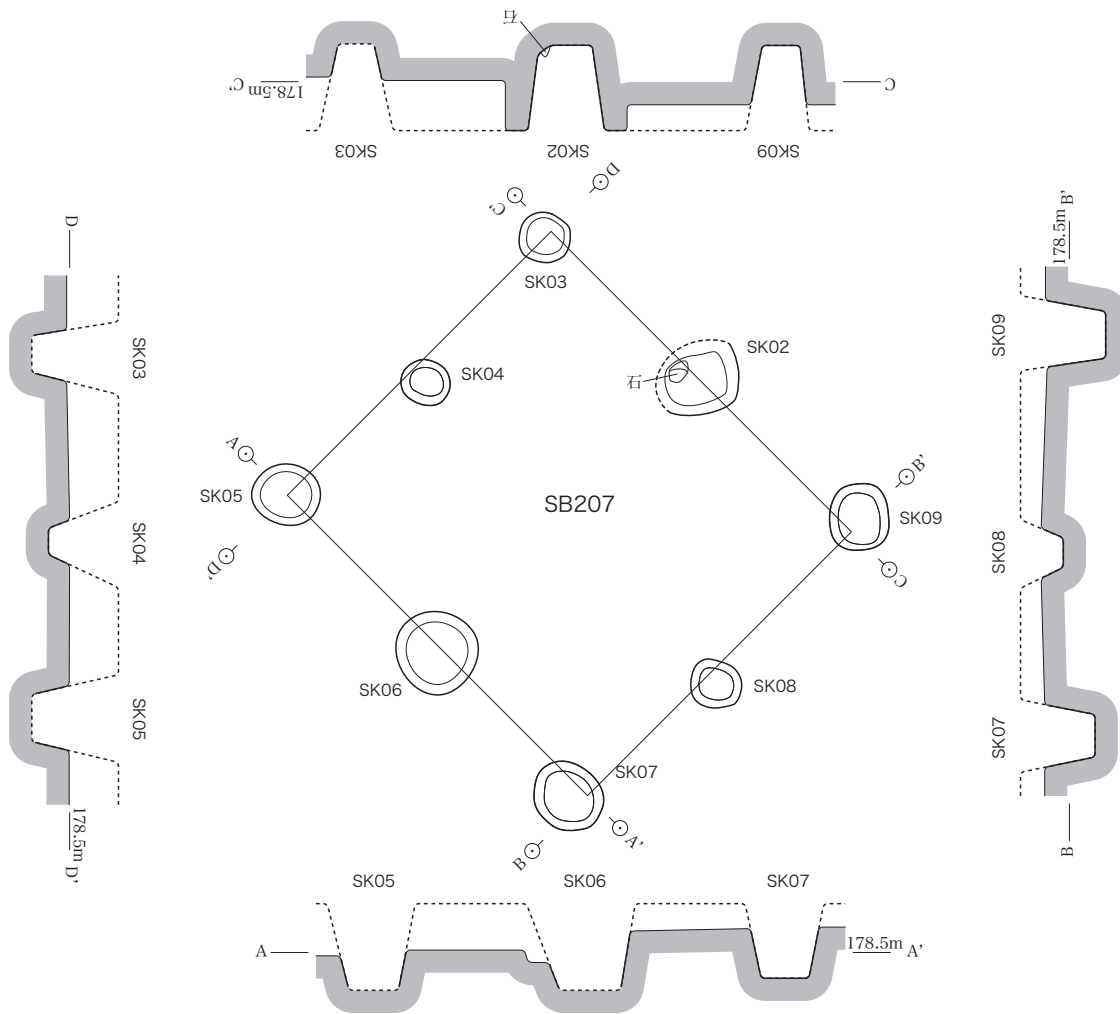
第 69 図 SB202(1/50)



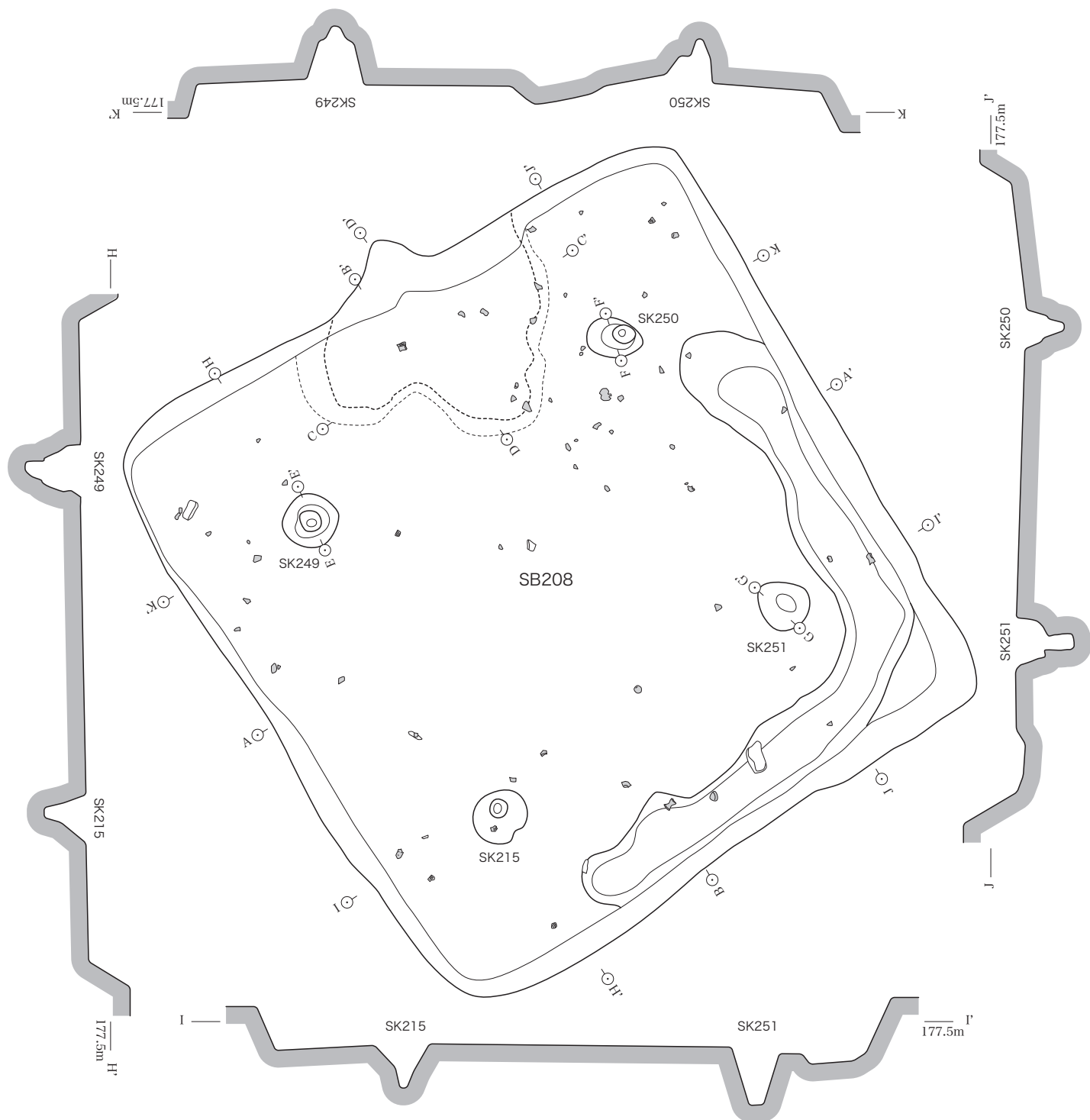
第 70 図 SB204-206(1/50)



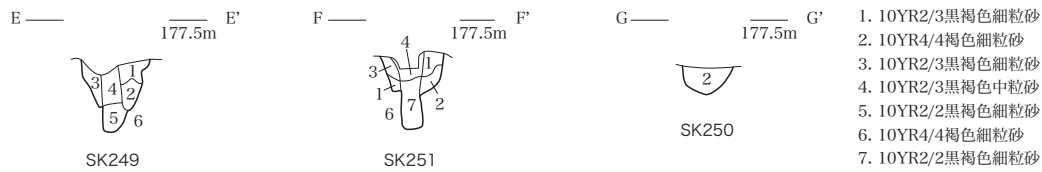
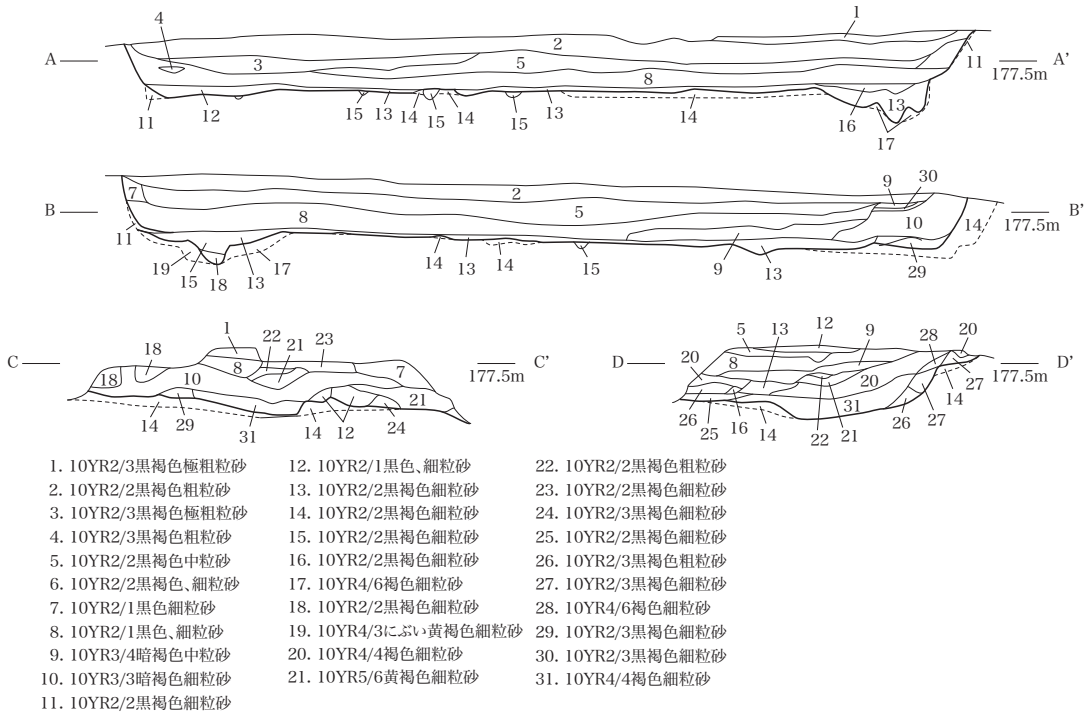
第71図 SB203(1/50)



第72図 SB207(1/50)



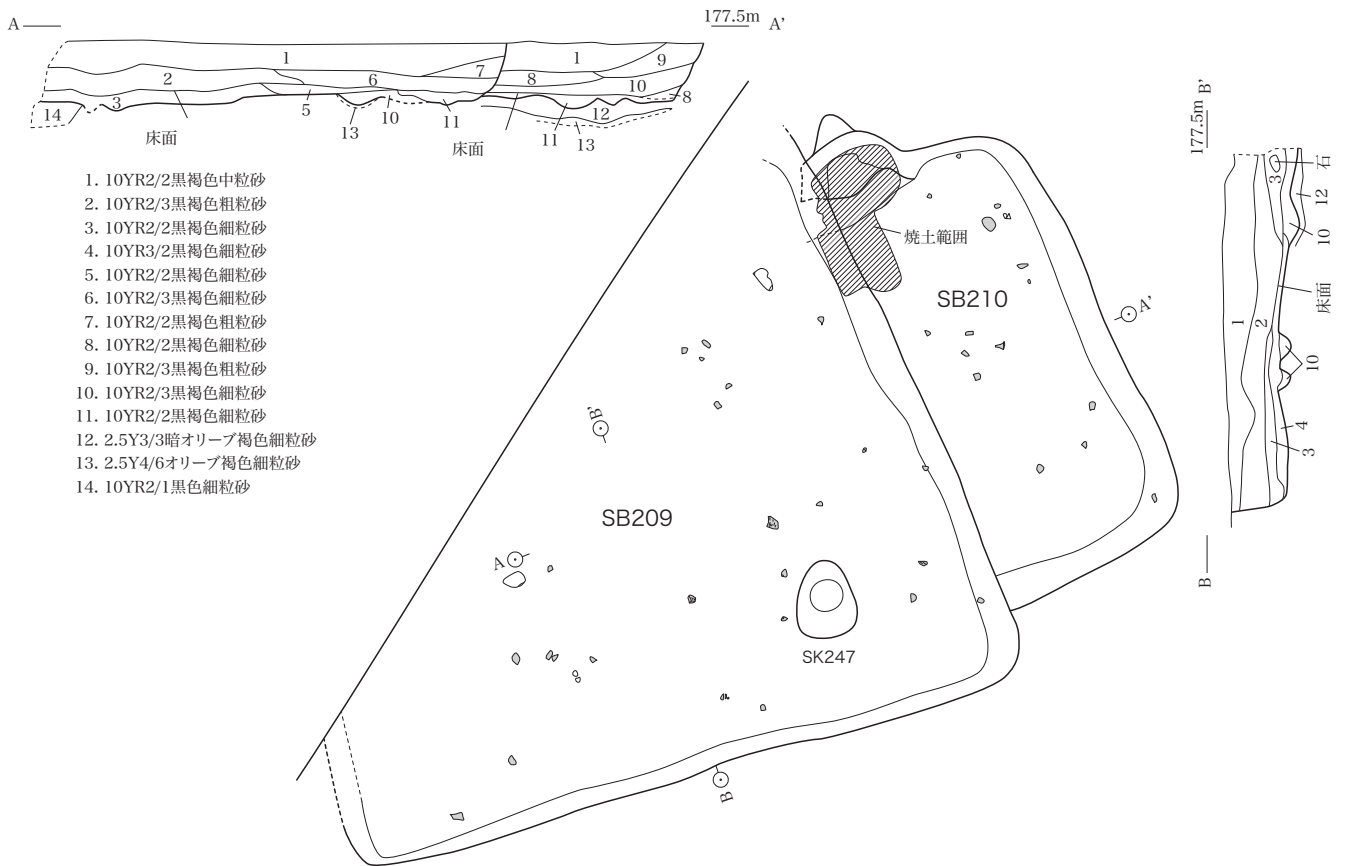
第73図 SB208(1/50)



- | | | |
|-------------------|----------------------|-------------------|
| 1. 10YR2/3黒褐色極粗粒砂 | 12. 10YR2/1黒色、細粒砂 | 22. 10YR2/2黒褐色粗粒砂 |
| 2. 10YR2/2黒褐色粗粒砂 | 13. 10YR2/2黒褐色細粒砂 | 23. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 3. 10YR2/3黒褐色極粗粒砂 | 14. 10YR2/2黒褐色細粒砂 | 24. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 4. 10YR2/3黒褐色粗粒砂 | 15. 10YR2/2黒褐色細粒砂 | 25. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 5. 10YR2/2黒褐色中粒砂 | 16. 10YR2/2黒褐色細粒砂 | 26. 10YR2/3黒褐色粗粒砂 |
| 6. 10YR2/2黒褐色、細粒砂 | 17. 10YR4/6褐色細粒砂 | 27. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 7. 10YR2/1黒色細粒砂 | 18. 10YR2/2黒褐色細粒砂 | 28. 10YR4/6褐色細粒砂 |
| 8. 10YR2/1黒色、細粒砂 | 19. 10YR4/3こぶい黄褐色細粒砂 | 29. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 9. 10YR3/4暗褐色中粒砂 | 20. 10YR4/4褐色細粒砂 | 30. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 10. 10YR3/3暗褐色細粒砂 | 21. 10YR5/6黄褐色細粒砂 | 31. 10YR4/4褐色細粒砂 |
| 11. 10YR2/2黒褐色細粒砂 | | |

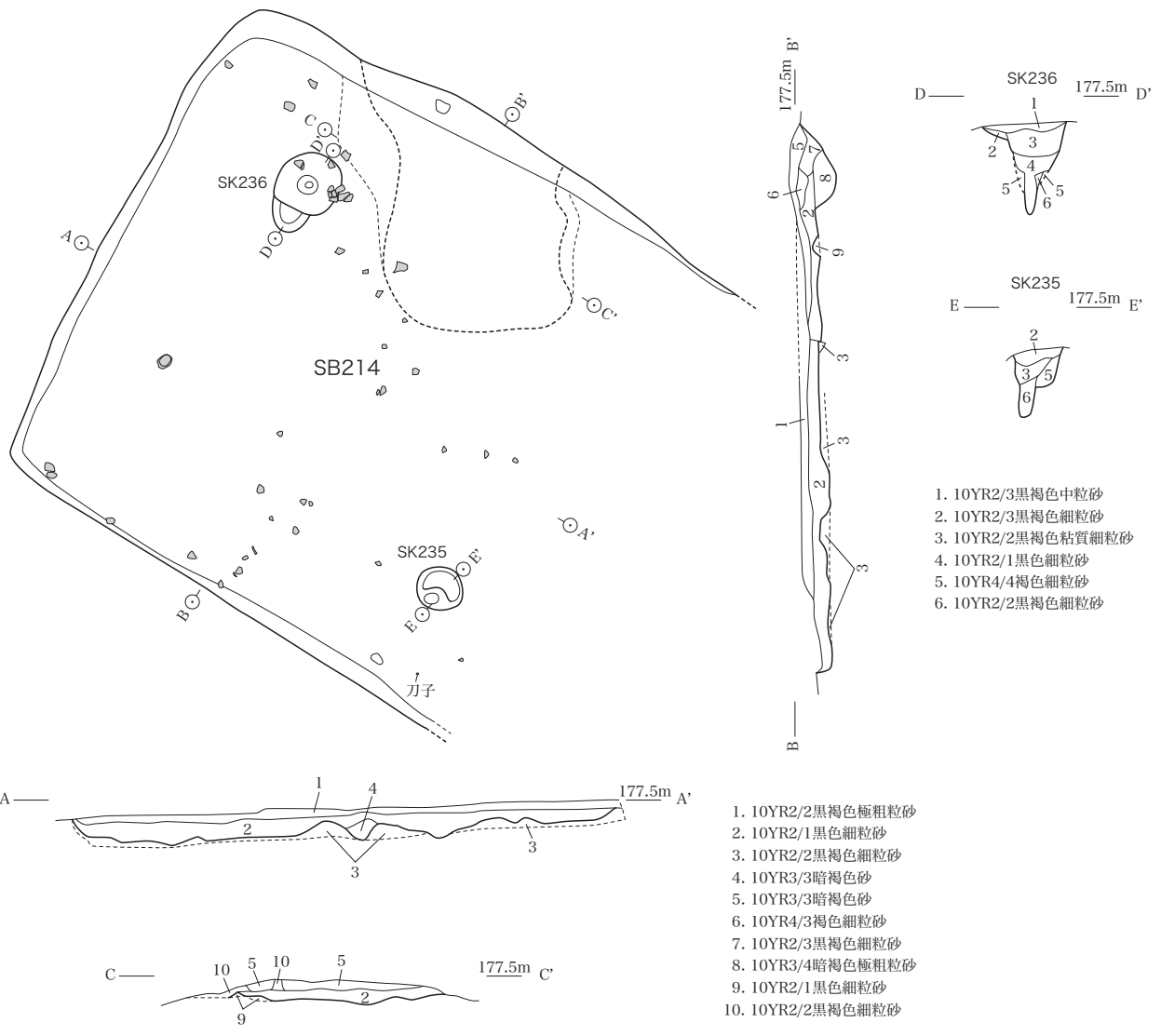
- | |
|------------------|
| 1. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 2. 10YR4/4褐色細粒砂 |
| 3. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 4. 10YR2/3黒褐色中粒砂 |
| 5. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 6. 10YR4/4褐色細粒砂 |
| 7. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |

第73図 SB208(1/50)

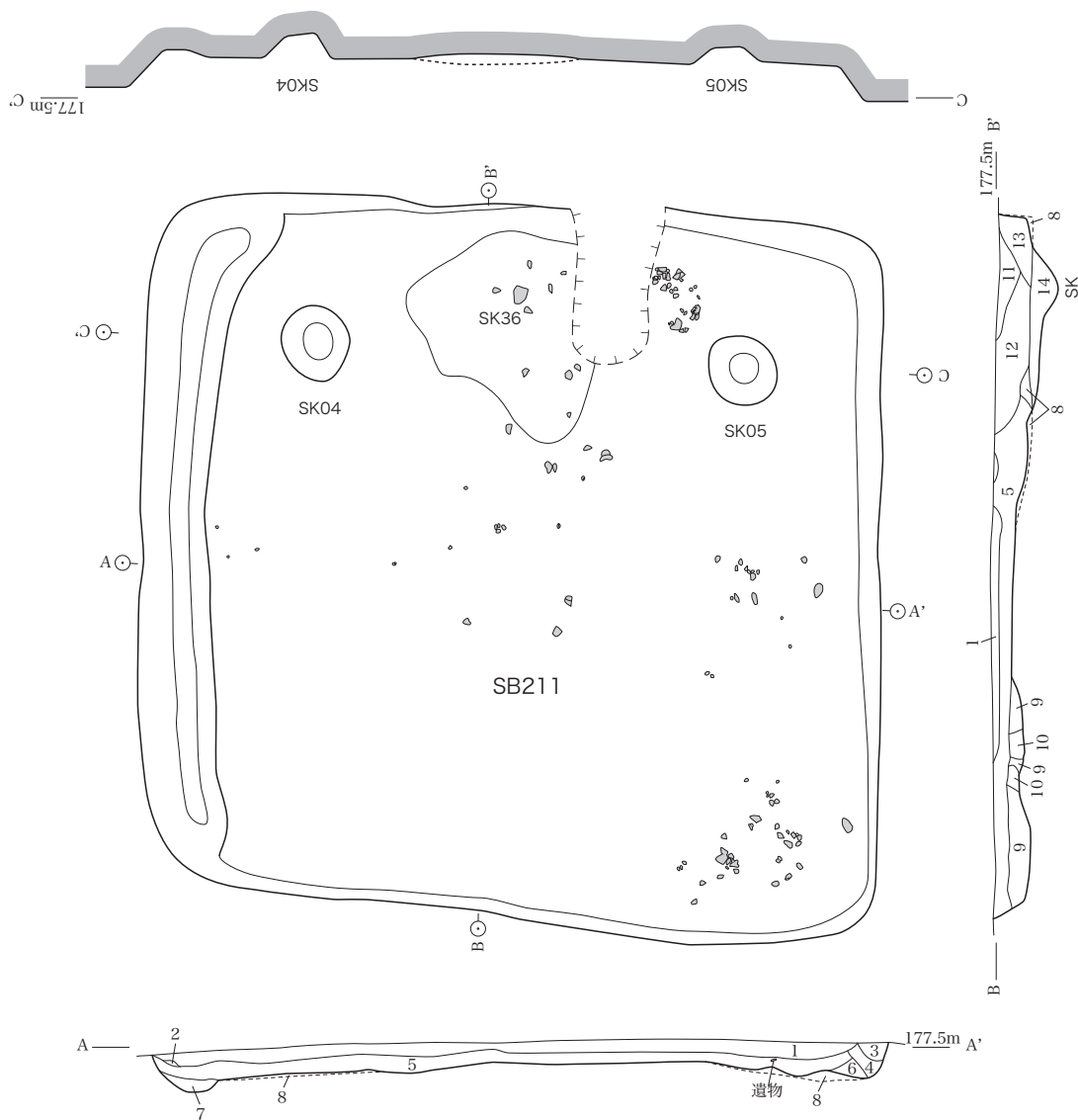


- | |
|-----------------------|
| 1. 10YR2/2黒褐色中粒砂 |
| 2. 10YR2/3黒褐色粗粒砂 |
| 3. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 4. 10YR3/2黒褐色細粒砂 |
| 5. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 6. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 7. 10YR2/2黒褐色粗粒砂 |
| 8. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 9. 10YR2/3黒褐色粗粒砂 |
| 10. 10YR2/3黒褐色細粒砂 |
| 11. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 12. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色細粒砂 |
| 13. 2.5Y4/6オリーブ褐色細粒砂 |
| 14. 10YR2/1黒色細粒砂 |

第74図 SB209・210(1/50)

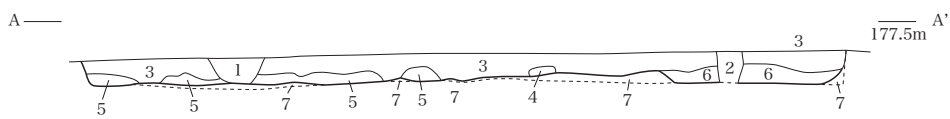
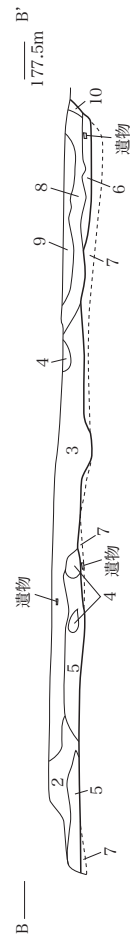
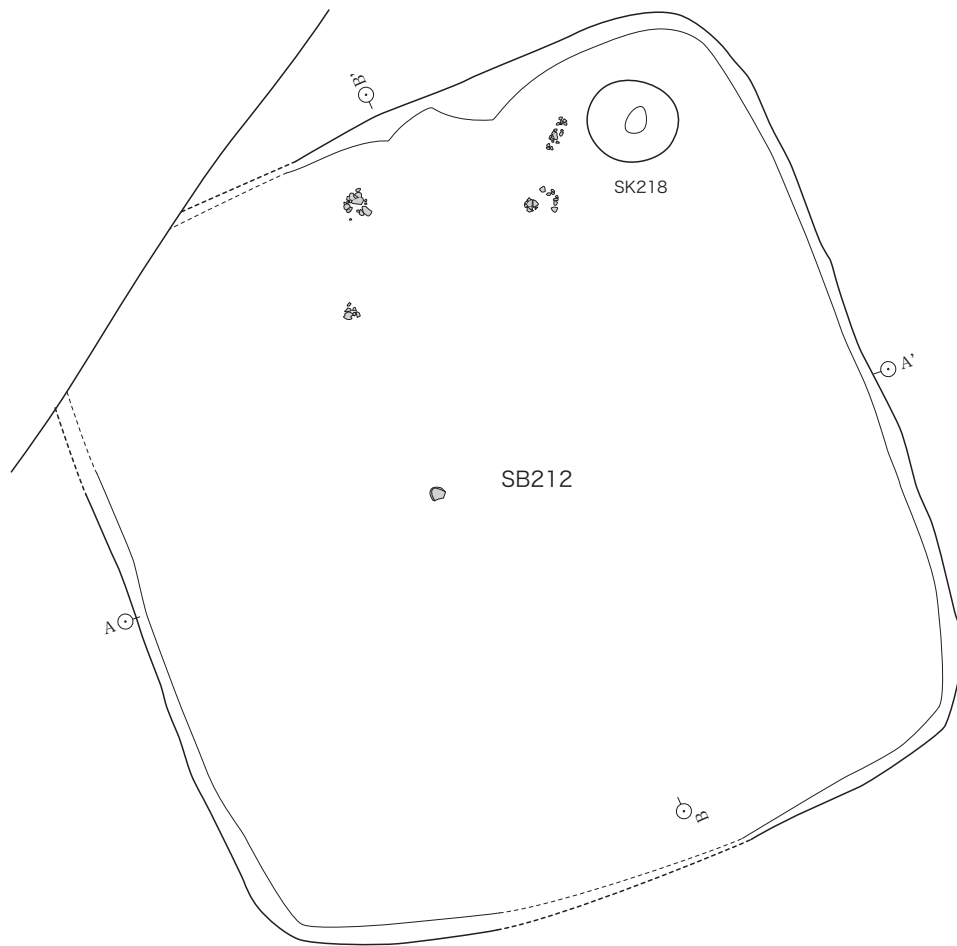


第 75 圖 SB214(1/50)



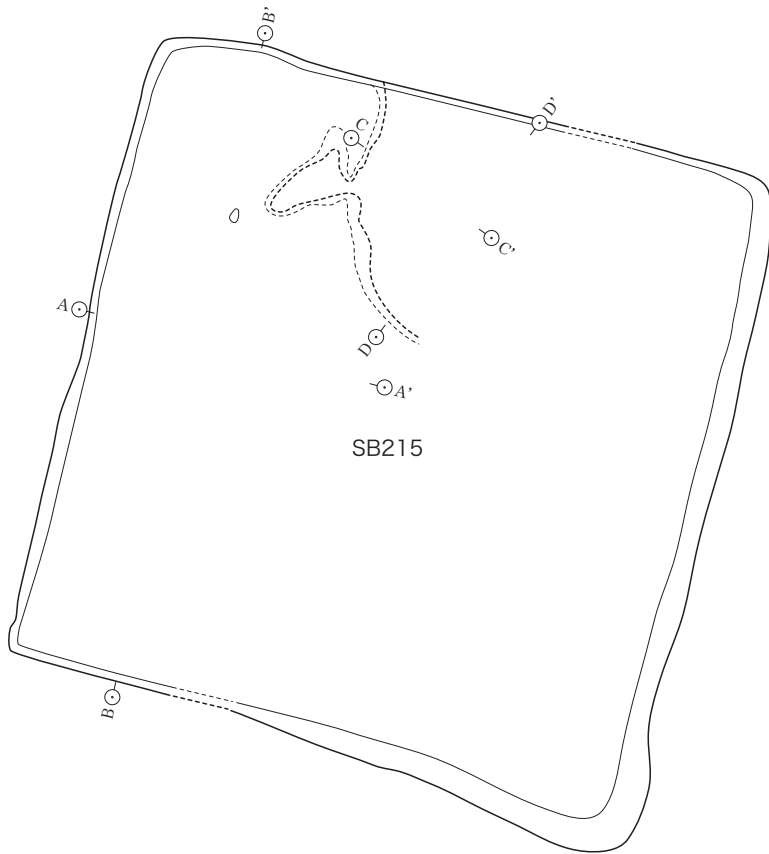
- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1. 10YR2/3黒褐色粗粒砂 | 8. 10YR2/2黒褐色粘質極細粒砂 |
| 2. 10YR2/1黒色粗粒砂 | 9. 10YR2/1暗褐色極粗粒砂 |
| 3. 2.5Y3/2黒褐色極粗粒砂 | 10. 10YR2/2黒褐色細粒砂 |
| 4. 10YR2/1黒色極細粒砂 | 11. 10YR2/2黒褐色粗粒砂 |
| 5. 10YR2/2黒褐色風化花崗岩5mm大を含む粗粒砂 | 12. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗粒砂 |
| 6. 10YR2/1黒色風化花崗岩5mm大を含む細粒砂 | 13. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粗粒砂 |
| 7. 10YR1.7/1黒色粘質極細粒砂 | 14. 10YR2/1黒色細粒砂 |

第 76 図 SB211(1/50)



- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 7.5YR3/2黑褐色粗粒砂 | 6. 10YR2/1黑色細粒砂 |
| 2. 10YR3/2黑褐色粗粒砂 | 7. 10YR2/2黑褐色細粒砂 |
| 3. 7.5YR2/2黑褐色極粗粒砂 | 8. 10YR3/4暗褐色細粒砂 |
| 4. 10YR4/6褐色中粒砂 | 9. 10YR3/3暗褐色中粒砂 |
| 5. 10YR2/2黑褐色中粒砂 | 10. 10YR2/2黑褐色中粒砂 |

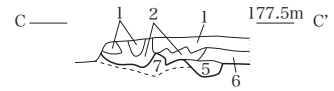
第 77 圖 SB212(1/50)



A — 177.5m A'

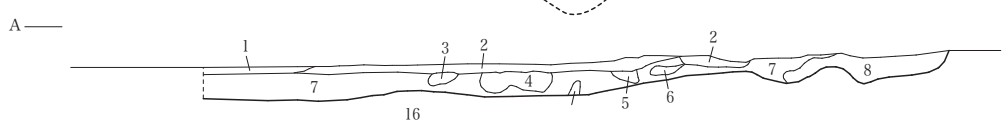
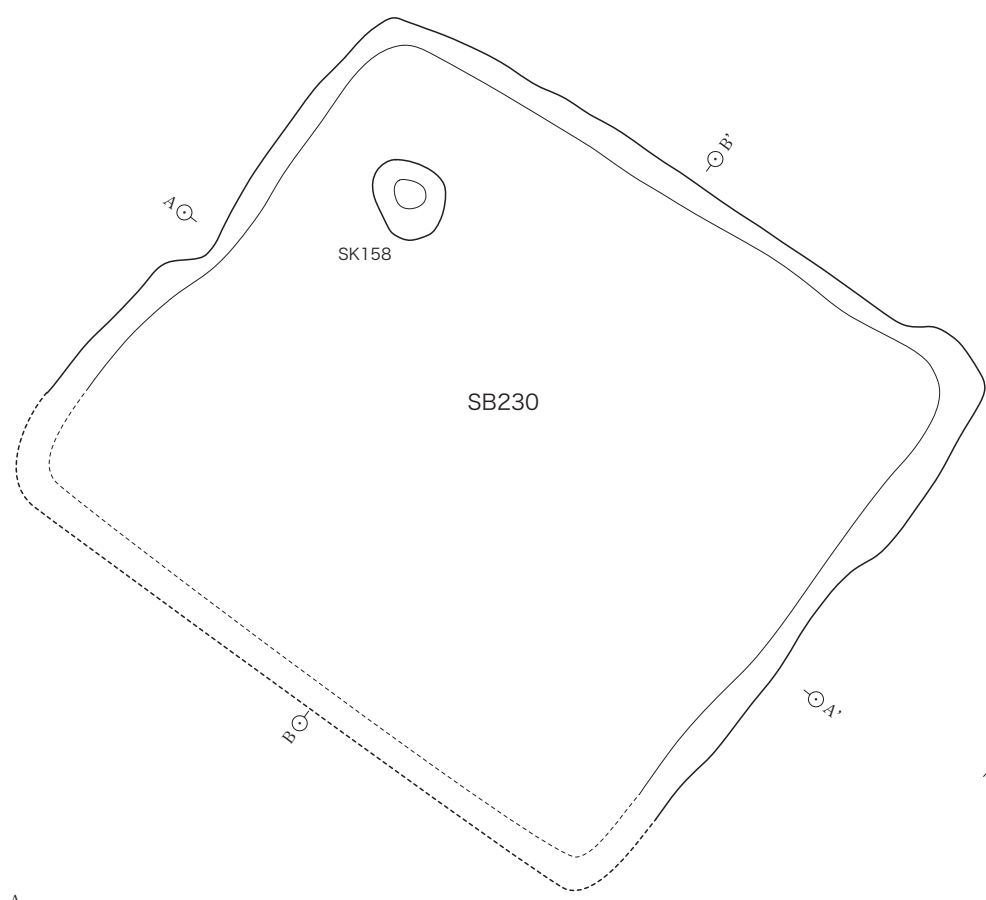


- 1. 10YR2/2黒褐色粗粒砂
- 2. 10YR2/1黒色細粒砂
- 3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色中粒砂
- 4. 10YR2/2黒褐色中粒砂
- 5. 10YR3/2黒褐色粗粒砂



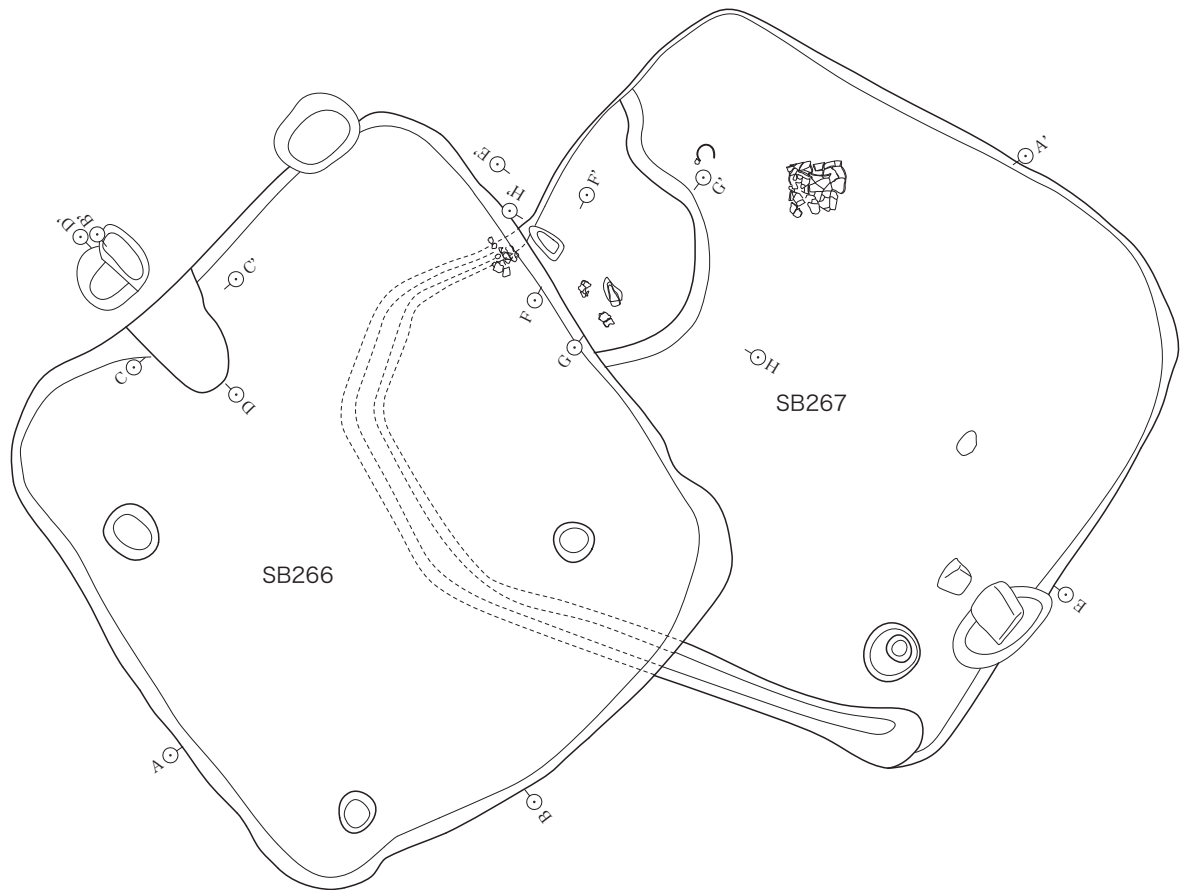
- 1. 10YR3/4暗褐色中粒砂
- 2. 10YR2/2黒褐色中粒砂
- 3. 10YR2/2黒褐色中粒砂
- 4. 10YR3/2黒褐色極粗粒砂、
- 5. 10YR2/1黒色細粒砂
- 6. 10YR2/2黒褐色粘質中粒砂
- 7. 10YR2/1黒色細粒砂

第 78 図 SB215(1/50)



- 1. 2.5YR6/6橙色細砂質シルト
- 2. 2.5Y5/1黄灰色細砂
- 3. 10YR1.7/1黒色黒褐色砂
- 4. 2.5Y4/1黄灰色砂礫
- 5. 10YR3/1黒褐色粗砂
- 6. 10YR5/1褐灰色シルト
- 7. 10YR3/1黒褐色シルト
- 8. 10YR3/1黒褐色細礫砂質シルト
- 9. 7.5YR3/1黒褐色砂
- 10. 10YR1.7/1黒色砂
- 11. 10YR6/1褐灰色砂
- 12. 2.5Y5/1黄灰色砂
- 13. 10YR3/1黒褐色砂
- 14. 10YR6/1褐灰色砂
- 15. 10YR4/2黒色細砂
- 16. 10YR6/2灰黄褐色砂

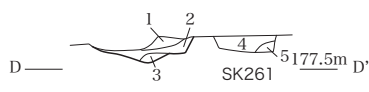
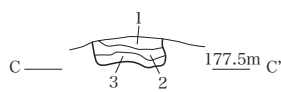
第 79 図 SB230(1/50)



- 1. 10YR3/3暗褐色シルト
- 2. 10YR3/2黒褐色シルト



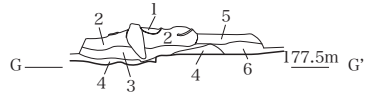
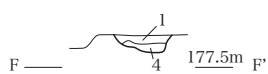
- 1. 10YR3/3暗褐色シルト



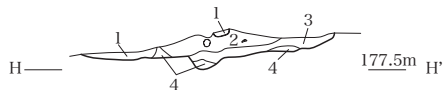
- 1. 10YR3/3暗褐色シルト
- 2. 10YR2/2黒褐色シルト
- 3. 10YR4/3にふい黄褐色砂質土
- 4. 10YR2/2黒褐色シルト
- 5. 10YR3/3暗褐色シルト



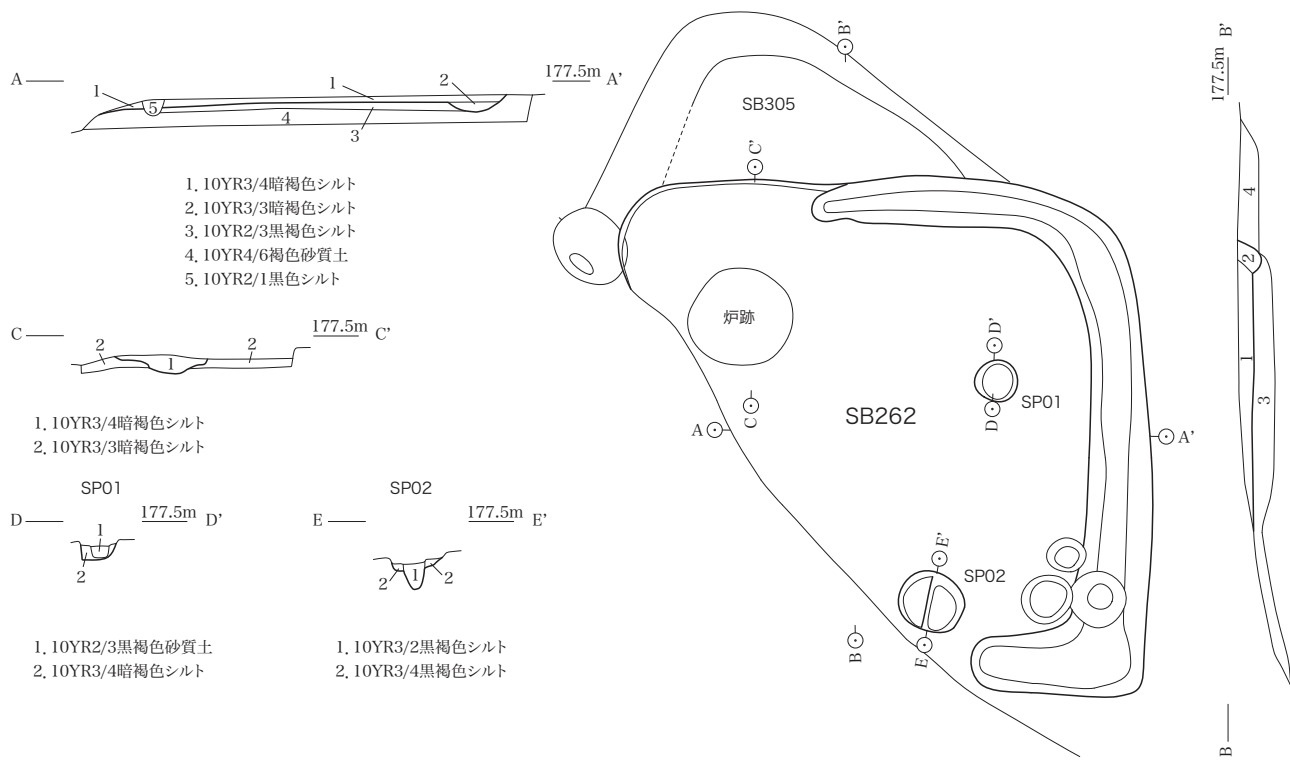
- 1. 10YR3/2黒褐色シルト
- 2. 10YR3/4暗褐色シルト



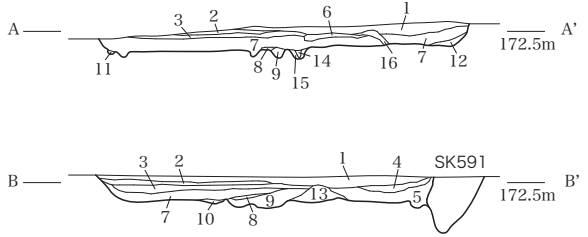
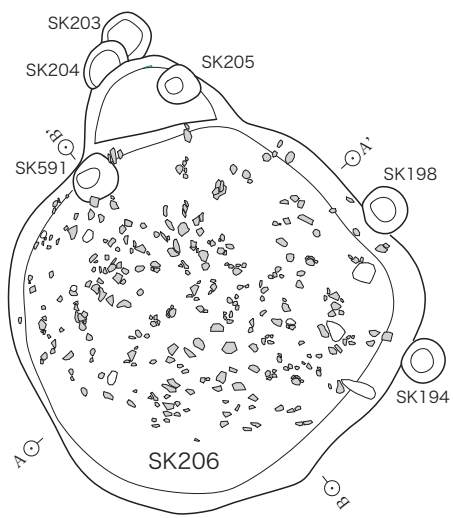
- 1. 10YR2/2黒褐色シルト
- 2. 10YR3/3暗褐色シルト
- 3. 10YR3/2黒褐色シルト
- 4. 10YR3/4暗褐色シルト
- 5. 10YR3/3暗褐色シルト
- 6. 10YR3/2黒褐色シルト



第 80 図 SB266・267(1/50)



第 81 図 SB262(1/50)



- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 2.5Y6/4にぶい黄色砂 | 9. 10YR4/2灰黄褐色砂 |
| 2. 7.5YR4/1褐灰色砂 | 10. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂 |
| 3. 10YR5/6黄褐色砂 | 11. 10YR4/1褐灰色細砂 |
| 4. 2.5Y5/3黄褐色細砂 | 12. 2.5Y4/1黄灰色砂 |
| 5. 10YR3/1黒褐色シルト混じり砂 | 13. 10YR2/3黒褐色シルト混じり細砂 |
| 6. 10YR3/1黒褐色シルト混じり細砂 | 14. 2.5Y3/1黒褐色細砂 |
| 7. 10YR3/1黒褐色細砂 | 15. 2.5Y4/1黄灰色細砂 |
| 8. 10YR5/4にぶい黄褐色砂 | 16. 10YR5/2灰黄褐色 細砂 |

第 82 図 03B区 SK206(1/50)

第5節 古代の遺構

ここでは7世紀後半から平安時代初期にかけての時期の遺構が対象となる。主要な竪穴住居を取り上げる。

南部地区

(1)00A区

SB018(第83図)

上位段丘の斜面に近接した位置にある。小形の竪穴住居で長軸2.7m短軸2.3mを測る。長軸は南北方向である(N-22°-W)。南向き斜面に位置し、南半の削平が著しい。北辺に長い煙出しをもつ竈がある。竈の構造は確認されなかった。支脚及び竈掘り込みより土師器甕などが出土した。

(2)03B区

SB043(第84図)

上位段丘面に位置する。削平により遺存状況は悪く、南半は消失している。北辺に竈の高まりと支脚の一部を検出した。周溝、柱穴は確認されなかった。床面上より須恵器等が出土した。

(3)04Cb区

SB064(第85図)

上位段丘面上である。削平と中世遺構に切られ、遺存状況は悪い。周溝、柱穴、竈は検出されなかった。出土遺物は少量である。

北部地区

(1)02B区

SB226(第24図)

上位段丘端に位置する。近年の耕作で遺存状況は悪い。段丘斜面の削平により、西半は消失している。東辺に竈があり、竈下の落ち込みを検出した。周溝、柱穴は確認できない。南東隅に貯蔵穴の土坑を検出した。床面と竈下の落ち込みより比較的まとまって土師器、須恵器が出土する。

(2)04Ab区

SB263(第87図)

上位段丘に位置する。削平により遺存状況は悪い。長軸は南北方向である(N-0°-W)。長軸3.6m短軸3.3mを測る。竈は検出されなかった。柱穴4基を確認する。周溝は全周する。出土遺物は少量である。

SB272(第86図)

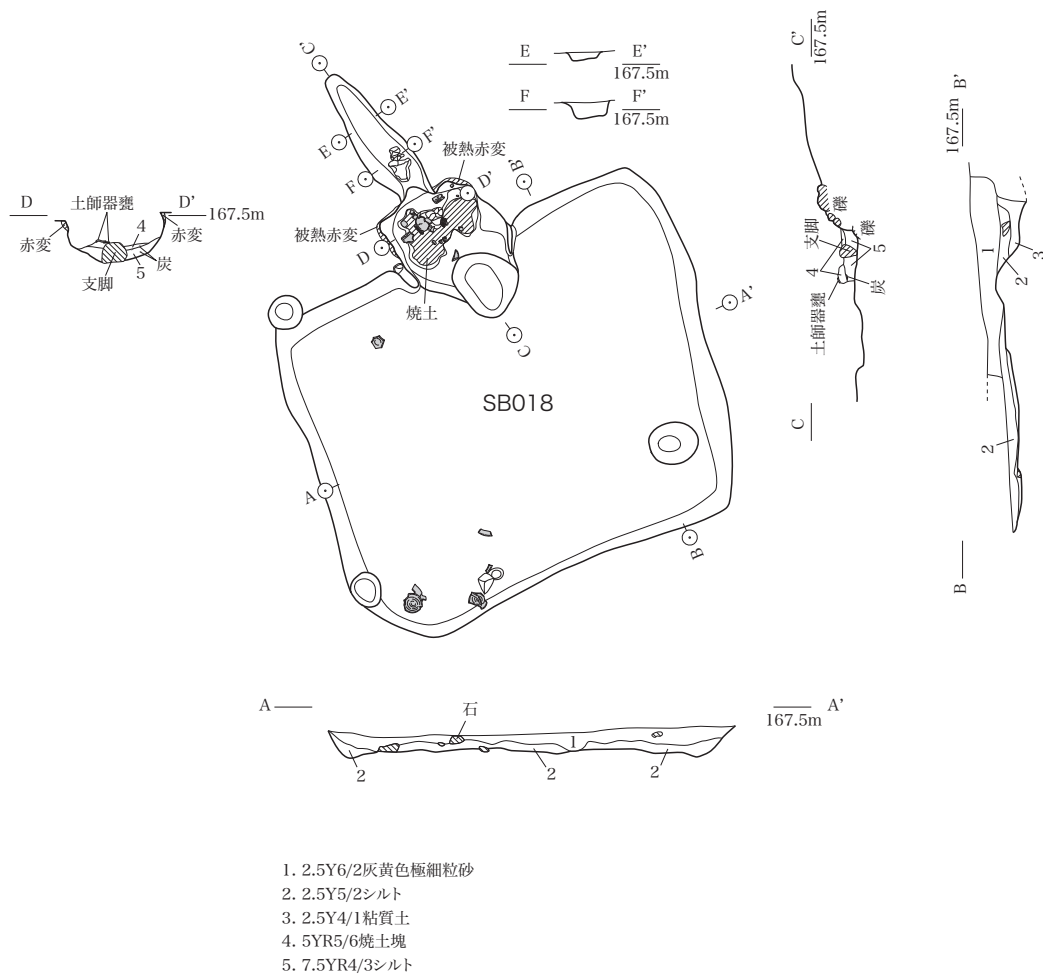
上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。長軸は東西方向である(N-53°-W)。長軸4.4m短軸3.4mを測る。竈、周溝は検出できない。柱穴は2基確認された。出土遺物は少量である。

SB278(第37図)

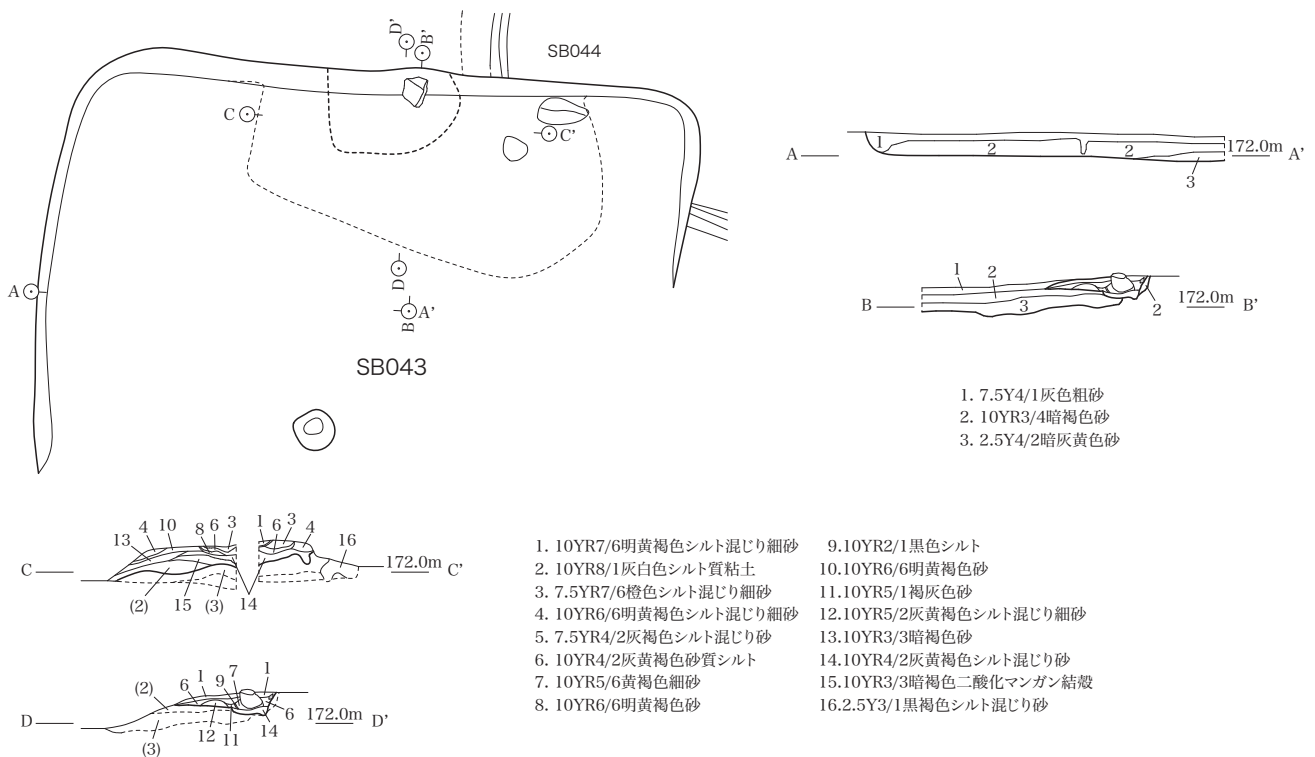
上位段丘に位置する。削平が著しく、遺存状況は悪い。長軸は南北方向である(N-3°-W)。長軸4.3m短軸4.0mを測る。竈、周溝、柱穴は検出できない。出土遺物は少量である。

SB287(第88図)

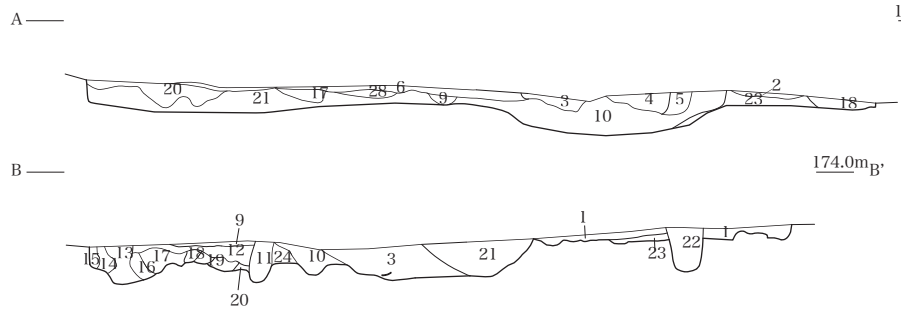
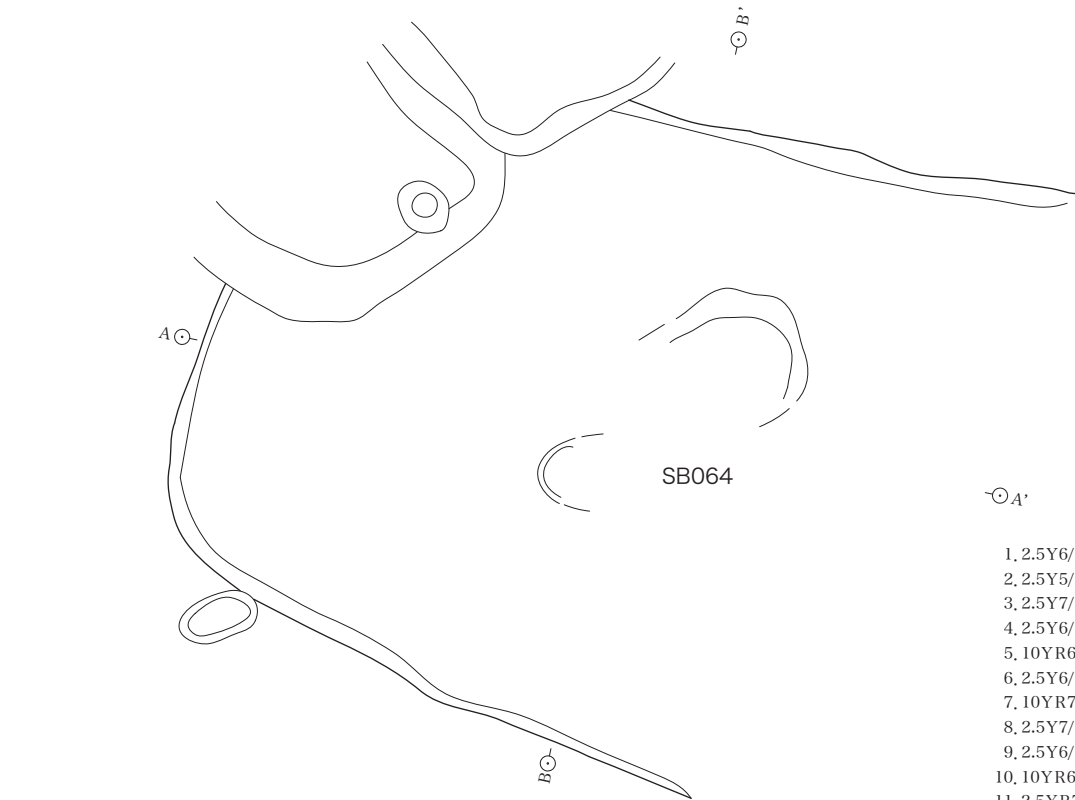
上位段丘に位置する。斜面に接し、削平が著しく、遺存状況は悪い。竈、周溝、柱穴は検出できない。出土遺物は少量である。(酒井俊彦)



第83図 SB018(1/50)

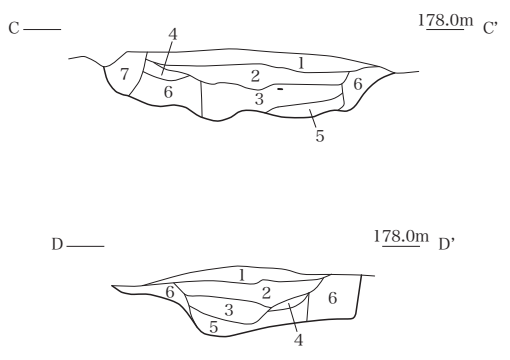
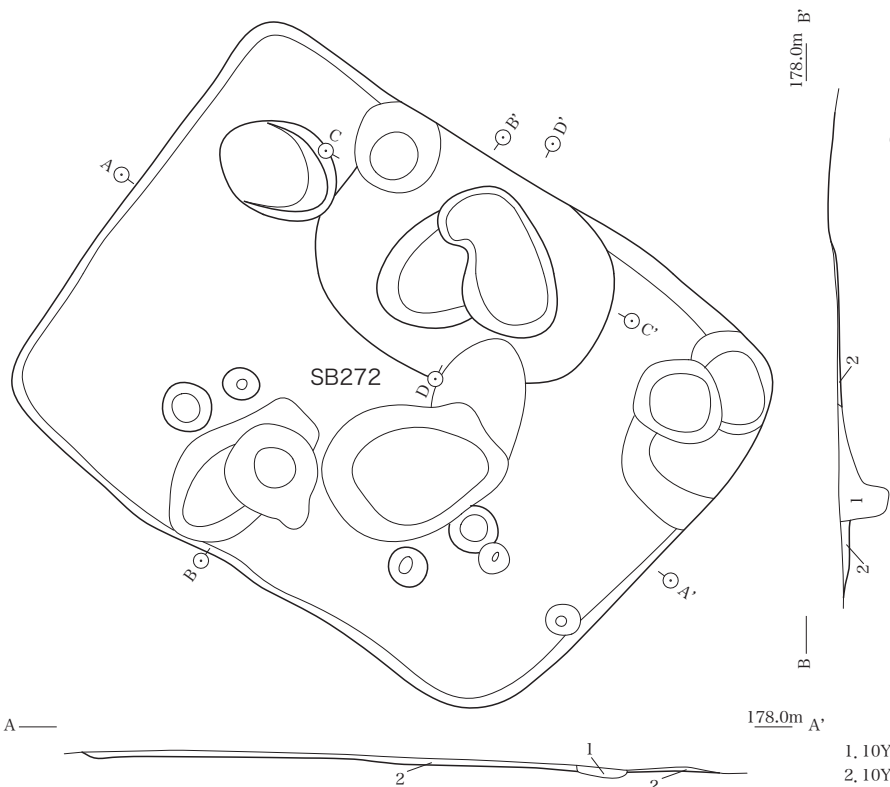


第84図 SB043(1/50)



1. 2.5Y6/1黄灰中粒砂にふい黄褐
2. 2.5Y5/1黄灰砂質シルト
3. 2.5Y7/2灰黄中粒砂粗粒砂混
4. 2.5Y6/1黄灰粗粒砂
5. 10YR6/2灰黄褐細粒砂にふい黄褐
6. 2.5Y6/1黄灰中粒砂
7. 10YR7/4にふい黄褐中粒砂
8. 2.5Y7/1灰白細粒砂
9. 2.5Y6/1黄灰中粒砂
10. 10YR6/2灰黄褐細粒砂
11. 2.5YR7/1明赤灰細粒砂灰黄褐
12. 10YR7/1灰白細粒砂黄橙
13. 10YR3/1黒褐細粒砂黄灰
14. 2.5Y6/1黄灰細粒砂
15. 10YR8/3浅黄橙粗粒砂灰黄褐
16. 2.5Y7/1灰白細粒砂
17. 10YR4/2灰黄褐シルト
18. 2.5Y5/1黄灰細粒砂
19. 10YR7/1灰白細粒砂明黄褐
20. 10YR5/4にふい黄褐細粒砂浅黄橙
21. 2.5Y5/6黄褐細粒砂
22. 10YR5/3にふい黄褐細粒砂
23. 2.5Y7/1灰白細粒砂灰黄白
24. 10YR5/2にふい黄褐シルト

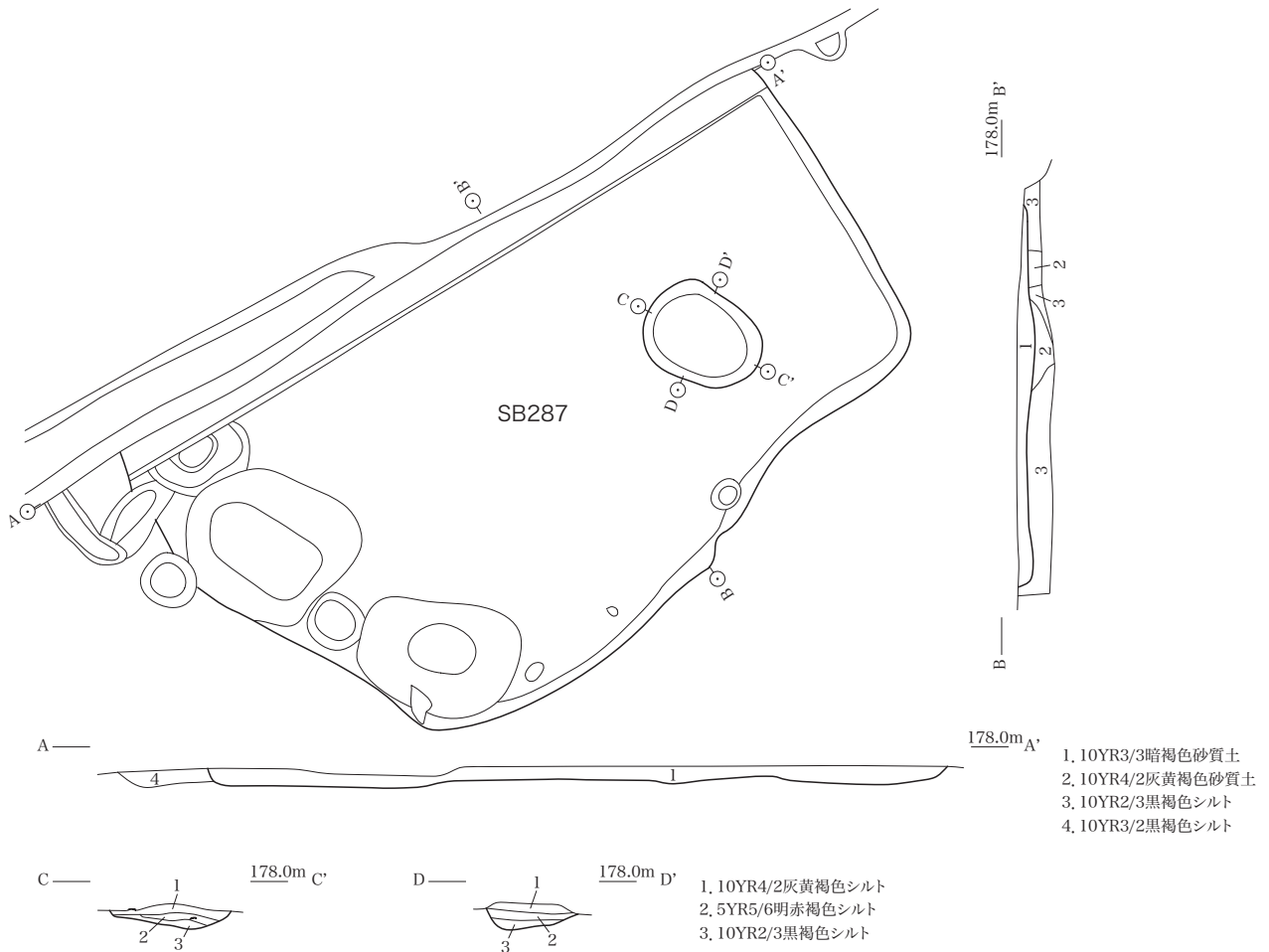
第85図 SB064(1/50)



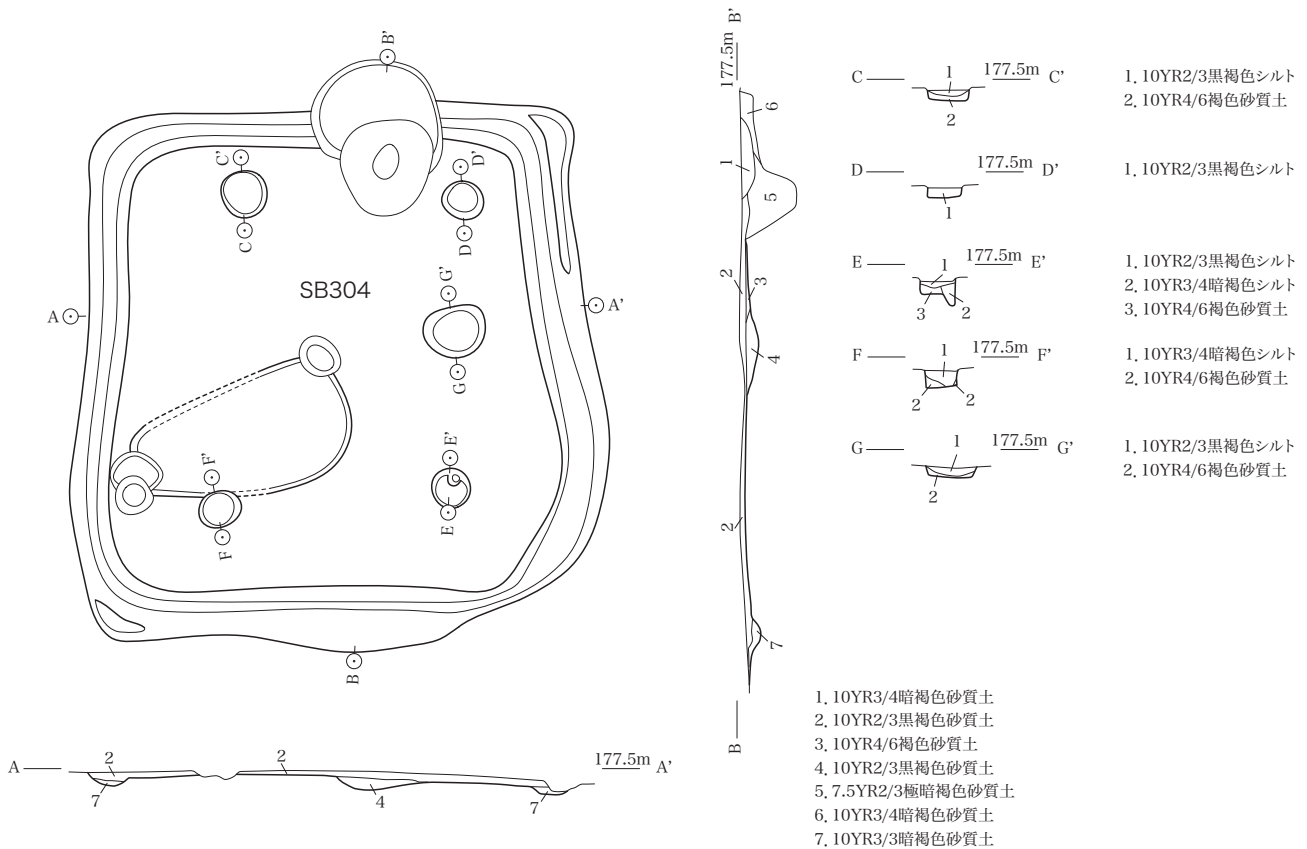
1. 10YR3/1黒褐色シルト
2. 10YR3/2黒褐色砂質土
3. 10YR3/3暗褐色シルト
4. 10YR3/3暗褐色シルト
5. 10YR5/6黄褐色砂質土
6. 10YR5/3にふい黄褐色砂質土
7. 10YR3/3暗褐色シルト

1. 10YR3/1黒褐色シルト
2. 10YR3/2黒褐色砂質土

第86図 SB272(1/50)



第87図 SB263(1/50)



第88図 SB287(1/50)

第6節 中世の遺構

この時期の遺構は12世紀後半から16世紀代を対象とする。主な遺構としては掘立柱建物、溝、土坑、井戸がある。

1. 掘立柱建物・竪穴状建物

(1)01A 区

調査区北部に掘立柱建物の一群が検出された。下位段丘上に位置する。

SB006(第90図)

もつとも北に位置する。2×4間(4.8m×5.8m)、長軸N-59°-Wである。削平により北辺の柱穴は検出されない。遺物は少量で、中世12-13世紀の山茶碗が柱穴から出土した。

SB007(第92図)

西端に位置する。1×2間(2.6m×4.3m)、長軸N-36°-Eである。遺物は検出されないが、この時期と考える。

SB008(第93図)

SB007に並列する。1×2間(1.7m×4.4m)、長軸N-28°-Wである。遺物は検出されないが、この時期と考える。

SB009(第94図)

SB006と並列する。1×3間(2.3m×6.6m)、長軸N-70°-Wである。遺物は少量であるが、柱穴内より13世紀代の山茶碗が検出された。

SB010(第91図)

SB008と並列する。1×1間(2.2m×3.1m)、長軸N-32°-Eである。遺物は少量であるが、柱穴内より13世紀代の山茶碗が検出された。

(2)00A 区

調査区南半に掘立柱建物が検出され、出土遺物と方位からこの時期に属す。すべて、上位段丘上である。

SB020

3棟集中する中の一棟である。1×1間(2.2m×2.0m)、長軸N-33°-Eである。遺物は検出されなかった。

SB021

単独で西部に位置する。1×1間(2.3m×1.8m)、長軸N-52°-Eである。遺物は検出されなかった。時期を確定できないが、方位などからこの時期に属す。

SB022(第95図)

3棟から離れた位置にある。1×2間(2.7m×3.0m)、長軸N-61°-Eである。遺物は少量であるが、柱穴内より中世の土師器皿が検出された。

SB023(第96図)

3棟から離れた位置にある。1×1間(2.8m×3.2m)、長軸N-37°-Eである。遺物は柱穴内より山茶碗、土師器皿が検出された。

SB024

近接した3棟のひとつである。1×2間(2.4m×3.3m)、長軸N-51°-Wである。遺物は検出されなかった。軸方向と位置からこの時期とする。

(3)03A 区

SB026(第 97 図)

単独で検出された。1×2 間 (2.6m×2.5m)、長軸 N-1° -E である。遺物は少量であるが、柱穴内より中世の土師器皿が検出された。建物の大きさに比べて柱穴の堀方が大形である。軸方向は、約 10m 東に南北に走る中世溝と一致する。

(4)01B 区

上位段丘上に位置する。2 棟検出された。

SB029(第 98 図)

調査区内北部で検出された。1×1 間 (3.2m×3.6m)、長軸 N-4° -E である。遺物は柱穴内より土師器皿が検出された。

SB030(第 99 図)

調査区中央部で検出された。1×2 間 (3.2m×4.1m)、長軸 N-86° -W である。遺物は柱穴内より古瀬戸施釉陶器、山茶碗が検出された。

(5)03B 区

柱穴と考えられる土坑が検出されているが、大部分は時期不明の柵列の柱穴である。中世の掘立柱建物の柱穴と確認できたものは少ない。上位段丘面に位置する。

SB048(第 100 図)

2×2 間 (2.7m×3.7m)、長軸 N-47° -E である。遺物は柱穴内より土師器皿、山茶碗が検出された。短軸は北東側の集落を巡る大溝の方向と一致する。

(6)04Da 区

04B 区から 04D 区は中世の集落が展開する部分である。柱穴が多数密集するが、掘立柱建物として確定できるものは少ない。集落の西側は上位段丘、東側は低位段丘で、両方の面で掘立柱建物は検出されている。

SB054(第 101 図)

調査区南東隅で検出され、東辺の一部が調査区外となる。3×3 間 (5.0m×5.3m)、長軸 N-53° -E である。遺物は柱穴内より 15 世紀後半の古瀬戸施釉陶器鍋皿類、山茶碗が検出された。短軸は南西側の集落を巡る大溝の方向と一致する。柱列間に柱穴が重複し、立て替えが行われている。

SB055(第 89 図)

竪穴状の建物である。長軸 5.0 短軸 3.3m 深さ 0.2m を測る。長軸は南北方向 (N-31° -W) をとる。柱穴は確認できない。中央やや北寄りに炭化物の集中が認められた。埋土中より 14 世紀後半から 15 世紀前半の古瀬戸施釉陶器、山茶碗が出土した。

(7)04Ca 区

SB056(第 102 図)

調査区東隅で検出され、低位段丘面に位置する。2×3 間 (4.8m×5.9m)、長軸 N-46° -W である。遺物は柱穴内より 14-15 世紀の古瀬戸施釉陶器碗皿類、山茶碗が検出された。短軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。検出された 9 基の柱穴のうち 4 基に柱根が確認された。

SB057(第 104 図)

調査区中央で検出され、上位段丘面に位置する。大形の建物で、柱穴は大径である。13 基の柱穴のうち 2 基で礎板、1 基で礎板と柱根が遺存した。1 基の柱穴が重複していることから、1 回立て替えられた可能性がある。2×5 間 (4.7m×9.3m)、長軸 N-51° -E である。遺物は

柱穴内より14世紀後半から15世紀前半の古瀬戸施釉陶器碗皿類、山茶碗が検出された。長軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。

SB058(第103図)

調査区北部で検出され、低位段丘面に位置する。集落周囲の溝より外側にある。1×2間(4.0m×4.6m)、長軸N-34°-Wである。検出された6基の柱穴のうち柱根が依存するもの、礎石を遺存するもの各1基が確認された。遺物は柱穴内より14-15世紀の古瀬戸施釉陶器碗皿類、山茶碗が検出された。短軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。

SB066

調査区中央で検出され、上位段丘面に位置する。2×5間(3.5m×7.0m)、長軸N-54°-Eである。長軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。遺物は柱穴内より14世紀後半～15世紀前半の古瀬戸施釉陶器碗皿類、山茶碗が少量検出された。

SB067

調査区中央で検出され、上位段丘面に位置する。2×6間(3.3m×8.6m)、長軸N-57°-Eである。長軸は集落を分割する中央の溝群の方向と一致する。遺物は柱穴内より14世紀後半～15世紀の古瀬戸施釉陶器碗皿類、山茶碗が少量検出された。

2. 土坑

この時期の柱穴は調査範囲全体に多数検出された。主要な遺構のみ取り上げる。

04Ca区SK964(第105図)

中世集落のほぼ中央で検出された。長軸85cm短軸71cm深さ37cmを測る。常滑窯産の大甕がつぶれた状態で出土した。本来は正立していたものと考えられる。遺物の時期から15世紀後半である。水だめなどの可能性がある。

04Cb区SK100(第107図)

中世集落の中央北寄りで検出された。長軸319cm短196cm深さ41cmを測る。遺構内より、14世紀後半から15世紀前半の山茶碗、古瀬戸施釉陶器類がまとめて出土した。これらは焼土や礫に混じって出土している。

04Cb区SK500(第106図)

中世集落の中央北寄りで検出された。長軸128cm短83cm深さ37cmを測る。中央部分を近年の溝で切られる。遺構内より13世紀代の古瀬戸施釉陶器四耳壺2個体、山茶碗がまとめて出土した。

04Cb区SK352(第108図)

中世集落の中央西寄りで検出された。残存部で長7.0mである。底面は平坦である。15世紀末の古瀬戸施釉陶器が少量出土する。大きな落ち込みに近い形状で、性格は不明である。

02A区SK19(第109図)

調査区北部、赤津川河谷の斜面の縁に接する。低位段丘に位置する。長軸265cm短263cm深さ107cmを測る。15世紀代の山茶碗・皿が少量出土する。性格は不明である。

02B区SK58(第110図)

調査区北部の中世の遺構が集中する部分で検出された。上位段丘斜面下の低位段丘上に位置する。段丘斜面下に平行して走るSD207と一連のものと考えられる。長軸345cm短275cm深さ71cmを測る。遺構埋土中より15世紀後半の古瀬戸施釉陶器碗皿挿鉢、山茶碗

がまとまって出土した。性格は不明である。

3. 溝

04B区から04D区にかけて中世の遺構が集中、展開する。中世後半15世紀から16世紀前半には集落周囲に大溝を巡らせ、集落内中央を溝で分割する。主要な溝をとりあげ、他は一覧表にあげる。集落西側の大溝群を西側大溝群、東側を東側大溝群、集落中央の南西-北東方向に走る溝群を中央溝群とする。

a. 西側大溝群

SD053(第111-113図)

04Db区から04Da区に北西から南東に走る。Db区側は1条でDa区にかけて2条に分岐する様に見えるが、断面観察により分岐部分(SD054)が最も古く、次にそこから位置を変えたのがSD053であり、これが2時期に分かれ、計3小時期にわたる事が確認された。Db区側で最大幅6.8m、Da区で4.0m、深さ1.2mを測る。溝埋土は、基本的に上層が埋め立てのブロック土、下層が粘質土である。Db区では上層に埋め立て時の礫が多量にはいる。

SD054(第111・113図)

04Db区から04Da区に北西から南東に走る。SD053より古い。Db区ではSD053と同一位置をはしるものと考えられる。最大幅3.5m、深さ1.1mを測る。溝埋土は、上層が埋め立てのブロック土、下層が粘質土である。遺物は15世紀代の古瀬戸施釉陶器類が少量出土した。

SD055(第111・114図)

04Db区から04Da区に北西から南東に走る。切り合いはなく、1時期の遺構である。北西端の平面形は若干ふくらむ。SD054ほぼ平行して走る。最大幅7.2m、深さ0.8mを測る。溝埋土は、上層が埋め立てのブロック土、下層が粘質土である。遺物は15世紀代の古瀬戸施釉陶器類が少量出土した。

b. 中央溝群

SD056(第118図)

集落域の中央を北東から南西に走る溝群の中心にある。Da区の途中までで、SD076に切られる。最大幅2.4m、深さ0.8mを測る。溝埋土は、上層がシルト質土、下層が粘質土である。遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施釉陶器類、山茶碗が出土した。

SD086(第115図)

集落域の中央を北東から南西に走る溝群の中心にある。北東側がやや幅広い。最大幅2.7m、深さ0.6mを測る。溝埋土は、上層がシルト質土、下層が粘質土である。出土遺物は15世紀代の古瀬戸施釉陶器類が出土した。

SD090(第117図)

集落域の中央を北東から南西に走る溝群の北東よりで 東側大溝群のSD080の延長部分の溝である。最大幅1.6m、深さ0.6mを測る。断面U字状である。出土遺物は少ない。

SD104(第120図)

集落の区画に関わらない溝とも考えられるが、一連の溝の延長部分にある。14世紀後半から15世紀前半の古瀬戸施釉陶器、山茶碗が投棄された状態で集中して検出された。

c. 東側大溝群

SD080(第124図)

SD084の集落内側に部分的に存在する溝である。深さ0.5mで底面が平らな落ち込み状である。出土遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施釉陶器類、山茶碗が出土した。

SD083(第124・125図)

溝群の中心となる溝である。SD084の上層部分で掘り返しに相当する。断面では、SD084の西側斜面に重複する形で走る。出土遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施釉陶器類、山茶碗が出土した。

SD084(第121・124・125図)

溝群の中心となる溝である。04Cb区で最大幅8.9m、深さ1.4mを測る。溝埋土は上層がシルト質の埋め戻し土、下層が黒色粘質土である。04Cb区では溝中央に杭列が溝の走る方向に1列検出され、中・上層で加工痕のある木材などが出土した。遺構はやや湾曲しながらほぼ南北に走り、Ca区南端でほぼ直角に東に折れる。遺物は14世紀後半から16世紀初頭までの古瀬戸施釉陶器類、山茶碗が出土した。

SD089(第116図)

集落域の北東側を北西から南東に走る溝である。SD115と同一線上にあるが、南東側は削平により消失しているものとする。最大幅2.7m、深さ0.7mを測る。遺物は15世紀代の古瀬戸施釉陶器類が出土した。

SD092(第119図)

集落内から東方向に走る溝である。SD084の集落外側に屈曲する部分と平行する。集落内では幅が狭く、大溝と平行する部分は広がる。出土遺物は14世紀後半から15世紀代の古瀬戸施釉陶器類、山茶碗が出土した。

SD093(第122図)

溝群の南端のみに確認される。新しい溝の掘り返しによって確認されるのはこの部分であるが、溝群の中心となる溝である。最大幅4.3m、深さ0.7mを測る。杭列と棒状加工材が出土した。

SD105(第126図)

溝群の東側に位置する。北端部より、南北方向から南西方向へ湾曲して集落の周囲を巡る。北端部は東西に長軸をもつ大形の土坑状で、平面形が膨らんだ形状である。長軸19.3m、短軸8.7m、深さ1.2mを測る。埋土は上中層がブロック状の埋め戻し土が主体である。遺物は15世紀代の古瀬戸施釉陶器類、山茶碗が出土した。

SD115(第123図)

集落域の北東側を北西から南東に走る溝である。調査区端で検出されたが、SD089と同一線上にあり、同時期に存在した溝と考える。最大幅3.6m、深さ0.9mを測る。遺物は15世紀代の古瀬戸施釉陶器類が少量出土した。

d. 小溝群

中世集落の東側大溝群の東側に展開する小溝群である。04B区から04Ca区東半部の低位段丘面に位置する。水田に伴う遺構と考えられる。

SD079 SD99 SD100 SD116-139(第127・128図)

全体として南北方向に並列する溝群である。北部の一部と南側では北東-南西方向である。04B区では東西に数m-10m程度の間隔で4列の溝が並ぶ。検出面は、基盤土である黒ボク土で、この面で最大幅1-1.5m、深さは0.5m以下、大部分は0.2-0.3mである。埋土は、灰白色ないし淡黄色の中粒～粗粒砂である。流水による堆積と考えられる。出土遺物は、14世紀代の山茶碗と少量の古墳時代須恵器土師器である。SD116は、上層より19世紀中葉の瀬戸窯産施

釉陶器の擂鉢が投棄した状態で出土した。

e. その他の溝

SD007(第129図)

00A区の中央で検出された、コの字状に屈曲する溝である。幅1.2m 深さ0.2mである。削平が著しく遺存状況は悪い。一部で焼土が検出される。14世紀代の山茶碗が少量出土している。

4. 井戸

中世の井戸は5基確認された。すべて南部地区、03B区から04Ca区に集中する。

SE01(第130図)

上位段丘面に位置する。径1.3m、深さ1.6mを測る。掘方はほぼ垂直で、底部が擂鉢状をなし、円礫による石組が遺存する。埋土中に薄い板材が出土したことから、本来上部に関しては、板材による平面が方形の井戸側であったと考える。最低面に完形の山茶碗が出土した。遺物より、13世紀前半の時期に属する。

SE02(第131図)

上位段丘面に位置する。径1.4m、深さ1.0mを測る。平面が方形で、掘方はほぼ垂直である。底面の四隅の板材支柱と井戸側板材が部分的に遺存し、支柱を有する板材による井戸側であったと考える。最底面に完形の瀬戸窯産施釉陶器が出土した。遺物より、15世紀後半の時期に属する。

SE03(第132図)

上位段丘面に位置する。径1.6m、深さ1.1mを測る。平面が方形で、掘方は垂直に近い。井戸側板材が部分的に遺存し、板材による平面方形の井戸側であったと考える。遺物より、15世紀後半の時期に属する。

SE04(第134図)

04Ca区の南東辺で検出した。下位段丘面に位置する。大形で径2.9m、深さ1.9mを測る。掘方は円形で、埋土はシルトのブロック土が主体となる。井戸側は四隅に支柱を有する平面方形の板材を2段以上に組んでいる。板材は厚さ4-5cmのもので一辺3ないし4枚縦に並べている。板材は最下段のみ遺存する。板を支える棧は3段確認できる。井戸底面で桶1段を出土した。井戸側中央で竹棒が直立した状態で検出された。遺物より15世紀後半の時期に属する。

SE07(第133図)

SE04に近接して検出された。下位段丘面に位置する。径1.1m、深さ0.5mを測る。平面が円形で、浅い掘方である。埋土は細粒砂である。井戸側は薄い桶材で底面がある。井戸としての機能に不明な点があるが、湧水があるため井戸とする。時期は15世紀後半の時期に属すると考える。

5. その他の遺構

性格が不明な主な遺構をあげる。

SX014(第135図)

03B区の中世集落側で検出された。落ち込み状の遺構で、平面不定形、底面は大きく凹凸する。埋土より帯水していたと考えられる。出土遺物から15世紀末から16世紀初頭の時期である。

SX015(第136図)

03B 区の中世集落側で検出された。SX014 と同じ性格の遺構と考えられる。落ち込み状の遺構で、平面不定形、底面は大きく凹凸する。埋土より帯水していたと考えられる。出土遺物から 15 世紀末から 16 世紀初頭の時期である。

SX019(第 138 図)

04Db 区の中世集落大溝である SD053 に接して検出された。落ち込み状の遺構で、底面は凹凸がある。径 2.7m、深さ 0.4m を測る。埋土中より 14-15 世紀の古瀬戸施釉陶器、山茶碗がまとまって出土した。

SX025(第 137 図)

04B 区の北端、惣作川に面する下位段丘に位置する。直径 10.3m 以上深さ 0.9m の土坑状である。埋土は砂質分が多い。底面に近い層位で 12 世紀代の山茶碗まとまって出土した。

6. 包含層

中世の遺物包含層を扱う。

01A 区西斜面 (第 139 図)

赤津川河谷の東側斜面に相当する。基本層序は a 黄褐色土 b 黒褐色土 c 灰黄色土 d 黒色土である。a 中世遺物包含層、b 縄文時代包含層であり、c 及び d は無遺物層である。14 世紀代の古瀬戸施釉陶器、山茶碗が少量出土した。

00A・02C 区南斜面 (第 140 図)

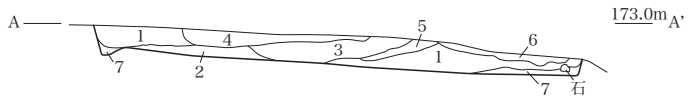
01A 区と 02D 区の下位段丘へ下る斜面である。上層の黄褐色土、中層の褐色土層などから 14 世紀後半から 15 世紀代の山茶碗、古瀬戸施釉陶器類が出土した。

04E 区南東斜面 (第 141 図)

門前川の北西斜面にあたる。基本層序は a 褐色粘質土 (現耕作土) b 灰褐色粘質土 (旧耕作土) c 砂質土である。基盤面に近い部分より杭列を検出した。斜面に対して谷側に傾斜させて打たれているものが大部分である。出土遺物から、中世の時期に属すと考えられる。谷埋土中より、自然木、加工痕がある木材、木製品が検出された。また、全層序より 13 ~ 15 世紀の古瀬戸施釉陶器、山茶碗が出土した。

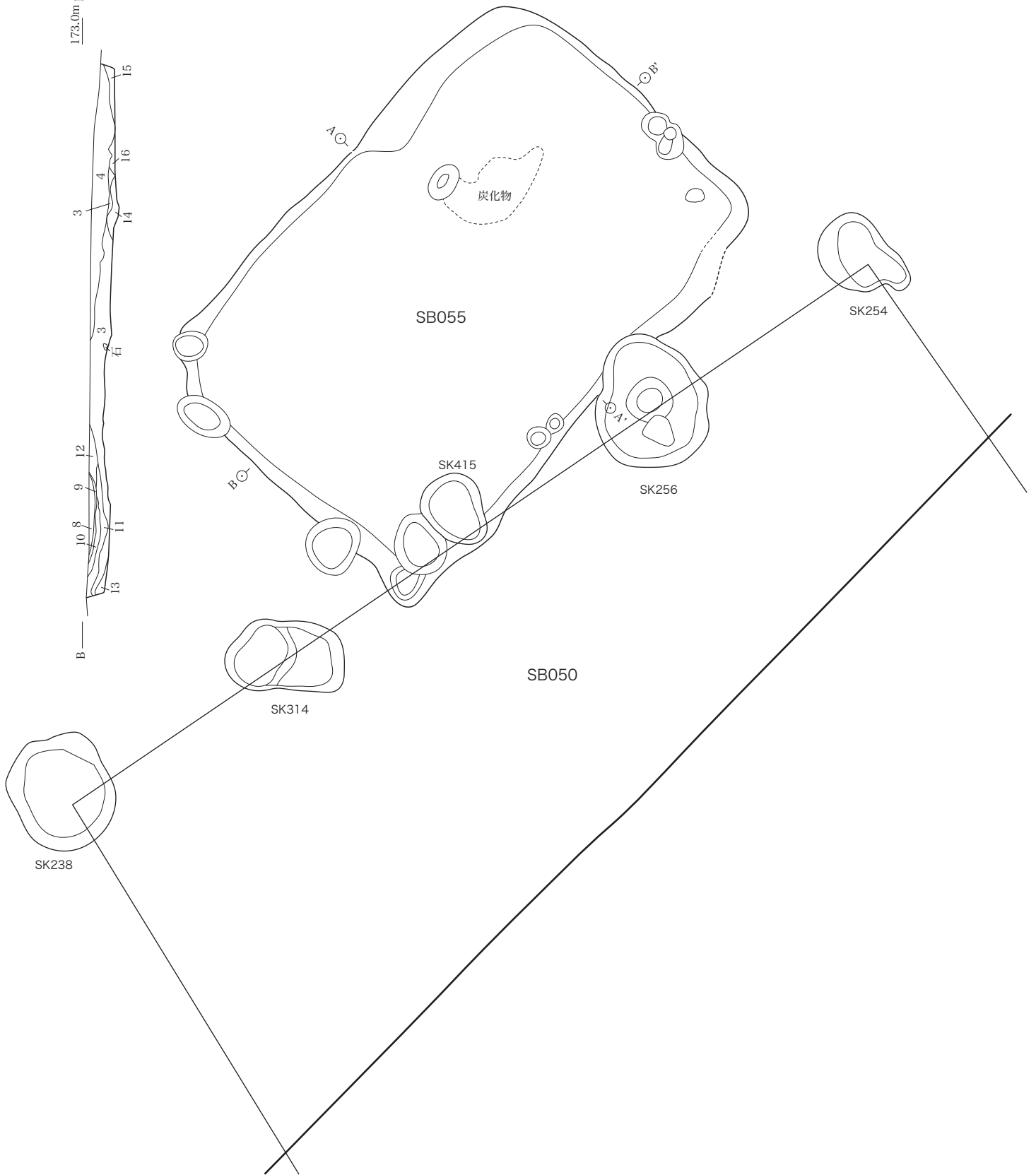
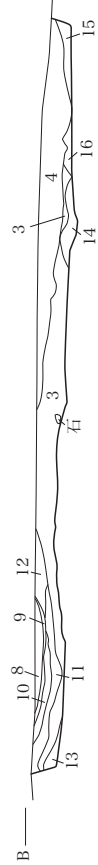
02A 区北西斜面 SX201 202 203(第 142 図)

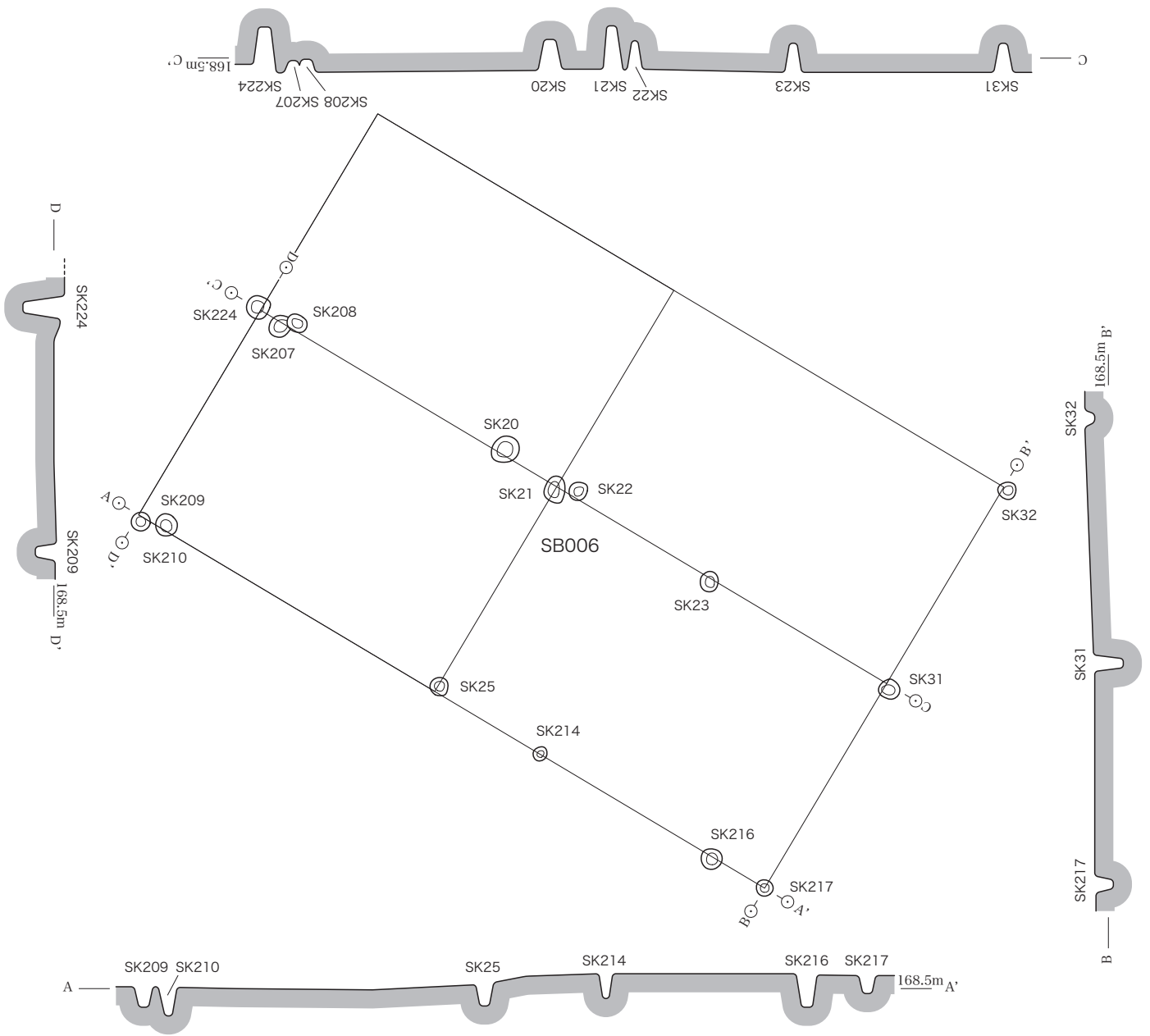
赤津川の傾斜面である。切り合いのある斜面削り出しで、基本層序は a 黄褐色土 b 黒褐色土である。b より 14 世紀代の山茶碗が出土した。(酒井俊彦)



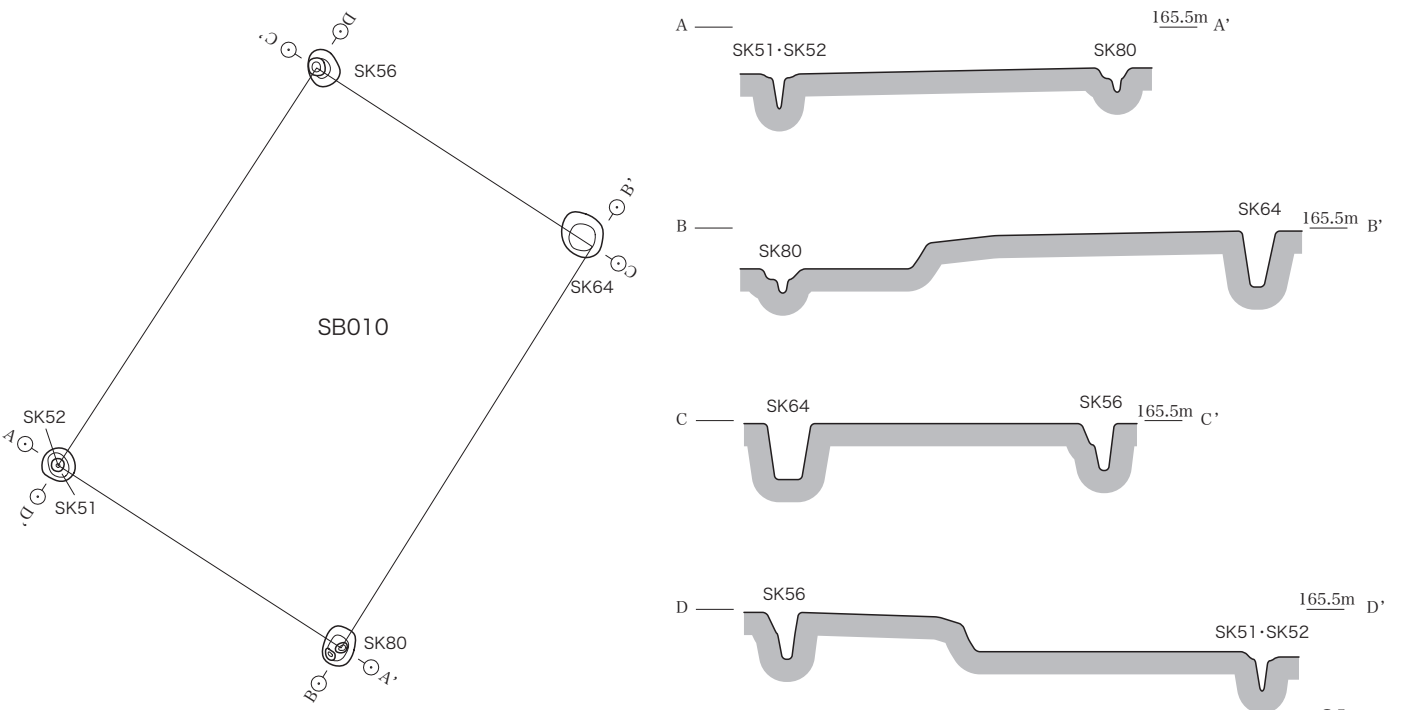
- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 10YR4/1 褐灰色細粒砂 | 9. 10YR2/1 黒色炭化物層 |
| 2. 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂 | 10. 10YR5/2 灰黄褐色シルト |
| 3. 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂 | 11. 10YR4/1 褐灰色シルト |
| 4. 10YR3/1 黒褐色シルト | 12. 10YR5/2 灰黄褐色シルト |
| 5. 10YR4/2 灰黄褐色中粒砂 | 13. 10YR7/6 明黄褐色粗粒砂 |
| 6. 10YR7/1 灰白色粗粒砂 | 14. 10YR3/1 黒褐色シルト |
| 7. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト | 15. 10YR5/6 黄褐色シルト |
| 8. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 | 16. 10YR3/1 黒褐色シルト |

173.0m B'

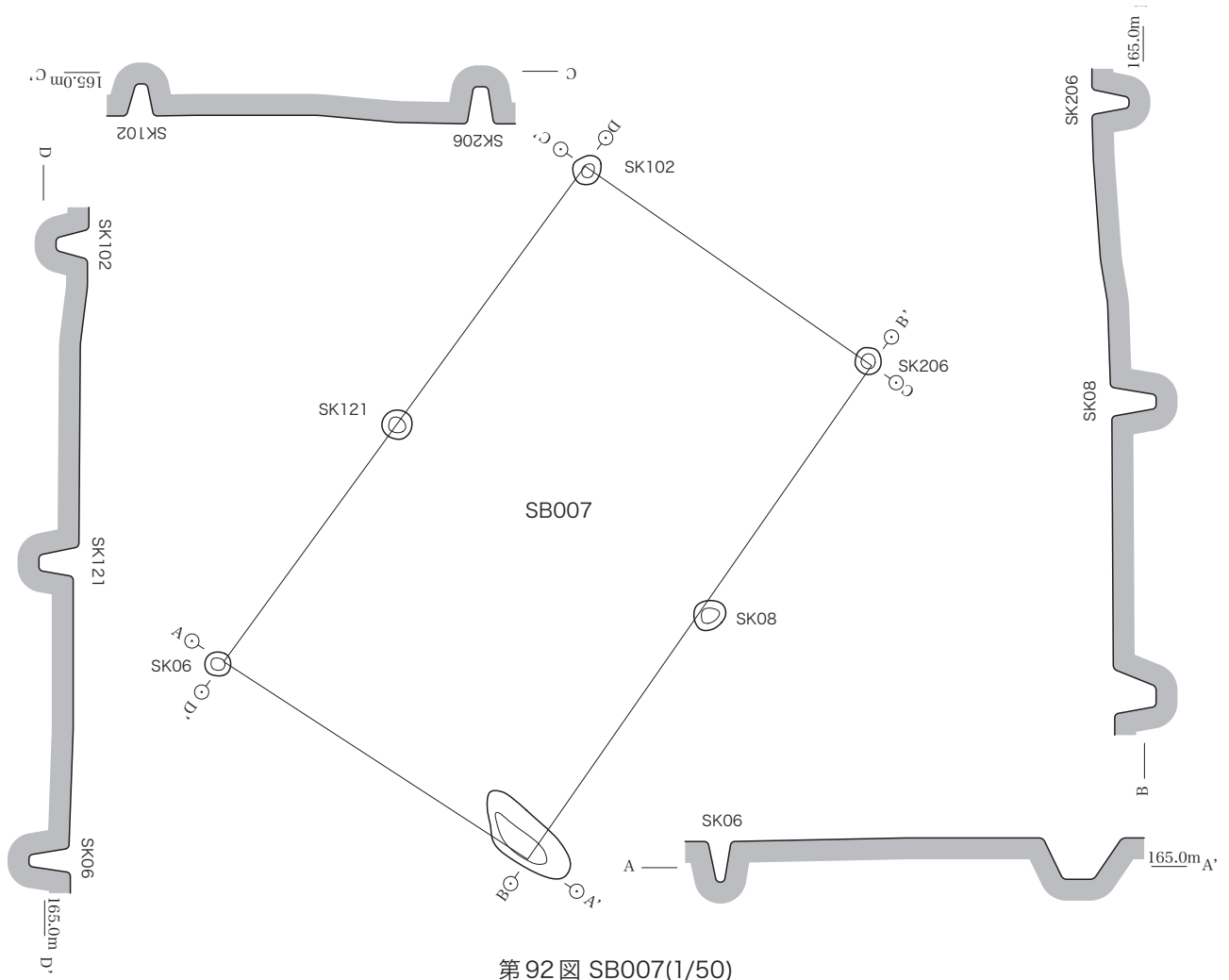




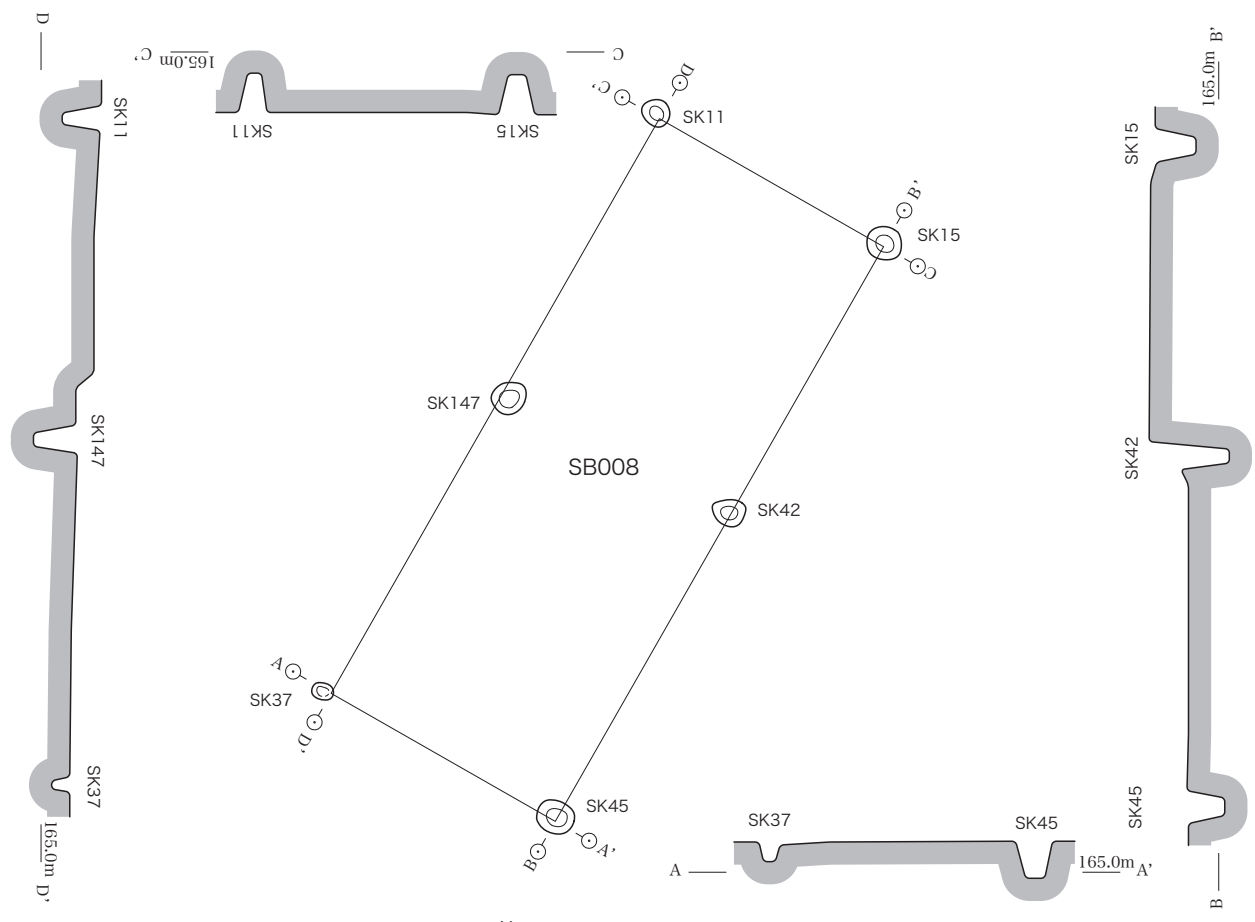
第90图 SB006(1/50)



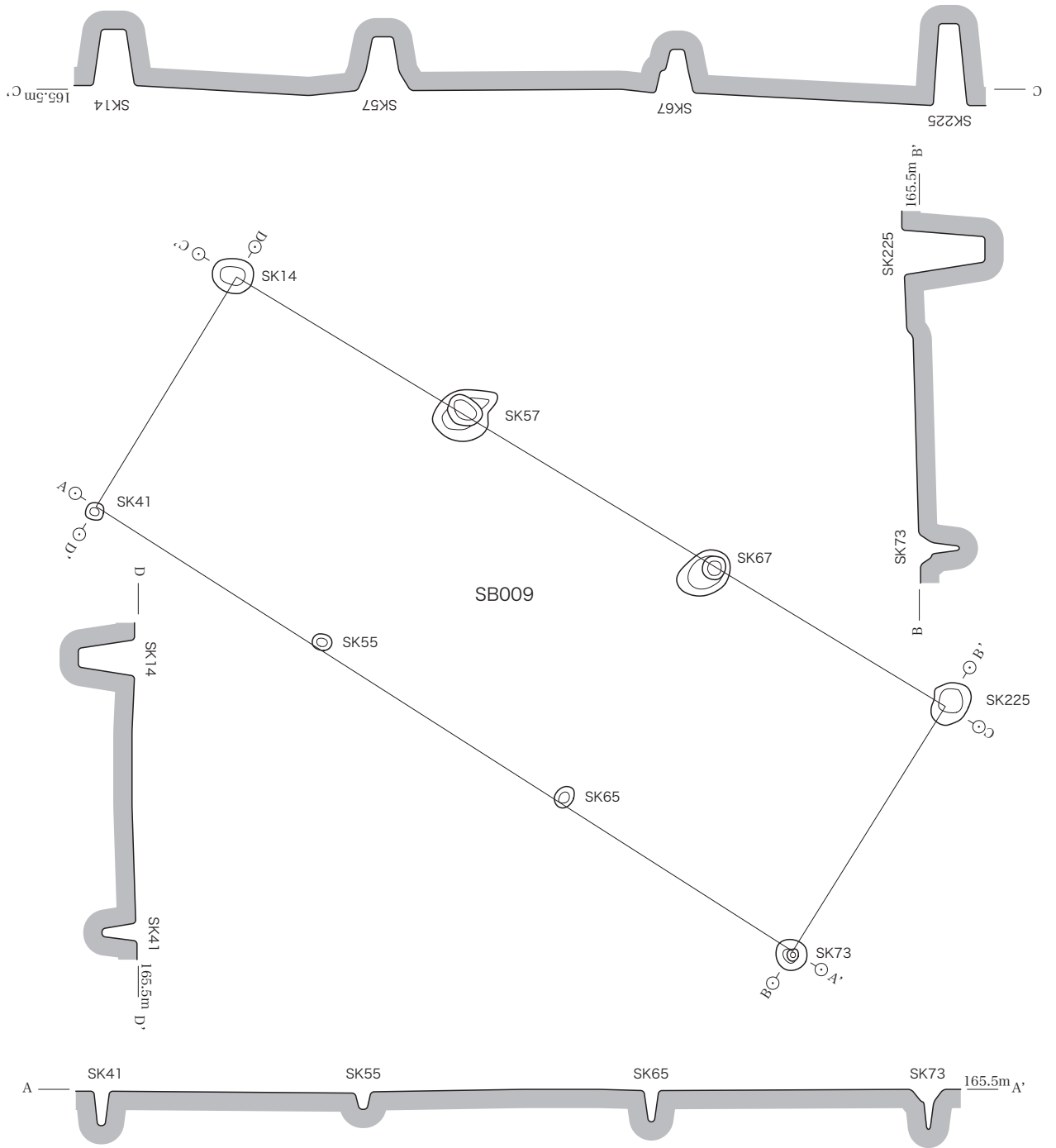
第91图 SB010(1/50)



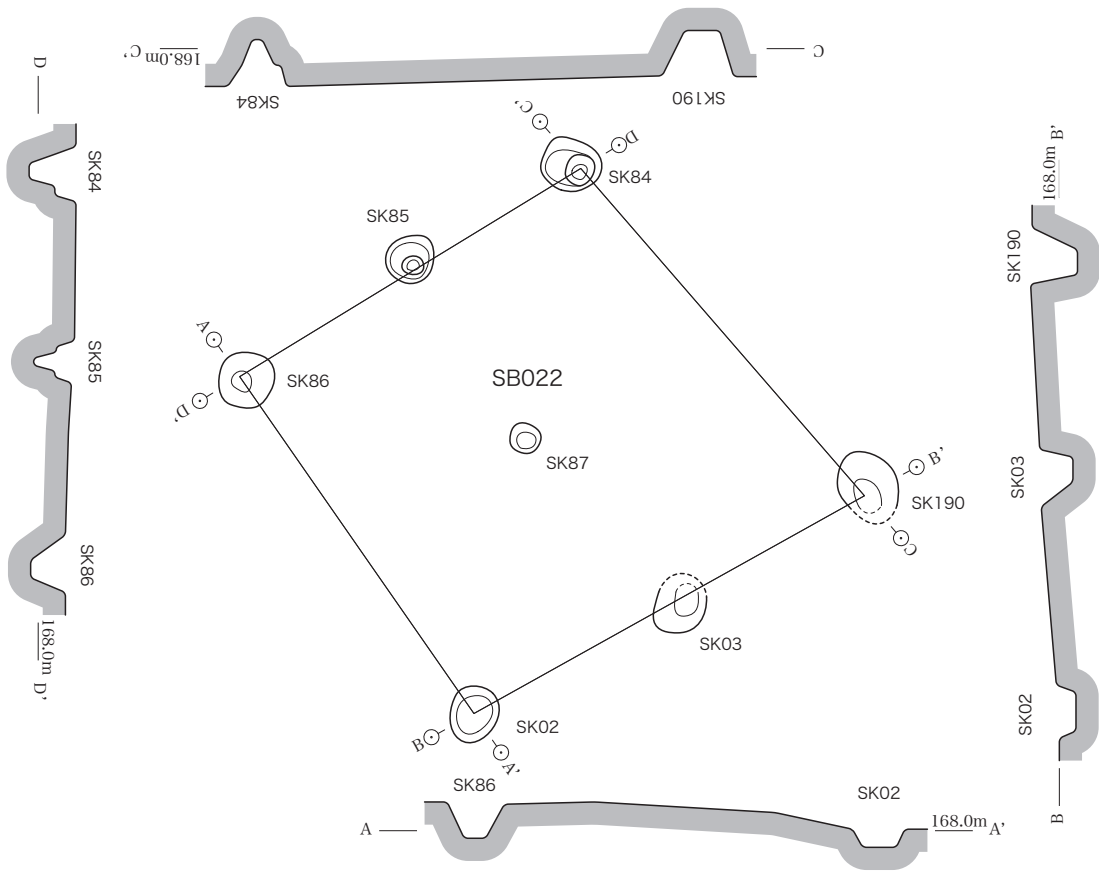
第92图 SB007(1/50)



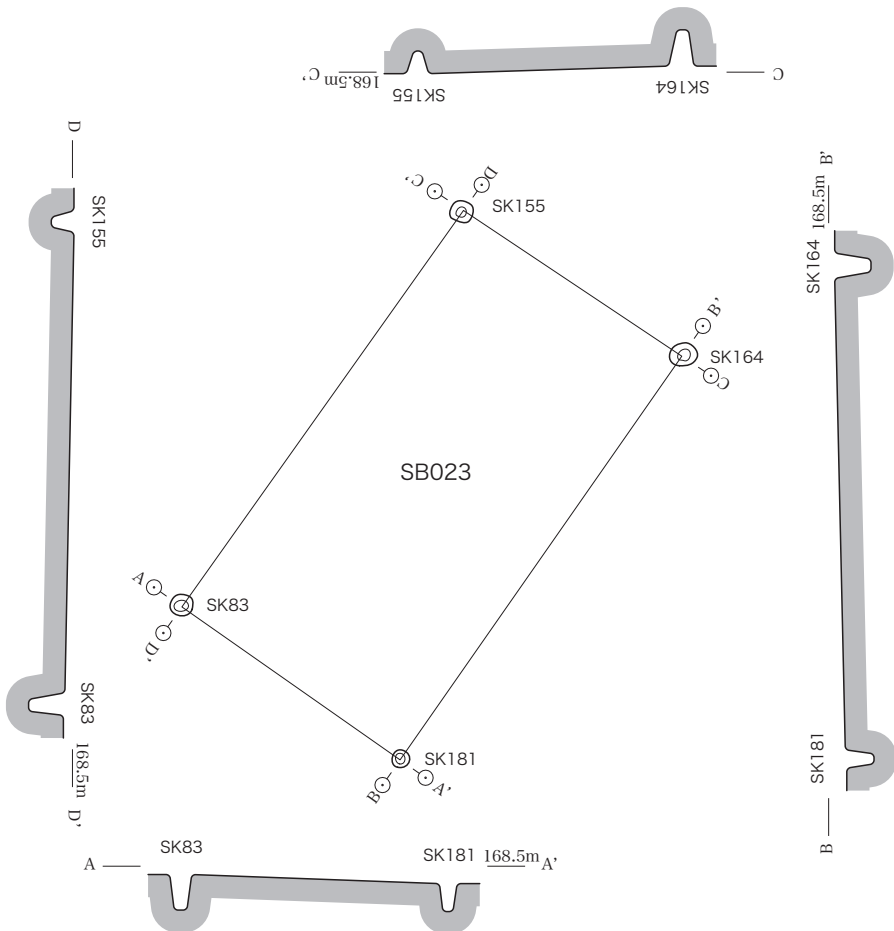
第93图 SB008(1/50)



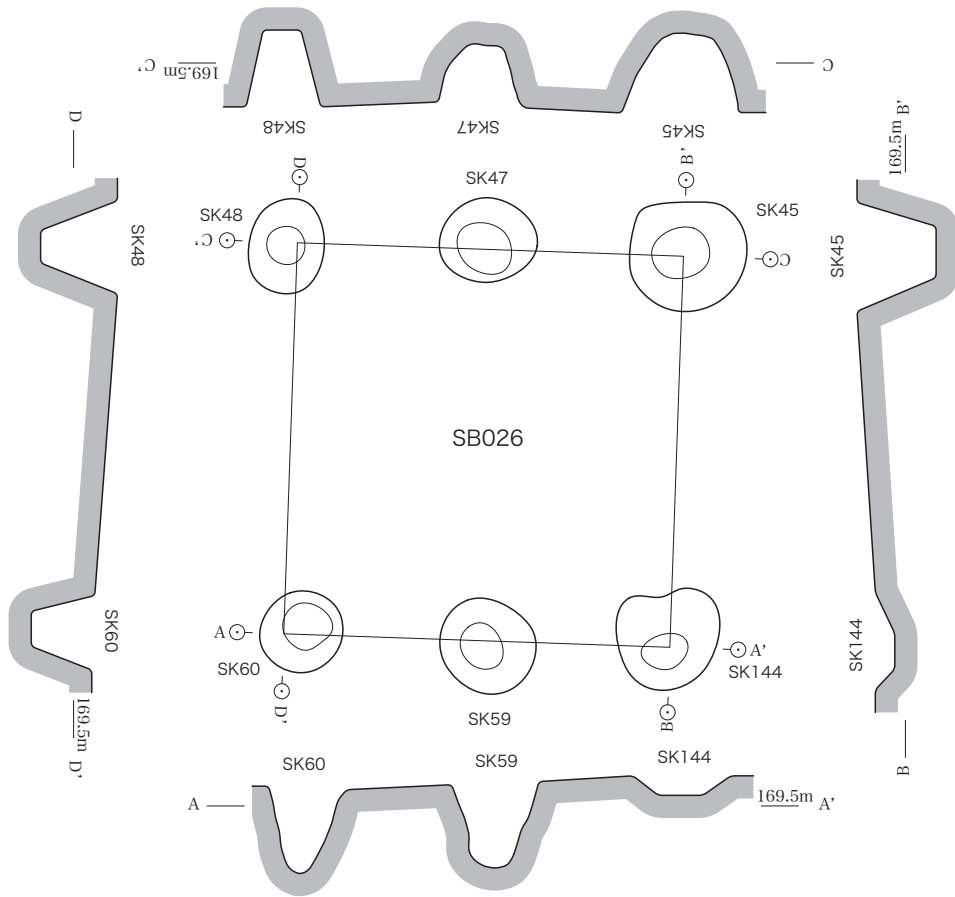
第94图 SB009(1/50)



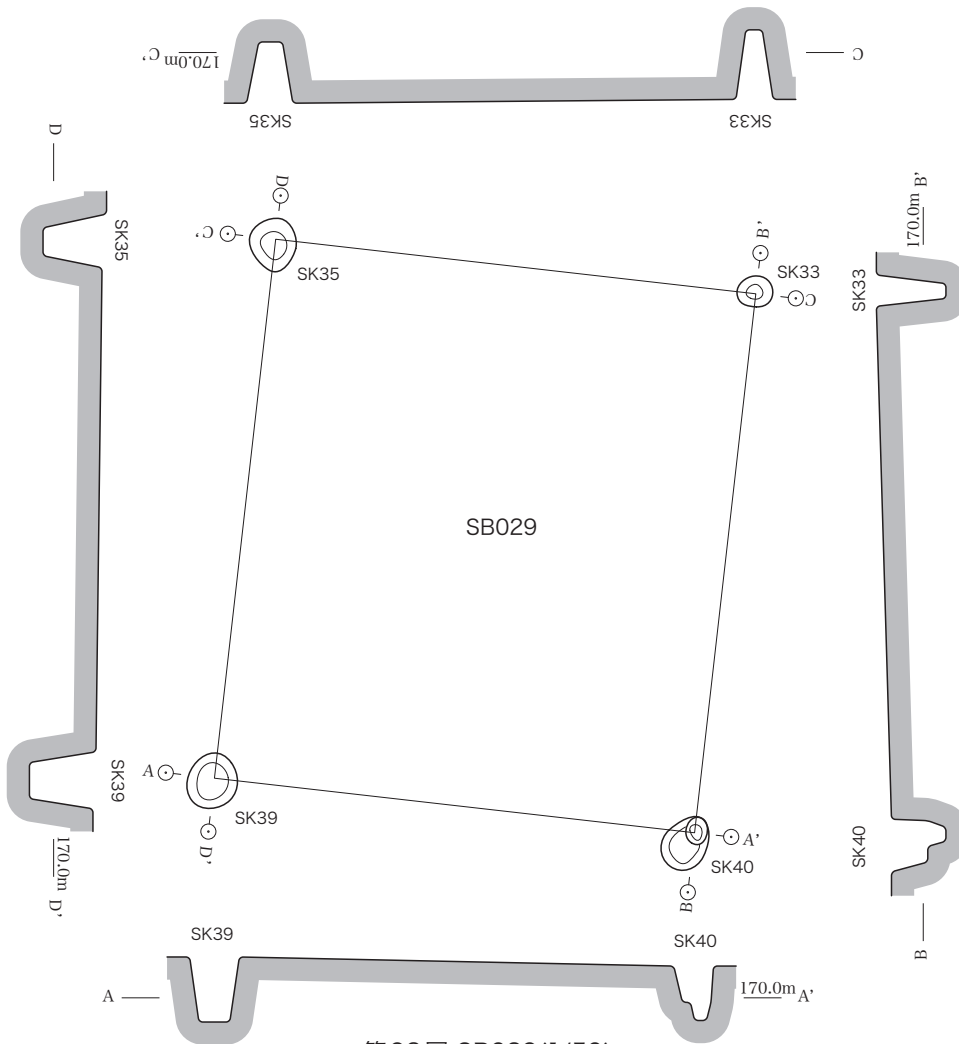
第95图 SB022(1/50)



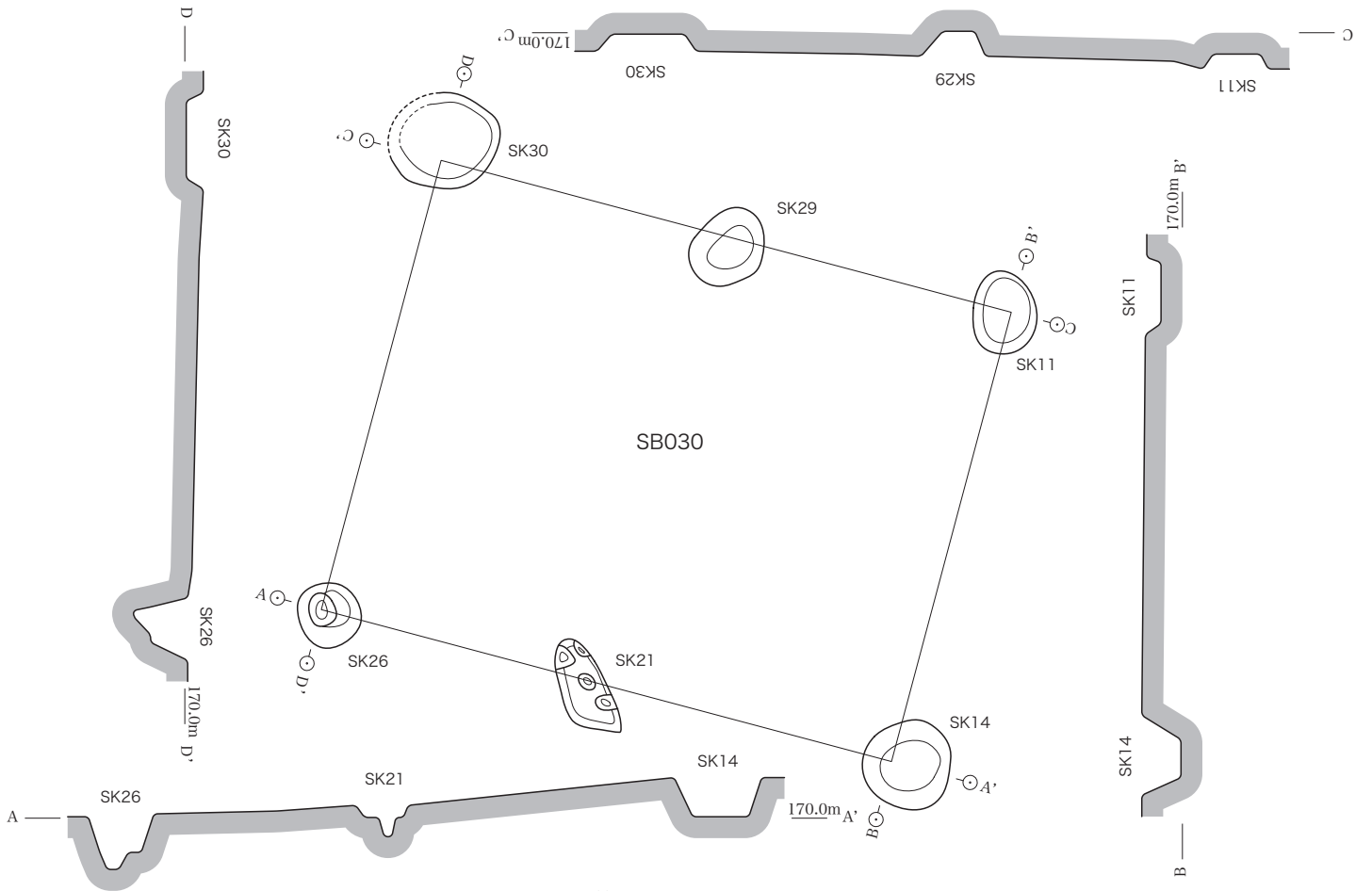
第96图 SB023(1/50)



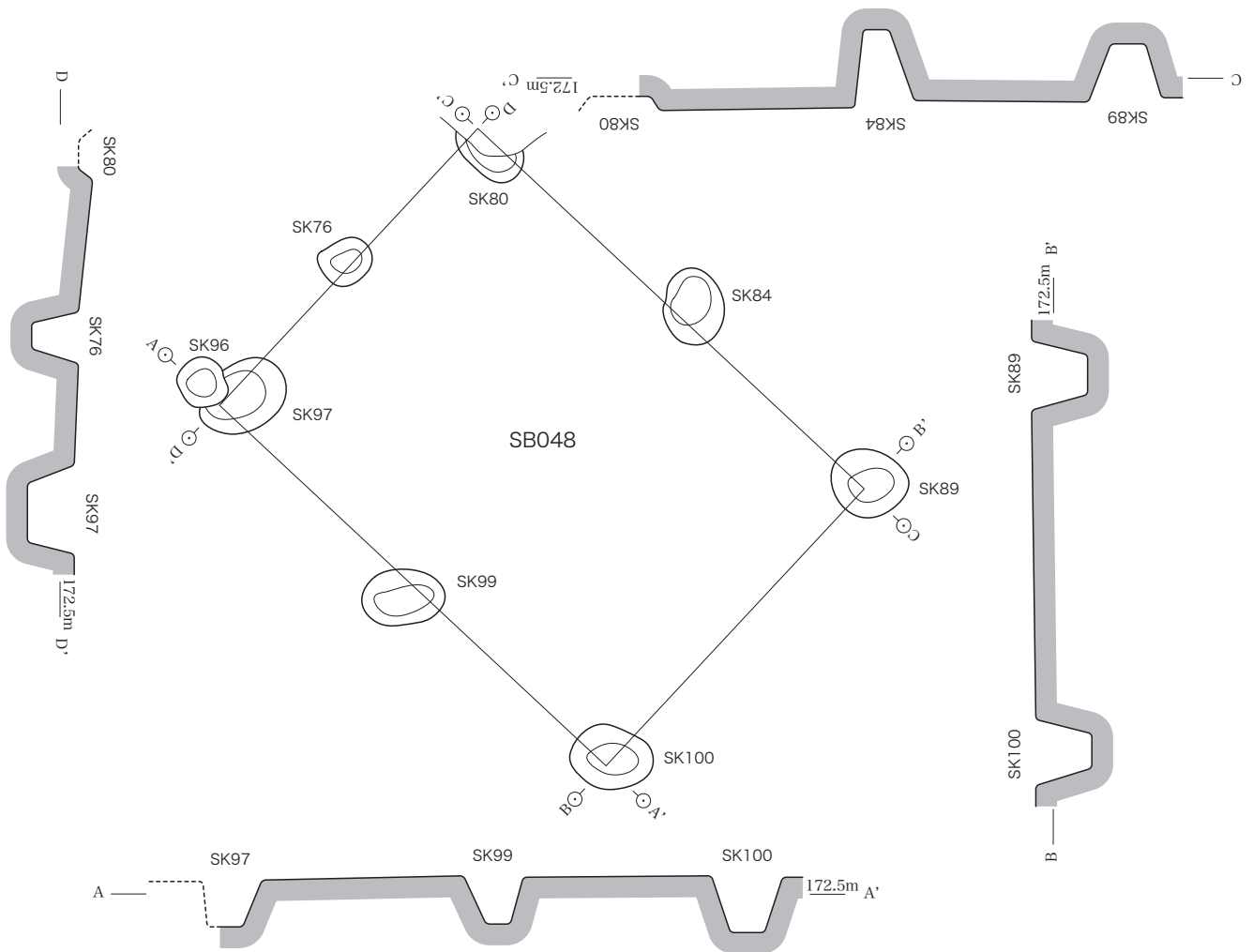
第97图 SB026(1/50)



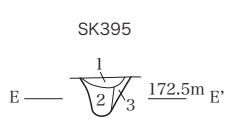
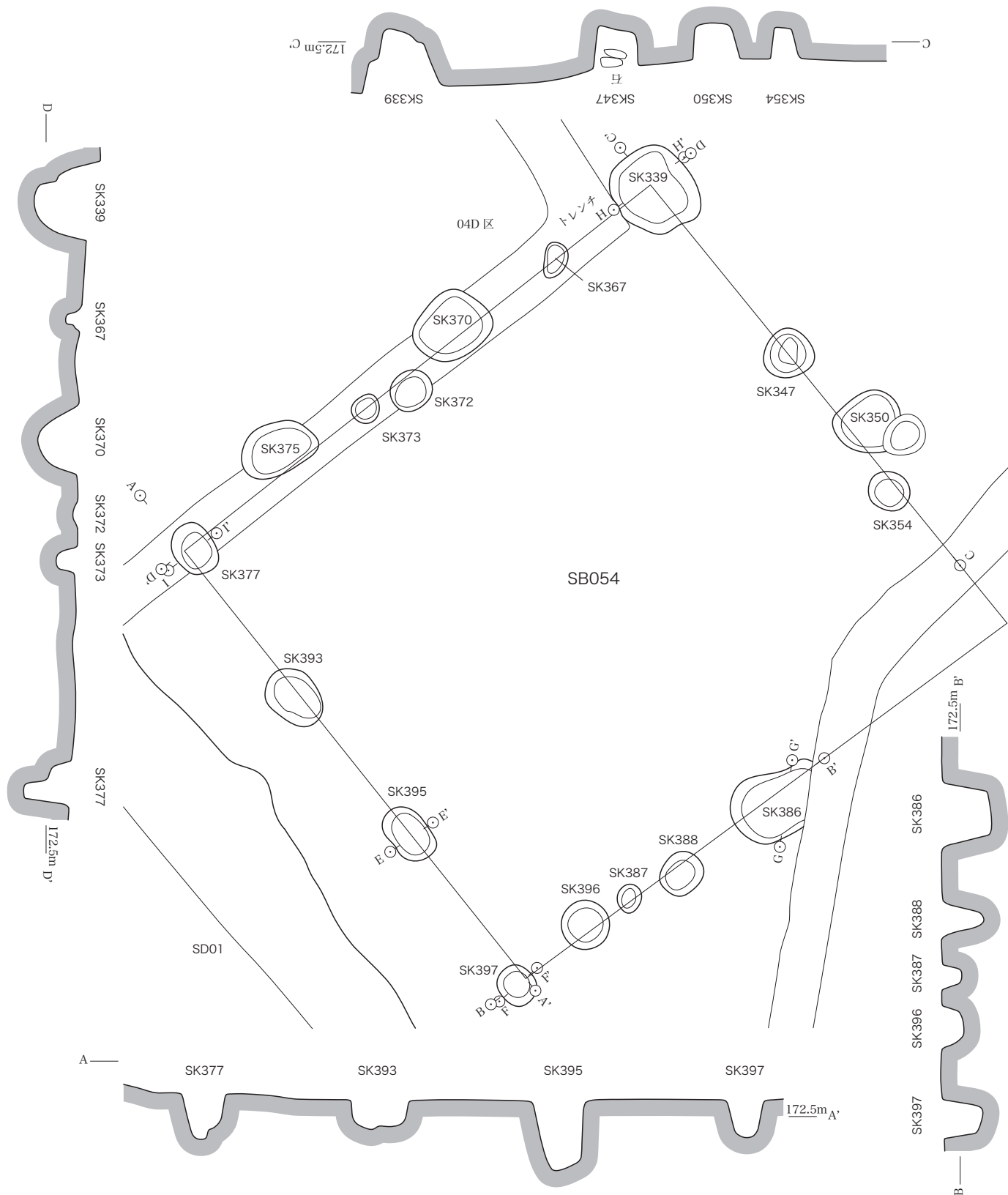
第98图 SB029(1/50)



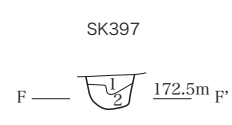
第99图 SB030(1/50)



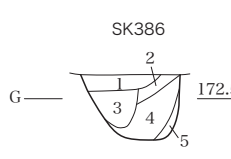
第100图 SB048(1/50)



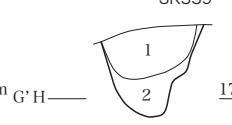
- 1. 10YR8/1 灰白色細粒砂
- 2. 10YR5/3 にふい黄褐色シルト
- 3. 10YR8/2 灰白色細粒砂



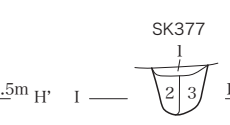
- 1. 10YR6/6 明黄褐色粘質土
- 2. 10YR3/1 黒褐色シルト



- 1. 10YR4/3 にふい黄褐色細粒砂
- 2. 10YR6/3 にふい黄褐色細粒砂
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 4. 10YR6/3 にふい黄褐色シルト
- 5. 10YR4/3 にふい黄褐色シルト

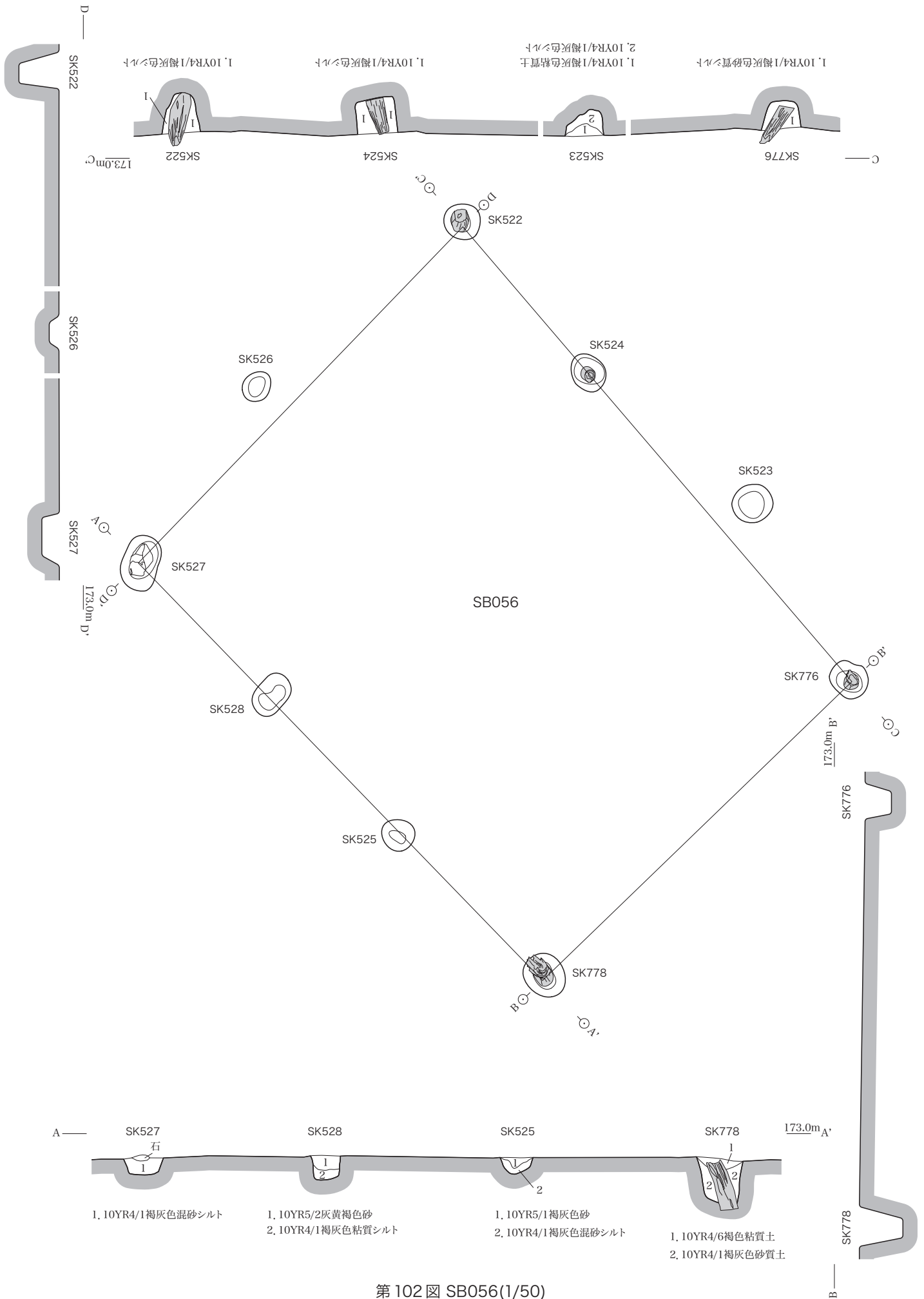


- 1. 10YR4/3 にふい黄褐色砂質シルト
- 2. 10YR3/3 暗褐色シルト

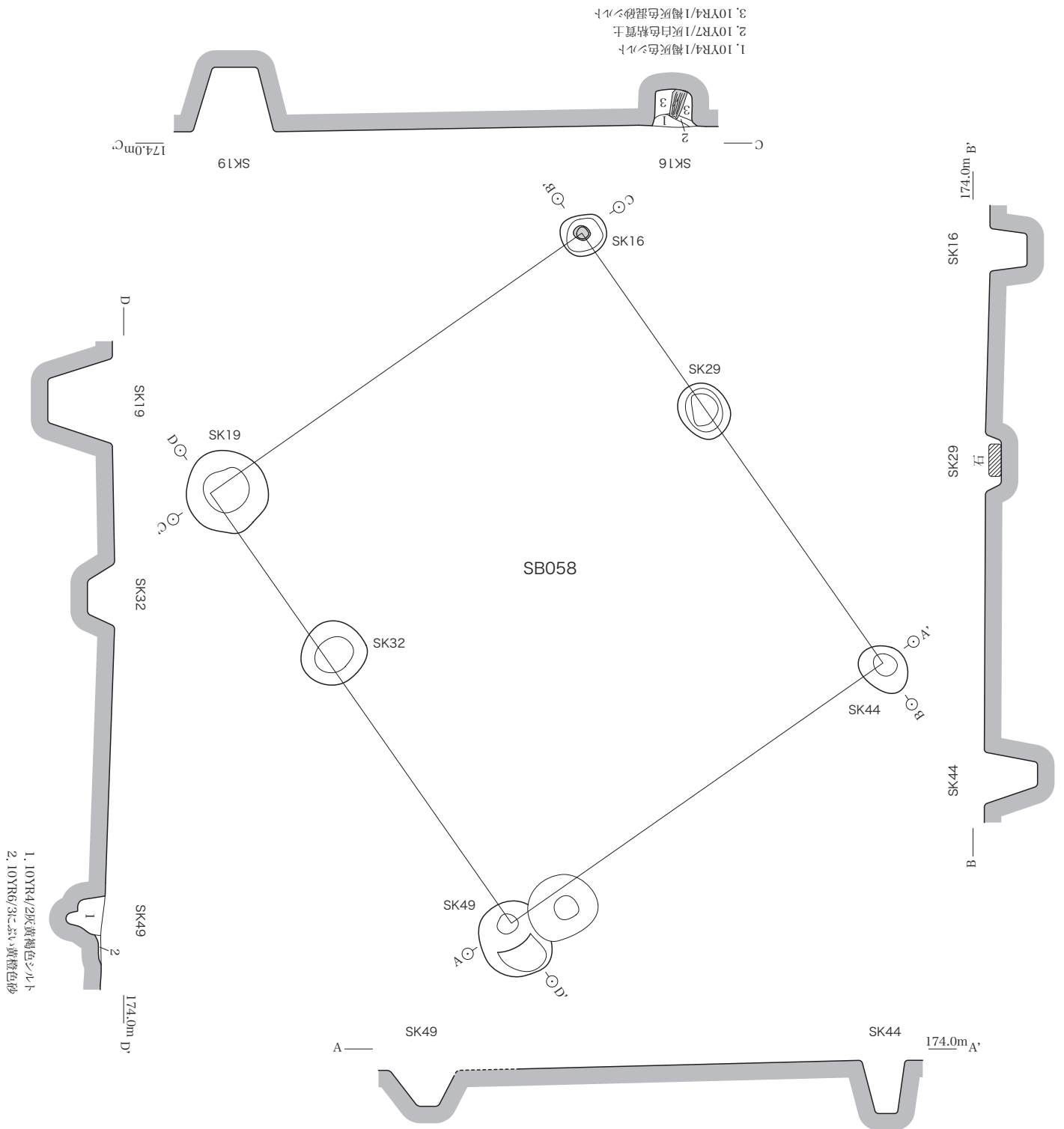


- 1. 10YR4/6 褐色粗粒砂
- 2. 10YR5/6 黄褐色シルト
- 3. 10YR6/6 明黄褐色シルト

第 101 図 SB054(1/50)

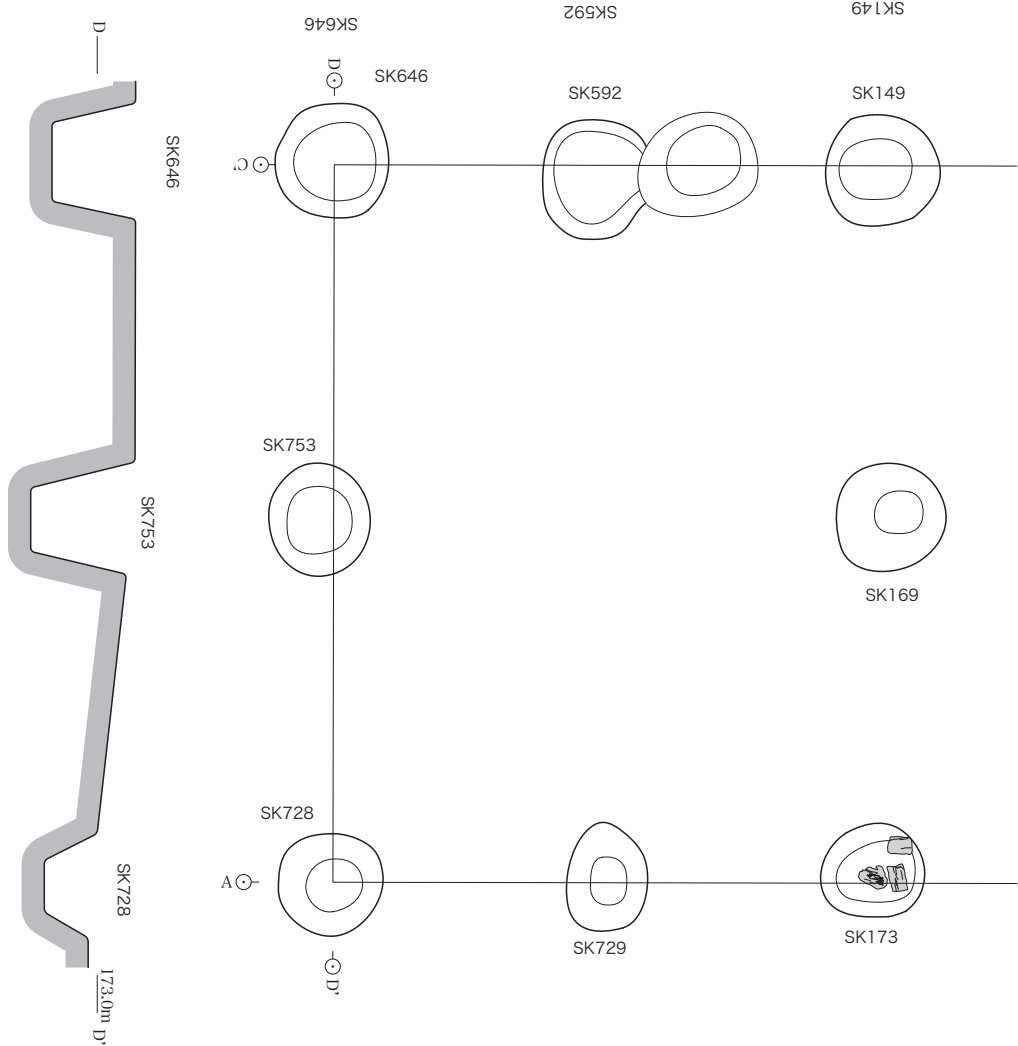
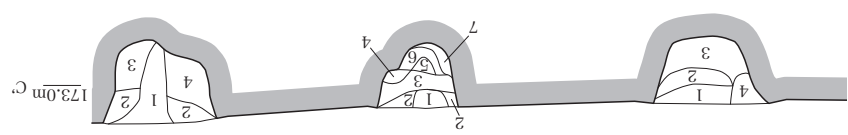


第 102 図 SB056(1/50)

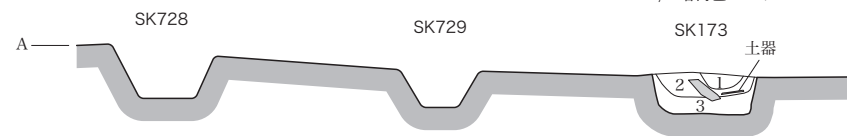


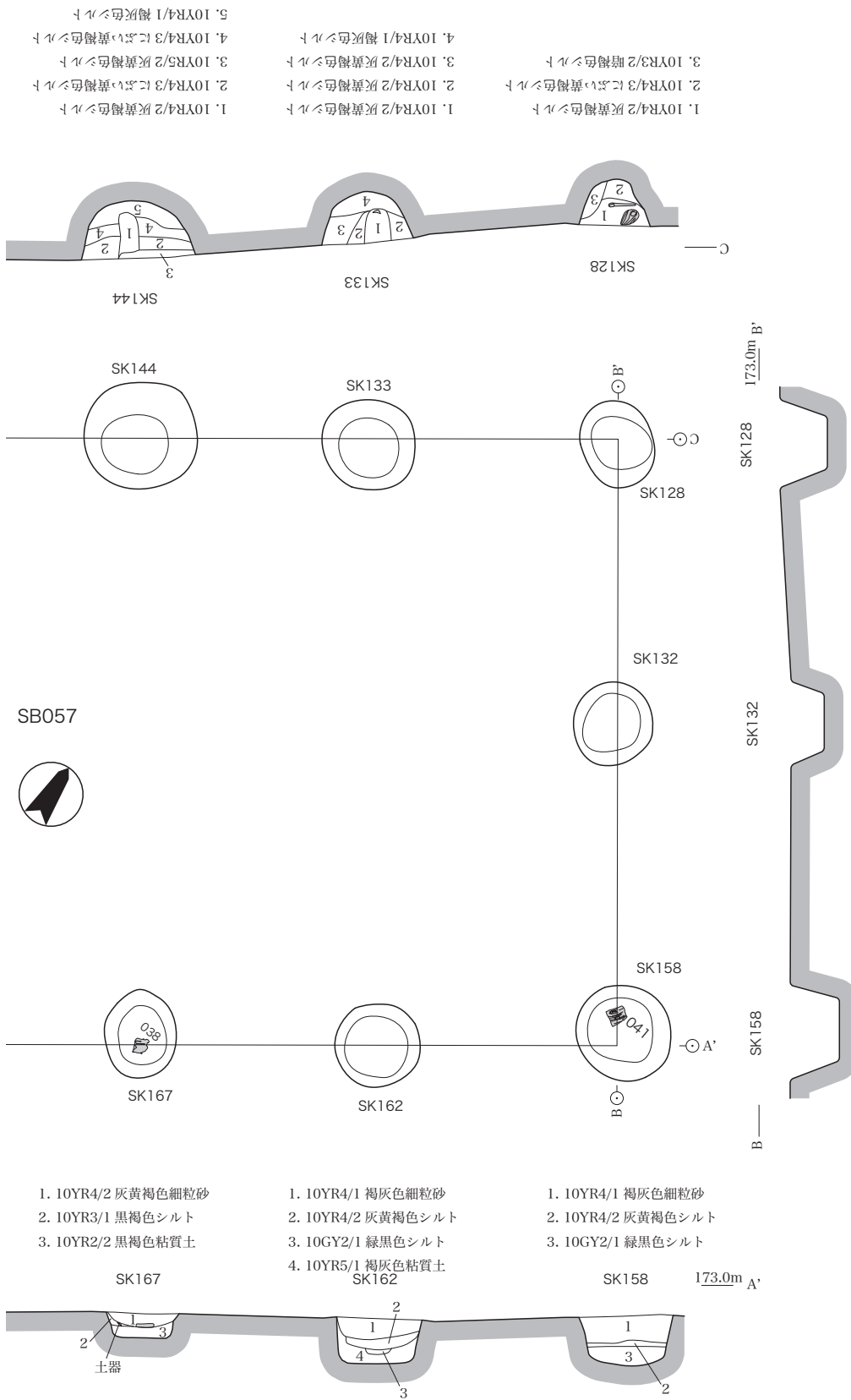
- 1. 10YR4/6 褐色シルト
- 2. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
- 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
- 6. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
- 7. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト

- 1. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂
- 2. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 4. 10YR6/3 にぶい黄褐色粗粒砂

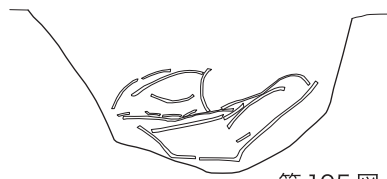
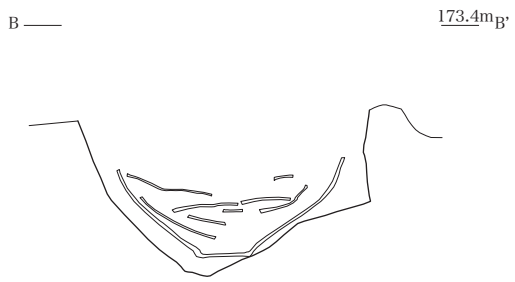
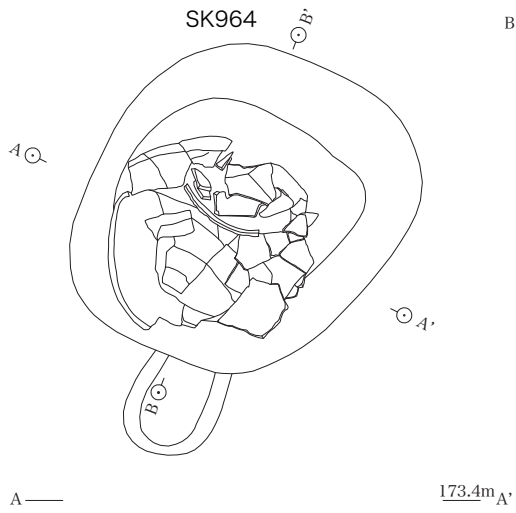


- 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂
- 2. 10YR3/4 暗褐色シルト
- 3. 10YR3/2 暗褐色シルト

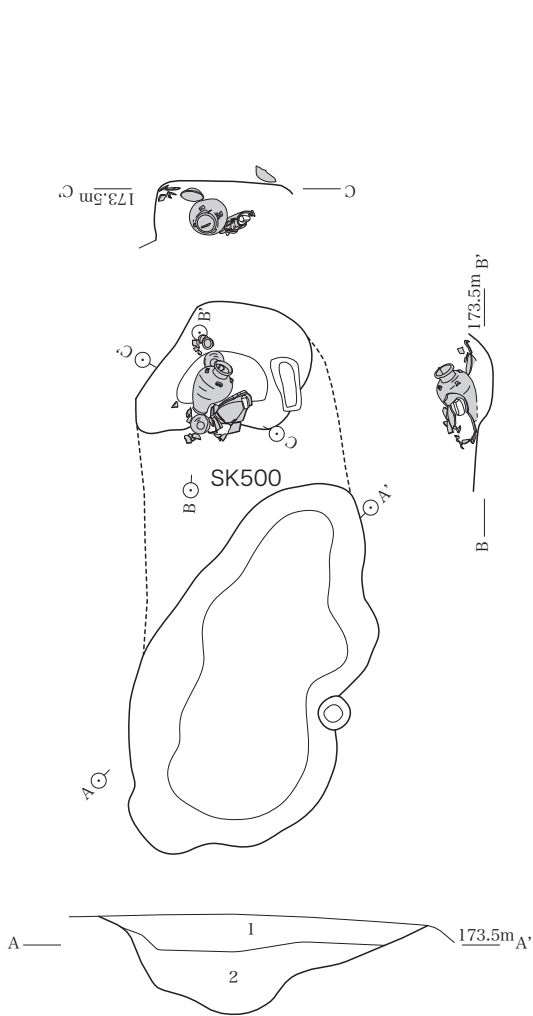




第 104 図 SB057(1/50)

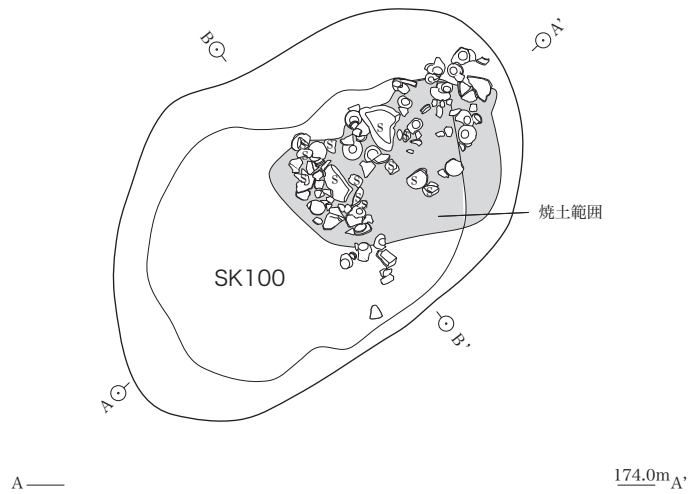


第105図 04Ca区 SK964(1/50)

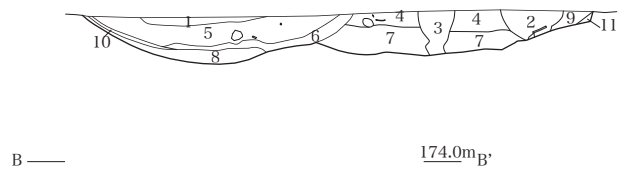


1. 7.5YR4/4褐色シルト
2. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト

第106図 04Cb区 SK500(1/50)

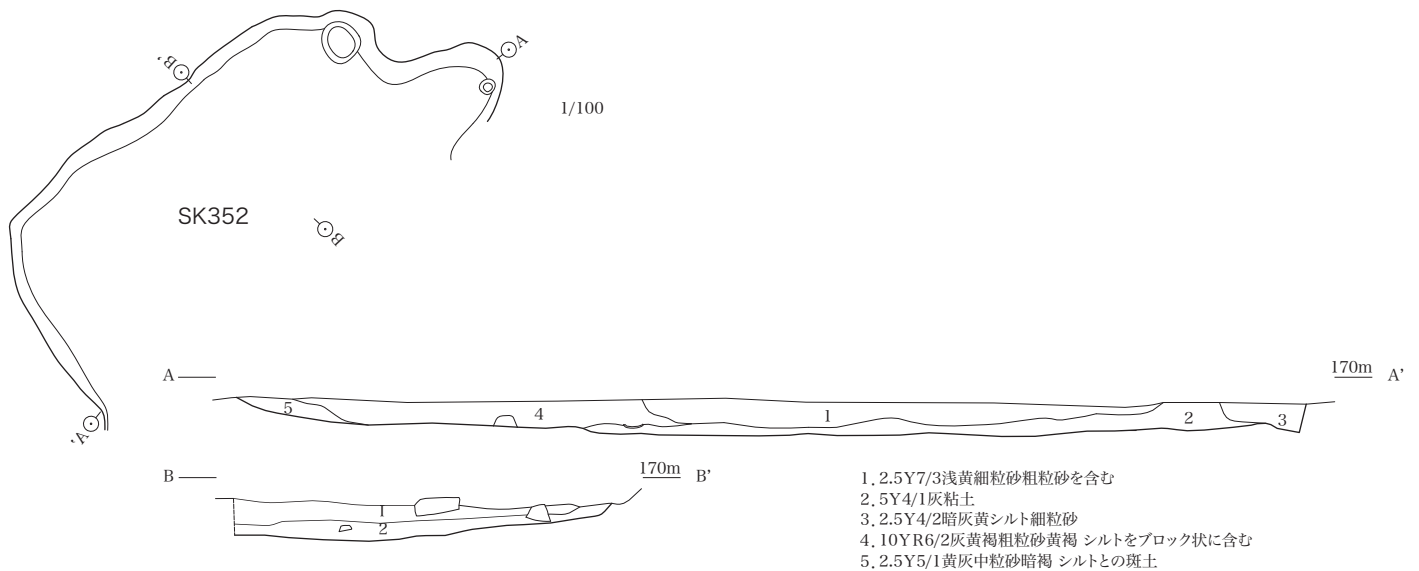


第107図 04Cb区 SK100(1/50)

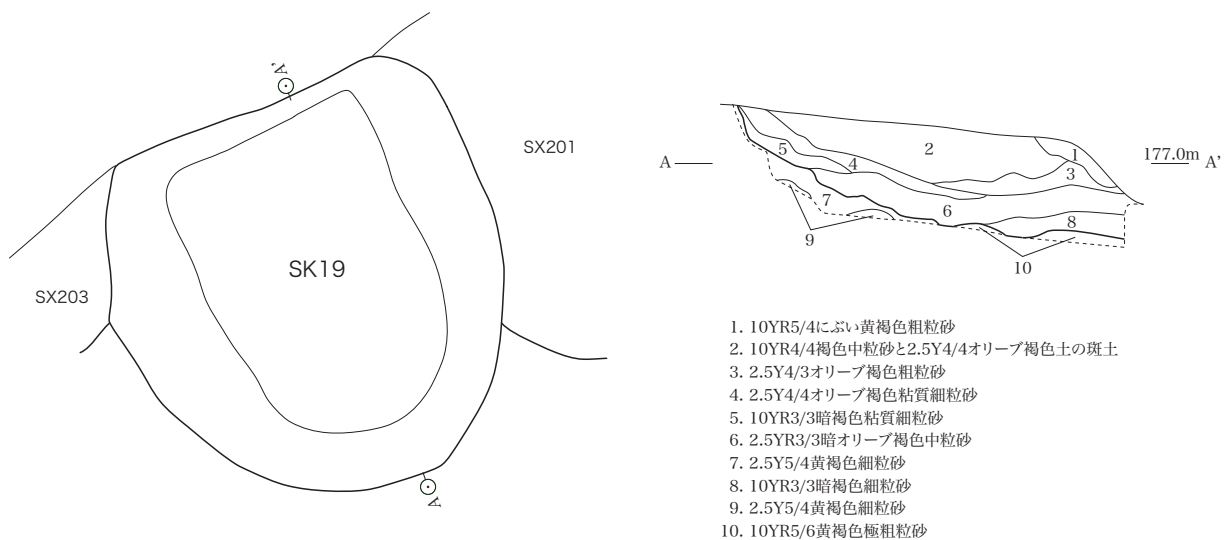


1. 7.5YR4/6褐シルト黄灰
2. 2.5Y4/1黄灰粘質シルト
3. 10YR4/1褐灰中粒砂黄灰
4. 10YR4/2灰黄褐細粒砂黄灰
5. 10YR4/2灰黄褐細粒砂黄灰
6. 10YR4/2灰黄褐粘質シルト黄灰
7. 10YR5/3にぶい黄褐粘土
8. 10YR5/1褐灰砂土黄灰
9. 10YR5/2灰黄褐シルト黄灰
10. 2.5Y5/1黄灰中粒砂
11. 2.5Y5/1黄灰中粒砂褐
12. 2.5Y5/1黄灰中粒砂黒褐

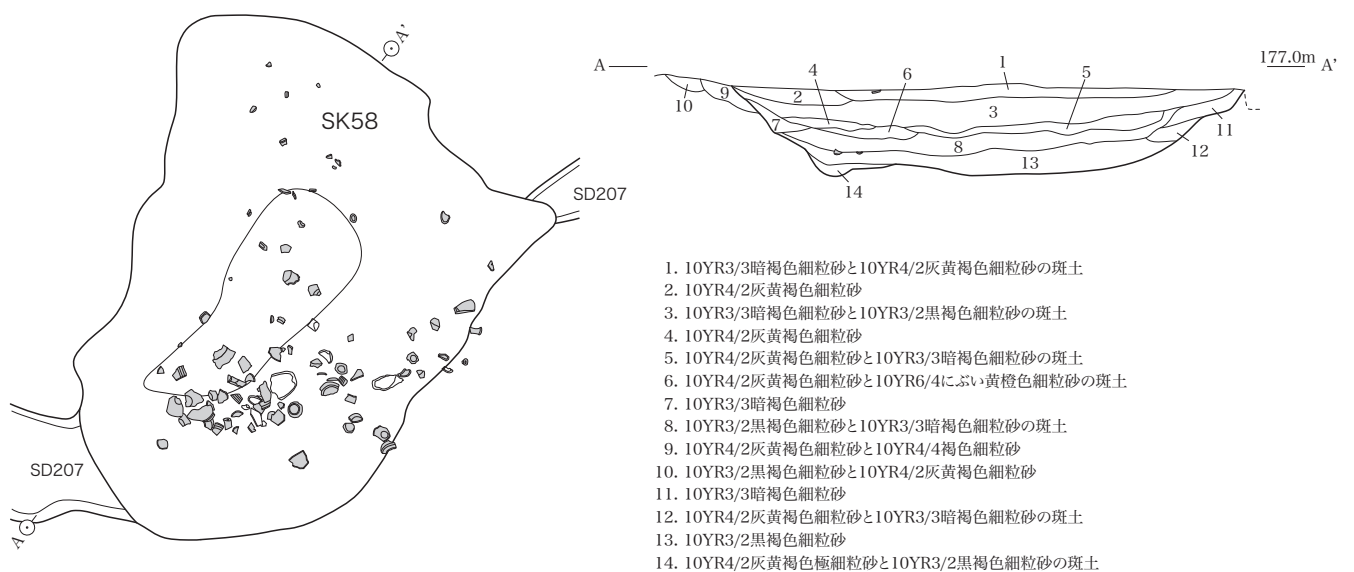
第107図 04Cb区 SK100(1/50)



第108図 04Cb区 SK352(1/50)



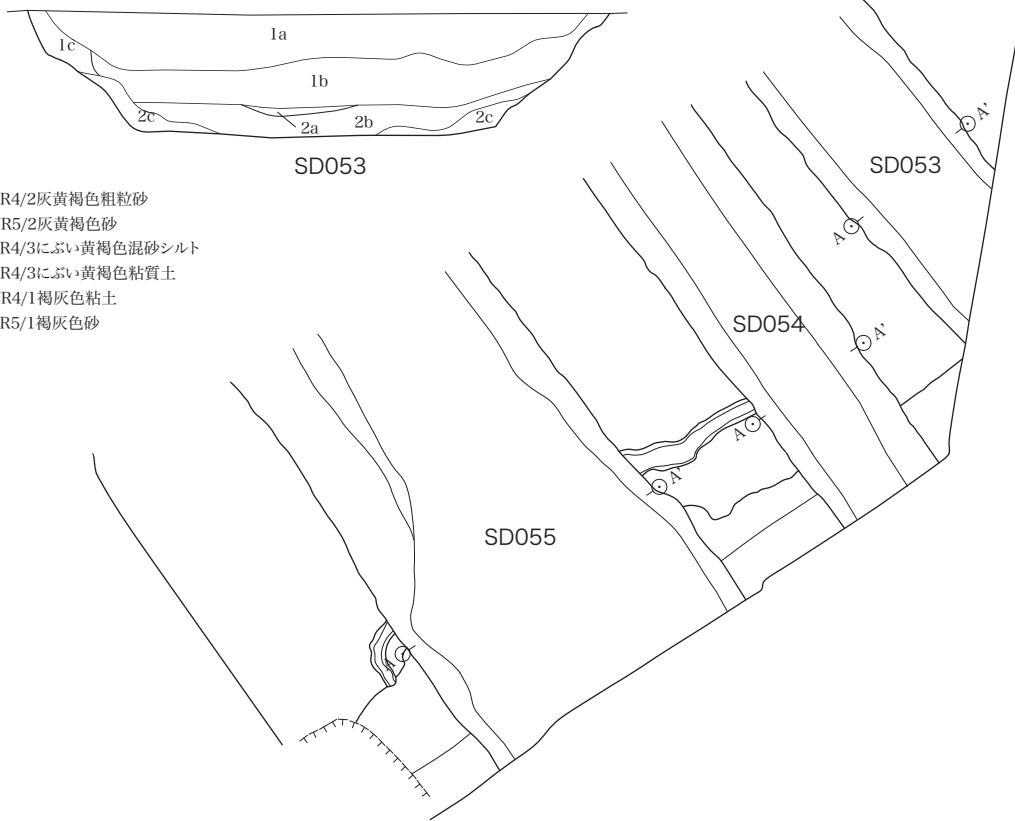
第109図 02A区 SK19(1/50)



第110図 02B区 SK58(1/50)

A —

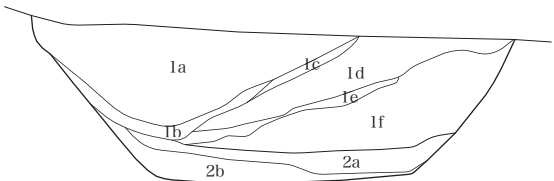
173.0m A'



- 1a.10YR4/2灰黄褐色粗粒砂
- 1b.10YR5/2灰黄褐色砂
- 1c.10YR4/3にぶい黄褐色混砂シルト
- 2a.10YR4/3にぶい黄褐色粘質土
- 2b.10YR4/1褐灰色粘土
- 2c.10YR5/1褐灰色砂

A —

173.0m A'



SD054

- 1a.10YR5/1褐灰色シルト
- 1b.10YR5/2灰黄褐色粘土
- 1c.10YR5/3にぶい黄橙砂
- 1d.10YR7/4にぶい黄橙粗粒砂
- 1e.10YR5/2灰黄褐色砂
- 1f.10YR5/1褐灰色混砂シルト
- 2a.10YR3/1黒褐色粘質土
- 2b.10YR5/2灰黄褐色砂

A —

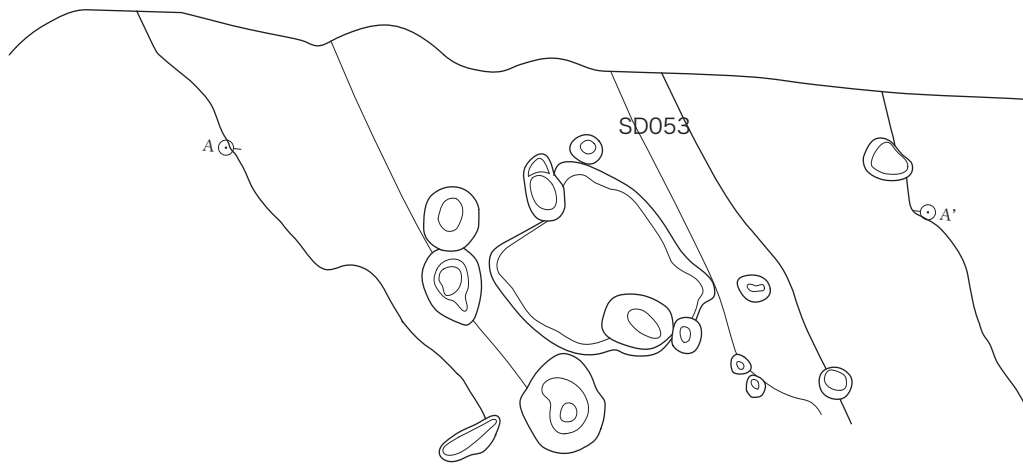
172.5m A'



SD055

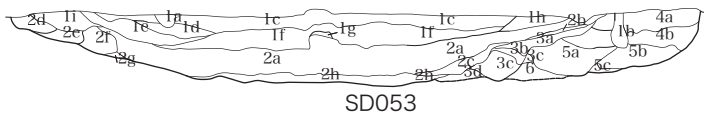
- 1a.10YR5/2灰黄褐色砂質シルト
- 1b.10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
- 1c.10YR5/1褐灰色粘質シルト
- 2a.10YR3/1黒褐色粘質土
- 2b.10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂

第111図 SD053-055断面図(1/50)



A —

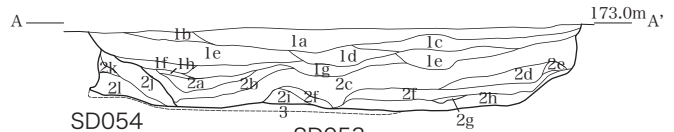
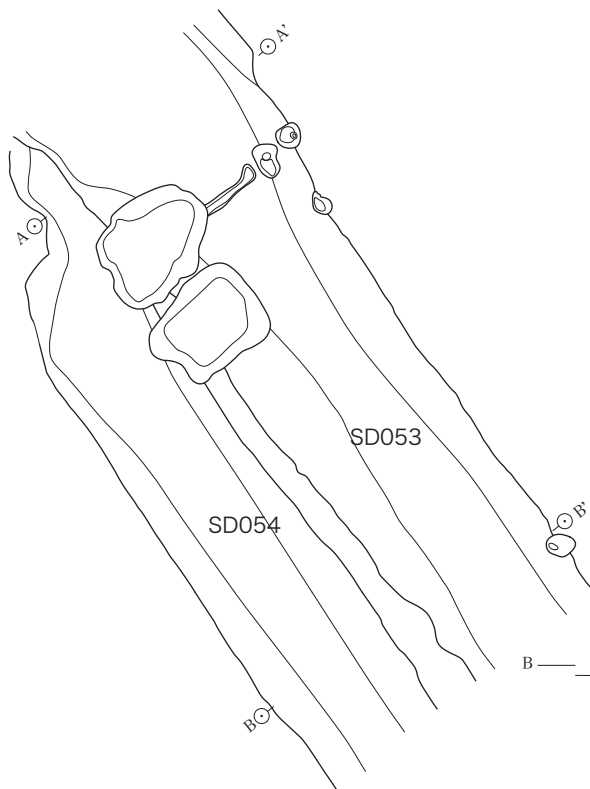
174.0m A'



SD053

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1a, 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト | 3a, 10YR5/1褐灰色砂質シルト |
| 1b, 10YR5/1褐灰色粘質シルト根痕 | 3b, 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト |
| 1c, 10YR6/1灰黄褐色シルト | 3c, 7.5YR5/4にぶい褐色粘質土 |
| 1d, 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト | 3d, 10YR6/3にぶい黄褐色粘質土 |
| 1e, 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト | 4a, 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト |
| 1f, 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト | 4b, 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト |
| 1g, 10YR6/2灰黄褐色粘質土 | 5a, 10YR3/2黒褐色粘質シルト |
| 1h, 10YR4/1褐灰色シルト | 5b, 10YR3/1黒褐色粘質土 |
| 1i, 10YR4/2灰黄褐色シルト | 5c, 10YR6/2灰黄褐色シルト |
| 2a, 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土 | 6, 7.5YR5/4にぶい褐色粘質土 |
| 2b, 10YR5/1褐灰色シルト | |
| 2c, 10YR5/1褐灰色シルト | |
| 2d, 10YR3/1黒褐色砂質シルト | |
| 2e, 10YR4/1褐灰色砂質シルト | |
| 2f, 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト | |
| 2g, 10YR4/1褐灰色粘質シルト | |
| 2h, 10YR4/1褐灰色粘質土 | |

第112図 SD053断面図 (1/50)



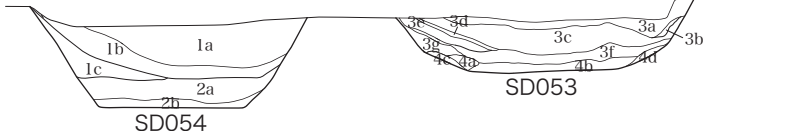
SD054

SD053

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1a, 10YR6/2灰黄褐色シルト | 2a, 10YR7/1灰白色シルト |
| 1b, 10YR5/3にぶい黄褐色シルト | 2b, 10YR7/2灰黄褐色シルト |
| 1c, 10YR5/3にぶい黄褐色シルト | 2c, 10YR6/2灰黄褐色シルト |
| 1d, 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト | 2d, 10YR5/2褐灰色シルト |
| 1e, 10YR7/1灰白色粘質シルト | 2e, 10YR4/1褐灰色シルト |
| 1f, 10YR4/2灰黄褐色シルト | 2f, 10YR4/1褐灰色シルト粘性強い。 |
| 1g, 10YR4/1褐灰色粘質シルト | 2g, 10YR4/2灰黄褐色シルト |
| 1h, 10YR4/1褐灰色シルト | 2h, 10YR7/2にぶい黄褐色粘質シルト |
| | 2i, 10YR7/1灰白色粘質シルト |
| | 2j, 10YR4/2灰黄褐色シルト |
| | 2k, 10YR5/1にぶい黄褐色シルト |
| | 2l, 10YR4/2灰黄褐色シルト |
| | 3, 10YR7/1灰白色粘質シルト |

B —

173.0m B'



SD054

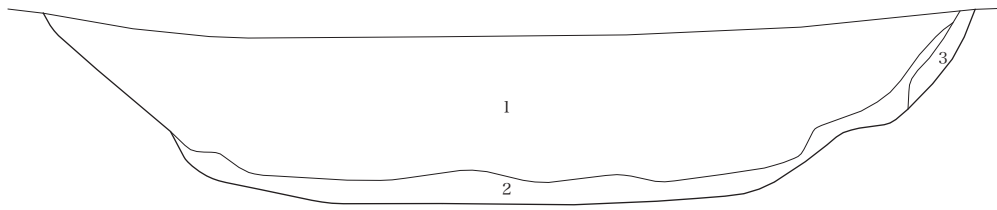
SD053

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1a, 7.5YR5/6明褐色砂質土 | 3d, 10YR5/3にぶい黄褐色混砂シルト |
| 1b, 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト | 3e, 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト |
| 1c, 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト | 3f, 10YR5/2灰黄褐色粘質砂土 |
| 2a, 10YR4/1褐灰色混砂粘質土 | 3g, 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト |
| 2b, 10YR4/1褐灰色粘質土 | 4a, 10YR5/1褐灰色混砂粘質土 |
| 3a, 7.5YR5/6明褐色砂質土 | 4b, 10YR3/1黒褐色粘質土 |
| 3b, 7.5YR5/4にぶい褐色砂質土 | 4c, 10YR4/2灰黄褐色粘質土 |
| 3c, 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト | 4d, 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト |

第113図 SD053・054断面図 (1/50)

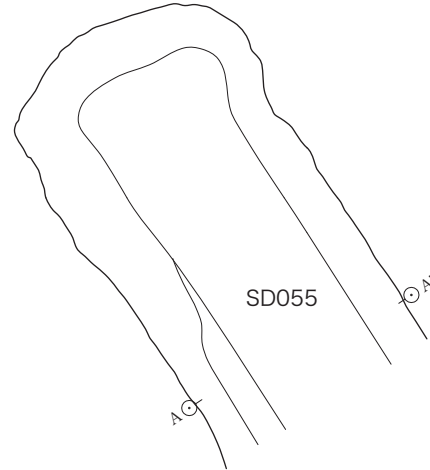
A—

173.0m A'

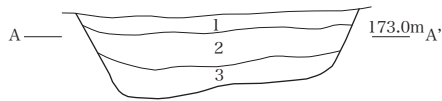


SD055

- 1. 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂
- 2. 10YR3/1 黑褐色粘質土
- 3. 10YR6/3 黄褐色砂質土

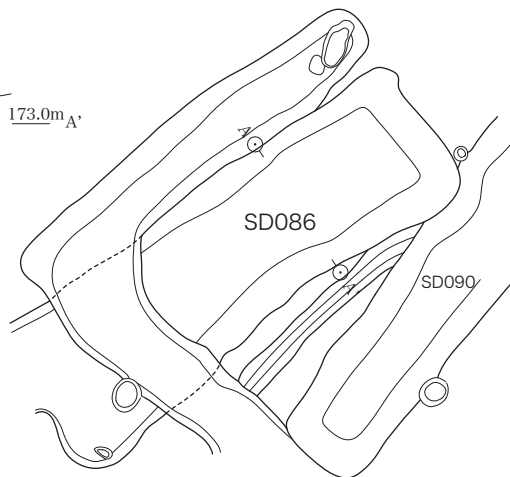


第 114 図 SD055 断面図 (1/50)



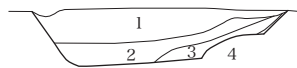
SD086

- 1. 10YR5/2 灰黄褐シルト粘土
- 2. 10YR3/2 黑褐粘質土
- 3. 10YR3/1 黑黄粘質土



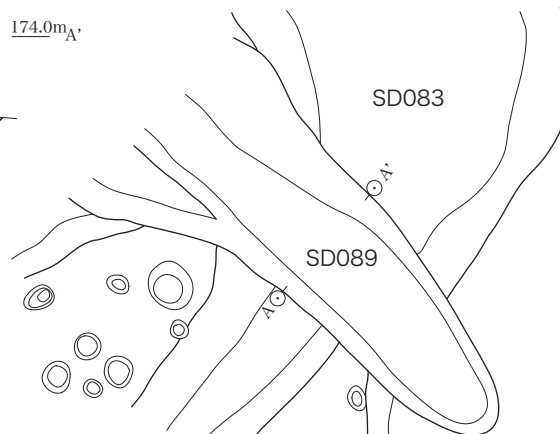
第 115 図 SD086 断面図 (1/50)

A— 174.0m A'

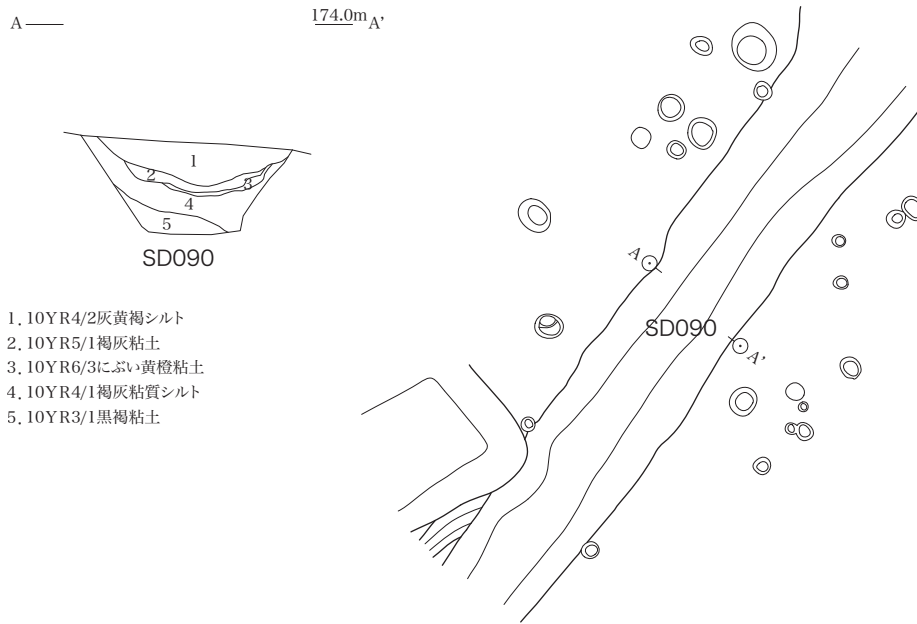


SD089

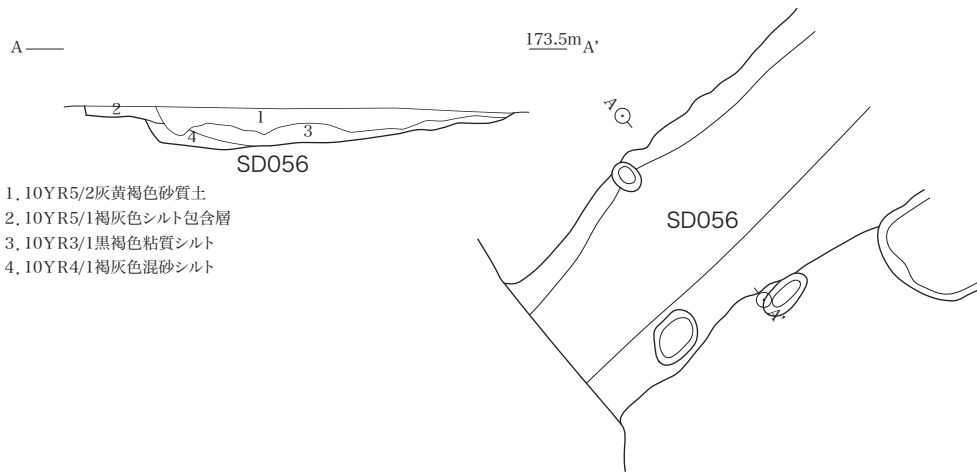
- 1. 10YR5/2 灰黄褐シルト粘土
- 2. 10YR4/2 灰黄褐シルト粘土
- 3. 10YR6/6 明黄褐シルト
- 4. 10YR4/1 褐灰シルト



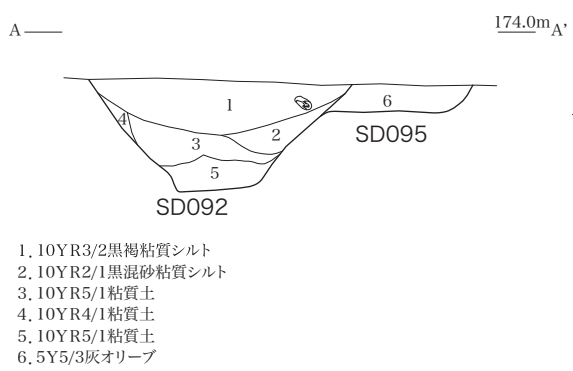
第 116 図 SD089 断面図 (1/50)



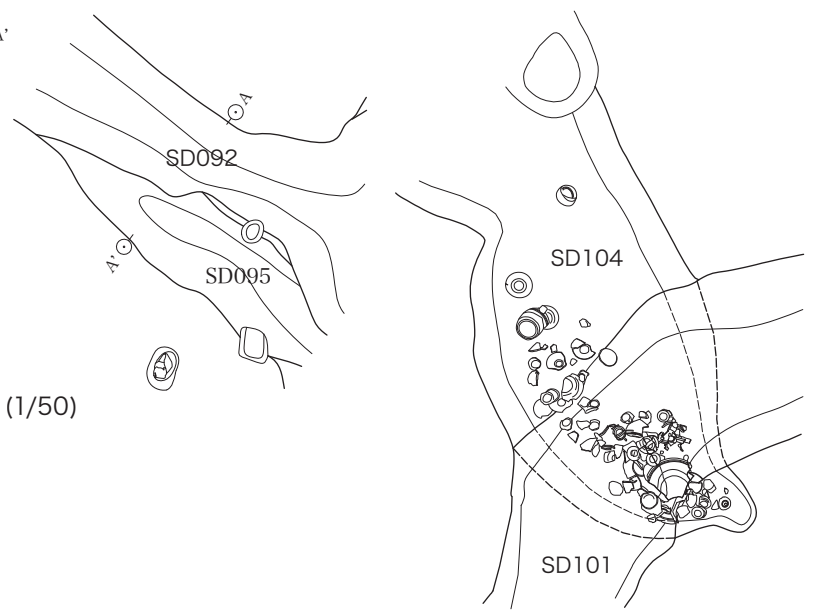
第 117 図 SD090 断面図 (1/50)



第 118 図 SD056 断面図 (1/50)

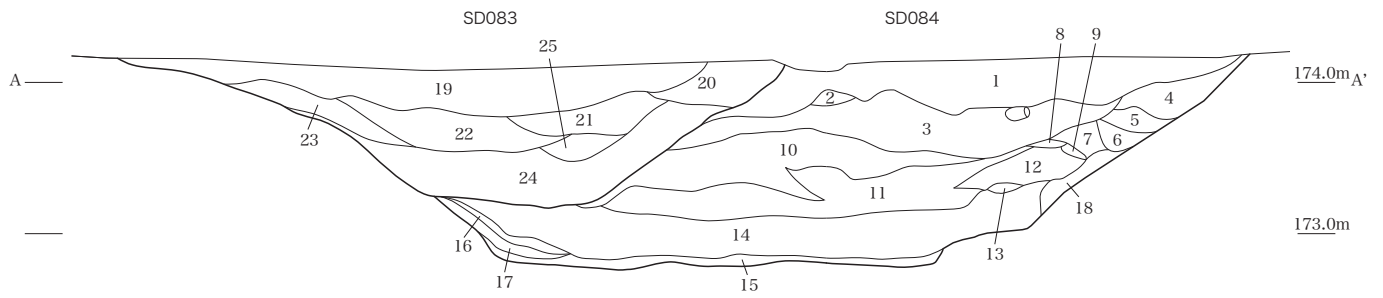


第 119 図 SD092 断面図 (1/50)

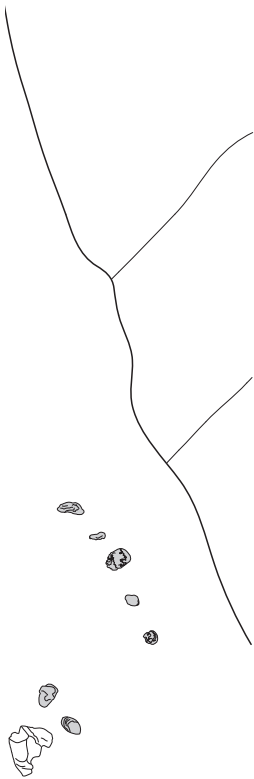


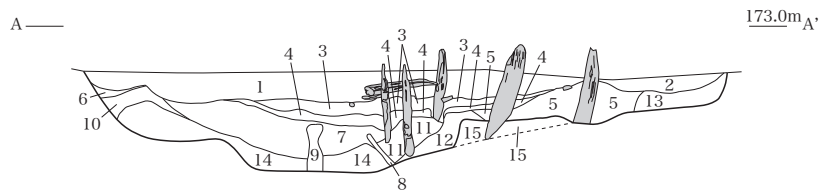
第 120 図 SD104 遺物出土状態図 (1/50)





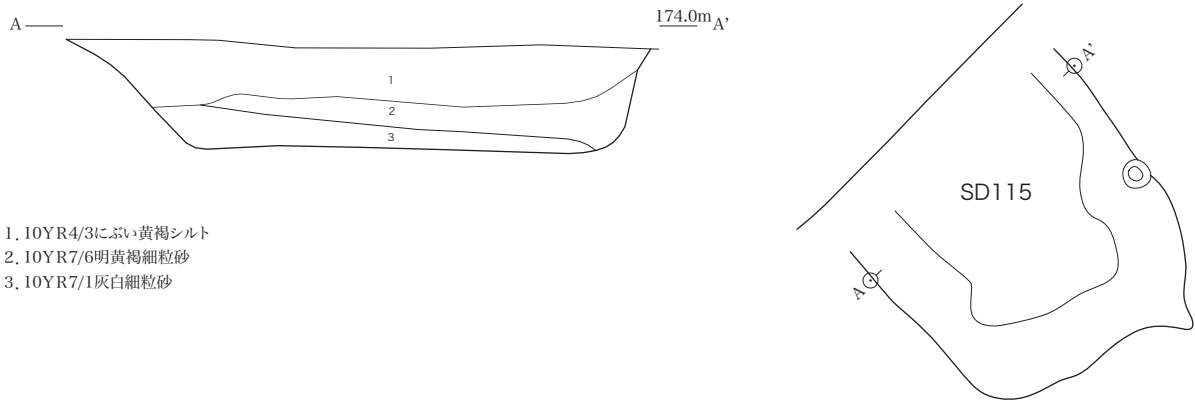
- | | | |
|-----------------------|-------------------------|----------------------|
| 1. 10YR7/1灰白色細粒砂 | 10. 10YR4/1褐灰色細粒砂 | 19. 10YR5/2灰黄褐色中粒砂 |
| 2. 10YR5/1褐灰色細粒砂 | 11. 10YR2/1黒色粘質シルト | 20. 10YR5/2灰黄褐色中粒砂 |
| 3. 10YR4/1褐灰色細粒砂 | 12. 10YR6/1褐灰色細粒砂 | 21. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト |
| 4. 10YR3/3暗褐色細粒砂 | 13. 2.5GYR6/1オリーブ灰色シルト | 22. 2.5Y6/1黄灰色細粒砂 |
| 5. 10YR3/3暗褐色砂質シルト | 14. 10YR2/1黒色粘質シルト | 23. 2.5Y5/2暗灰黄色細粒砂 |
| 6. 10YR4/6褐色シルト | 15. 2.5GY6/1オリーブ灰色砂質シルト | 24. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト |
| 7. 10YR4/2灰黄褐色シルト | 16. 10YR6/1褐灰色細粒砂 | 25. N3/暗灰色シルト |
| 8. 10YR4/2灰黄褐色シルト | 17. 10YR5/1褐灰色細粒砂 | |
| 9. 2.5GYR6/1オリーブ灰色シルト | 18. 2.5GYR7/1明オリーブ灰色シルト | |





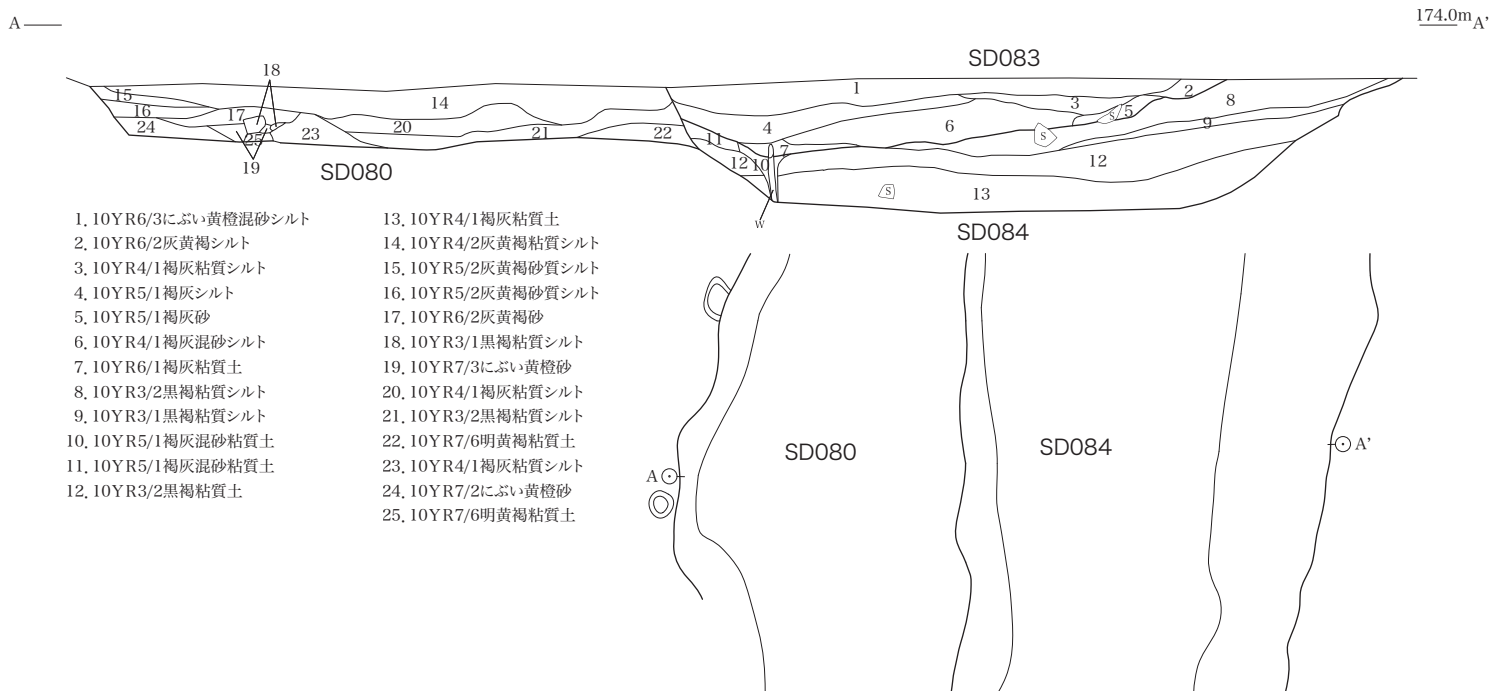
1. 10YR3/2黒褐色混砂粘質土
2. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト
3. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質土
4. 10YR5/1褐灰色粘質土
5. 10YR4/1褐灰色混砂粘質土
6. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質土
7. 10YR3/2黒褐色粘質シルト
8. 10YR6/2灰黄褐色砂
9. 5Y5/2灰オリーブ色粘質土
10. 10YR2/1黒褐色粘質土
11. 10YR4/2灰黄褐色混砂粘質土
12. 10YR4/1褐灰色粘質土
13. 10YR2/1黒色粘質土
14. 10YR7/1灰白色粘質土
15. 5Y6/1灰色粘質土

第 122 図 SD093(1/50)



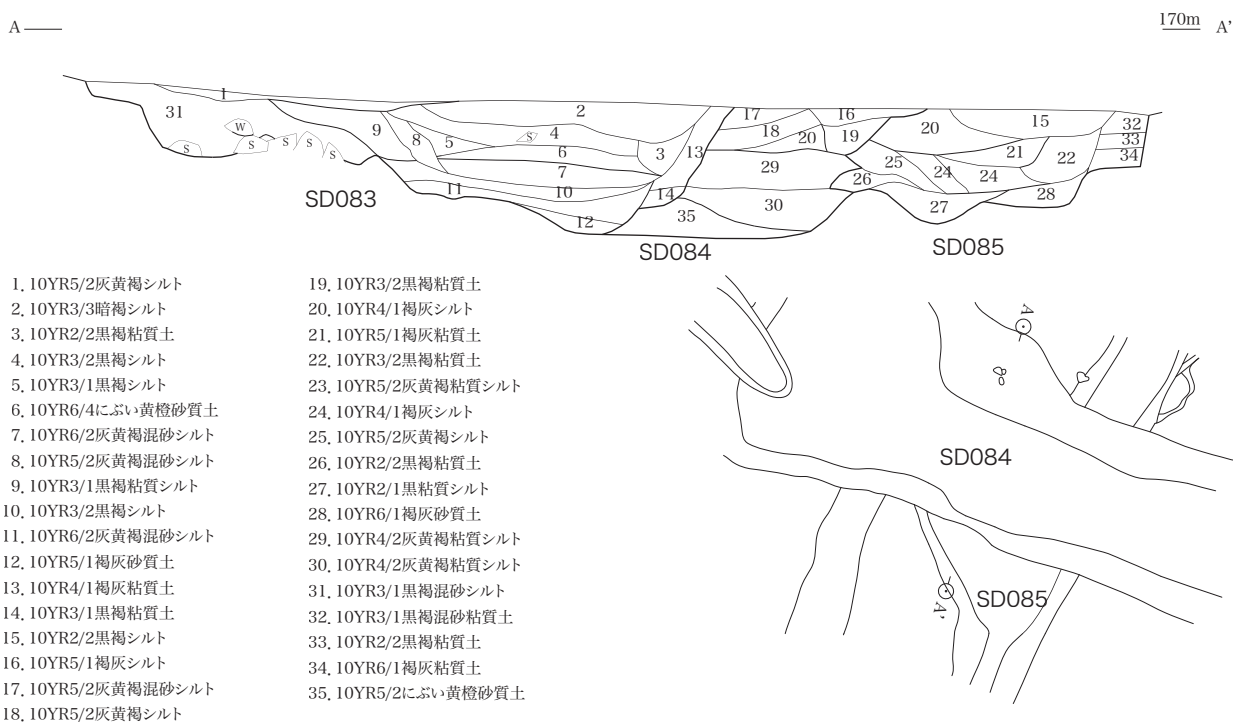
- 1. 10YR4/3にぶい黄褐シルト
- 2. 10YR7/6明黄褐細粒砂
- 3. 10YR7/1灰白細粒砂

第 123 図 SD116 断面図 (1/50)



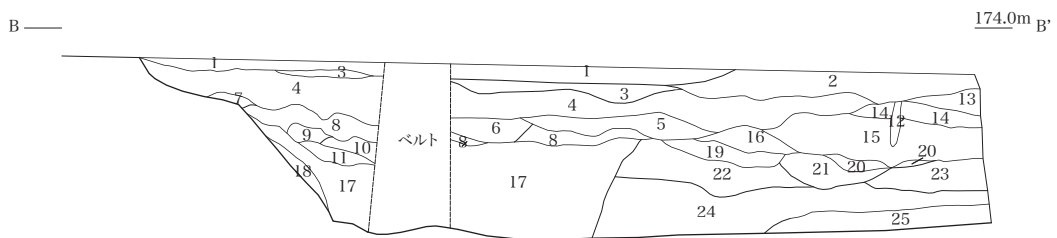
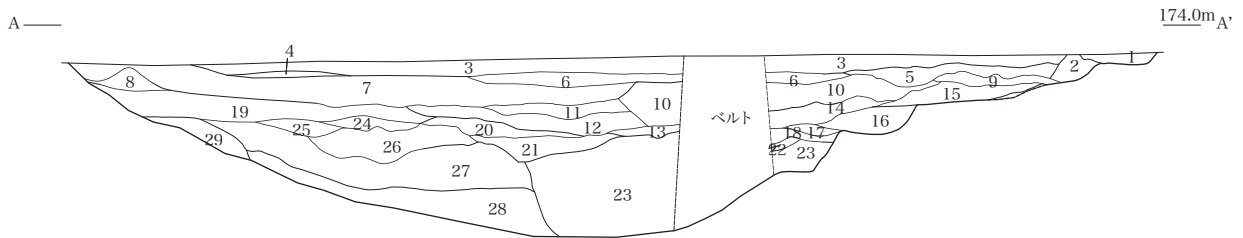
- 1. 10YR6/3にぶい黄橙混砂シルト
- 2. 10YR6/2灰黄褐シルト
- 3. 10YR4/1褐灰粘質シルト
- 4. 10YR5/1褐灰シルト
- 5. 10YR5/1褐灰砂
- 6. 10YR4/1褐灰混砂シルト
- 7. 10YR6/1褐灰粘質土
- 8. 10YR3/2黒褐粘質シルト
- 9. 10YR3/1黒褐粘質シルト
- 10. 10YR5/1褐灰混砂粘質土
- 11. 10YR5/1褐灰混砂粘質土
- 12. 10YR3/2黒褐粘質土
- 13. 10YR4/1褐灰粘質土
- 14. 10YR4/2灰黄褐粘質シルト
- 15. 10YR5/2灰黄褐砂質シルト
- 16. 10YR5/2灰黄褐砂質シルト
- 17. 10YR6/2灰黄褐砂
- 18. 10YR3/1黒褐粘質シルト
- 19. 10YR7/3にぶい黄橙砂
- 20. 10YR4/1褐灰粘質シルト
- 21. 10YR3/2黒褐粘質シルト
- 22. 10YR7/6明黄褐粘質土
- 23. 10YR4/1褐灰粘質シルト
- 24. 10YR7/2にぶい黄橙砂
- 25. 10YR7/6明黄褐粘質土

第 124 図 SD080・083・084 断面図 (1/50)

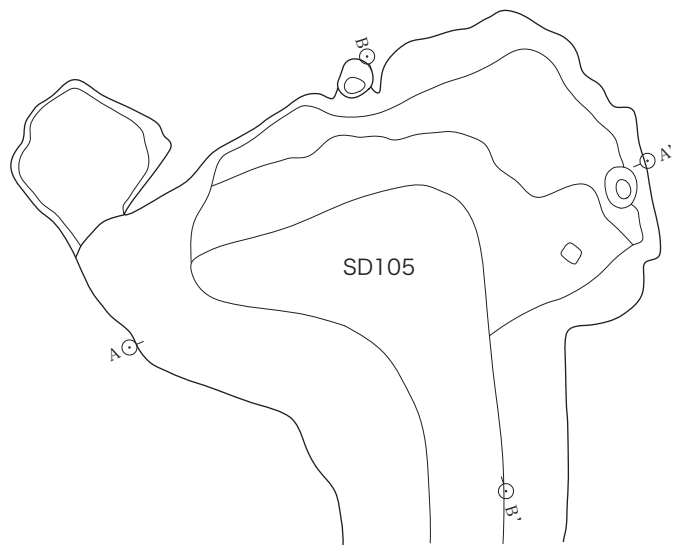


- 1. 10YR5/2灰黄褐シルト
- 2. 10YR3/3暗褐シルト
- 3. 10YR2/2黒褐粘質土
- 4. 10YR3/2黒褐シルト
- 5. 10YR3/1黒褐シルト
- 6. 10YR6/4にぶい黄橙砂質土
- 7. 10YR6/2灰黄褐混砂シルト
- 8. 10YR5/2灰黄褐混砂シルト
- 9. 10YR3/1黒褐粘質シルト
- 10. 10YR3/2黒褐シルト
- 11. 10YR6/2灰黄褐混砂シルト
- 12. 10YR5/1褐灰砂質土
- 13. 10YR4/1褐灰粘質土
- 14. 10YR3/1黒褐粘質土
- 15. 10YR2/2黒褐シルト
- 16. 10YR5/1褐灰シルト
- 17. 10YR5/2灰黄褐混砂シルト
- 18. 10YR5/2灰黄褐シルト
- 19. 10YR3/2黒褐粘質土
- 20. 10YR4/1褐灰シルト
- 21. 10YR5/1褐灰粘質土
- 22. 10YR3/2黒褐粘質土
- 23. 10YR5/2灰黄褐粘質シルト
- 24. 10YR4/1褐灰シルト
- 25. 10YR5/2灰黄褐シルト
- 26. 10YR2/2黒褐粘質土
- 27. 10YR2/1黒粘質シルト
- 28. 10YR6/1褐灰砂質土
- 29. 10YR4/2灰黄褐粘質シルト
- 30. 10YR4/2灰黄褐粘質シルト
- 31. 10YR3/1黒褐混砂シルト
- 32. 10YR3/1黒褐混砂粘質土
- 33. 10YR2/2黒褐粘質土
- 34. 10YR6/1褐灰粘質土
- 35. 10YR5/2にぶい黄橙砂質土

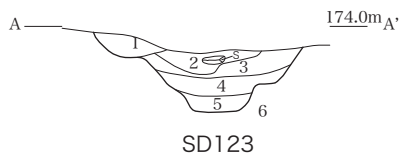
第 125 図 SD083-085 断面図 (1/50)



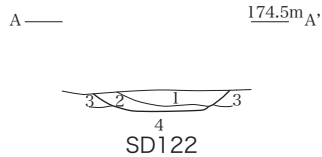
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 10YR5/1 褐灰シルト | 16. 10YR7/2にふい黄橙砂 |
| 2. 10YR3/1 黒褐シルト | 17. 10YR2/1 黒混砂シルト |
| 3. 10YR6/3にふい黄橙混砂シルト | 18. 10YR5/2 灰黄褐シルト |
| 4. 10YR6/1 褐灰砂 | 19. 10YR6/2 灰黄褐シルト粗粒砂を含む |
| 5. 10YR4/1 褐灰混砂シルト | 20. 10YR7/2にふい黄橙砂 |
| 6. 10YR4/1 褐灰シルトしまっている | 21. 10YR5/1 褐灰砂 |
| 7. 10YR3/1 黒褐シルト | 22. 10YR2/1 黒シルト |
| 8. 10YR6/3にふい黄橙シルト | 23. 10YR3/1 黒褐粘質土 |
| 9. 10YR4/1 褐灰シルト | 24. 10YR6/1 褐灰シルト |
| 10. 10YR3/1 黒褐シルト | 25. 10YR6/1 褐灰シルト |
| 11. 10YR4/1 褐灰シルト | 26. 10YR2/1 黒粘質土 |
| 12. 10YR5/2 灰黄褐シルト | 27. 10YR2/1 黒粘質土 |
| 13. 10YR6/3にふい黄橙砂 | 28. 10YR5/2 灰黄褐混砂シルト |
| 14. 10YR2/1 黒粘質土粗粒砂 | 29. 10YR3/2 黒褐粘質土 |
| 15. 10YR4/1 褐灰混砂シルト | |



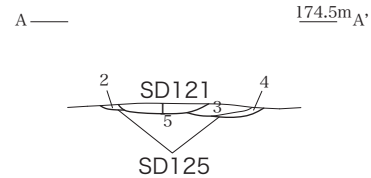
第 126 図 SD105 断面図 (1/50)



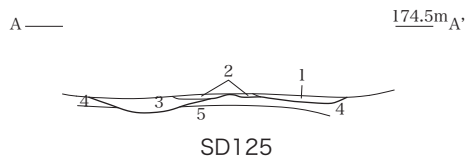
1. 2.5Y7/6明黄褐粘質土
2. 5Y8/2灰白砂質土
3. 2.5Y6/2灰白砂質土
4. 2.5Y5/2暗灰黄砂
5. 2.5Y5/2暗灰黄砂
6. 2.5Y3/1黑褐粘土



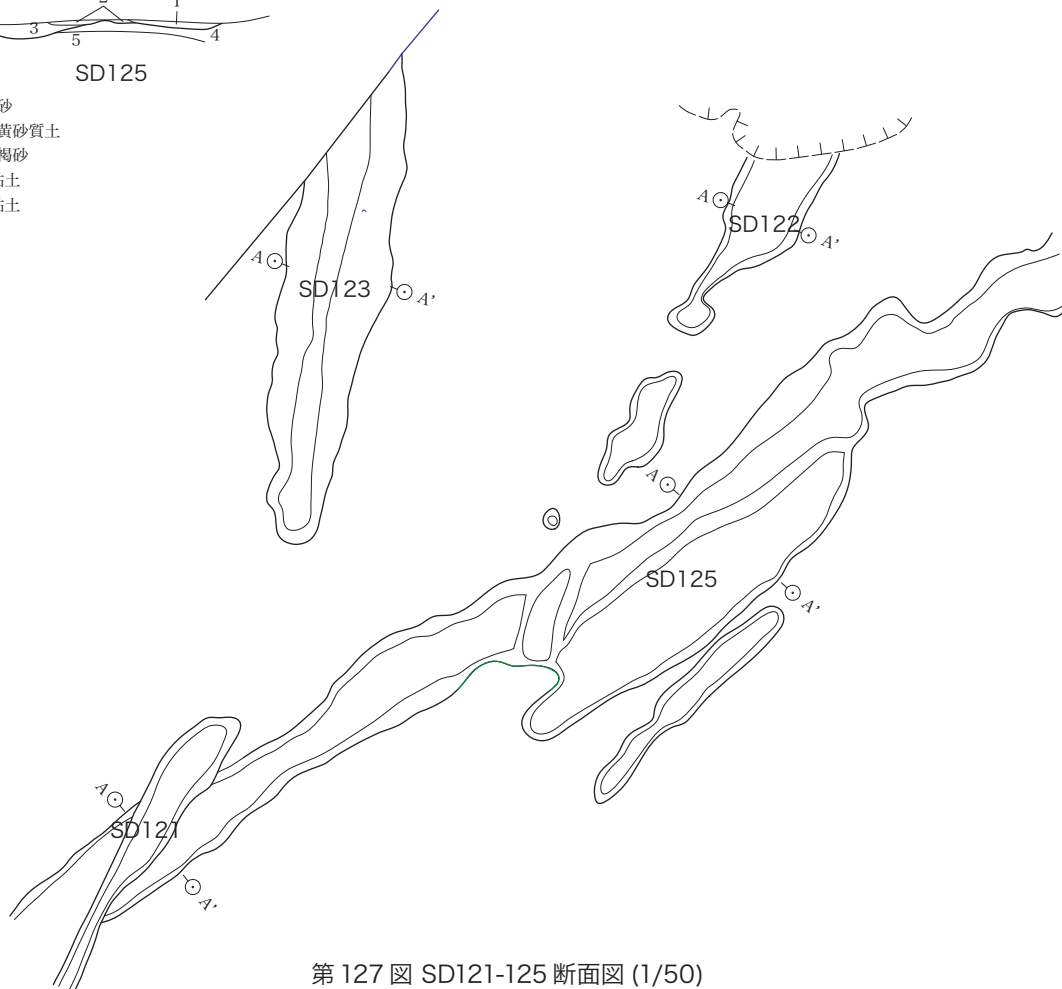
1. 2.5Y8/2灰白砂
2. 2.5Y5/2暗灰黄砂質土
3. 10YR4/2灰黄褐粘質土
4. 10YR2/1黑粘土



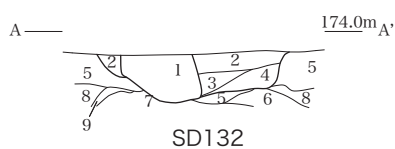
1. 2.5Y8/3淡黄砂
2. 10YR3/1黑褐砂
3. 2.5Y8/3淡黄砂
4. 2.5Y5/2暗灰黄砂
5. 2.5Y3/1黑褐粘土



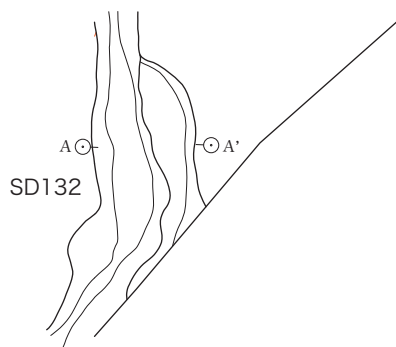
1. 2.5Y7/2灰黄砂
2. 2.5Y5/2暗灰黄砂質土
3. 2.5Y7/6明黄褐砂
4. 10YR2/1黑粘土
5. 10YR2/1黑粘土



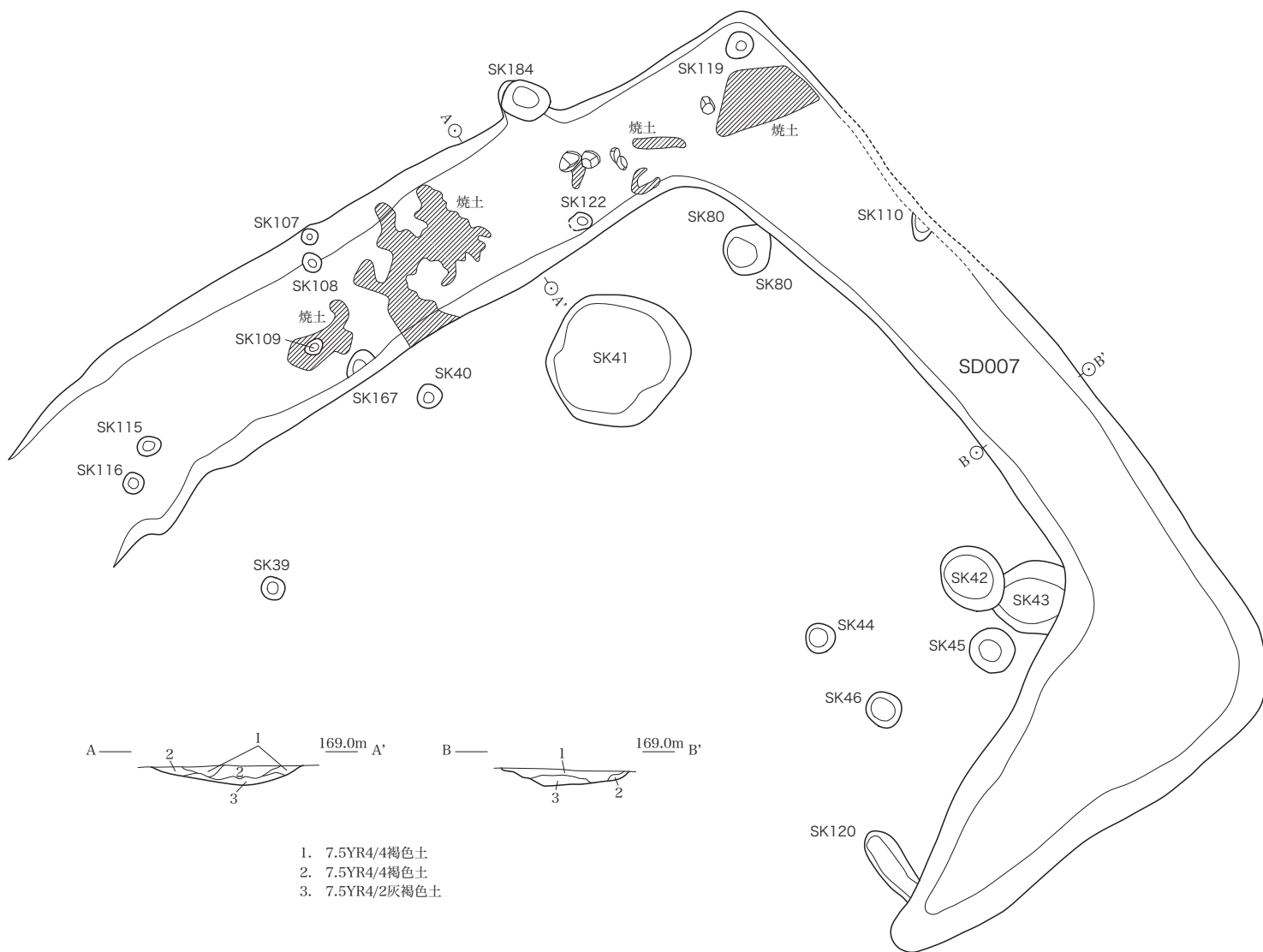
第 127 図 SD121-125 断面図 (1/50)



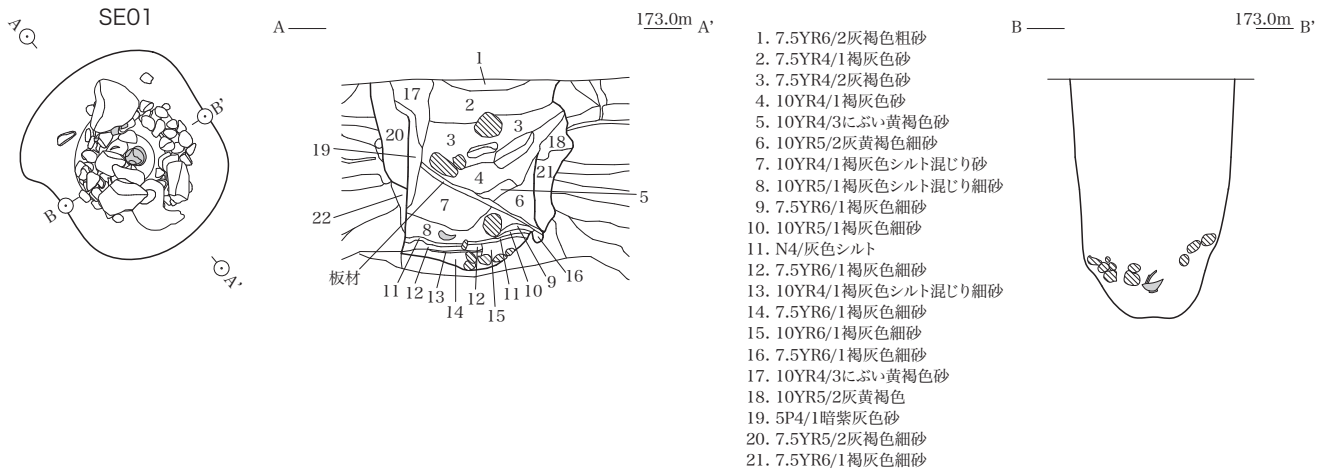
1. 2.5Y8/3淡黄砂粗粒砂
2. 2.5Y7/2灰黄砂質土
3. 2.5Y7/2灰黄砂質土
4. 2.5Y7/2灰黄砂質土
5. 10YR2/1黑粘土
6. 5Y8/2灰白砂
7. 10YR2/1黑粘土
8. 5Y6/2灰オリーブ粘土
9. 5Y8/3淡黄砂



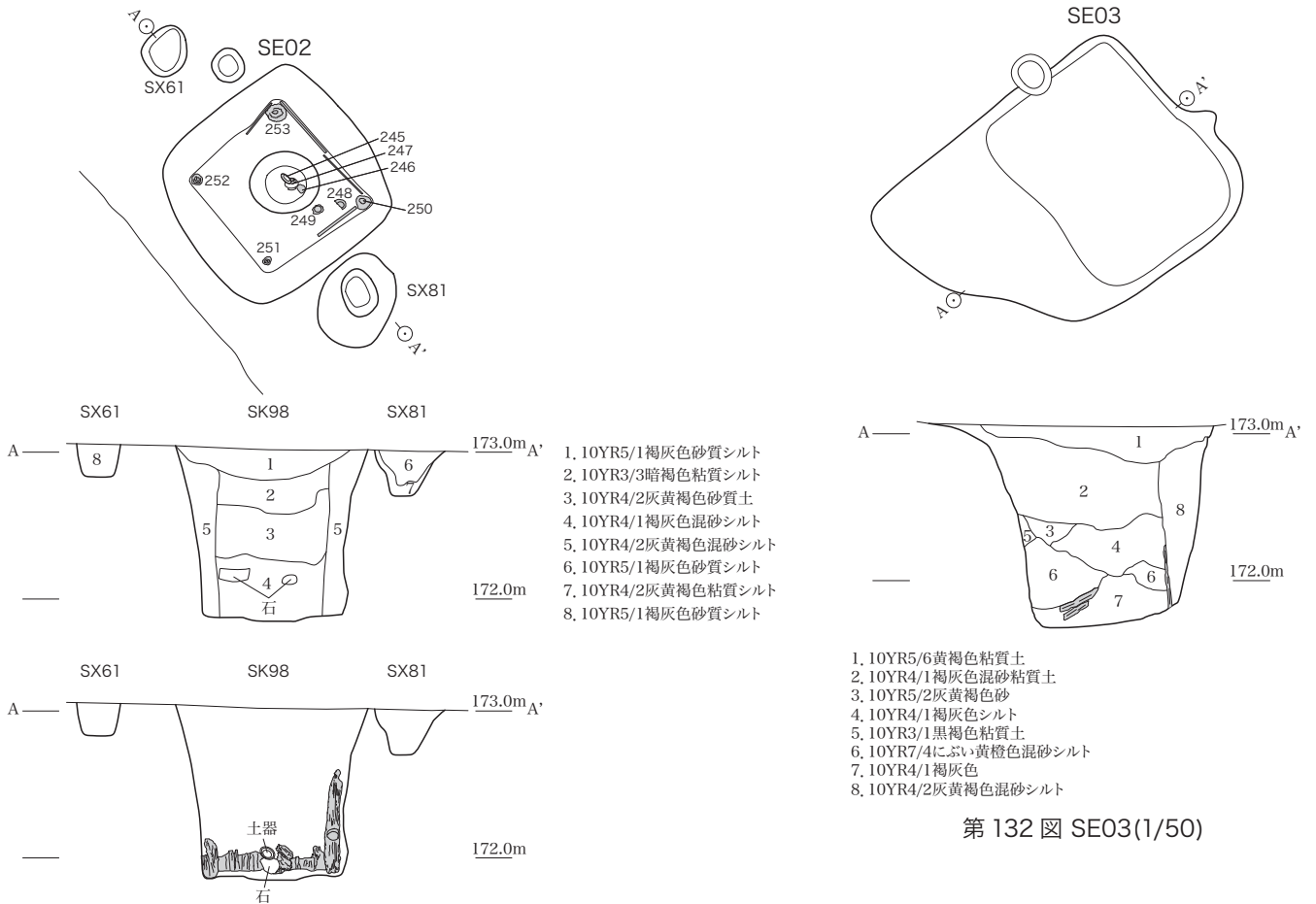
第 128 図 SD132 断面図 (1/50)



第129図 SD007(1/50)

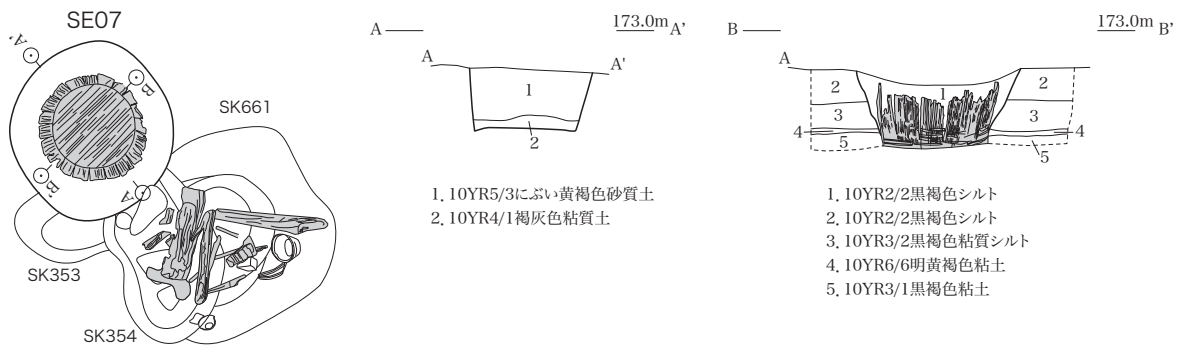


第 130 図 SE01(1/50)



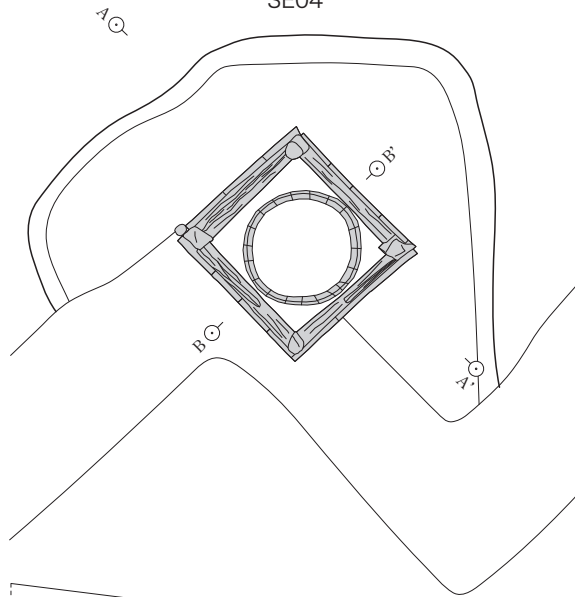
第 132 図 SE03(1/50)

第 131 図 SE02(1/50)

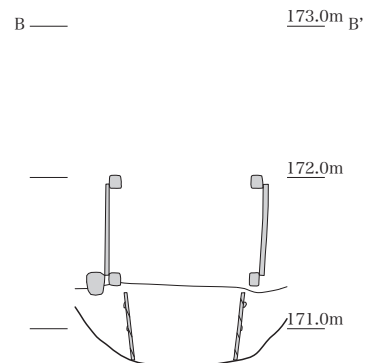
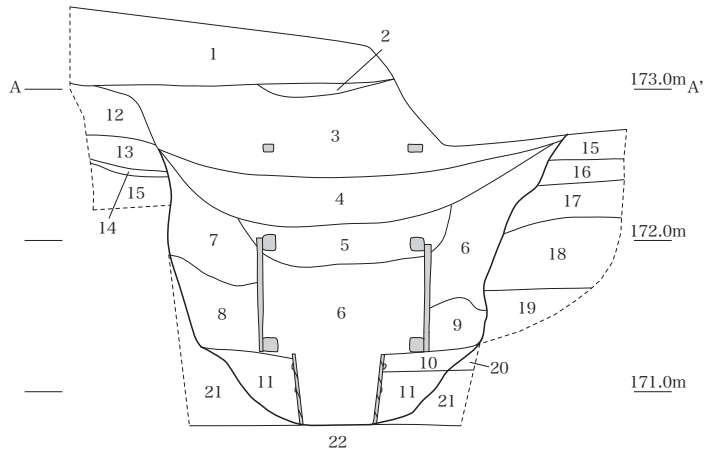
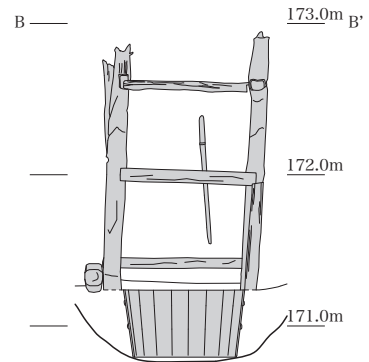
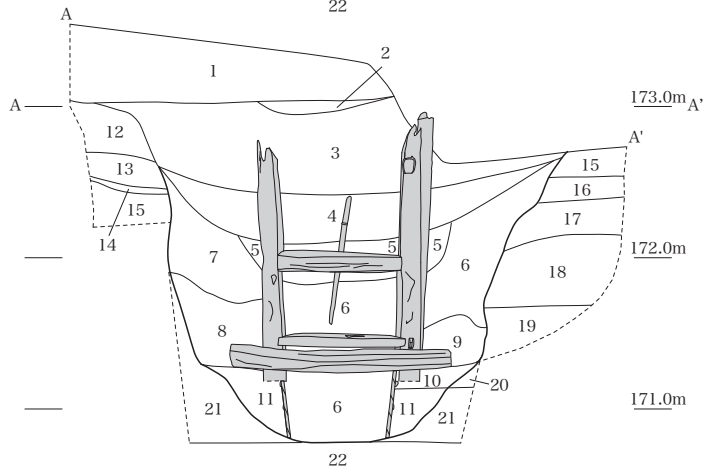
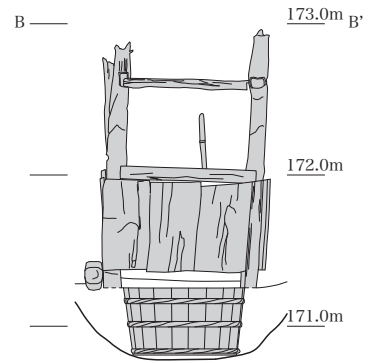
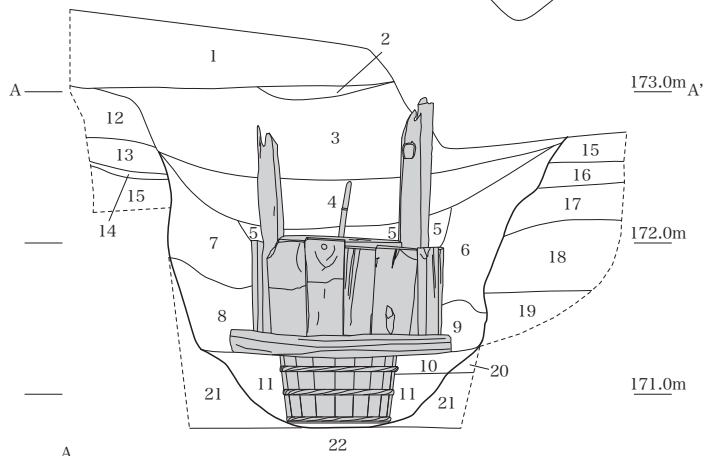


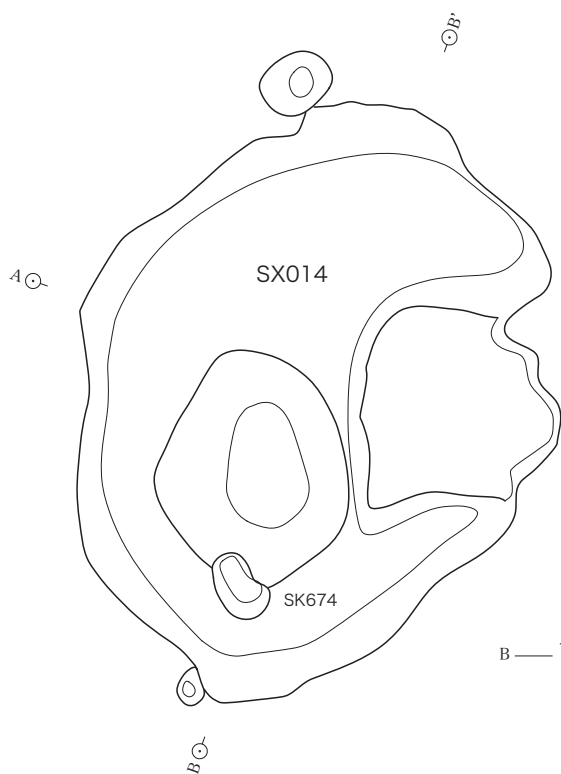
第 133 図 SE07(1/50)

SE04

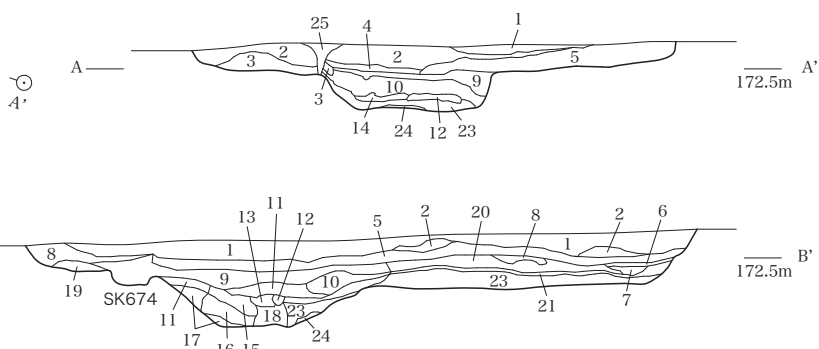


- 1, 10YR5/1 褐灰色粘質シルト
- 2, 2.5Y7/2 灰黄色粘質土
- 3, 2.5Y7/2 灰黄色粘質シルト
- 4, 10YR4/1 褐灰色粘質シルト
- 5, 10YR7/1 褐灰色粘質土
- 6, 10YR4/1 褐灰色粘質土
- 7, 10YR5/1 褐灰色混砂粘質土
- 8, 10YR4/1 褐灰色粘質シルト
- 9, 10YR3/2 黒褐色粘土
- 10, 5Y6/2 灰オリーブ色粘土
- 11, 10YR6/1 褐灰色粘質シルト
- 12, 10YR7/1 灰白色砂
- 13, 10YR7/1 灰白色砂
- 14, 10YR6/1 灰褐色粘質土
- 15, 10YR5/2 灰黄色砂
- 16, 10YR6/6 明黄褐色粘質土
- 17, 10YR2/1 黒色粘土
- 18, 10YR4/1 褐灰色粘土
- 19, 10YR5/1 褐灰色粘土
- 20, 10YR6/1 灰黄色粘土
- 21, 10YR7/1 灰白色粘土
- 22, 10YR7/1 灰白色砂

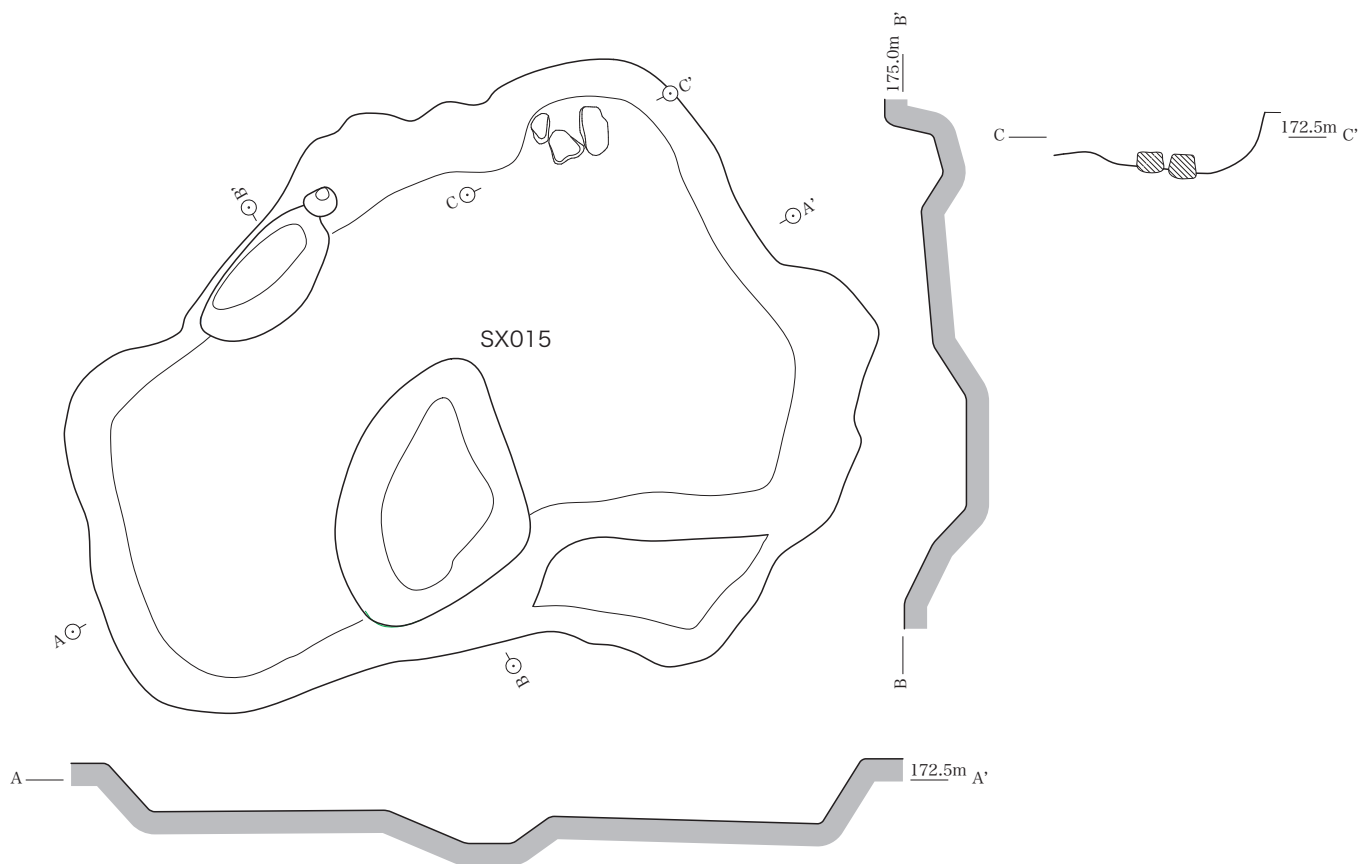




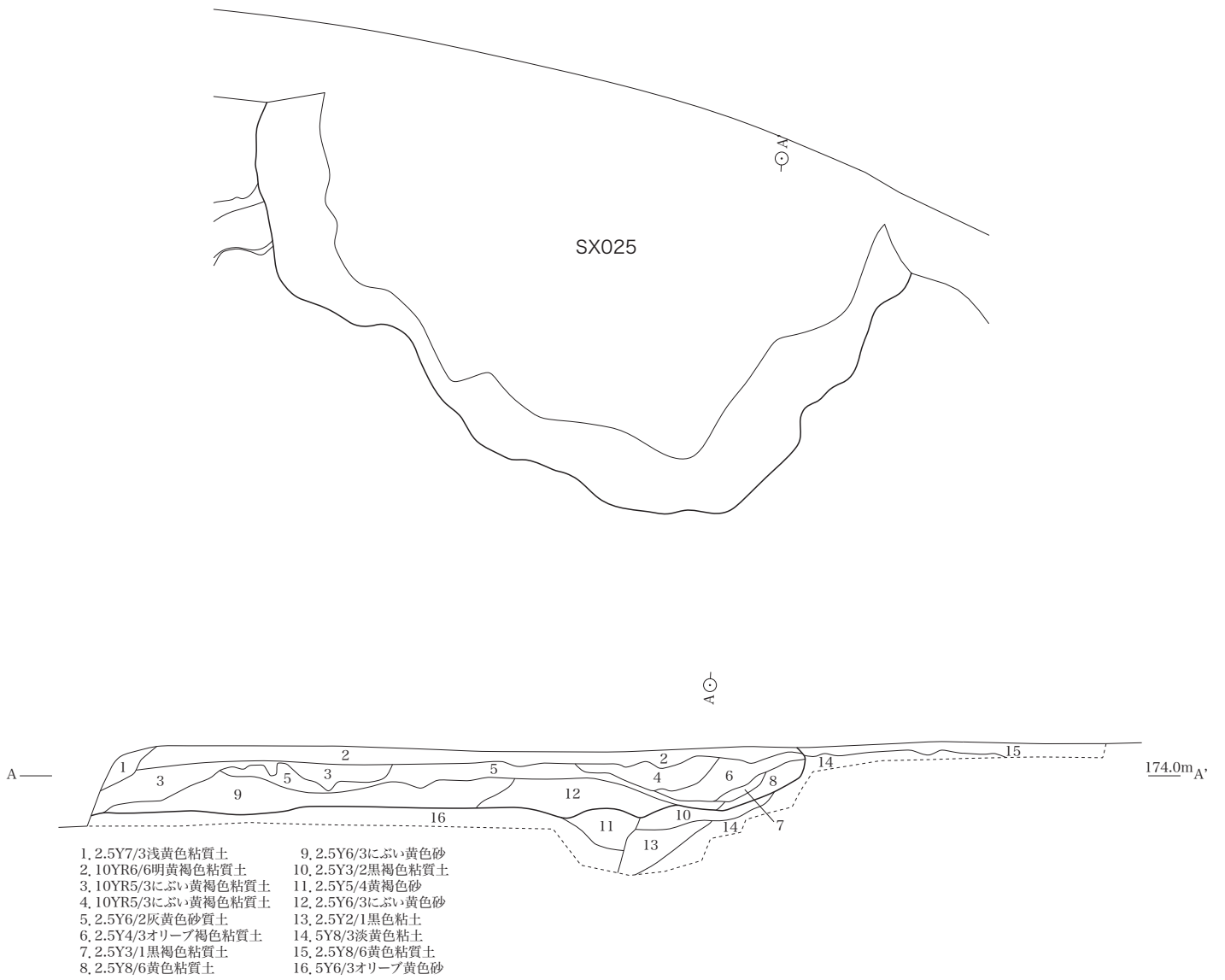
1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり砂
2. 10YR3/1 黒褐色シルト混じり細砂
3. 2.5Y3/2 黒褐色シルト混じり砂
4. 2.5Y6/1 黄灰色砂
5. 10YR5/1 褐灰色砂
6. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト
7. 2.5Y5/1 黄灰色細礫級サバ混じり細砂
8. 2.5Y4/3 オリーブ褐色サバ・シルト混じり砂
9. 2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト混じり砂
10. 10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり砂
11. N5/ 灰色シルト混じり砂
12. 2.5Y6/2 灰黄色細砂
13. 2.5Y4/1 黄灰色砂
14. 2.5Y6/2 灰黄色細砂
15. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混じり砂
16. 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト混じり細砂
17. 10YR6/1 褐灰色シルト混じり細砂
18. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト
19. 10YR5/2 灰黄褐色細砂
20. 10YR6/2 灰黄褐色細礫級サバ
21. 10YR4/1 褐灰色細礫級サバ
22. 2.5Y6/2 灰黄色シルト混じり細砂
23. 10YR5/2 灰黄褐色細砂
24. 10YR3/1 黒褐色細砂
25. 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト混じり細砂



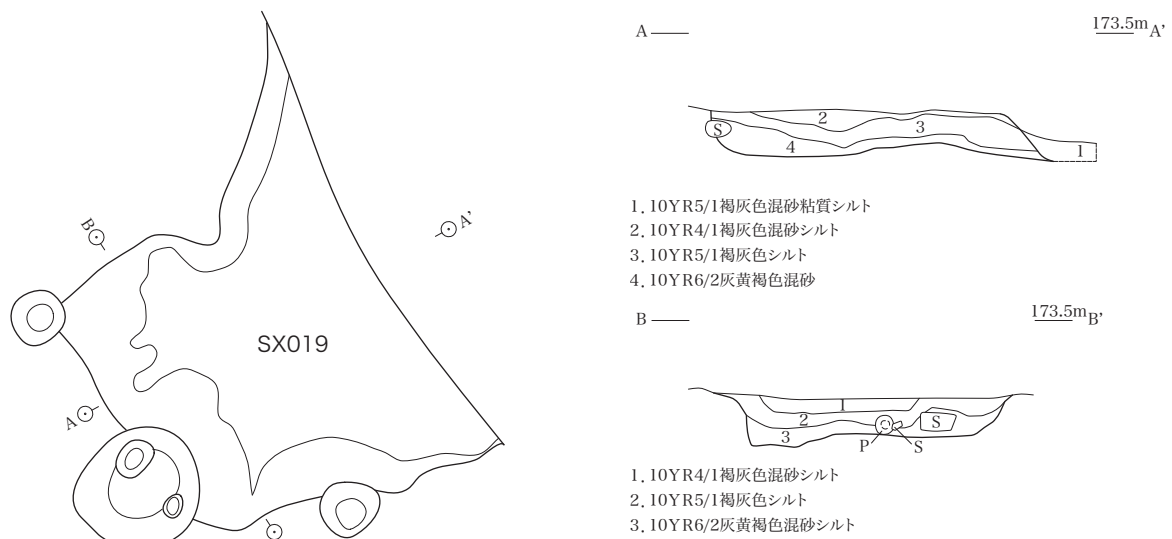
第135図 SX014(1/50)



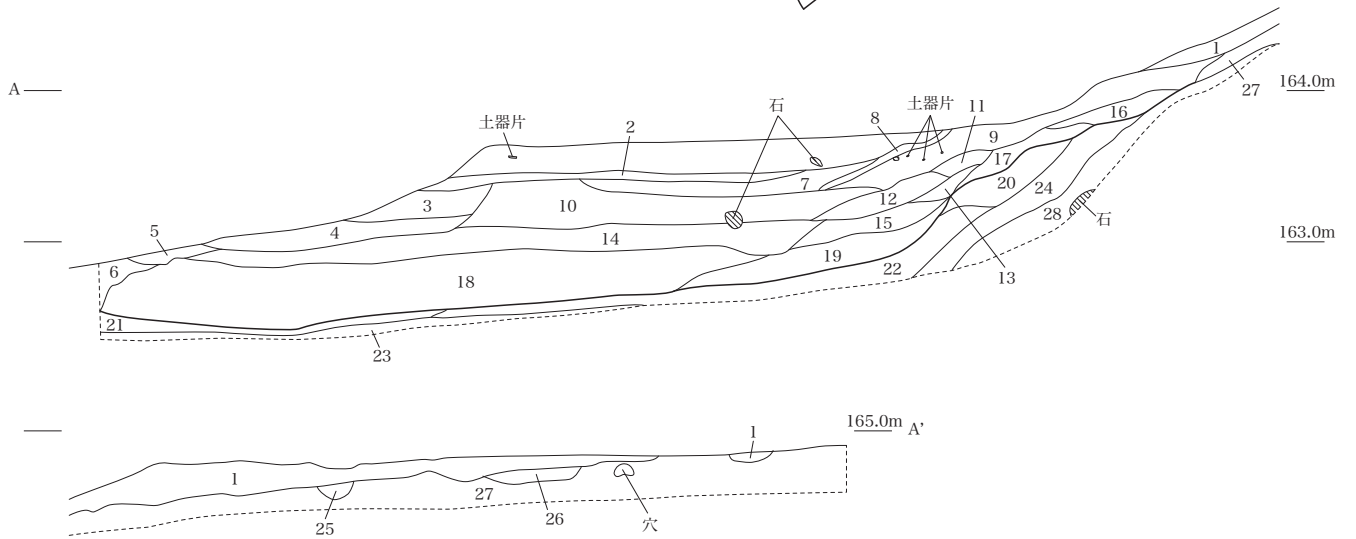
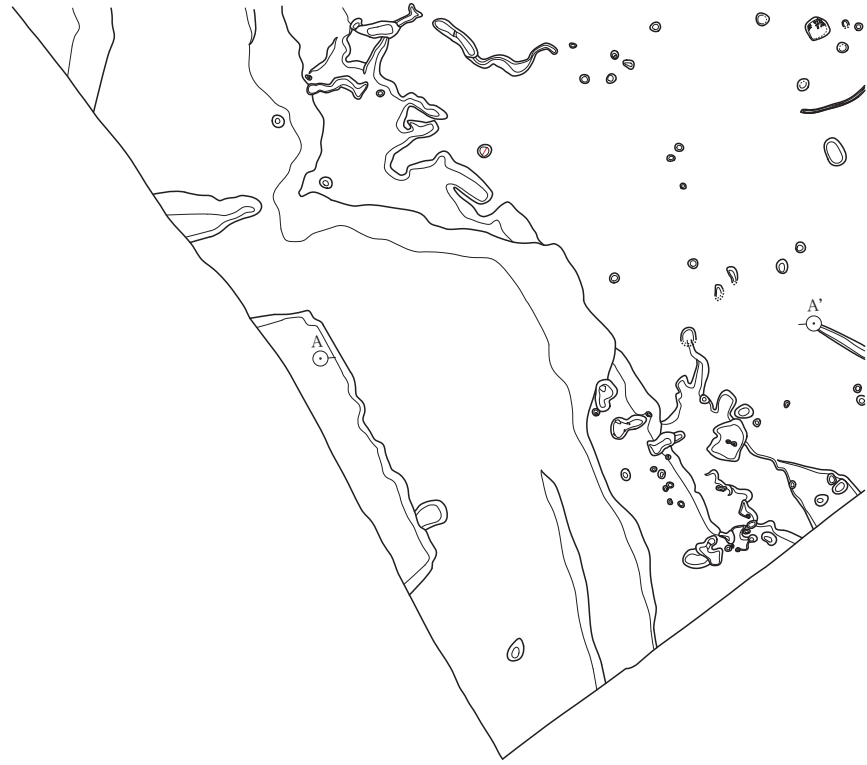
第136図 SX015(1/50)



第 137 図 SX025(1/50)

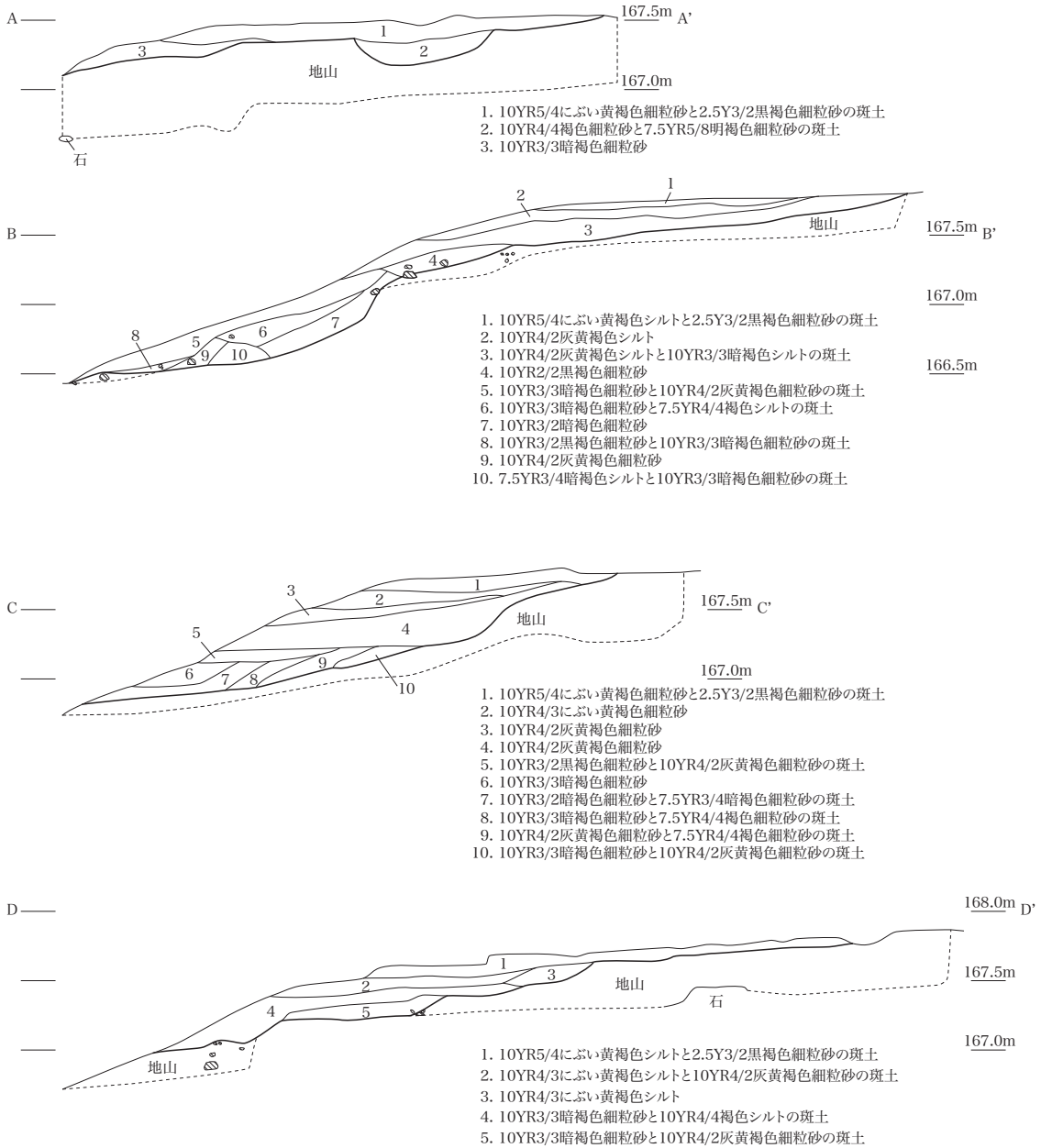
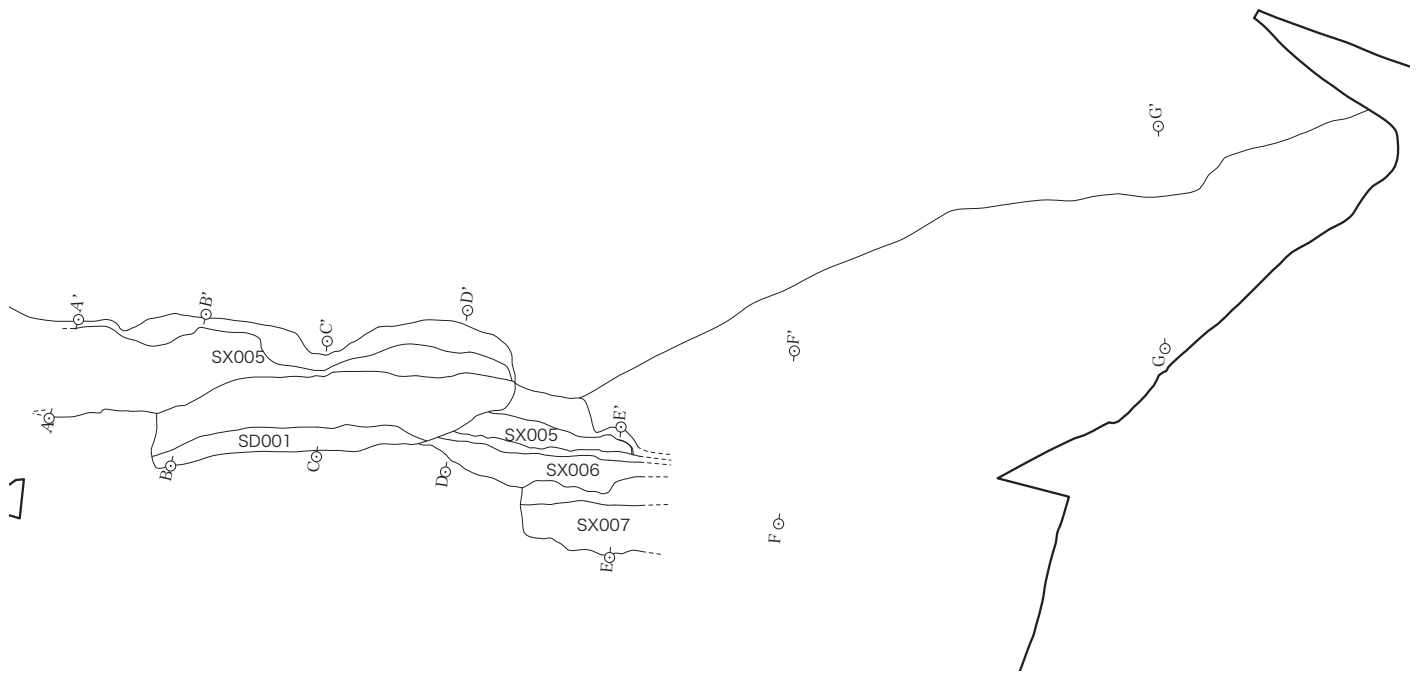


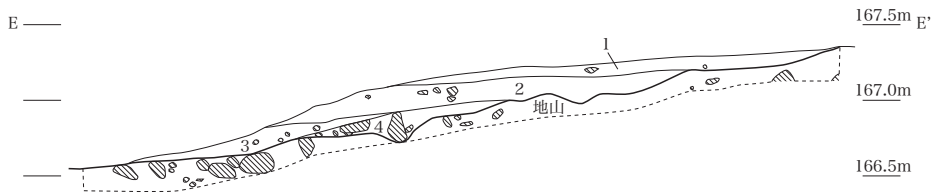
第 138 図 SX019(1/50)



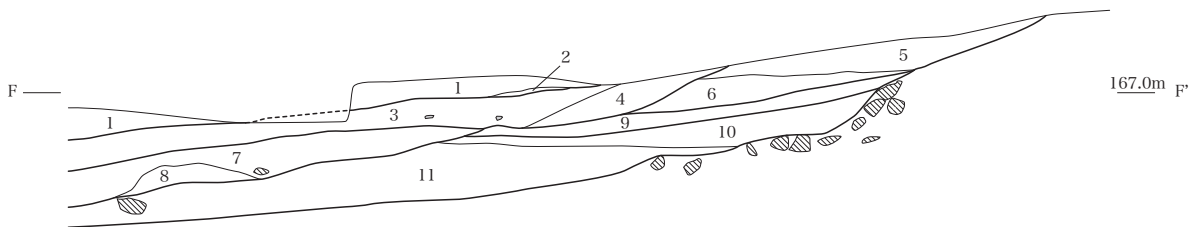
- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 10YR4/2灰黄褐色土 | 15. 2.5Y6/4にぶい黄色極細流砂 |
| 2. 2.5Y2/1黒色土 | 16. 2.5Y3/1黒褐色粘質土 |
| 3. 2.5YR3/1黒褐色粘質土 | 17. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質土 |
| 4. 2.5YR2/1黒色粘質土 | 18. 2.5Y6/2灰黄色極細粒砂 |
| 5. 10YR3/1黒褐色粘質土 | 19. 2.5Y5/3黄褐色極細粒砂 |
| 6. 10YR4/1褐色粘質土 | 20. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土 |
| 7. 5Y4/1灰色土 | 21. 2.5YR2/1黒色粘質シルト |
| 8. 10YR4/4褐色粘質土 | 22. 2.5YR2/1黒色粘質土 |
| 9. 10YR3/3暗褐色粘質土 | 23. 2.5YR3/1黒褐色シルト |
| 10. 2.5Y3/2黒褐色粘質土 | 24. 5Y4/1灰オリーブ粘質土 |
| 11. 10YR2/1黒色粘質土 | 25. 10YR4/2灰黄褐色土 |
| 12. 10YR3/2黒褐色粘質土 | 26. 10YR5/6黄褐色風化花崗岩 |
| 13. 10YR3/1黒褐色砂質土 | 27. 2.5Y5/4黄褐色粘質土 |
| 14. 2.5Y5/2暗灰黄色極細粒砂 | 28. 5YR4/3暗オリーブ色粘質土 |

第 139 図 01A 区西斜面 (1/50)

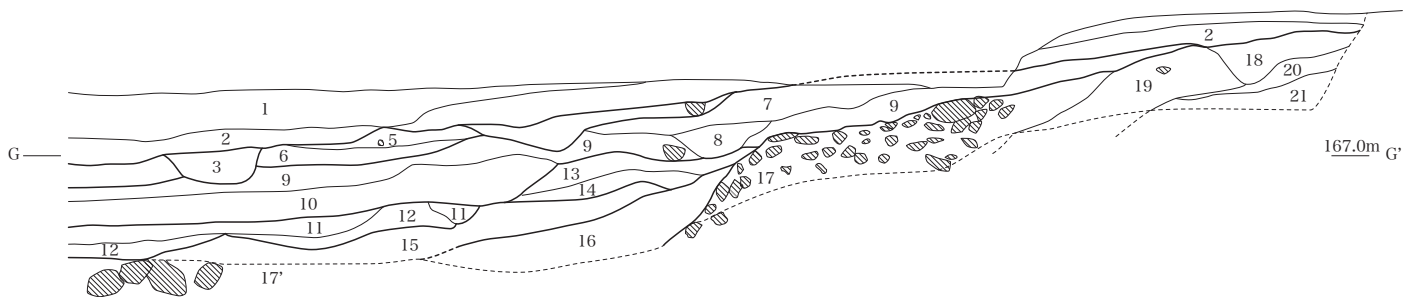




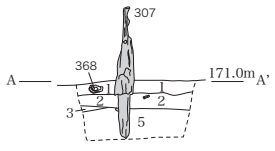
1. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
2. 10YR5/4にぶい黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの斑土
3. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土
4. 10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR3/3暗褐色細粒砂の斑土



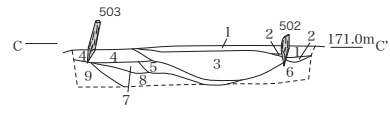
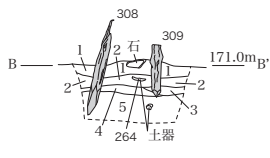
- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト | 7. 10YR3/1黒褐色粘質シルト |
| 2. 10YR4/1褐色シルト | 8. 10YR2/1黒色粘質シルト |
| 3. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト | 9. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 |
| 4. 10YR4/4褐色粘質シルト | 10. 5Y8/1灰白色細砂 |
| 5. 7.5YR5/6明褐色シルト、砂粒多く混じる | 11. 5Y8/2灰白色極粗砂～細砂 |
| 6. 7.5YR5/6明褐色粘質シルト | 12. 砂礫層 |



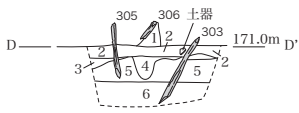
- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1. 10YR5/3にぶい黄褐色極細砂質シルト | 11. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 |
| 2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト | 12. 2.5Y7/4朝黄色シルト |
| 3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト | 13. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土 |
| 4. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト | 14. 5Y8/3淡黄色細砂 |
| 5. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト | 15. 5Y8/1灰白色細砂 |
| 6. 7.5YR4/4褐色粘質シルト | 16. 砂礫層1 碎片化した砂礫が主体 |
| 7. 7.5YR5/6明褐色シルト | 17. 砂礫層2 こぶし大～人頭大の円礫、亜角礫が主体 |
| 8. 7.5YR5/6明褐色粘質シルト | 18. 10YR5/6黄褐色粘土 |
| 9. 7.5YR5/6明褐色砂質シルト | 19. 7.5YR6/6橙色極細砂 |
| 10. 7.5YR4/4褐色粘土 | 20. 7.5YR5/6明褐色細砂 |
| | 21. 砂礫層3 こぶし大の亜角礫が主体 |



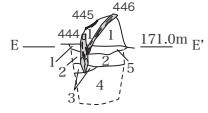
- 1. 5Y2/1 黑色粘質土
- 2. 10YR2/1 黑色粘土
- 3. 10YR6/2 灰黄褐色砂
- 4. 10YR3/1 黑褐色粘土
- 5. 5Y8/3 淡黄色砂



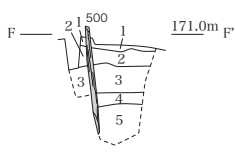
- 1. 5Y2/1 黑色粘土
- 2. 10YR6/2 灰黄褐色砂
- 3. 10YR7/4 にぶい 黄橙色砂
- 4. 10YR6/1 褐灰色砂質土
- 5. 10YR7/3 にぶい 黄橙色砂
- 6. 10YR3/1 黑褐色粘土
- 7. 10YR4/1 褐灰色砂質土
- 8. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂
- 9. 2.5Y3/1 黑褐色砂質土



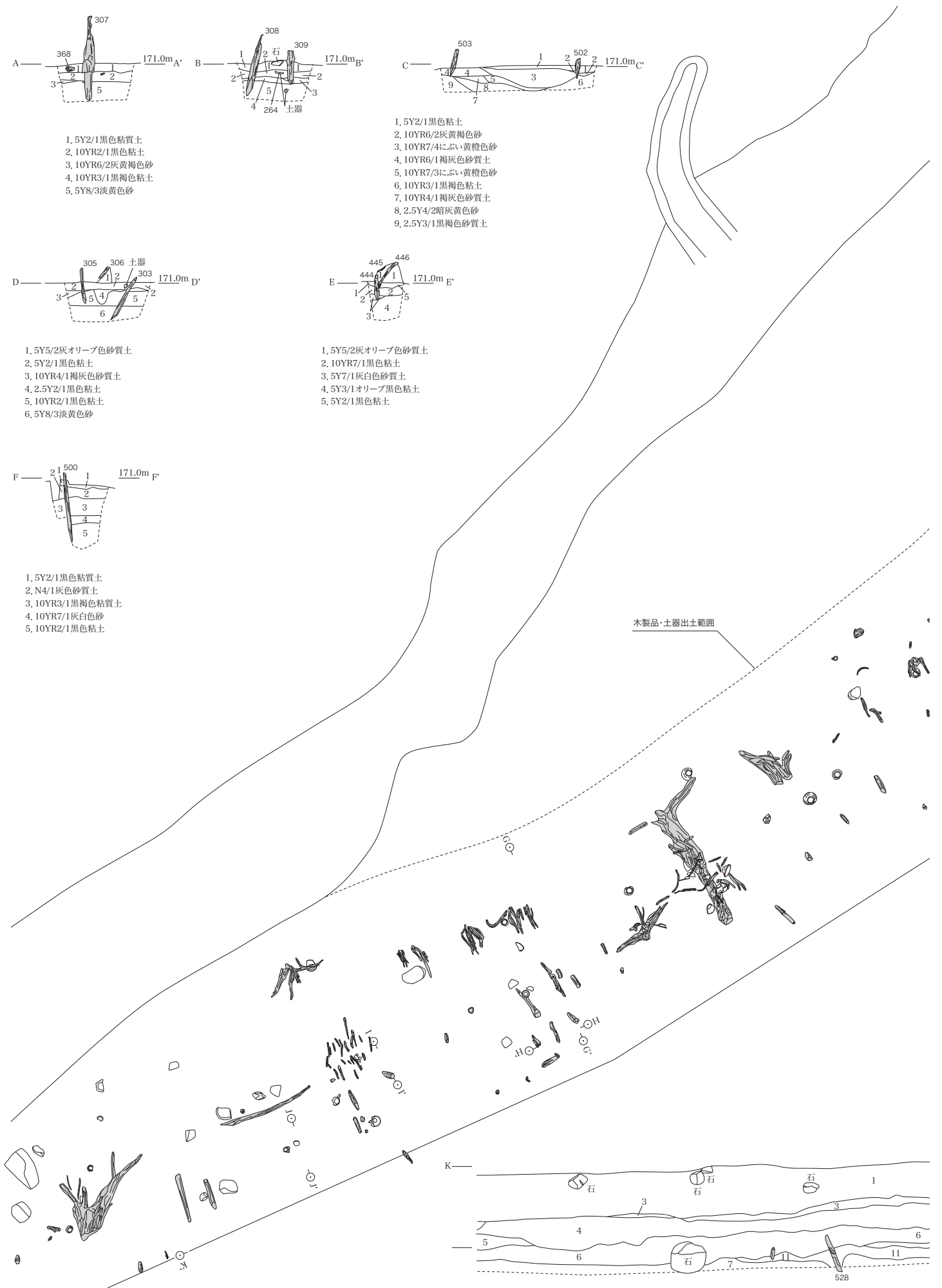
- 1. 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土
- 2. 5Y2/1 黑色粘土
- 3. 10YR4/1 褐灰色砂質土
- 4. 2.5Y2/1 黑色粘土
- 5. 10YR2/1 黑色粘土
- 6. 5Y8/3 淡黄色砂



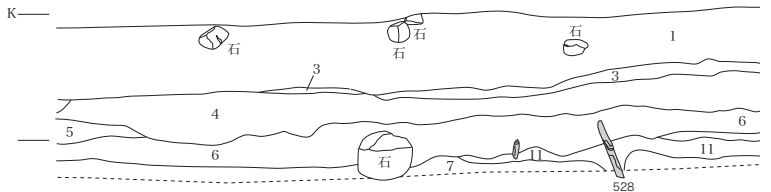
- 1. 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土
- 2. 10YR7/1 黑色粘土
- 3. 5Y7/1 灰白色砂質土
- 4. 5Y3/1 オリーブ 黑色粘土
- 5. 5Y2/1 黑色粘土

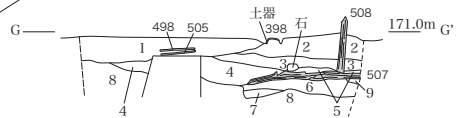


- 1. 5Y2/1 黑色粘質土
- 2. N4/1 灰色砂質土
- 3. 10YR3/1 黑褐色粘質土
- 4. 10YR7/1 灰白色砂
- 5. 10YR2/1 黑色粘土

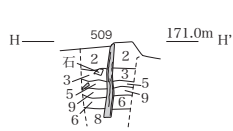


木製品・土器出土範囲

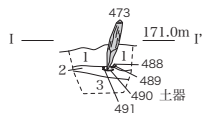




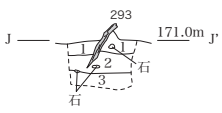
- 1. 2.5Y5/1 黄灰色砂質土
- 2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
- 3. 5Y4/1 灰色粘質土
- 4. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
- 5. 5Y2/1 黒色粘質土
- 6. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土
- 7. 5Y7/1 灰白色砂
- 8. 10Y5/1 灰色粘土
- 9. 7.5Y4/1 灰色粘質土



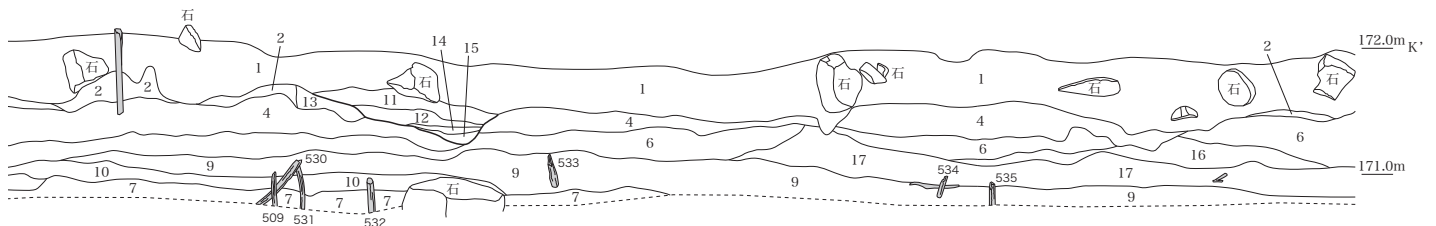
- 1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
- 2. 5Y4/1 灰色粘質土
- 3. 5Y2/1 黒色粘質土



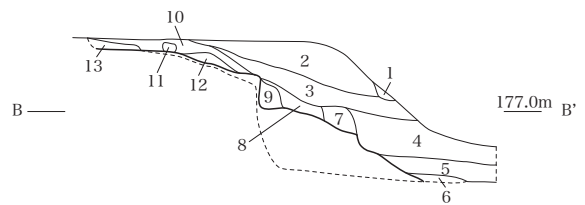
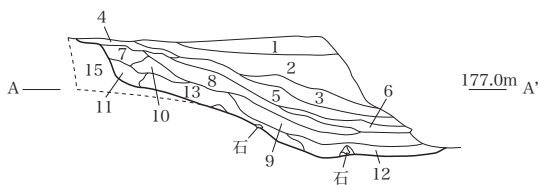
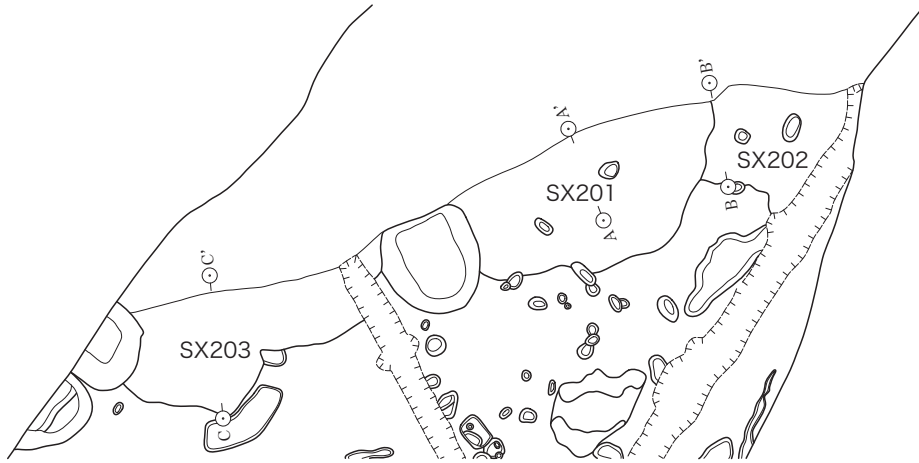
- 1. 10YR6/1 褐灰色砂質土
- 2. 10YR4/1 褐灰色砂
- 3. 7.5GY6/1 緑灰色粘土



- 1. 10YR6/1 褐色粘質土
- 2. 10YR6/6 明黄褐色粘質土
- 3. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土
- 4. 10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土
- 5. 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土
- 6. 10YR4/1 褐灰色粘質土
- 7. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
- 8. 5Y2/1 黒色粘質土
- 9. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
- 10. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
- 11. 5Y6/1 灰色粘質土
- 12. 5Y6/1 灰色粘質土
- 13. 5Y8/2 灰白色粘質土
- 14. 10YR5/6 黄褐色粘質土
- 15. 2.5Y8/3 淡黄色砂
- 16. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
- 17. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土

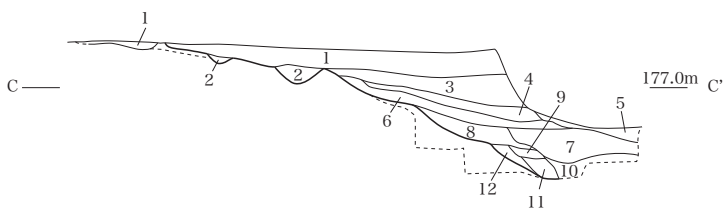


第 141 図 04E 区杭列出土状態 (1/60)



1. 10YR5/2灰黄褐色細粒砂
2. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
3. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
4. 10YR3/1黒褐色細粒砂
5. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
6. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
7. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
8. 10YR2/1黒色細粒砂
9. 10YR2/2黒褐色細粒砂
10. 10YR2/1黒色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
11. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
12. 10YR3/2黒褐色細粒砂
13. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の斑土
14. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
15. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂

1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
2. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑
3. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR3/1黒褐色細粒砂の斑土
4. 10YR2/2黒褐色細粒砂
5. 10YR2/1黒色細粒砂
6. 10YR4/1褐灰色細粒砂
7. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土
8. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR2/2黒褐色細粒砂の斑土
9. 10YR3/3黒褐色細粒砂
10. 10YR2/2黒褐色細粒砂
11. 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR6/4にぶい黄褐色細粒砂の斑土
12. 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂
13. 10YR2/2黒褐色細粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂の斑土



1. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
2. 10YR3/2黒褐色細粒砂
3. 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
4. 10YR4/1褐灰色細粒砂
5. 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂
6. 10YR3/1黒褐色細粒砂
7. 10YR3/1黒褐色細粒砂
8. 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂
9. 10YR2/1黒色細粒砂
10. 10YR2/2黒褐色細粒砂
11. 10YR2/2黒褐色細粒砂
12. 10YR3/2黒褐色細粒砂

第 142 図 SX201-203(1/50)

第7節 近世の遺構

近世の遺構は南部地区04Cb区・04Da区、北部地区02B区で確認された。主に掘立柱建物、落ち込み状の遺構である。

1. 掘立柱建物

SB050(第89図)

04Da区東側で検出された。北西辺のみ確認でき、大部分は調査区外である。北西辺で4間9.0m(N-58°-W)である。柱穴内より、15世紀代山茶碗、近世陶磁器類が少量出土している。

SB053

04Ca区北西側で検出された。南東辺のみ確認でき、大部分は調査区外である。南東辺で4間7.9m(N-45°-E)である。柱穴内より、近世陶磁器類が少量出土している。

SB230(第143図)

02B区南西端、低位段丘面に位置する。1×3間(3.3m×9.1m)長軸N-31°-W。近世以降と考えられる階段状の削り出しの斜面に長軸方向が一致する。柱穴内から古瀬戸施釉陶器と山茶碗少量が出土した。建物の方向性と規模からこの時期と考える。

2. 溝

SD003(第144図)

00A区の低位段丘におりる南斜面で検出された。残存長7.6m幅0.4m深さ0.2mを測る。ほぼ直線的な溝である(N-17°-W)。南半と北端で底部を抜いた筒状の半胴甕を土管状に並べ、暗渠とした状態で検出した。建物の付属施設と推定される。半胴甕は近世18世紀末から19世紀初頭の時期に属する。

SD115(第145図)

04B区から04Ca区で検出された中世水田に伴う溝群の一部である。溝の上面掘り込みから近世19世紀代の挿鉢がまとまって検出された。中世溝の上層部分が近世まで機能していたと考える。

3. 井戸

南部地区で2基の井戸を検出した。いずれも上位段丘に位置し、石組である。

SE05(第146図)

04Cb区中央で検出された。径1.3m、深さ0.9mである。上位段丘に位置する。湧水層は浅く、石組み下部で達する。石組はほぼ円形に不揃いの円礫と一部角礫を配置する。埋土は細粒砂で、中世古瀬戸施釉陶器と17世紀代の瀬戸窯産施釉陶器が検出された。

SE06(第147図)

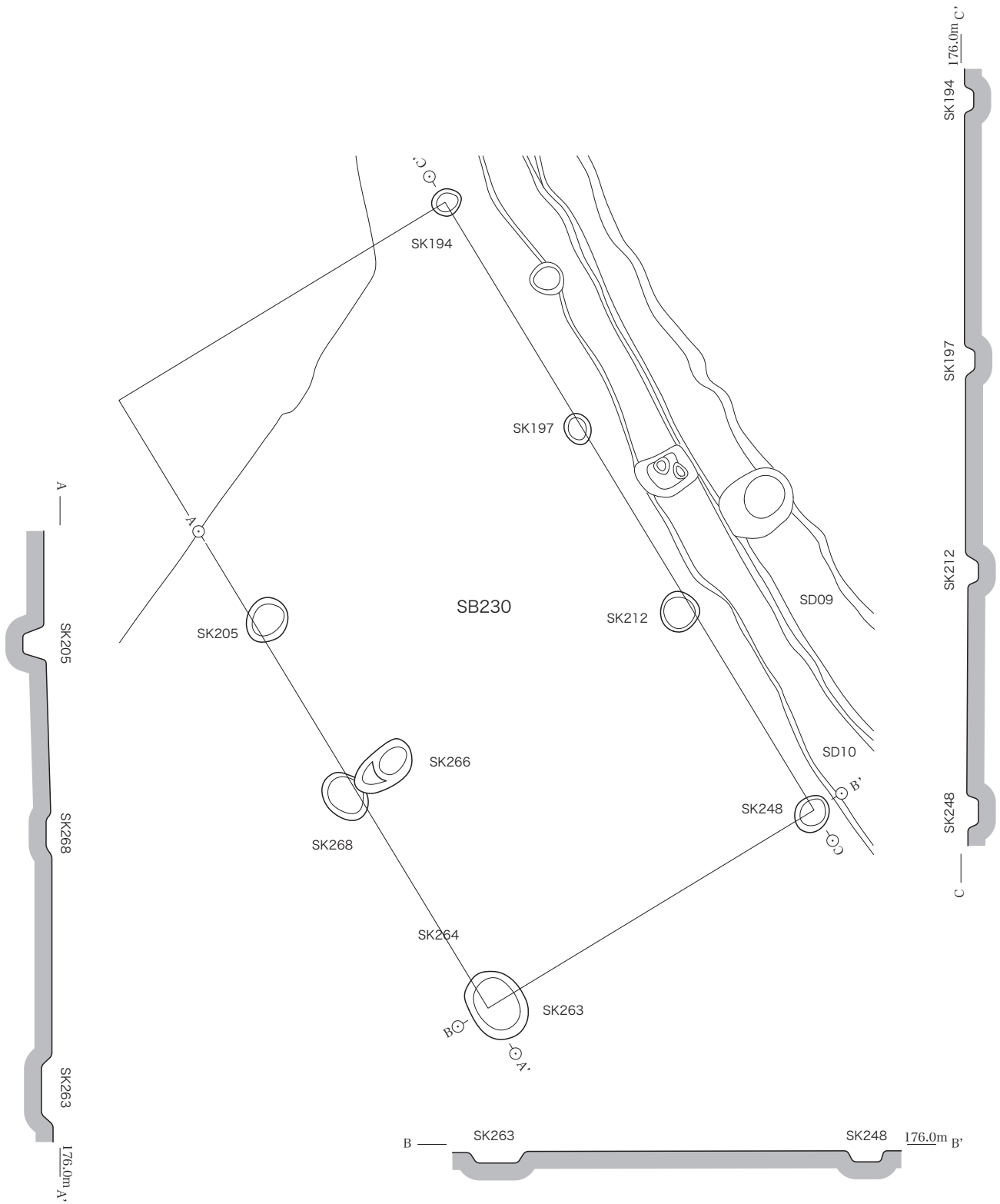
04B区で検出された。径1.5m、深さ1.0mを測る。上位段丘に位置する。湧水層は浅く、石組み下部で達する。石組は角礫を円形に配置する。埋土は粗粒砂である。遺物は検出されず、井戸の形状から近世の時期と考える。

4. 落ち込み状遺構

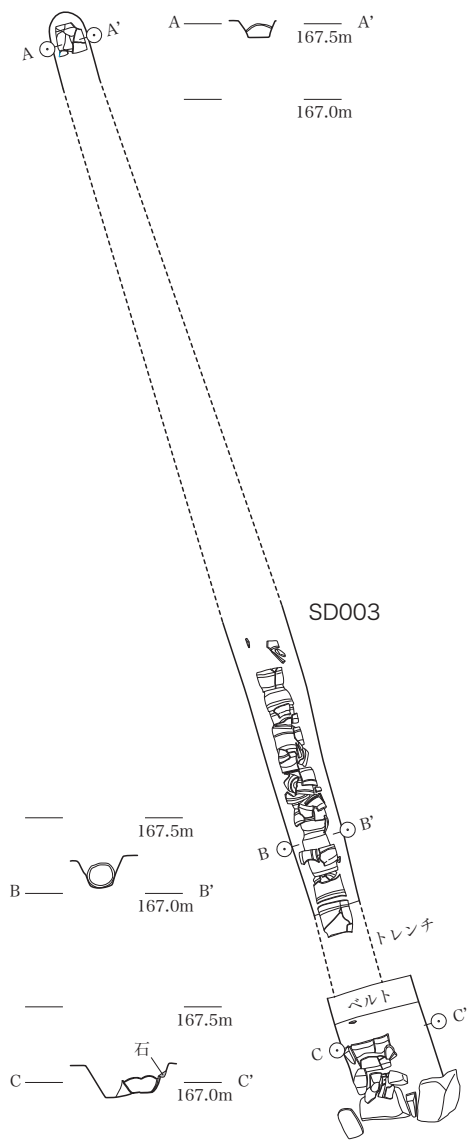
SX024(第148図)

04Cb区南東部で検出された。浅い落ち込みで、残存の長軸で4.3m、短軸3.7m、深さ0.1m

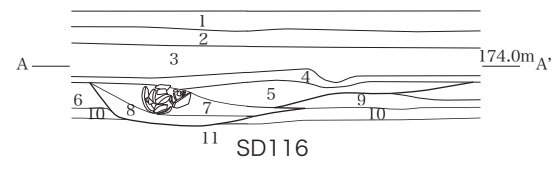
である。埋土は粗粒砂が主体で、礫に混じって近世瀬戸窯産施釉陶器類が比較的まとまって出土した。(酒井俊彦)



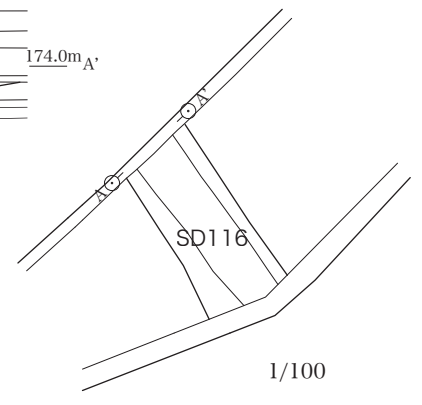
第 143 図 SB230(1/50)



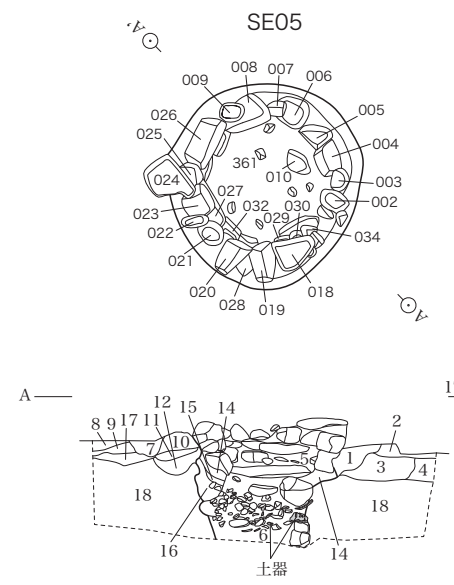
第144図 SD003(1/50)



1. 10YR5/1 褐灰シルト
2. 10YR6/1 褐灰シルト
3. 10YR5/2 褐灰粘質シルト
4. 10YR5/3 にぶい黄褐混砂シルト
5. 10YR5/1 褐灰砂質土
6. 10YR3/2 黒褐砂質土
7. 10YR6/1 灰黄褐砂質土
8. 10YR6/1 褐灰粗粒砂
9. 10YR4/1 褐灰粗粒砂
10. 10YR2/1 黒シルト
11. 10YR3/1 黒褐粘質土

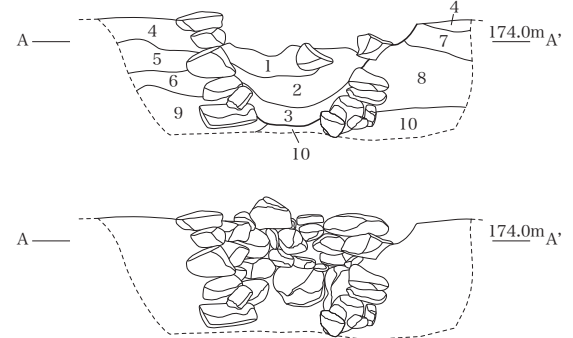
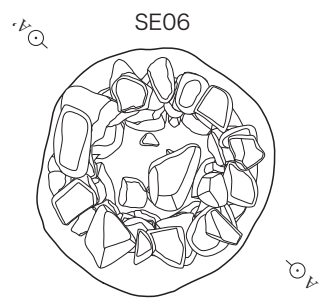


第145図 SD003 断面図(1/50)



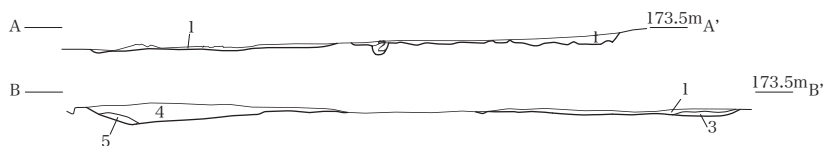
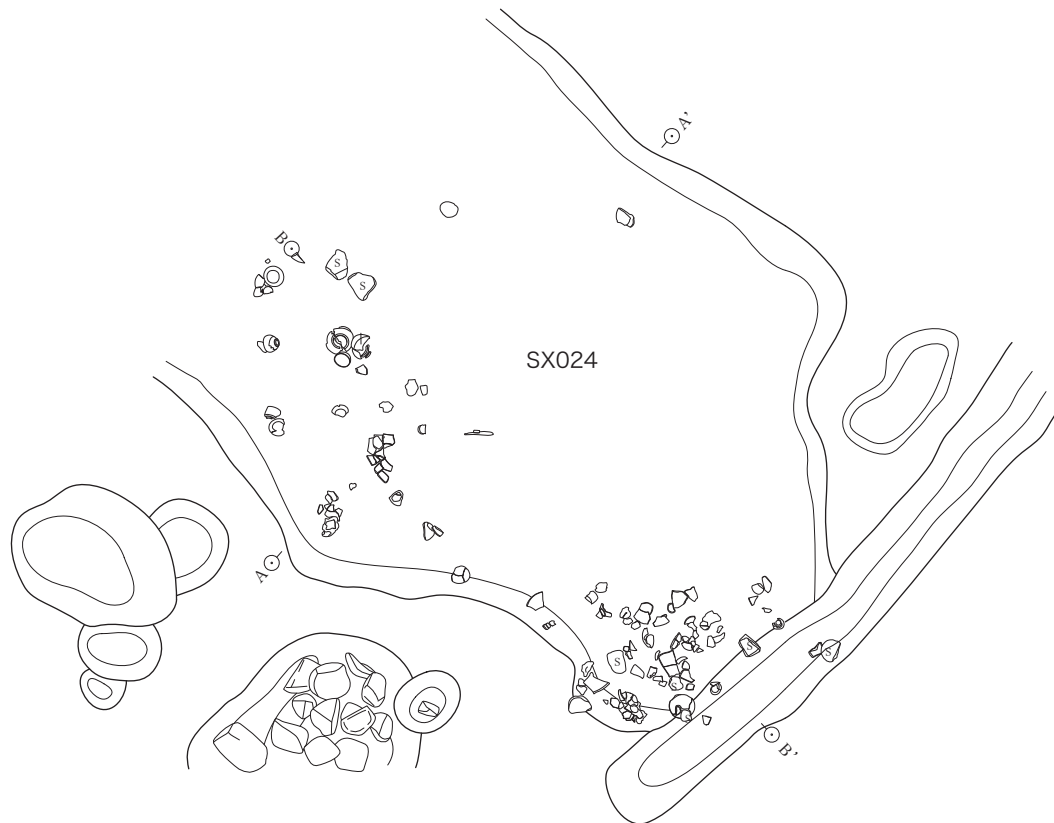
1. 10YR7/3 にぶい黄橙色細粒砂
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
3. 10YR8/3 浅黄褐色細粒砂
4. 10YR8/3 浅黄褐色細粒砂
5. 10YR3/3 暗褐色粘土
6. 10YR7/1 灰白色細粒砂
7. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂
8. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土
9. 5YR7/6 橙色細粒砂
10. 10YR6/6 明黄褐色細粒砂
11. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂
12. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト
13. 7.5YR4/4 褐色砂質シルト
14. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂
15. 7.5YR4/4 褐色砂質シルト
16. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
17. 2.5Y6/8 橙色焼土
18. 2.5Y8/2 灰白色砂質シルト

第146図 SE05(1/50)



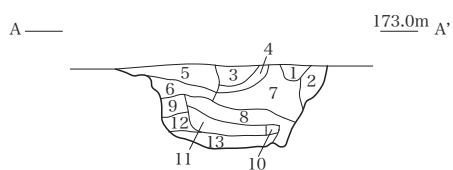
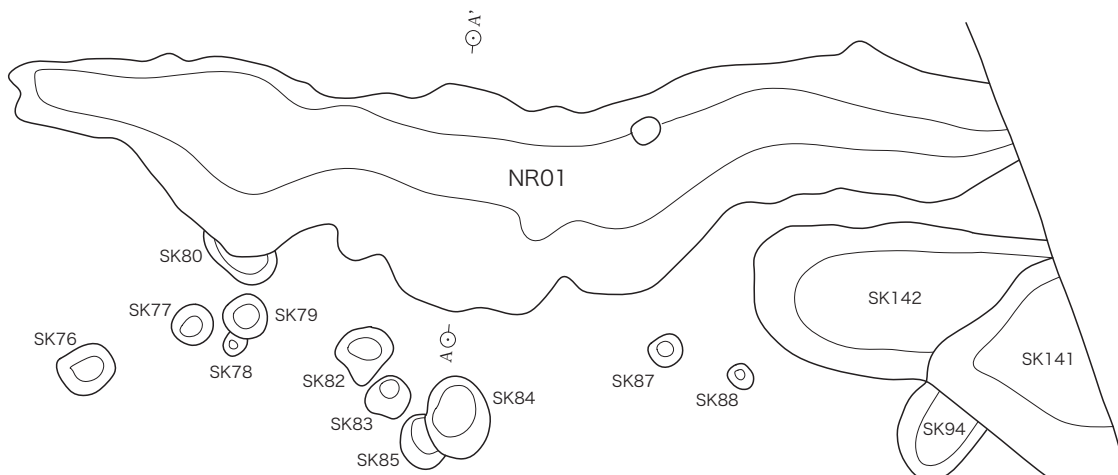
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土
2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土
3. 10YR7/2 にぶい黄橙色砂
4. 10YR7/3 にぶい黄橙色砂
5. 2.5Y7/2 灰黄色砂
6. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂
7. 2.5Y6/3 にぶい黄色砂
8. 2.5Y6/2 灰黄色砂
9. 2.5Y8/6 黄色砂質土
10. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂

第147図 SE06(1/50)



- 1. 2.5Y4/2暗灰黄細粒砂
- 2. 2.5Y5/2暗灰黄中粒砂
- 3. 5Y6/1灰中粒砂
- 4. 2.5Y5/1黄灰細粒砂
- 5. 5Y5/1灰粘土

第 148 図 SX024(1/50)



- 1. 5Y5/1灰色粗砂
- 2. N7/灰白色細砂
- 3. 10YR6/4にぶい黄橙色粗砂
- 4. 10Y4/1灰色粗砂
- 5. 2.5Y5/1黄灰色細礫
- 6. 2.5Y4/1黄灰色細砂
- 7. 7.5Y7/1灰白色小礫
- 8. 5Y7/1灰白色小礫
- 9. 2.5Y3/1褐色小礫
- 10. N7/灰白色細砂
- 11. 10YR7/2にぶい黄橙色細砂
- 12. 5Y4/1灰色小礫
- 13. 5Y4/1灰色砂

第 149 図 NR01(1/50)

第8節 自然流路その他

1. 自然流路

調査区域内で数条の自然流路が検出されている。

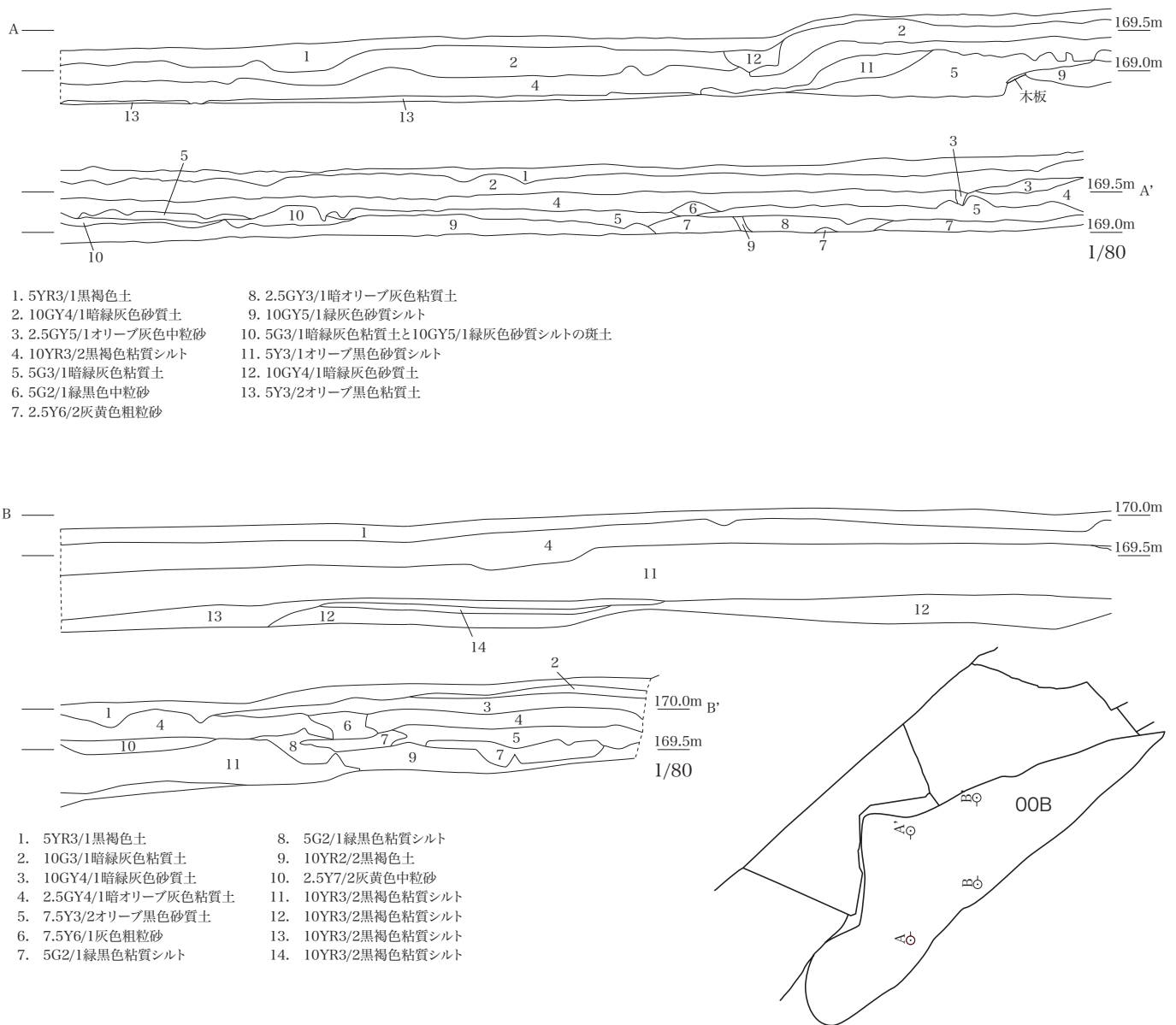
NR01(第149図)

ほぼ東西に走る一時的な流水による流路痕跡である。残存長6.3m、幅1.4m、深さ0.6mを測る。埋土は粗粒砂と細礫である。遺物は山茶碗などが少量検出された。

2. 門前川河谷

00B区は門前川の河谷の一部と考えられるが、旧地形は湿地で現耕作土面下は帯水による堆積が認められる。基本層序はa現耕作土(粘質土)b砂質土またはシルトである(第150図)。

bには湿地性の植物遺体が多く混じる。(酒井俊彦)



第150図 00B区断面図(1/50)

第3章 遺物

第1節 土器・陶磁器類

主に縄文時代から近世末までの時期の土器、陶器、磁器を対象とする。一部、陶製品も含む。

1. 縄文時代の遺物

南部地区

SB001(第151図)

1は炉穴と考えられる土坑より出土した。平縁で、いわゆるキャリパー型の深鉢である。口縁下に平行して指による押圧痕列が1条施される。口縁部と体部の境界に1条の隆帯を有し、その上部が浅い沈線が施される。中期後半の時期である。

SB003(第151図)

8は深鉢口縁部で外面直下に押圧痕による文様がある。中期の時期と考える。

SB017(第151図)

9-12は竪穴住居の炉の土坑内より出土した。キャリパー型の深鉢で口縁形態は不明である。胴部上部に隆帯による横方向の波形の文様を有する。中期後半の時期と考える。

01A区SK125(第151図)

2-7はSB002に重複する土坑内から出土した。SB002は縄文中期である。2は平縁の口縁端部外面を若干肥厚させ、板状具の先端で連続刺突文を施している深鉢である。3-5は粗製深鉢で粘土の輪積痕が口縁直下であり、口縁部の粘土が外側にはみだす。6は体部で沈線文が施される。7は底部の端部外面が張り出す深鉢である。これらは、晩期前半の時期に属する。

03B区・04E区包含層(第151図)

調査区南東側の門前川河谷の包含層中から出土した。13-19は渦巻文の隆帯と沈線で構成される文様である。キャリパー型の器形で波状口縁である。03B区の河谷上端より集中して検出された。20-24は胴部破片であるが、キャリパー型の器形で波状口縁の深鉢と考えられる。刺突列を施される横方向の隆帯と沈線文で構成される文様である。04E区のやや深い位置から出土した。25-30は深鉢胴部破片で、縦と斜めの沈線文を有する深鉢である。中期後半の時期と考える。

04B区包含層(第151図)

04B区北端の黒ボク土上面包含層で検出された。狭い範囲で少量のみの出土である。31は無文粗製深鉢の胴部から底部である。32は深鉢胴部で沈線文を有する。後期と考えられる。

北部地区

01D区包含層(第152-153図)

01D区北端の赤津川河谷の斜面の包含層から出土した。33-49は平行沈線による眼鏡状文を有する平縁の深鉢の口縁である。平行沈線の区画内に連続斜沈線文を施す。50-60は渦巻文と連続斜沈線文で構成される文様を有する深鉢口縁である。平縁(50-55)と波状口縁(56-60)がある。63は口縁部の上下に口縁に平行する2条の隆帯を巡らす深鉢である。64は口縁部に連続斜沈線を施し、口唇に連続刺突文を有する。65は内傾する口唇に平行沈線を施す。66は口縁部に平行する2条の破線状の連続刺突文を施す。61-62は沈線文と縄文で構成される文様の深鉢胴部である。突起を有する。67は沈線による楕円状の文様を有する。68-123は縦沈線と連続斜沈線で構成される文様を胴部に有する深鉢である。棒状の施文具で粗い文様を有す

るものと、細い施文具で細かい文様のものがある。一部の個体の口縁は 33-49 の眼鏡状文である。124-130 は隆帯による文様を有する深鉢胴部である。124-126 は連続刺突を施される。131-132 は縄文を施される。133 は隆帯を有し、磨き調整を施される。134 は粗い縄文が施されるものである。135-139 は深鉢底部である。平底で 138 は木葉痕を有し、136 139 は胴部に縦方向沈線文が施される。140 は台付き深鉢の底部で、台部に透かしがある。141 は舟底形の小形の浅鉢である。側面に櫛歯状の器具による沈線文が施される。33-62、67-130、135-140 は中期後半の時期に属す。65 は後期前半、66 は晩期前半の時期と考えられる。131-133 140 は後期の可能性が高い。134 は前期と考えられる。(酒井俊彦)

2. 弥生時代の遺物

遺物のほとんどは遺構のある北部地区に集中する。

南部地区

NR01(第 154 図)

142 は中世以降の自然流路で混入したものである。壺の胴部で、内外面ハケ調整痕が残り、胴屈曲部に 1 条の凹線文を施す。中期後半の時期と考える。

北部地区

SB219(第 154 図)

竪穴住居埋土中より出土した。143 は甕口縁部、144 は波状文を施される高杯の杯部である。弥生後期の時期に属する。

SB220(第 154 図)

竪穴住居埋土中より集中して検出された。146 は櫛状具による内面に刺突文列を施される広口壺口縁部である。147 は球形の胴部で短い外反する口縁の壺である。148 は断面くの字状に屈曲する口縁を有する壺である。149 150 は大形の壺底部である。149 は外面にハケ調整痕を残す。151-162 は甕口縁部である。口縁部がくの字状に外反する。157 は口唇に刺突列を施される。内面はナデ調整でハケ目を残すものは少ない。外面はハケ調整痕を明瞭に残すものがある(158-161)。163-166 は台付甕である。163 の内面はナデ調整、口縁、胴上部はハケ調整痕を横方向にナデ消す。164 は高台内外面ナデ調整、165 はハケ調整痕を残す。166 は細かい削り調整あるいは磨き調整である。167-170 は高杯である。167 は波状文と沈線文を施される。168-170 脚部で櫛状具による横沈線あるいは刺突列との組み合わせの文様を施される。171 は底部のみであるが、鉢と考えられる。172 は小形の甕で、内面にハケ調整が認められ、口縁が短く外反する器形である。173 は蓋である。174 175 はミニチュア土器である。また、土製品として銅鐸型土製品が出土している(第 234 図 2523)。これらは後期の時期に属する。

SB270(第 154 図)

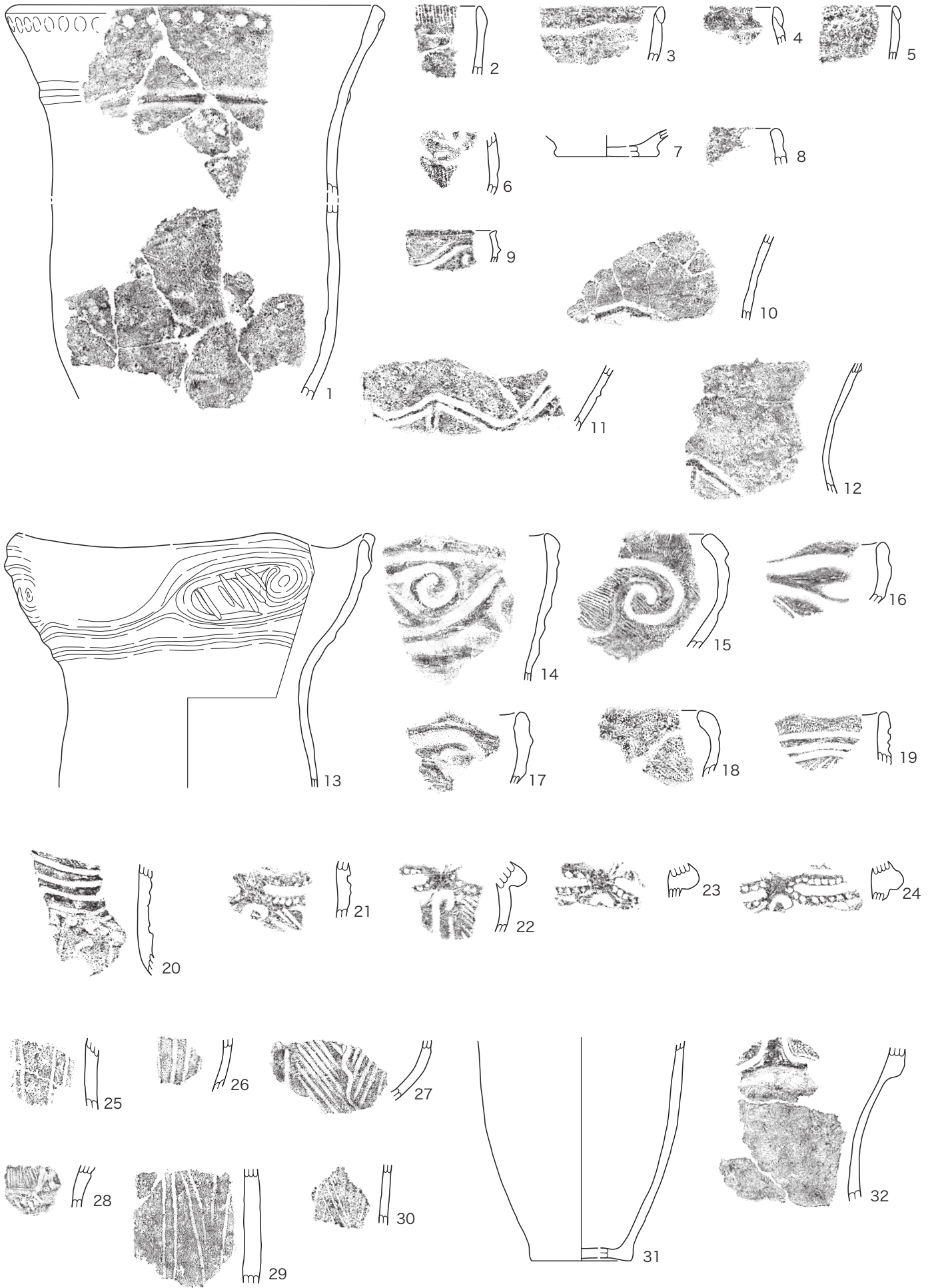
176 は高杯脚部である。横沈線および刺突列による文様構成である。後期の時期である。

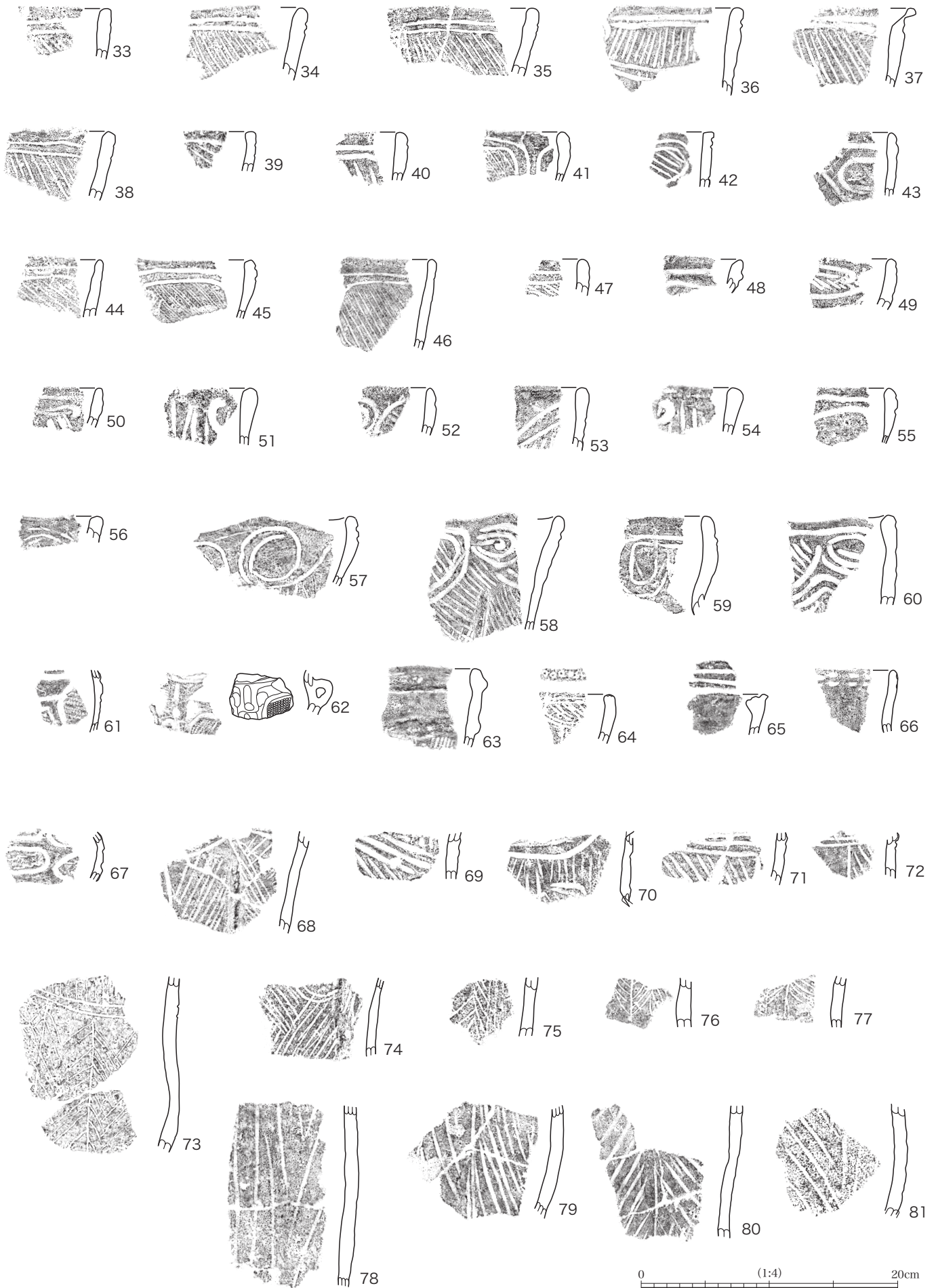
O4Ab 区 SK944(第 154 図)

145 は壺口縁部である。器形より、中期後半の時期に属する。

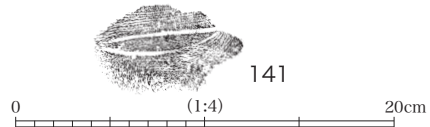
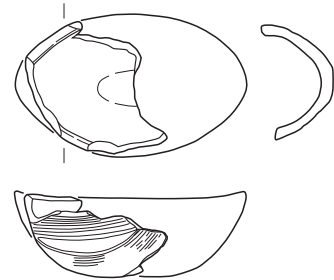
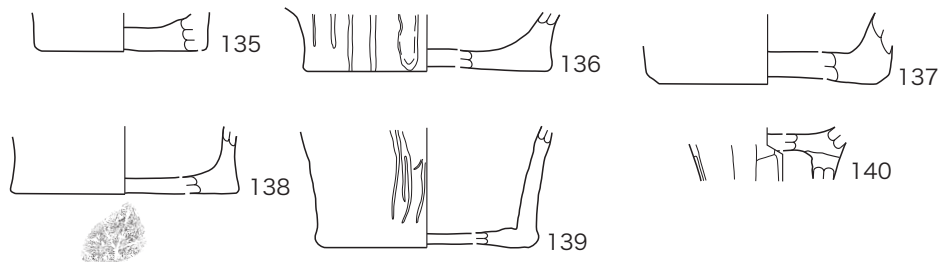
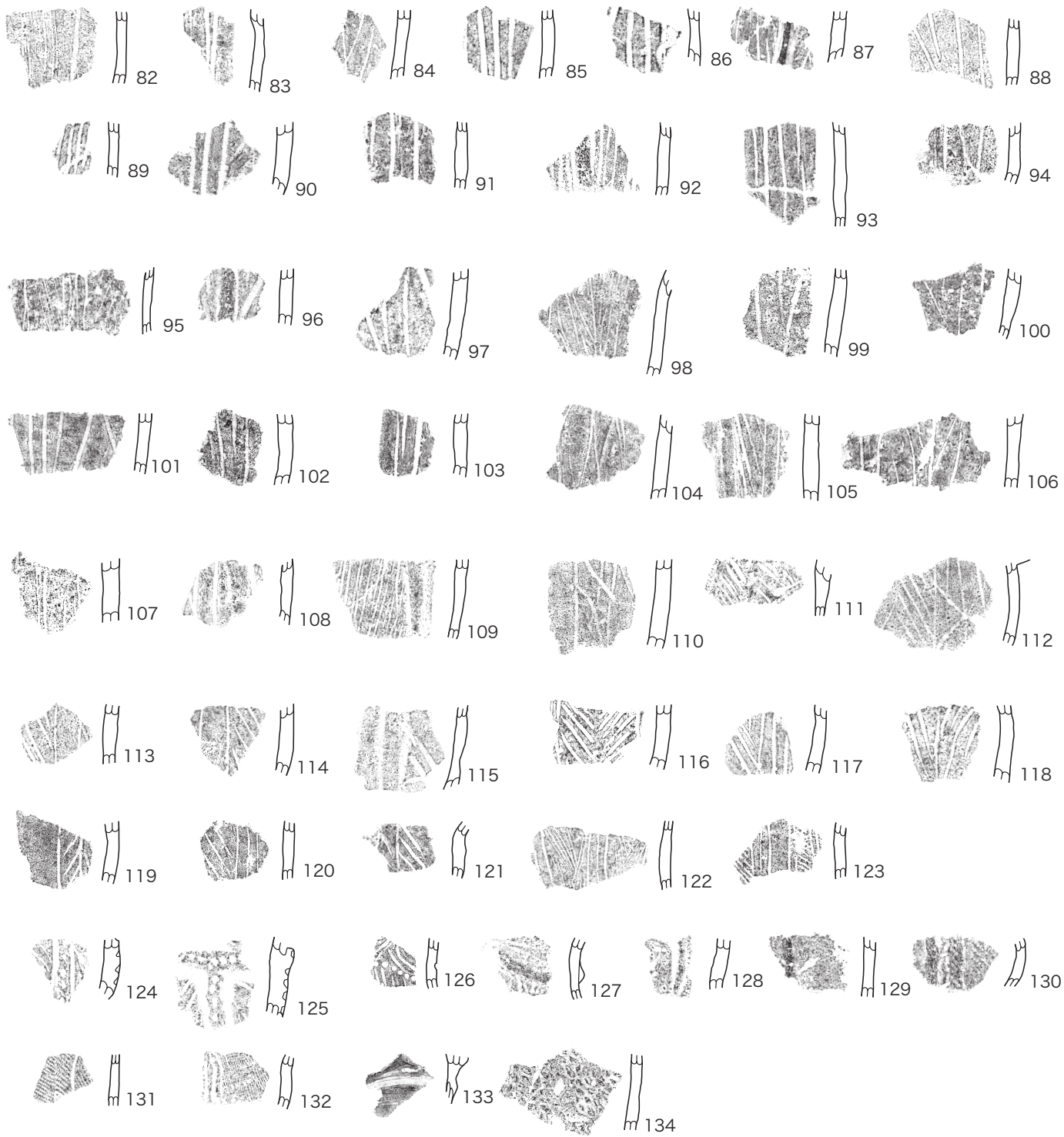
SD212(第 175 図)

古墳時代遺物とともに、弥生土器が若干出土した。主に高杯が検出された(709-715)。有段の杯部のもので波状文を施される。脚部には沈線文等の文様があり、円形の透かしを施される。(酒井俊彦)

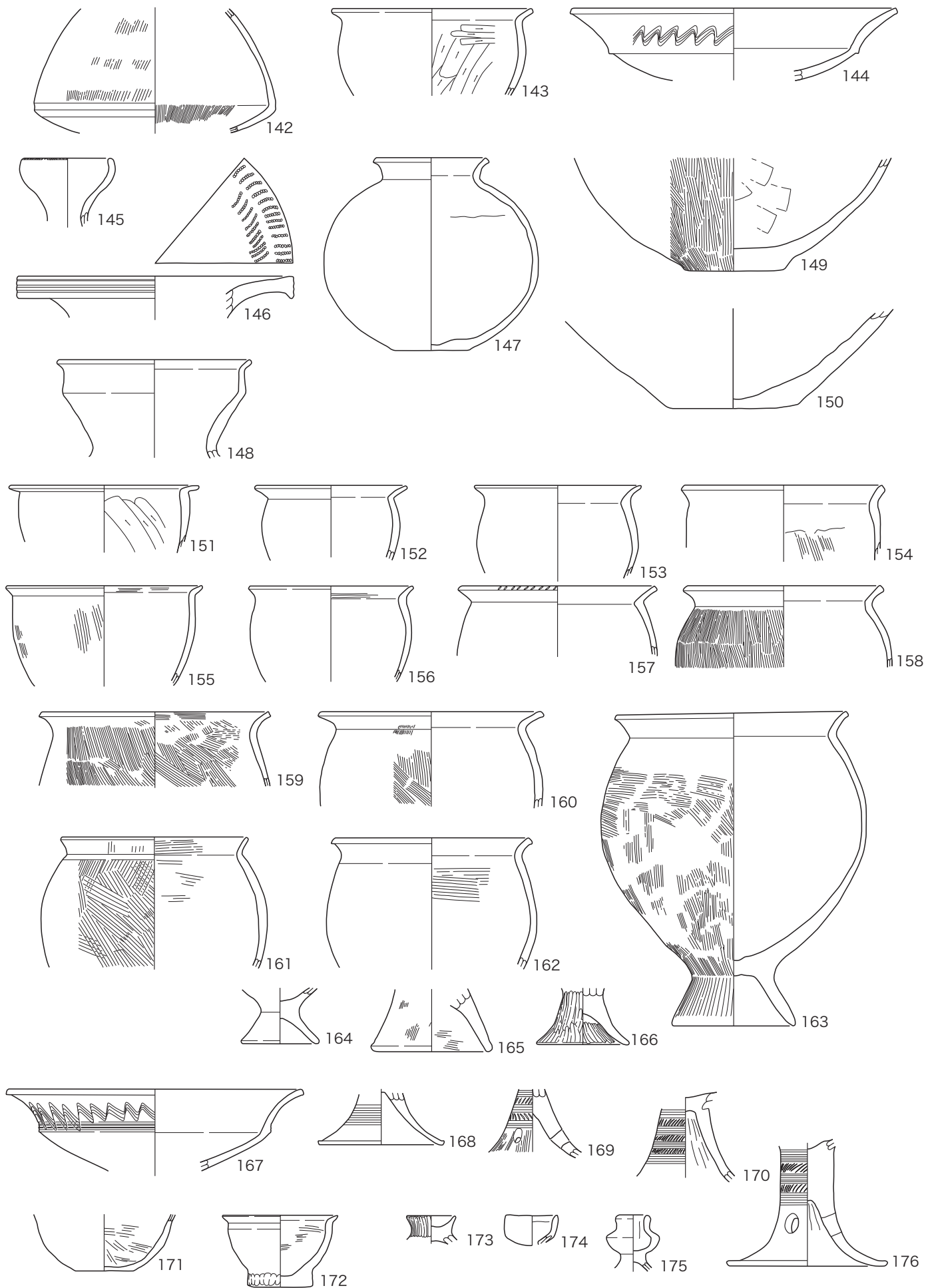




第 152 図 縄文土器 (2)



第153図 縄文土器(3)



0 (1:4) 20cm

第 154 图 弥生土器

3. 古墳時代の遺物

この時期の遺物として3世紀末から7世紀中葉の時期の遺物を対象とする。煩瑣を避けるため、主な遺物について記述上の分類を行っておく。

土師器

壺 A 広口壺。口縁が外反ないし外傾する。

B 広口壺で口縁端部を拡張し、凹線文を加えるなど装飾がある。

C 小形の壺で口頸部が直口あるいは外反する。

D 小形の壺で口頸部が内湾する。

甕 A 口縁部がくの字状に外反する。台を有するものと無いものがある。

B 外反した口縁部が屈折して、端部がつきだす。いわゆるS字甕である。

C 口縁部が緩く外反し、胴部は球形からやや長胴のものである。

D 口縁部の外反が強く長胴形のものである。

須恵器

杯 A 丸底で蓋受けのかえりを有する。

B 体部が直線的に立ち上がり、底部との境界に稜がはいる。

C Bに高台が付くもの。

D 深く、丸い体部のもの。

杯蓋 A 丸い天井部で、口縁が立ち上がり境界に稜がはいる。頂部に宝珠を有する。

B Aと同じ形状で、宝珠を有しない。

C 扁平な天井部で口縁が短く屈曲する。頂部に宝珠を有する。

D Cと同じ形状で頂部に宝珠を有しない。

出土遺物は古墳時代全時期にわたり、調査区に広く展開する。遺構の種別ごとに記述する。

a. 竪穴住居

南部地区

SB012(第155図)

須恵器は杯蓋 B(177) が検出された。蓋の稜は明瞭ではない。土師器甕 B(178) が出土している。7世紀中葉の時期に属する。

SB025(第155図)

須恵器はハソウ(179) が検出された。丸底のものである。土師器甕 B(180) が出土した。7世紀中葉の時期である。

SB027(第155図)

須恵器は台付長頸瓶の蓋(181) 高杯(182 183) 壺?(184) 甕(185) 横瓶(186) が検出された。土師器は甕 C(187-193)D(914) がある。甕 C はハケ調整痕を残さない。188 189 は短い口縁である。190-193 は平底である。194 は内面がナデ調整で外面はハケ調整痕が頸部意外に明瞭に残る。これらは7世紀前半の時期と考えられる。

SB031(第155図)

須恵器は高杯(196) ハソウ(197) 甕(195 198) が検出された。196 は口縁端部が外反する。197 は丸底である。195 は体部に叩き目をもつ。198 は体部が焼成時に歪んでいる。土師器は甕 C(199-201) が検出された。201 は内外面ハケ調整痕を残さない、短い口縁部のものである。196 と 198 は甕の高まりの埋土中より出土した。これらは6世紀末から7世紀初頭の時期と考

える。

SB032(第 156 図)

須恵器は杯 A(202-206) 杯蓋 B(207 208) 高杯 (209) が出土した。203 207 はやや口径の大きいものである。土師器は甕 C(211-216) 高杯 (210) が出土した。基本的に内面のハケ調整痕はナデ調整によって消される。底部は平底である。6 世紀後半の時期に属す。

SB033(第 156 図)

須恵器は杯 A(219 220) が出土している。土師器は甕 C(221) が出土した。6 世紀後葉の時期に属す。

SB034(第 161 図)

須恵器は杯蓋 B(353) 甕 (358) が出土した。杯蓋は東山 111 号窯式と考えられる。甕は外面叩き目を施される。土師器は甕 A(354 355) 高杯 (356 357) が出土した。高杯は杯部碗状のものと同様のものがある。

SB035(第 156 157 図)

須恵器は杯 A(222-224) 杯蓋 A(225 226)B(227-233) が出土した。杯はいずれも口縁の高く垂直に立ち上がる形態である。蓋は口縁が高く垂直に立ち上がるものである。これらは東山 218 号窯式から東山 11 号窯式の時期である。土師器は甕 C(235-247) 台付甕脚部 (248) 鉢 (249) が出土した。基本的に内外面調整痕を残さないが、241 は外面ハケ調整痕が明瞭である。236 は口縁が内湾気味になる。底部はやや尖った形態で底面の面積が狭い。242 は丸底に近い。249 は口縁がわずかに外反する。5 世紀後半の時期と考える。

SB036(第 158 図)

須恵器は杯 A(249) 杯蓋 (250) が出土した。249 は東山 111 号様式、250 は 5 世紀代である。土師器は甕 C(251-256) が出土した。5 世紀代の時期に属する。

SB037(第 159 図)

須恵器は杯 A(282-288) 高杯 (289) 甕 (291) 壺類 (292) 瓶類蓋 (290) が出土した。282 283 は 5 世紀後半、284-292 は 6 世紀末の時期である。290 は小径の瓶類の蓋である。292 は壺あるいは瓶の底部である。土師器は甕 C(293-302) が出土した。調整痕を残さないものが多い。301 は底部に木葉痕を有する。5 世紀代の須恵器は混入であり、全体として 6 世紀末の時期と考える。

SB038(第 158 図)

須恵器は杯 A(257) 杯蓋 (258 259) が出土した。257 と 258 は 6 世紀中葉の時期、259 は 5 世紀後半の時期に属する。

SB039(第 158 図)

須恵器は杯 A(260-264) 杯蓋 A(265) が出土した。263 はやや大径で東山 61 号窯式、他は東山 44 号窯式である。土師器は甕 C(266-272) 甕 (273) が出土した。267 268 は外反がわずかである。273 は把手の部分である。これらは 6 世紀後半の時期に属する。

SB040(第 158 図)

土師器が出土している。甕 C(274-279) は調整痕をのこさない。手づくね土器 (280 281) は小形の鉢の形態である。6 世紀代の時期と考えられる。

SB041(第 160 図)

須恵器は杯 A(303-305) 高杯 (306 310) が出土した。304 305 307 309 は東山 44 号窯式の時期に属する。306 は少し古い時期である。土師器は甕 C(307-309 311) が出土した。調整

痕はあまり残らない。これらは7世紀初頭の時期に属する。

SB042(第160図)

須恵器は杯A(312)高杯(313)ハソウ(314)が出土した。312はやや大径で東山61号窯式の時期である。313は6世紀代である。土師器は甕C(315)が出土した。口縁部は短く、わずかに外反する。これらは6世紀代と考えられる。

SB044(第160図)

須恵器は杯A(316-317)蓋A(319)B(318)高杯(320-324)が出土した。316は東山111号窯式、317-318は6世紀後半、320-324は5世紀後半の時期に属す。土師器は甕A(325-327)台付甕脚部(326-328)高杯(329-330)が出土した。318-319は混入の可能性があり、5世紀後半の時期と考える。

SB051(第161図)

土師器は甕A(331-333)高杯(337-340)鉢(334-335)手づくね土器(336)が出土した。甕Aは調整痕があまり残らない。高杯は杯部碗形の337と大形の有段の338-340がある。杯は丸底にちかい平底と丸底のものがある。337は鉢である。赤塚編年の松河戸Ⅱ式の時期に属する。

SB052(第161図)

土師器は甕A(341-346)台付甕(347)高杯(348-351)甕(352)が出土した。甕は調整痕をあまり残さない。347は甕AないしBである。高杯は杯部が碗型のものである。

SB060(第162図)

須恵器は杯蓋B(359-360)が出土した。359は5世紀代、360は6世紀代である。土師器は甕C(361)が出土した。

SB061(第162図)

須恵器は杯A(362)と杯蓋B(363)が出土した。362は7世紀前葉、363は5世紀代の時期に属する。

SB063(第162図)

須恵器は杯A(364)が出土した。7世紀前葉の時期に属する。

SB065(第162図)

須恵器は長頸瓶(365)が出土している。土師器は甕C(366-368)甕底部(369-370)が出土している。6世紀後半に属すものとする。

北部地区

SB201(第163図)

須恵器は高杯(371)が出土した。土師器は甕C(372)が出土している。7世紀代と考える。

SB202(第163図)

須恵器は杯A(373)が出土した。7世紀前葉の時期である。土師器は甕(374-376)鉢(375)が出土した。375はやや外反する体部で外面にハケ調整痕を有する。375-376は底部に木葉痕を有する。

SB204(第163図)

須恵器は杯A(377)が出土する。7世紀前半の時期である。土師器は甕C(378-380)甕底部(381-383)が出土した。382-383は底面に木葉痕を有する。

SB205(第163図)

須恵器は杯A(384)高杯(385)が出土した。7世紀前半の時期に属する。土師器は鉢(386)甕(387)が出土した。387は広い鏝を有するものである。

SB206(第 163 図)

須恵器は高杯 (388) が出土した。7 世紀前半に属する。土師器は甕底部 (389) が出土した。

SB208(第 163 図)

須恵器は杯 A(390-392) 杯蓋 B(394 395) 器種不明 (393) が出土した。これらは 7 世紀前半で、395 は 5 世紀代の時期に属し、混入したと考える。土師器は甕 C(396) 鉢 (397) 甕 (398) が出土した。

SB209(第 164 図)

須恵器は杯 A(399) 高杯 (400) が出土した。7 世紀前半の時期に属する。土師器は甕 A(401) が出土した。

SB210(第 164 図)

須恵器は杯 A(402) 高杯 (403) が出土した。402 は東山 111 号窯式の時期に属する。

SB211(第 164 図)

須恵器は杯 A(405 406 408) 鉢 (407) が出土した。7 世紀前半の時期に属する。土師器は甕 C(409-416) 甕 (417 418) 手づくね (419-421) が出土した。412 413 は同一個体の可能性があり、底部に木葉痕を有する。417 は甕把手である。

SB212(第 164 図)

須恵器は杯 A(422) 杯蓋 B(423-425) 高杯 (426) が出土した。422 は平底である。423 は底面に木葉痕を有する。これらは 7 世紀前半の時期に属する。土師器は甕 C(427 428) が出土した。

SB213(第 165 図)

土師器は壺 A(429) 壺 B(430) 甕 A(431) 鉢 (432 434) 蓋 (433) が出土した。429 は口縁部の内外面にハケ調整痕を残す。432 は凹圧痕を残す。435 は内外面にハケ調整痕を残し、少量の 2 次的に火を受けるなど、甕としての機能を持つ可能性がある。廻間 I 式の時期に属す。

SB214(第 165 図)

土師器は甕 C(435-437) が出土した。廻間 I 式の時期に属す。

SB216(第 165 図)

土師器甕 A(438-441) 台付甕 (442) 壺 C(443) 高杯 (444) 不明 (445) が出土した。445 は内外面ナデ調整で口縁部のみで鉢の可能性はある。尾張地方編年の廻間 II 式期の時期である。

SB218(第 165 図)

土師器壺 (446) ミニチュア (447) が出土している。古墳時代前半の時期と考える。

SB221(第 165 図)

土師器壺 (448) 甕 A(449-451) 台付甕 (452 453) 高杯 (454-458) 器台 (459) が出土している。448 はやや長胴で壺 C あるいは壺 D と考える。452 は口縁端が内折して受口状である。高杯は内外面丁寧な磨き調整が施される。459 は杯部が受口状で側面に円形透かしを施される。廻間 II または III の時期である。

SB222(第 166 図)

土師器は壺 B(460-465) 壺 A(466) 甕 A(467)B(468) 鉢 (471) が出土した。466 は体部に文様があるが、口縁部には文様が施されない。469 は甕 A または B の脚部、470 は有稜高杯で混入と考える。廻間 II 式の時期と考える。

SB223(第 166 図)

土師器壺 (472 475) 鉢 (473 474) が出土した。472 は有段の壺である。鉢は小形のものであ

る。廻間I - IIの時期である。

SB227(第 166 図)

土師器は壺 (476) 甕 A(478) 高杯 (481) 小型壺 (482 483) 鉢 (484-498) 器台 (490 491) が出土した。477 はハケ調整痕が全面にあり、同調整具の横方向沈線文が施される。479 480 は甕 AB の脚部である。廻間II式の時期である。

SB230(第 167 図)

須恵器は蓋 B(492 493) が出土した。これらは 7 世紀前半の時期に属する。土師器は台付甕脚部 (494) 高杯 (495) 器台 (496) があるが、混入である。

SB237(第 167 図)

土師器高杯 (497) が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB243(第 167 図)

土師器壺 B(499) 甕 (498) が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB246(第 167 図)

須恵器杯 A(501) が出土した。7 世紀前半の時期である。

SB250(第 167 図)

土師器器台 (500) が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB251(第 167 図)

土師器甕 B(502) が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB253(第 167 図)

土師器甕 A(503) が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB262(第 167 図)

土師器甕 A(504) が出土した。古墳時代前半の時期である。

SB266(第 167 図)

須恵器は蓋 C(505) 蓋 B(506) が出土した。505 は混入と考える。土師器は甕 C(507-510) 鉢 (511) が出土した。これらは 7 世紀前半の時期と考える。

SB267(第 167 図)

須恵器は杯 A(512 513) が出土した。東山 61 号窯式の時期である。土師器は甕 C(515-517) が出土した。甕 B(515) は混入と考えられる。

SB275(第 167 図)

土師器は甕 A(518) 台付甕 (519 520) が出土した。

SB276(第 167 図)

土師器甕 A(522) 鉢 (523) が出土した。古墳時代前半の時期である。須恵器杯 D(521) は 8 世紀前半の時期で混入と考える。

SB285(第 168 図)

土師器壺 B(524) 壺 (525) 台付甕 (526) 高杯 (527 529) 器台 (528) が出土した。526 は口縁有段である。これらは廻間III式の時期である。

SB286(第 168 図)

土師器甕 A は無台 (531 532) と台付 (533) が出土した。534 は小型壺と考える。廻間IIの時期である。

b. 土坑

南部地区

03Ab 区

SK112(第 169 図)

須恵器杯 A(535) が出土した。7 世紀中葉の時期である。

01B 区

SK45(第 169 図)

須恵器は杯蓋 A(536) が出土した。7 世紀前半の時期である。

03B 区

SK206(第 169 図)

須恵器杯 A(538) 杯蓋 B(539) が出土した。540 は器種不明胴部である。土師器は甕 A(542-548) 台付甕 (549 550) 高杯 (551-559) 鉢 (541) 器種不明 (560) が出土した。551-553 は壺底部である。560 は有段の大形高杯である。5 世紀後半の時期に属す。

SK371(第 169 図)

須恵器杯蓋 (561 562) が出土した。土師器は甕 C(563) 壺 (564 565) が出土した。これらは 6 世紀前半の時期に属す。

SK372(第 169 図)

土師器甕 A(566-568) が出土した。

SK605(第 169 図)

須恵器杯蓋 (569) 出土した。6 世紀中葉の時期である。

04Bd 区

SK09(第 169 図)

須恵器杯 D(575) が出土した。7 世紀後半である。

SK25(第 169 図)

須恵器杯 D(576) が出土した。7 世紀後半である。

04Ca 区

SK920(第 170 図)

須恵器杯蓋 A(573) が出土した。6 世紀前半の時期である。

SK961(第 170 図)

須恵器は杯 A(570 571) 高杯 (572) が出土した。土師器は甕 C(574) 出土した。7 世紀前半に属す。

北部地区

02B 区

SK134(第 171 図)

土師器は壺 B(592-597) 甕 A(598) が出土した。廻間Ⅱ式の時期である。

04Ab 区

個別の遺構から 1 点のみ出土している。

SK018(第 171 図)

須恵器杯蓋 B(599) が出土した。7 世紀前半である。

SX02(第 171 図)

土師器壺 A(600) が出土した。古墳時代前半である。

SK393(第 171 図)

土師器壺 (605) である。

SK987(第 171 図)

土師器甕 A(603) で古墳時代前半である。

SK1020(第 171 図)

土師器甕 C(602) が出土した。古墳時代後半である。

SK1023(第 171 図)

土師器甕 C(601) が出土した。古墳時代後半である。

C. 溝

SD212(第 172-176 図)

02B 区、04Ab 区の溝である。弥生時代の溝であるが、上層より古墳時代前半の土師器が投棄した状態で多量に出土した。

土師器壺は、壺 A(606 607 619) 壺 B(616 618 620 621) 有段壺 (608-615 617) 加飾胴部 (622-624) 胴部下半 (625-628) 底部 (629-641) が出土している。甕は、甕 A(642-677 679-682) 甕 B(698-708) 台部 (683-697) 出土している。高杯 (716-728) は杯部有稜のもの (716-718) と杯部碗状のもの (721 722) のものがある。723 は稜の部分が鏝状になり、杯部に透かしがある。器台 (729-734) は透かしを有するものが多い。鉢は外反する口縁のもの (735) と皿状のもの (736 737) があり、小型の鉢は口縁部が外反するもの (761-764) と半球状のもの (765-768) がある。小型壺 (739-760) は短頸壺 (739 742-745 754-757) 長頸壺 (746-748 753) がある。758 は脚付きである。769-772 は蓋である。

D. 包含層 その他

SD103(第 170 図)

中世の溝埋土中より出土した。須恵器杯 A(577 578) 杯蓋 B(579) が出土した。7 世紀前半のじきである。土師器は甕 C(580) が出土した。

SD140(第 170 図)

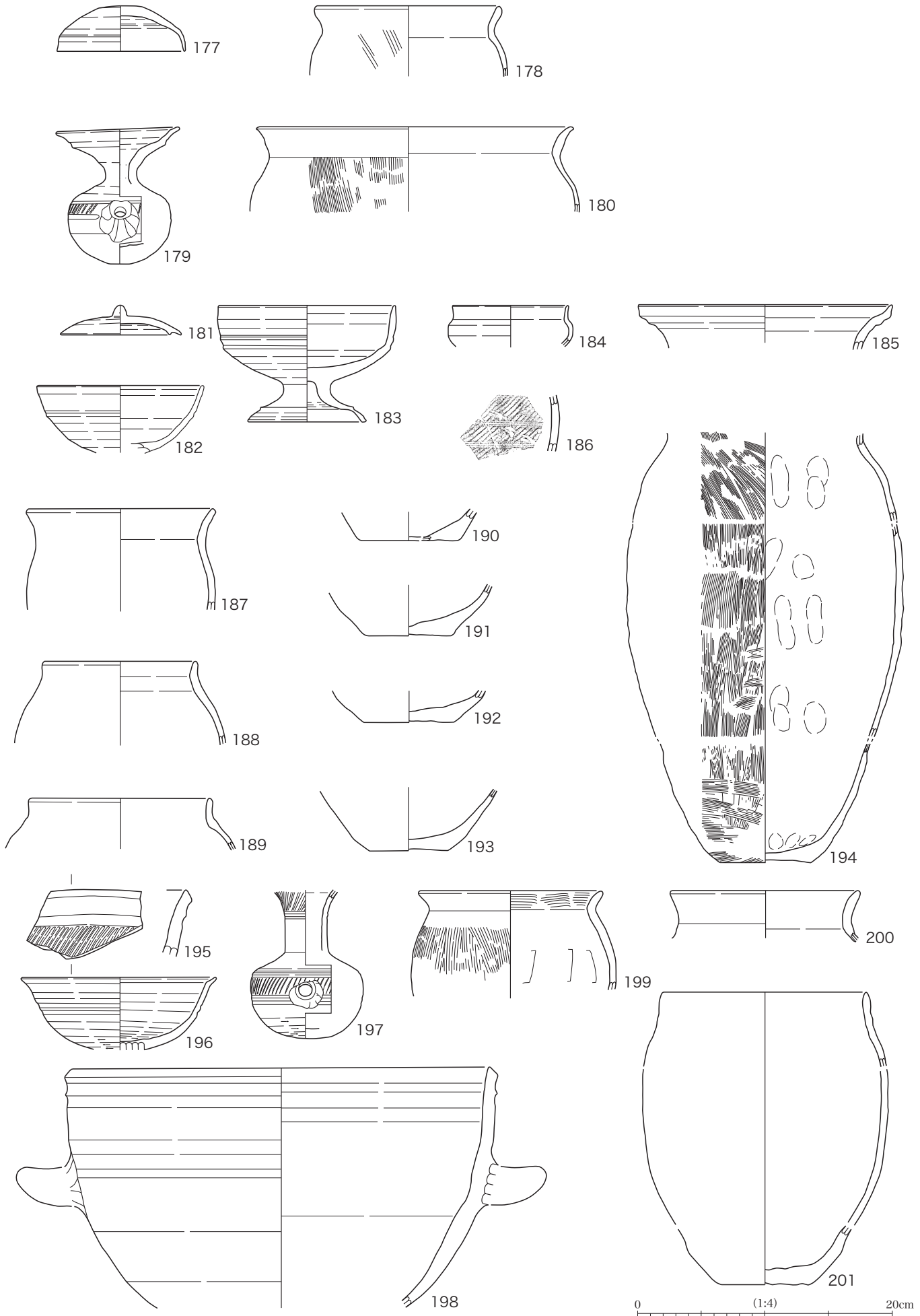
中世の溝埋土中より出土した。須恵器杯蓋 C(581) が出土した。

04Ca 区 (第 170 図)

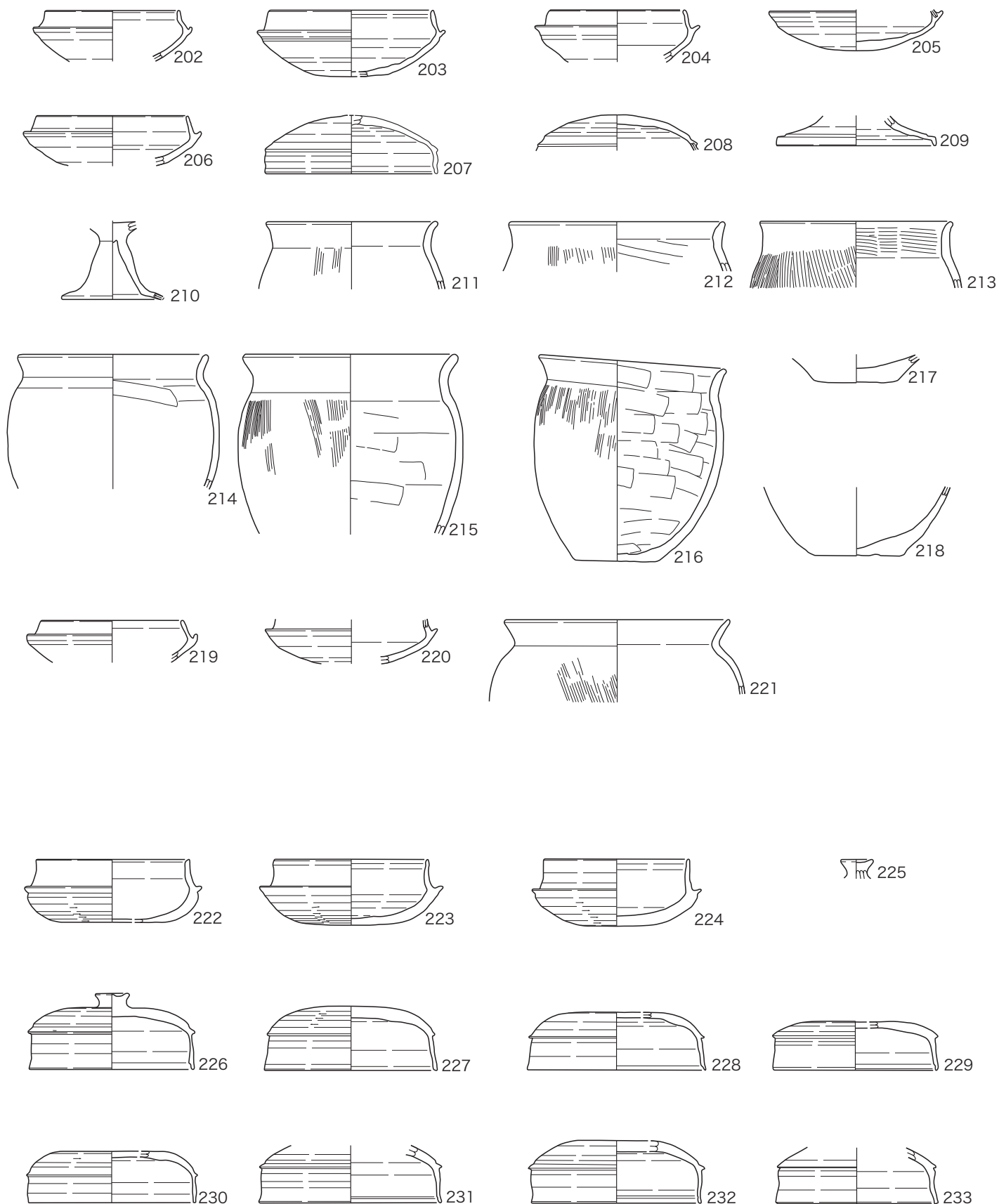
基盤面上層の黒ボク土のより出土した。須恵器は杯 A(582 583) が出土した。6 世紀前葉の時期に属す。土師器は甕 A(584-589) 甕 B(590) 鉢 (591) が出土した。5 世紀代の時期に属す。

02A 区 (第 177 図)

基盤上層の黒ボク土より出土した。須恵器は杯 A(773-775) 高杯 (776) が出土した。773 774 は東山 111 号窯式、775 は東山 50 号窯式の時期に属する。土師器は壺 A(777 778) 二重口縁壺 (779) 甕 A(786-795) 甕 B(784 785) 高杯 (802-805) 器台 (806 807) が出土した。785 は器種不明である。土師器は古墳時代前半の時期である。(酒井俊彦)

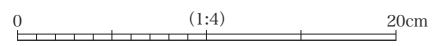
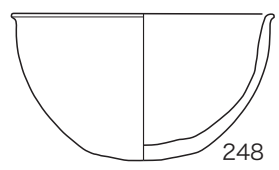
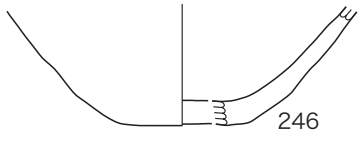
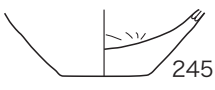
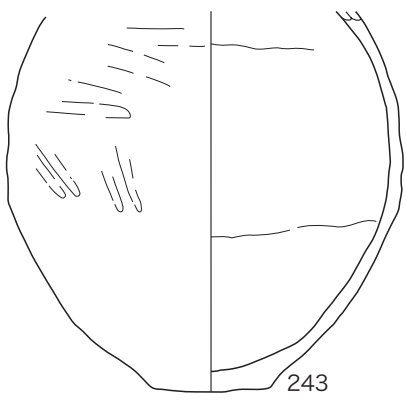
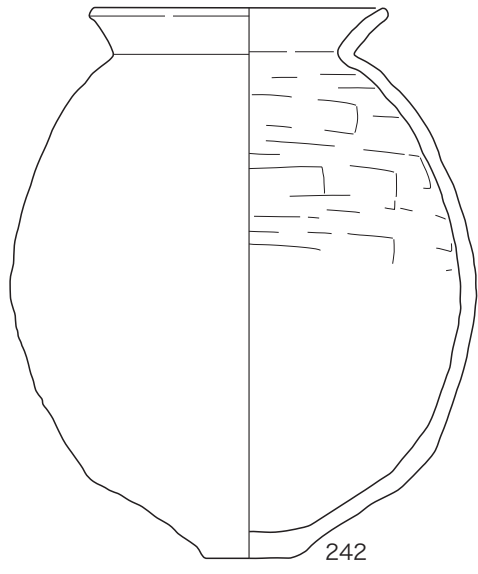
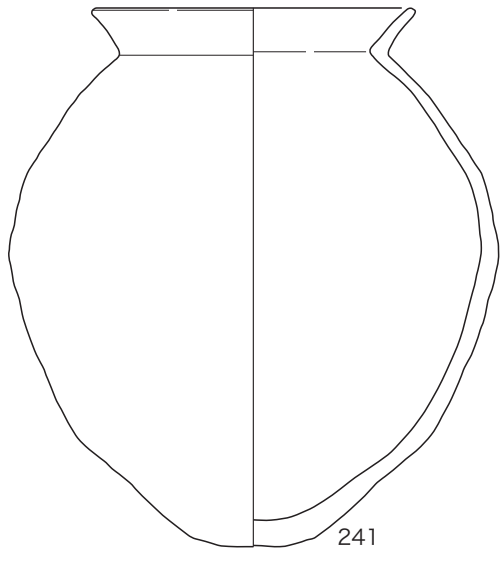
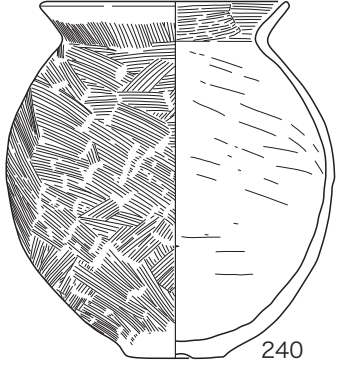
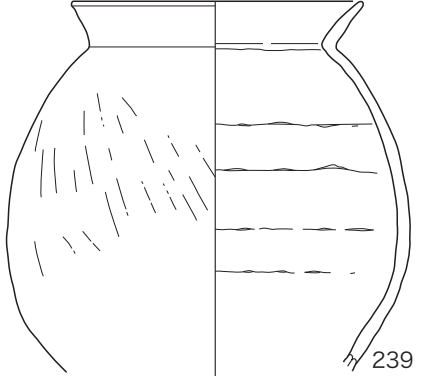
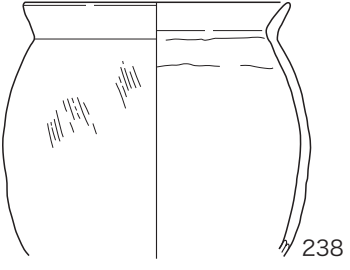
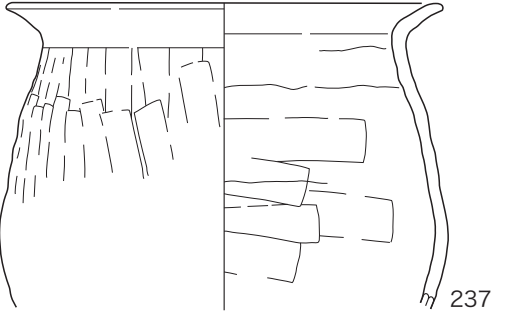
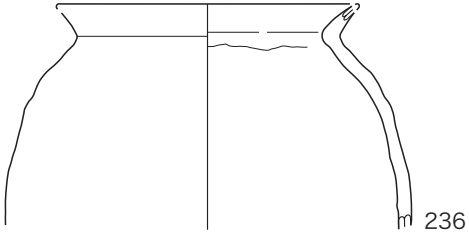
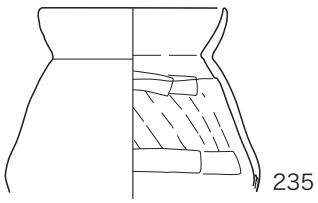
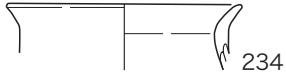


第155図 古墳時代土器(1)

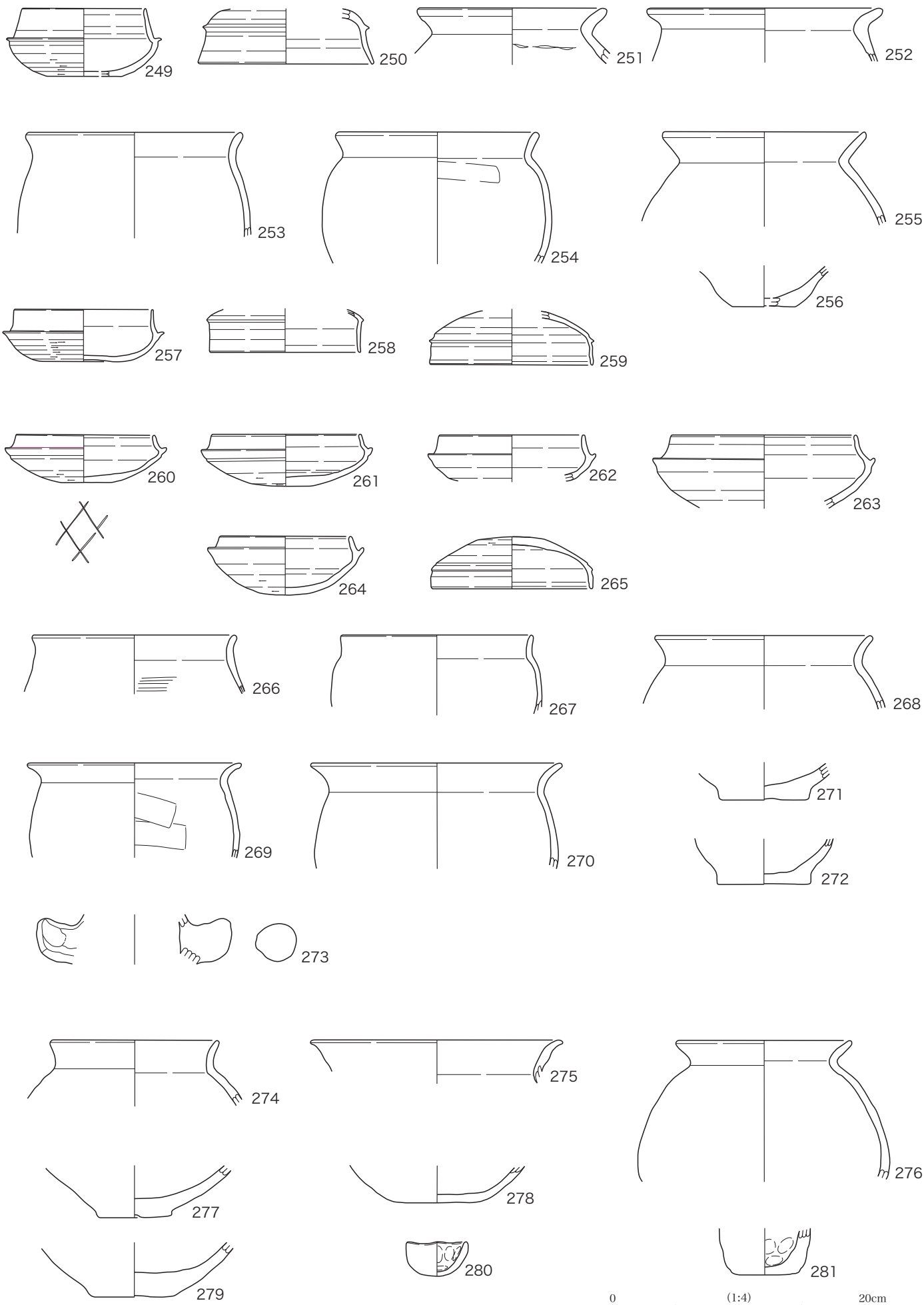


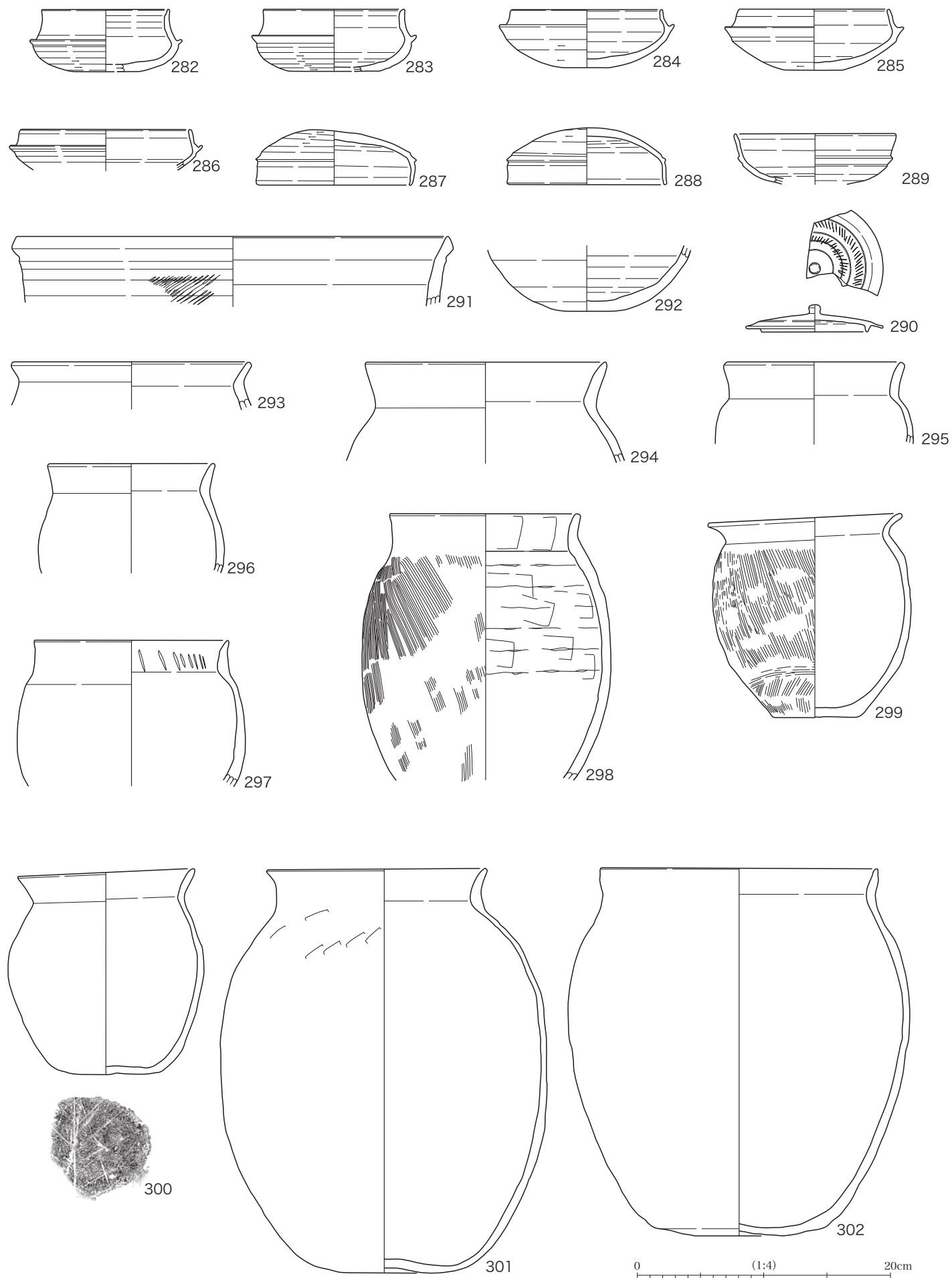
第 156 図 古墳時代土器 (2)

0 (1:4) 20cm

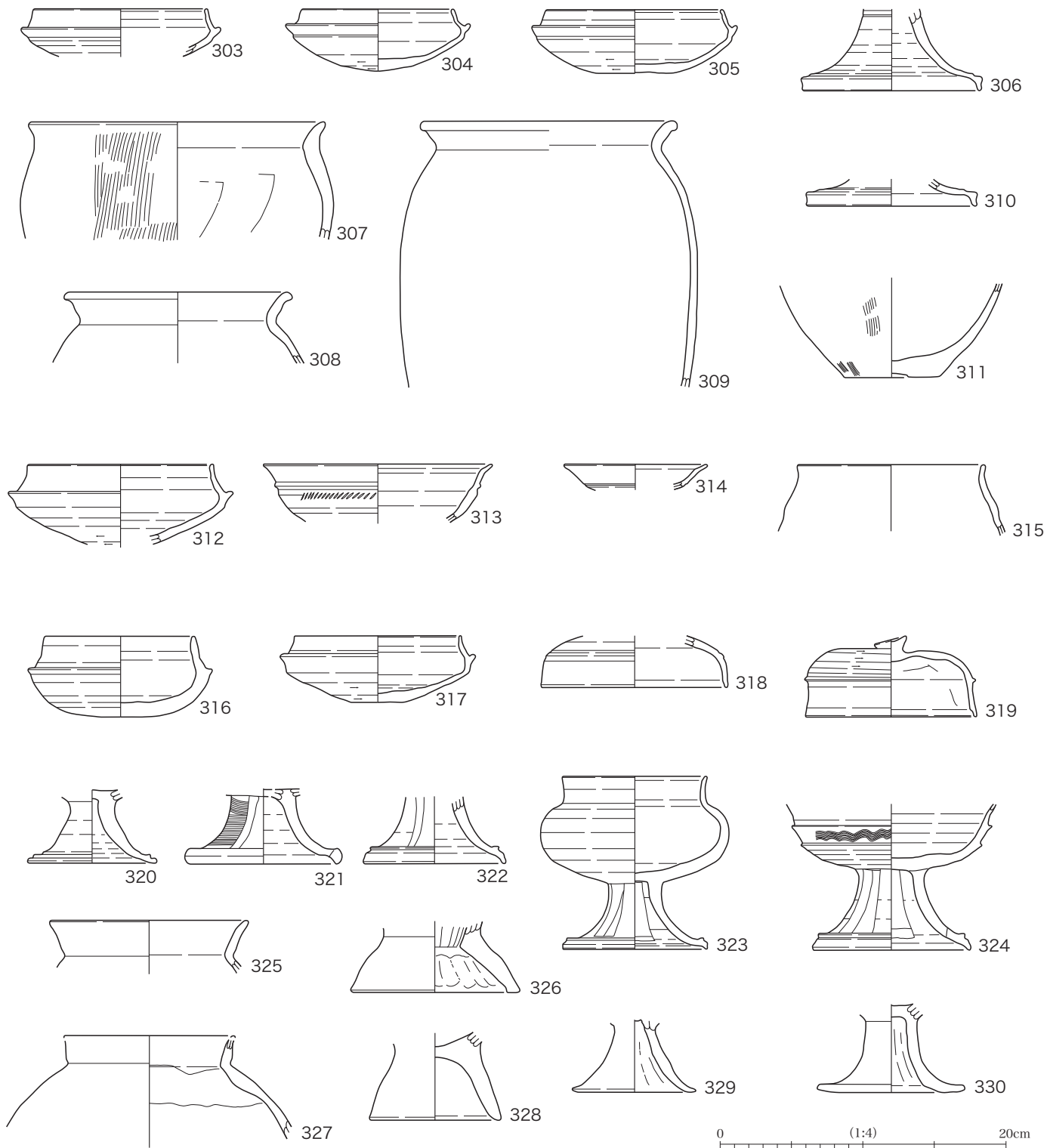


第 157 図 古墳時代土器 (3)

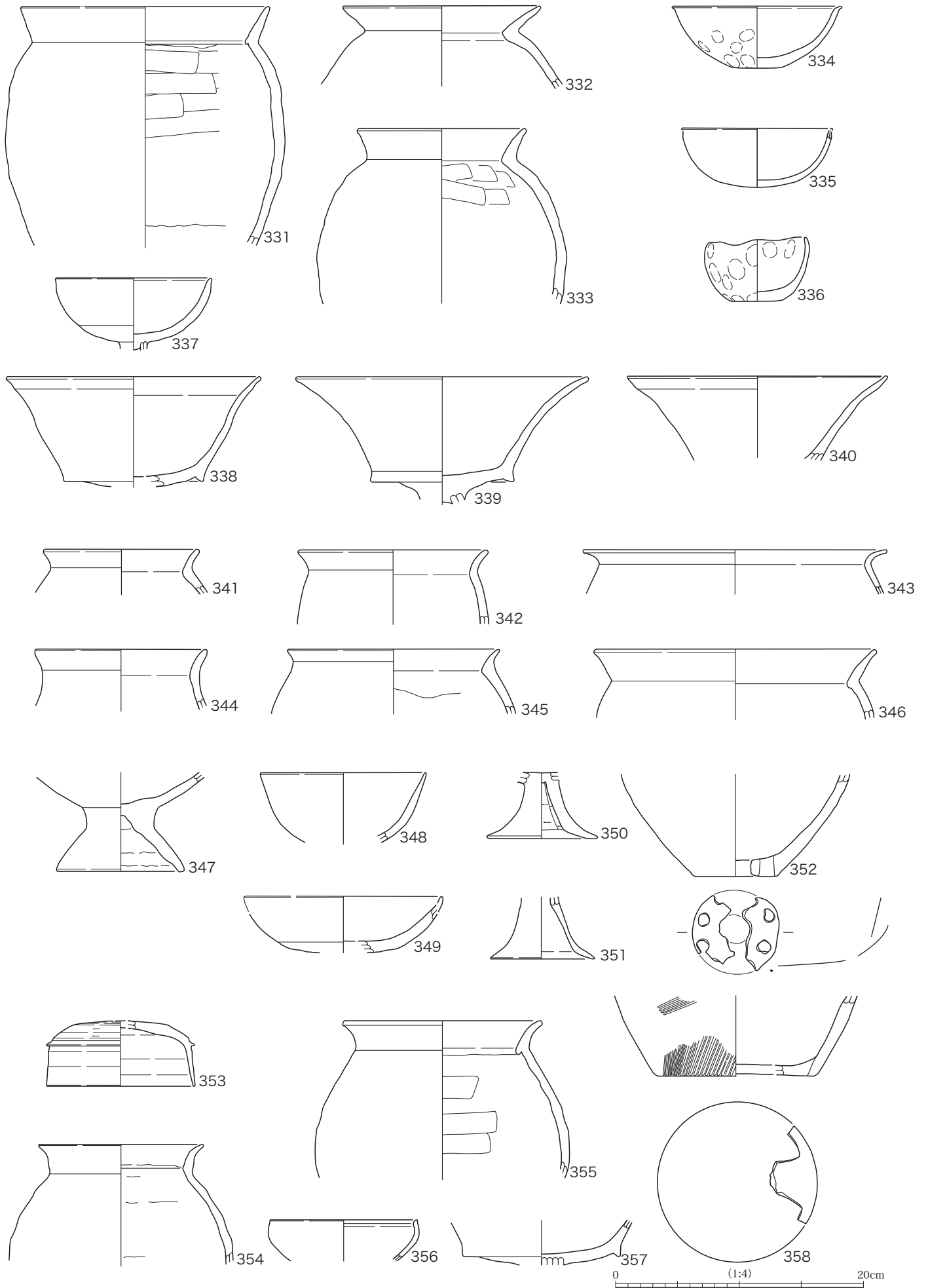




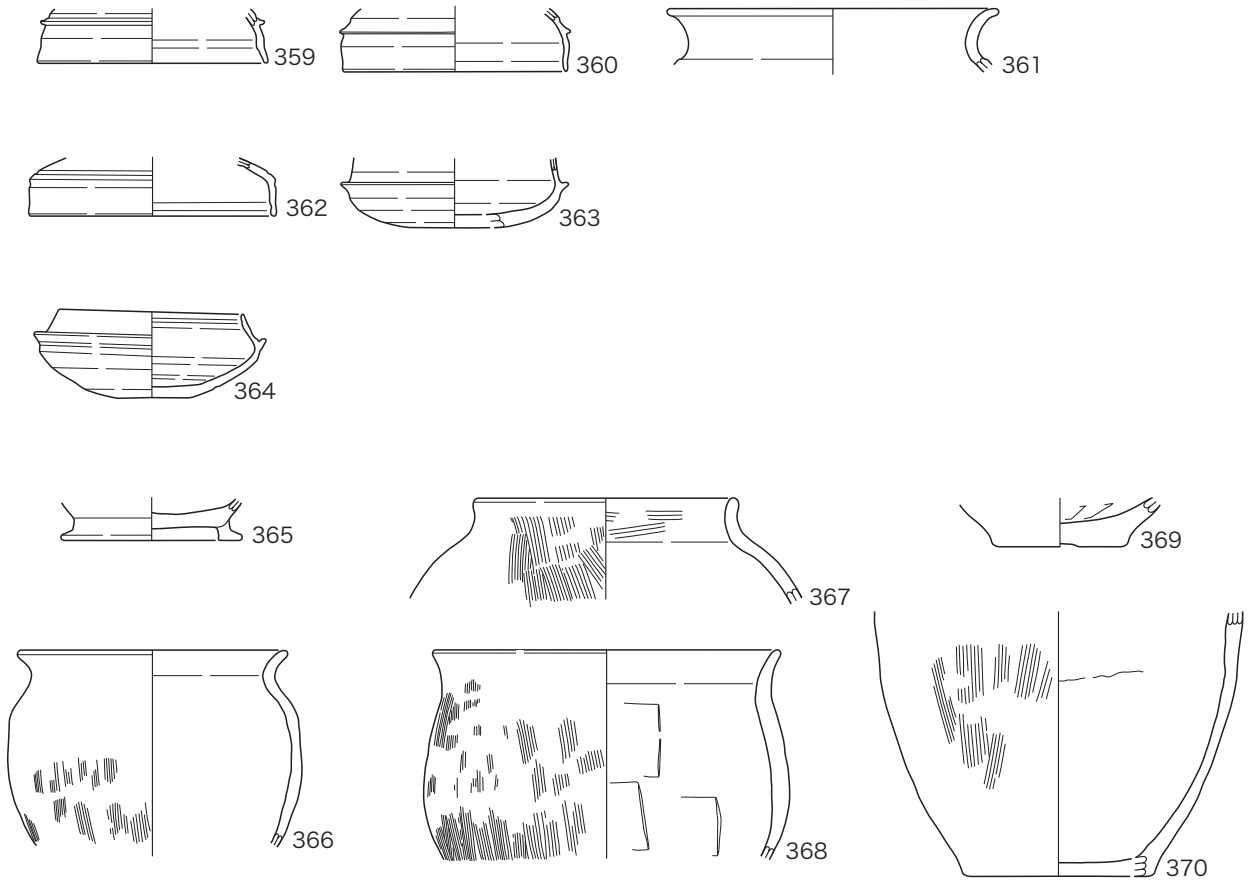
第 159 図 古墳時代土器 (5)



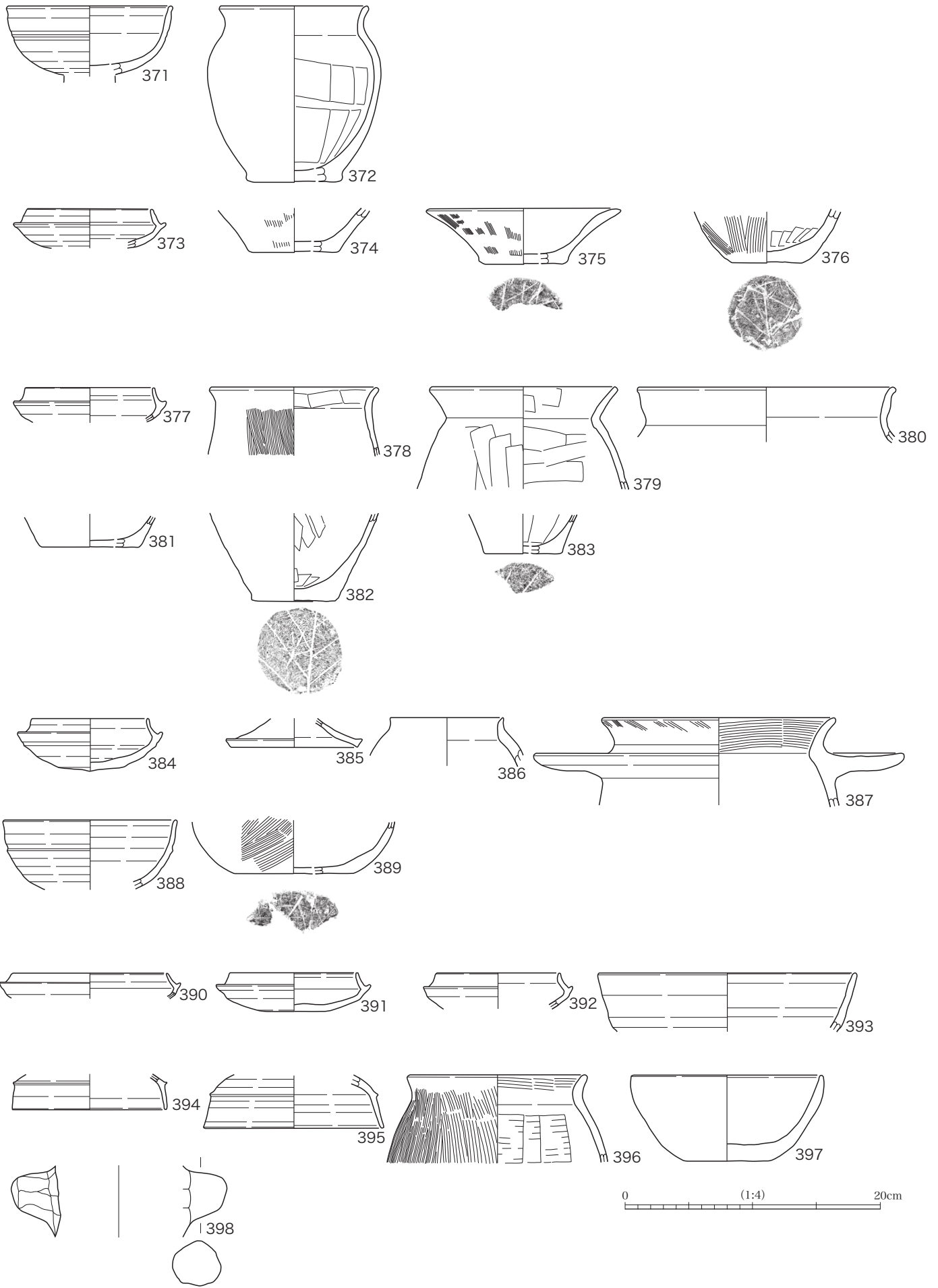
第160図 古墳時代土器(6)



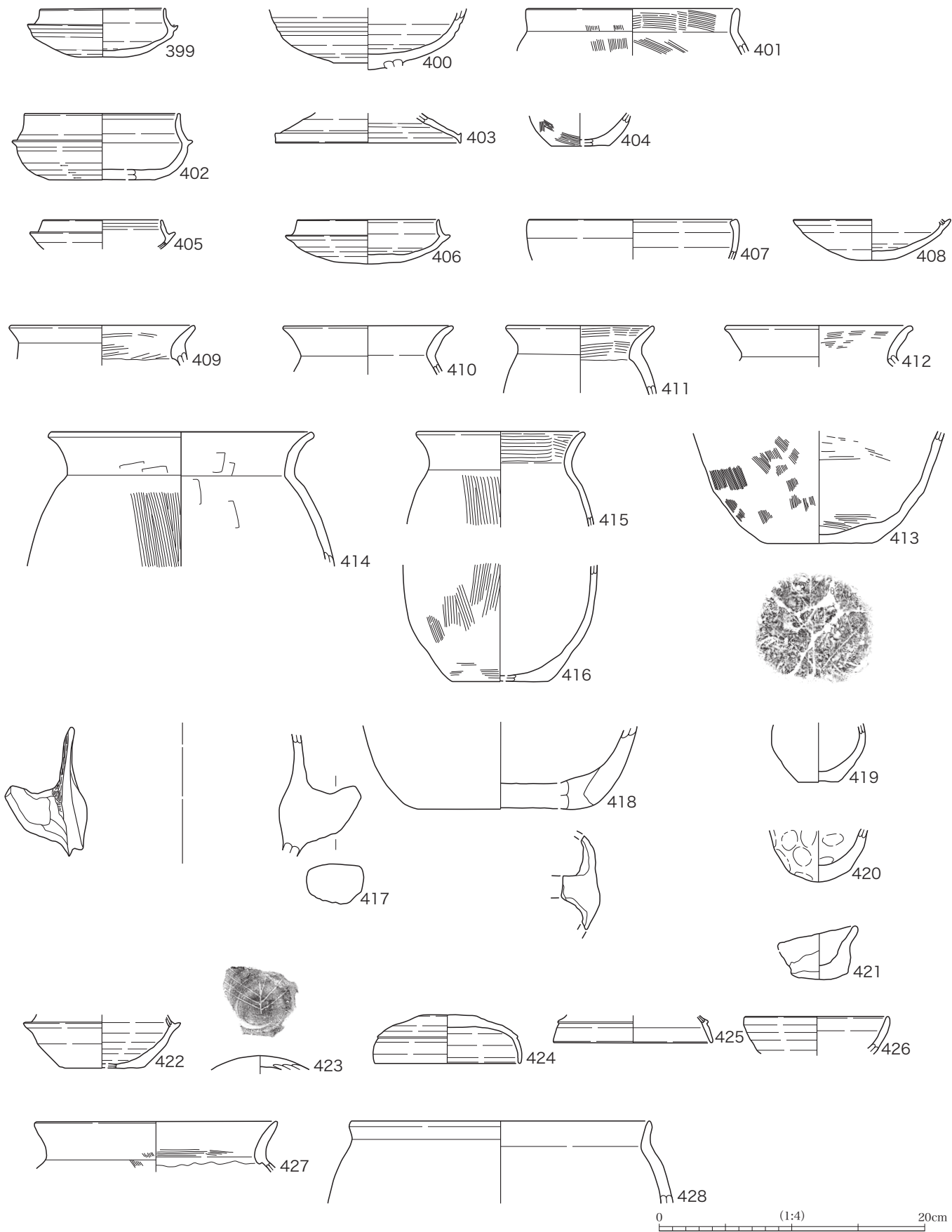
第 161 図 古墳時代土器 (7)



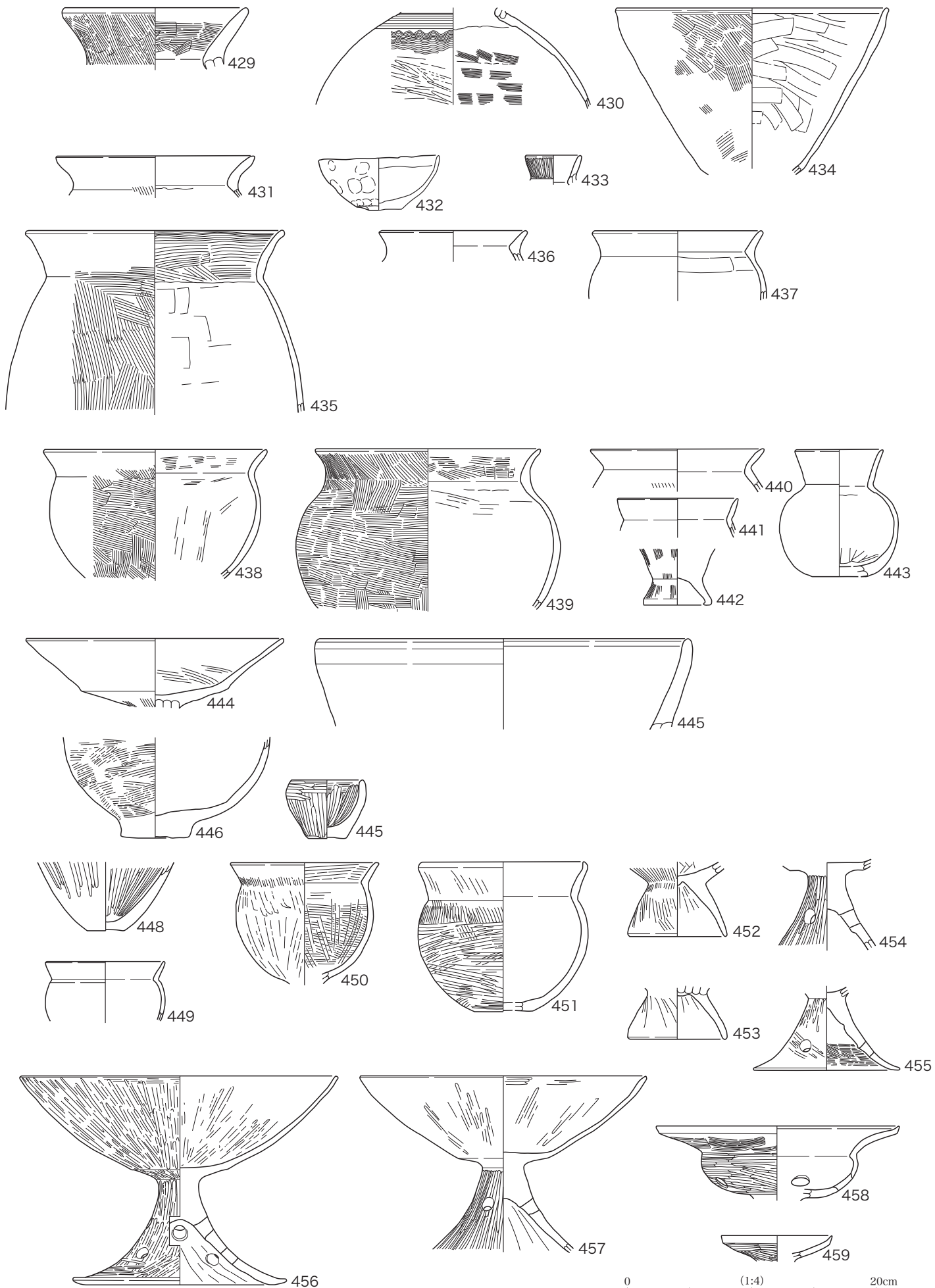
第 162 図 古墳時代土器 (8)



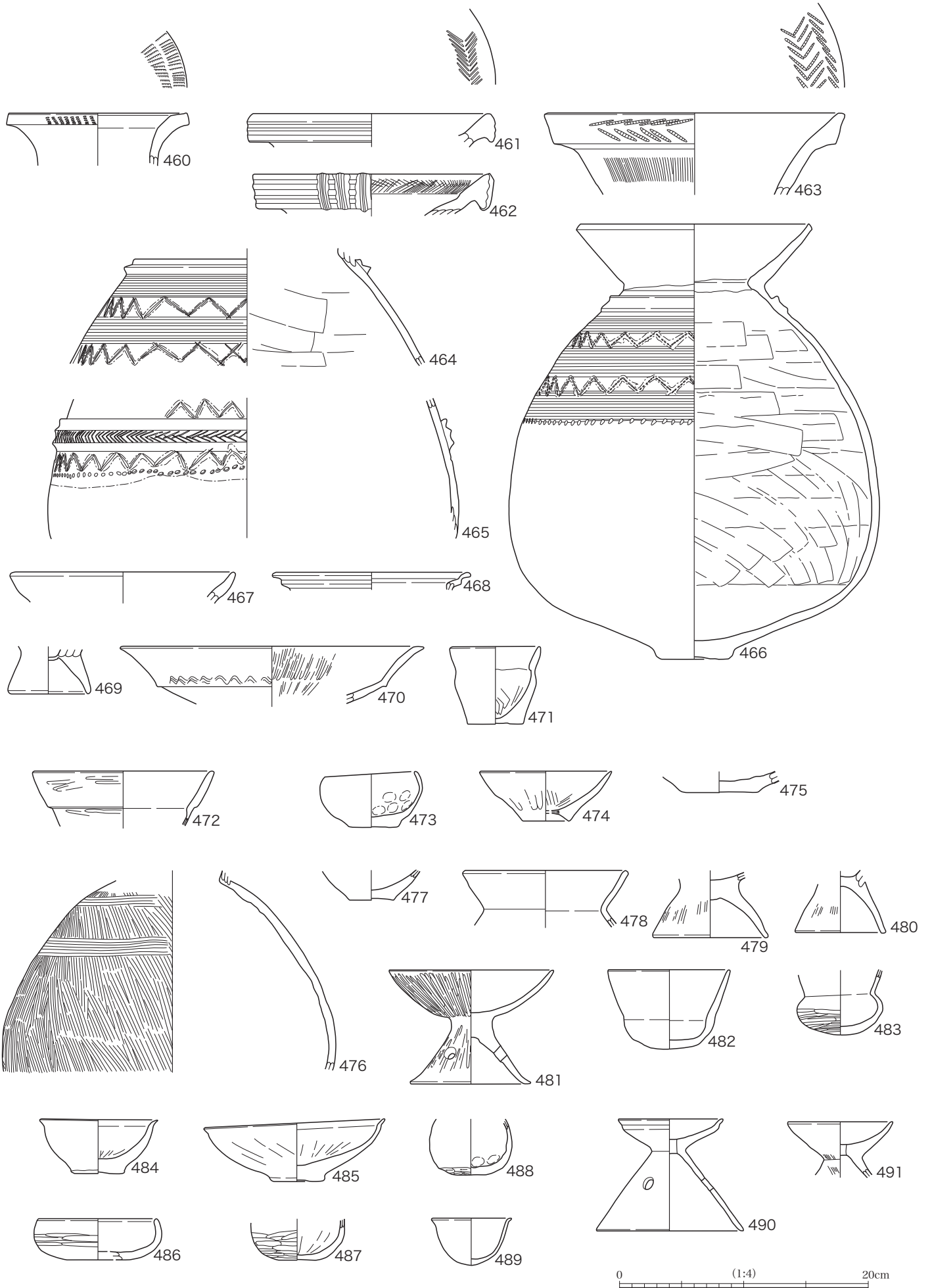
第163図 古墳時代土器 (9)



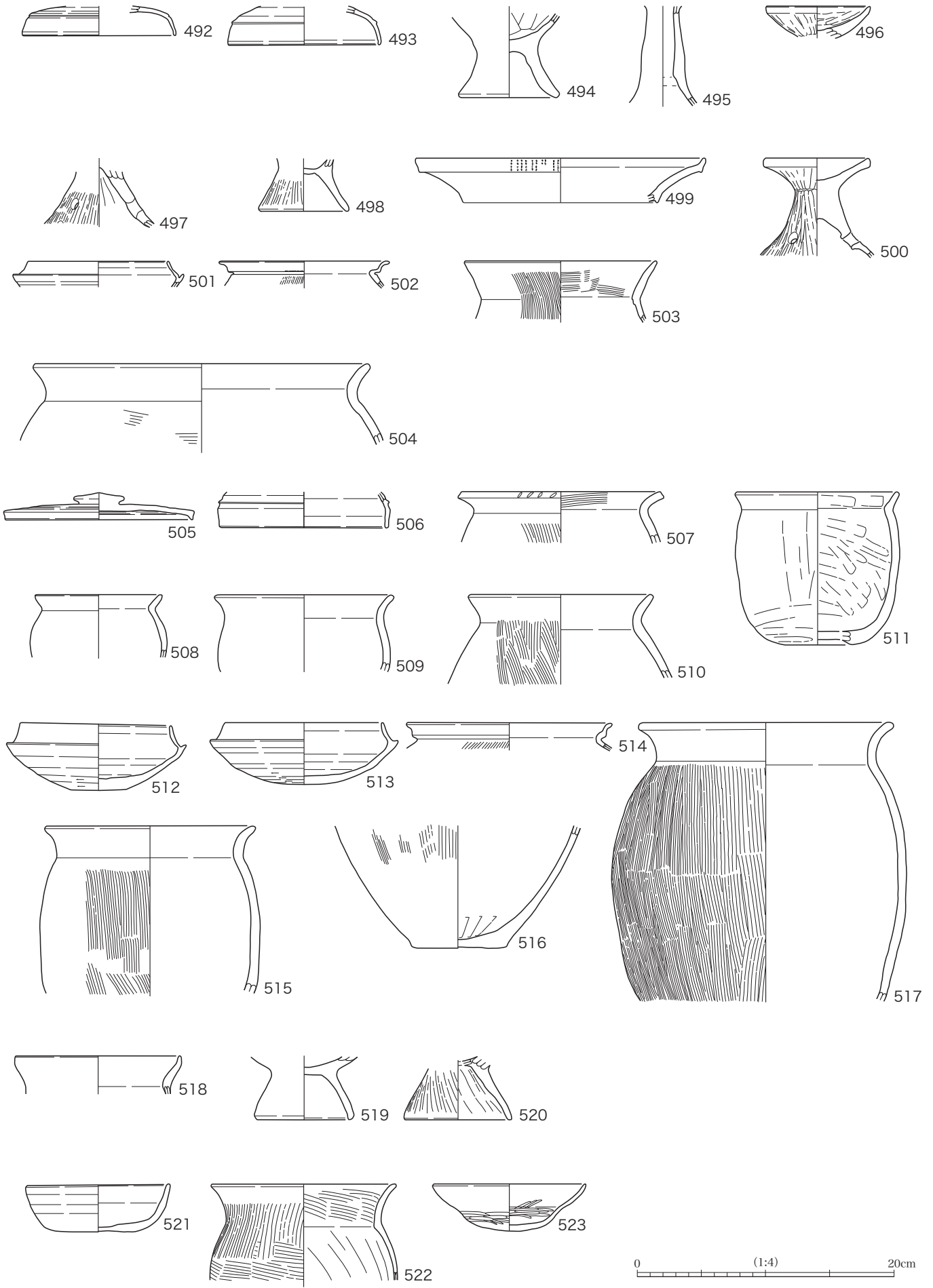
第164図 古墳時代土器(10)



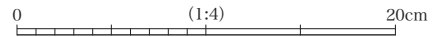
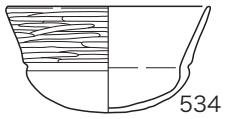
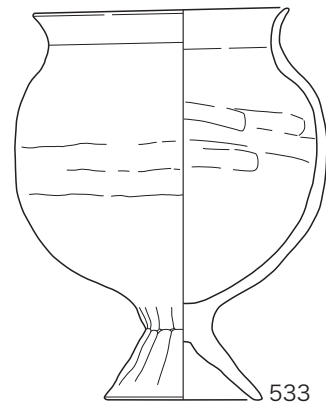
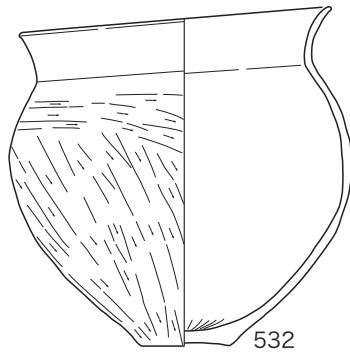
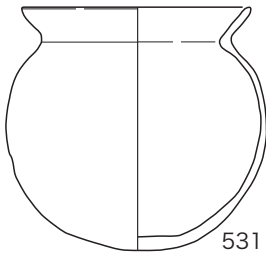
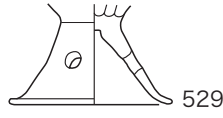
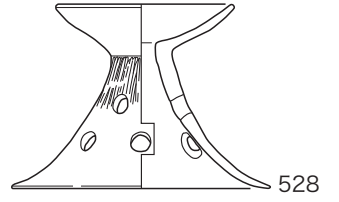
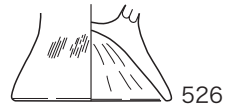
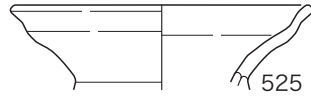
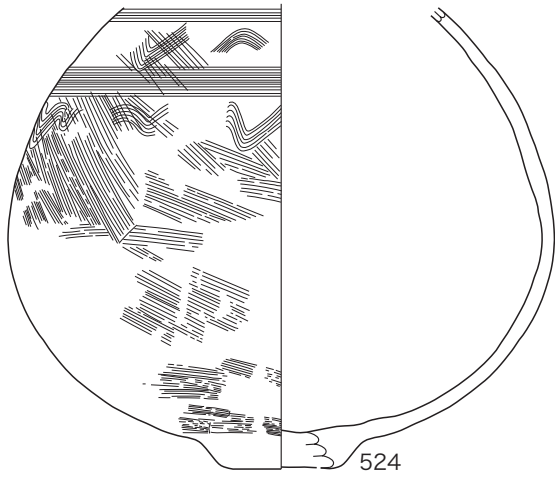
第 165 図 古墳時代土器 (11)



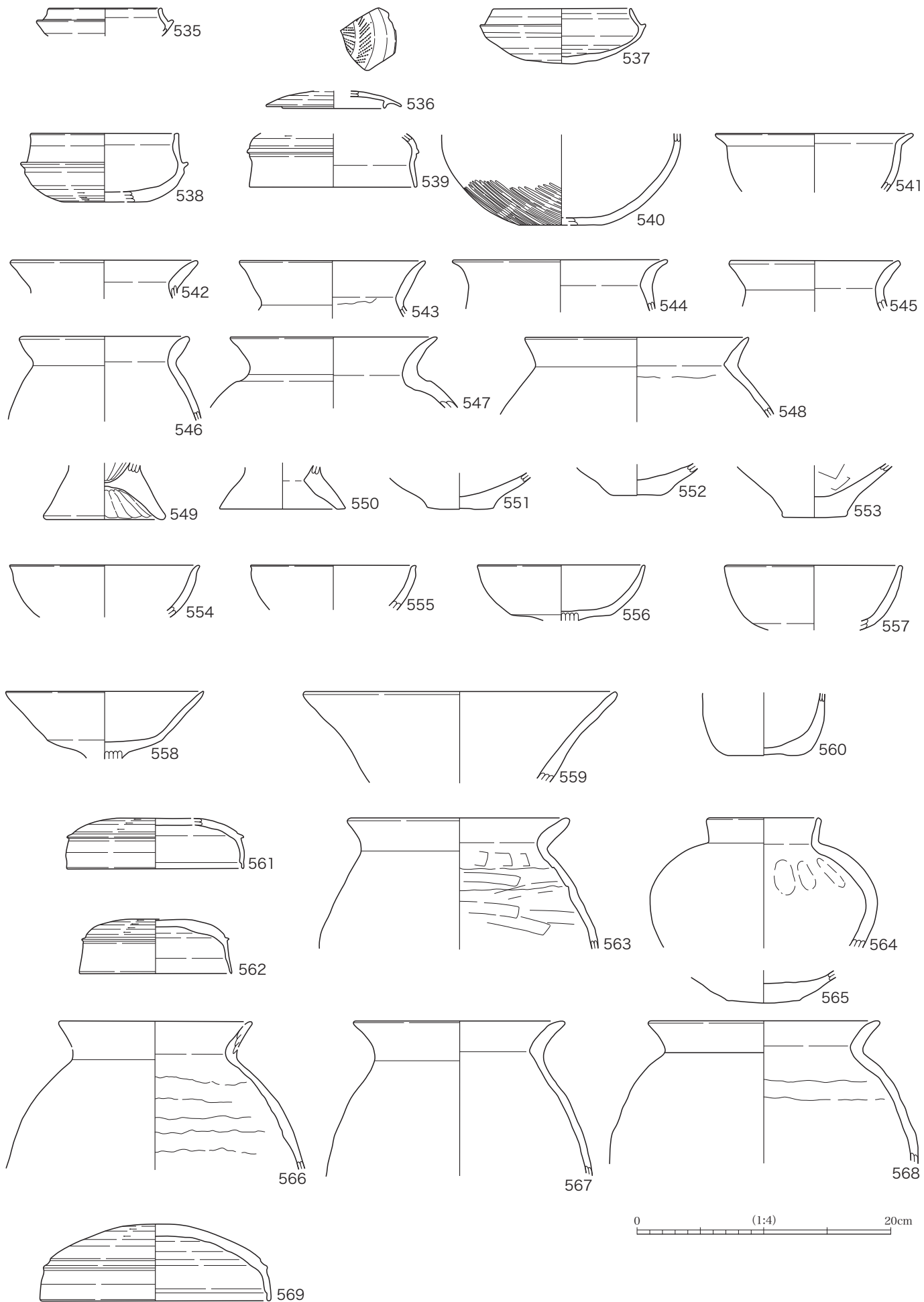
第166図 古墳時代土器(12)



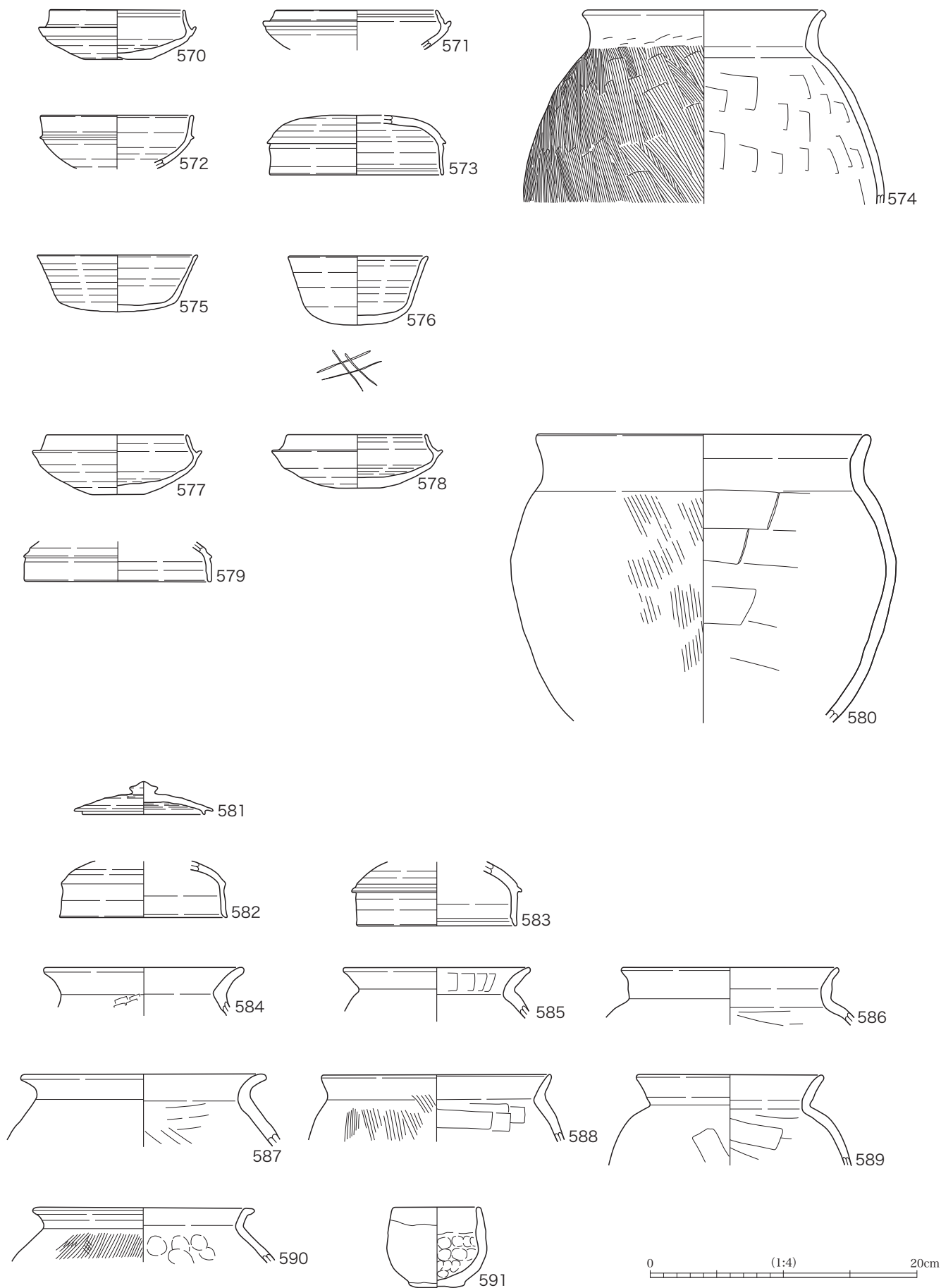
第 167 図 古墳時代土器 (13)



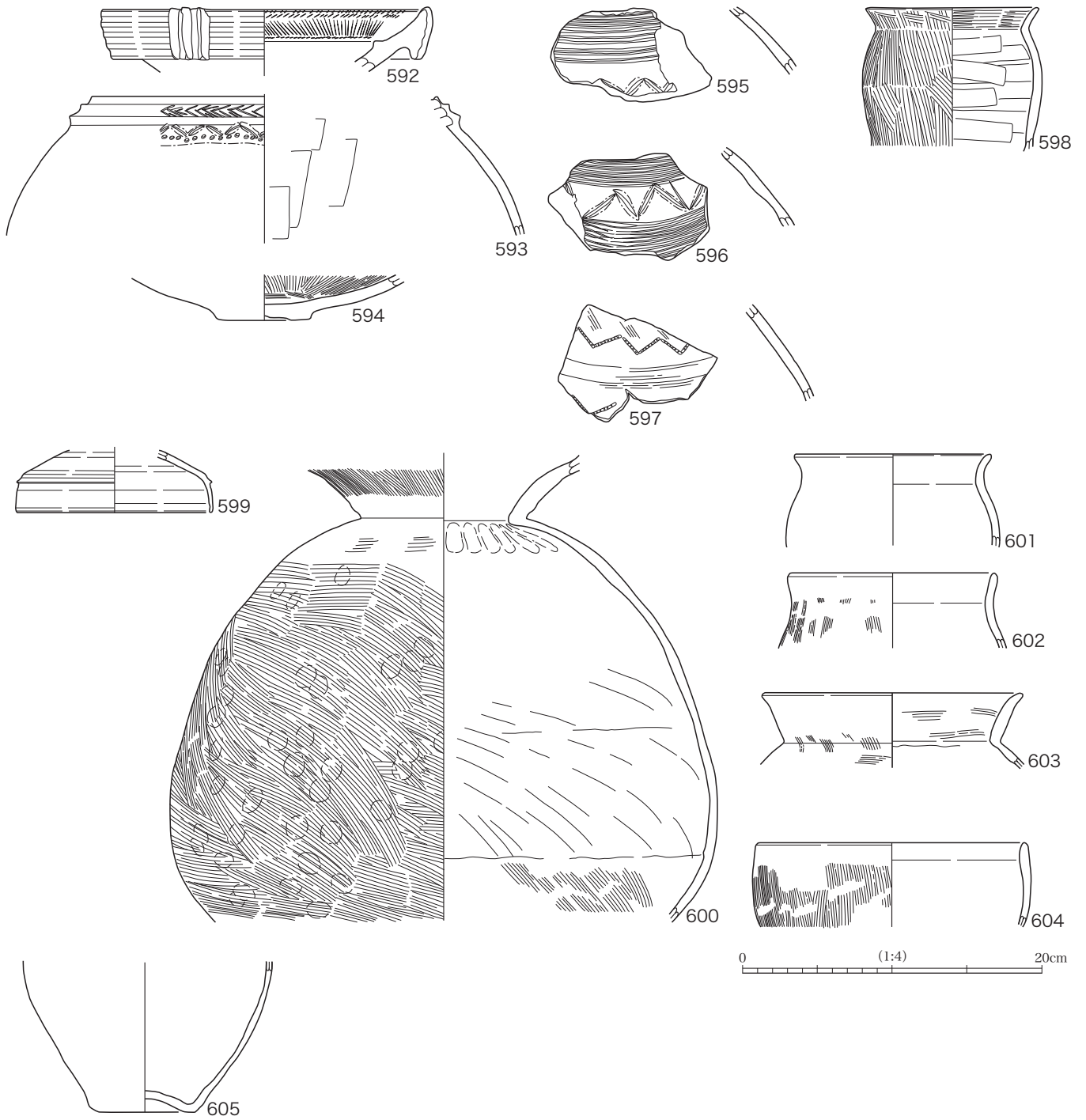
第168図 古墳時代土器(14)



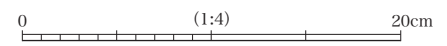
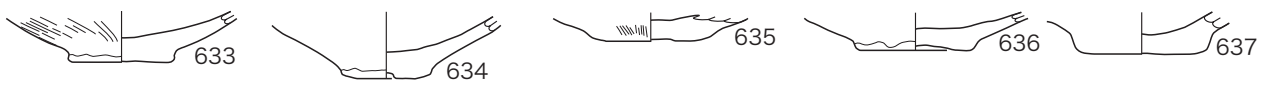
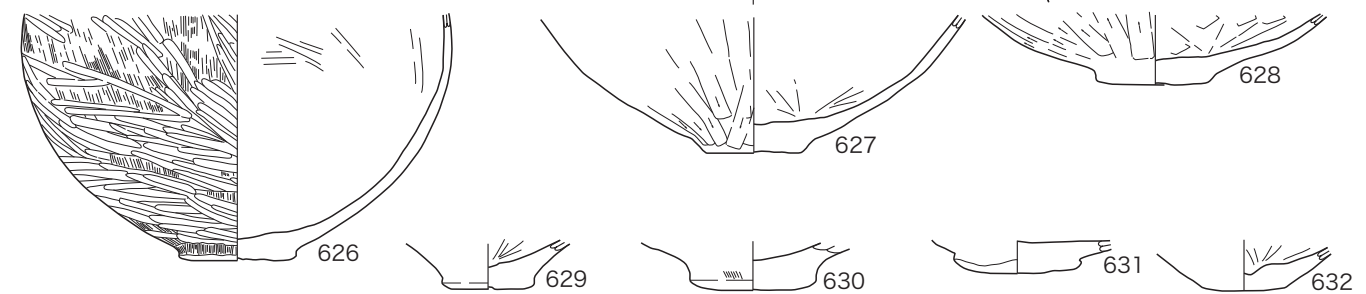
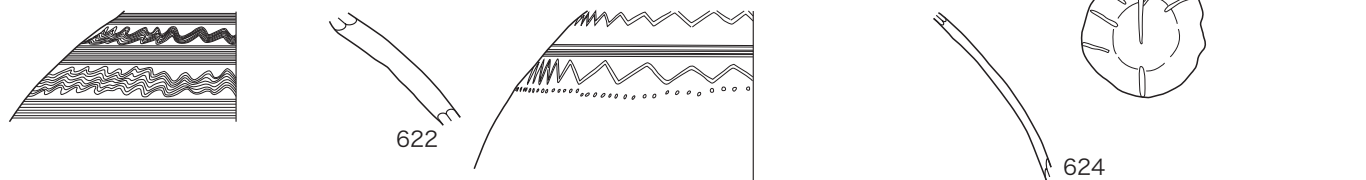
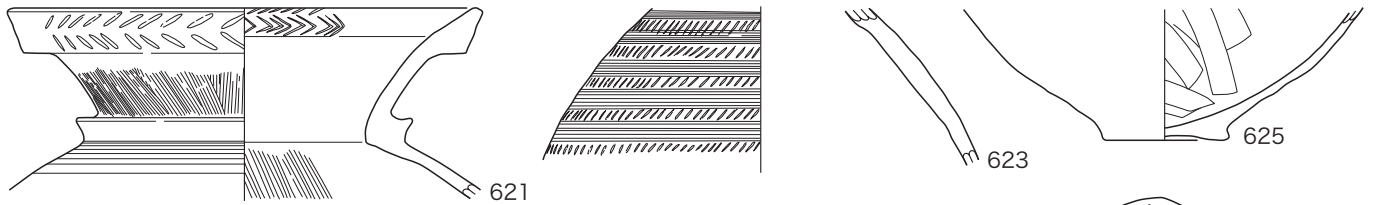
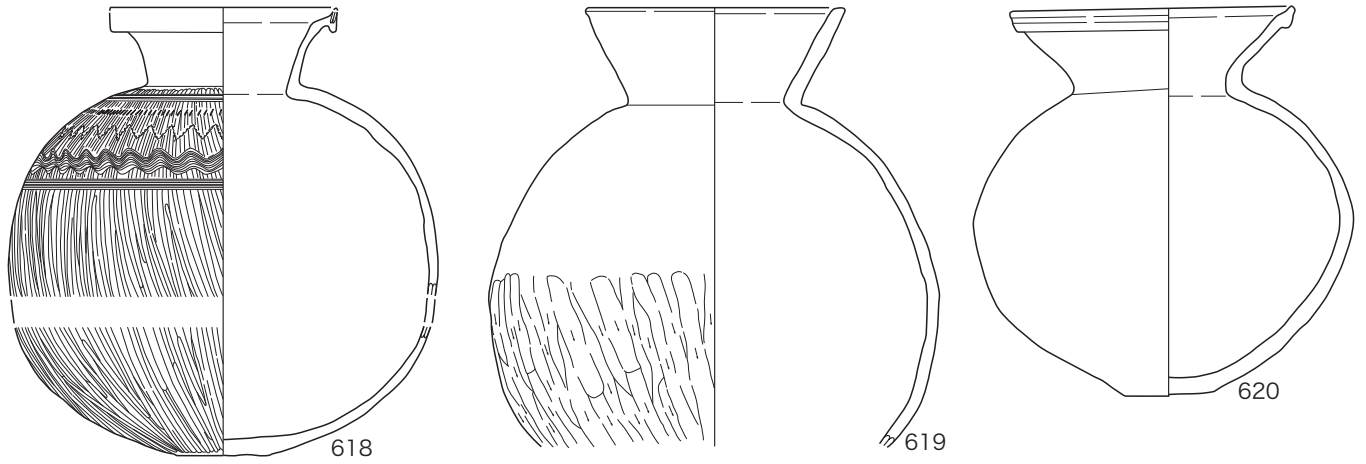
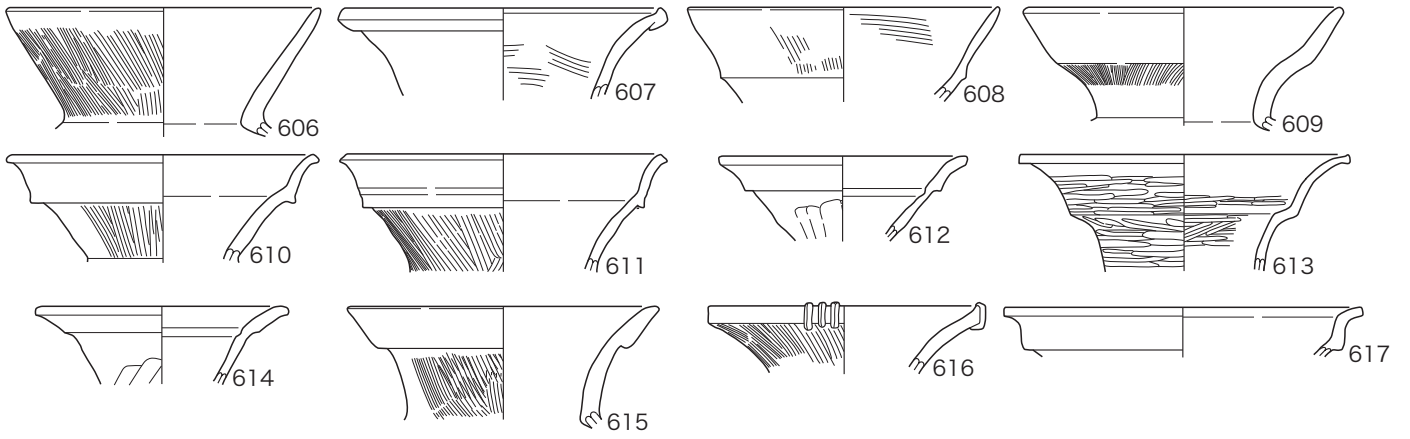
第 169 図 古墳時代土器 (15)



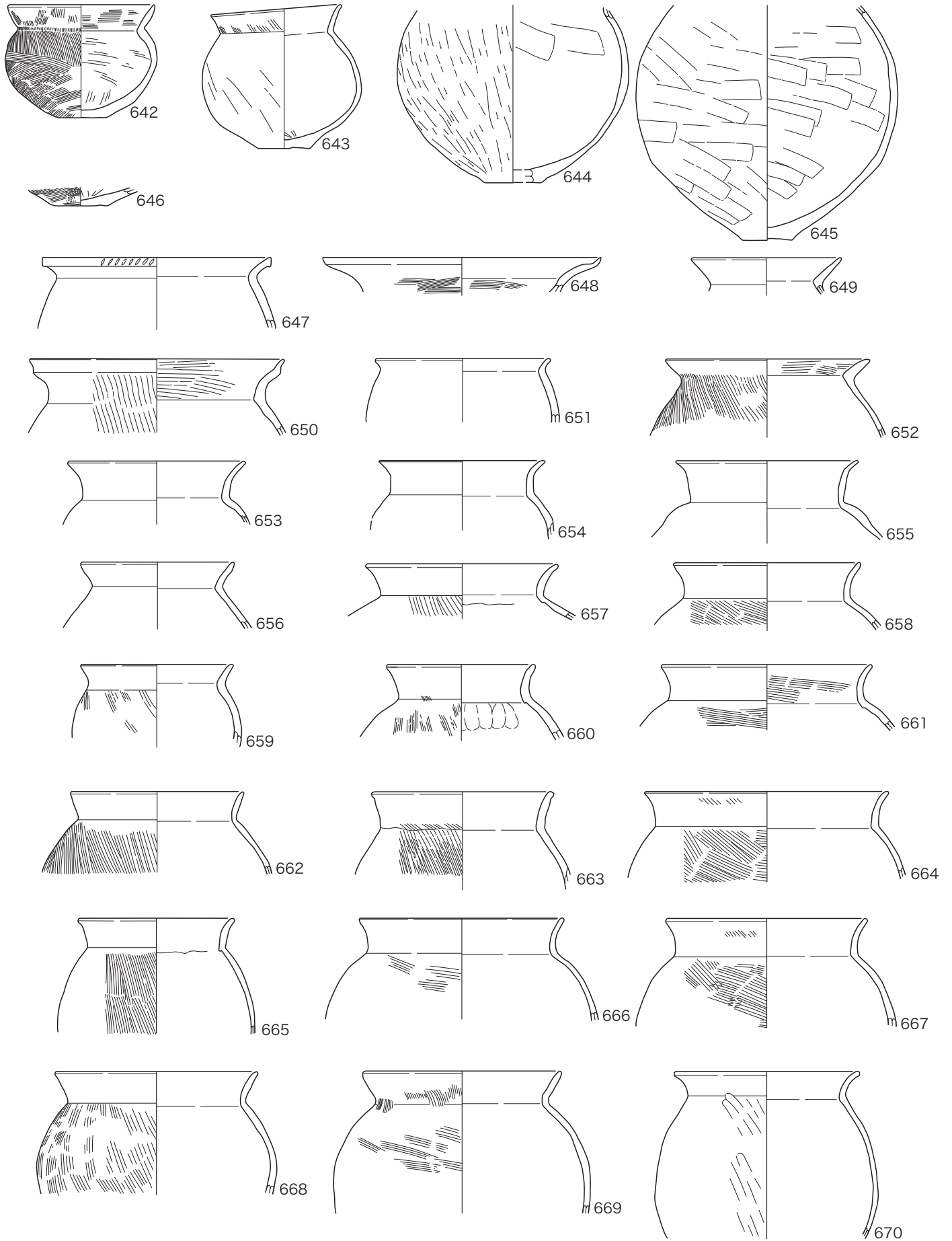
第170図 古墳時代土器(16)



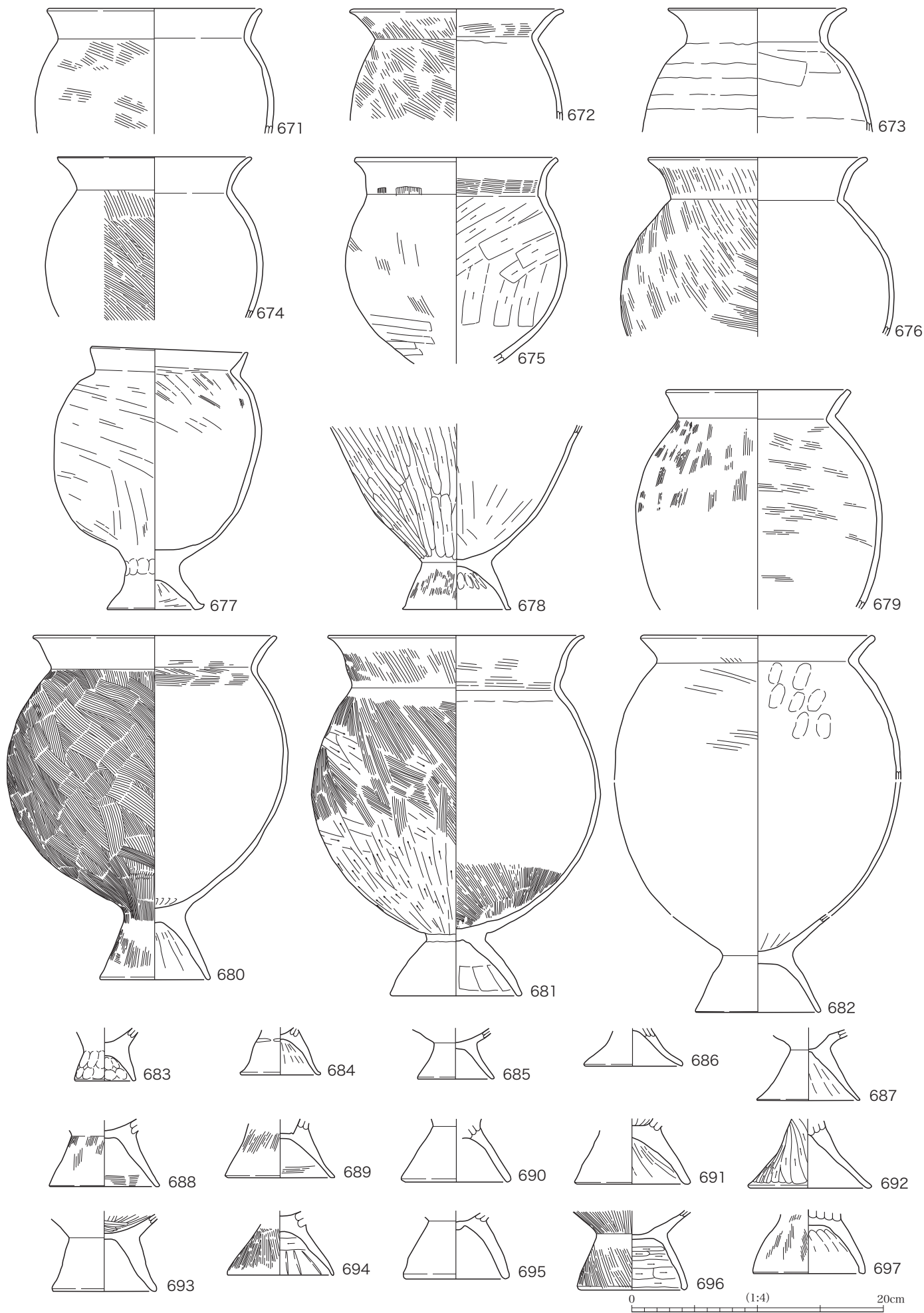
第 171 図 古墳時代土器 (17)

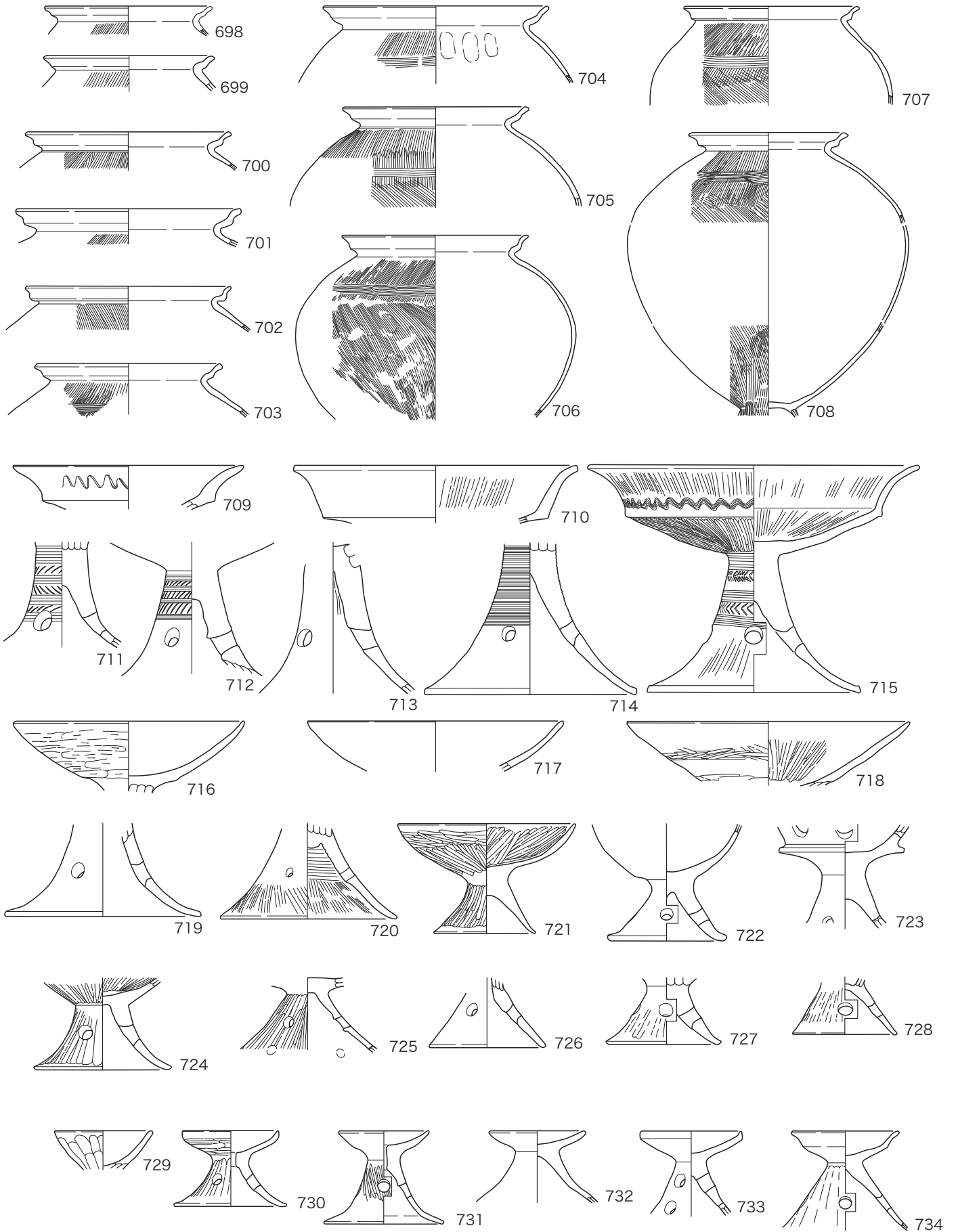


第172図 古墳時代土器(18)



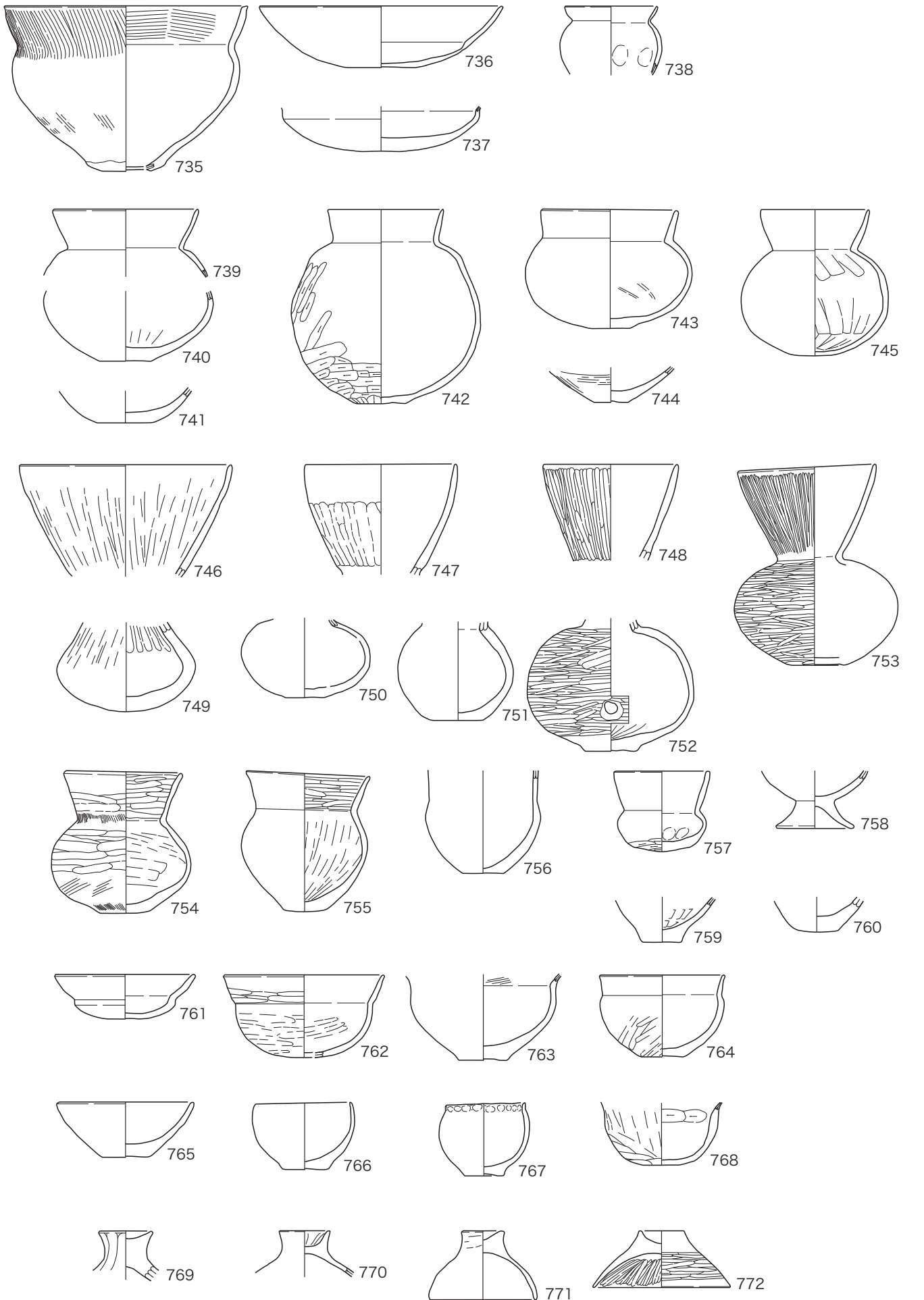
第 173 図 古墳時代土器 (19)



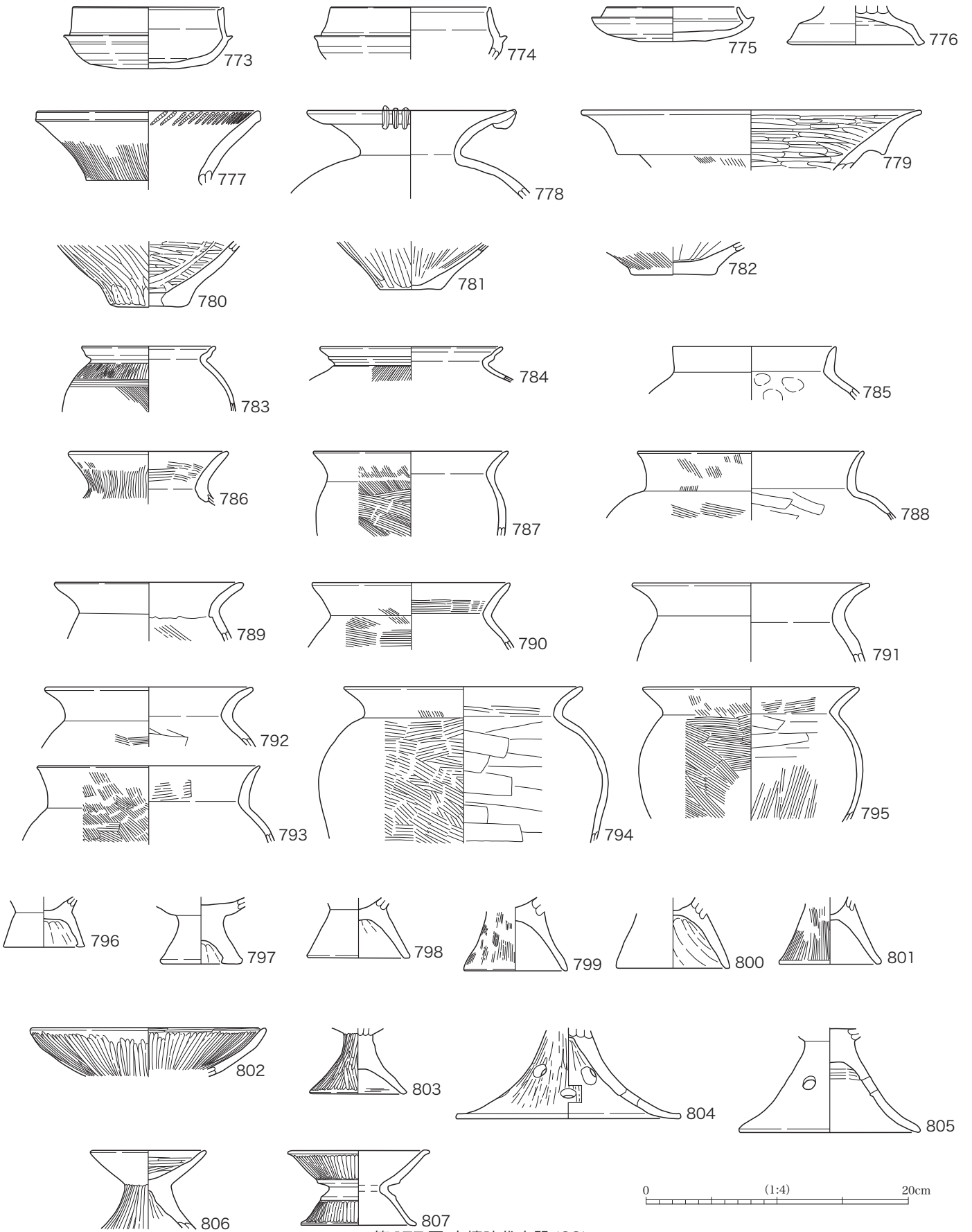


0 (1:4) 20cm

第 175 図 古墳時代土器 (21)



0 (1:4) 20cm



第 177 図 古墳時代土器 (23)

4. 古代の遺物

この時期の遺物として7世紀末から9世紀のものを取り扱う。須恵器、土師器の説明として、古墳時代の分類を援用する。

a. 竪穴住居

北部地区

SB018(第178図)

須恵器は杯 D(808 809) 杯蓋 C(812) が出土した。また、灰釉陶器皿(811)が出土している。土師器は甕 C(813) 甕 D(810) が出土している。これらは9世紀後半の時期に属すと考える。

SB043(第178図)

須恵器杯 B(814) 杯蓋(815 816) が出土した。8世紀後半の時期に属す。

SB064(第178図)

須恵器は杯 D(817 818) 杯蓋 C(819) が出土した。土師器は甕 C(820-822) 甕(823) が出土した。これらは8世紀後半の時期に属す。

南部地区

SB226(第178図)

須恵器は杯 B(825) 杯 D(824) 杯蓋 C(826-828) 長頸壺(829) が出土した。土師器は甕 C(827) が出土した。831は甕 Dの可能性がある。832は甕底部、833は鉢である。これらは9世紀後半の時期と考える。

SB272(第178図)

須恵器は杯 B(835) が出土している。土師器は甕 C(836-839) が出土した。8世紀代と考える。

SB287(第178図)

須恵器杯 D(839) と土師器甕底部(840) が出土している。

b. 土坑、その他

01B区 SK108(第179図)

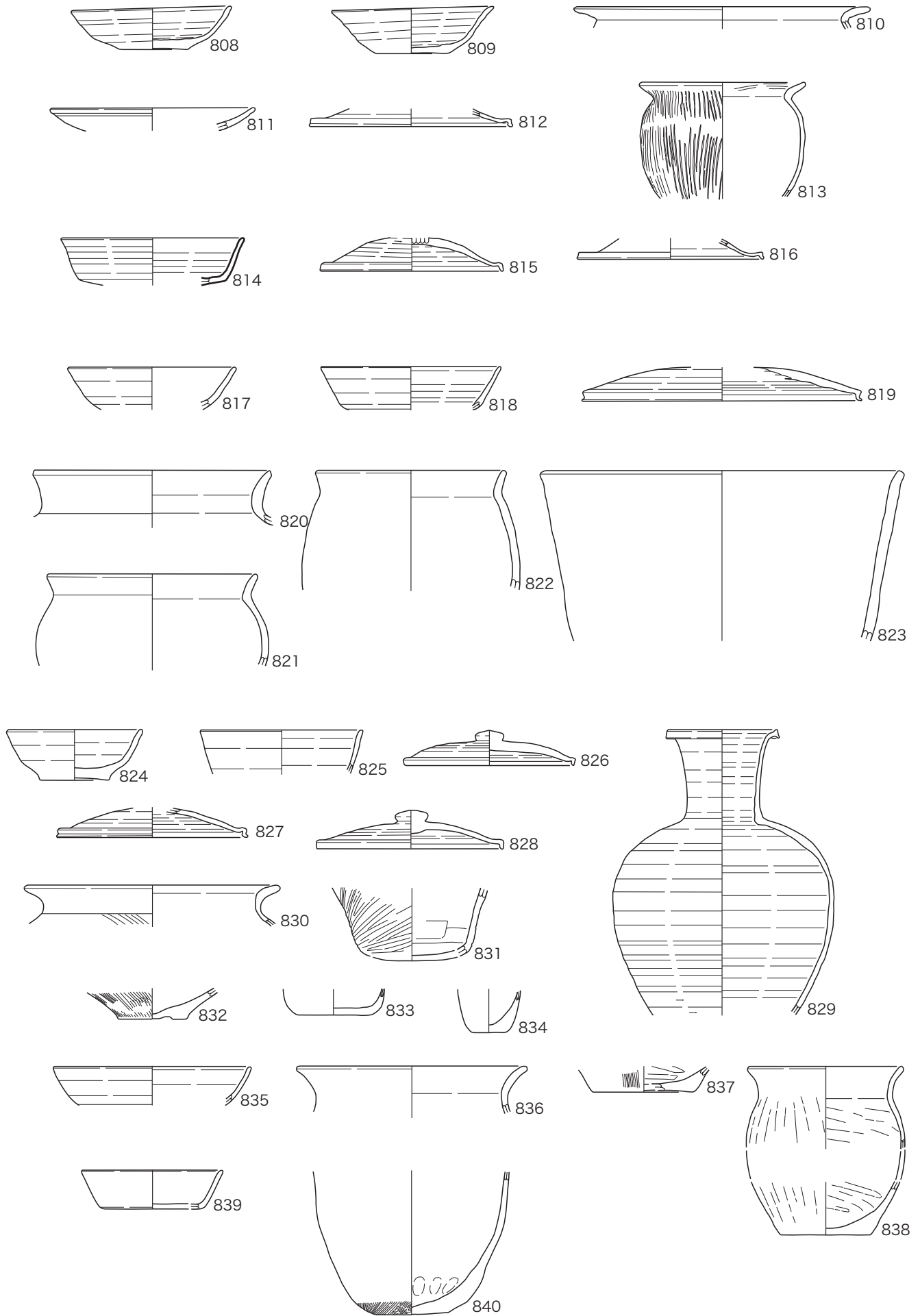
須恵器杯蓋 C(841) および灰釉陶器の平瓶(843) 壺類(842) が出土した。9世紀前半に属する。

SX026(第179図)

須恵器は杯 D(844) が出土した。7世紀末の時期に属する。

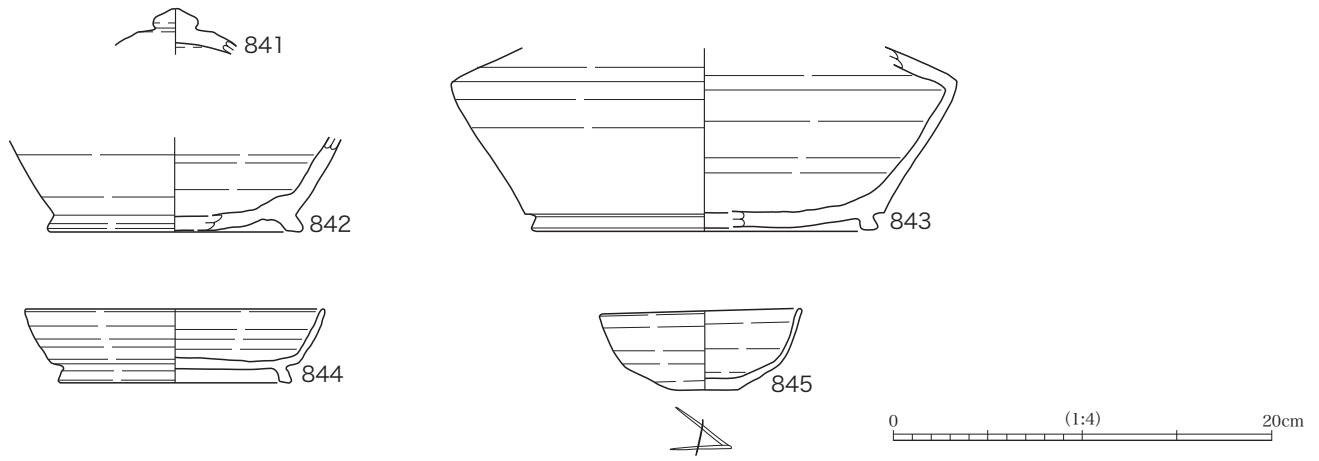
04Ab区 SK0120(第179図)

須恵器は杯 D(845) が出土した。8世紀初頭に属する。(酒井俊彦)



第 178 图 古代土器 (1)

0 (1:4) 20cm



第179図 古代土器(2)

5. 中世の遺物

この時期の遺物として、12世紀から16世紀代のものを取りあげる。調査区全体で遺構が確認され、時期的に幅広く、種別、器種ともに各種のものが出土している。記述の煩瑣を避けるため、主要な瀬戸美濃窯産の陶器についてあらかじめ分類を行っておく。また、瀬戸美濃窯産陶器(古瀬戸陶器)および山茶碗の型式編年は藤沢良祐氏の編年に基づく。注(1)

碗 A 体部は内湾しつつ立ち上がる。口縁部が屈曲してたちあがる、あるいは外反するもの(天目茶碗)

B 体部は内湾しつつ立ち上がり、丸みを帯びた器形のもの(丸碗)

C ハの字状に体部が広がるもの(平碗)

皿 A 口縁部のみに釉葉が掛かるもの(縁釉小皿)

B 口縁部が外に屈曲するもの(折縁小皿)

C 体部は内湾して立ち上がり丸みを帯びる器形のもの(丸皿)

D 口縁部が外反するもの(端反皿)

E 腰部が屈曲し、口縁部にかけて大きく外反するもの(腰折皿)

F 体部が直線的に開いて立ち上がり、口縁部が外反するもの(稜皿)

G 高台を有し、口縁部が外反するもの。内面に輪状の無釉部分があるもの(輪禿皿)

H 卸し目があるもの(卸皿)

鉢 A 体部は大きくハの字状に開き、内面に摺り目のあるもの(摺鉢)

B 口縁部に注口を有するもの(片口)

C 体部は円筒状あるいは胴下半が膨らむ器形で、3つの脚を有するもの(香炉)

D 体部は大きくハの字状に開き、3つの脚を有するもの(直縁大皿)

E Dの体部で口縁を外側に屈曲するもの(折縁深皿)

甕 A 短い口縁部を有する大形のもの

B 厚い器壁で、口縁部を外に折り返すもの(常滑窯産の甕)

壺 A 口径が大きく、双耳を有するもの(口広有耳壺)

B 袋状の体部で肩部に耳を有するもの(四(三)耳壺)

a. 竪穴状建物

SB055(第180図)

山茶碗(846-848)、碗C(849-850)、皿A(851)B(852)、鉢B(853)、水滴(854)が出土している。山茶碗は南部系9-10型式、施釉陶器は碗が後Ⅰ・Ⅱ期、他は後Ⅲ・Ⅳ期である。

b. 土坑

(1) 集落外南部

南部地区南半の中世集落外の土坑出土遺物を対象とする。個々の土坑の出土遺物は少量であり、調査区で一括する。

O1A区(第180図)

山茶碗(855-861)、土師器鍋(862-863)が出土している。山茶碗は4-6型式で855-858は北部系である。862は羽釜型鍋、863は伊勢型鍋で13世紀代である。

O3Aa区(第180図)

碗A(864)が出土している。古瀬戸後期である。

03B区(第180図)

山茶碗(874)、皿A(875)、鉢A(878-879)、土師器皿(876-877)が出土した。865は南部系5型式、古瀬戸陶器は後Ⅳ期、879は大窯第1段階である。

03B区SK11(第180図)

山茶碗(865-873)が出土した。865は北部系7型式、他は南部系5・6型式である。

(2) 集落北西部

南部地区04C区、04D区で確認された溝で囲まれた中世集落内で検出された土坑内遺物で、集落中央に走る溝群より北西側のものである。少量出土の遺物については一括する。

04Cb区・04Db区(第183-184図)

山茶碗(959-985)、碗A(986-990)C(992)、平底末広碗(991)、端反碗(993)、皿A(994-998)B(999)E(1000)、入子(1001)、折縁中皿(1004)、鉢A(1012-1017)D(1002)E(1003-1005-1007)、内耳鍋(1008-1011)、花瓶(1018)、燭台(1019-1021)、匣鉢(1023-1024)、土師器鍋(1025)、土師器皿(1026-1028)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式(959-965-974-985)、北部系11型式(966-973)である。碗Aは後Ⅰ・Ⅱ期と後Ⅳ期、大窯第1段階のものである。碗Cは後Ⅰ期、平底末広碗は中Ⅲ期、皿Aは後Ⅳ期である。皿Bは後Ⅱ期、入子は中Ⅲ期である。鉢D、Eは後Ⅲ期、内耳鍋は後Ⅳ期である。鉢Aは後Ⅳ期(1012-1013)と大窯第1段階(1015-1016)同2段階(1018)である。花瓶は古瀬戸中期、燭台は古瀬戸後期である。匣鉢は古瀬戸後期である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。土師器皿は轆轤成形である。

04Cb区SK93(第181図)

皿B(880-882)、折縁中皿(884)、小鉢(883)、鉢E(885)、盤(886)が出土した。古瀬戸後Ⅰ・Ⅱ期のもので、盤は古瀬戸後期である。

04Cb区SK352(第181図)

山茶碗(887-890)、平底末広碗(891)、皿B(892)、鉢A(893)、匣鉢(894)が出土した。山茶碗は南部系8-9型式、889は北部系11型式、891は中Ⅳ期、892は後Ⅲ期、893は後Ⅳ期である。

04Cb区SK273(第181図)

山茶碗(895-901)、皿A(902)、鉢A(903)、土師器皿(904-907)が出土した。山茶碗は北部系11型式、他は後Ⅳ期である。土師器皿は904は大形で轆轤成形、905-907は手づくね成形である。

04Cb区SK500(第181図)

山茶碗(908-912)、壺B(913-914)が出土した。山茶碗は南部系9形式、古瀬戸四耳壺は古瀬戸前期である。

04Cb区SK100(第182図)

山茶碗(915-944)、碗A(945-946)C(947-949)、皿A(950)B(951)H(952)、小鉢(953)、鉢D(954)、手付鍋(955)、内耳鍋(956)、水滴(957)、土師器皿(958)が出土した。山茶碗は南部系9型式で、若干の北部系11型式がある(932-936-944)。古瀬戸陶器碗類および皿類は後Ⅰ・Ⅱ期が主である。954-956は後Ⅲ期である。土師器皿は轆轤成形である。

(3) 集落南東部

南部地区04C区、04D区の溝で囲まれた中世集落内で検出された土坑内の遺物で、集落中央に走る溝群より南東側のものである。少量出土の遺物について一括する。

04Ca区・04Da区(第185-186図)

山茶碗(1029-1057)、碗A(1058-1063)C(1064)、皿A(1065-1070)B(1071-1073)、豆皿(1074)、鉢A(1076-1079)E(1075)、内耳鍋(1080-1082)、合子(1083)、茶入(1084)、壺A(1085)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式が大部分であるが、南部系5型式(1041)、北部系11型式(1037-1040)なども出土した。碗Aは後I期(1058)と後Ⅲ・Ⅳ期、碗Cは後I期である。皿Aは後Ⅳ期が主体である。皿Bは中Ⅲ期(1071)、後Ⅱ期(1072)である。鉢Aは後Ⅳ期、鉢Eは後Ⅲ期である。内耳鍋は後Ⅲ・Ⅳ期、合子と壺Aは後Ⅳ期である。また、土師器皿(1087-1089)が出土し、1087は手づくね、1088 1089は轆轤成形である。

04Ca区SK661(第186図)

山茶碗(1090-1102)、碗C(1103)、皿B(1105)H(1106)、折縁中皿(1108)、鉢E(1107 1109)、内耳鍋(1110)、常滑窯産甕(1111)が出土した。山茶碗は8-9形式、碗Cは後I期である。皿A、鉢A、折縁中皿は後I期である。常滑窯産甕は14世紀後半の時期である。

04Ca区SK964(第186図)

常滑窯産甕が出土している(1086)。15世紀前半の時期である。

(4) 集落外北部

南部地区北半の中世集落外の土坑出土遺物を対象とする。個々の土坑の出土遺物は少量であり、調査区で一括する。

04Bd区・04Ca区(第187図)

皿B(1112 1113)、鉢D(1117)E(1114-1116)、仏供具(1118)が出土した。皿Bは中Ⅱ期と後Ⅲ期、鉢DEは後I - Ⅲ期である。

04Ca区SK21(第187図)

山茶碗(1119-1123)、碗A(1124 1125)C(1126)、皿A(1127-1131)B(1132 1133)、鉢A(1136 1139)D(1134)E(1135 1137 1138)、内耳鍋(1140)が出土した。山茶碗は南部系10型式と北部系11型式である。碗は後Ⅲ期、皿Aは後Ⅳ期である。鉢ADは後Ⅲ期、鉢Eは後Ⅳ期である。内耳鍋は後Ⅲ期である。1141は器種不明の筒型の容器で灰釉が施釉される。

(5) 北部地区

北部地区の土坑出土遺物を対象とする。個々の土坑の出土遺物は少量であり、調査区で一括する。

02B区・04Aa区(第188図)

山茶碗(1142-1156)、皿A(1157-1159)H(1162 1163)、浅碗(1160)、入子(1161)、鉢A(1166)、内耳鍋(1164)、片口小鉢(1165)が出土した。山茶碗は南部系4-5型式(1142-1144 1155 1156)と9-10型式、北部系11形式(1153 1154)がある。皿Aは後Ⅳ期である。1162は卸目付大皿で後Ⅳ期、1163は前Ⅱ期である。浅碗は後I期、鉢Aは後Ⅳ期である。内耳鍋、片口小鉢は後Ⅲ期である。

02B区SK58(第188図)

山茶碗(1167-1172)、碗C(1173 1174)、皿A(1175-1178)、鉢A(1180-1186)E(1179)、内耳鍋(1187 1188)が出土した。山茶碗は南部系9型式(1167)、北部系11型式である。碗Cは後Ⅱ期、皿Aは後Ⅳ期である。鉢A、内耳鍋は後Ⅳ期である。

c. 溝

(1) 集落外南部

南部地区南半の中世集落外の溝出土遺物を対象とする。

SD010(第 189 図)

山茶碗 9 型式 (1189-1192) が出土している。

SD024(第 189 図)

山茶碗 5 型式 (1194)、碗 A(1193) 後Ⅱ期が出土している。

SD025(第 189 図)

山茶碗 9 型式 (1195) が出土している。

SD048(第 189 図)

皿 A(1196) 後Ⅱ期が出土している。

(2) 西側大溝

中世集落の北西から南東に走る西側の大溝の出土遺物を対象にする。

SD053(第 189-192 図)

山茶碗 (1197-1225)、碗 A(1226-1234)C(1235-1238)、皿 A(1239-1249)B(1251-1260)E(1261)H(1262)、挟皿(1250)、鉢 A(1277-1290)B(1302)C(1305)D(1265 1266 1273)E(1267-1271)、卸目付大皿(1275 1276)、碗型鉢(1274)、内耳鍋(1294-1298)、洗(1299)、壺 A(1291-1293)B(1300 1301) 燭台(1304)、仏具(1306)花瓶(1307)、水滴(1308)、入子(1263)、常滑窯産甕(1309)、匣鉢蓋(1310)、匣鉢(1311 1312)、土師器皿(1313-1315)、土師器内耳鍋(1316)、瓦器の火鉢(1317)、土錘(1318)が出土している。山茶碗は南部系 8・9 型式 (1197-1199、1207-1218) 北部系 10・11 型式 (1200-1206 1219-1225) が出土している。碗 A は後Ⅱ期から後Ⅳ期の時期である。碗 C は後Ⅰ期から後Ⅲ期の時期である。皿 A は後Ⅱ期(1239)と後Ⅳ期である。皿 B は中Ⅲ期(1251 1252)と後Ⅱ・Ⅲ期である。皿 E は後Ⅳ期、皿 H 中Ⅲ期である。鉢 A は後Ⅳ期(1277-1280)と大窯第 1 段階(1281-1285)がある。鉢 BCD は後Ⅱ期、鉢 E は中Ⅰ期(1267)と後Ⅰ・Ⅱ期である。卸目付大皿は後Ⅳ期である。碗型鉢は後Ⅰ期である。壺 A は後Ⅳ期、壺 B は古瀬戸後期である。花瓶は中Ⅱ期である。洗は前Ⅱ期である。仏具は後Ⅳ期である。土師器皿は手づくね成形である。

SD054(第 193 図)

皿 A(1319)B(1320)、鉢 A(1321)D(1323)E(1322)、内耳鍋 (1324) が出土した。皿 A 後Ⅳ期、皿 B 後Ⅱ期である。鉢 AD 後Ⅳ期、鉢 E 後Ⅰ期である。内耳鍋後Ⅱ期である。

SD055(第 193 図)

山茶碗 (1325)、碗 C(1326 1327)、皿 A(1328 1329)B(1329)、鉢 A(1332 1335 1336)E(1331)、壺 A(1333)、匣鉢蓋(1334)、内耳鍋(1337)が出土した。山茶碗は南部系 9 型式である。碗、皿は後Ⅰ期から後Ⅲ期の時期、鉢 A 後Ⅳ期 B 後Ⅰ期、壺 A 古瀬戸後期である。

(3) 中央溝

中世集落の中央を北東 - 南西方向に二分する溝群である。

SD064 066-068 073(第 193 図)

少量出土の遺物を一括する。碗 A(1338)、皿 A(1339-1341)、鉢 E(1343)、折縁中皿 (1342)、土師器皿 (1344 1345)、常滑窯産甕 (1346) が出土した。碗、皿は後Ⅲ期から後Ⅳ期である。折縁中皿は中Ⅱ期である。常滑窯産甕は 15 世紀代の時期である。

SD058(第 194 図)

山茶碗 (1347 1348 1352 1353)、碗 A(1349)C(1350 1351)、皿 A(1354-1359)B(1360)、杯 (1361)、鉢 A(1366-1370)E(1362-1365)、内耳鍋 (1371)、水注 (1373)、常滑窯産甕 (1374) が出土した。山茶碗南部系 9 型式である。碗 A 後Ⅲ期 B 後Ⅱ期である。皿 A 後Ⅳ期 B 後Ⅱ

期である。鉢 A は後Ⅳ期である。鉢 E は中Ⅲ期から後Ⅱ期である。内耳鍋後Ⅳ期、水注は古瀬戸後期後半である。常滑窯産甕は 15 世紀代である。

SD076(第 195 図)

山茶碗 (1375-1380)、碗 A(1381-1383)C(1384)、皿 A(1385-1388)H(1389)、鉢 A(1393-1398)D(1390 1391)、卸目付大皿 (1392) 内耳鍋 (1399)、仏供 (1400 1401)、水滴 (1402)、匣鉢 (1403-1406) が出土した。碗 A は後Ⅲ期から大窯第 1 段階である。碗 C は後Ⅰ期、皿 A は後Ⅳ期である。鉢 A は後Ⅳ期から大窯第 1 段階である。鉢 D は後Ⅱ期、卸目付大皿、内耳鍋は後Ⅳ期である。仏供は中Ⅳ期と後Ⅳ期である。匣鉢は古瀬戸後期と考える。

SD056(第 196 図)

山茶碗 (1407-1409)、碗 C(1410)、皿 A(1411-1413)B(1414)H(1415)、壺 A(1417)、内耳鍋 (1418 1419) が出土した。碗 C は後Ⅰ期、皿 A は後Ⅳ期である。皿 B は後Ⅱ期、皿 H 壺 A 内耳鍋は後Ⅳ期である。

SD107(第 196 図)

山茶碗 (1420-1422)、折縁中皿 (1423) が出土している。山茶碗南部系 9 型式、折縁中皿中Ⅱ期である。

SD087(第 196 図)

山茶碗 (1424 1425)、碗 A(1426)、壺 A(1428)、鉢 A(1429)、挾皿 (1427) が出土した。山茶碗は北部系 11 型式と南部系 9 型式 (1425) である。碗 A は後Ⅱ期、壺 A 後Ⅳ期、鉢 A 大窯第 1 段階である。

SD101(第 196 図)

山茶碗 (1430-1434)、碗 A(1435 1436)C(1437)、皿 A(1438)H(1442)、丸皿 (1439)、鉢 B(1443)E(1441)、折縁中皿 (1440)、内耳鍋 (1446)、平底末広碗 (1445)、土師器皿 (1446) が出土した。山茶碗は南部系 9 型式である。碗 AB は後Ⅱ・Ⅲ期である。皿は後Ⅱ・Ⅲ期である。鉢は後Ⅰ・Ⅱ期である。折縁中皿と平底末広碗は中Ⅲ期である。土師器皿は轆轤成形である。

SD104(第 197 図)

山茶碗 (1447-1468)、碗 A(1469)C(1470)、皿 A(1476 1477)B(1471-1475)H(1479)、鉢 B(1482)E(1480 1481)、燭台 (1483)、匣鉢 (1484) が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式と北部系 10 形式 (1462 1467) である。碗 A 中Ⅳ期、碗 C 後Ⅰ期である。皿 A は後Ⅰ期と後Ⅳ期である。皿 B は後Ⅰ期から後Ⅲ期である。皿 H は後Ⅱ期である。鉢 BE は後Ⅰ・Ⅱ期である。

(4) 東側大溝

中世集落の北西から南東に走る東側の大溝の出土遺物を対象にする。

SD105(第 198 図)

山茶碗 (1485-1490)、碗 A(1491-1494)C(1495-1497)、皿 A(1498)、鉢 A(1501)B(1503)C(1504)E(1499 1500) が出土した。山茶碗は南部系 9-10 形式と北部系 11 形式 (1486) である。碗 A は中Ⅳ期から後Ⅰ期、碗 C は後Ⅰ期である。皿 A は後Ⅱ期、鉢 A は後Ⅳ期である。鉢 B 後Ⅱ期、鉢 C は後Ⅲ期である。鉢 E は中Ⅲ期と後Ⅱ期である。1502 は手付き鍋で後Ⅰ期である。1505 1506 は釜蓋である。

SD093(第 198 図)

山茶碗 (1507-1510)、碗 C(1511 1512)、皿 B(1514)、鉢 A(1517)B(1516)E(1513)、小鉢 (1515) が出土した。山茶碗は南部系 9 形式と北部系 11 形式 (1508 1509) である。碗、皿、鉢は後Ⅱ・Ⅲ期である。

SD081(第 198 199 図)

山茶碗(1518-1521)、碗A(1522 1523)、皿A(1524-1527)B(1528)E(1529)、折縁中皿(1530)、鉢A(1536-1539)、碗型鉢(1531)、挾皿(1533)、小鉢(1532)、花瓶(1540)、仏供(1541)、釜(1542)、土師器皿(1534 1535)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式である。碗Aは後Ⅱ期と後Ⅳ期である。皿AEは後Ⅳ期、皿Bは後Ⅱ期である。鉢Aは後Ⅳ期、花瓶は後Ⅱ期、仏供は大窯第Ⅰ段階、釜は後Ⅳ期である。折縁中皿は中Ⅲ期、碗型鉢は後Ⅰ期である。小鉢は後Ⅲ期である。土師器皿は轆轤成形である。

SD080(第 199 図)

山茶碗(1543-1550)、碗A(1551-1553)C(1554 1555)、皿A(1556 1557)、碗型鉢(1558)、鉢A(1563-1566)、内耳鍋(1567)、挾皿(1559)、鉢(1561)、桶(1568)、卸目付大皿(1562)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式である。山茶碗は南部系9形式と北部系10形式(1549)である。碗Aは後Ⅱ期と後Ⅳ期、碗Cは後Ⅰ期である。皿Aは後Ⅳ期、鉢Aは後Ⅳ期、鉢Eは後Ⅲ期である。鉢、内耳鍋と桶は後Ⅳ期である。1560は器種不明壺である。

SD084(第 200 201 図)

山茶碗(1569-1577)、碗A(1578-1583)C(1584-1589)、皿A(1591-1593)B(1594-1596)、折縁中皿(1597)、鉢A(1599 1603-1607)E(1600-1602)、桶(1608 1611)、双耳小壺(1609)、常滑窯産甕(1612)、鉢(1590)、土師器皿(1613 1614)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式と北部系11形式(1574-1577)である。碗Aは後Ⅱ期と後Ⅳ期(1582 1583)、碗Cは中Ⅳ期と後Ⅱ期(1586-1589)である。皿Aは後Ⅱ期(1591 1592)と後Ⅳ期、皿Bは中Ⅳ期から後Ⅱ期である。桶は後Ⅳ期である。常滑窯産甕は15世紀前半の時期である。土師器皿は手づくね成形と轆轤成形である。

SD092(第 201 202 図)

山茶碗(1615 1617 1618)、灯明皿(1616)、碗A(1619 1620)C(1621)、皿A(1622-1629)B(1630)、丸皿(1631)、鉢A(1641-1646)D(1637)E(1634-1636)、卸目付大皿(1638-1640)、内耳鍋(1647)、常滑窯産甕(1648)、火鉢(1651)、挾皿(1632 1633)、土師器皿(1649 1650)が出土した。山茶碗は南部系7・10形式と北部系11形式である。碗A後Ⅲ期、碗C後Ⅰ期である。皿Aは後Ⅰ・Ⅱ期と後Ⅳ期(1625-1629)である。皿Bは後Ⅰ期である。鉢ADは後Ⅳ期、鉢Eは後Ⅰ・Ⅱ期である。卸目付大皿、内耳鍋は後Ⅳ期、常滑窯産甕は14世紀後半の時期である。土師器皿は轆轤成形と手づくね成形である。

SD090(第 202 図)

山茶碗(1652 1653)、皿B(1654)、鉢A(1658 1659)、卸目付大皿(1656 1657)、常滑窯産甕(1660)、挾皿(1655)が出土した。山茶碗9型式、皿B後Ⅲ期である。鉢は後Ⅳ期である。常滑窯産甕は15世紀代である。

SD083(第 203 204 図)

山茶碗(1661-1671)、碗A(1672 1673)、皿A(1674 1675)B(1676 1977)E(1678 1679)、入子(1681)、鉢A(1683-1690)D(1680)E(1682)、内耳鍋(1691 1692)、壺A(1693)、釜(1694)、花瓶(1695)、水注(1696)、匣鉢(1697 1698)、土師器皿(1699 1700)、土師器鍋(1701 1702)が出土した。山茶碗は南部系9形式と北部系11形式(1666-1668)である。碗A後Ⅳ期と大窯第Ⅰ段階である。皿Aは後Ⅳ期、皿Bは後Ⅱ・Ⅲ期である。鉢ADは後Ⅳ期、鉢Eは中Ⅳ期である。壺A、釜、内耳鍋、花瓶、水注は後Ⅳ期である。土師器皿は轆轤成形である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。

SD089(第204図)

山茶碗(1703-1706)、碗C(1708)、皿A(1707)、鉢A(1711)D(1709 1710)、桶(1712)、土師器皿(1713-1718)、土師器鍋(1719)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式である。碗Cは中Ⅲ期である。皿Aは後Ⅳ期である。鉢Aは後Ⅳ期、鉢Eは中Ⅲ期、後Ⅰ期である。桶は後Ⅳ期である。土師器皿は轆轤成形である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。

SD115(第204図)

山茶碗(1720-1722)、碗C(1723)、皿A(1724-1726)B(1727 1728)、折縁中皿(1729)が出土した。山茶碗は南部系9形式である。碗Cは後Ⅱ期である。皿Aは後Ⅱ・Ⅳ期である。皿Bは後Ⅲ期である。折縁中皿は後Ⅱ期である。

SD106(第205図)

御目付大皿(1730)後Ⅳ期と鉢A(1731)が出土した。

SD109(第205図)

山茶碗(1732-1739)、碗A(1740)C(1742-1744)、浅碗(1741)、皿A(1746-1749)B(1750 1751)、小鉢(1745)が出土した。山茶碗は南部系9-10形式と北部系10型式(1736)である。碗は後Ⅱ・Ⅲ期、皿Aは後Ⅳ期、皿Bは中Ⅲ期、後Ⅱ期である。

SD114(第205図)

山茶碗(1752-1759)、碗A(1760)、皿B(1761)、桶(1762)、土師器鍋(1763 1764)が出土した。山茶碗は南部系9形式と北部系9型式(1756)である。碗Aは後Ⅱ期、皿Bは中Ⅲ期、桶は後Ⅳ期である。土師器鍋は半球形内耳鍋である。

SD097(第205図)

皿A(1766 1767)後Ⅳ期と小鉢(1765)後Ⅰ期が出土した。

(5) 集落外北部

南部地区北半の中世集落外の溝出土遺物を対象とする。

SD113(第206図)

山茶碗(1768-1771)南部系9型式と皿H(1772)中Ⅲ期が出土した。

SD094(第206図)

山茶碗(1773-1775)南部系9型式が出土した。

SD079(第206図)

皿A(1776)後Ⅳ期が出土した。

SD139(第206図)

山茶碗(1777)南部系5型式が出土した。

(6) 北部地区溝

北部地区の中世溝の出土遺物である。

SD207(第207図)

山茶碗(1778-1786)、碗A(1787-1790)C(1792 1793)、皿A(1791)、鉢A(1795)B(1802)C(1803)E(1794 1796)内耳鍋(1797 1798)、水注(1804)、釜(1799 1800)が出土した。山茶碗は北部系11型式である。碗Aは後Ⅳ期から大窯第1段階、碗Cは後Ⅱ期と後Ⅳ期である。皿Aは後Ⅲ期、鉢A後Ⅳ期、B後Ⅲ期、C後Ⅳ期、内耳鍋後Ⅳ期、釜後Ⅳ期である。

SD220(第207図)

山茶碗(1806・1808)、碗A(1809)、碗型(1810)、鉢A(1812)E(1811)、内耳鍋(1813-1815)、常滑窯産甕(1816)が出土した。山茶碗は南部系9型式と北部系11型式である。碗A後Ⅱ期、

鉢 A 後Ⅳ期、E 後Ⅲ期である。内耳鍋後Ⅲ期、常滑窯産甕 15 世紀代である。

d. 井戸

南部地区 03B 区 04Da 区 04Ca 区で中世の井戸が検出され、この時期の遺物が出土している。

SE01(第 208 図)

山茶碗 (1817-1830 1832)、貿易磁器 (1831) が出土した。山茶碗は南部系 5 形式と北部系 5 型式 (1823 1824)、1832 は南部系 5 形式の片口鉢である。1831 は中国窯産青磁印花文である。12 世紀代と考えられる。

SE02(第 208 図)

山茶碗 (1833-1835)、碗 A(1836-1838)、皿 A(1839-1843)B(1844)E(1845 1846)、鉢 C(1849)E(1847)、水注 (1848)、花瓶 (1850) が出土した。山茶碗は南部系 10 型式と北部系 10-11 型式である。碗 A は後Ⅰ期から後Ⅲ期の時期である。皿 A は後Ⅰ期 (1839) と後Ⅳ期、皿 B は中Ⅲ期である。皿 E は後Ⅳ期である。鉢 C は中Ⅲ期、鉢 E は後Ⅰ期である。水注と花瓶は古瀬戸後期の時期である。1851 は貿易陶器と考えられるが、時期不明である。

e. 不明遺構

性格が不明な遺構より出土した遺物を対象とする。

南部地区

SX014(第 209 図)

山茶碗 (1852) 北部系 5 型式が出土している。

SX016(第 209 図)

皿 A(1853) 後Ⅳ期、鉢 A(1854 1857 1858) 後Ⅳ期、筒型容器 (1855)、桶 (1856) が出土している。

SX020(第 209 図)

山茶碗 (1859-1879)、皿 B(1880)H(1883)、鉢 C(1885)E(1882)、折縁中皿 (1881)、入子 (1884)、花瓶 (1886)、常滑窯産甕 (1887) 鉢 (1888) が出土した。山茶碗は南部系 8-9 型式と北部系 9-10 形式 (1875 1879) である。皿は中Ⅱ型式、鉢 C は中Ⅳ期、鉢 E と折縁中皿は中Ⅱ期である。常滑窯産甕は 13 世紀代、鉢は 14 世紀代の時期である。

SX019(第 210 図)

山茶碗(1889-1900)、碗A(1901 1902)C(1903-1907)、皿A(1912)B(1908-1911) H(1916)、入子(1913-1915)、鉢D(1918 1919)、碗型鉢(1917)、花瓶(1920 1921)、水滴(1922)、合子(1923)、常滑窯産甕(1924)が出土した。山茶碗は南部系9型式、北部系10-11型式(1896 1897)である。碗ACは後Ⅰ・Ⅱ期である。皿ABは中Ⅲ期から後Ⅱ期である。入子は中Ⅲ期である。鉢Dは後Ⅰ期、合子は後Ⅳ期である。常滑窯産甕は15世紀代の時期である。

SX021(第 211 図)

山茶碗(1925-1933)、碗A(1936-1939)C(1940 1941)、端反碗(1942)、皿A(1943-1945)B(1946-1950)、鉢A(1954 1957)B(1955)E(1951 1952)、内耳鍋(1953)、釜(1956)、常滑窯産甕(1958)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式と北部系10-11型式(1929-1931)である。1934は知多窯産片口鉢、1935は尾張型片口鉢である。碗Aは中Ⅳ期と後Ⅲ・Ⅳ期である。碗Cは後Ⅰ・Ⅱ期である。皿Aは後Ⅳ期、Bは後Ⅰ期から後Ⅲ期である。鉢Aは後Ⅲ期と大窯第Ⅰ段階、鉢Bは後Ⅰ期である。内耳鍋は後Ⅲ期、釜は後Ⅳ期である。常滑窯産甕は15世紀の時期

である。

SX022(第211図)

山茶碗(1959-1960)、皿A(1961)、鉢A(1964)D(1962)E(1963)が出土した。山茶碗は南部系8-9型式、皿A後Ⅳ期、鉢ADEは後Ⅲ・Ⅳ期である。

SX025(第212図)

山茶碗(1965-1979)と不明土師器(1980)が出土した。山茶碗は南部系4型式である。

SX027(第212図)

水指(1981)、鉢A(1982)、土師器鍋が出土した。水指、鉢Aは大窯第1段階である。

SX028(第212図)

山茶碗(1984-1988)、碗C(1989-1990)、皿A(1991)、折縁中皿(1992)、鉢B(1995)E(1994)、内耳鍋(1993)、花瓶(1996)、常滑窯産甕(1997)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式、北部系10型式である。碗Cは後Ⅰ期、皿A後Ⅲ期、鉢BEと折縁中皿後Ⅰ期、内耳鍋後Ⅳ期である。常滑窯産甕は14世紀代である。

SX201(第213図)

山茶碗(1998-2002)、皿H(2003)が出土している。山茶碗は南部系8-9型式と北部系10型式である。

SX203(第213図)

山茶碗(2004-2011)と不明鉢(2012)が出土している。山茶碗は8-9形式である。

SX205(第213図)

山茶碗(2013-2015)、鉢A(2016-2018)、土師器鍋(2019)が出土している。山茶碗南部7-9型式、鉢A後Ⅳ期から大窯第1段階である。

f. 包含層

遺物包含層より出土した遺物をとりあげる。

04Ca区(第214-215図)

調査区中央部上位段丘面の包含層の資料である。山茶碗(2020-2044)、碗A(2045-2052)C(2053)、浅碗(2054)、皿A(2055-2059)B(2060-2061)、折縁中皿(2063-2064)、鉢A(2071-2072)B(2074)D(2067-2068)E(2069-2070)、碗型鉢(2065)、盤(2068)、内耳鍋(2073)、燭台(2075)、仏供(2076)、常滑窯産甕(2077-2078)、土師器鍋(2079)、土師器皿(2080)が出土した。山茶碗は南部系9-10型式、北部系10-11型式(2033-2035-2043)が出土した。碗Aは中Ⅲ期から後Ⅱ期、碗Cは後Ⅱ期である。浅碗は後Ⅱ期である。皿Aは後Ⅲ・Ⅳ期、Bは後Ⅲ期である。折縁中皿は中Ⅲ・Ⅳ期である。鉢Aは後Ⅰ期から大窯第1段階である。鉢Bは後Ⅱ期、鉢Dは後Ⅱ期から後Ⅳ期である。碗型鉢と盤は後Ⅰ期である。内耳鍋後Ⅳ期、燭台は古瀬戸後期である。仏供は中Ⅳ期である。常滑窯産甕は2077が15世紀代、2078が13世紀代の時期である。

00A区02C区(第216図)

調査区の南東から南側の中世包含層の出土遺物である。山茶碗(2081-2083)、灯明皿(2084)、碗C(2086)、皿A(2087)、小鉢(2088)、鉢C(2092)、壺B(2089)、筒型容器(2090)、内耳鍋(2094)、釜(2091)、土師器鍋(2095)が出土した。山茶碗は南部系9型式(2082)、北部系10-11型式(2081-2083)が出土した。碗Cは後Ⅲ期、皿A中Ⅳ期、壺Bは後Ⅱ期である。内耳鍋後Ⅱ期である。

02B 区 (第 216 図)

下位段丘面の黒ボク土の包含層の資料である。山茶碗 (2096-2104)、皿 A (2105-2108)、鉢 A (2110) 内耳鍋 (2109)、合子蓋 (2111) が出土した。山茶碗は南部系 9 型式 (2103)、北部系 11 型式が出土した。皿 A 後Ⅱ期 (2105) と後Ⅳ期である。鉢 A、内耳鍋は後Ⅳ期である。

04Ab 区 (第 216 図)

旧自然河道の出土遺物である。山茶碗 (2112-2116) 南部系 9 型式、碗 A (2117) 後Ⅱ期、鉢 C (2118) 後Ⅳ期である。

g. 河谷包含層

河谷の包含層の出土遺物である。

01A 区 (第 217 図)

赤津川の河谷斜面の包含層資料である。山茶碗 (2119-2121)、皿 A (2124)H (2122)、花瓶 (2125) が出土した。山茶碗南部系 9 型式、皿 A 後Ⅱ期である。

00B 区 (第 217 図)

門前川河谷の包含層資料である。山茶碗 (2126-2133)、皿 A (2134)、小杯 (2135) が出土した。山茶碗南部系 4-11 型式、皿 A 後Ⅳ期である。

01C 区 (第 217 図)

門前川河谷の包含層資料である。山茶碗 (2136-2142)、常滑窯産片口鉢 (2143) が出土した。山茶碗は南部系 5-9 型式、2143 は 14 世紀代である。

04E 区 (第 218-221 図)

門前川河谷の中世包含層資料である。河谷斜面の杭列の最下層より出土する。山茶碗 (2144-2182) が出土した。南部系山茶碗 5-9 型式 (2148-2150 2152 2153 2156-2182)、北部系 4-7 形式 (2144-2147 2151 2154 2155) である。

また、中世包含層より上層で出土した遺物を一括する(第214-216図)。山茶碗(2183-2265)、碗A(2266-2271)C(2272-2276)、平底末広碗(2277)、皿A(2278-2285)B(2286-2292)H(2293-2295)、鉢E(2296)、内耳鍋(2298-2301)、洗(2302)、筒型容器(2304)、水注(2305)、天目台(2306)、土師器鍋(2307-2309)が出土した。山茶碗は南部系4-10型式(2184 2185 2193-2238 2242 2243 2245-2265)、北部系4-5 10型式(2183 2186-2192 2239 2244)である。2241は片口鉢で12世紀代である。2240は南部系山茶碗8型式で、施釉される。碗Aは後Ⅱ期から後Ⅳ期である。碗Cは後Ⅱ期である。皿Aは後Ⅱ期から後Ⅳ期である。皿Bは後Ⅱ期から後Ⅲ期である。皿Hは2293が中Ⅲ期、2294は後Ⅱ期、2295は後Ⅲ期である。鉢Eは後Ⅱ期、内耳鍋後Ⅲ期(2297)と後Ⅳ期である。洗が前Ⅰ期、筒型容器は後Ⅱ期である。水注は古瀬戸前期である。土師器鍋は伊勢型鍋で13世紀代から14世紀代である。

h. 貿易磁器

調査区全体から出土した中国産を中心とした貿易磁器を一括する。

青磁 (第 222 図)

蓮弁文碗 (2310-2318 2327 2328)、劃画文碗 (2321-2323)、青磁皿 (2329-2332) が出土している。竜泉窯産で 13 世紀代である。皿は底部に蓮弁文、劃画文を有する。

白磁 (第 222 図)

玉縁口縁碗 (2319 2320)、蛇の目の釉剥の碗 (2324)、不明碗底部 (2333 2334)、皿底部

(2325 2326) が出土している。2319 2320 は福建省産 11 世紀から 12 世紀代、2324 は広東省産 13 世紀代である。(酒井俊彦)

註

1) 瀬戸美濃窯産陶器類に関しては藤沢良祐氏の分類・編年によるものである。

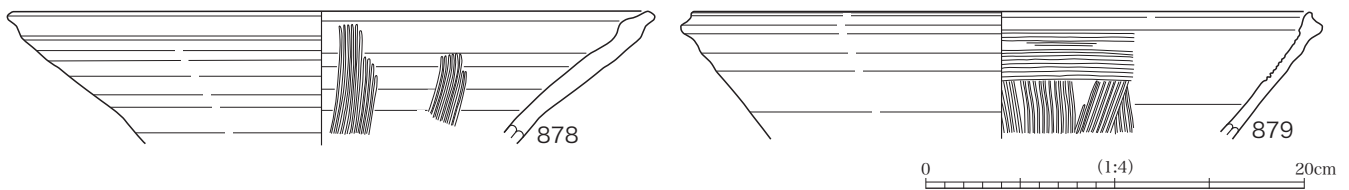
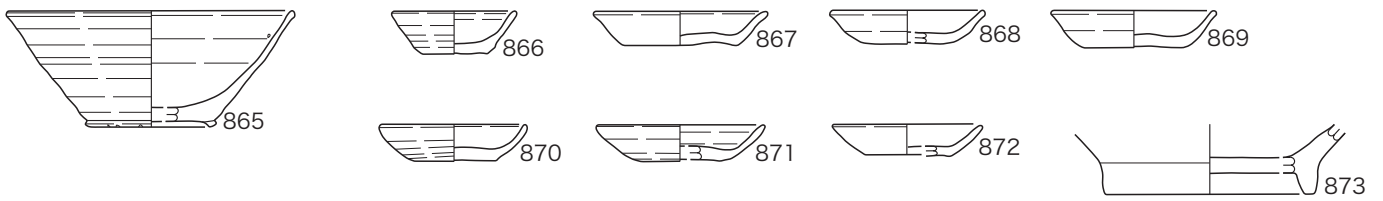
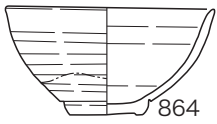
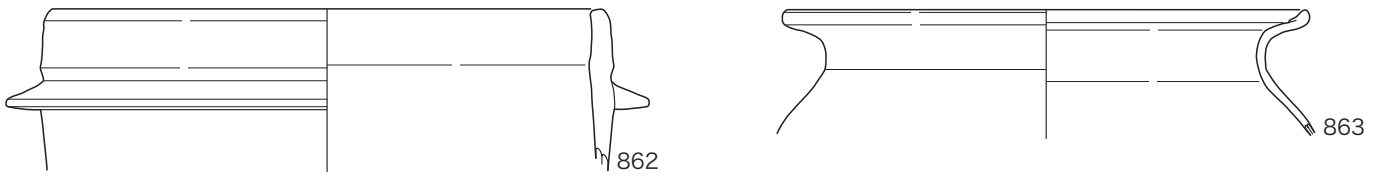
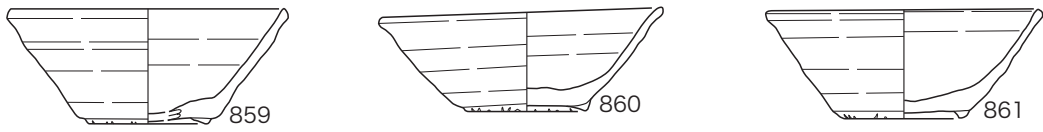
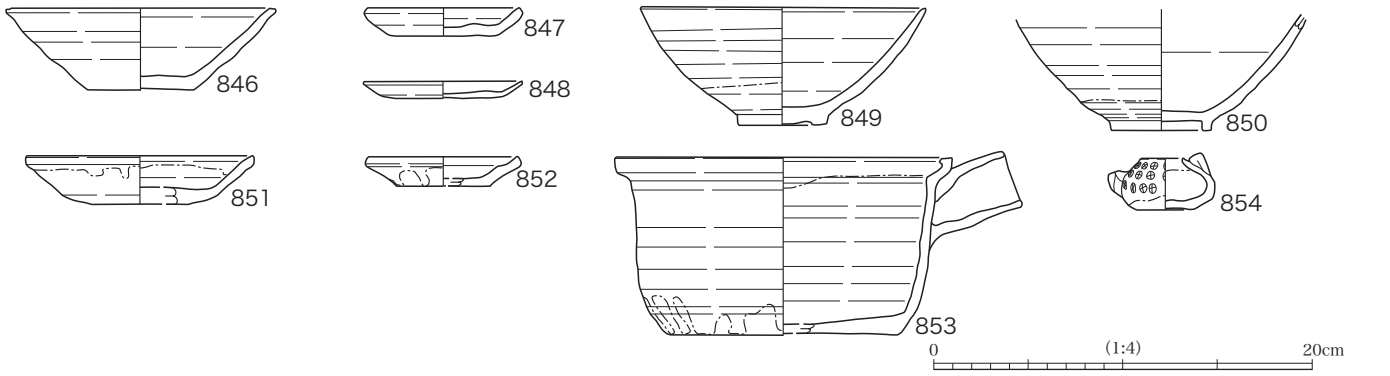
藤沢良祐 1986「瀬戸大窯発掘調査報告」『研究紀要』V 瀬戸市歴史民俗資料館

藤沢良祐 1987「本業焼の研究 (1)」『研究紀要』VI 瀬戸歴史民俗資料館

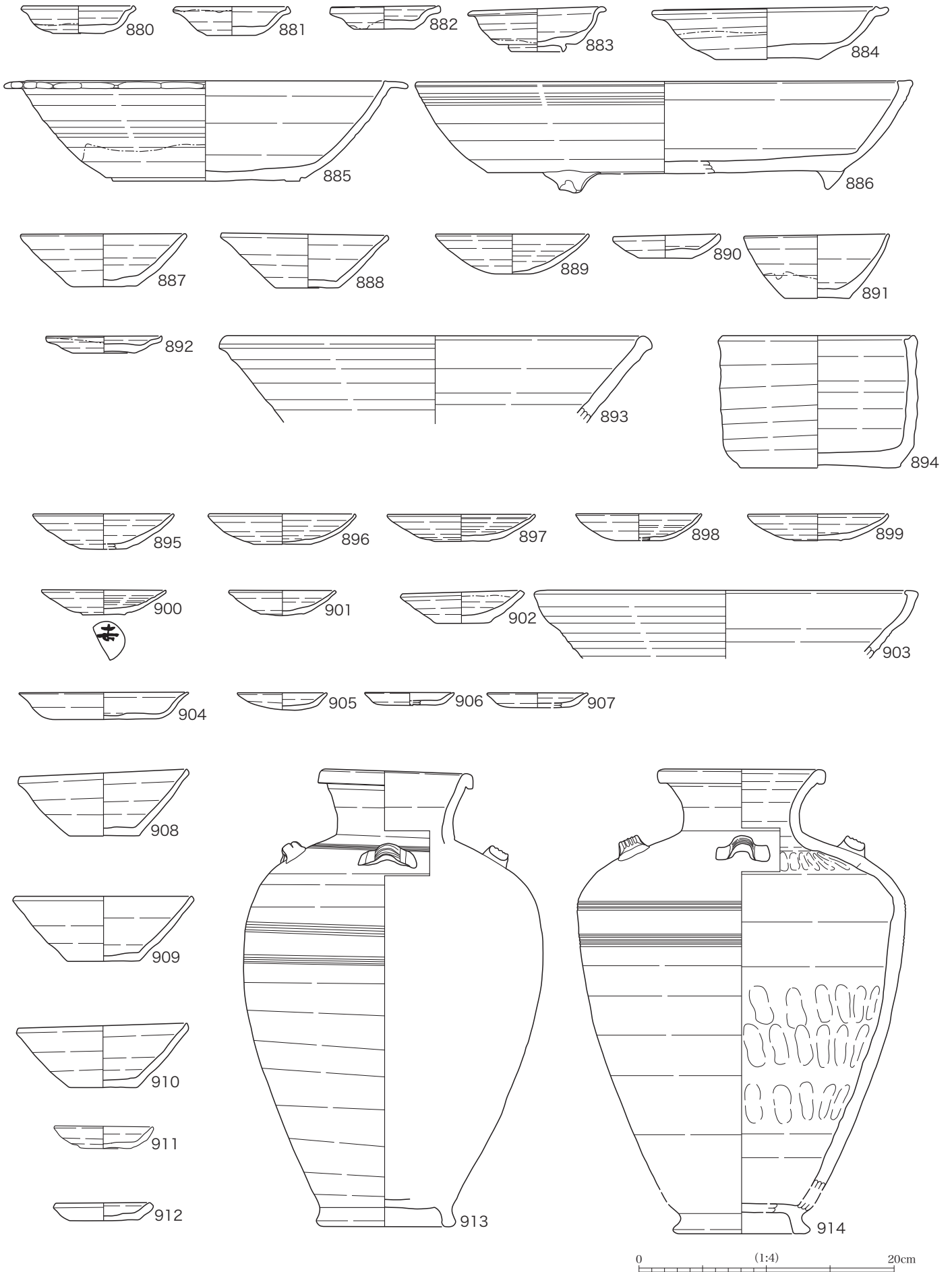
藤沢良祐 1988「本業焼の研究 (2)」『研究紀要』VII 瀬戸歴史民俗資料館

藤沢良祐 1989「本業焼の研究 (3)」『研究紀要』VIII 瀬戸歴史民俗資料館

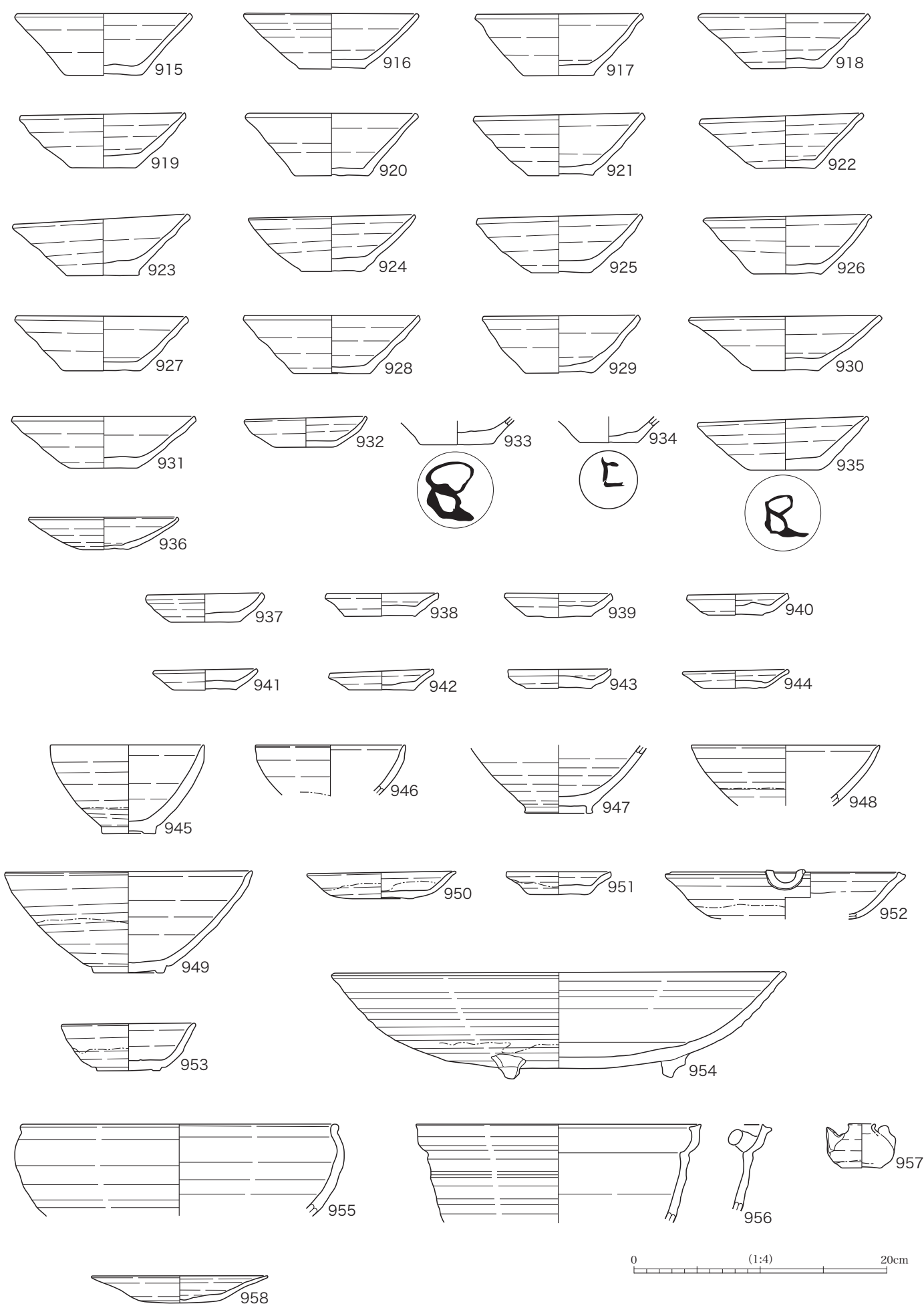
藤沢良祐 1991「瀬戸古窯址群 II - 古瀬戸後期様式の編年」『研究紀要』X 瀬戸歴史民俗資料館



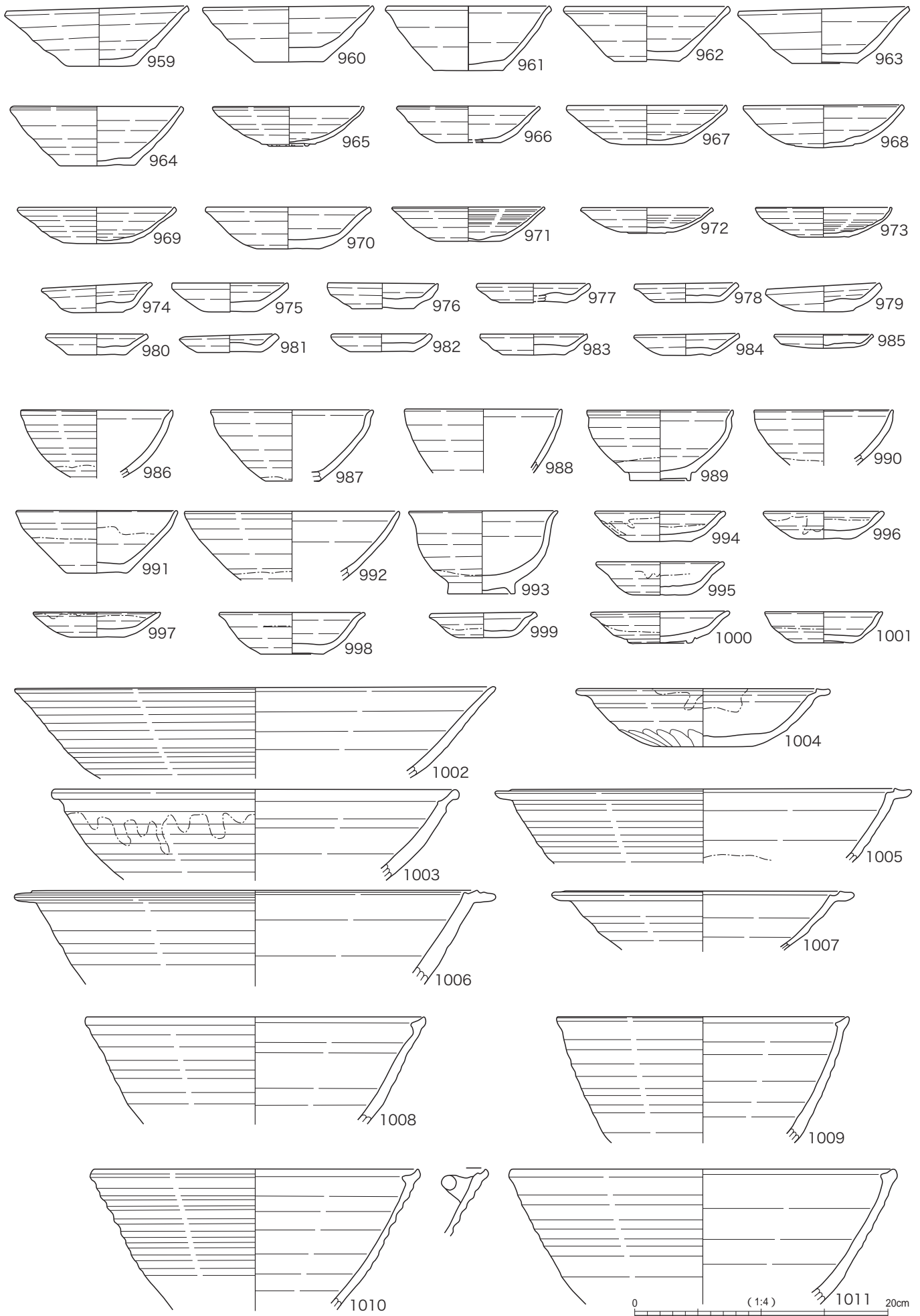
第 180 图 中世土器 (1)



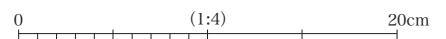
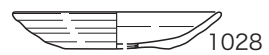
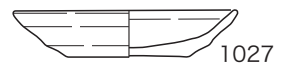
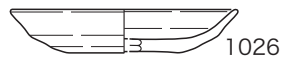
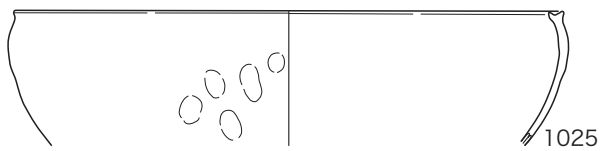
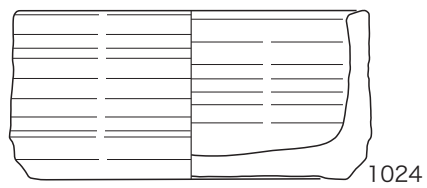
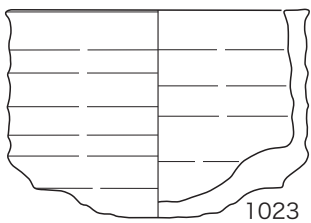
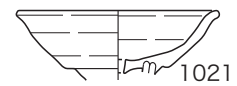
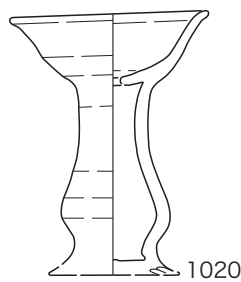
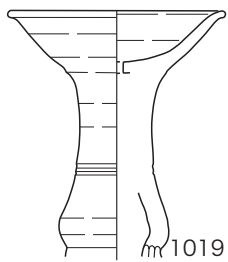
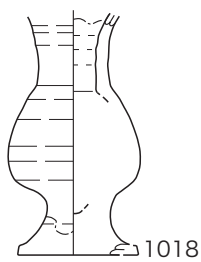
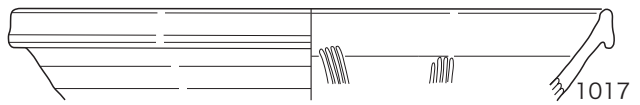
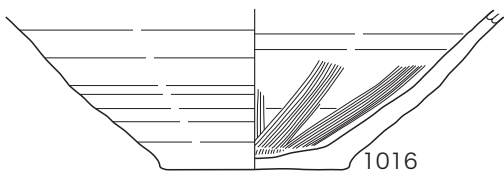
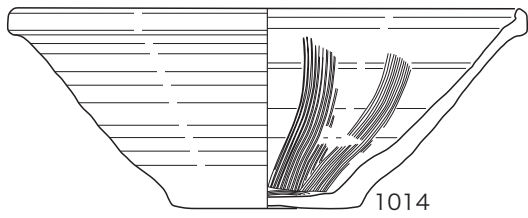
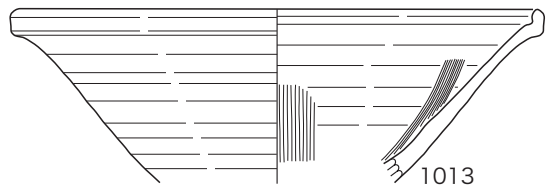
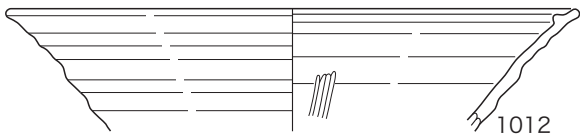
第 181 图 中世土器 (2)



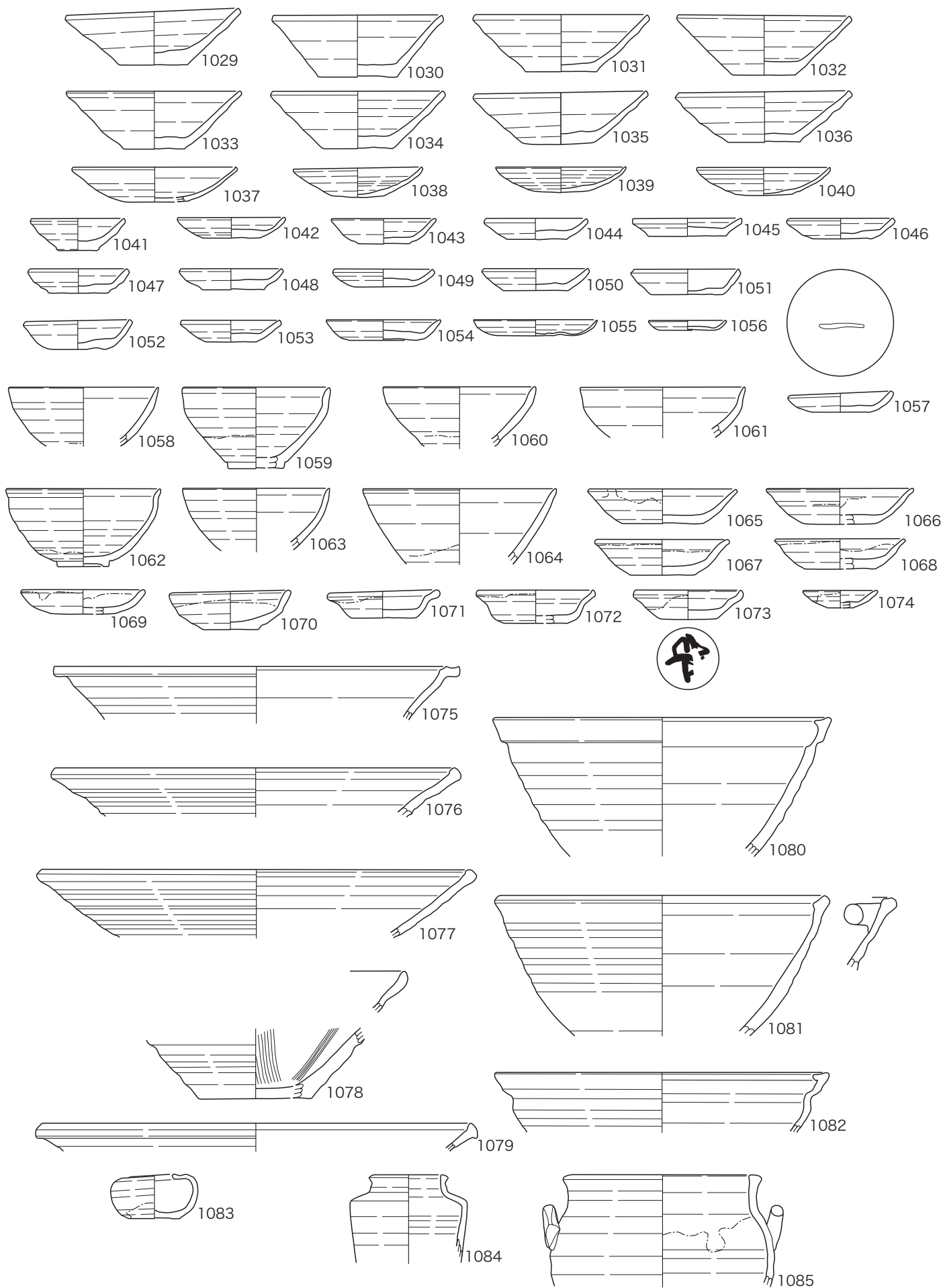
第182図 中世土器(3)



第 183 图 中世土器 (4)

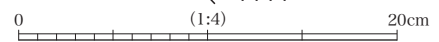
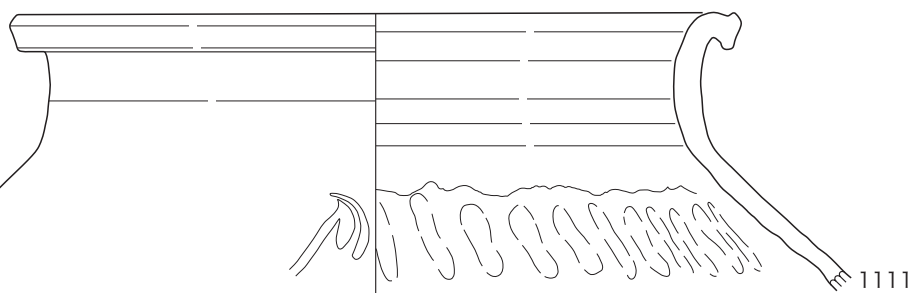
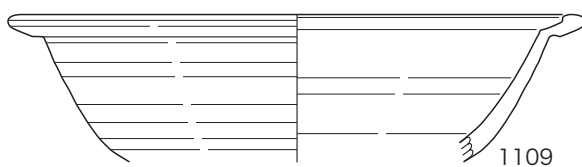
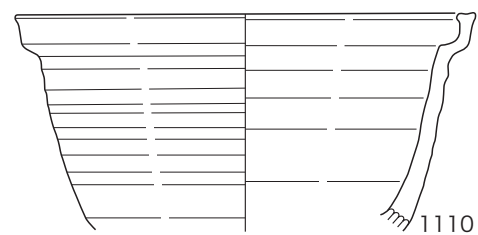
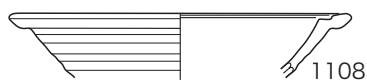
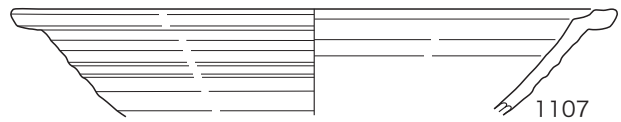
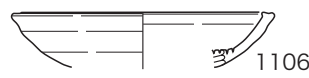
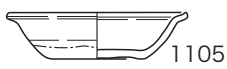
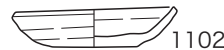
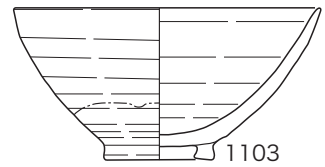
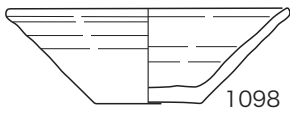
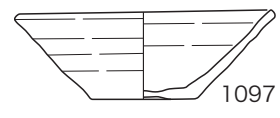
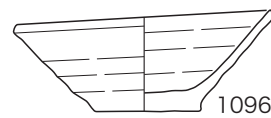
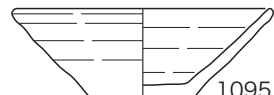
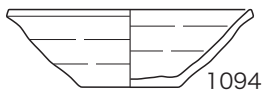
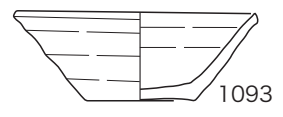
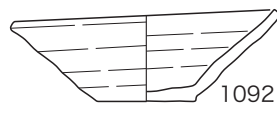
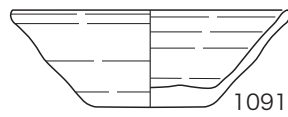
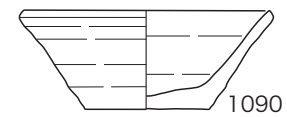
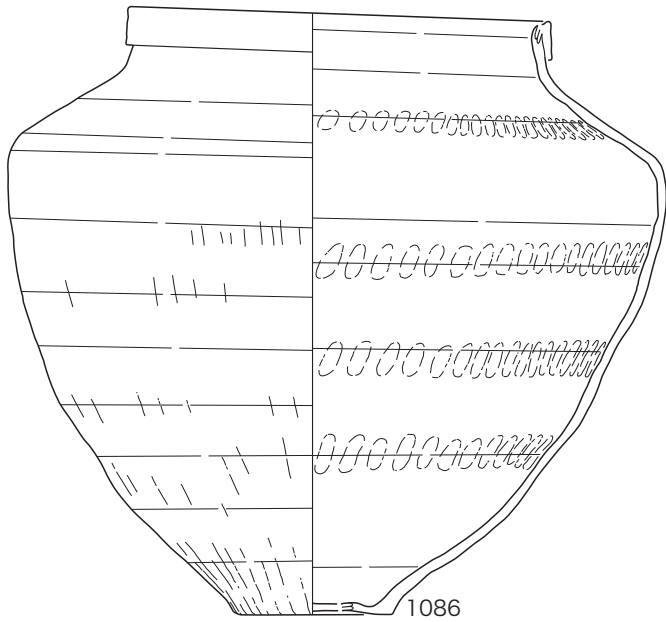


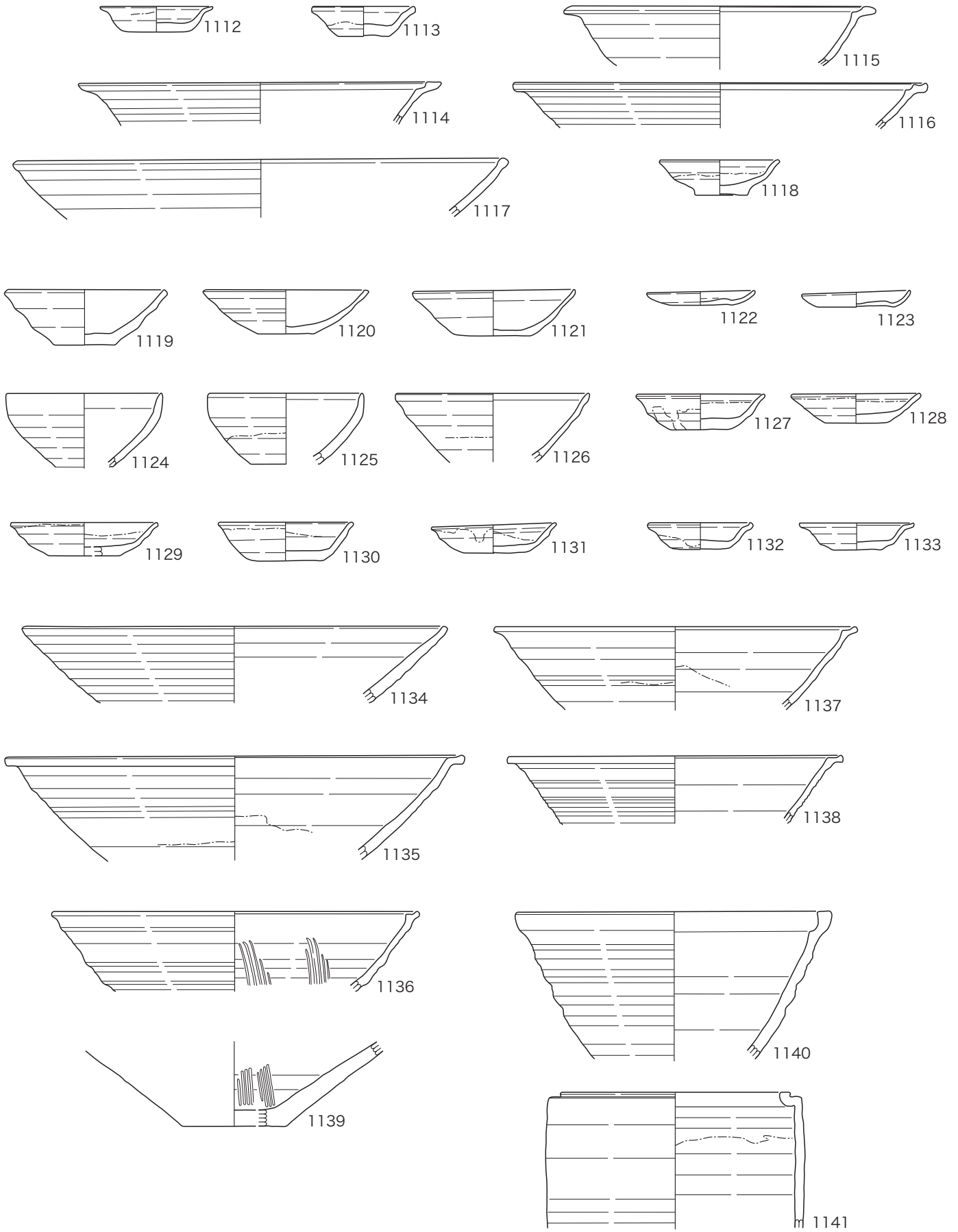
第184図 中世土器(5)



第 185 图 中世土器 (6)

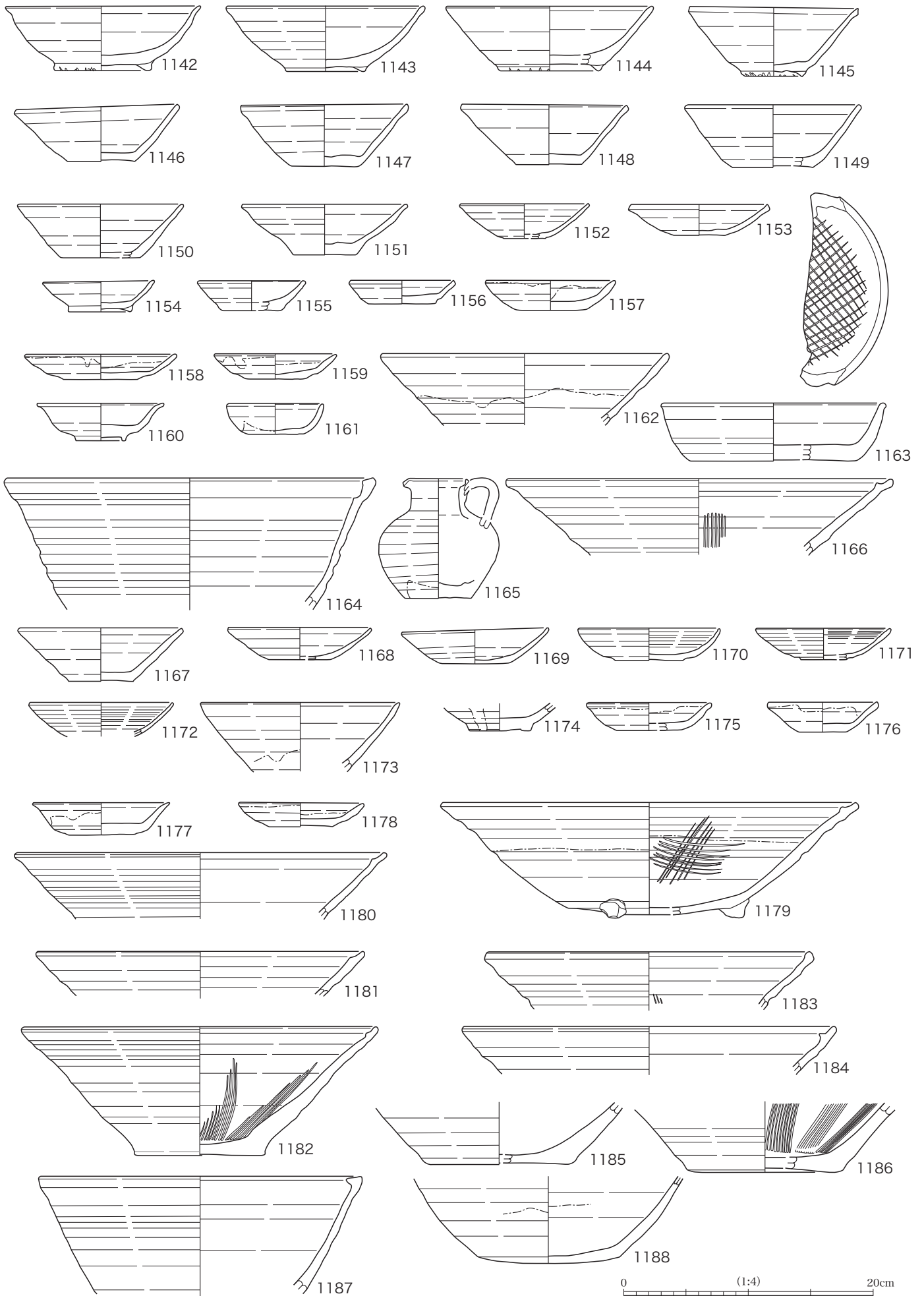
0 (1:4) 20cm

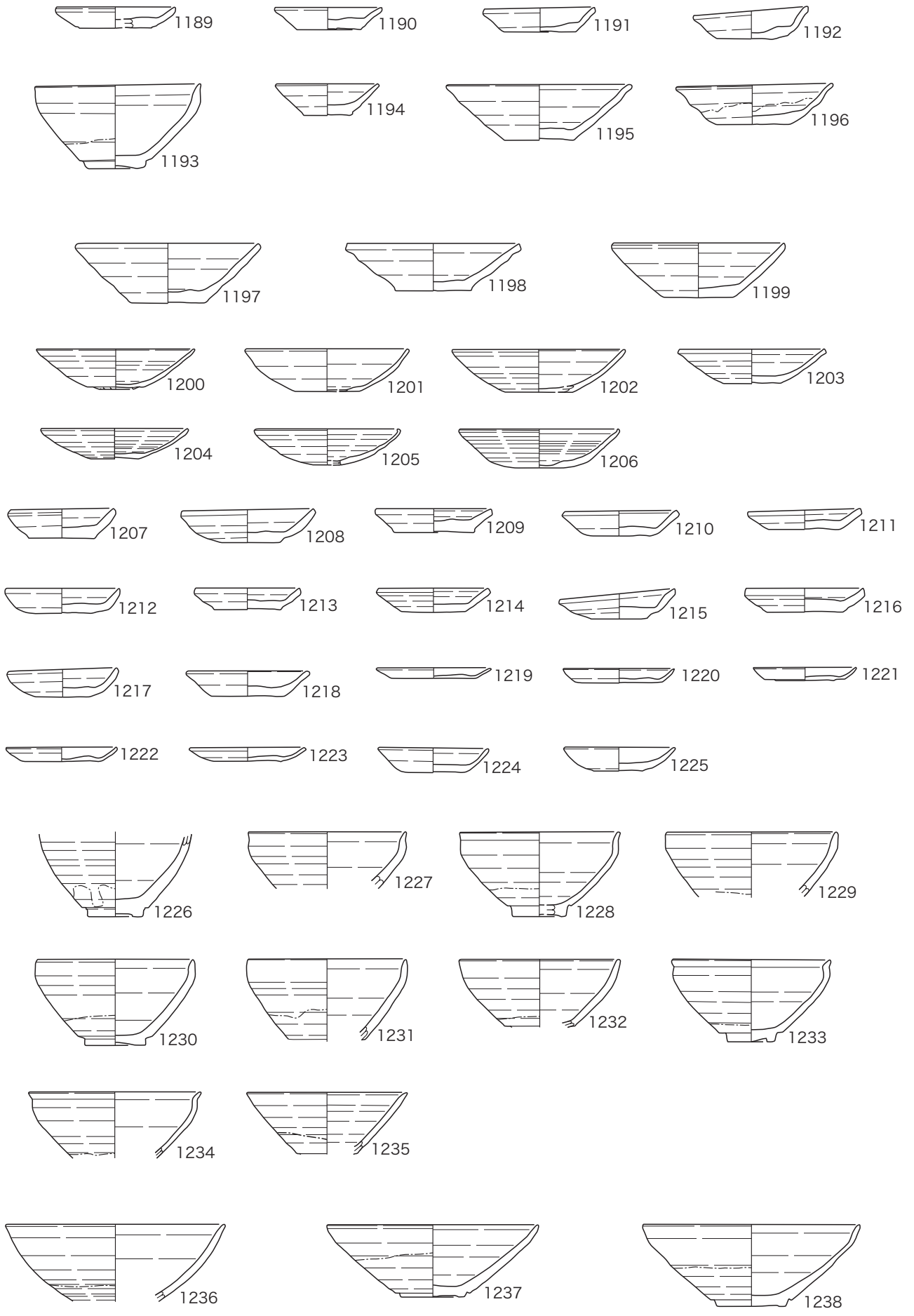




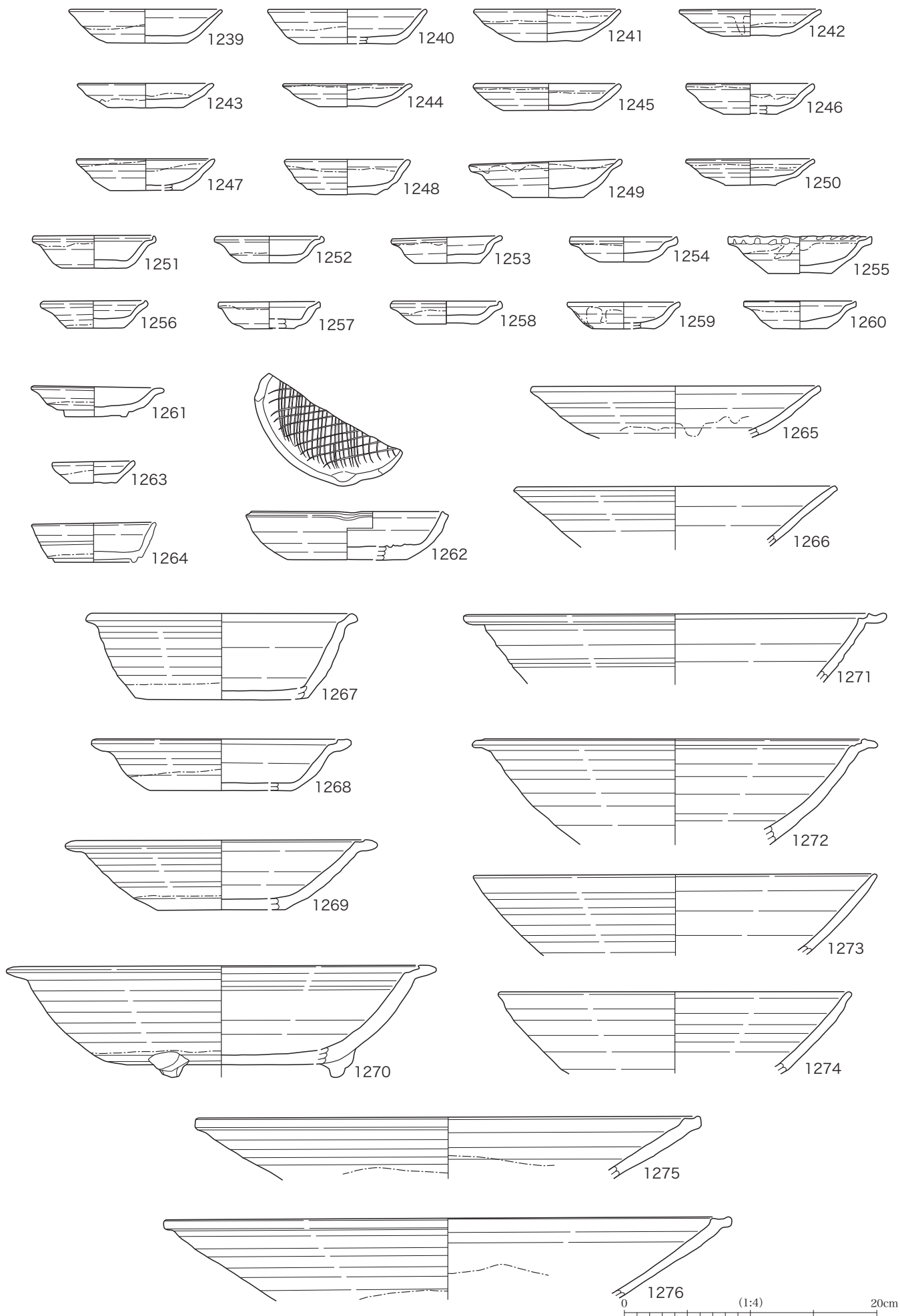
第 187 图 中世土器 (8)

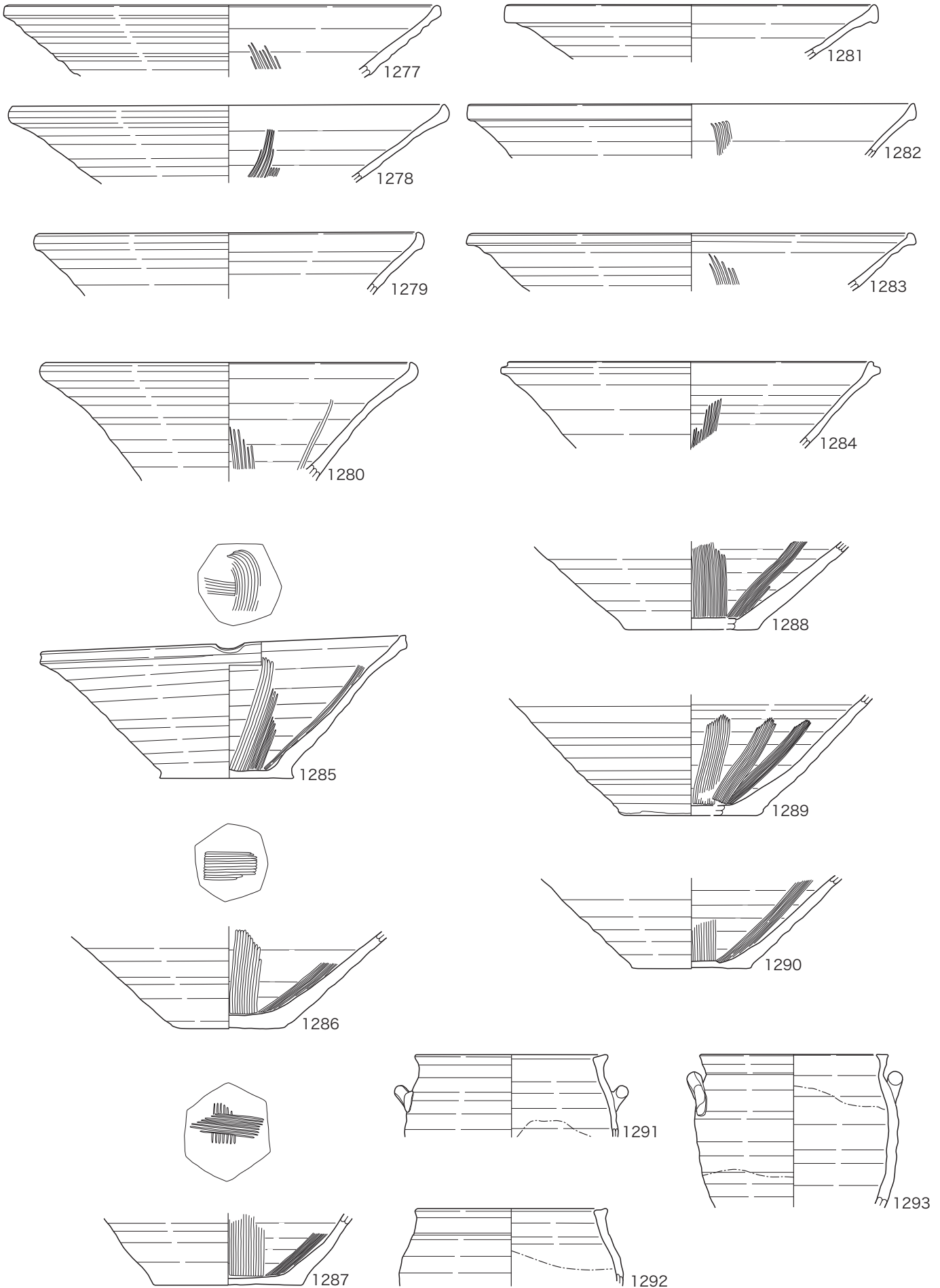
0 (1:4) 20cm





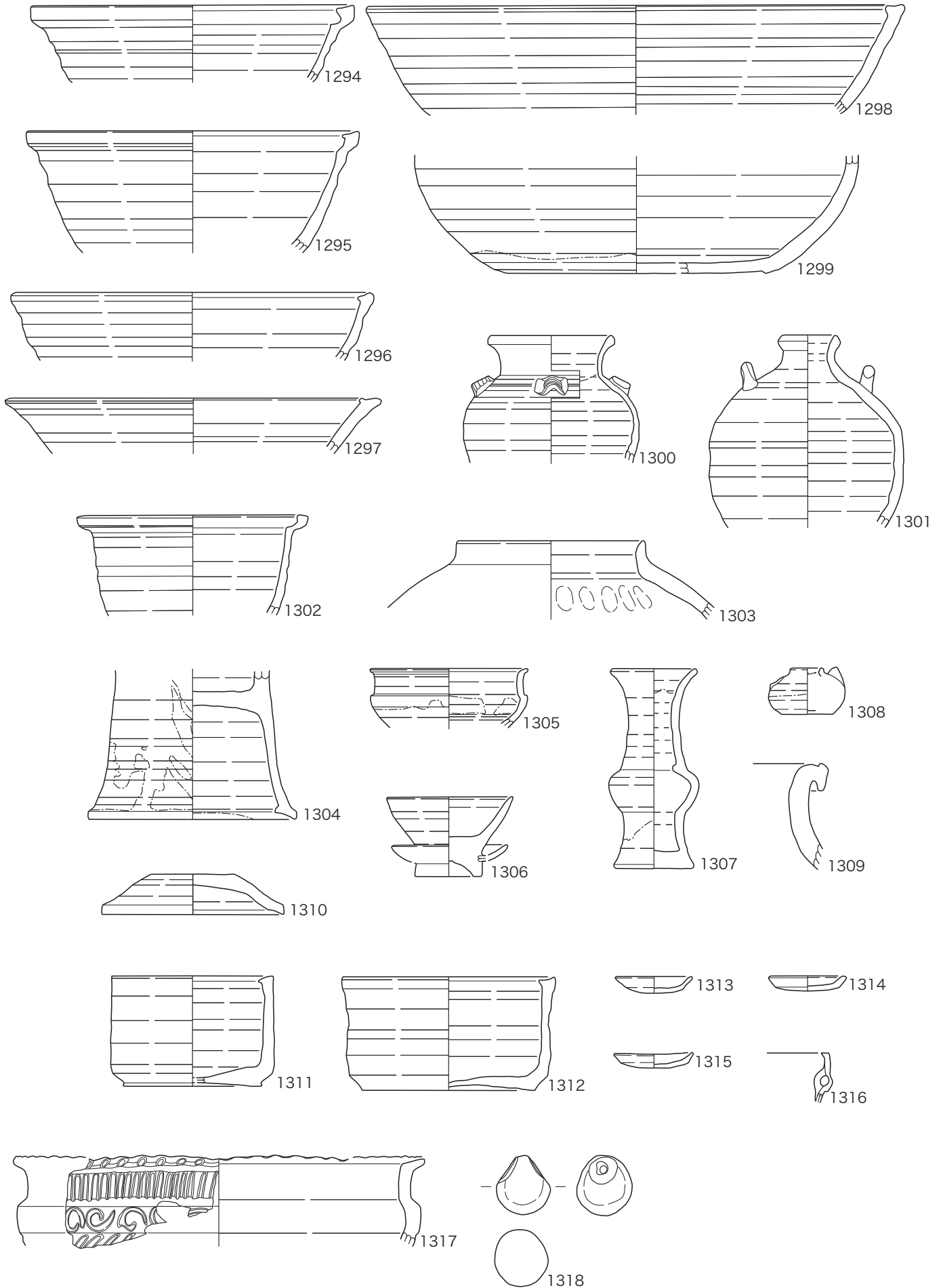
第189図 中世土器(10)



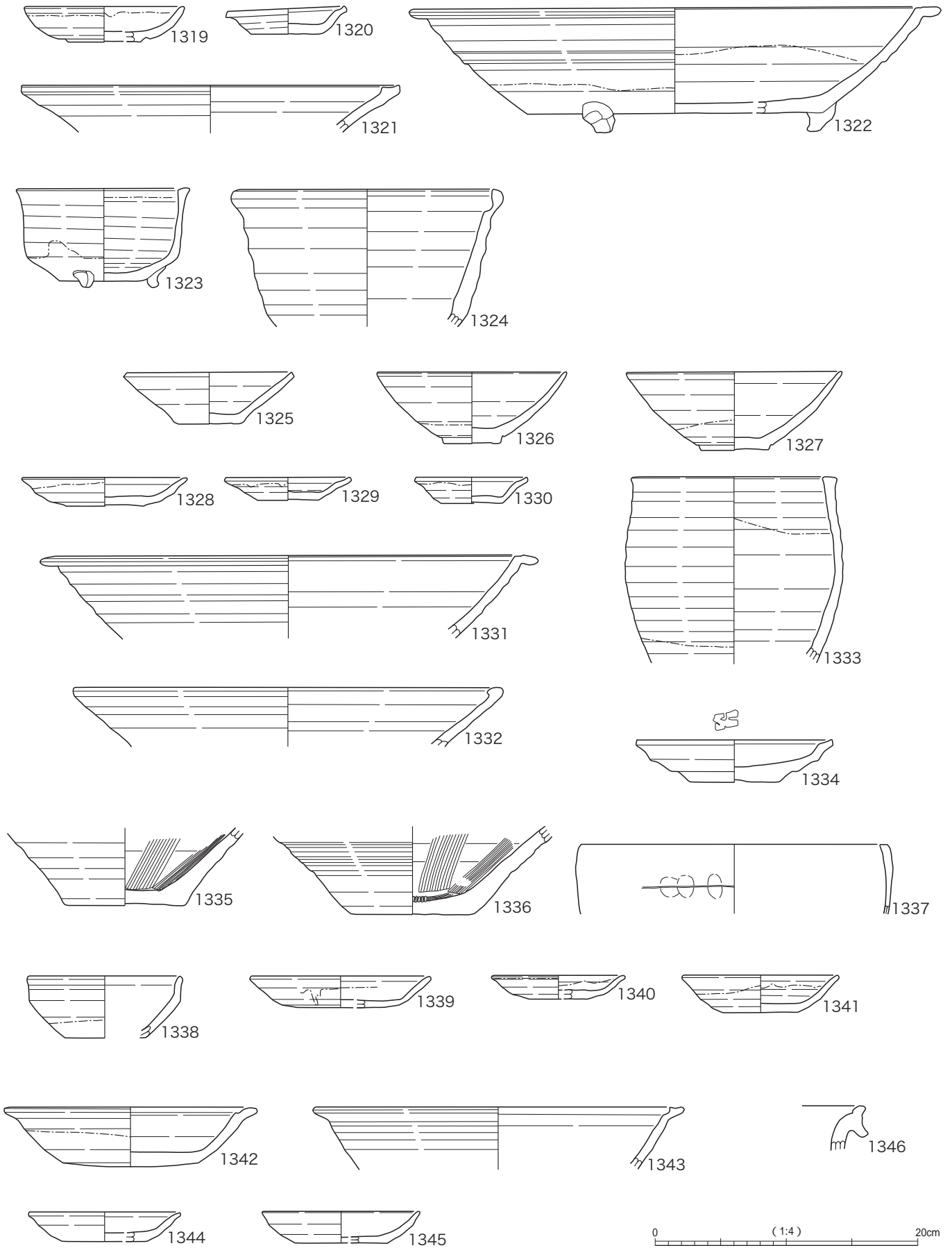


0 (1:4) 20cm

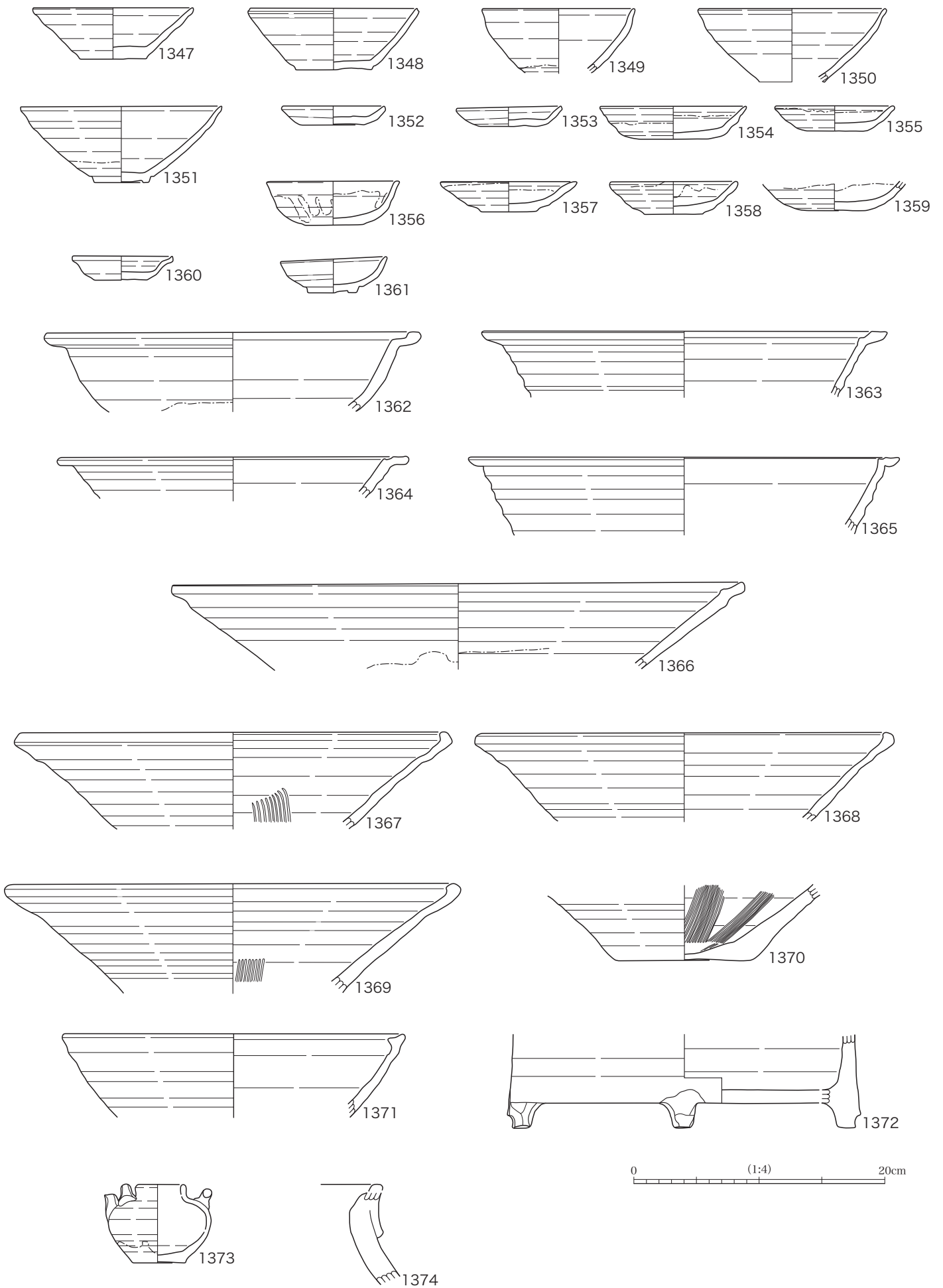
第191图 中世土器(12)



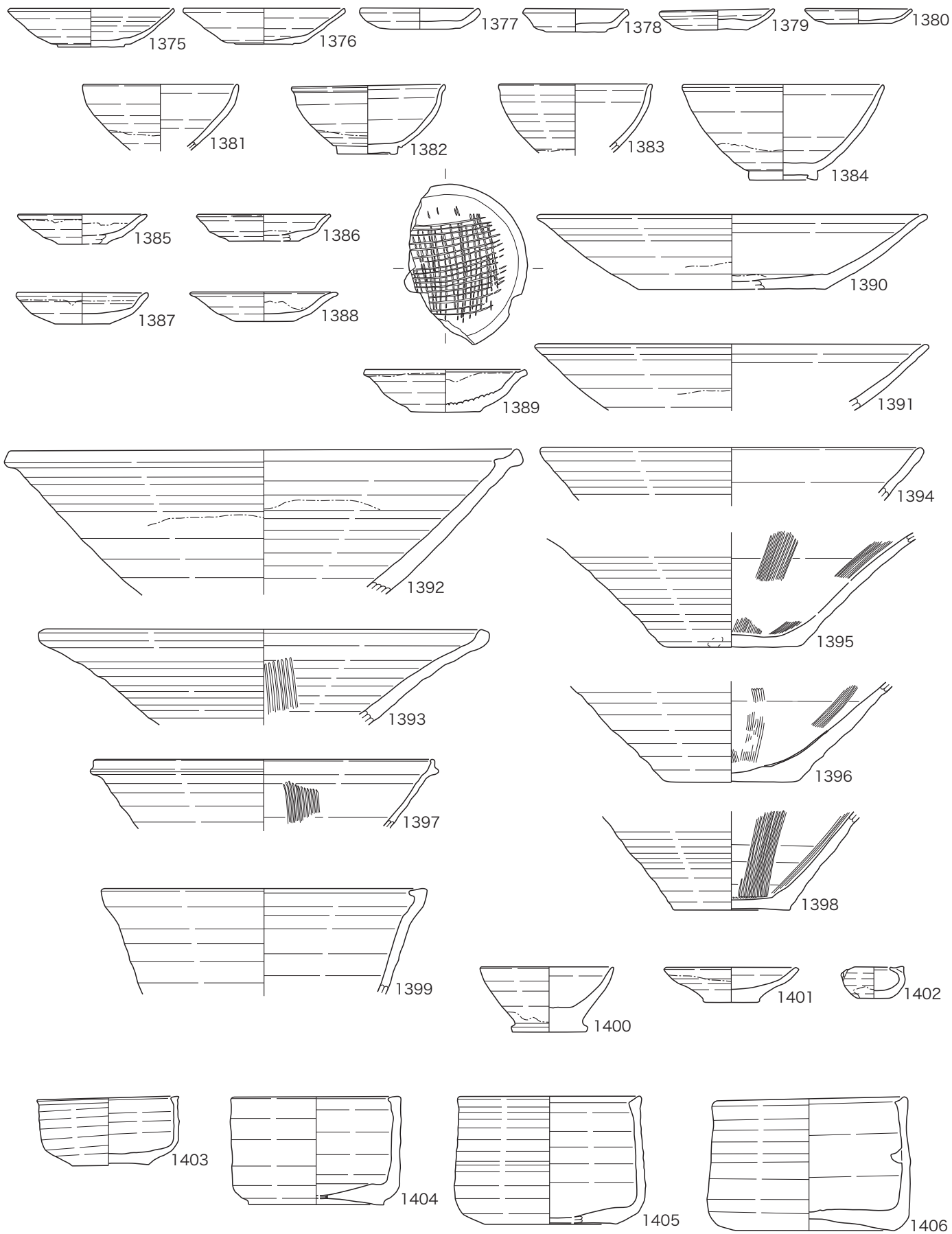
0 (1:4) 20cm



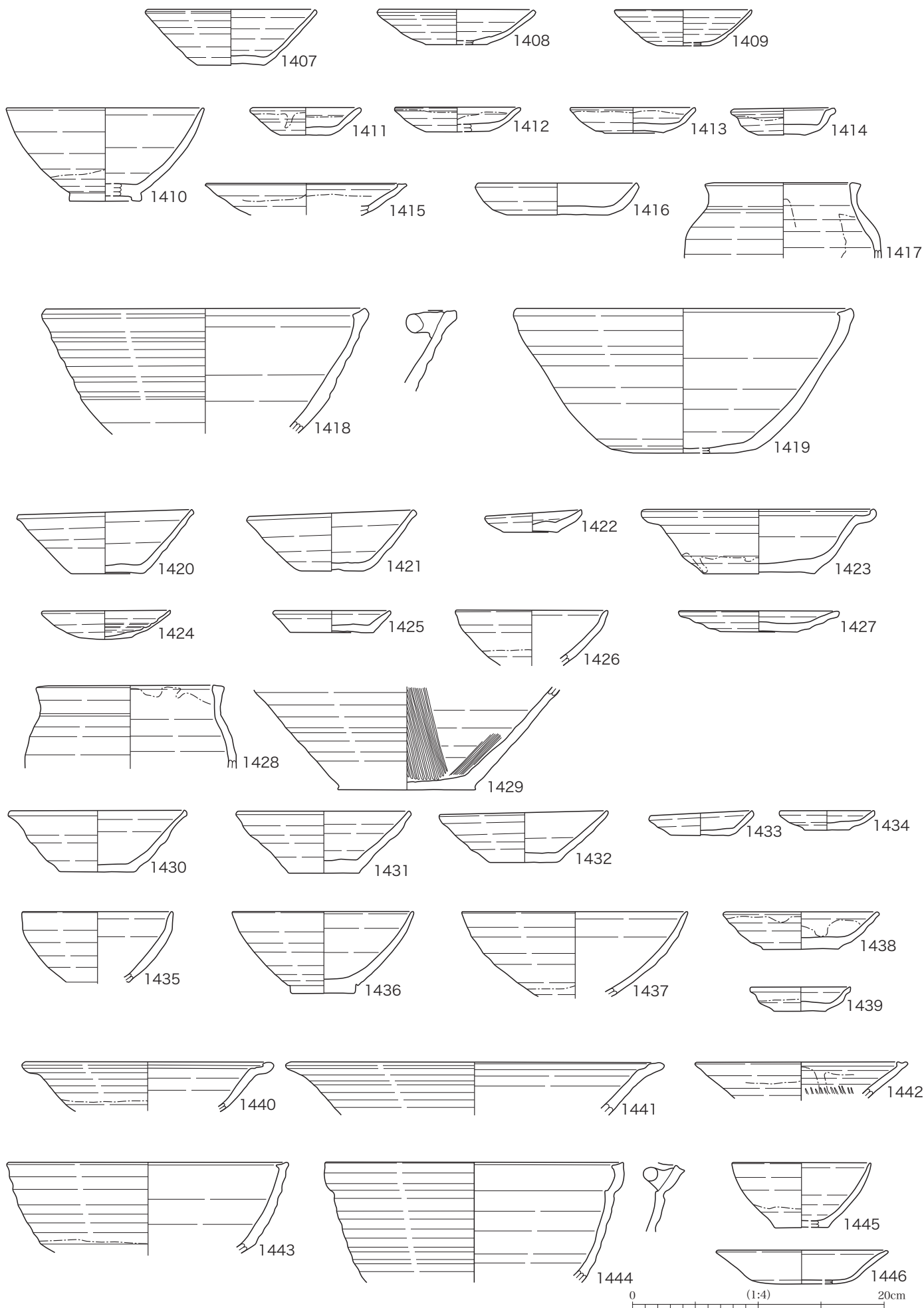
第193图 中世土器(14)

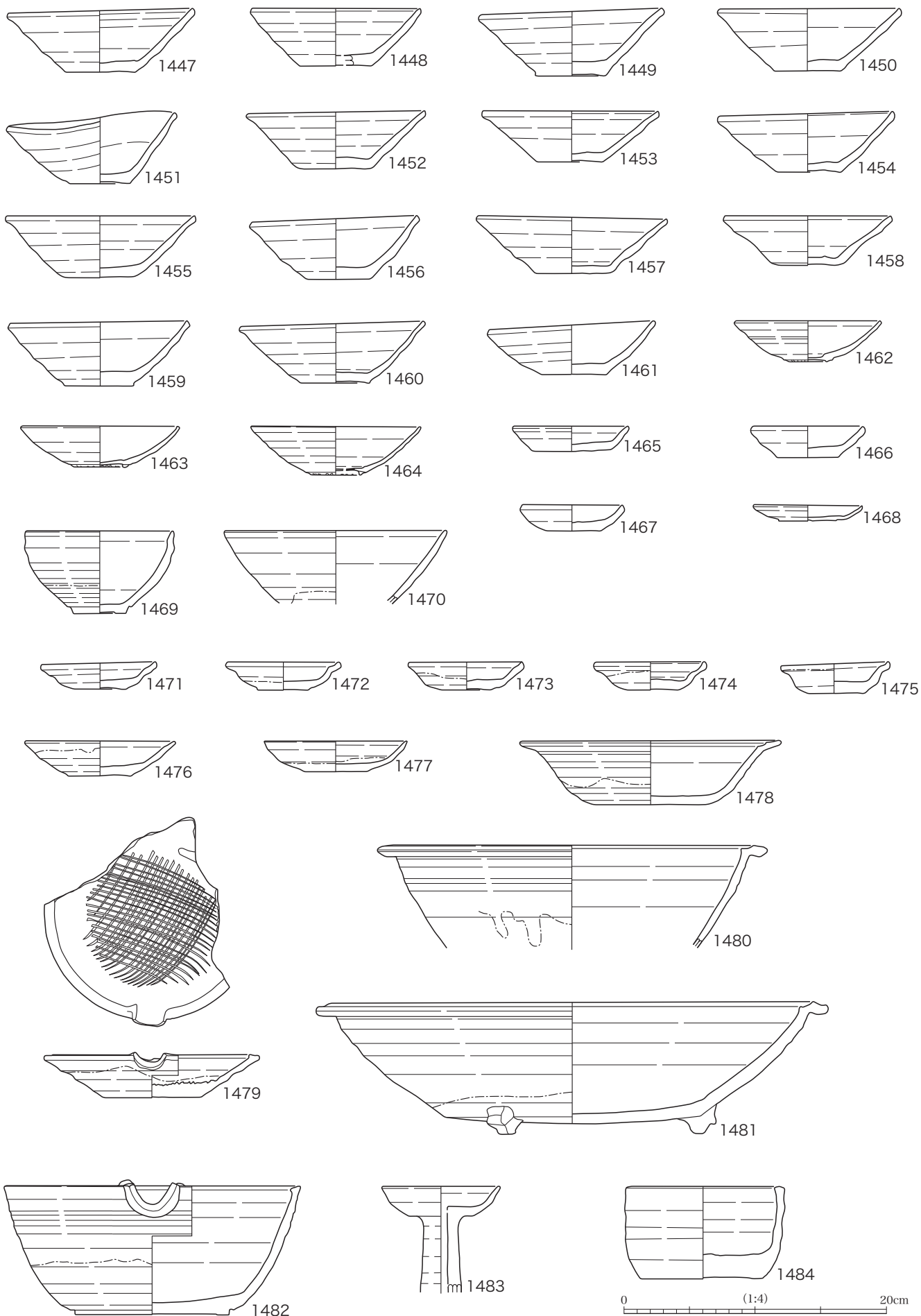


第194图 中世土器 (15)

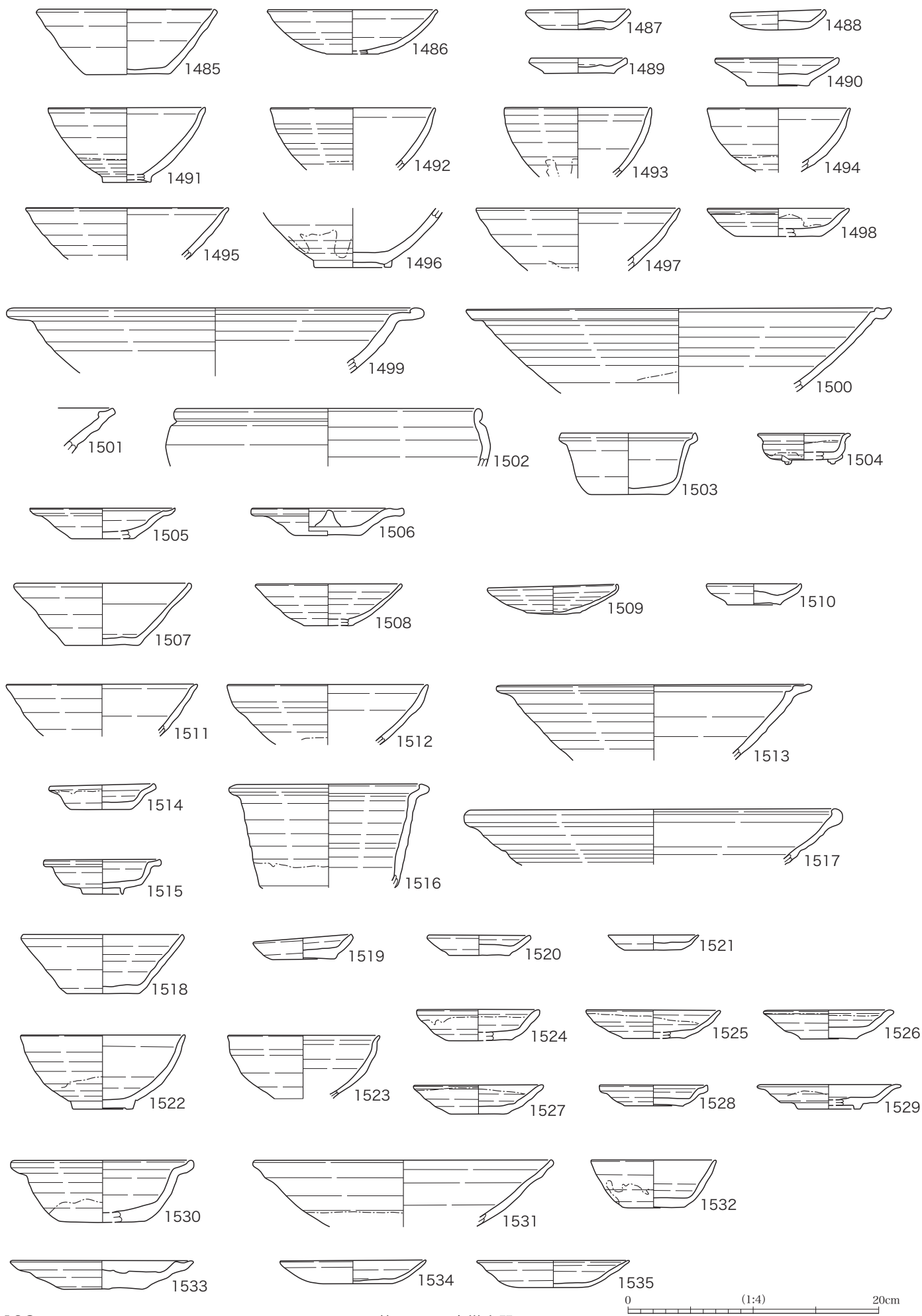


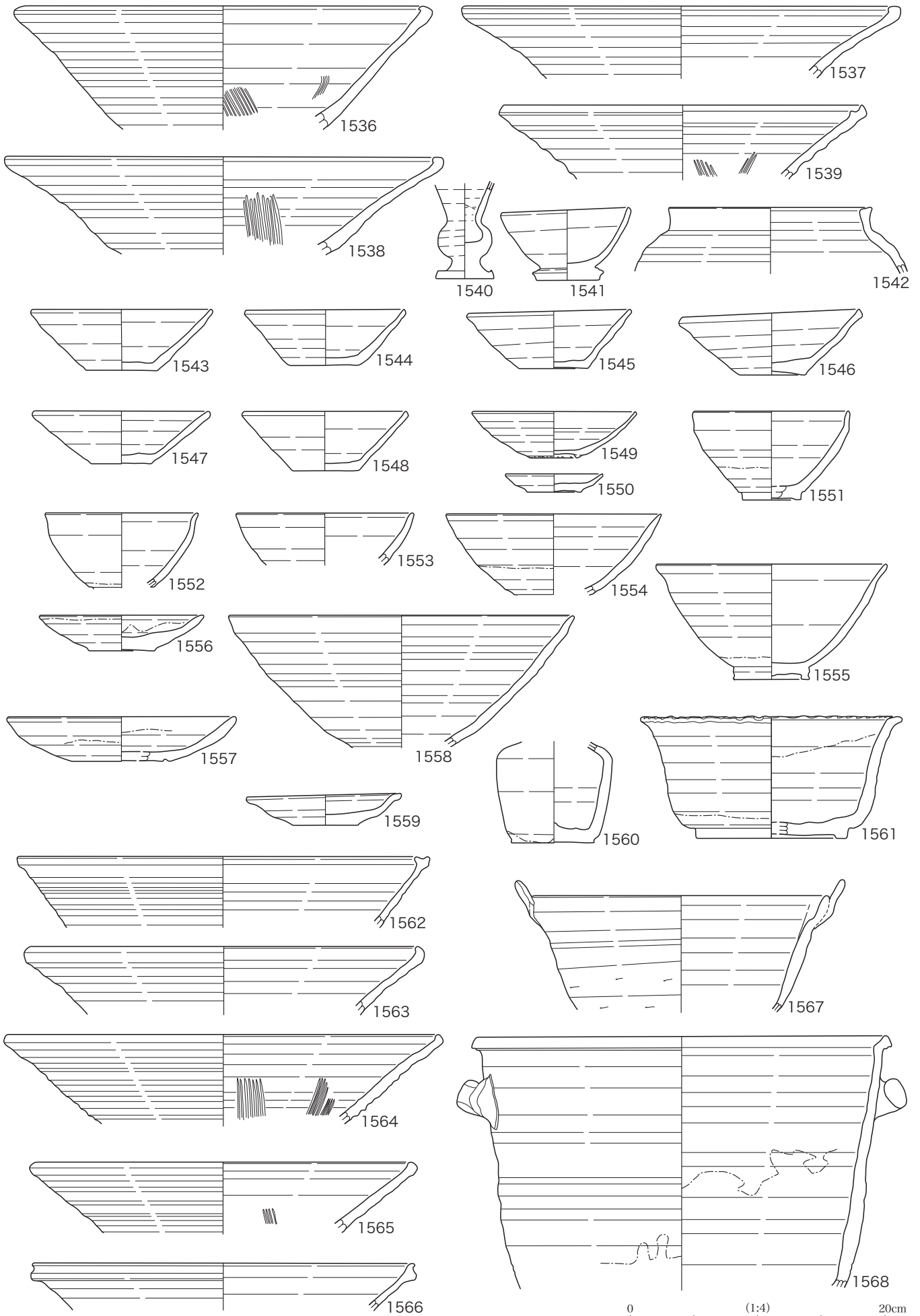
第195図 中世土器 (16)



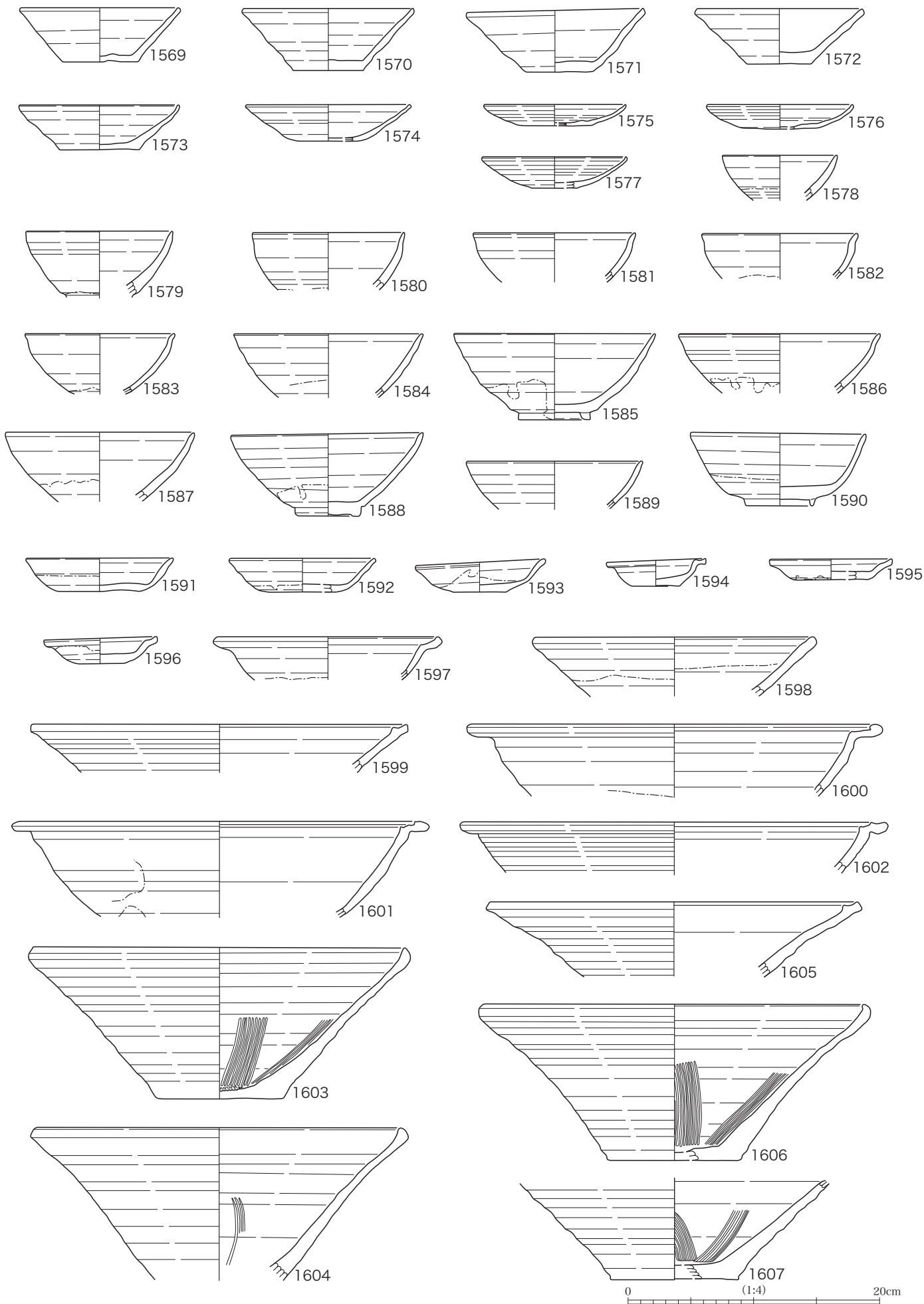


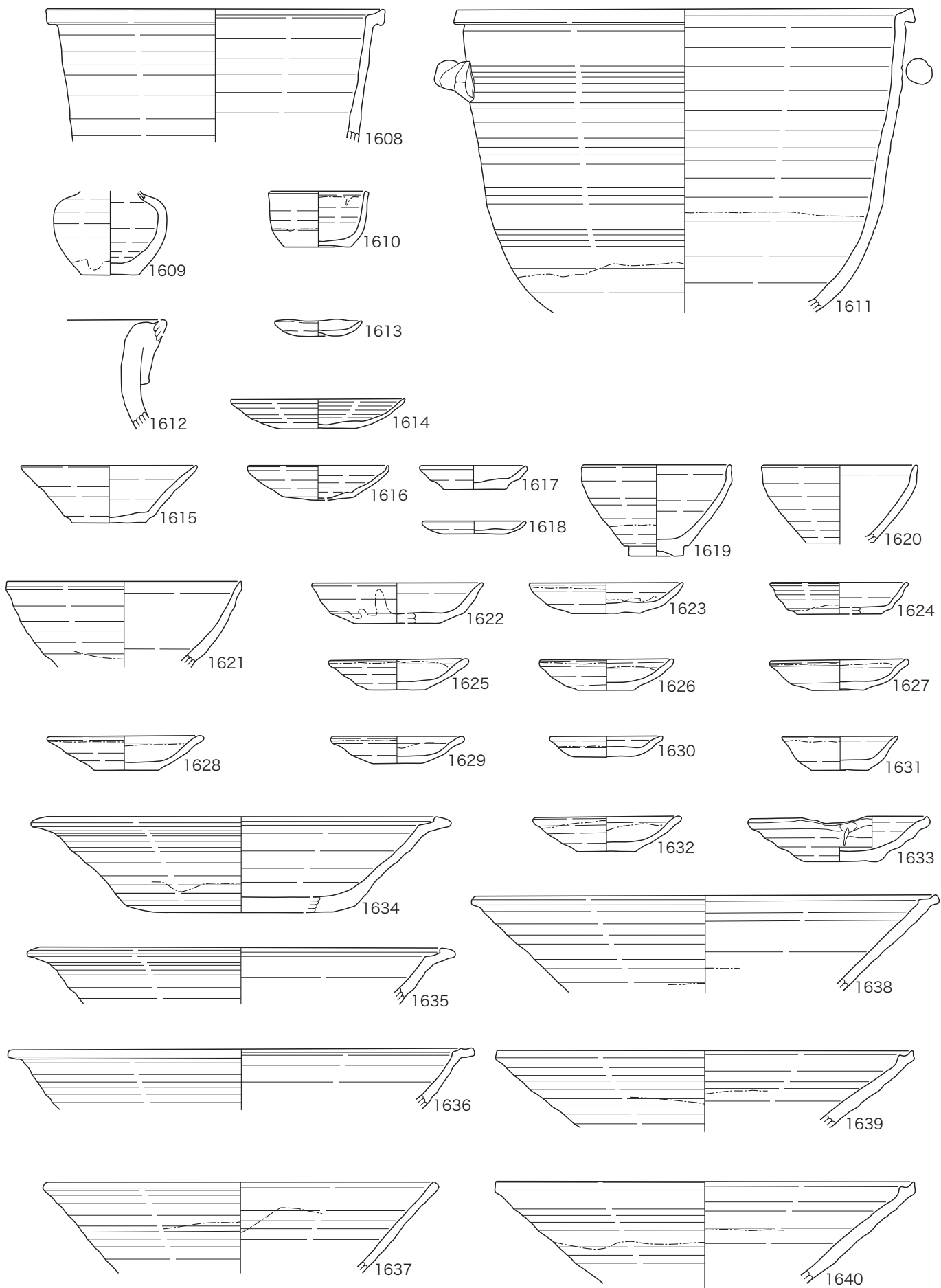
第197图 中世土器(18)





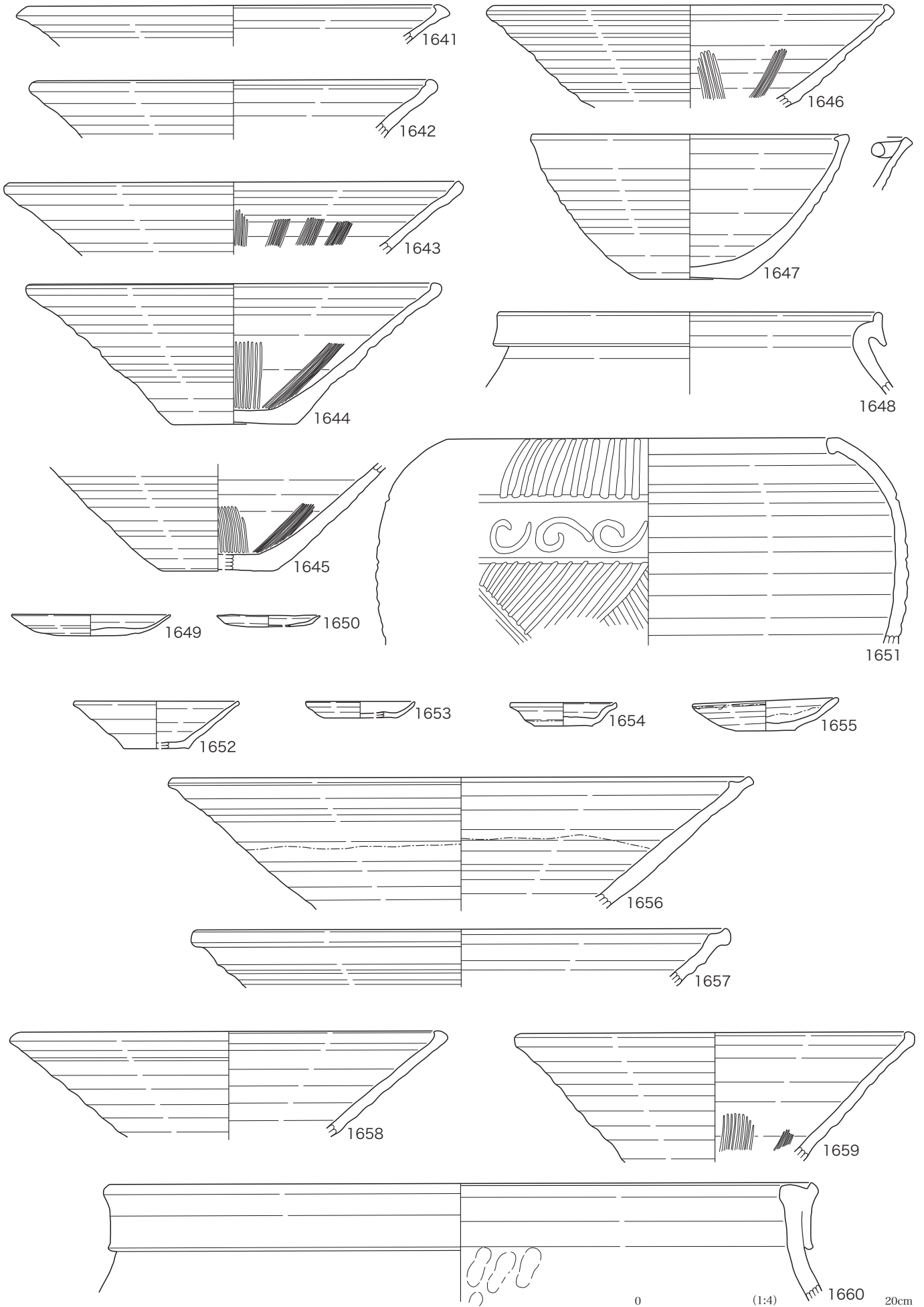
第199图 中世土器 (20)

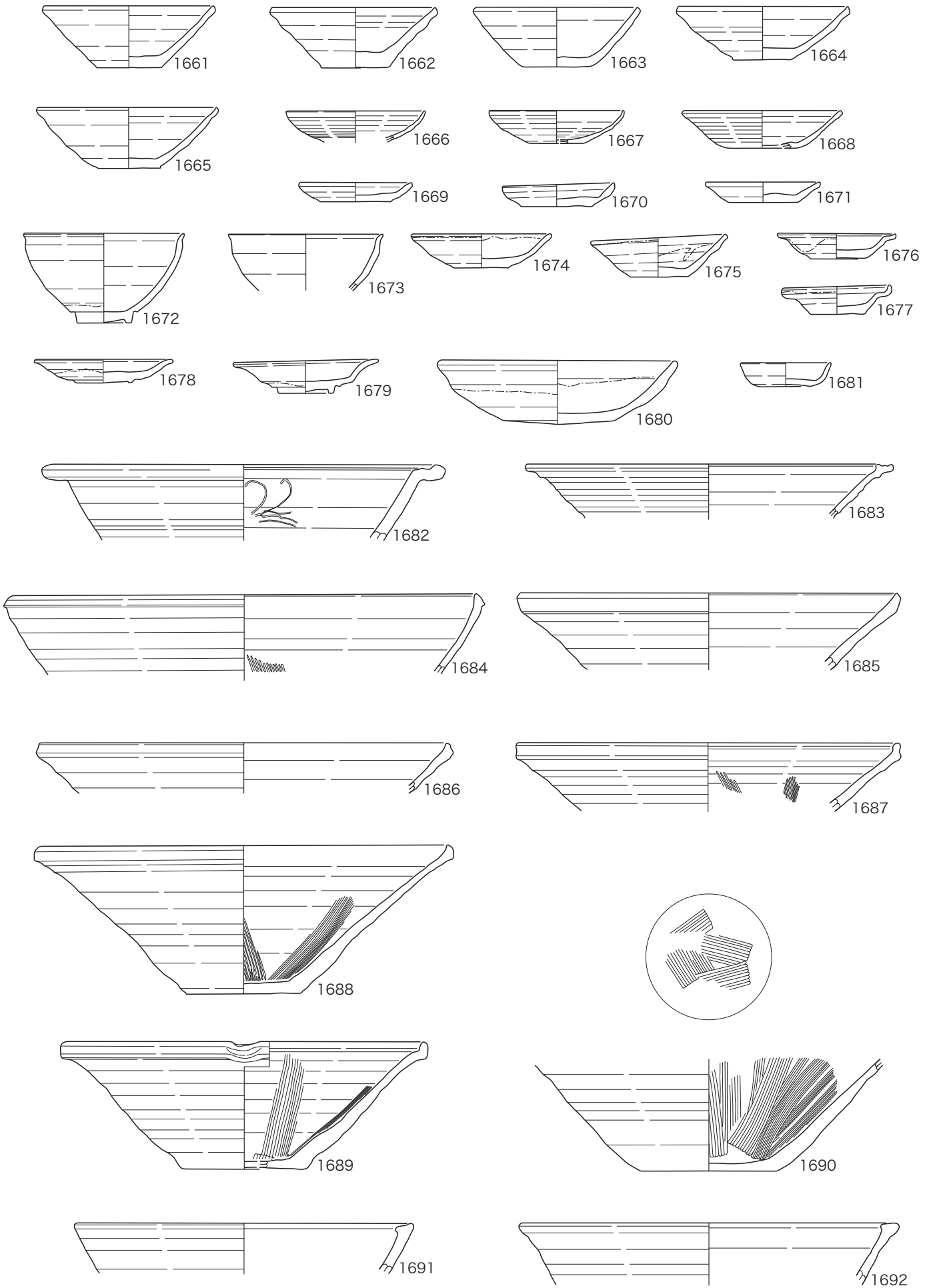




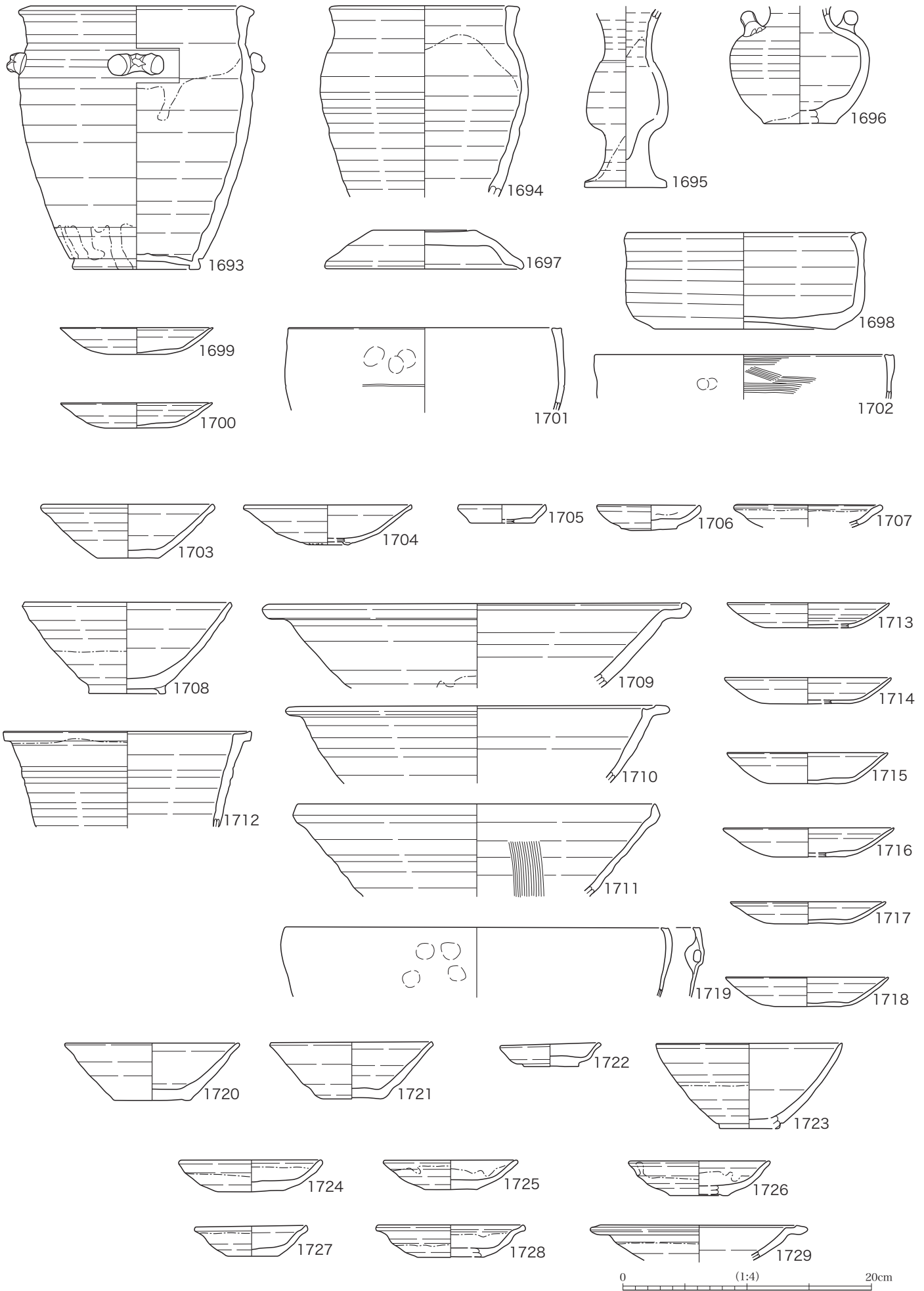
第 201 図 中世土器 (22)

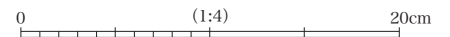
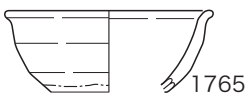
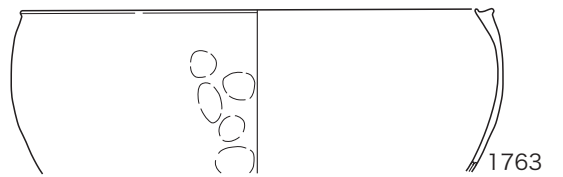
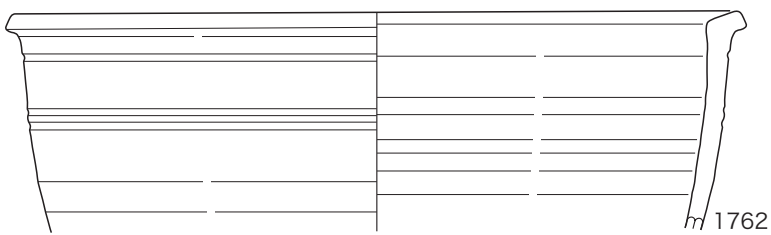
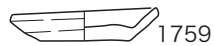
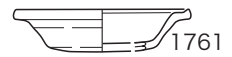
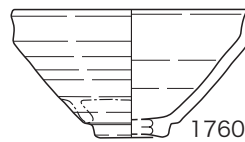
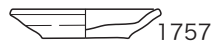
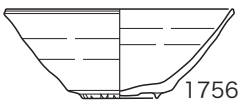
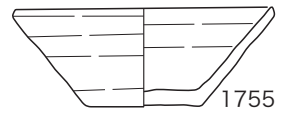
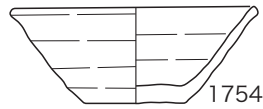
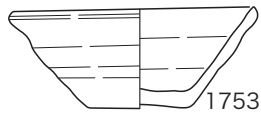
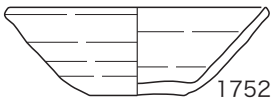
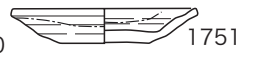
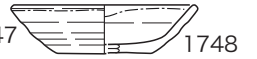
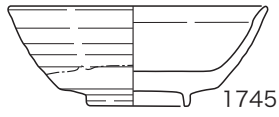
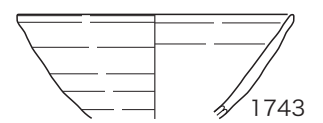
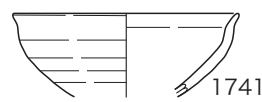
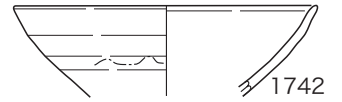
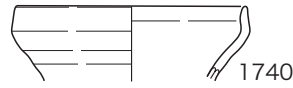
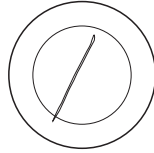
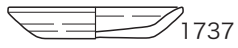
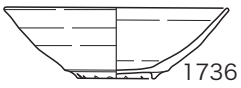
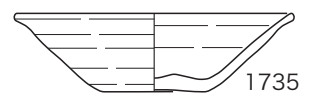
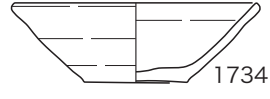
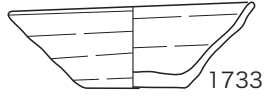
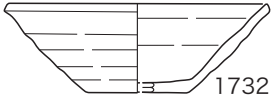
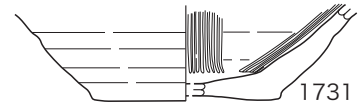
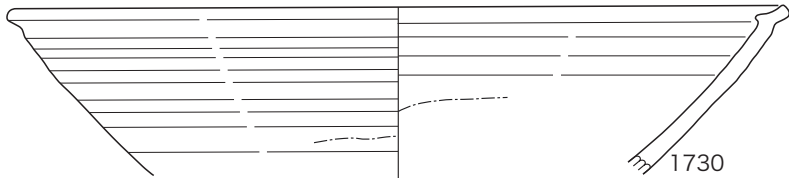
0 (1:4) 20cm



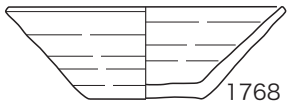


第 203 图 中世土器 (24)

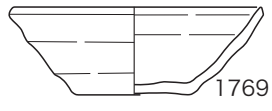




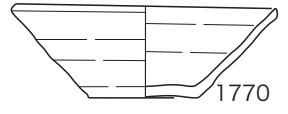
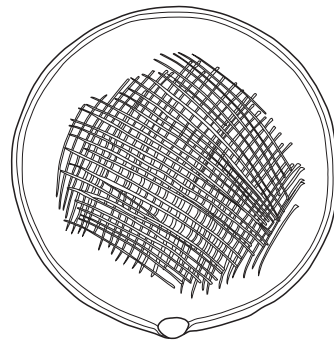
第 205 图 中世土器 (26)



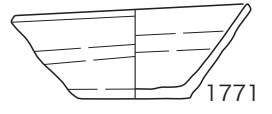
1768



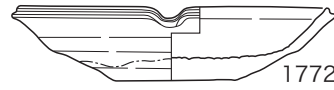
1769



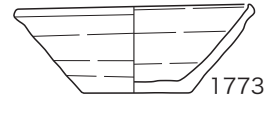
1770



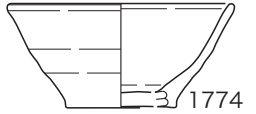
1771



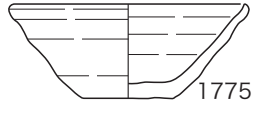
1772



1773



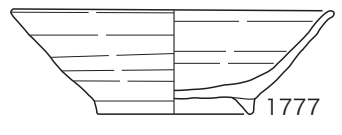
1774



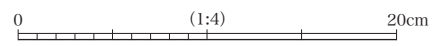
1775



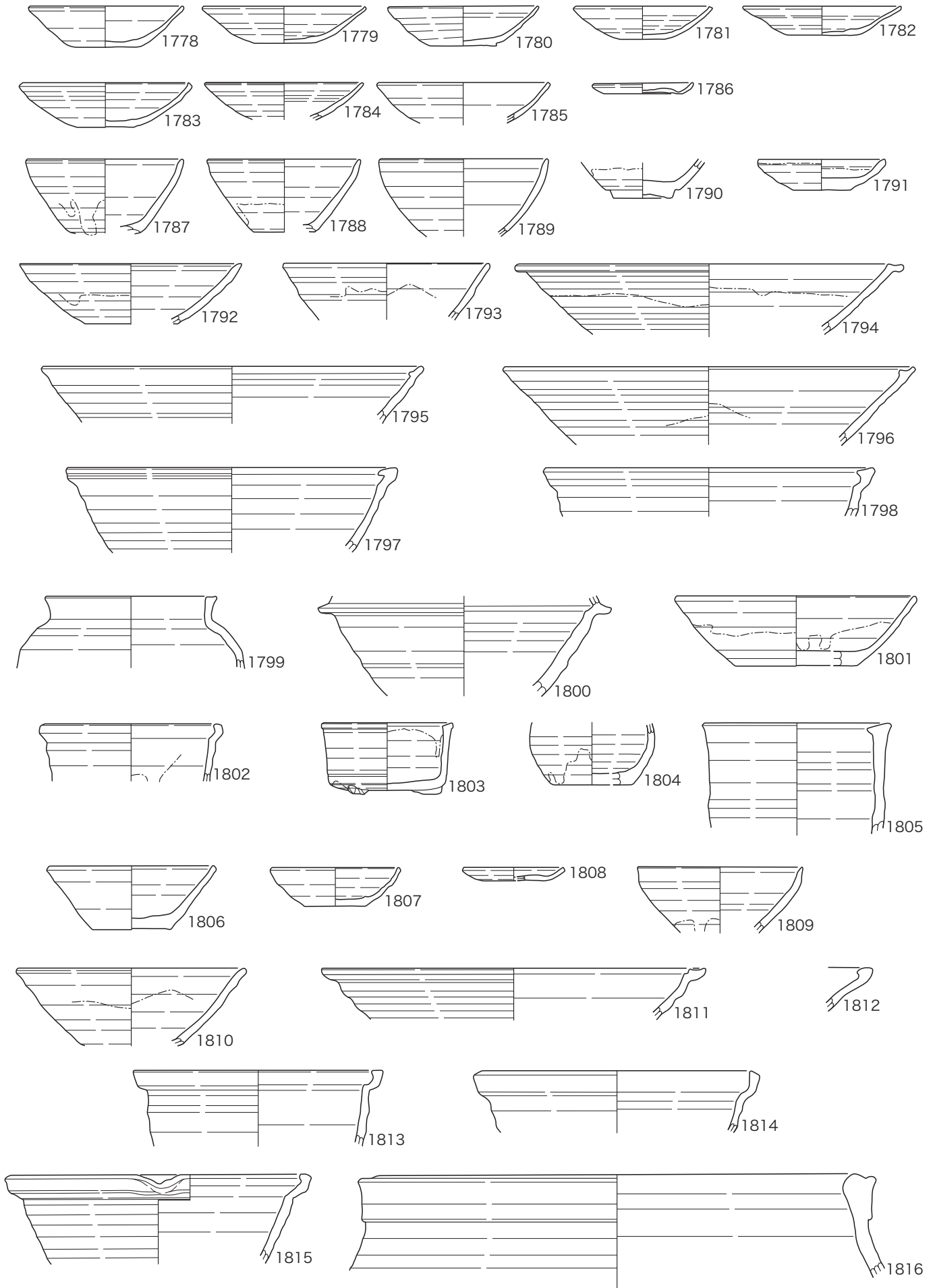
1776



1777

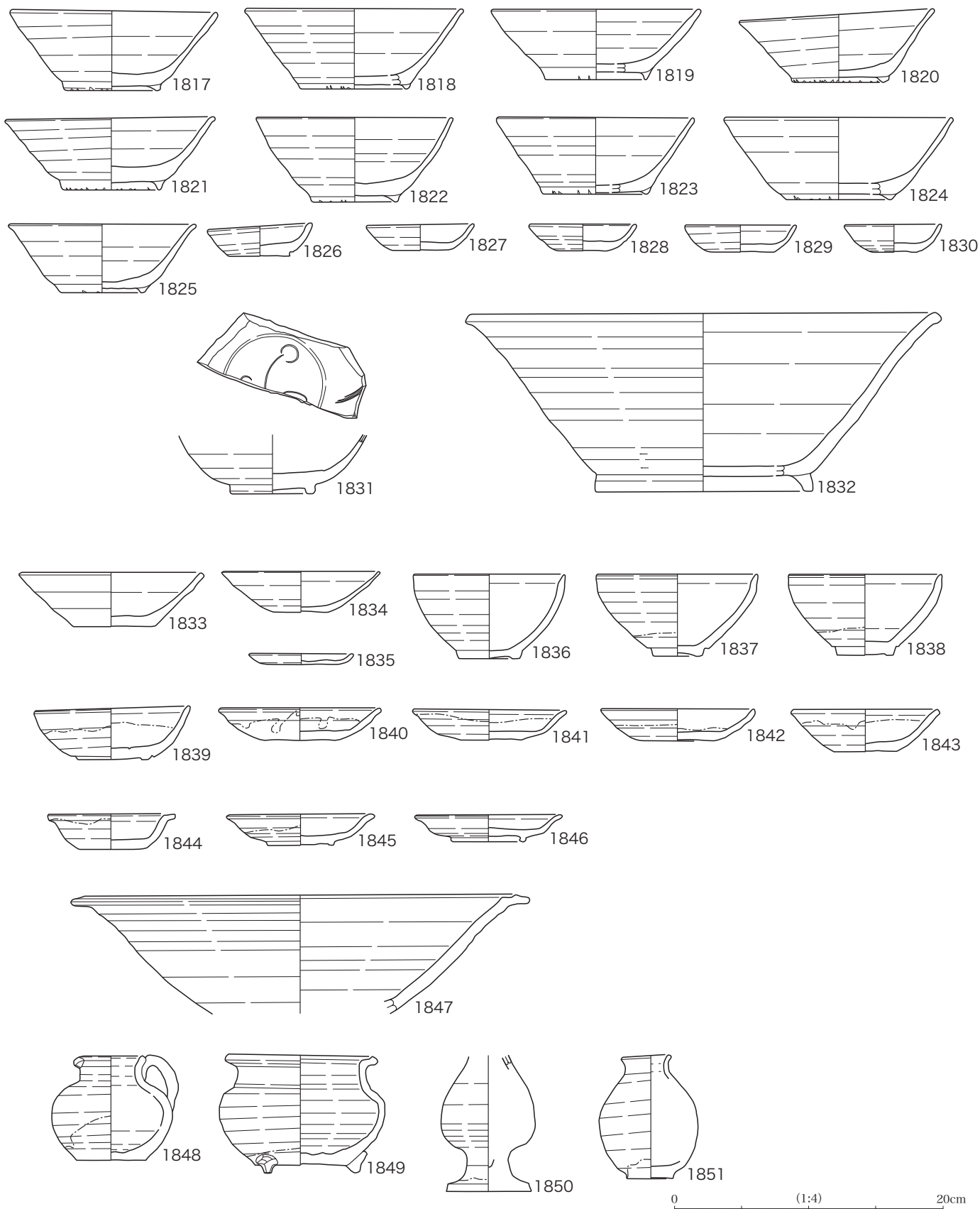


第 206 図 中世土器 (27)

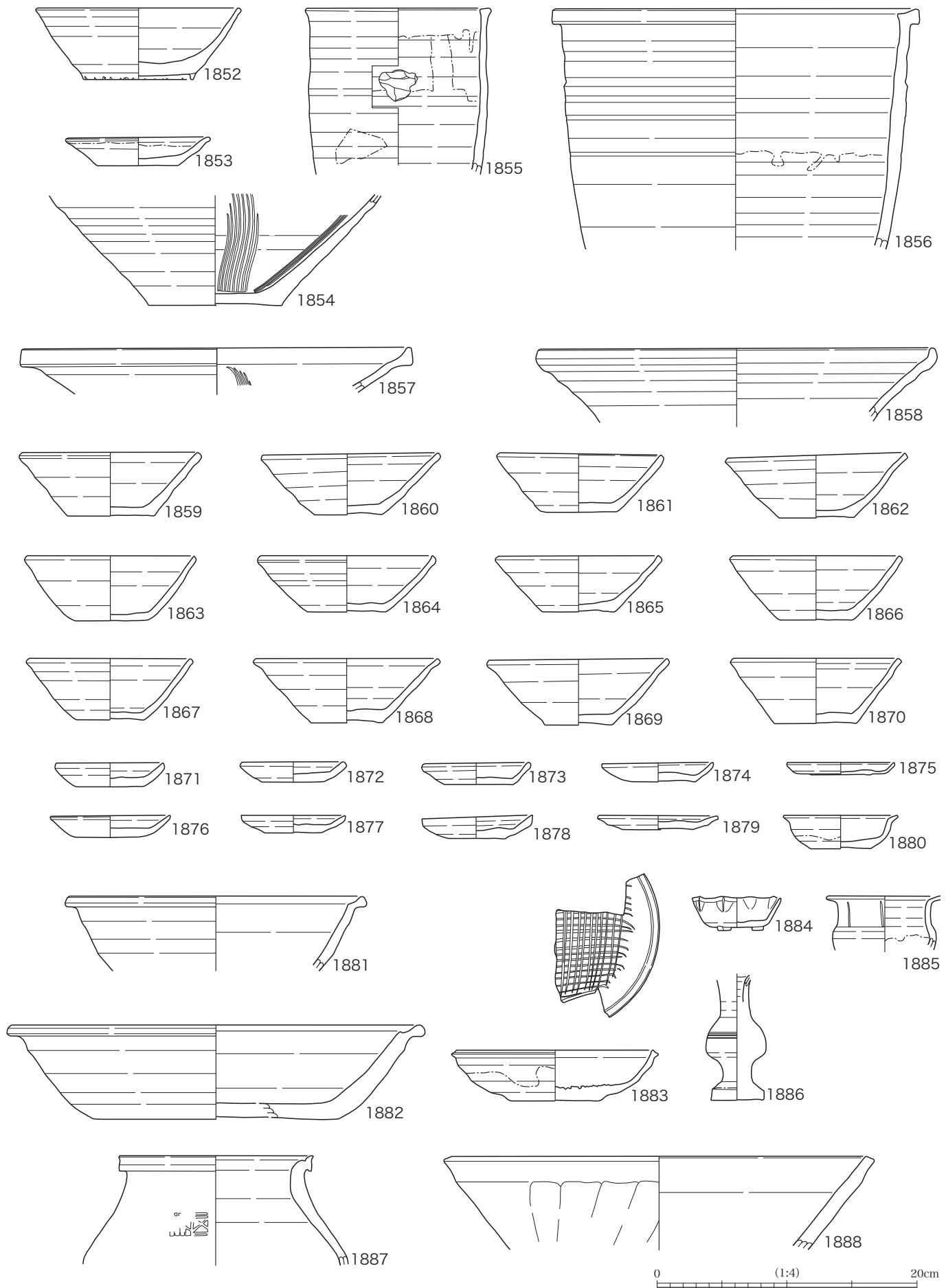


0 (1:4) 20cm

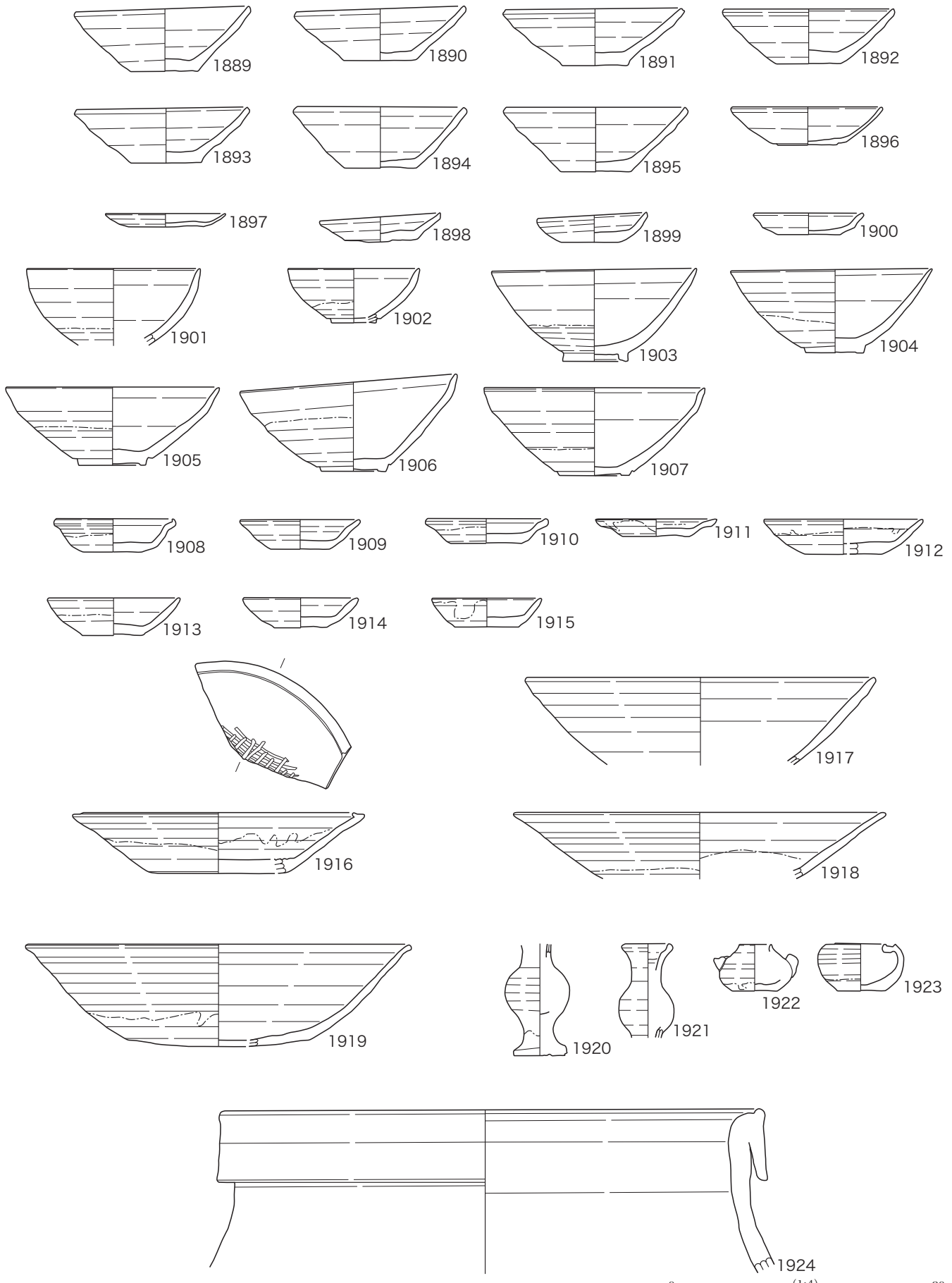
第 207 图 中世土器 (28)



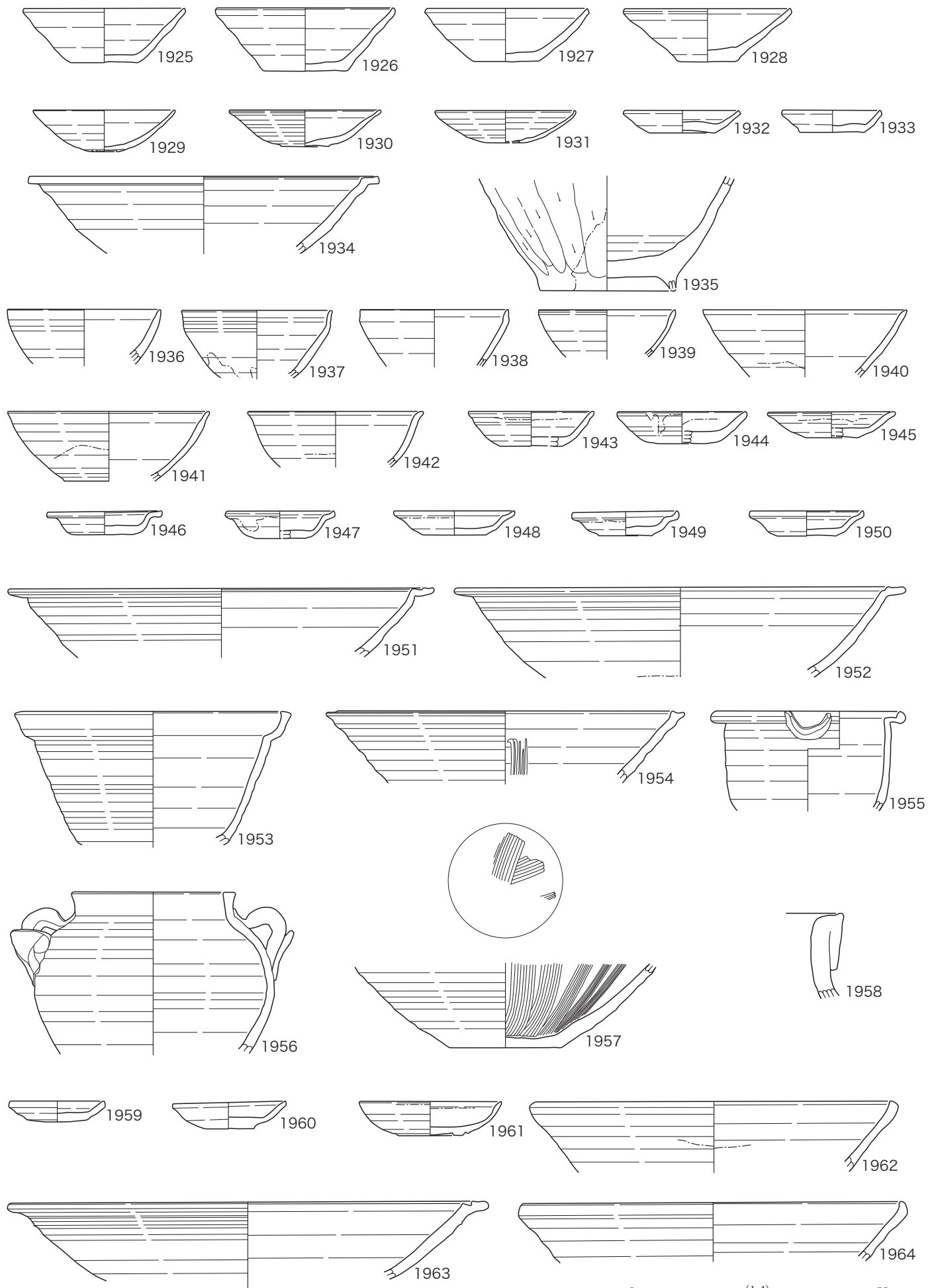
第 208 图 中世土器 (29)



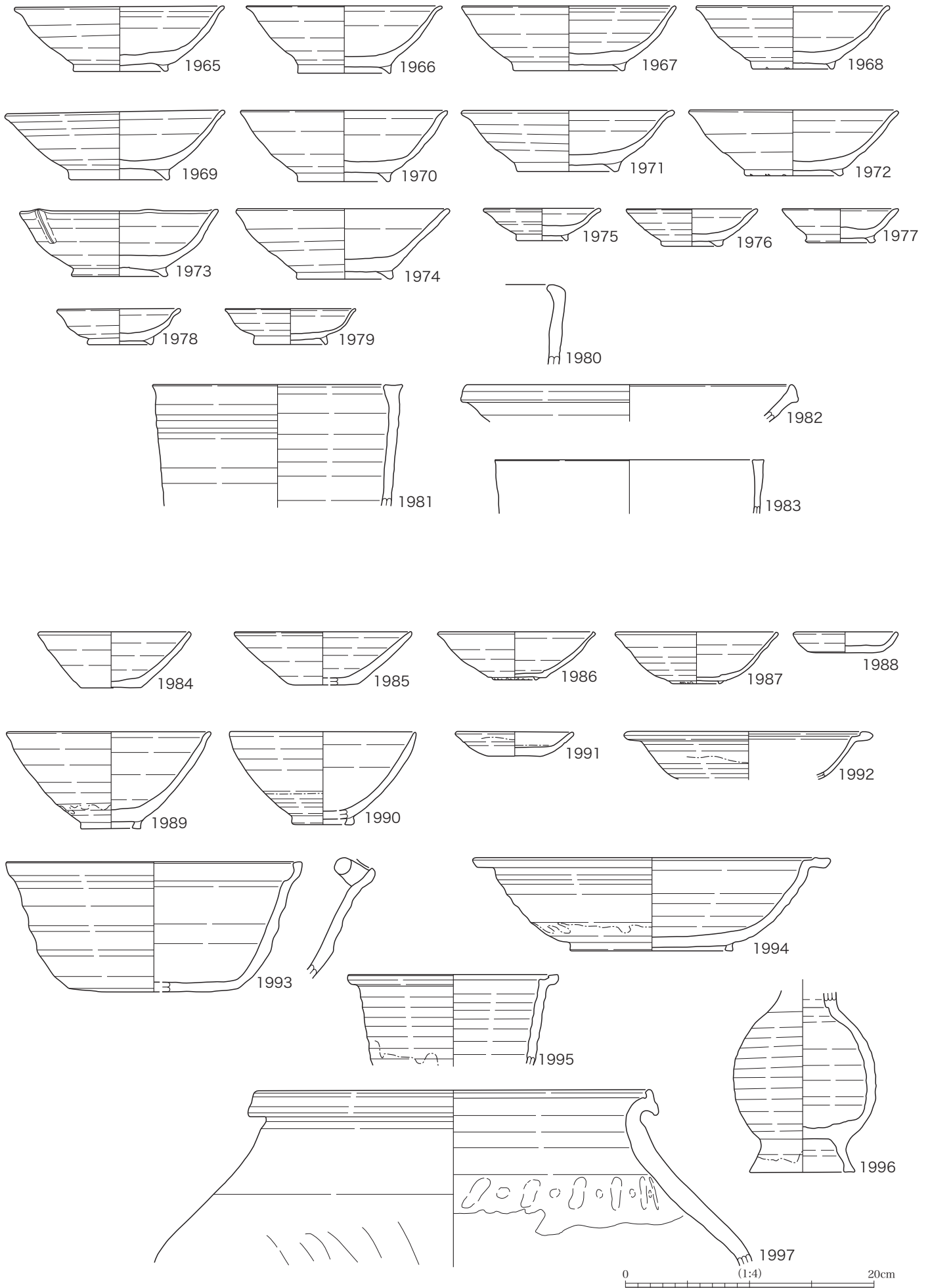
第 209 図 中世土器 (30)

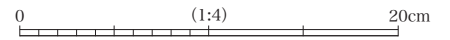
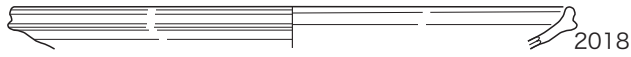
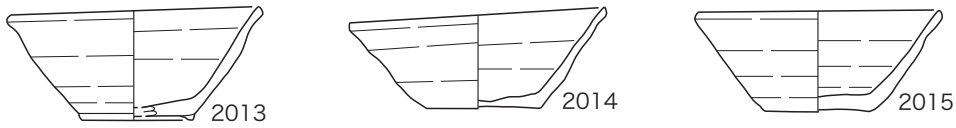
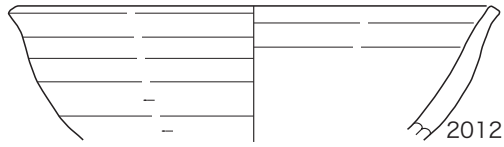
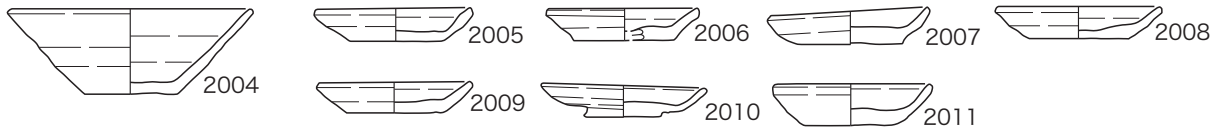
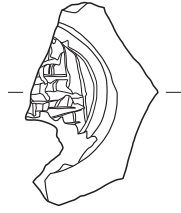
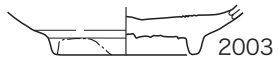
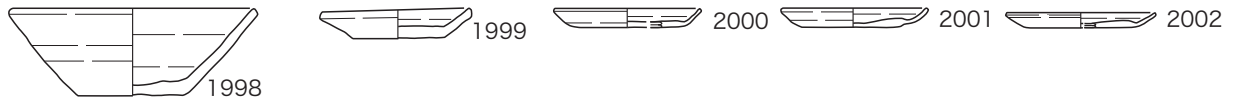


第 210 図 中世土器 (31)

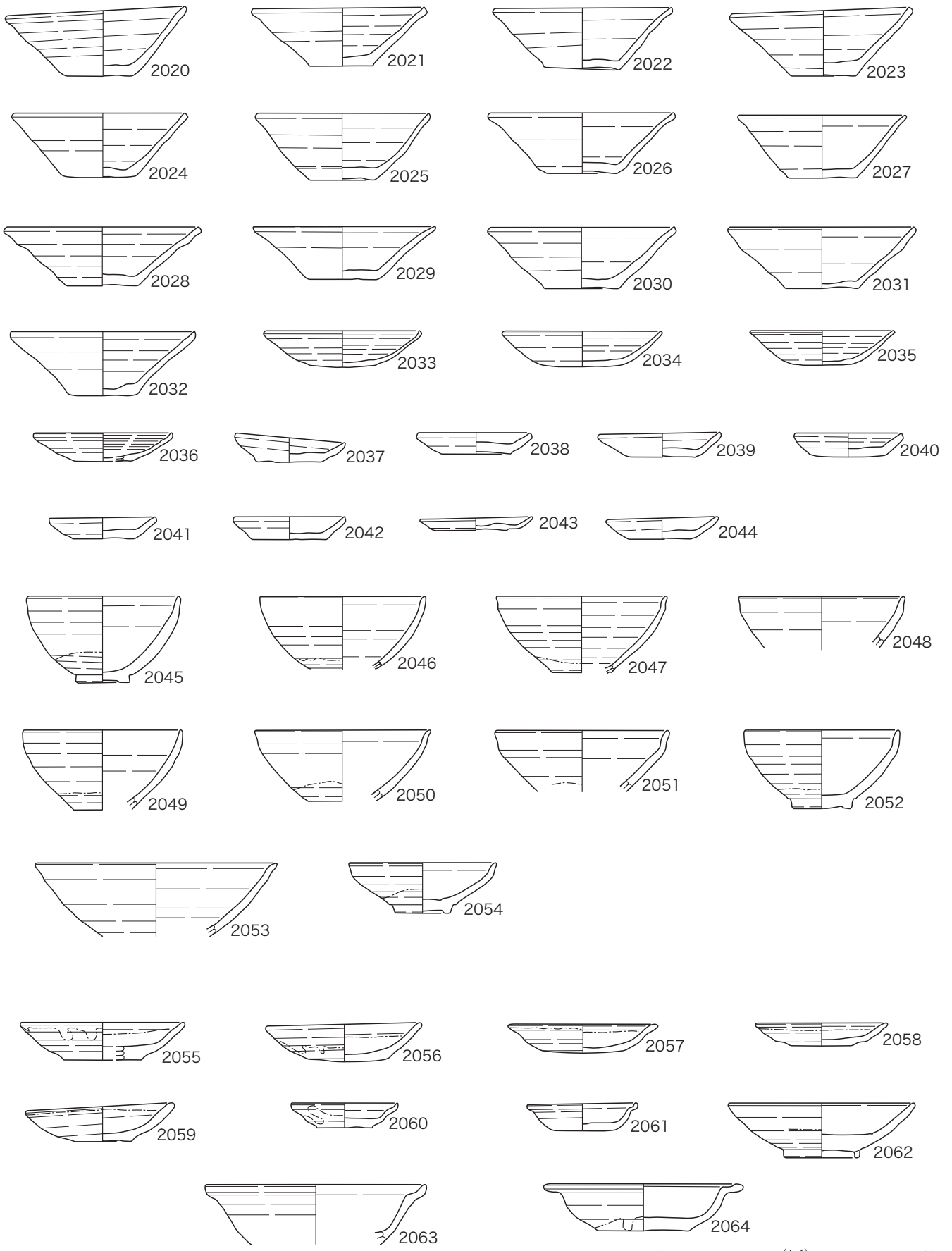


第 211 図 中世土器 (32)

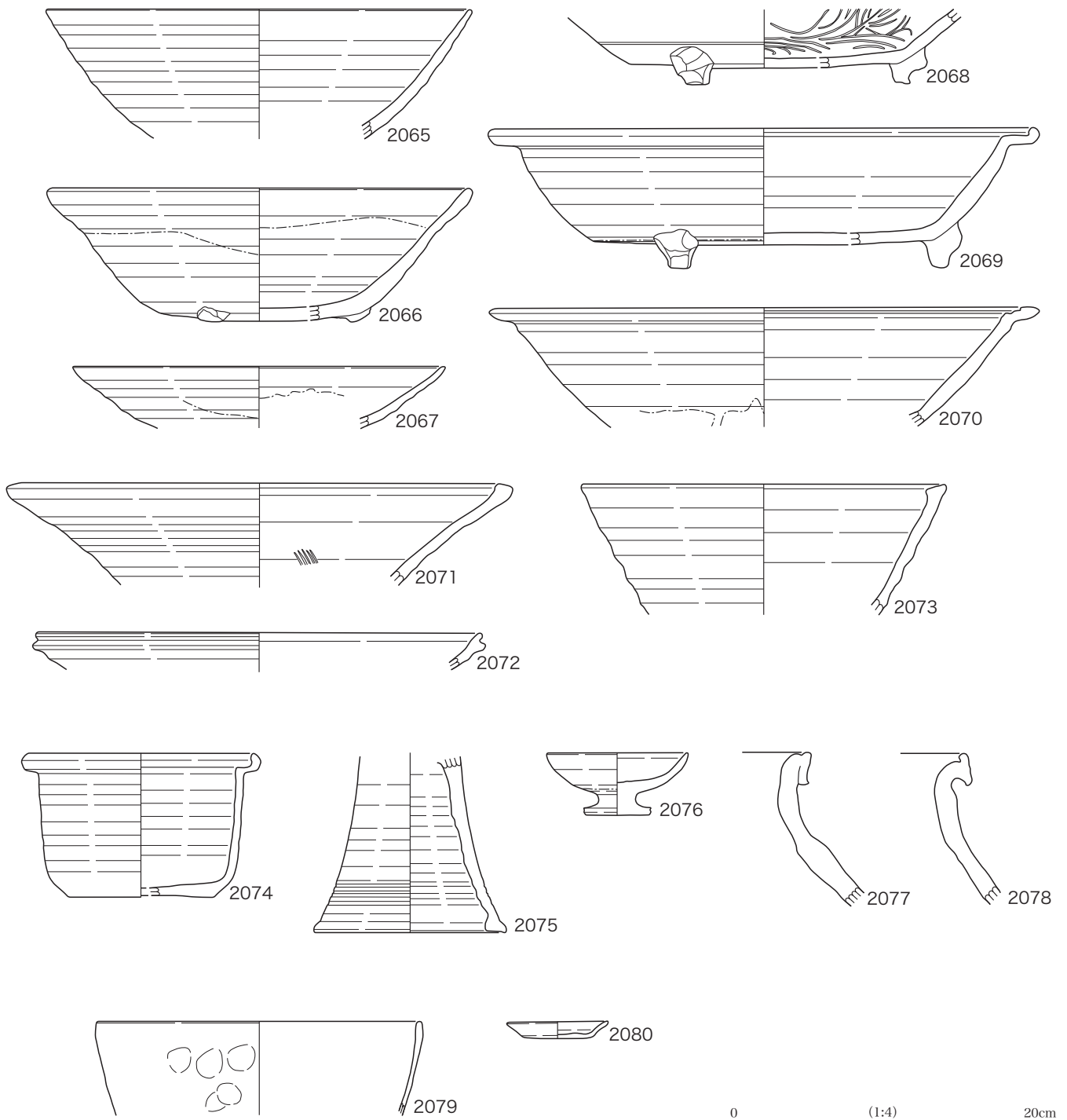




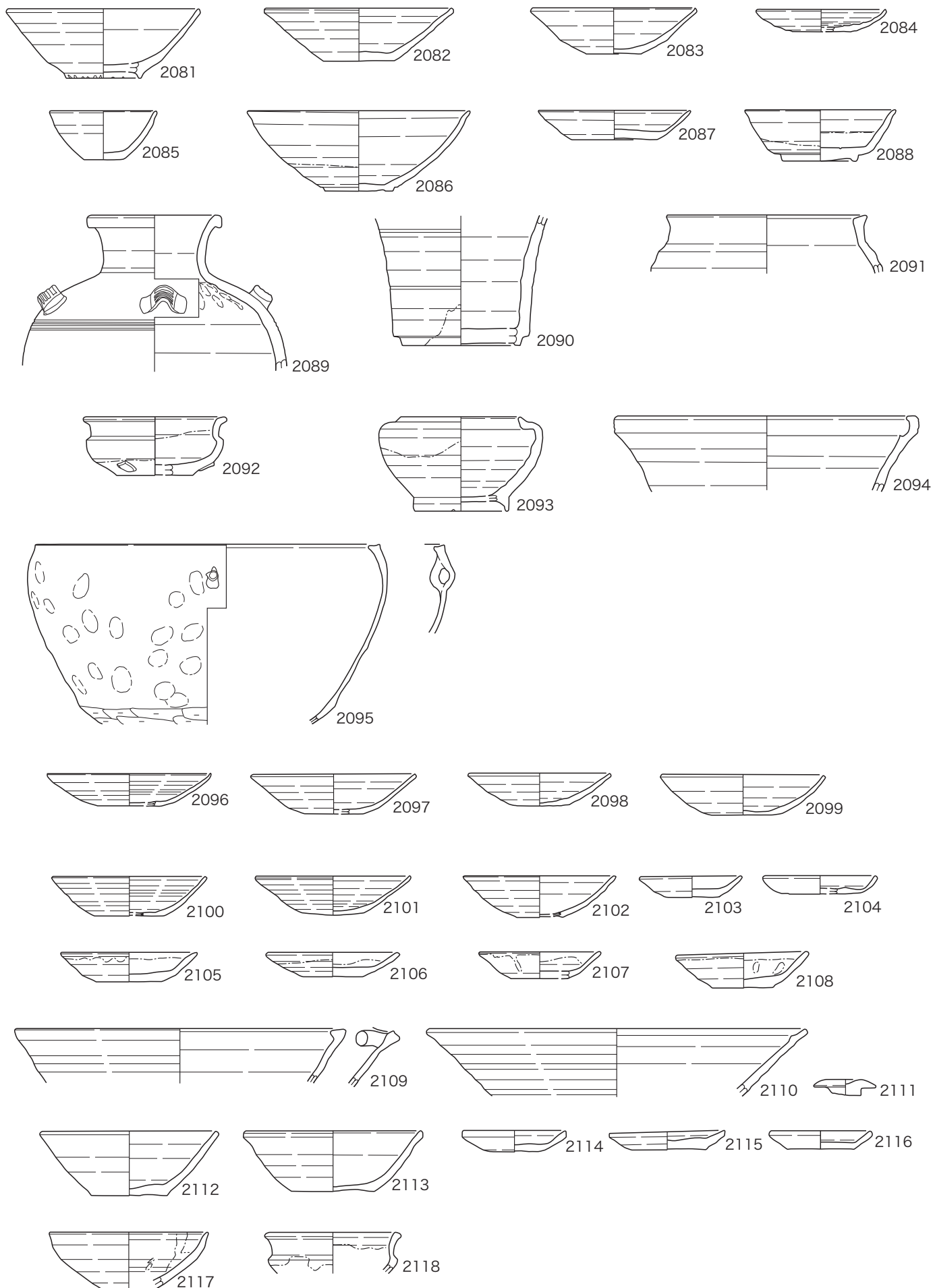
第 213 図 中世土器 (34)



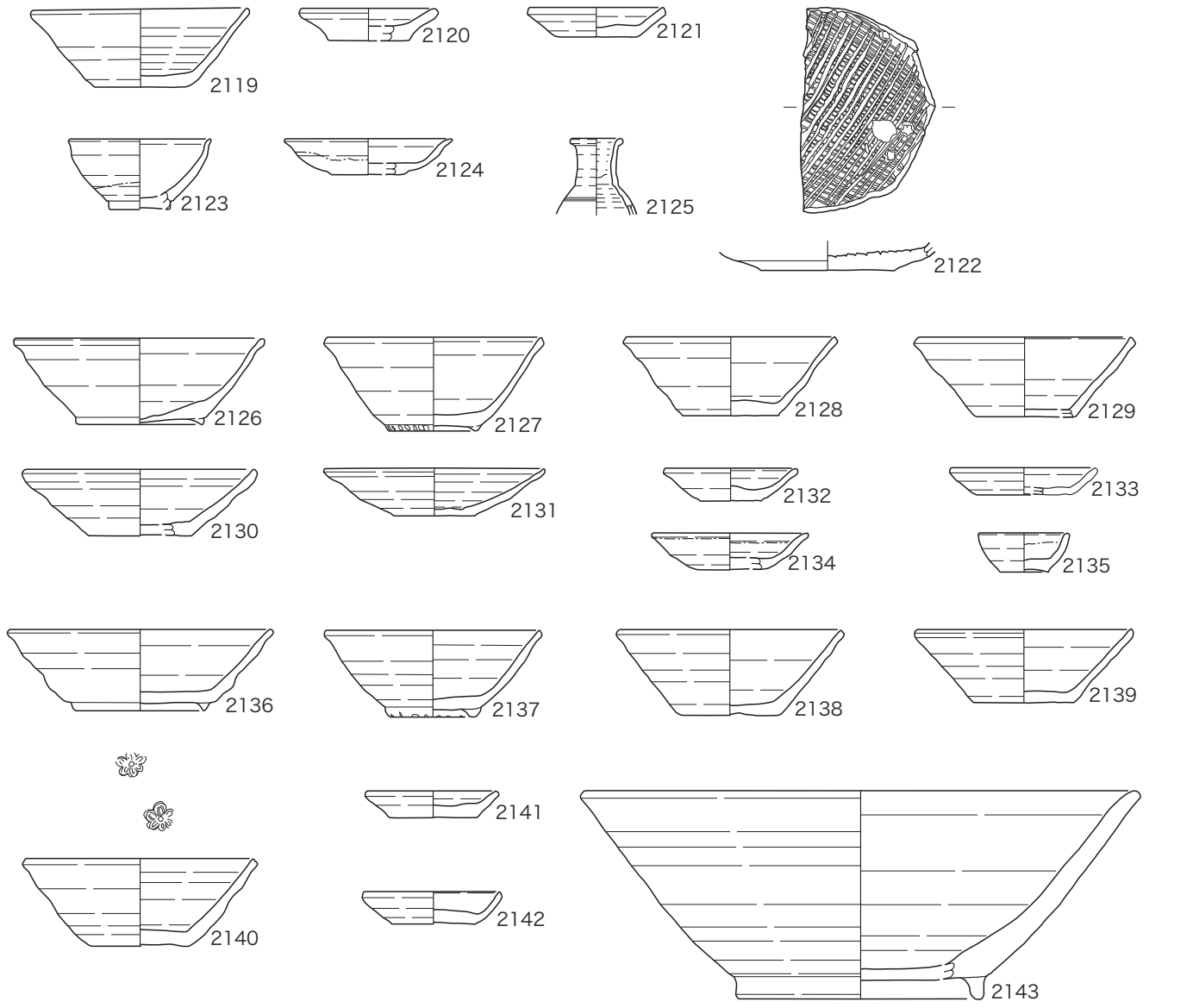
第 214 图 中世土器 (35)



第 215 图 中世土器 (36)

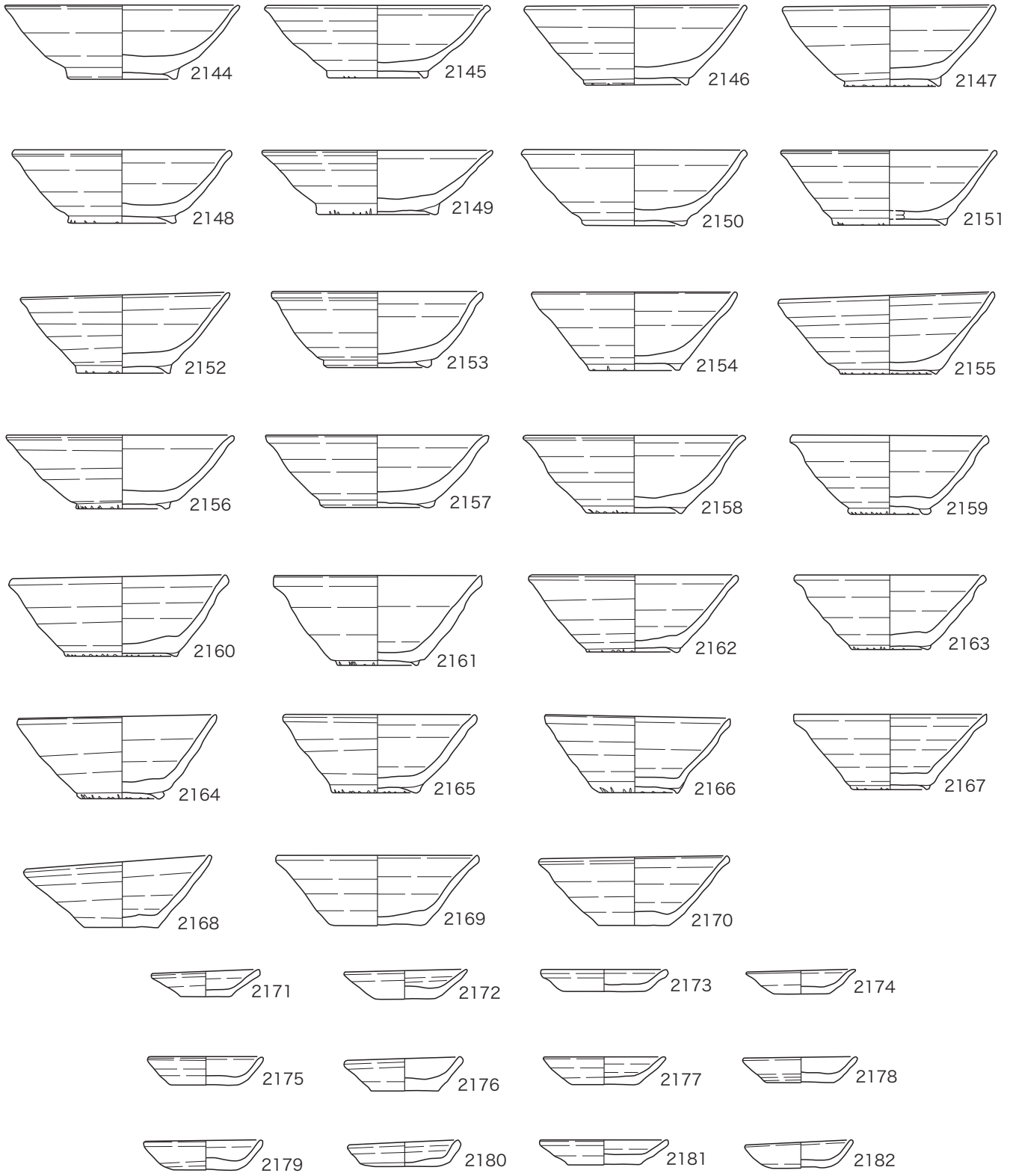


0 (1:4) 20cm



第217图 中世土器 (38)

0 (1:4) 20cm



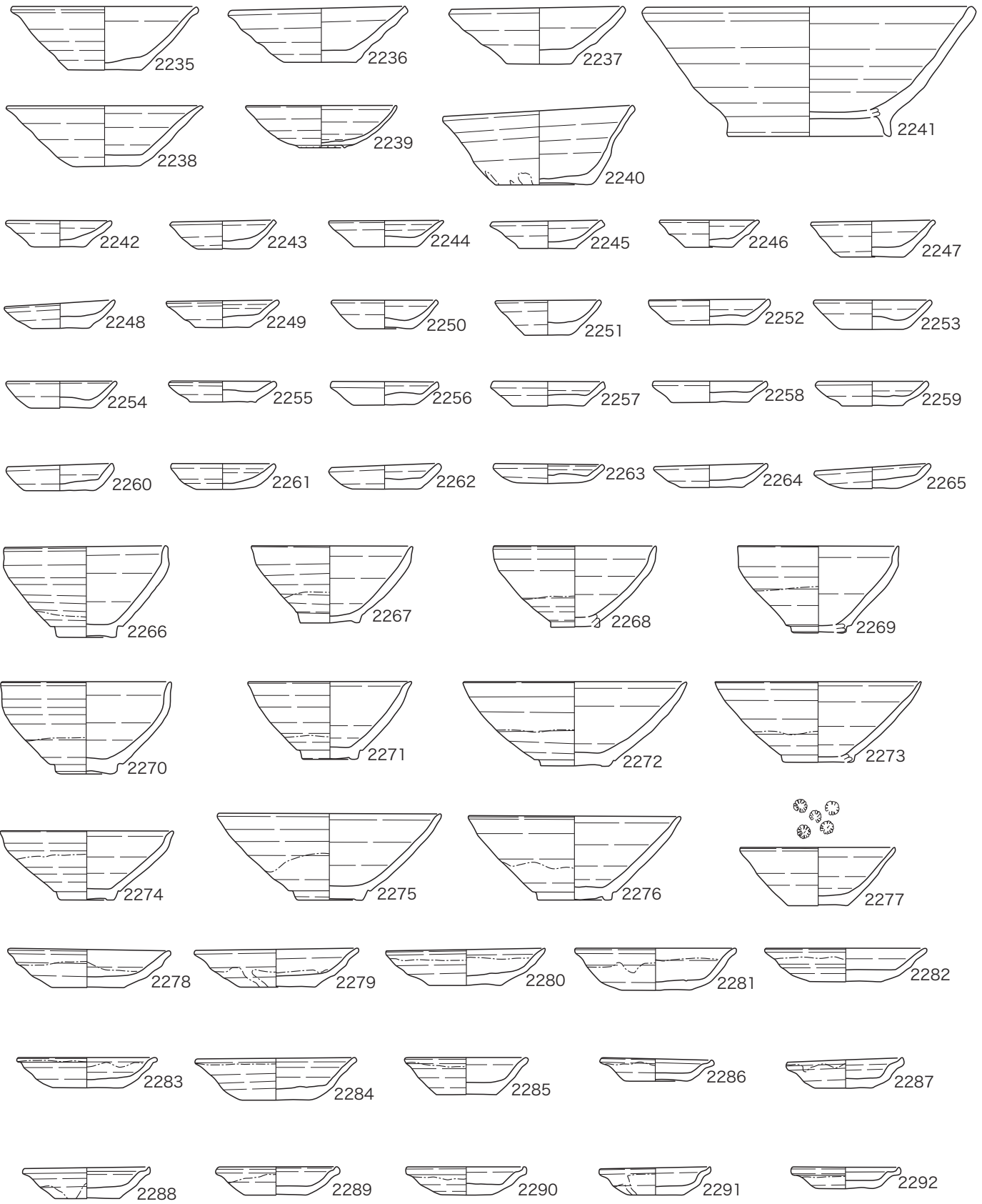
0 (1:4) 20cm

第 218 图 中世土器 (39)



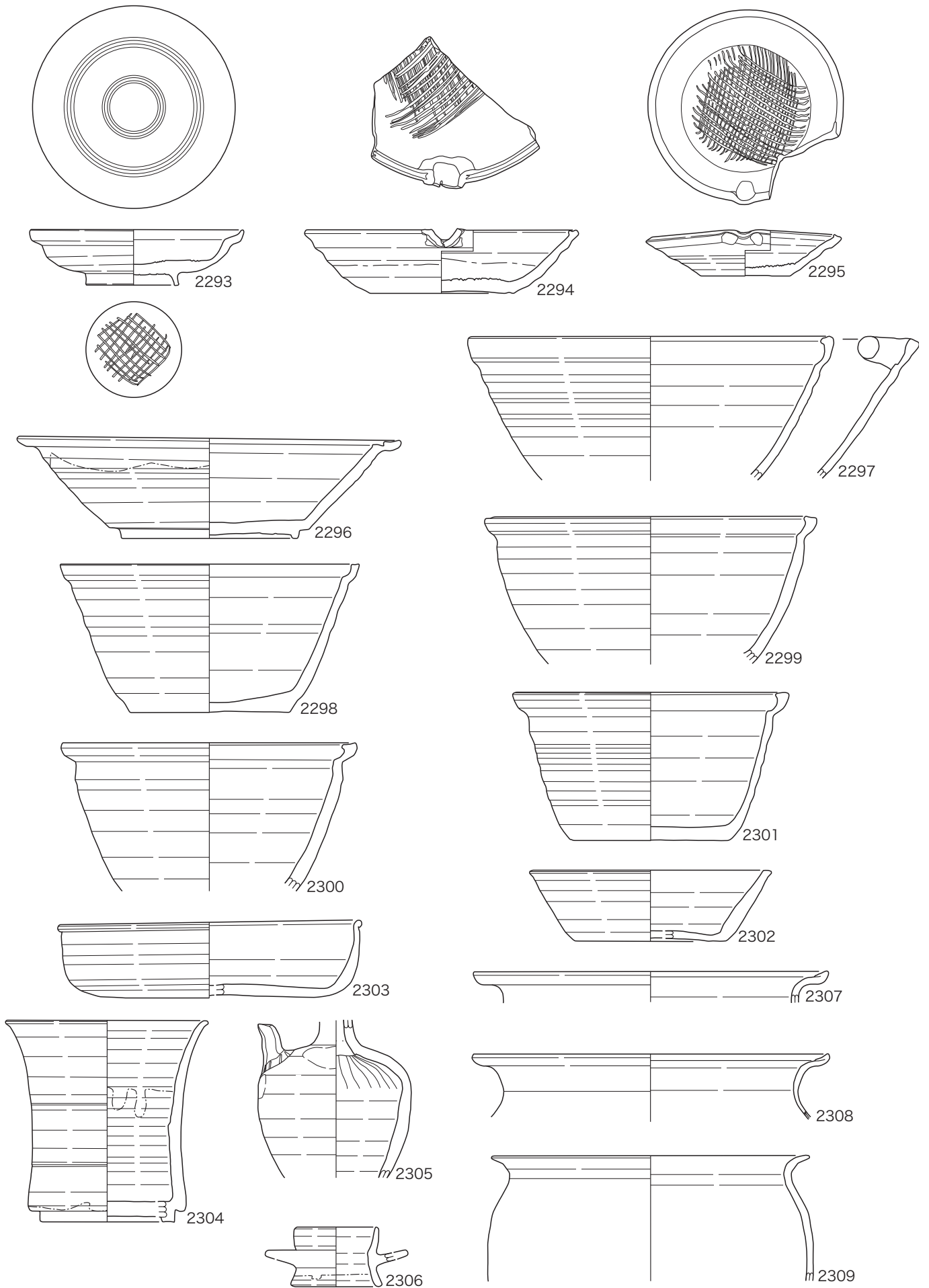
第 219 图 中世土器 (40)

0 (1:4) 20cm



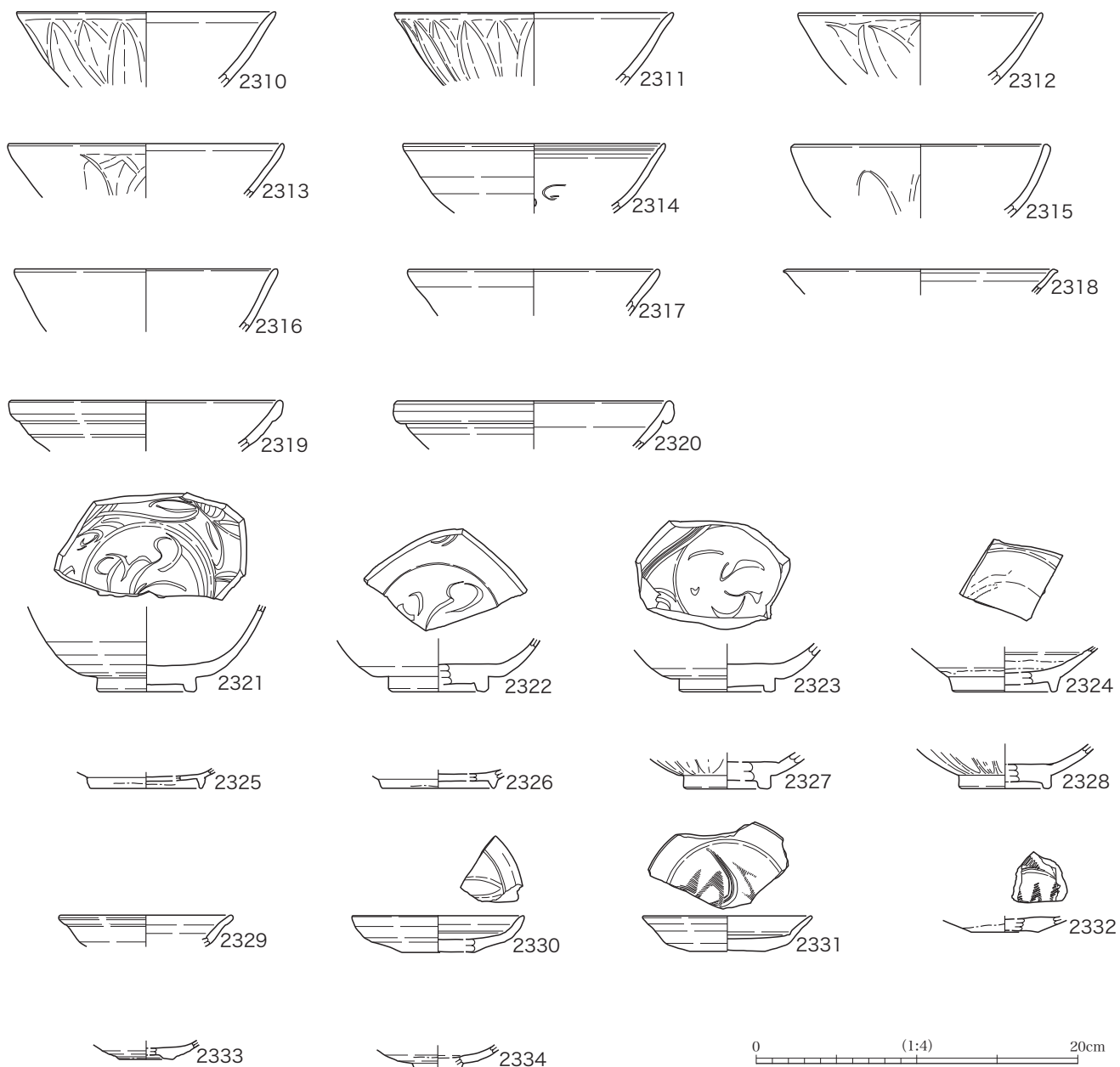
第 220 图 中世土器 (41)

0 (1:4) 20cm



0 (1:4) 20cm

第21图 中世土器 (42)



第 222 图 中世土器 (43)

6. 近世の遺物

17世紀代から19世紀中葉までの遺物を対象とする。

a. 土坑

南部地区より出土した。

03Ab区 04Cb区 04Db区 (第223図)

筒型碗(2335-2336)、志野丸皿(2337-2341)、鉄絵皿(2342)、黄瀬戸(2343)、徳利(2344)、片口(2345)、不明鉢(2346)、灯明具(2347)、不明片口(2348)、半胴甕(2349)、搦鉢(2350)、匣鉢(2351-2354)、土師器釜(2355)が出土した。2335は17世紀代である。志野丸皿、鉄絵皿は17世紀後半から18世紀初頭の時期である。黄瀬戸、片口は17世紀代である。半胴甕は18世紀代である。搦鉢は連房式登窯7小期である。

b. 溝

南部地区より出土したものを対象とする。

SD003(第224-225図)

半胴甕(2356-2375)が出土した。大形(2356-2360)と小形(2361-2375)の2種類に分かれる。連房式登窯6小期18世紀後半の時期に属する。

SD030(第225図)

天目茶碗(2376-2379)、小碗(2380)、志野丸皿(2381-2382)、輪禿皿(2383-2384)、鉄絵皿(2385)、搦鉢(2386)が出土している。天目茶碗連房式登窯4・5小期、志野丸皿・鉄絵皿同3小期である。輪禿皿は18世紀後半である。搦鉢は連房式登窯4小期である。

SD110(第225図)

匣鉢(2387)、土師器鍋(2388-2389)が出土した。

SD116(第226図)

搦鉢(2390-2400)、半胴甕(2401-2403)が出土した。搦鉢は18世紀前半(2390-2391)と19世紀中葉(2392-2400)の時期のものがある。半胴甕は18世紀後半から19世紀前葉の時期に属す。

SD123(第226図)

輪禿皿(2405)と搦鉢(2404)が出土している。連房式登窯5小期の時期である。

c. 井戸

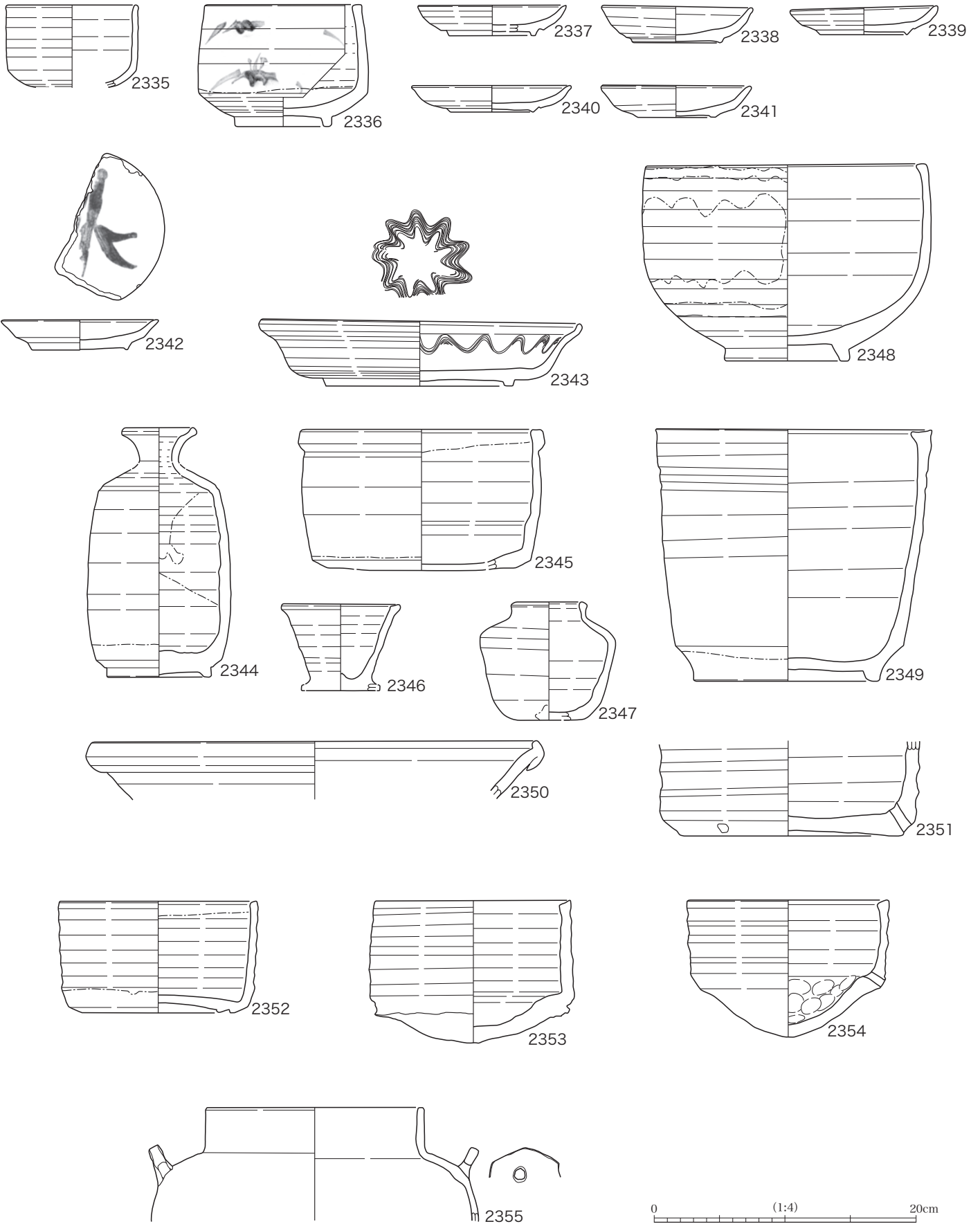
SE05(第227図)

志野丸皿(2406)、折縁皿(2407)、筒型香炉(2408)、卸目付大皿(2409)、搦鉢(2410)、土師器皿(2411-2412)が出土した。志野丸皿は17世紀代である。折縁皿、搦鉢は16世紀末である。卸目付大皿、筒型香炉は古瀬戸後期であり、混入の可能性はある。

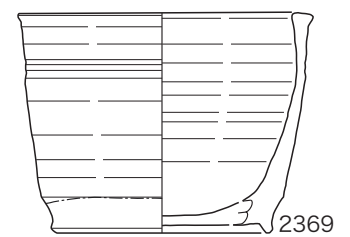
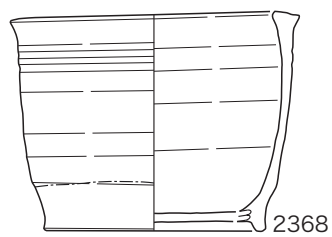
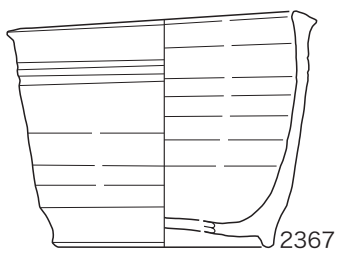
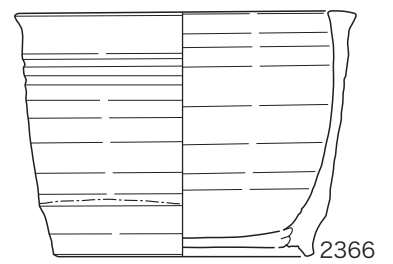
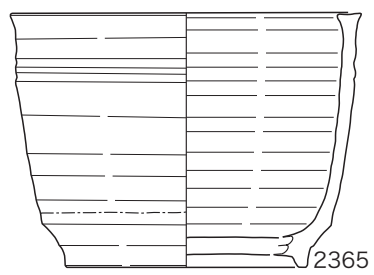
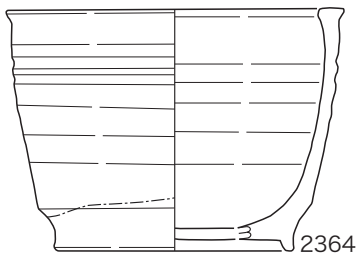
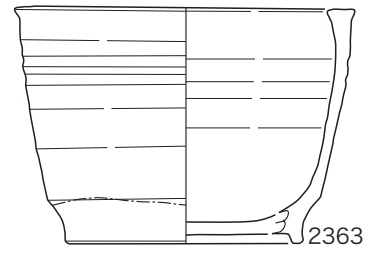
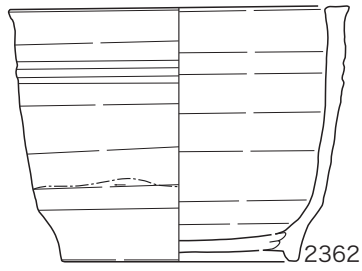
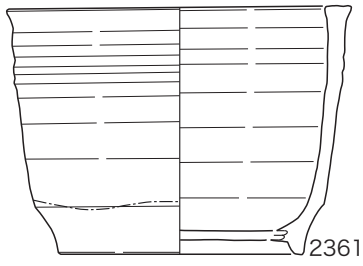
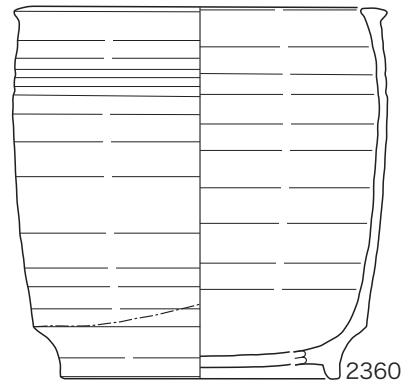
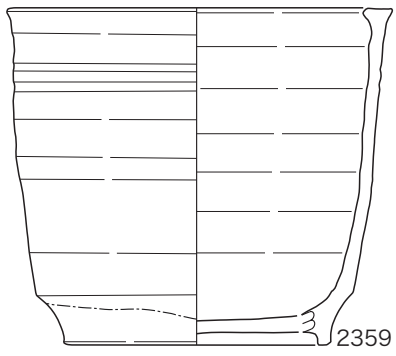
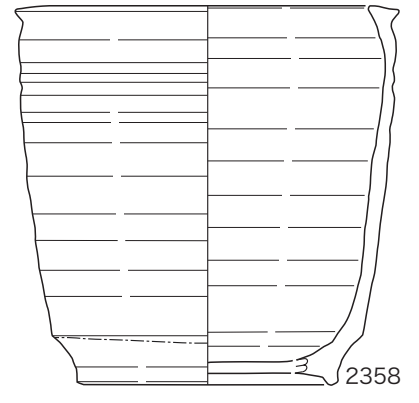
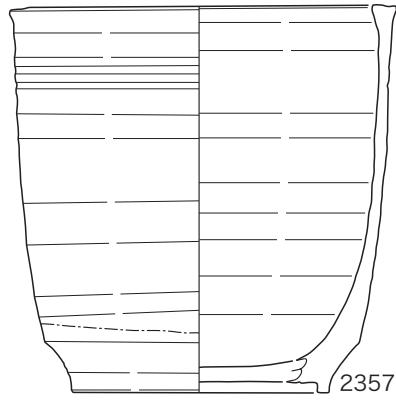
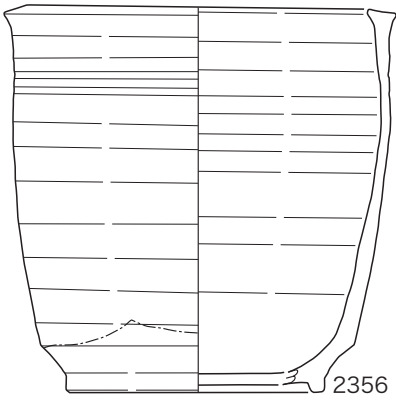
d. 落ち込み状遺構

SX023(第228図)

天目茶碗(2413-2418)、丸碗(2419-2421)、筒型碗(2422)、志野丸皿(2423-2428)、輪禿皿(2429-2430)、鉄絵皿(2431)、黄瀬戸(2432)、搦鉢(2433-2435)、片口(2434)、茶入れ(2438)、土師器鍋(2440-2443)が出土した。天目茶碗、丸碗、筒型碗は連房式登窯3-5小期である。丸皿、輪禿皿、鉄絵皿は筒型碗は連房式登窯3-5小期である。土師器鍋は、半球形内耳鍋である。(酒井俊彦)

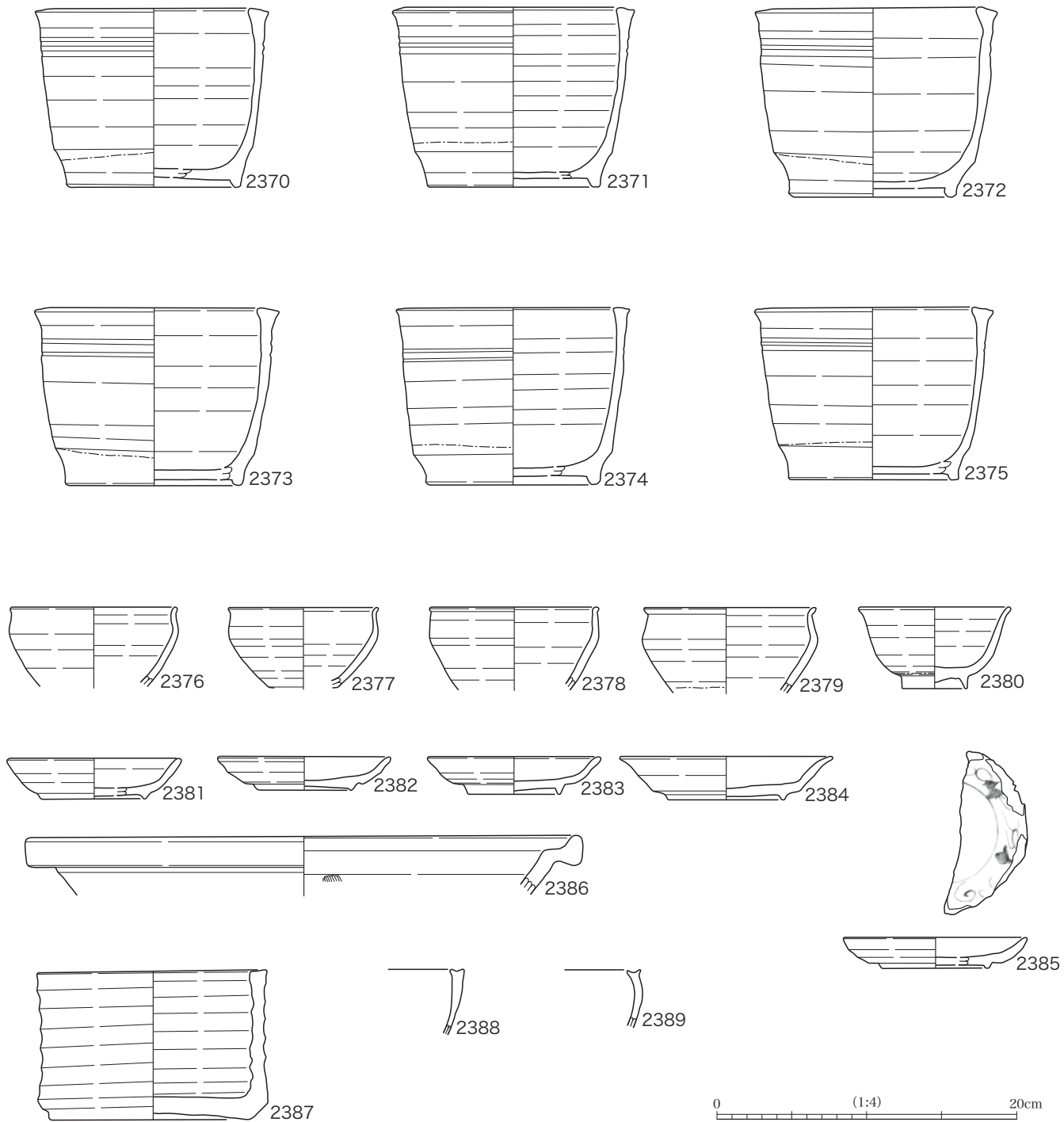


第 223 图 近世土器 (I)

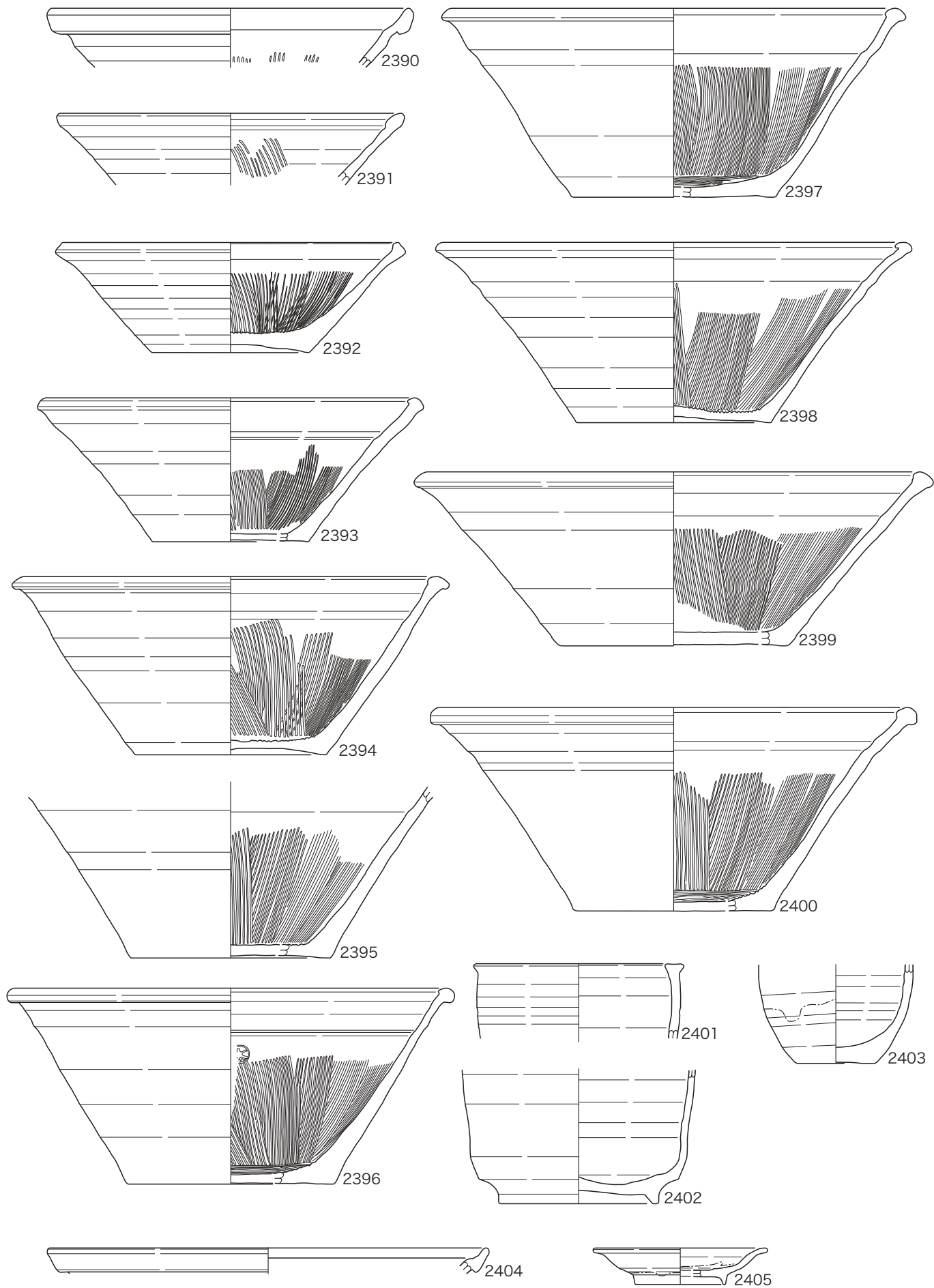


第 224 図 近世土器 (2)

0 (1:4) 20cm

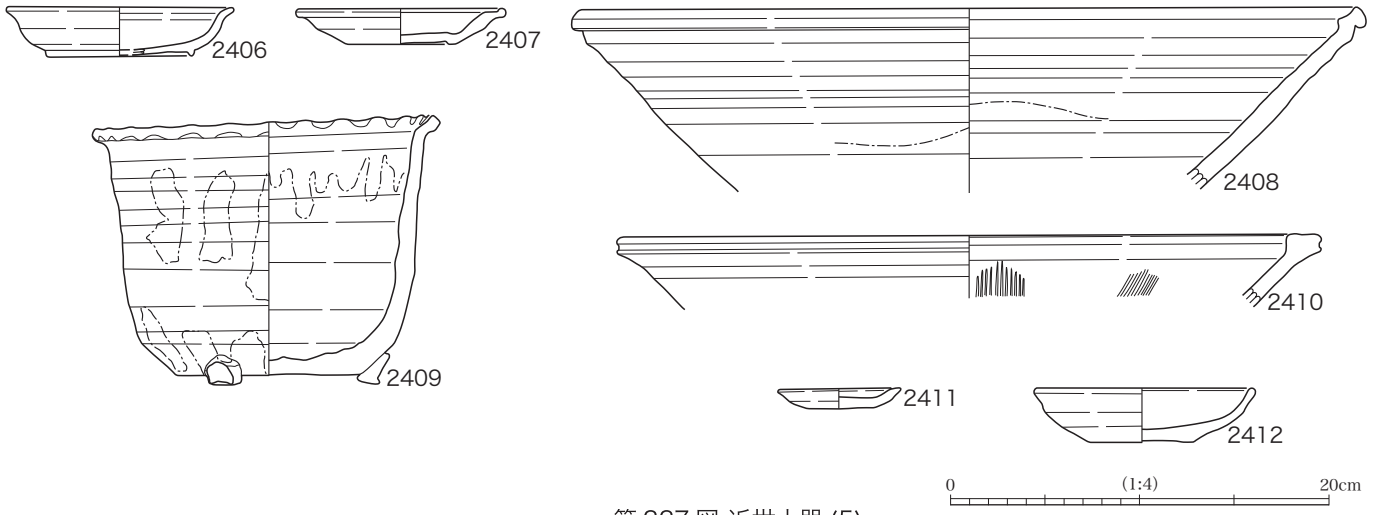


第 225 図 近世土器 (3)

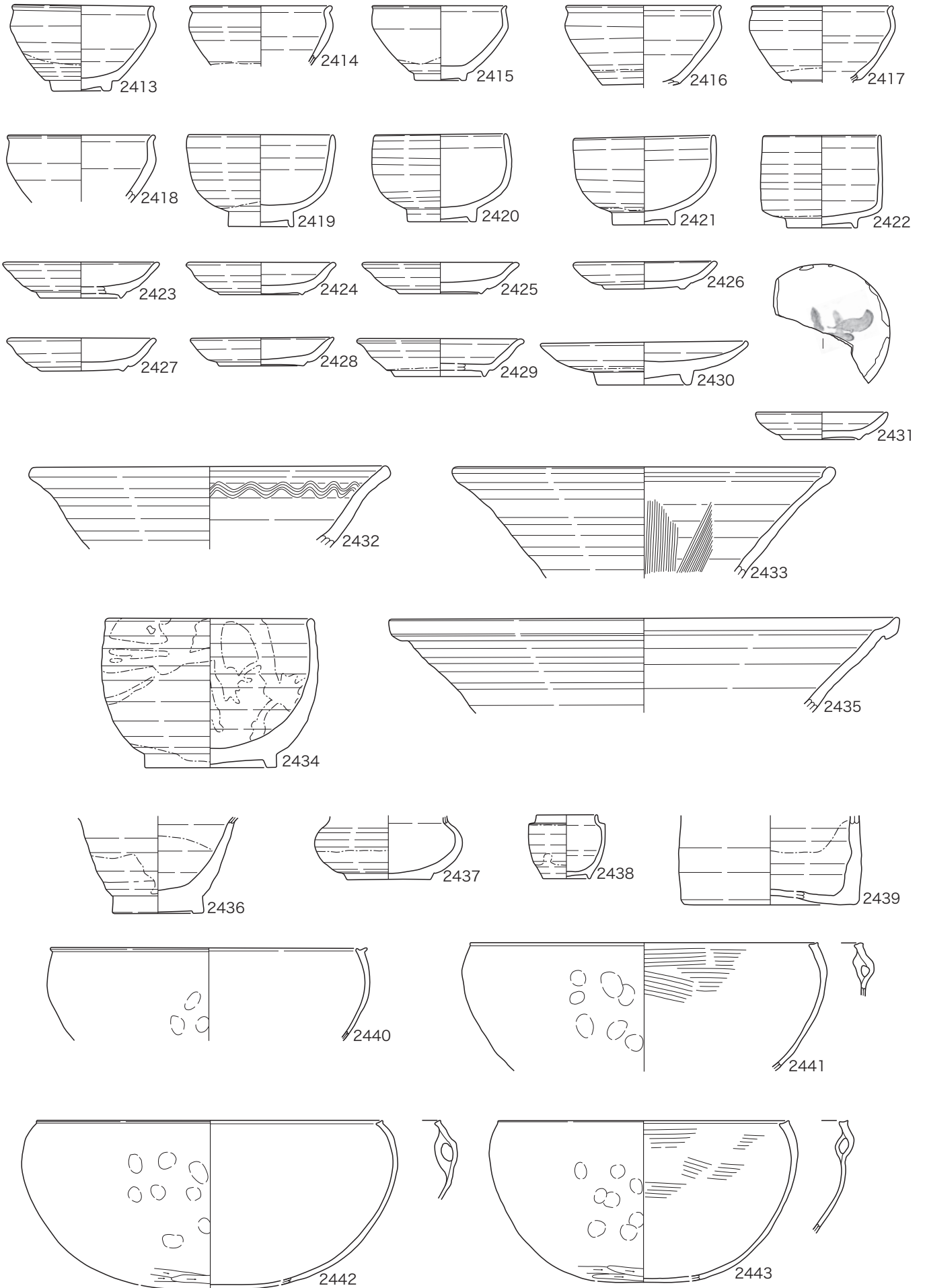


第226图 近世土器(4)

0 (1:4) 20cm



第 227 図 近世土器 (5)



第 228 图 近世土器 (6)

0 (1:4) 20cm

7. 墨書土器

調査区全体の遺構内外より出土した、墨書または刻書を有する土器陶器類を一括する。

a. 中世 (第 224 図)

山茶碗について南部系 6-7 型式 (2444-2449)、同 9 形式 (2450-2466)、北部系 10-11 型式 (2467-2470)、瀬戸窯産施釉陶器については平碗 (2471 2472)、縁釉小皿 (2473-2478)、直縁大皿 (2479)、入子 (2480) に墨書が認められた。平碗 (2472) 縁釉小皿 (2473 2486 2478) は古瀬戸後期である。直縁大皿は後期である。底部に「十」字が書かれるもの (2444 2473 2478) 「上」 (2448 2452 2455 2467 2474 2475 2480) 「○」 (2449 2451) 「|」 ないしは「—」 (2462 2463) 円内に横棒 (2457-2459) 「久」 (2469) 「神」 (2477) 「佛」 (2452) 格子状の斜線 (2450) 意味不明な記号 (2446 2460 2464) 円点の文様 (2479) 判読不能 (2461 2466) 欠損のため判読不能 (2445 2447 2453 2465 2468 2471 2472) がある。

b. 近世 (第 224 図)

2482 は磁器碗の底部に「兵衛」の刻印が施される。2483 は匣鉢蓋の内面に○に+の組み合わせた刻書が施される。(酒井俊彦)

第2節 土製品

1. 狛犬(第225図)

施釉された陶製の狛犬である。04Ca区の北西部、溝で囲まれた中世集落のほぼ中央の遺物包含層で集中して検出された。2484は頭部から底部の部分で、脚部と台座の大部分は欠損している。小型の狛犬である。2485は体部背面台座部である。やや、大型のものである。2486 2490 2491は脚先端の台座部である。いずれも小形のものである。2487はやや大形の頭部側面である。2488は台座部である。2489は脚部の付け根部分である。これらは包含層の出土遺物から14世紀後半から15世紀前半の時期に属すると考える。

2. 加工円盤(第226図)

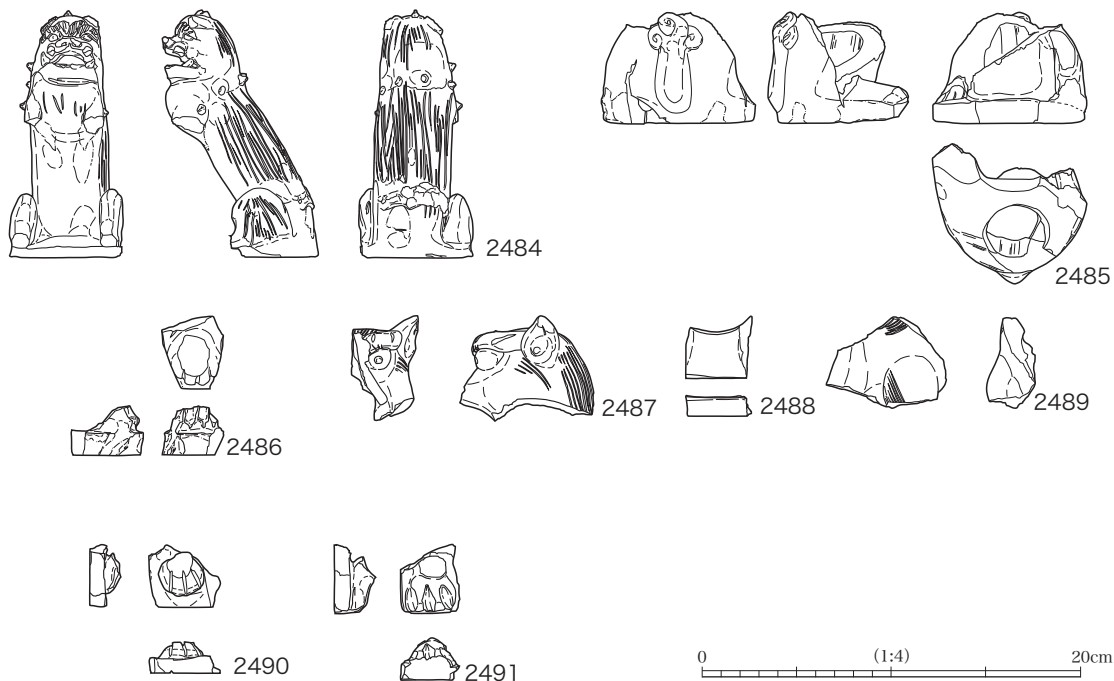
陶磁器の破片を円形に打ち欠いたもので、南部地区を中心に出土している。遺構内外のものを一括する。素材の種類としては山茶碗(2492)、天目茶碗(2493 2494)、灰釉碗(2495 2496)、磁器(2497-2499)、甕(2500-2503)、搦鉢(2504)である。2492 2494 2495は中世と考えられ、他は近世の時期に属す。

3. 土錘(第227図)

土師器質の錘である。全て南部地区で出土した。遺構内外出土のものを一括する。小形のもの(2505 2507-2518)とやや大形のもの(2506)がある。小形のものは、出土地点が離れているが、定形化している。

4. 製塩土器(第228図)

古代の製塩土器の脚部(2519-2522)である。いずれも脚の先端部で、確定できないが、8世紀以降の時期に属す。



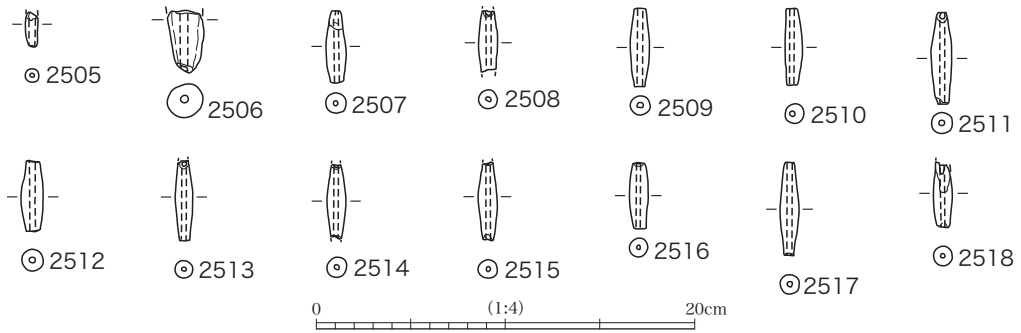
第230図 狛犬

5. 銅鐸型土製品 (第 229 図)

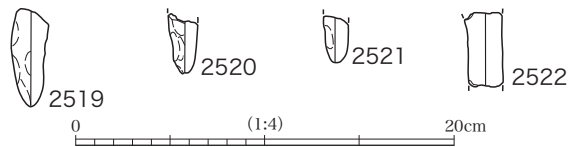
SB220 より出土した。胴下半および片面の身部分を欠損する。篋状具によって鈕部分に鋸歯文が、身部分に格子文が施される。全体に焼成がやや悪い。弥生時代後期に属する。(酒井俊彦)



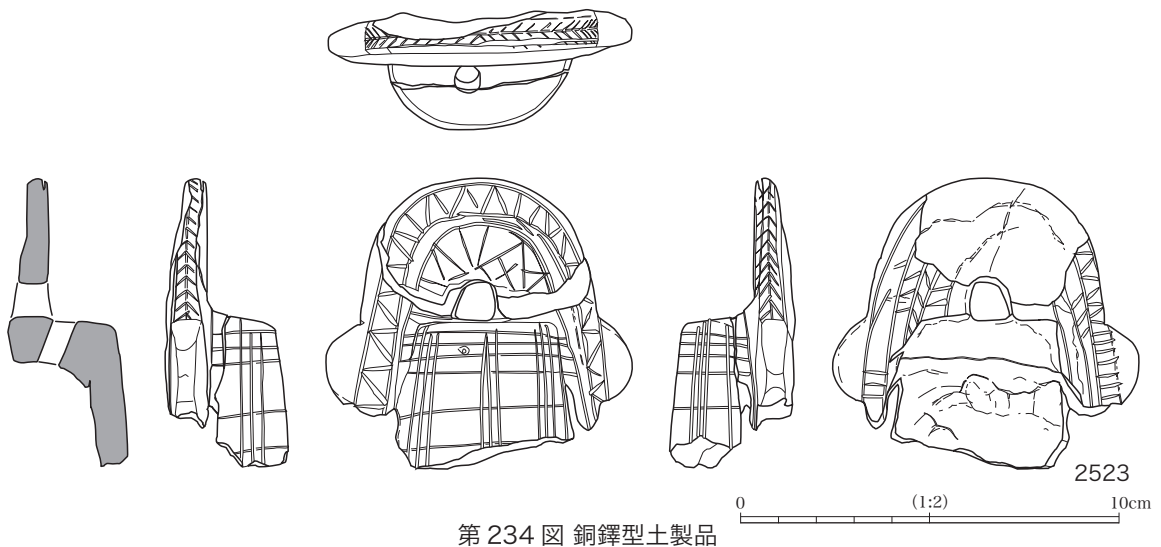
第 231 図 加工円盤



第 232 図 土錘



第 233 図 製塩土器



第 234 図 銅鐸型土製品

第3節 石製品

1. 石鏃 (第229 図)

図示したものの中で遺構に伴うものは少なく、ほとんどが遺構外あるいは他時期の遺構埋土中より出土したものである。石材は105点中、黒燐石13点(1 4 9 10 22 23 27 29 38 55 66 78 98) 下呂石10点(12 33 42 44 53 57 69 73 89 95) サヌカイト7点(14 16 40 72 86 100 101) 水晶2点(60 76) ホルンフェルス1点(49)であり、72点はチャートである。縄文時代遺構が検出された00A区および01A区で多く検出された。縄文時代包含層が確認された01D区では出土点数は少ない。すべて縄文時代と考える。

SB003(第229 図)

遺構埋土中より19-21が出土した。石材はチャートである。

SB004(第229 図)

遺構埋土中より22が出土した。石材は黒燐石である。

2. 有舌尖頭器 (第231 図)

調査区全体で8点検出された。南部地区6点(106-108 111-113) 北部地区2点(109 110)である。遺構に伴うものはなく、他時期の包含層または遺構中より出土した。石材はチャート(106 109 112 113)、下呂石(108 110 111)、溶結凝灰岩(107)である。旧石器時代末から縄文時代初頭の時期である。

3. 石錐 (第231 図)

00A区で1点のみ出土した(114)。石材はチャートである。縄文時代に属すると考える。

4. スクレイパー類 (第231 図)

搔器類及び削器類を一括する。遺構に伴うものはない。南部地区13点、北部地区4点である。縄文時代の定型化したいわゆる石匙は横型石匙(120)と縦型石匙(128)が出土した。不定形なスクレイパー的な機能を持つものとして、縦長の剥片の長辺に連続剥離があるもの(115 118 126 129 130)と短辺にあるもの(116 119 121-125)とが認められる。117 127は全周に剥離が認められる。石材は溶結凝灰岩(118 128)とチャートである。全て縄文時代と考える。

5. 打製石斧 (第232 図)

縄文時代のいわゆる打製石斧を一括する(131-138)。遺構に伴うものは無いが、01D区の自然河道の縄文時代包含層からまとまって出土した(131-135)。南部地区からは2点出土している。石材は全てホルンフェルスである。

6. 磨製石斧 (第233 図)

縄文時代の定角式磨製石斧である。南部地区1点(139) 北部地区4点である(140-143)。遺構に伴うものは無く、140 141は01D区の自然河道の縄文時代包含層からまとまって出土した。石材は滑石(139 143) 凝灰岩質泥岩(140 142) 緑色岩(141)である。

7. 棒状磨石 (第 233 図)

小形の棒状の石器で全面が研磨されるものである (144)。時代、性格は不明である。石材は泥岩である。

8. 石棒 (第 233 図)

縄文時代のいわゆる石棒を一括する。145 は頭部に近い括れ部と考えられる。146 は体部、147 は頭部である。石材は凝灰岩質泥岩 (145 146)、ホルンフェルス (147) である。

9. 石錘 (第 233 図)

自然石の両端を打ち欠き、錘として使用したものである。148 149 は扁平な石の楕円の両端部を打ち欠いている。縄文時代の時期に属すると考える。

10. 敲石 (第 234 図)

自然石に人工的な敲打痕を有するものである (150-153)。長軸の頂部の両面に敲打痕有するもの (150 152) と片面に有するもの (151 153) がある。150 は側面にも敲打痕がある。縄文時代と考える。

11. 磨石 (第 235 図)

自然石の全面が研磨されているものを一括する。大形のもの (154 155) と小形のもの (156-162) がある。154 は敲打痕があり、敲石の機能がある。小形のものは顕著な研磨がある。162 は基石と考えられる。石材は安山岩 (154 155 157) 珪質岩 (158 159 161) チャート (156) アップライト (160) 水晶 (162) である。154 155 は縄文時代と考える。基石は中世以降である。

12. 砥石 (第 236 237 図)

研磨用の石製品を一括する。弥生時代 (165) のものと中世以降のものがある。中世のもの (163 164 166-179) は立方体型 (172 173) 山型 (166 169) 棒状 (164 168 174 176) 大形棒状 (163 167 170 175 177 178) の 4 種類に大別される。171 は形状不明である。南部地区の中世集落範囲の出土が多く、北部地区のものは少ない (165 166 171 173)。包含層出土のものが多く、遺構に伴うものは少ない。石材は凝灰岩および凝灰岩質のものも多く、その他ホルンフェルス (163 175)、頁岩 (167) がある。

SB219 (第 236 図 165)

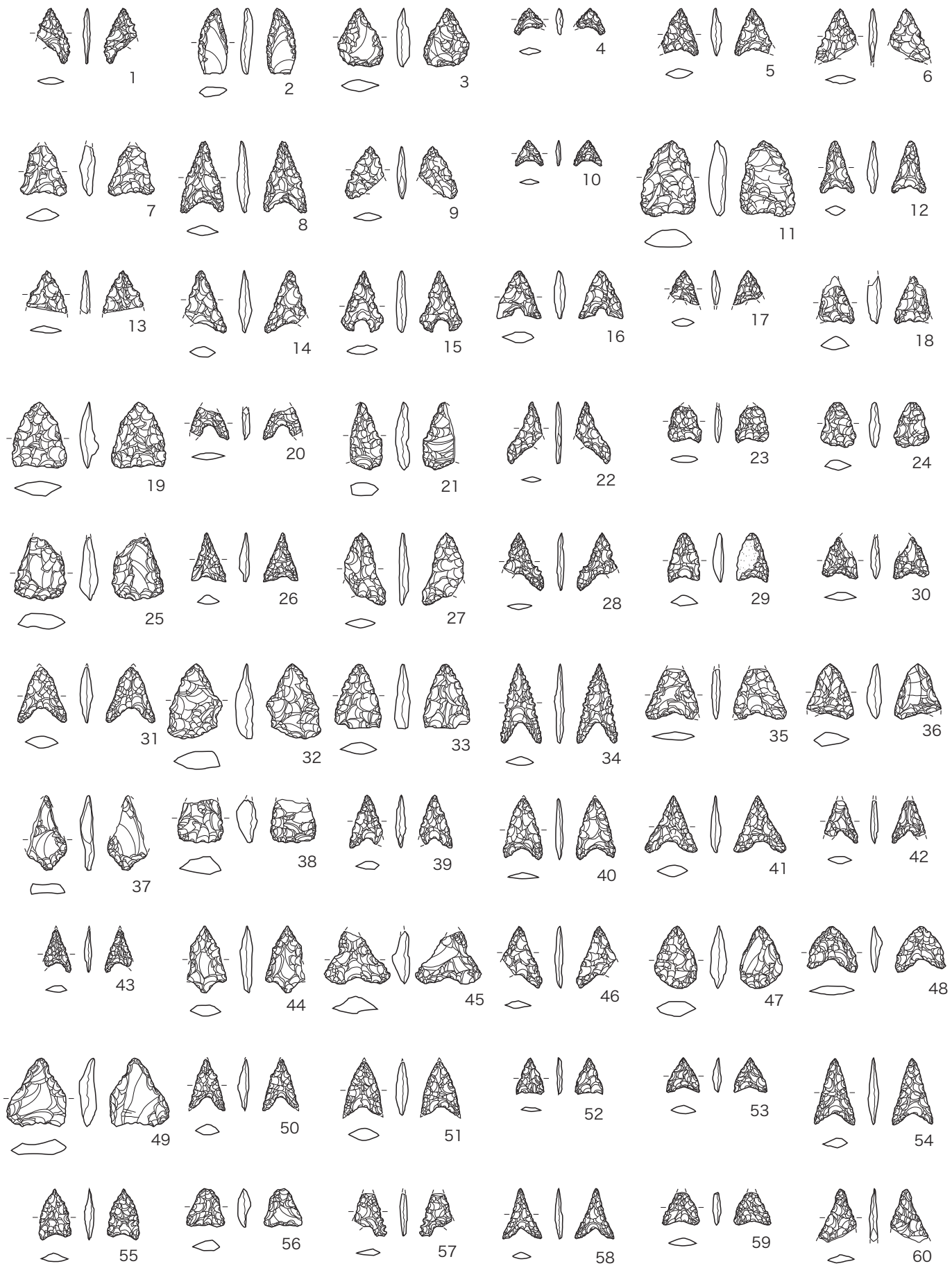
弥生時代後期の竪穴住居床面上より出土した。棒状で、6 面全てに研磨痕が認められる。石材は凝灰岩質泥岩である。

13. 硯 (第 237 図)

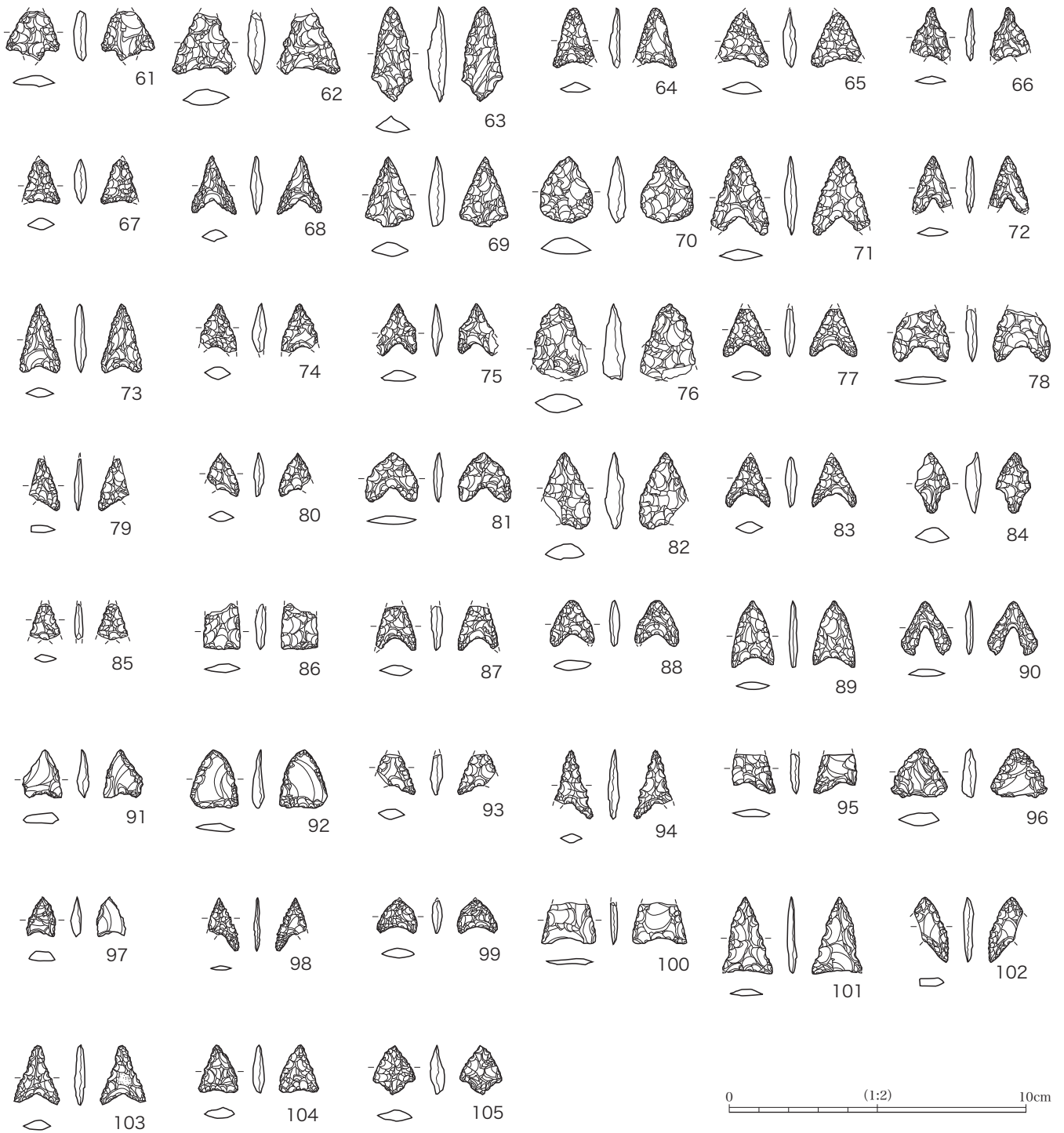
小形の硯である。南部地区の中世集落内 (180-182) およびその周囲で出土した (183)。いずれも使用痕が顕著である。石材は凝灰岩質泥岩 (180 182) 泥岩 (181 183) である。中世の時期と考える。

14. 紡錘車 (第 237 図)

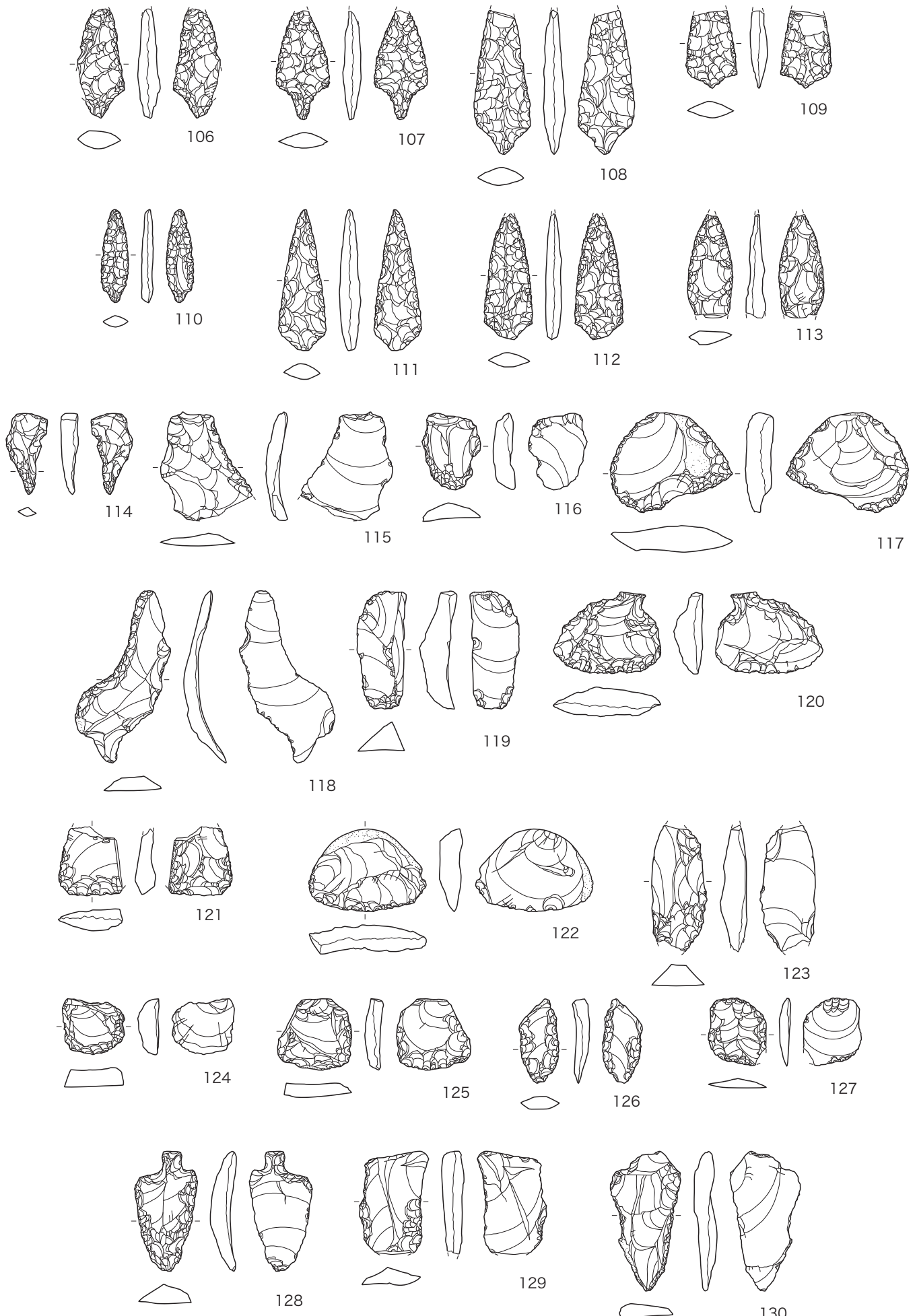
SB035 で出土した (184)。推定径 4.8cm の扁平な紡錘車である。古墳時代後期である。(酒井俊彦)



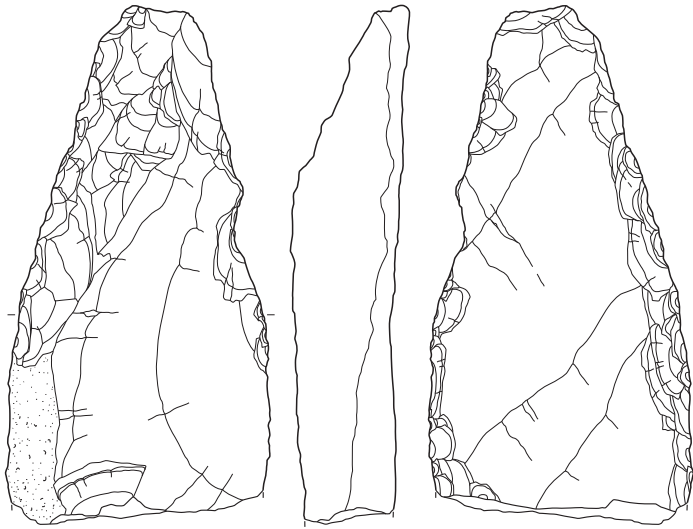
第 235 图 石鏃 (1)



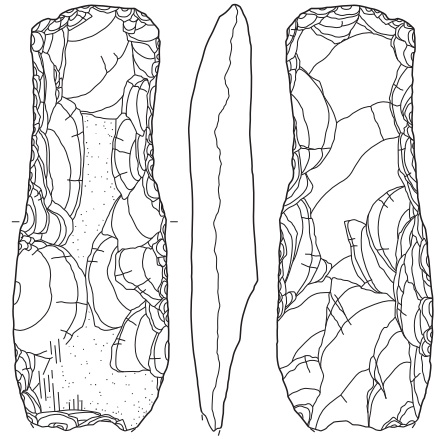
第236图 石鏃(2)



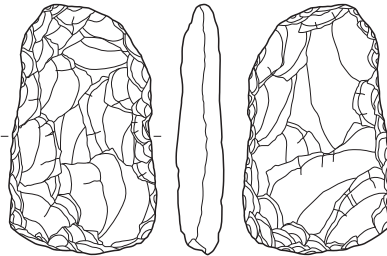
0 (1:2) 10cm



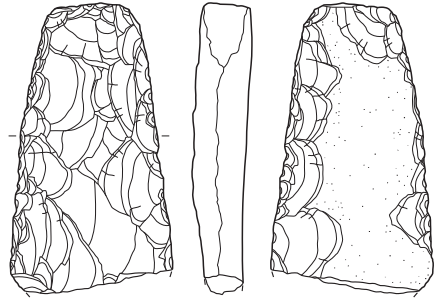
131



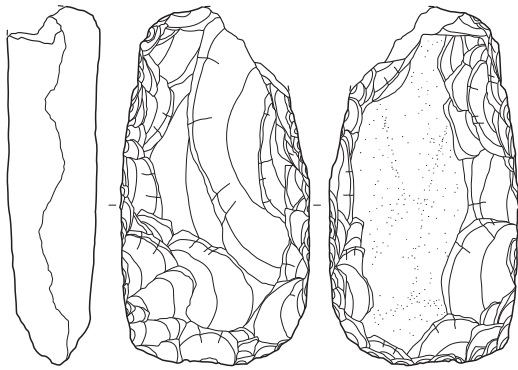
132



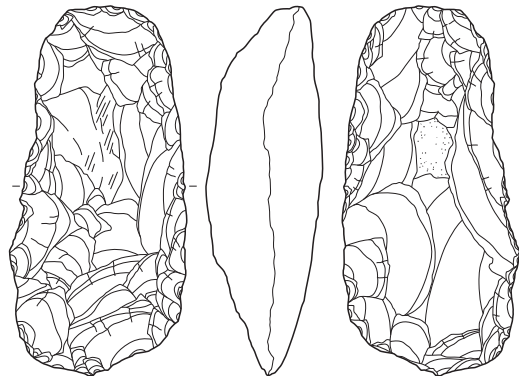
133



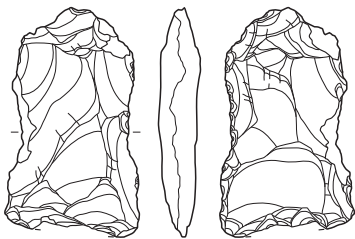
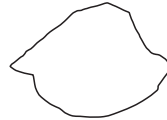
134



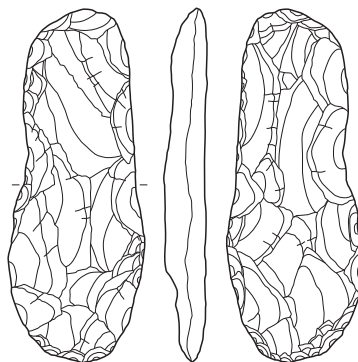
135



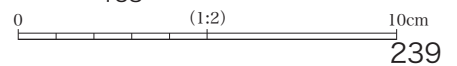
136



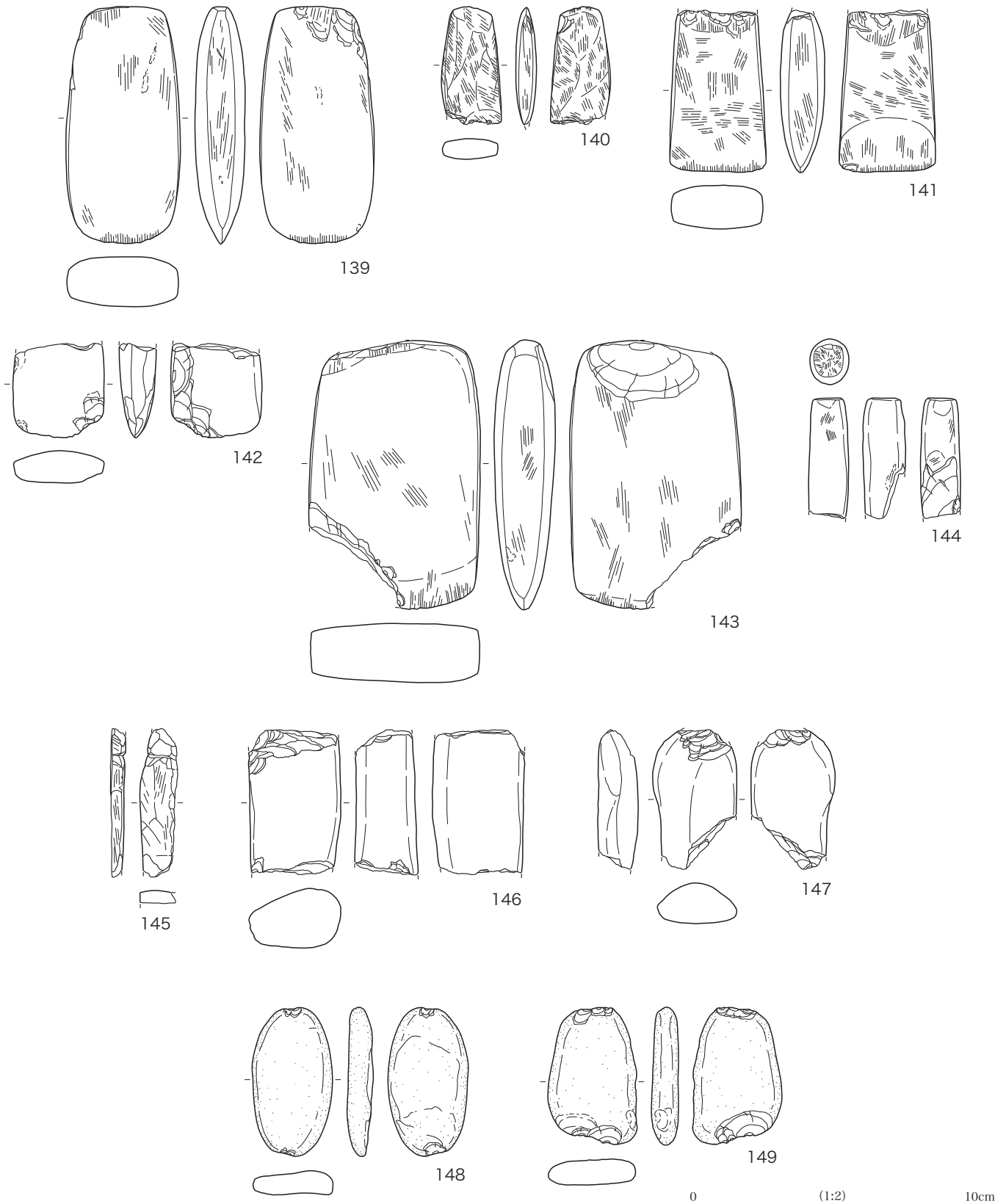
137



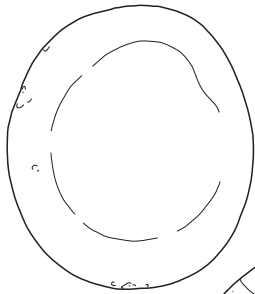
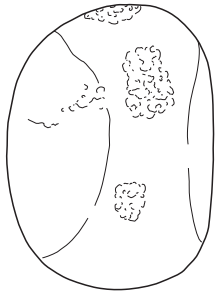
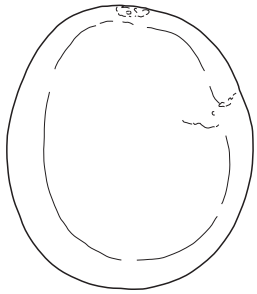
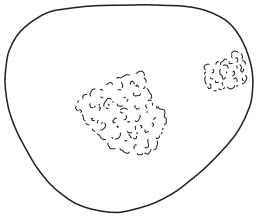
138



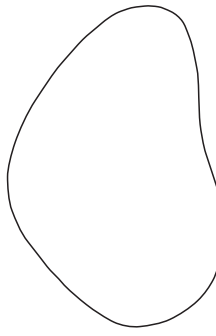
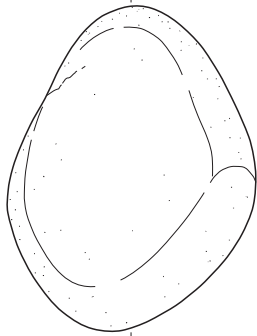
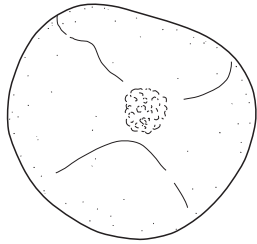
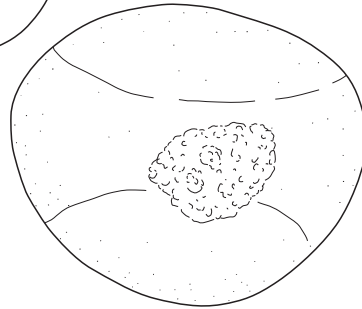
第 238 図 打製石斧



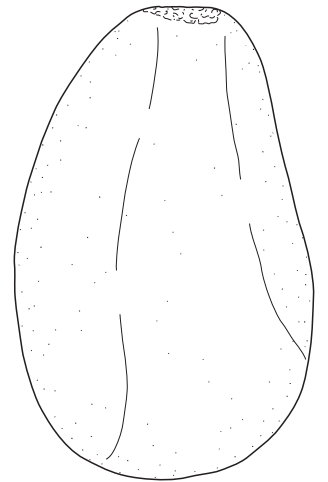
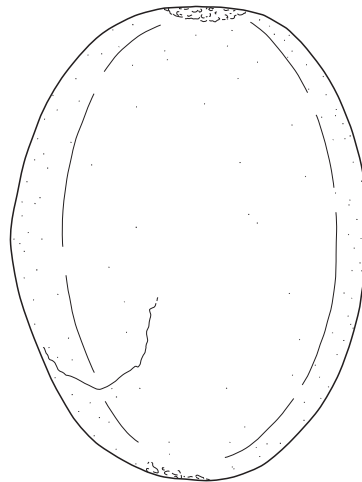
第 239 図 磨製石斧 石棒 石錘



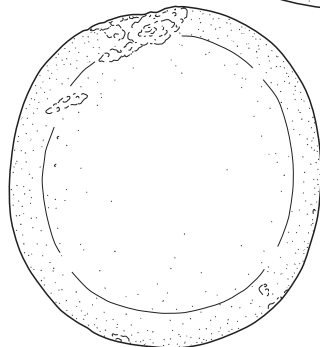
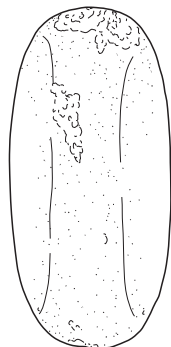
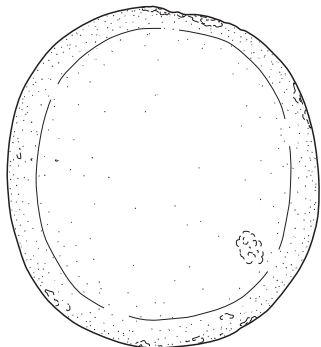
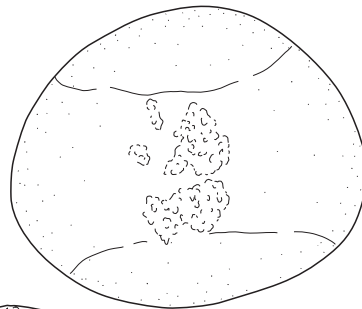
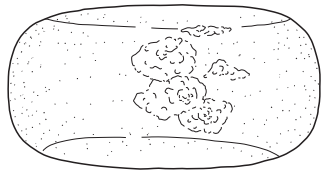
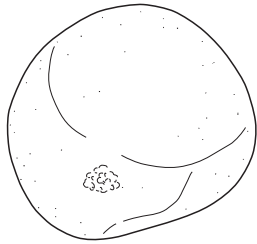
150



151

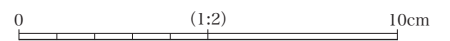


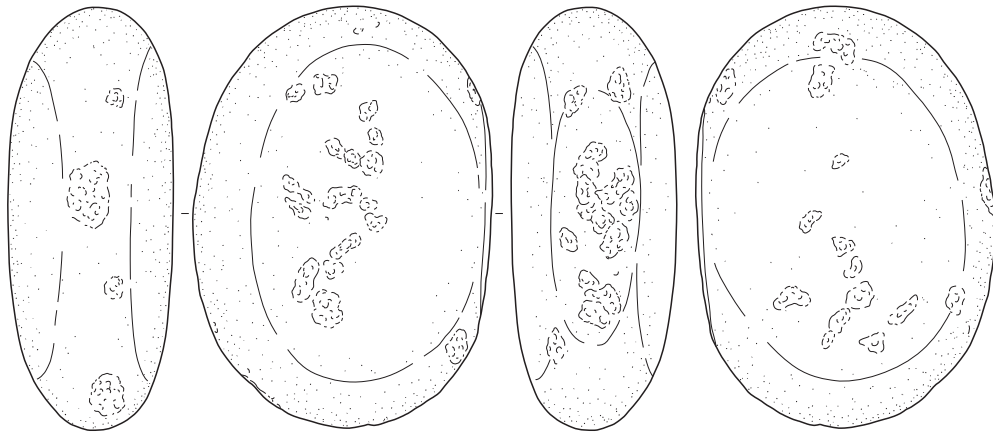
152



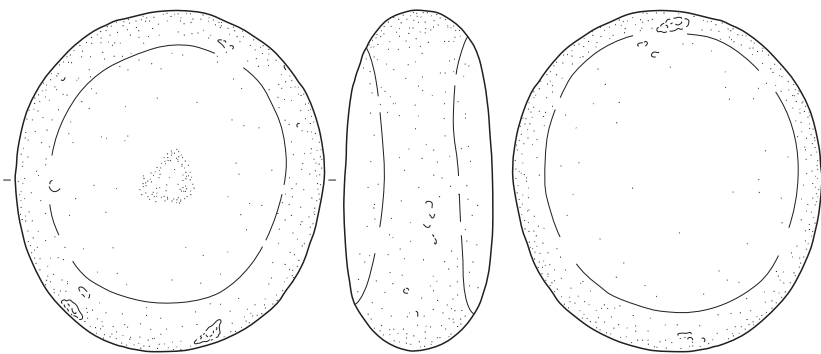
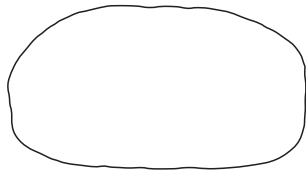
153

第 240 図 敲石

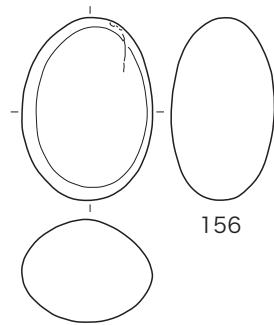




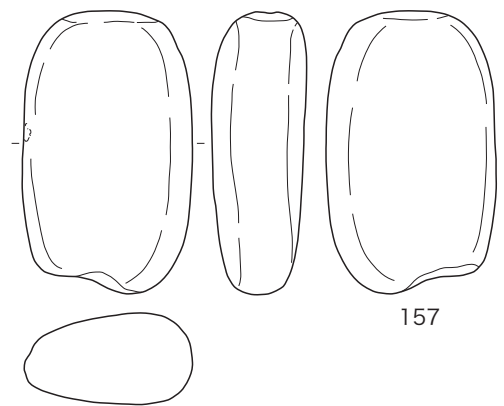
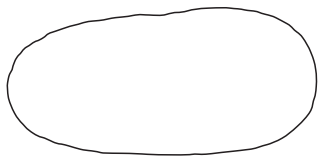
154



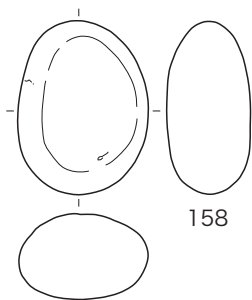
155



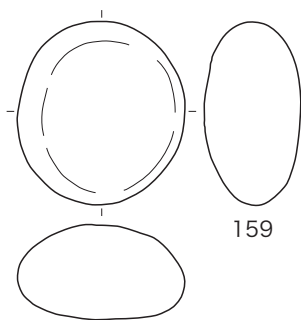
156



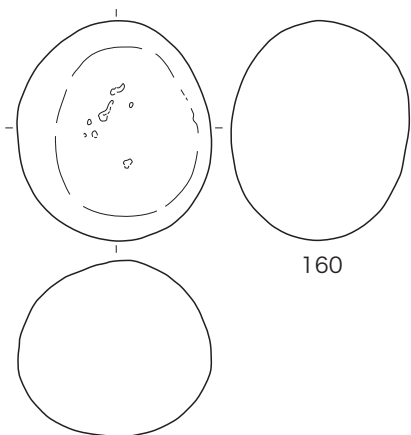
157



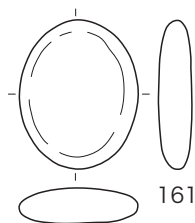
158



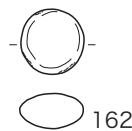
159



160



161



162

0 (1:2) 10cm

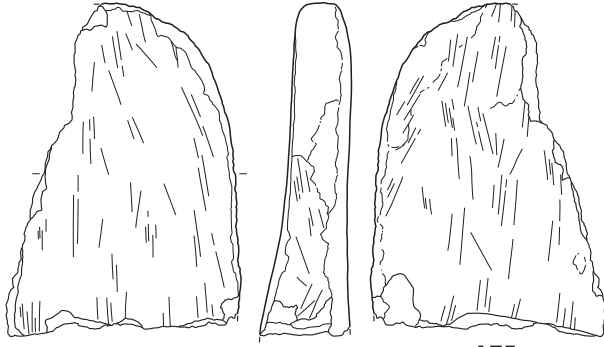
第 241 図 磨石類



第242图 砥石



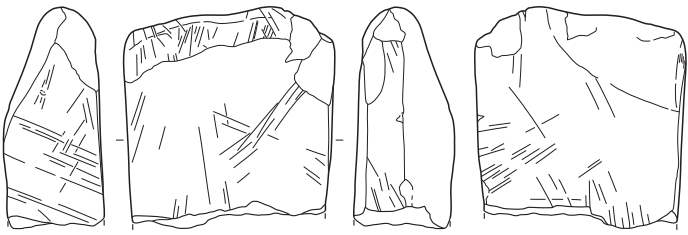
174



175



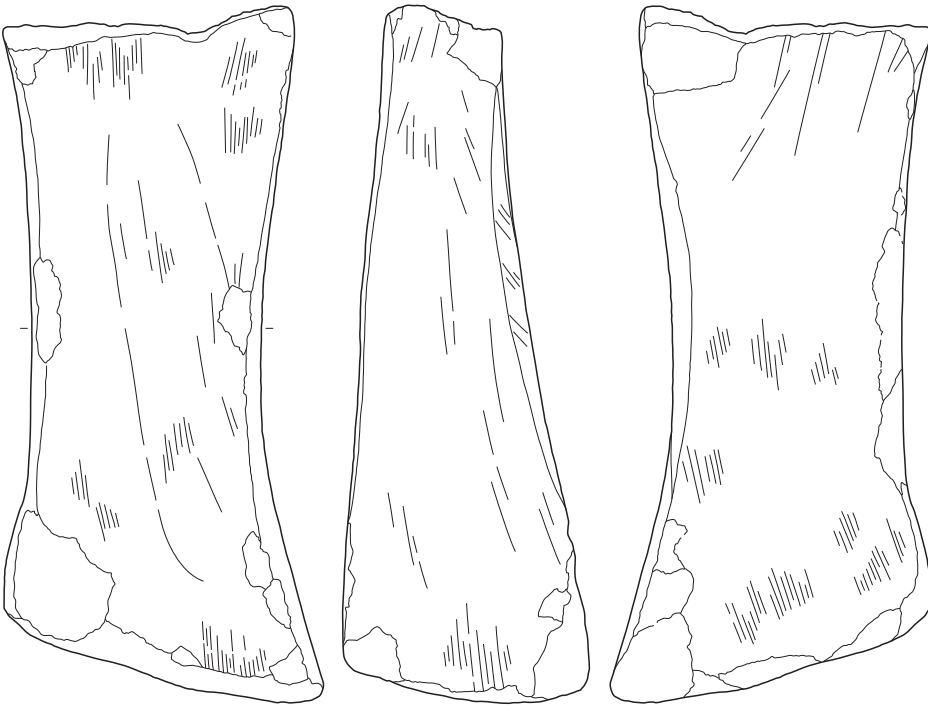
176



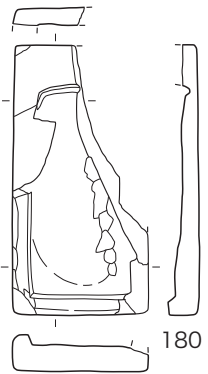
177



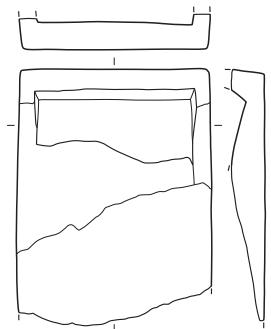
179



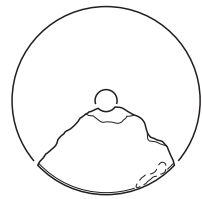
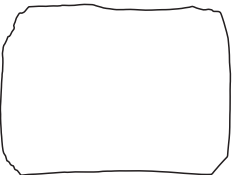
178



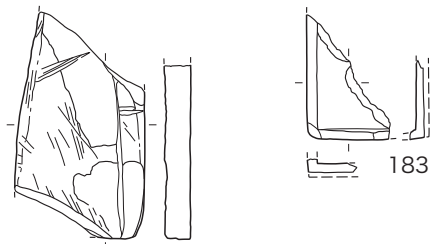
180



181

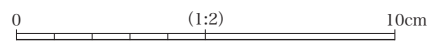


184



182

183



第4節 木製品

南部地区中世集落の遺構より、木製品が出土している。種別ごとに一括する。

1. 漆椀

SD084(第244図)

漆椀(1-3)が出土している。いずれも赤漆を施され、黒漆によって体部外面に文様が描かれる。遺存状況は悪い。中世15世紀代と考える。

2. 目盛板(第244図)

04E区の門前川河谷の包含層中から出土した(4-5)。薄い棒状の板の側面に一定の間隔で横方向の線刻が施される。

3. 曲物(第244図)

04E区の門前川包含層(6-7)と04BbSX027(8)より曲物の底板が出土した。6は2カ所の穿孔がある。やや大形のもの(6-7)と小形(8)ものがある。

4. 井戸側板

SE04(第245-249図)

04Ca区のSE04の井戸側に組まれた板材である。方形の井戸側の側面に縦方向に並べられた板材(9-14 16-24)と横木として組まれていたもの(15)である。前者は長64-71cm 幅18-31cm 厚さ3.5-5.3cmである。両端面以外の面は鏝鉋によって削られ、粗い削り痕を残す。21-23は穿孔がある。23は転用材の可能性はある。

5. 礎板(第250図)

04Ca区のSB057の柱穴より出土した(25-26)。丸太材を半裁して、中心の面を柱受けとしている。

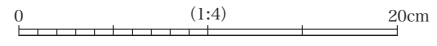
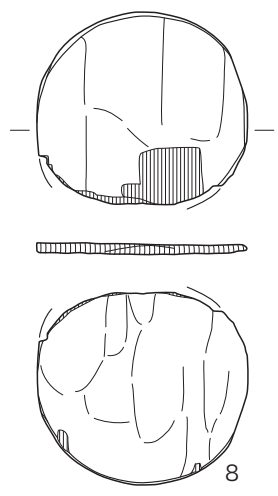
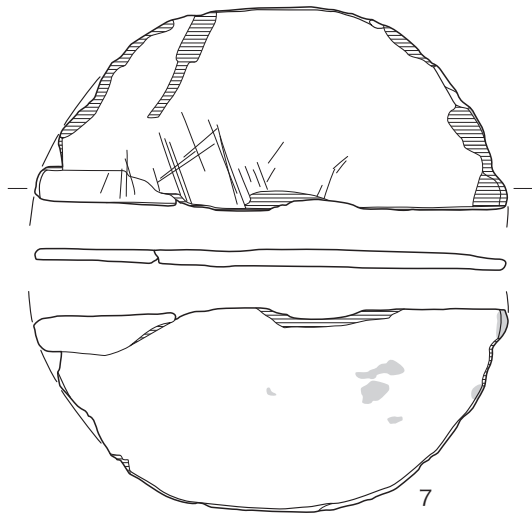
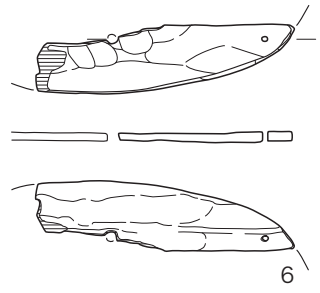
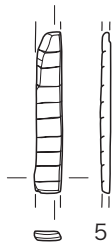
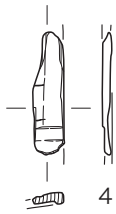
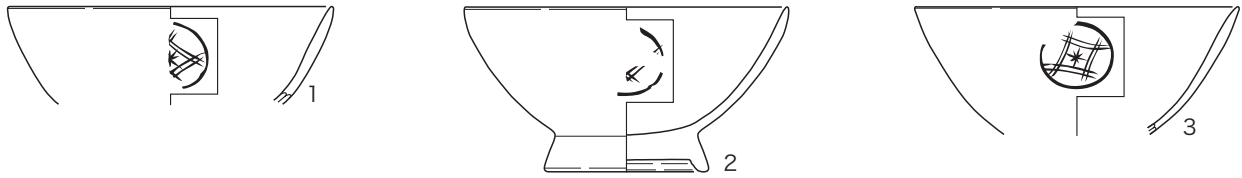
6. 柱根(第250図)

SK862(27)およびSB056の柱穴(28-29)より出土した。伐採後、丸太材の下端面を面取りし、表皮を剥いだ状態である。

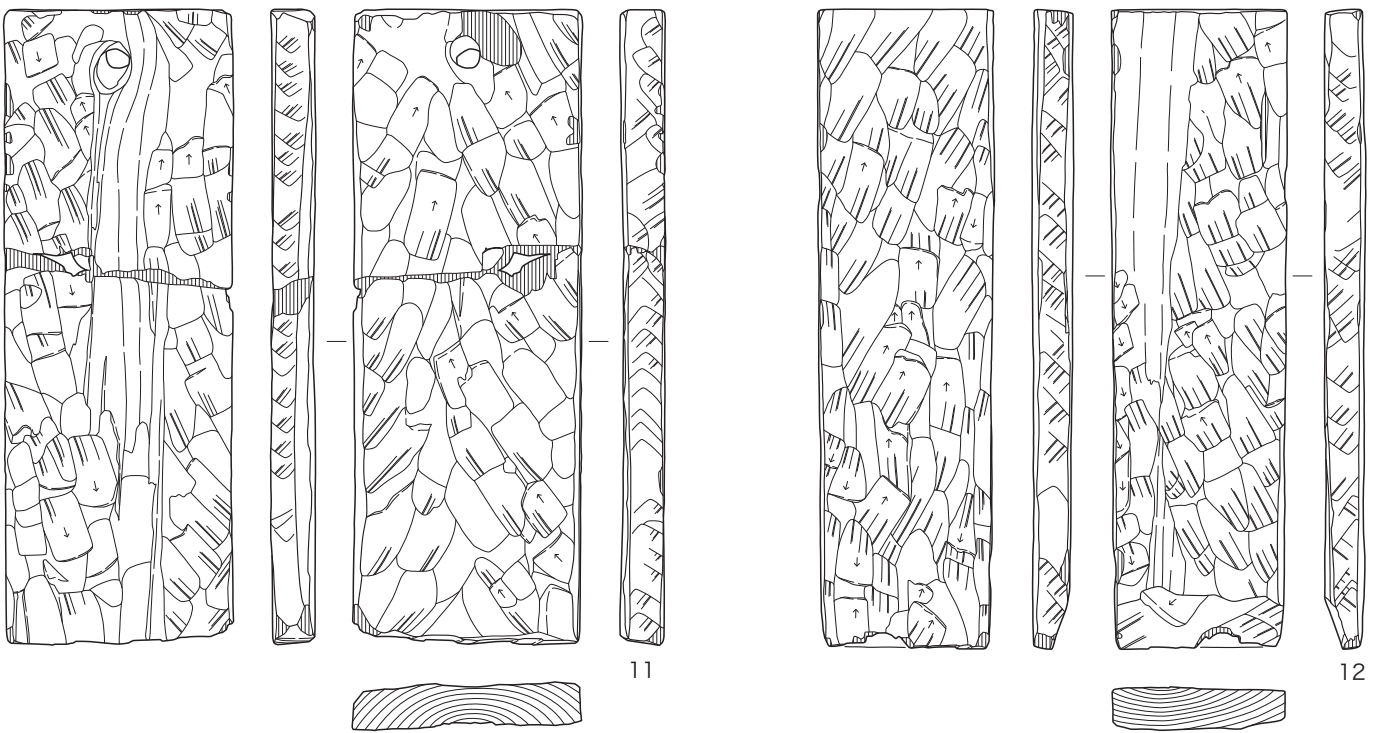
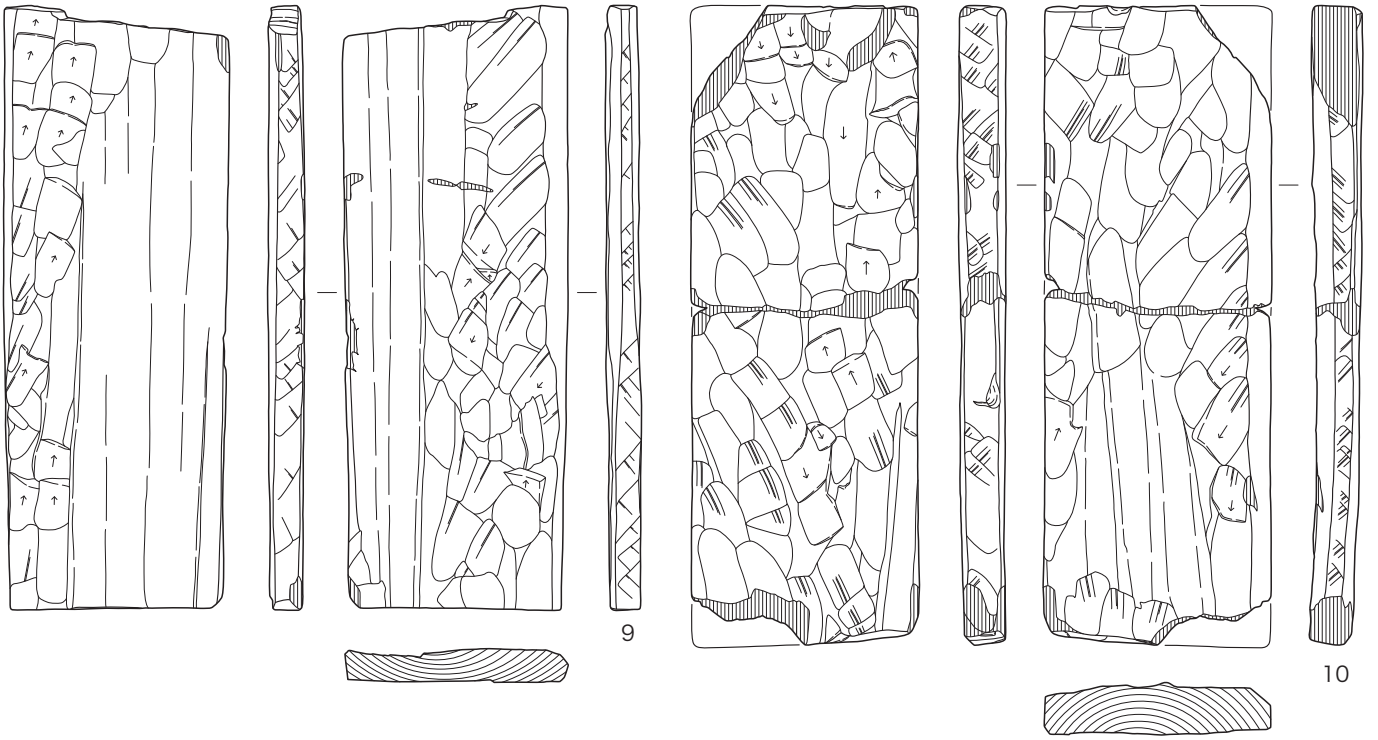
7. 杭(第251-252図)

SD084(30-50)

04Cb区部分の底中央に、溝の方向に平行して打ち込まれた状態で検出された。30-48は細い丸太材の先端部を尖らせたもので、大部分のものに表皮が残存している。49-50は太い丸太材を分割したもので先端を尖らせている。比較的大形の杭である。(酒井俊彦)

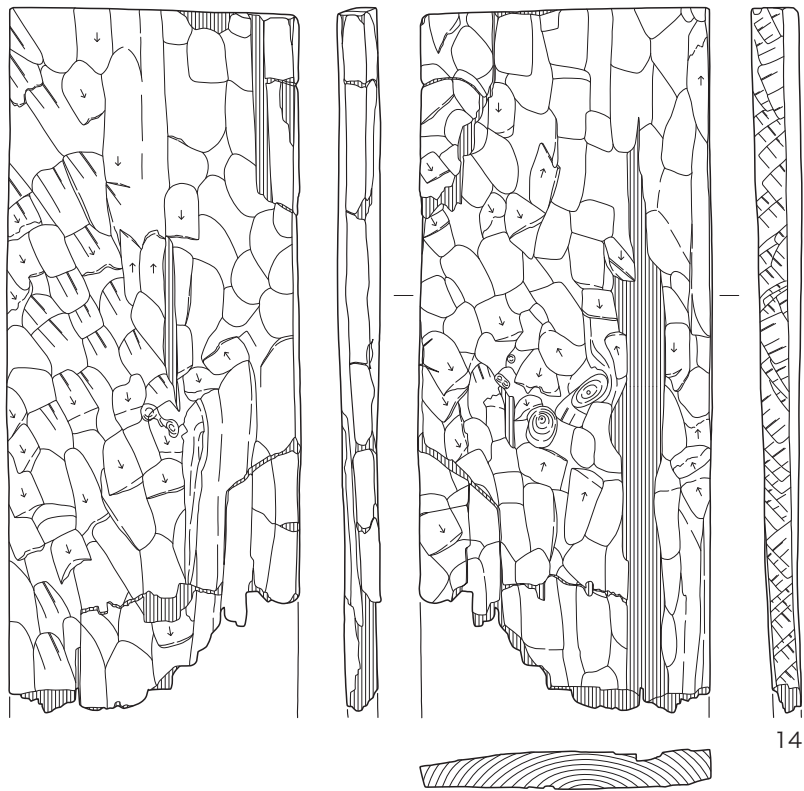
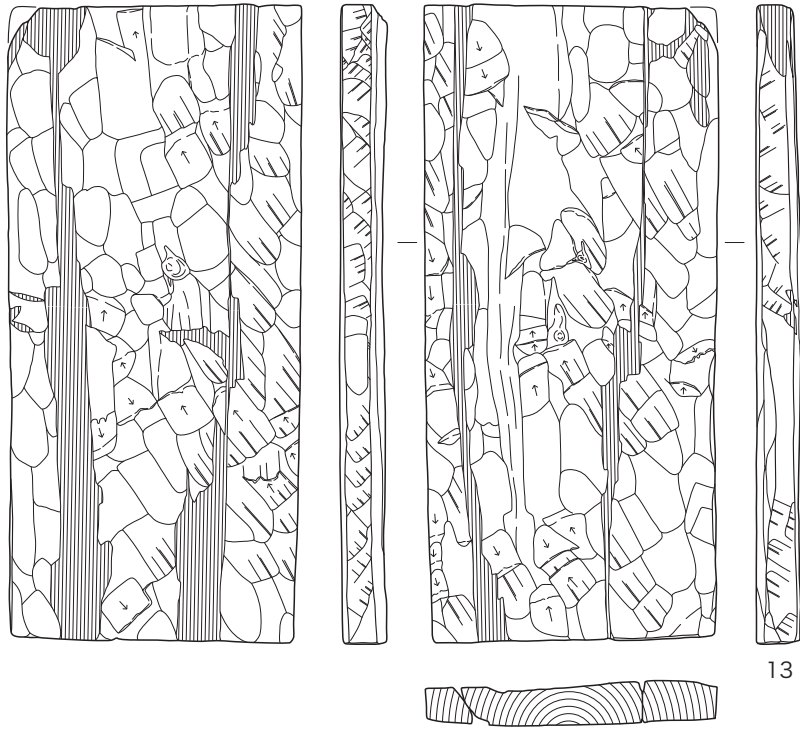


第244図 木製品(1)



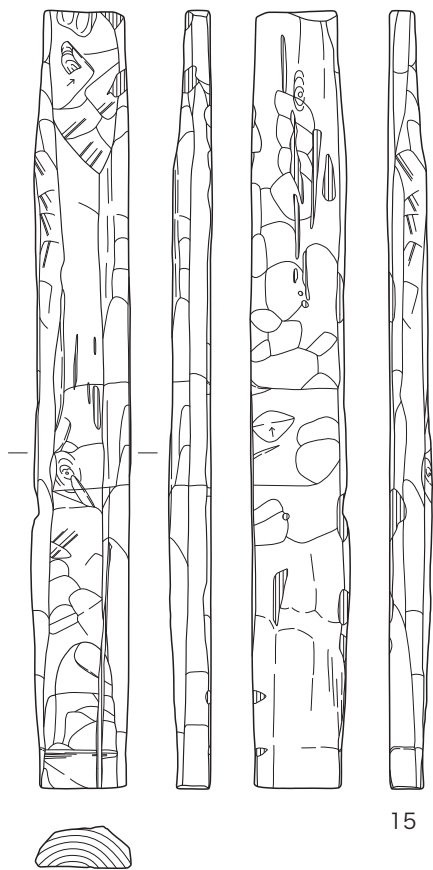
第245図 木製品(2)

0 (1:8) 40cm

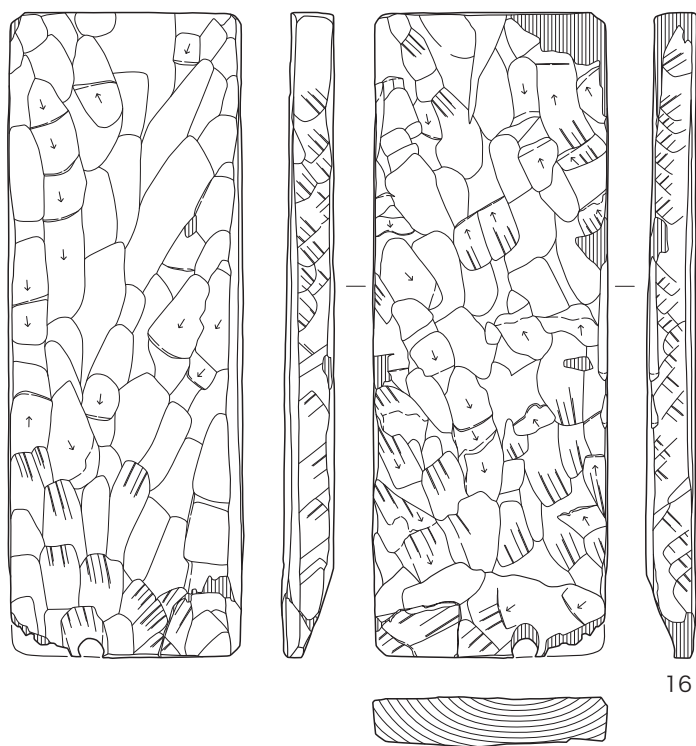


0 (1:8) 40cm

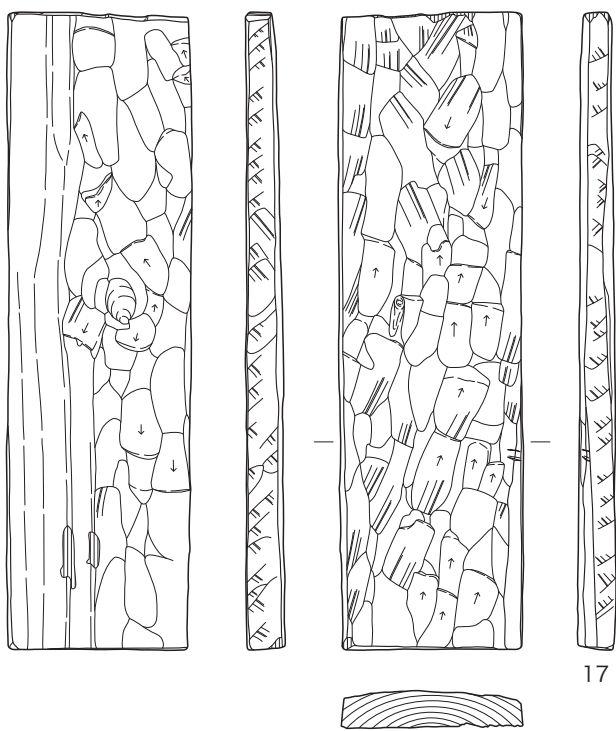
第246図 木製品(3)



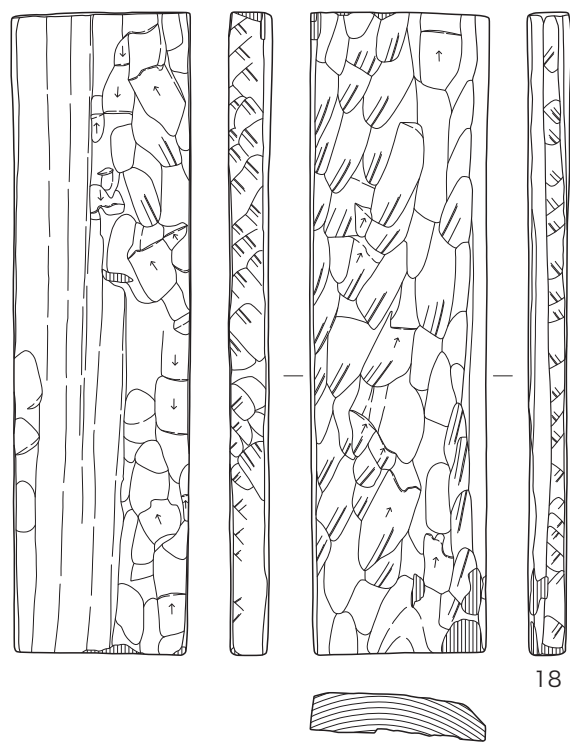
15



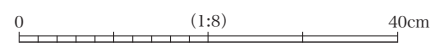
16



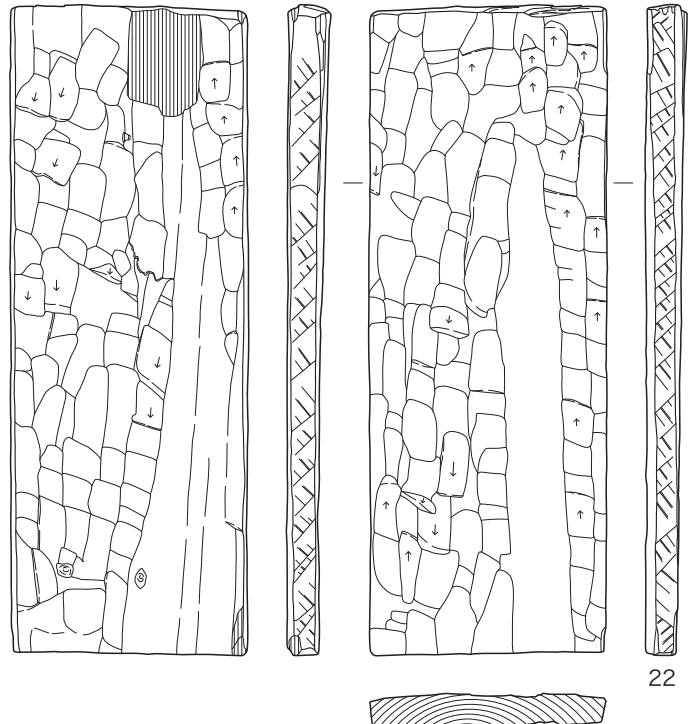
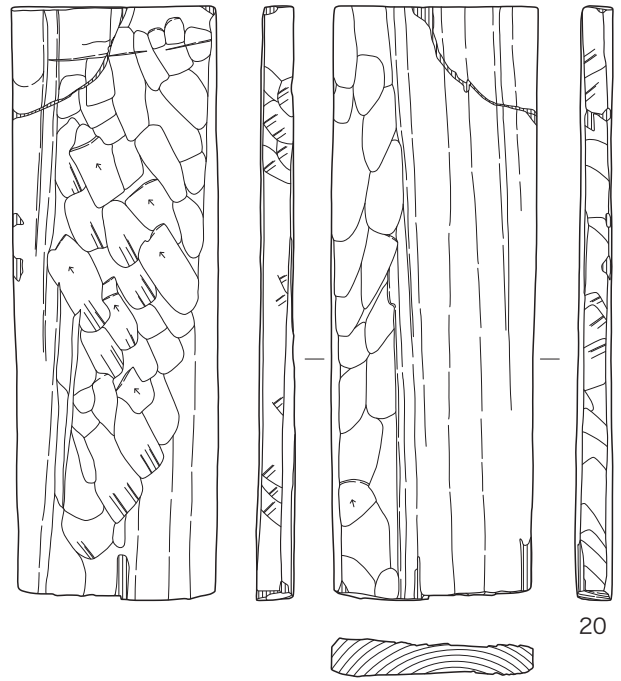
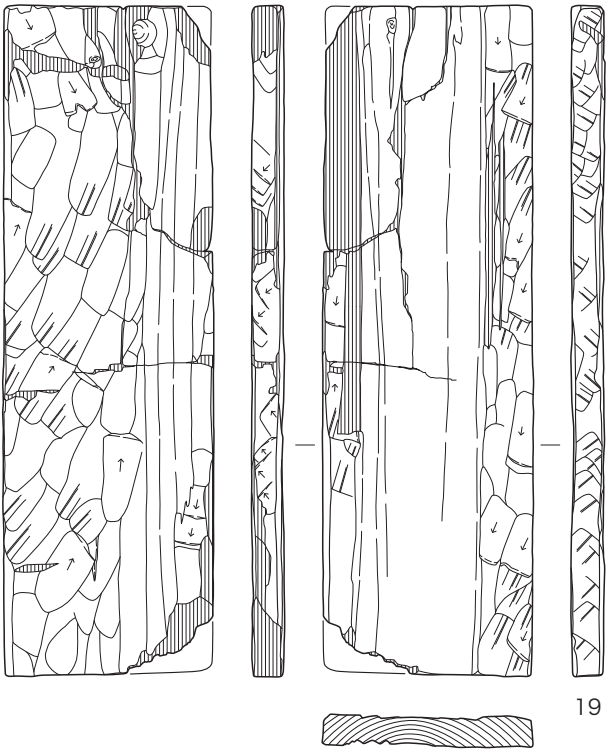
17



18

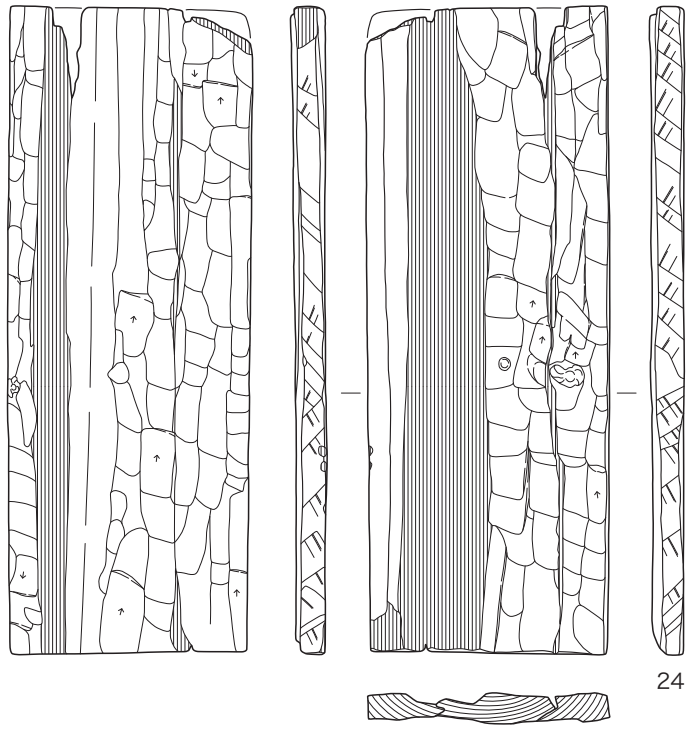
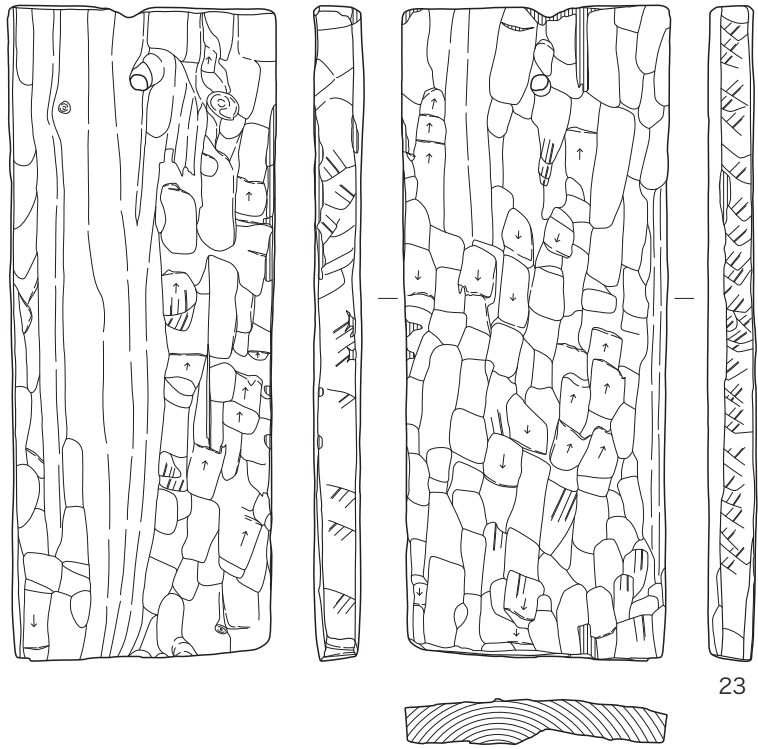


第247図 木製品(4)



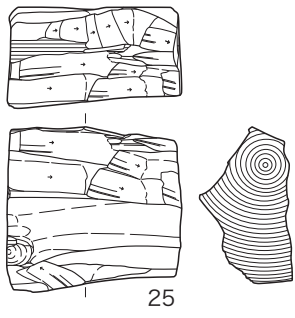
0 (1:8) 40cm

第248図 木製品(5)

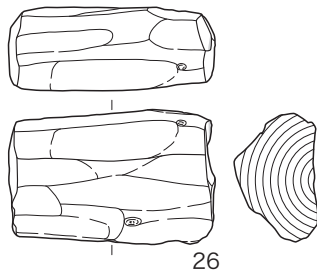


0 (1:8) 40cm

第249図 木製品(6)



25



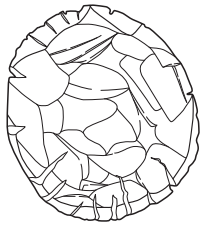
26



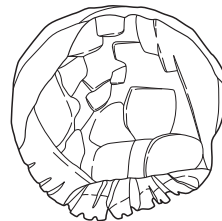
27



28

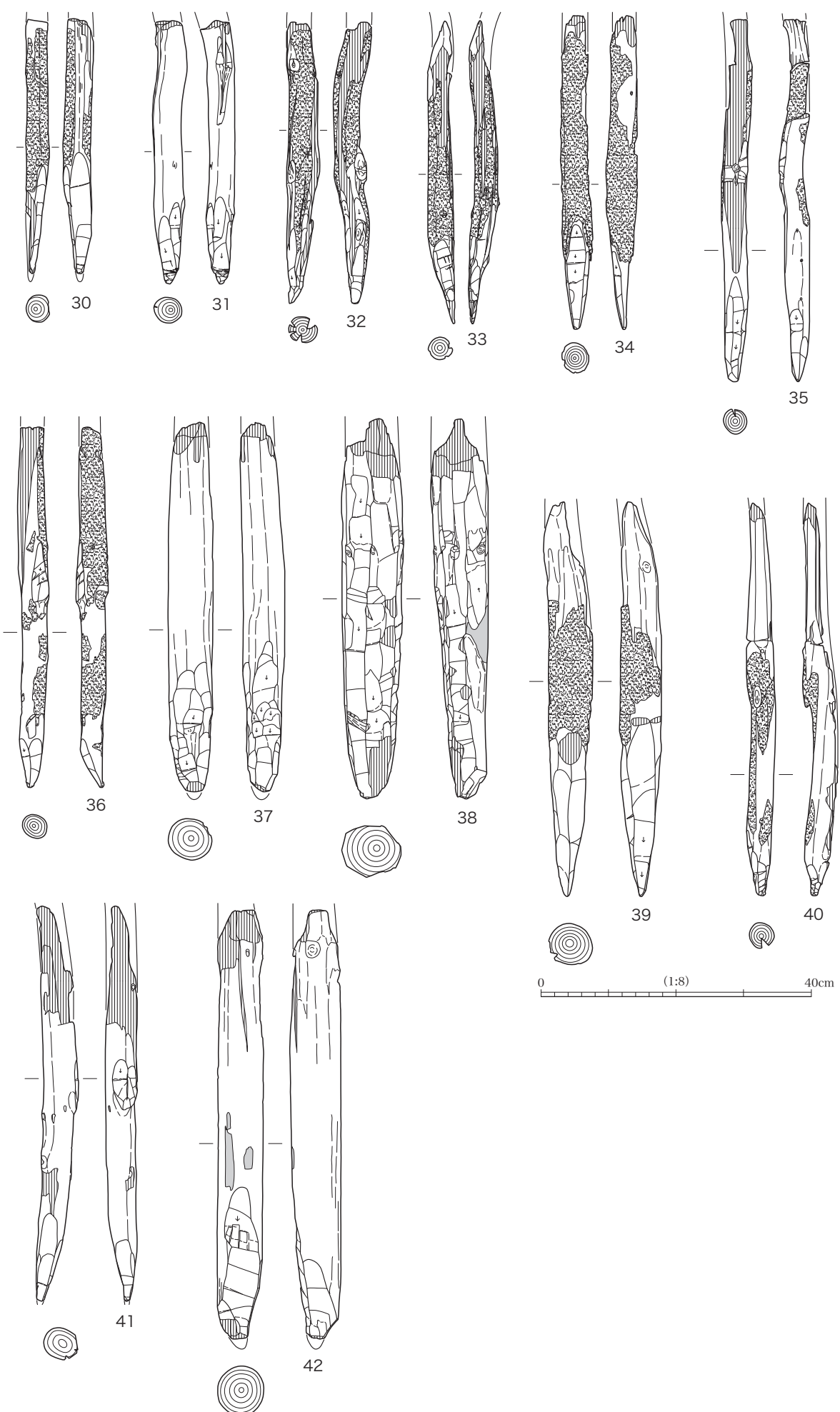


29

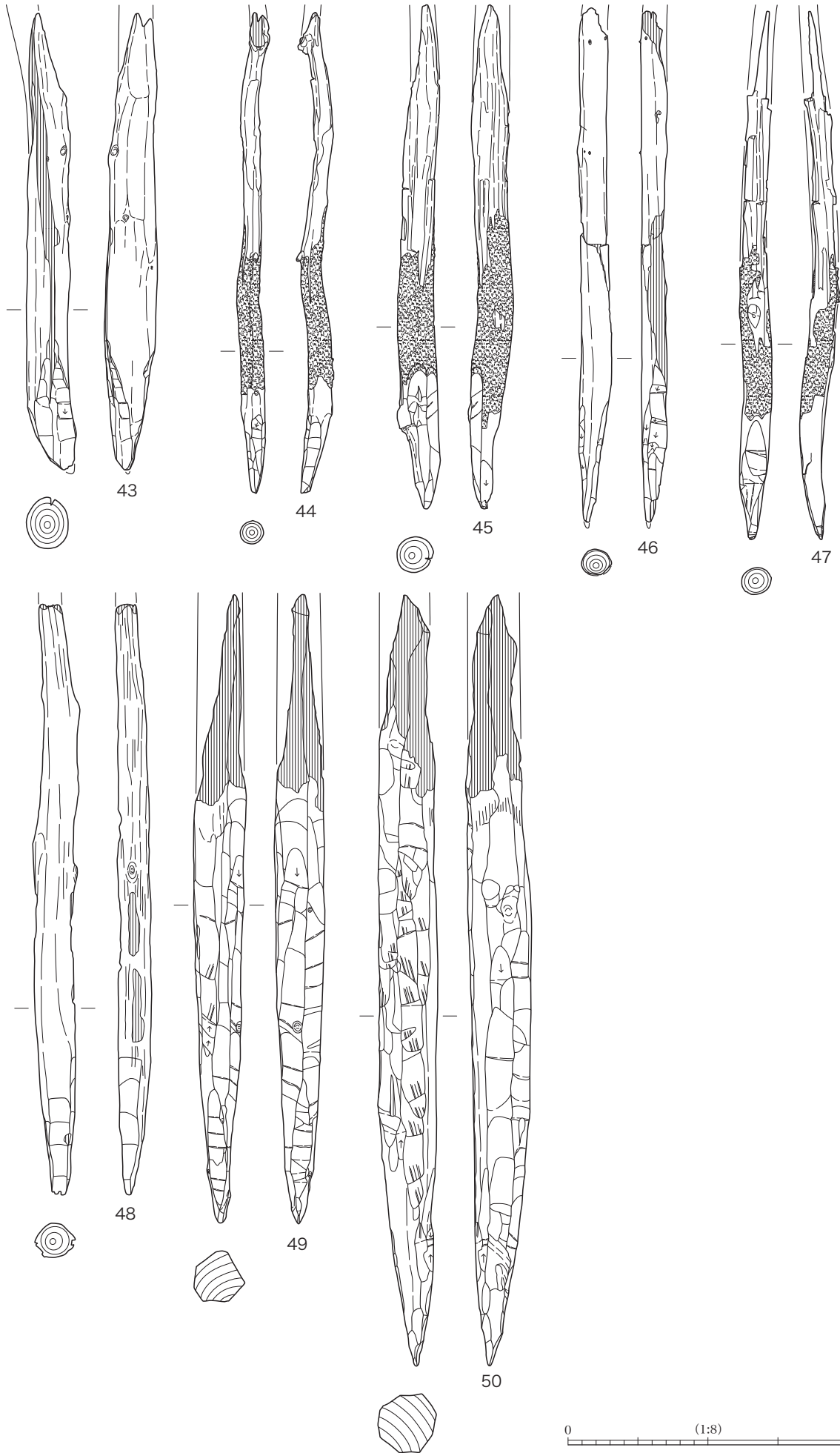


0 (1:8) 40cm

第250図 木製品(7)



第251図 木製品(8)



第5節 金属製品

1. 鉄鏃 (第247図)

遺構外から出土した(1-3)。1 3は先端部分、2は基部と考える。時期不明である。

2. 釘 (第247図)

遺構に伴うものとして、近世溝(4)、中世の土坑(7)がある。5 6は遺構に伴わない。4は頭部、5-7は先端部である。

3. 刀子 (第247図)

02B区SK200より、刀子基部(8)が出土した。古墳時代の可能性がある。

4. 包丁 (第247図)

9は身と基部の境界部分である。時期は不明である。

5. 鏡 (第247図)

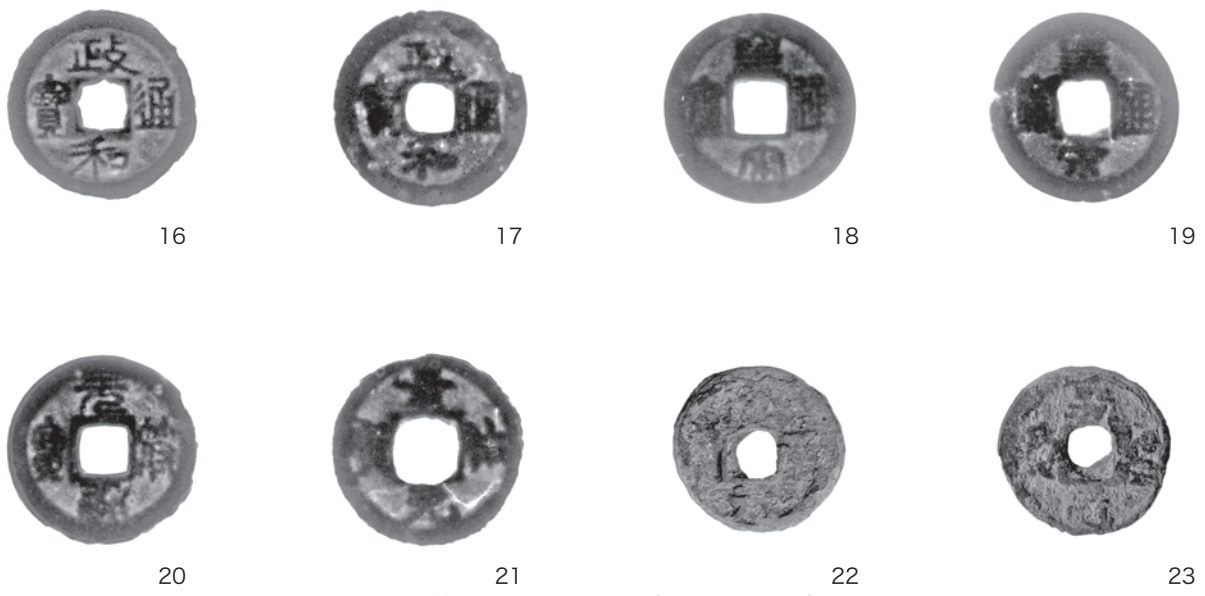
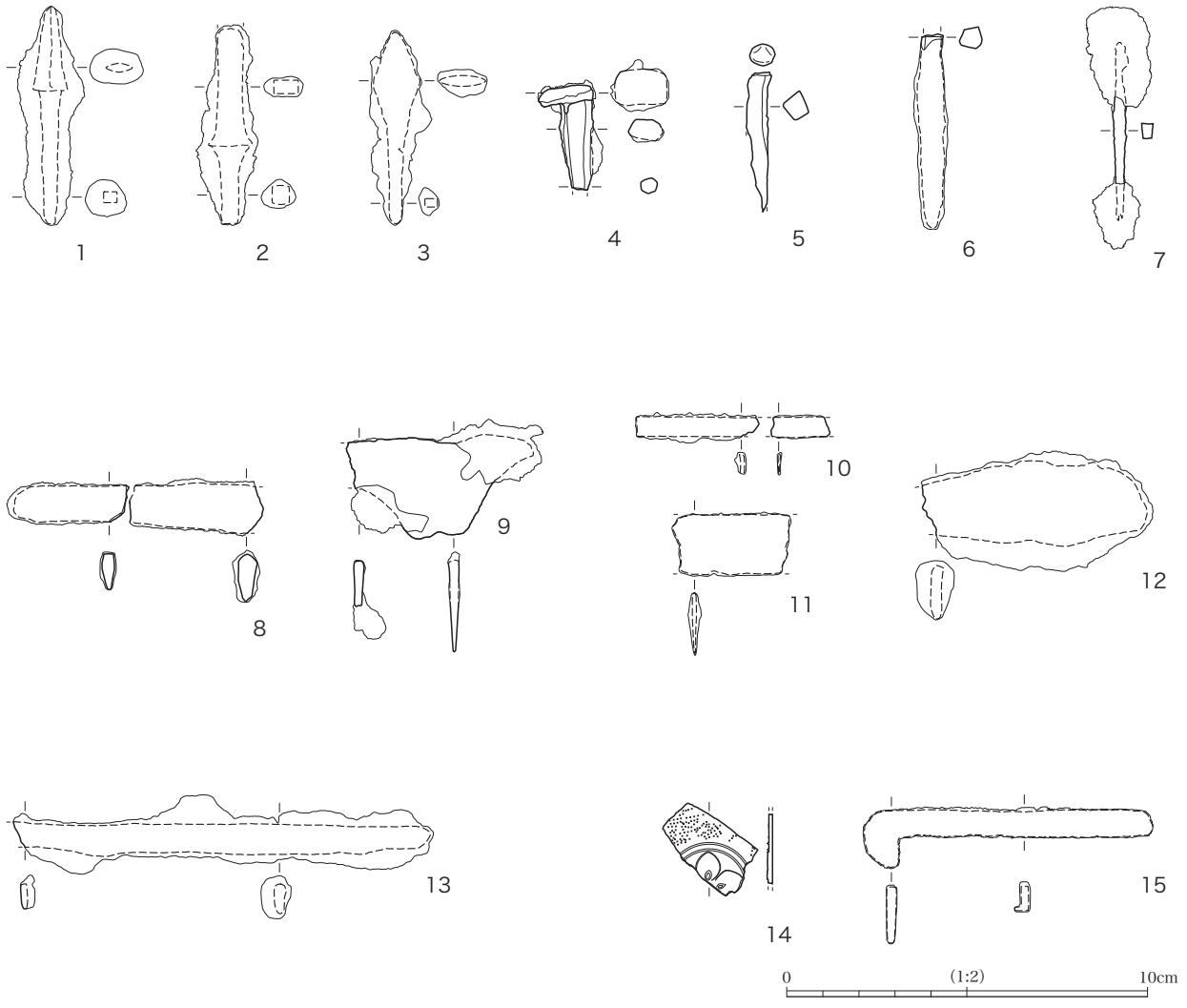
中世以降の鏡(14)と考えられる。

6. 銭貨 (第247図)

南部地区中世集落遺構および包含層から出土している。政和通宝(16 17) 皇宗通宝(18 19) 元□通宝(20) □裕元宝(21) □元□□(22) □□通宝(23)である。鑄銘不明を含め11世紀から13世紀の宗銭であると考ええる。

7. 不明 (第247図)

鉄製品(10-12)と銅製品(13)がある。鉄製品は棒状(10)と板状(11 12)のものがある。銅製品は屈曲した板状のものである。(酒井俊彦)



第 253 図 金属製品 (16 ~ 23 原寸)

第6節 その他の遺物

1. 玉類 (第254図)

玉類を一括する。ガラス小玉(2524 2526 2527)、管玉(2525)、勾玉(2528)が出土した。2524は古墳時代前期SB213より出土した。2525は溶結凝灰岩製で古墳時代前期SB245より出土した。2526 2527は00A区の南斜面包含層より出土した。古墳時代の時期と考える。2528は土製品で遺構に伴わないが、古墳時代と考える。(酒井俊彦)

2. 金属関連遺物 (第255図)

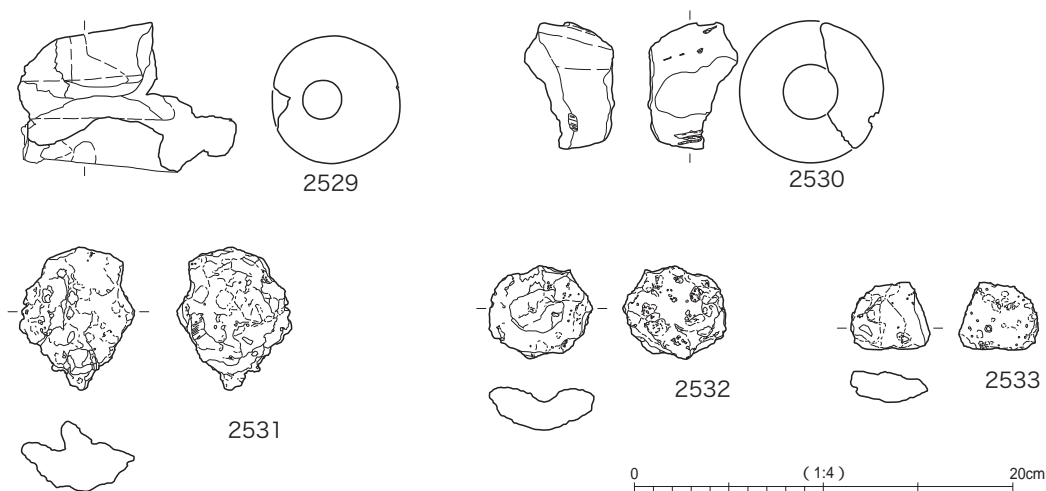
金属関連遺物には腕型鉄滓と羽口が存在する。

2529は古墳時代後期の01C区SB031から出土した羽口である。炉内に差し込まれる先端部はよく溶融していて表面が黒色から灰白色を呈しており、現状で滓はほとんど剥がれてしまっている。内径は約2.0cmを測り、製品表面の変色状況からみて、炉壁の厚さは3cmくらいと思われる。2530は戦国時代の溝SD053から出土した羽口で、先端部に近い部分が残存する。滓は付着せず灰色に変色した部分が認められる。胎土は2530と近似しており、所属時期は古くなる可能性も考えられる。羽口の具体的な用途については滓などが残存しないことから特定は難しい。

2531は04Ca区から出土した2分の1分割重複腕型鉄滓である。上面は中央が大きく凹み全体に凹凸が激しく、表面に白色礫や流動滓が付着している。下面は土砂の固着が激しいが、比較的平滑で気泡は少ないと思われる。2532は04Ca区SK21から出土した完形の腕型鉄滓である。上面は中央が大きく凹み表面に砂粒が付着している。下面は平滑だが一定量の気泡が認められる。2533は00A区南側斜面遺物包含層から出土した4分の1分割腕型鉄滓である。上面と下面ともに平滑で気泡は少ない。3点とも黒～黒灰色を呈しており質感が重いものである。これらの鉄滓は、形状と表面観察からみて鍛錬鍛冶に伴う滓と推定され、中世後期に属する資料と考えても矛盾はしないと思われる。(鈴木正貴)



第254図 玉類



第255図 金属関連遺物

第4章 自然科学的分析

第1節 山茶碗及び古瀬戸施釉陶器の胎土分析 (X線回折試験及び化学分析試験)

1. 実験条件

a. 試料

分析に供した試料は第2・3表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

b. X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製 JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度 :0.02°

計数時間 :0.5 秒。

c. 化学分析

元素分析は日本電子製 5300LV 型電子顕微鏡に 2001 型エネルギー分散型蛍 X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧 :15kV、分析 :スプリント法、分析倍率 :200 倍、分析有効時間 :100 秒、分析指定元素 10 元素で行った。

2. X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第2・3表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側に X線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

a. 組成分類

1) Mont-Mica-Hb 三角ダイヤグラム

第256図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの3成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) の X線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%) で表示する。

モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$ でパーセントとして求め、同様に Mica、Hb も計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1～4は Mont、Mica、Hb の3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2) Mont-Ch Mica-Hb 菱形ダイヤグラム

第 257 図に示すように菱形ダイアグラムを 1～19 に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は 20 として別に検討した。

モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch) の内、

a)3 成分以上含まれない、b)Mont,Ch2 成分が含まれない、

c)Mica,Hb の 2 成分が含まれない、の 3 例がある。

菱形ダイアグラムは Mont-Ch, Mica-Hb の組合せを表示するものである。

Mont-Ch,Mica-Hb のそれぞれの X 線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎に % で表すもので、例えば、 $\text{Mont}/\text{Mont}+\text{Ch} \times 100$ と計算し、Mica,Hb,Ch も各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある 1～7 は Mont,Mica,Hb,Ch の 4 成分を含み、各辺は

Mont,Mica,Hb,Ch のうち 3 成分、各頂点は 2 成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第 2 図に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法 (10 元素全体で 100% になる) で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて SiO₂-Al₂O₃ 図、Fe₂O₃-TiO₂ 図、K₂O-CaO 図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

3.X 線回折試験結果

a. タイプ分類

第 2・3 表胎土性状表には惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器が記載してある。

第 6 表タイプ分類表に示すように土器は A タイプのみが検出された。

A タイプ: Mont,Mica,Hb,Ch の 4 成分にかける。

高温で焼成されているために鉱物は分解してガラスに変質している。

検出されたタイプは全て A タイプである。山茶碗・古瀬戸施釉陶器は高温で焼成されているために鉱物が分解してガラスに変質しているためである。

b. 石英 (Qt)- 斜長石 (Pl) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第 258 図 Qt-Pl 図に示すように Qt の強度が小の領域から大の領域にかけて 3 グループと "その他" に分類された。

Qt:1-Qt が 1350～2800、Pl が 60～90 の領域に分布する。

Qt:2-Qt が 2850～4250、Pl が 50～75 の領域に分布する。

Qt:3-Qt が 4400～5400、Pl が 45～55 の領域に分布する。

"その他" 巡間 E-14 は Pl が 110 + と高く異質である。

4. 化学分析結果

第 4・5 表化学分析表には惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器が記載してある。

分析結果に基づいて第 259 図 SiO₂-Al₂O₃ 図、第 260 図 Fe₂O₃-TiO₂ 図、第 261 図 K₂O-CaO 図を作成した。

a.Si-O₂-Al₂O₃ の相関について

第 259 図 SiO₂-Al₂O₃ 図を基準として、惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器を、I～IV の 6 タイプに分類した。

タイプ I: SiO₂ が 63～66%、Al₂O₃ が 24～30% の領域に分布する。

タイプ II: SiO₂ が 66～69%、Al₂O₃ が 23～26% の領域に分布する。

タイプ III: SiO₂ が 69.5～72%、Al₂O₃ が 20～24.5% の領域に分布する。

タイプ IV: SiO₂ が 71.4～74%、Al₂O₃ が 18.5～22% の領域に分布する。

タイプ V: SiO₂ が 73.5～75.5%、Al₂O₃ が 17.5～20.5% の領域に分布する。

タイプ VI: SiO₂ が 75.5～79%、Al₂O₃ が 15～19% の領域に分布する。

b.4-2 Fe₂O₃-TiO₂ の相関について

第 260 図 Fe₂O₃-TiO₂ 図に示すように、Fe₂O₃ の領域によって、惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器は Fe₂O₃:1～Fe₂O₃:2 の 2 タイプに分類した。

Fe₂O₃:1-Fe₂O₃ が 1.15～2.77%、TiO₂ が 0.65～1.6% の領域に分布する。

Fe₂O₃:2-Fe₂O₃ が 3.0～3.9%、TiO₂ が 1.13～1.7% の領域に分布する。

"その他" 惣作鐘場 -4 は Fe₂O₃ が 5.49 と高く異質である。

c.K₂O-CaO 図の相関について

第 261 図 K₂O-CaO 図に示すように K₂O と CaO の値によって 1～3 の 3 グループと "その他" に分類した。

K₂O:1-K₂O が 2.0～2.7%、CaO が 0.02～0.07% の領域に分布する。

K₂O:2-K₂O が 2.3～3.85%、CaO が 0～3.2% の領域に分布する。

K₂O:3-K₂O が 2.74～3.85%、CaO が 0.04～0.17% の領域に分布する。

'その他' 惣作鐘場 -4 は CaO が 0.19、巡間 E-48 は CaO が 0.19、神事池 -9 は CaO が 0.27 と CaO の値が高く異質である。笠松東 -3 は K₂O が 4.22 と高く異質である。

5. 組成分類

X 線回折試験と蛍光 X 線分析結果に基づいて、惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器を第 6 表タイプ分類表と第 7 表組成分類表に示すように分類した。

1) 第 6 表タイプ分類表に示すように、高温で焼成されているため鉱物は分解してガラスに変質し、すべては A タイプになっている。

2) 第 258 図 Qt-Pl 図に示すように、Qt: 小の領域から Qt: 大の領域に向かって 3 タイプに分類された。

3) 第 259 図 SiO₂-Al₂O₃ 図の相関の分析結果からタイプ。～Ⅶの 6 タイプに分類し、この 6 タイプと第 258 図 Qt-Pl 図に示すように、Qt: 小の領域から Qt: 大の領域に向かって 3 タイプと第

260 図 Fe₂O₃-TiO₂ 図との関連を見たものが第 7 表組成分類表である。第 7 表に示すように、惣作鐘場遺跡、巡間 E 遺跡より出土した土器と暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡から出土した土器の組成分類では 20 タイプに分類された。

4) 第 6 表の基に各タイプについて詳述する。

1「タイプ I:Qt-2・Fe₂O₃・2」惣作鐘場 -24 の山茶碗。

2「タイプ I:Qt-2・Fe₂O₃・3」惣作鐘場 -4 の山茶碗。

3「タイプ I:Qt-3・Fe₂O₃・3」惣作鐘場 -16,19,21,23 の山茶碗。

4「タイプ II:Qt-1・Fe₂O₃・2」巡間 E-22 の山茶碗。

5「タイプ II:Qt-2・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -1,12,13 の山茶碗、惣作鐘場 -25 の古瀬戸施釉陶器。

6「タイプ II:Qt-2・Fe₂O₃・2」笠松東 -3 の山茶碗。

7「タイプ II:Qt-3・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -6 の山茶碗。

8「タイプ II:Qt-3・Fe₂O₃・2」笠松東 -2 の山茶碗。

9「タイプ III:Qt-1・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -15,20 の山茶碗。

10「タイプ III:Qt-2・Fe₂O₃・2」惣作鐘場 -7 の山茶碗。

11「タイプ III:Qt-2・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -8,10,11,14,17,22、の山茶碗巡間 E-35 の古瀬戸施釉陶器、笠松東 -6,9 の山茶碗。

12「タイプ IV:Qt-1・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -33,36,39 の古瀬戸施釉陶器、巡間 E-8 の山茶碗、巡間 E-30,32,37,39,40,44,43,44,45 の古瀬戸施釉陶器、笠松東 -1 と神事池 -10 の山茶碗。

13「タイプ IV:Qt-2・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -3,5 の山茶碗、惣作鐘場 -29,40 の古瀬戸施釉陶器、巡間 E-2,3,4 の山茶碗、巡間 E-34,36,42 の古瀬戸施釉陶器、暁 -9 と神事池 -8,9 の山茶碗。

14「タイプ IV:Qt-2・Fe₂O₃・2」巡間 E-11 の山茶碗。

15「タイプ IV:Qt-3・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -32 と巡間 E-29 の古瀬戸施釉陶器。

16「タイプ V:Qt-1・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -2,9 の山茶碗、惣作鐘場 -31,34,38 の古瀬戸施釉陶器、巡間 E-5,6,7,9,12,13,15,16,17,18,19,20,21 の山茶碗、巡間 E-24,25,26,27,46,47,48 の古瀬戸施釉陶器、暁 -1,5,7、笠松東 -5,8,10、神事池 -1,2,4,5,7 の山茶碗。

17「タイプ V:Qt-2・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -18 の山茶碗、惣作鐘場 -26,27,37 の古瀬戸施釉陶器、巡間 E-1 の山茶碗、巡間 E-31,33,38 の古瀬戸施釉陶器、暁 -2,3,4,6,10 の山茶碗。

18「タイプ V:Qt-4・Fe₂O₃・1」巡間 E-14 の山茶碗。

19「タイプ VI:Qt-1・Fe₂O₃・1」惣作鐘場 -28,35,39 の古瀬戸施釉陶器、巡間 E-23,28,41 の古瀬戸施釉陶器、笠松東 -4,7、神事池 -3 の山茶碗。

20「タイプ VI:Qt-2・Fe₂O₃・1」巡間 E-10、暁 -8、神事池 -6 の山茶碗。

6. まとめ

第7表を分類された個体数の多いタイプで並べ替えると第8表組成分類表のようになる。

1)16「タイプ V:Qt-1・Fe2O3・1」のタイプは最も多く検出されたタイプで、巡間E遺跡の山茶碗と惣作鐘場遺跡の山茶碗、巡間E遺跡の古瀬戸施釉陶器と惣作鐘場遺跡の古瀬戸施釉陶器が含まれており、巡間E遺跡の土器と惣作鐘場遺跡の土器との関連性が認められる。暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡の各窯跡の山茶碗も同じ組成を示す。13「タイプ、:Qt-2・Fe2O3・1」・17「タイプ、:Qt-2・Fe2O3・1」のタイプも山茶碗と古瀬戸施釉陶器の組み合わせで同じ傾向を示す。

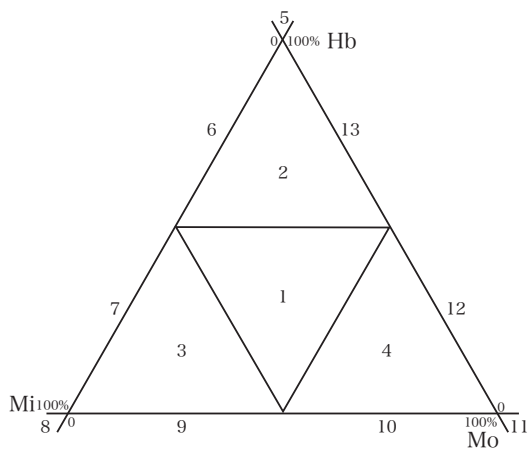
2)12「タイプ IV:Qt-1・Fe2O3・1」は巡間E遺跡の古瀬戸施釉陶器と惣作鐘場遺跡の古瀬戸施釉陶器が同じ組成で、明らかに1)の山茶碗と古瀬戸施釉陶器の組み合わせとは異なる傾向を示す。

3)11「タイプ III:Qt-2・Fe2O3・1」は惣作鐘場遺跡の山茶碗と笠松東窯跡の山茶碗が含まれ、両者の関連性が窺われる。

4)3「タイプ、I:Qt-3・Fe2O3・2」・5「タイプ「:Qt-2・Fe2O3・1」の2つは異なるタイプであるが惣作鐘場遺跡出土の山茶碗で、両者とも今回分析した窯跡の胎土とは異なる。他の窯跡か時期が異なるのかなど異なる要因があると判断される。

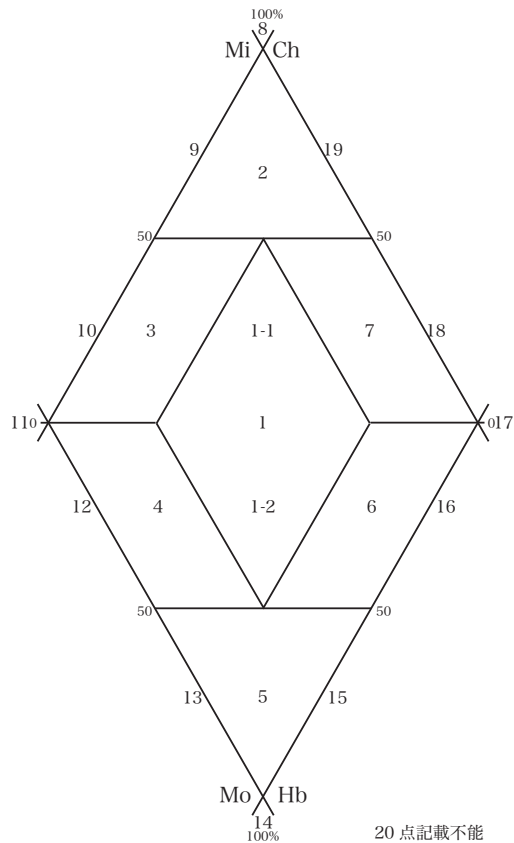
5)分類したものの中で1個あるいは2個の個体数しかないものは組成がそれぞれ異なり、よくわからないものである。

6)暁窯跡、笠松東窯跡、神事池窯跡の各窯跡の山茶碗は各々がひとつのタイプを示すものではなく、分散する傾向が認められ、各窯跡の試料共に複数の時期あるいは複数の窯の試料が混在しているなど他の要因が含まれているように見受けられる。(第四紀地質研究所 井上 巖)



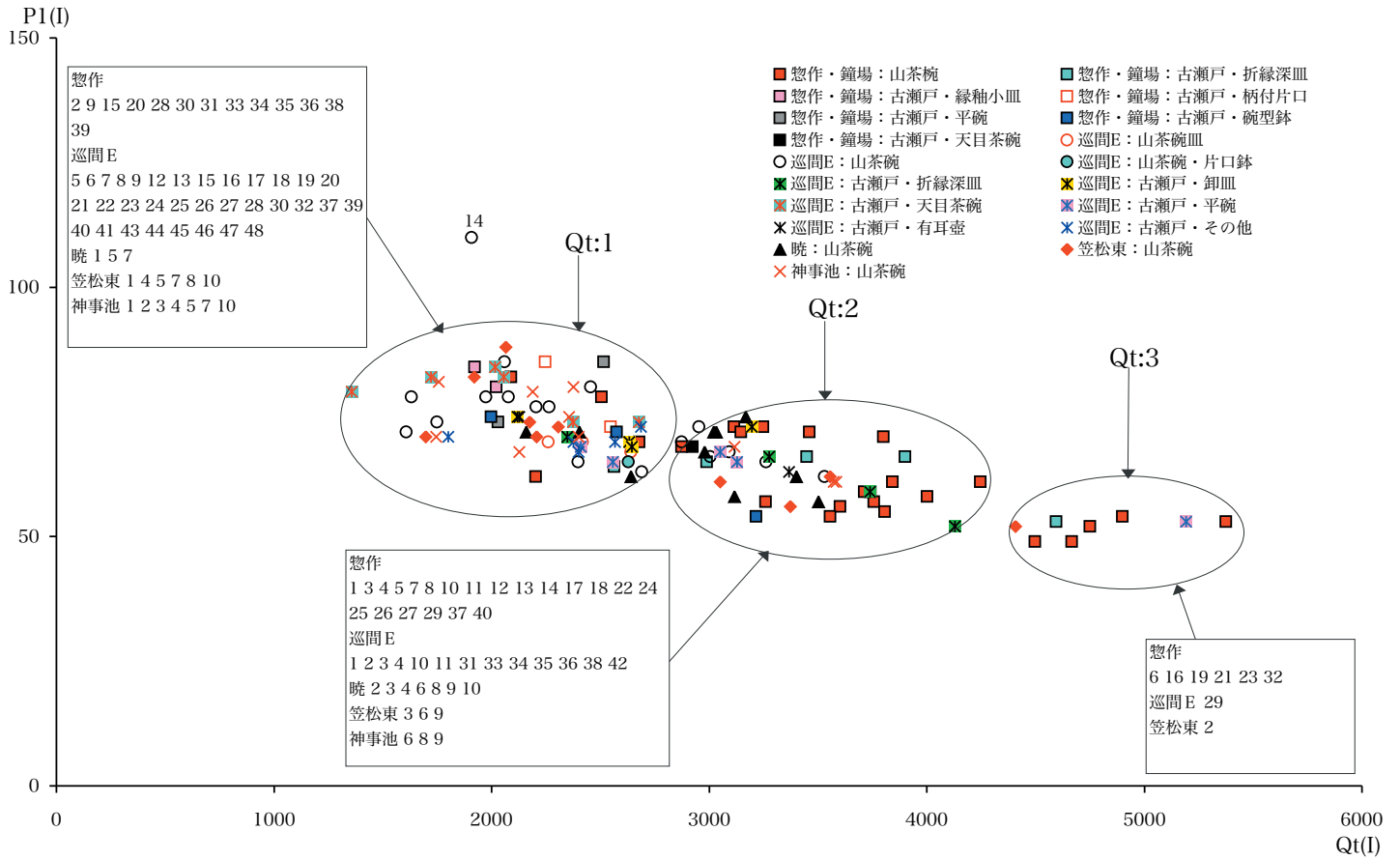
第 256 図 三角ダイアグラム位置分類図

14点記載不能

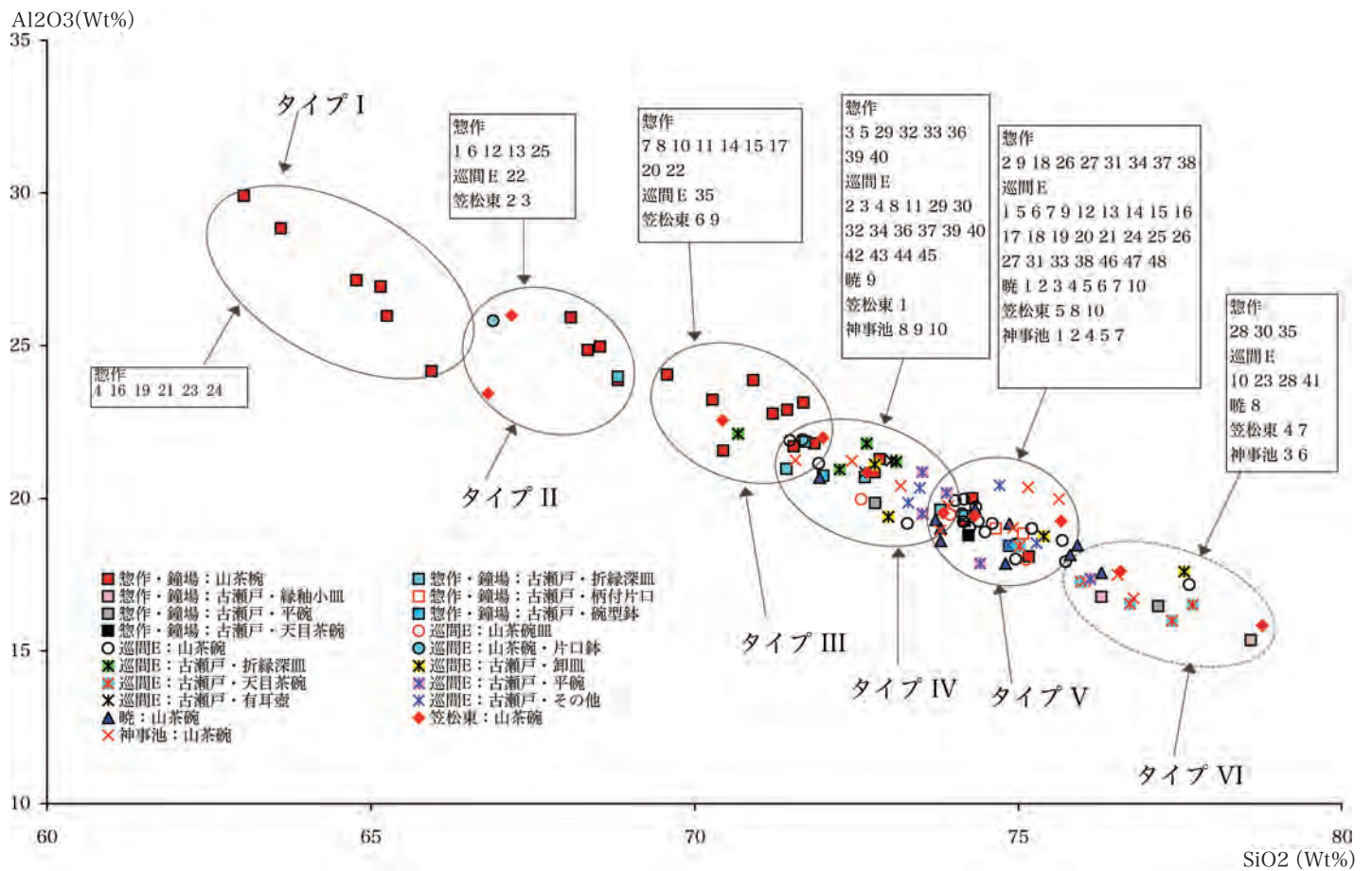


第 257 図 菱形ダイアグラム位置分類図

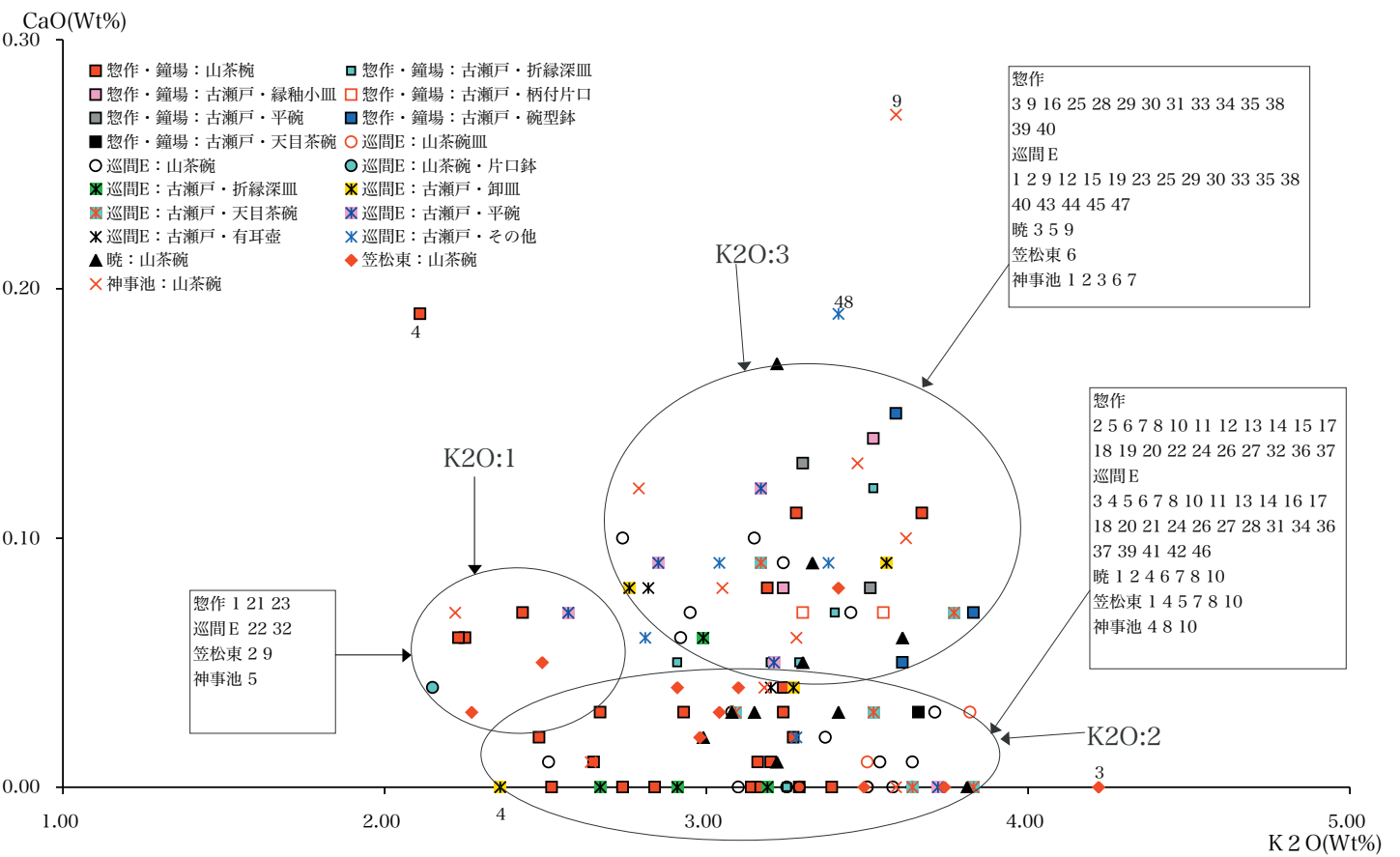
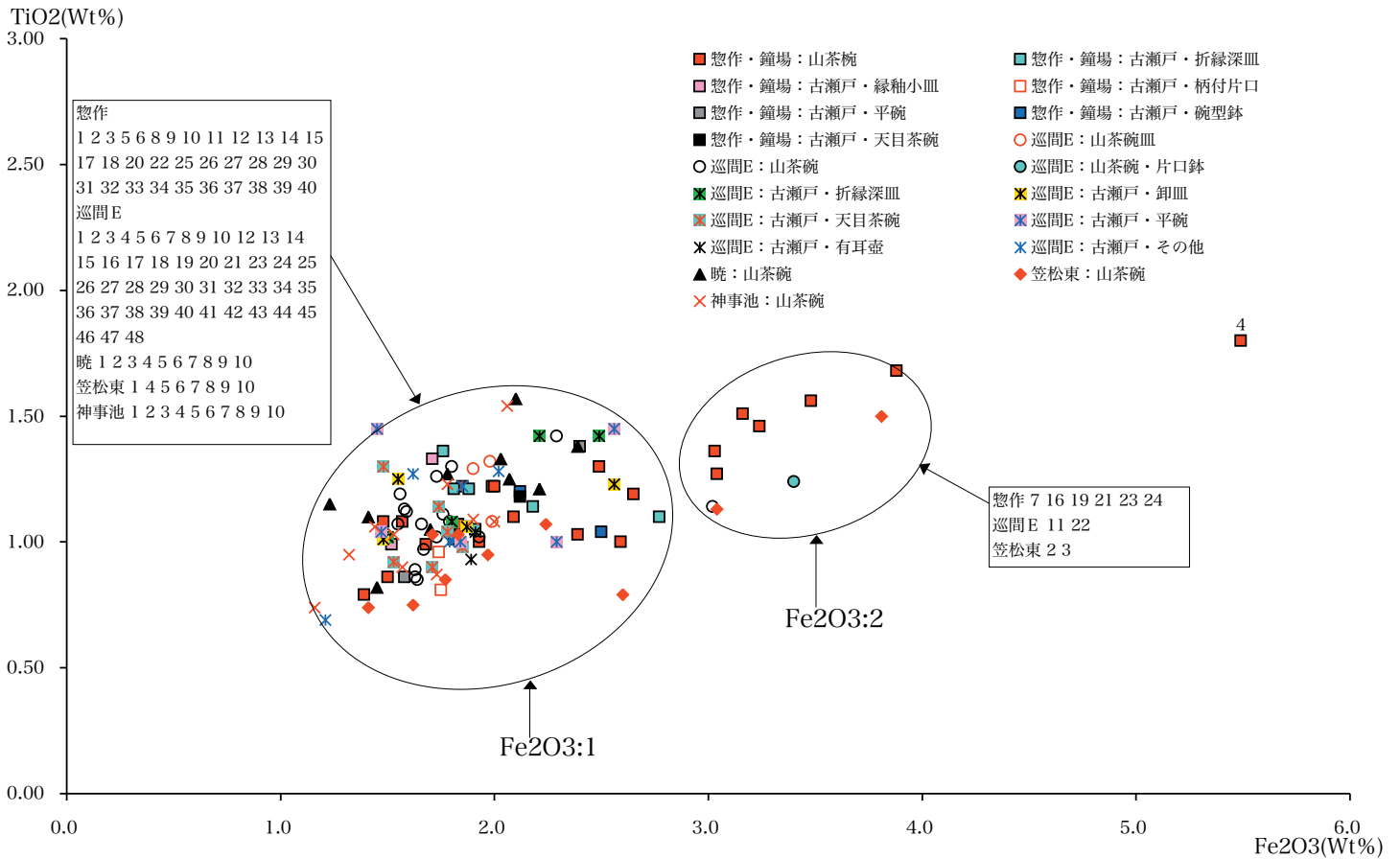
20点記載不能



第 258 図 Qt-P1 図



第 259 図 SiO₂-Al₂O₃ 図



試料 No	タイプ 分類	組成分類		粘土鉱物および造岩好物					種別	器形	型式
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels			
惣作-1	A	14	20	4001	58	101	139		山茶碗	碗	9型式
惣作-2	A	14	20	2090	82	704	167		山茶碗	碗	9型式
惣作-3	A	14	20	3460	71	264	134		山茶碗	皿	9型式
惣作-4	A	14	20	4246	61	262	162		山茶碗	碗	9型式
惣作-5	A	14	20	3115	72	434	158		山茶碗	碗	9型式
惣作-6	A	14	20	4900	54	132	111	89	山茶碗	碗	9型式
惣作-7	A	14	20	3259	57	225	131	86	山茶碗	碗	9型式
惣作-8	A	14	20	3843	61	222	134		山茶碗	碗	9型式
惣作-9	A	14	20	2506	78	158	145	95	山茶碗	碗	9型式
惣作-10	A	14	20	3248	72	160	142		山茶碗	碗	9型式
惣作-11	A	14	20	3601	56	77	133		山茶碗	碗	9型式
惣作-12	A	14	20	3807	55	93	123	135	山茶碗	碗	9型式
惣作-13	A	14	20	3757	57	90	127		山茶碗	碗	9型式
惣作-14	A	14	20	3713	59	86	131		山茶碗	碗	9型式
惣作-15	A	14	20	2679	69	124	138	89	山茶碗	碗	9型式
惣作-16	A	14	20	5376	53	63	84		山茶碗	碗	9型式
惣作-17	A	14	20	3146	71	321	133		山茶碗	碗	9型式
惣作-18	A	14	20	2874	68	96	130		山茶碗	碗	9型式
惣作-19	A	14	20	4750	52	66	58		山茶碗	碗	9型式
惣作-20	A	14	20	2203	62	159	163	84	山茶碗	碗	9型式
惣作-21	A	14	20	4667	49	121	123		山茶碗	碗	9型式
惣作-22	A	14	20	3801	70	371	160	73	山茶碗	碗	9型式
惣作-23	A	14	20	4497	49	70	109		山茶碗	碗	9型式
惣作-24	A	14	20	3556	54	78	114	80	山茶碗	碗	9型式
惣作-25	A	14	20	3216	54	103	134		古瀬戸	碗型鉢	後1・2
惣作-26	A	14	20	2990	65	124	122		古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-27	A	14	20	3741	59	89	129		古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-28	A	14	20	1923	84	311	158		古瀬戸	緑釉小皿	後1
惣作-29	A	14	20	3900	66	72	122		古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-30	A	14	20	2022	80	360	149	97	古瀬戸	緑釉小皿	後1
惣作-31	A	14	20	2548	72	150	154		古瀬戸	柄付片口	後1
惣作-32	A	14	20	4595	53	67	90		古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-33	A	14	20	2030	73	392	158	98	古瀬戸	平碗	後1
惣作-34	A	14	20	2247	85	227	176	89	古瀬戸	柄付片口	後1
惣作-35	A	14	20	2515	85	191	141		古瀬戸	平碗	後1
惣作-36	A	14	20	2564	64	202	155		古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-37	A	14	20	2924	68	140	179		古瀬戸	天目茶碗	後1
惣作-38	A	14	20	2575	71	119	142		古瀬戸	碗型鉢	後1・2
惣作-39	A	14	20	1998	74	306	153		古瀬戸	盤	後1
惣作-40	A	14	20	3448	66	96	135	80	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-1	A	14	20	2954	72	828	14		山茶碗	碗	9型式
巡間E-2	A	14	20	3530	62	620	116		山茶碗	碗	9型式
巡間E-3	A	14	20	3262	65	169	130		山茶碗	碗	9型式
巡間E-4	A	14	20	3092	67	175	148	90	山茶碗	碗	9型式
巡間E-5	A	14	20	2399	65	410	148		山茶碗	碗	9型式
巡間E-6	A	14	20	1631	78	782	130	88	山茶碗	碗	9型式
巡間E-7	A	14	20	2261	69	324	133	86	山茶碗	皿	9型式
巡間E-8	A	14	20	2641	67	251	137		山茶碗	皿	9型式
巡間E-9	A	14	20	2265	76	621	153		山茶碗	碗	9型式
巡間E-10	A	14	20	3004	66	1091	134		山茶碗	碗	9型式
巡間E-11	A	14	20	2873	69	768	118		山茶碗	碗	9型式
巡間E-12	A	14	20	1608	71	844	164		山茶碗	碗	9型式
巡間E-13	A	14	20	2690	63	674	139	87	山茶碗	碗	9型式
巡間E-14	A	14	20	1908	110	910	152		山茶碗	碗	9型式
巡間E-15	A	14	20	1750	73	401	163		山茶碗	碗	9型式
巡間E-16	A	14	20	2059	85	571	147		山茶碗	碗	9型式
巡間E-17	A	14	20	2417	69	374	124		山茶碗	皿	9型式
巡間E-18	A	14	20	1974	78	357	167	86	山茶碗	碗	9型式
巡間E-19	A	14	20	2077	78	565	162	84	山茶碗	碗	9型式
巡間E-20	A	14	20	2455	80	602	161		山茶碗	碗	9型式
巡間E-21	A	14	20	2205	76	824	144	101	山茶碗	碗	9型式
巡間E-22	A	14	20	2629	65	419	216	75	山茶碗	片口鉢	9型式
巡間E-23	A	14	20	2374	73	396	163		古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-24	A	14	20	2055	82	507	166		古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-25	A	14	20	1358	79	620	186		古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-26	A	14	20	2677	73	382	150	92	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-27	A	14	20	2016	84	432	162		古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-28	A	14	20	1721	82	574	176		古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-29	A	14	20	5193	53	65	84		古瀬戸	平碗	後1
巡間E-30	A	14	20	2409	68	734	151	72	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-31	A	14	20	3129	65	126	132		古瀬戸	平碗	後1
巡間E-32	A	14	20	2558	65	364	148	83	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-33	A	14	20	3051	67	199	159		古瀬戸	平碗	後1
巡間E-34	A	14	20	3276	66	194	135		古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-35	A	14	20	4129	52	73	126	87	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-36	A	14	20	3740	59	73	134		古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-37	A	14	20	2348	70	309	144	87	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-38	A	14	20	3196	72	310	145		古瀬戸	卸皿	後1
巡間E-39	A	14	20	2633	69	261	165		古瀬戸	卸皿	後1
巡間E-40	A	14	20	2645	68	170	137	88	古瀬戸	卸皿	後1

第2表 胎土性状表(1)

試料 No	タイプ 分類	組成分類		粘土鉱物および造岩好物					種別	器形	型式
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels			
巡間E-41	A	14	20	2119	74	878	156		古瀬戸	卸皿	後1
巡間E-42	A	14	20	3368	63	249	149	76	古瀬戸	有耳壺	後1
巡間E-43	A	14	20	2127	74	251	161	93	古瀬戸	有耳壺	後1
巡間E-44	A	14	20	2400	67	416	157	83	古瀬戸	壺類	後1
巡間E-45	A	14	20	2376	69	141	160		古瀬戸	梅瓶	後1
巡間E-46	A	14	20	2686	72	120	139		古瀬戸	入子	後1
巡間E-47	A	14	20	1801	70	990	147		古瀬戸	折縁小皿	後1
巡間E-48	A	14	20	2567	69	288	150	93	古瀬戸	柄付片口	後1
暁-1	A	14	20	2640	62	220	141		山茶碗	碗	9型式
暁-2	A	14	20	3169	74	548	134		山茶碗	碗	9型式
暁-3	A	14	20	3021	71	600	123	82	山茶碗	碗	9型式
暁-4	A	14	20	2979	67	571	130	78	山茶碗	碗	9型式
暁-5	A	14	20	2403	71	517	140	92	山茶碗	碗	9型式
暁-6	A	14	20	3401	62	337	127	90	山茶碗	碗	9型式
暁-7	A	14	20	2160	71	851	156		山茶碗	碗	9型式
暁-8	A	14	20	3117	58	200	135		山茶碗	碗	9型式
暁-9	A	14	20	3502	57	302	126		山茶碗	碗	9型式
暁-10	A	14	20	3032	71	228	123	86	山茶碗	碗	9型式
笠松東-1	A	14	20	2306	72	212	142	93	山茶碗	碗	9型式
笠松東-2	A	14	20	4408	52	84	116	79	山茶碗	碗	9型式
笠松東-3	A	14	20	3374	56	77	109	93	山茶碗	碗	9型式
笠松東-4	A	14	20	2065	88	392	147		山茶碗	碗	9型式
笠松東-5	A	14	20	1921	82	544	158	91	山茶碗	碗	9型式
笠松東-6	A	14	20	3557	62	92	130	92	山茶碗	碗	9型式
笠松東-7	A	14	20	1697	70	999	166		山茶碗	碗	9型式
笠松東-8	A	14	20	2176	73	690	158		山茶碗	碗	9型式
笠松東-9	A	14	20	3050	61	711	151		山茶碗	碗	9型式
笠松東-10	A	14	20	2207	70	617	161		山茶碗	碗	9型式
神事池-1	A	14	20	2189	79	935	170		山茶碗	碗	9型式
神事池-2	A	14	20	2400	70	512	145		山茶碗	碗	9型式
神事池-3	A	14	20	2356	74	495	132	93	山茶碗	碗	9型式
神事池-4	A	14	20	2377	80	955	136	80	山茶碗	碗	9型式
神事池-5	A	14	20	2127	67	1072	173		山茶碗	碗	9型式
神事池-6	A	14	20	3584	61	176	133		山茶碗	碗	9型式
神事池-7	A	14	20	1745	70	1406	163		山茶碗	碗	9型式
神事池-8	A	14	20	3572	61	113	126	86	山茶碗	碗	9型式
神事池-9	A	14	20	3116	68	546	127	81	山茶碗	碗	9型式
神事池-10	A	14	20	1758	81	1045	157	74	山茶碗	碗	9型式

Mont : モンモロロナイト Mica : 雲母類 Hb : 角閃石 Ch : 緑泥石 (Ch:Fe 一次反射, Ch:Mg 二次反射) Qt : 石英 Pl : 斜長石 Crist : クリスタバライト
Mullite : ムライト K-fels : カリ長石 Halloy : ハロイサイト Kaol : カオリナイト Pyrite:黄鉄鉱 Au : 普通輝石 Py:紫蘇輝石

第3表 胎土性状表(2)

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	遺物	器種	時期
惣作-1	0.18	0.00	25.92	68.09	2.43	0.07	1.22	0.11	1.99	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-2	0.00	0.00	19.26	74.17	3.24	0.04	1.06	0.00	1.87	0.36	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-3	0.08	0.00	20.84	72.78	3.28	0.11	1.08	0.00	1.57	0.24	99.98	山茶碗	皿	9型式
惣作-4	0.33	0.00	24.15	65.94	2.11	0.19	1.80	0.00	5.49	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-5	0.16	0.00	21.28	72.86	2.74	0.00	1.00	0.00	1.93	0.04	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-6	0.10	0.00	24.85	68.35	2.65	0.01	1.00	0.33	2.59	0.14	100.02	山茶碗	碗	9型式
惣作-7	0.06	0.00	21.56	70.44	3.24	0.03	1.51	0.00	3.16	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-8	0.04	0.00	23.87	70.91	2.52	0.00	0.99	0.00	1.68	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-9	0.00	0.00	18.09	75.16	3.67	0.11	1.07	0.00	1.83	0.07	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-10	0.13	0.00	21.69	71.53	3.14	0.00	1.03	0.08	2.39	0.02	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-11	0.06	0.00	22.76	71.21	2.74	0.00	1.22	0.00	2.00	0.01	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-12	0.19	0.00	24.97	68.54	3.27	0.02	1.04	0.08	1.79	0.09	99.99	山茶碗	碗	9型式
惣作-13	0.10	0.00	23.86	68.82	3.17	0.00	1.30	0.15	2.49	0.11	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-14	0.10	0.00	24.04	69.58	3.20	0.01	1.22	0.00	1.85	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-15	0.00	0.00	21.79	71.85	3.16	0.01	1.10	0.00	2.09	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-16	0.13	0.00	26.92	65.15	3.19	0.08	1.27	0.01	3.04	0.22	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-17	0.00	0.00	23.12	71.68	2.84	0.00	0.86	0.00	1.50	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-18	0.03	0.00	19.99	74.29	2.93	0.03	1.08	0.16	1.48	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
惣作-19	0.16	0.00	28.83	63.61	2.67	0.03	1.46	0.00	3.24	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-20	0.12	0.00	22.89	71.43	3.39	0.00	0.79	0.00	1.39	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-21	0.18	0.00	29.91	63.04	2.25	0.06	1.36	0.18	3.03	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
惣作-22	0.15	0.00	23.23	70.28	2.48	0.02	1.19	0.00	2.65	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-23	0.14	0.00	27.14	64.78	2.23	0.06	1.68	0.08	3.88	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
惣作-24	0.14	0.00	25.97	65.25	3.29	0.00	1.56	0.00	3.48	0.31	100.00	山茶碗	碗	9型式
惣作-25	0.08	0.00	23.98	68.82	3.61	0.05	1.20	0.13	2.12	0.00	99.99	古瀬戸	碗型鉢	後1・2
惣作-26	0.00	0.00	18.49	75.00	3.25	0.00	1.21	0.06	1.88	0.10	99.99	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-27	0.00	0.00	19.43	74.17	3.29	0.05	1.21	0.03	1.81	0.00	99.99	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-28	0.00	0.00	15.35	78.59	3.24	0.08	0.99	0.00	1.52	0.24	100.01	古瀬戸	縁袖小皿	後1
惣作-29	0.00	0.00	20.95	71.42	3.40	0.07	1.10	0.00	2.77	0.29	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-30	0.00	0.00	16.77	76.28	3.52	0.14	1.33	0.03	1.71	0.22	100.00	古瀬戸	縁袖小皿	後1
惣作-31	0.00	0.00	18.84	75.08	3.30	0.07	0.96	0.00	1.74	0.01	100.00	古瀬戸	柄付片口	後1
惣作-32	0.00	0.00	19.62	73.80	3.20	0.05	1.36	0.07	1.76	0.13	99.99	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-33	0.00	0.00	19.84	72.79	3.51	0.08	1.38	0.00	2.40	0.00	100.00	古瀬戸	平碗	後1
惣作-34	0.00	0.00	19.00	74.65	3.55	0.07	0.81	0.14	1.75	0.03	100.00	古瀬戸	柄付片口	後1
惣作-35	0.00	0.00	16.46	77.16	3.30	0.13	0.86	0.00	1.58	0.51	100.00	古瀬戸	平碗	後1
惣作-36	0.16	0.00	21.85	71.71	2.91	0.05	1.14	0.00	2.18	0.00	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-37	0.00	0.00	18.78	74.23	3.66	0.03	1.18	0.00	2.12	0.00	100.00	古瀬戸	天目茶碗	後1
惣作-38	0.00	0.00	18.43	74.86	3.83	0.07	1.01	0.00	1.81	0.00	100.01	古瀬戸	碗型鉢	後1・2
惣作-39	0.00	0.00	20.73	71.99	3.59	0.15	1.04	0.00	2.50	0.00	100.00	古瀬戸	盤	後1
惣作-40	0.02	0.00	20.69	72.63	3.52	0.12	1.05	0.06	1.91	0.00	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡問E-1	0.11	0.00	19.93	74.03	2.74	0.10	1.02	0.00	1.93	0.12	99.98	山茶碗	碗	9型式
巡問E-2	0.03	0.00	21.13	71.92	2.95	0.07	1.42	0.18	2.29	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
巡問E-3	0.00	0.00	21.92	71.67	3.54	0.01	1.12	0.00	1.59	0.15	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-4	0.00	0.00	21.89	71.47	3.58	0.00	1.11	0.19	1.76	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-5	0.00	0.00	19.17	74.60	3.71	0.03	0.86	0.00	1.63	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-6	0.00	0.00	19.24	74.38	3.37	0.02	1.26	0.00	1.73	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-7	0.00	0.00	19.47	73.95	3.50	0.01	1.08	0.00	1.99	0.00	100.00	山茶碗	皿	9型式
巡問E-8	0.13	0.00	19.96	72.57	3.82	0.03	1.32	0.12	1.98	0.07	100.00	山茶碗	皿	9型式
巡問E-9	0.00	0.00	19.72	74.34	3.15	0.10	0.85	0.00	1.64	0.20	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-10	0.00	0.00	17.17	77.64	2.51	0.01	0.97	0.00	1.67	0.03	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-11	0.09	0.00	19.17	73.29	3.29	0.00	1.14	0.00	3.02	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-12	0.06	0.00	19.00	75.21	2.92	0.06	1.19	0.00	1.56	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-13	0.09	0.00	19.23	74.15	3.64	0.01	1.08	0.00	1.79	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
巡問E-14	0.00	0.00	18.62	75.68	3.08	0.03	1.03	0.00	1.49	0.05	99.98	山茶碗	碗	9型式
巡問E-15	0.00	0.00	19.04	74.25	3.45	0.07	1.13	0.44	1.58	0.02	99.98	山茶碗	碗	9型式
巡問E-16	0.10	0.00	19.49	74.13	3.25	0.00	0.89	0.36	1.63	0.14	99.99	山茶碗	碗	9型式
巡問E-17	0.00	0.00	17.99	75.12	3.50	0.00	1.29	0.00	1.90	0.20	100.00	山茶碗	皿	9型式
巡問E-18	0.00	0.00	18.90	74.49	3.64	0.00	1.02	0.00	1.73	0.22	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-19	0.03	0.00	17.92	75.73	3.24	0.09	1.07	0.26	1.66	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-20	0.02	0.00	19.96	74.16	3.10	0.00	1.07	0.00	1.55	0.14	100.00	山茶碗	碗	9型式
巡問E-21	0.14	0.00	18.01	74.96	3.50	0.00	1.30	0.00	1.80	0.28	99.99	山茶碗	碗	9型式
巡問E-22	0.19	0.00	25.81	66.89	2.15	0.04	1.24	0.00	3.40	0.30	100.02	山茶碗	片口鉢	9型式
巡問E-23	0.19	0.00	15.99	77.37	3.77	0.07	0.90	0.00	1.71	0.00	100.00	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡問E-24	0.00	0.00	18.44	75.02	3.64	0.00	1.30	0.05	1.48	0.07	100.00	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡問E-25	0.02	0.00	17.26	75.96	3.17	0.09	1.14	0.17	1.74	0.45	100.00	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡問E-26	0.03	0.00	17.29	76.03	3.52	0.03	0.98	0.18	1.85	0.11	100.02	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡問E-27	0.00	0.00	16.54	76.72	3.83	0.00	1.04	0.09	1.78	0.00	100.00	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡問E-28	0.01	0.00	16.52	77.69	3.09	0.03	0.92	0.04	1.53	0.17	100.00	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡問E-29	0.10	0.00	19.50	73.52	3.17	0.12	1.00	0.12	2.29	0.17	99.99	古瀬戸	平碗	後1
巡問E-30	0.00	0.00	20.86	73.52	2.85	0.09	1.04	0.14	1.47	0.04	100.01	古瀬戸	平碗	後1
巡問E-31	0.00	0.00	17.86	74.41	3.72	0.00	1.45	0.00	2.56	0.00	100.00	古瀬戸	平碗	後1
巡問E-32	0.07	0.00	20.17	73.89	2.57	0.07	1.45	0.00	1.45	0.32	99.99	古瀬戸	平碗	後1
巡問E-33	0.00	0.00	17.37	76.11	3.21	0.05	1.00	0.02	1.84	0.41	100.01	古瀬戸	平碗	後1
巡問E-34	0.00	0.00	20.94	72.24	3.19	0.00	1.42	0.00	2.21	0.00	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡問E-35	0.10	0.00	22.11	70.67	2.99	0.06	1.42	0.16	2.49	0.00	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡問E-36	0.00	0.00	21.79	72.66	2.67	0.00	1.08	0.00	1.80	0.00	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡問E-37	0.01	0.00	21.19	73.12	2.91	0.00	1.02	0.11	1.50	0.14	100.00	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡問E-38	0.03	0.00	18.75	75.39	2.76	0.08	1.06	0.00	1.87	0.07	100.01	古瀬戸	卸皿	後1
巡問E-39	0.00	0.00	21.11	72.78	3.27	0.04	1.25	0.00	1.55	0.00	100.00	古瀬戸	卸皿	後1
巡問E-40	0.10	0.00	19.39	72.99	3.56	0.09	1.23	0.00	2.56	0.09	100.01	古瀬戸	卸皿	後1
巡問E-41	0.00	0.00	17.60	77.56	2.36	0.00	1.01	0.00	1.48	0.00	100.01	古瀬戸	卸皿	後1

第4表 化学分析表(1)

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	遺物	器種	時期
惣作-1	0.18	0.00	25.92	68.09	2.43	0.07	1.22	0.11	1.99	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
巡間E-42	0.00	0.00	20.84	72.63	3.20	0.04	1.04	0.34	1.91	0.00	100.00	古瀬戸	有耳壺	後1
巡間E-43	0.00	0.00	21.23	73.04	2.82	0.08	0.93	0.00	1.89	0.00	99.99	古瀬戸	有耳壺	後1
巡間E-44	0.00	0.00	20.34	73.48	3.04	0.09	1.27	0.00	1.62	0.17	100.01	古瀬戸	壺類	後1
巡間E-45	0.00	0.00	19.85	73.30	3.38	0.09	1.28	0.06	2.02	0.01	99.99	古瀬戸	梅瓶	後1
巡間E-46	0.00	0.00	18.53	75.28	3.28	0.02	1.00	0.00	1.79	0.10	100.00	古瀬戸	入子	後1
巡間E-47	0.05	0.00	20.43	74.71	2.81	0.06	0.69	0.03	1.21	0.00	99.99	古瀬戸	折縁小皿	後1
巡間E-48	0.00	0.00	18.46	74.84	3.41	0.19	1.22	0.00	1.85	0.02	99.99	古瀬戸	柄付片口	後1
暁-1	0.00	0.00	19.66	74.33	3.30	0.05	1.15	0.14	1.23	0.14	100.00	山茶碗	碗	9型式
暁-2	0.03	0.00	18.60	73.80	3.81	0.00	1.33	0.25	2.03	0.14	99.99	山茶碗	碗	9型式
暁-3	0.05	0.00	18.15	75.80	3.22	0.17	1.10	0.07	1.41	0.03	100.00	山茶碗	碗	9型式
暁-4	0.06	0.00	19.17	74.86	2.99	0.02	1.05	0.00	1.70	0.13	99.98	山茶碗	碗	9型式
暁-5	0.00	0.00	19.02	73.80	3.61	0.06	1.21	0.03	2.21	0.05	99.99	山茶碗	碗	9型式
暁-6	0.01	0.00	17.86	74.80	3.15	0.03	1.38	0.00	2.39	0.38	100.00	山茶碗	碗	9型式
暁-7	0.00	0.00	18.47	75.91	3.22	0.01	0.82	0.12	1.45	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
暁-8	0.00	0.00	17.56	76.28	3.08	0.03	1.27	0.00	1.78	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
暁-9	0.06	0.00	20.67	71.93	3.33	0.09	1.57	0.16	2.10	0.10	100.01	山茶碗	碗	9型式
暁-10	0.00	0.00	19.30	73.72	3.41	0.03	1.25	0.21	2.07	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
笠松東-1	0.07	0.00	20.84	72.67	3.49	0.00	0.95	0.00	1.97	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
笠松東-2	0.00	0.00	26.00	67.17	2.27	0.03	1.13	0.26	3.04	0.10	100.00	山茶碗	碗	9型式
笠松東-3	0.21	0.00	23.43	66.81	4.22	0.00	1.50	0.00	3.81	0.02	100.00	山茶碗	碗	9型式
笠松東-4	0.00	0.00	15.83	78.77	2.98	0.02	0.75	0.04	1.62	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
笠松東-5	0.03	0.00	19.52	73.84	3.74	0.00	0.85	0.00	1.77	0.25	100.00	山茶碗	碗	9型式
笠松東-6	0.08	0.00	22.55	70.43	3.41	0.08	1.07	0.15	2.24	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
笠松東-7	0.00	0.00	17.62	76.58	3.04	0.03	1.03	0.00	1.71	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
笠松東-8	0.01	0.00	19.42	74.32	3.10	0.04	1.03	0.00	1.83	0.24	99.99	山茶碗	碗	9型式
笠松東-9	0.09	0.00	21.99	71.98	2.49	0.05	0.79	0.00	2.60	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
笠松東-10	0.00	0.00	19.25	75.66	2.91	0.04	0.74	0.00	1.41	0.00	100.01	山茶碗	碗	9型式
神事池-1	0.05	0.00	19.04	74.92	3.05	0.08	1.06	0.28	1.44	0.09	100.01	山茶碗	碗	9型式
神事池-2	0.08	0.00	18.95	73.79	3.62	0.10	1.08	0.13	2.00	0.27	100.02	山茶碗	碗	9型式
神事池-3	0.05	0.00	17.49	76.53	3.28	0.06	1.03	0.00	1.53	0.03	100.00	山茶碗	碗	9型式
神事池-4	0.07	0.00	19.76	73.92	3.18	0.04	1.09	0.04	1.90	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
神事池-5	0.01	0.00	20.35	75.15	2.22	0.07	0.74	0.03	1.16	0.29	100.02	山茶碗	碗	9型式
神事池-6	0.09	0.00	16.72	76.78	3.47	0.13	0.87	0.00	1.73	0.22	100.01	山茶碗	碗	9型式
神事池-7	0.02	0.00	19.98	75.63	2.79	0.12	0.90	0.00	1.57	0.00	101.01	山茶碗	碗	9型式
神事池-8	0.00	0.00	21.25	71.56	3.59	0.00	1.54	0.00	2.06	0.00	100.00	山茶碗	碗	9型式
神事池-9	0.11	0.00	20.41	73.18	3.59	0.27	0.95	0.16	1.32	0.00	99.99	山茶碗	碗	9型式
神事池-10	0.05	0.00	21.22	72.43	2.64	0.01	1.23	0.42	1.78	0.23	100.01	山茶碗	碗	9型式

第5表 化学分析表(2)

試料 No	タイプ 分類	組成分類		器種	器形	形式
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb			
惣作-1	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-2	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-3	A	14	20	山茶碗	皿	9型式
惣作-4	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-5	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-6	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-7	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-8	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-9	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-10	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-11	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-12	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-13	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-14	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-15	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-16	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-17	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-18	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-19	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-20	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-21	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-22	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-23	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-24	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
惣作-25	A	14	20	古瀬戸	碗型鉢	後1・2
惣作-26	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-27	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-28	A	14	20	古瀬戸	緑釉小皿	後1
惣作-29	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-30	A	14	20	古瀬戸	緑釉小皿	後1
惣作-31	A	14	20	古瀬戸	柄付片口	後1
惣作-32	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-33	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
惣作-34	A	14	20	古瀬戸	柄付片口	後1
惣作-35	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
惣作-36	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
惣作-37	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
惣作-38	A	14	20	古瀬戸	碗型鉢	後1・2
惣作-39	A	14	20	古瀬戸	盤	後1
惣作-40	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-1	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-2	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-3	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-4	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-5	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-6	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-7	A	14	20	山茶碗	皿	9型式
巡間E-8	A	14	20	山茶碗	皿	9型式
巡間E-9	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-10	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-11	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-12	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-13	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-14	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-15	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-16	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-17	A	14	20	山茶碗	皿	9型式
巡間E-18	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-19	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-20	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-21	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
巡間E-22	A	14	20	山茶碗	片口鉢	9型式
巡間E-23	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-24	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-25	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-26	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-27	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-28	A	14	20	古瀬戸	天目茶碗	後1
巡間E-29	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-30	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-31	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-32	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-33	A	14	20	古瀬戸	平碗	後1
巡間E-34	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-35	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-36	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-37	A	14	20	古瀬戸	折縁深皿	後1
巡間E-38	A	14	20	古瀬戸	卸皿	後1
巡間E-39	A	14	20	古瀬戸	卸皿	後1
巡間E-40	A	14	20	古瀬戸	卸皿	後1

試料 No	タイプ 分類	組成分類		器種	器形	形式
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb			
巡間E-41	A	14	20	古瀬戸	卸皿	後1
巡間E-42	A	14	20	古瀬戸	有耳壺	後1
巡間E-43	A	14	20	古瀬戸	有耳壺	後1
巡間E-44	A	14	20	古瀬戸	壺類	後1
巡間E-45	A	14	20	古瀬戸	梅瓶	後1
巡間E-46	A	14	20	古瀬戸	入子	後1
巡間E-47	A	14	20	古瀬戸	折縁小皿	後1
巡間E-48	A	14	20	古瀬戸	柄付片口	後1
暁-1	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-2	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-3	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-4	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-5	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-6	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-7	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-8	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-9	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
暁-10	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-1	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-2	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-3	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-4	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-5	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-6	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-7	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-8	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-9	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
笠松東-10	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-1	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-2	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-3	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-4	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-5	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-6	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-7	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-8	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-9	A	14	20	山茶碗	碗	9型式
神事池-10	A	14	20	山茶碗	碗	9型式

第6表 タイプ分類表

試料 No	器種	器形	形式	Fe	Qt	Si
タイプ I:Qt-2 Fe2O3-2						
惣作-24	山茶碗	碗	9型式	2	2	1
タイプ I:Qt-2 Fe2O3-3						
惣作-4	山茶碗	碗	9型式	3	2	1
タイプ I:Qt-3 Fe2O3-2						
惣作-16	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
惣作-19	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
惣作-21	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
惣作-23	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
タイプ II:Qt-1 Fe2O3-2						
巡間E-22	山茶碗	片口鉢	9型式	2	1	2
タイプ II:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
惣作-12	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
惣作-13	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
惣作-25	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	2	2
タイプ II:Qt-2 Fe2O3-2						
笠松東-3	山茶碗	碗	9型式	2	2	2
タイプ II:Qt-3 Fe2O3-1						
惣作-6	山茶碗	碗	9型式	1	3	2
タイプ II:Qt-3 Fe2O3-2						
笠松東-2	山茶碗	碗	9型式	2	3	2
タイプ II:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
惣作-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
タイプ III:Qt-2 Fe2O3-2						
惣作-7	山茶碗	碗	9型式	2	2	3
タイプ III:Qt-1 Fe2O3-2						
惣作-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-11	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-14	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-17	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-22	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
巡間E-35	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	3
笠松東-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
笠松東-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
タイプ IV:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-33	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
惣作-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
惣作-39	古瀬戸	盤	後1	1	1	4
巡間E-8	山茶碗	皿	9型式	1	1	4
巡間E-30	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
巡間E-32	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
巡間E-37	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
巡間E-39	古瀬戸	卸皿	後1	1	1	4
巡間E-40	古瀬戸	卸皿	後1	1	1	4
巡間E-43	古瀬戸	有耳壺	後1	1	1	4
巡間E-44	古瀬戸	壺類	後1	1	1	4
巡間E-45	古瀬戸	梅瓶	後1	1	1	4
笠松東-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
神事池-1C	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
タイプ IV:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-3	山茶碗	皿	9型式	1	2	4
惣作-5	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
惣作-29	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
惣作-40	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡間E-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡間E-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡間E-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡間E-34	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡間E-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡間E-42	古瀬戸	有耳壺	後1	1	2	4
暁-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
タイプ IV:Qt-2 Fe2O3-2						
巡間E-11	山茶碗	碗	9型式	2	2	4
タイプ IV:Qt-3 Fe2O3-1						

試料 No	器種	器形	形式	Fe	Qt	Si
惣作-32	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	3	4
巡間E-29	古瀬戸	平碗	後1	1	3	4
タイプ V:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
惣作-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
惣作-31	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
惣作-34	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
惣作-38	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	1	5
巡間E-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-6	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-7	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
巡間E-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-12	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-13	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-16	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-17	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
巡間E-18	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-19	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-21	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-24	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-25	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-26	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-27	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-46	古瀬戸	入子	後1	1	1	5
巡間E-47	古瀬戸	折縁小皿	後1	1	1	5
巡間E-48	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
暁-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
暁-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
暁-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-8	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-10	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
タイプ V:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-18	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
惣作-26	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
惣作-27	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
惣作-37	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	2	5
巡間E-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
巡間E-31	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
巡間E-33	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
巡間E-38	古瀬戸	卸皿	後1	1	2	5
暁-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
タイプ V:Qt-4 Fe2O3-1						
巡間E-14	山茶碗	碗	9型式	1	4	5
タイプ VI:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-28	古瀬戸	縁袖小皿	後1	1	1	6
惣作-30	古瀬戸	縁袖小皿	後1	1	1	6
惣作-35	古瀬戸	平碗	後1	1	1	6
巡間E-23	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	6
巡間E-28	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	6
巡間E-41	古瀬戸	卸皿	後1	1	1	6
笠松東-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
笠松東-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
神事池-3	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
タイプ VI:Qt-1 Fe2O3-1						
巡間E-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
暁-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
神事池-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	6

第7表 組成分類表(1)

試料 No				Fe	Qt	Si
	器種	器形	形式			
タイプ V:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
惣作-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
惣作-31	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
惣作-34	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
惣作-38	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	1	5
巡間E-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-6	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-7	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
巡間E-9	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-12	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-13	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-16	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-17	山茶碗	皿	9型式	1	1	5
巡間E-18	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-19	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-21	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
巡間E-24	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-25	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-26	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-27	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	5
巡間E-46	古瀬戸	入子	後1	1	1	5
巡間E-47	古瀬戸	折縁小皿	後1	1	1	5
巡間E-48	古瀬戸	柄付片口	後1	1	1	5
暁-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
暁-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
暁-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-8	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
笠松東-10	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-2	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-5	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
神事池-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	5
タイプ V:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-18	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
惣作-26	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
惣作-27	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	5
惣作-37	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	2	5
巡間E-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
巡間E-31	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
巡間E-33	古瀬戸	平碗	後1	1	2	5
巡間E-38	古瀬戸	卸皿	後1	1	2	5
暁-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
暁-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	5
タイプ IV:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-3	山茶碗	皿	9型式	1	2	4
惣作-5	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
惣作-29	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
惣作-40	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡間E-2	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡間E-3	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡間E-4	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
巡間E-34	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡間E-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	2	4
巡間E-42	古瀬戸	有耳壺	後1	1	2	4
暁-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
神事池-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	4
タイプ IV:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-33	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
惣作-36	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
惣作-39	古瀬戸	盤	後1	1	1	4

試料 No				Fe	Qt	Si
	器種	器形	形式			
巡間E-8	山茶碗	皿	9型式	1	1	4
巡間E-30	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
巡間E-32	古瀬戸	平碗	後1	1	1	4
巡間E-37	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	1	4
巡間E-39	古瀬戸	卸皿	後1	1	1	4
巡間E-40	古瀬戸	卸皿	後1	1	1	4
巡間E-43	古瀬戸	有耳壺	後1	1	1	4
巡間E-44	古瀬戸	壺類	後1	1	1	4
巡間E-45	古瀬戸	梅瓶	後1	1	1	4
笠松東-1	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
神事池-10	山茶碗	碗	9型式	1	1	4
タイプ III:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-11	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-14	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-17	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
惣作-22	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
巡間E-35	古瀬戸施	折縁深皿	後1	1	2	3
笠松東-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
笠松東-9	山茶碗	碗	9型式	1	2	3
タイプ VI:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-28	古瀬戸	縁袖小皿	後1	1	1	6
惣作-30	古瀬戸	縁袖小皿	後1	1	1	6
惣作-35	古瀬戸	平碗	後1	1	1	6
巡間E-23	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	6
巡間E-28	古瀬戸	天目茶碗	後1	1	1	6
巡間E-41	古瀬戸	卸皿	後1	1	1	6
笠松東-4	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
笠松東-7	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
神事池-3	山茶碗	碗	9型式	1	1	6
タイプ I:Qt-3 Fe2O3-2						
惣作-16	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
惣作-19	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
惣作-21	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
惣作-23	山茶碗	碗	9型式	2	3	1
タイプ II:Qt-2 Fe2O3-1						
惣作-1	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
惣作-12	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
惣作-13	山茶碗	碗	9型式	1	2	2
惣作-25	古瀬戸	碗型鉢	後1・2	1	2	2
タイプ III:Qt-1 Fe2O3-1						
惣作-15	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
惣作-20	山茶碗	碗	9型式	1	1	3
タイプ III:Qt-2 Fe2O3-1						
巡間E-10	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
暁-8	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
神事池-6	山茶碗	碗	9型式	1	2	6
タイプ IV:Qt-3 Fe2O3-1						
惣作-32	古瀬戸	折縁深皿	後1	1	3	4
巡間E-29	古瀬戸	平碗	後1	1	3	4
タイプ I:Qt-2 Fe2O3-2						
惣作-24	山茶碗	碗	9型式	2	2	1
タイプ I:Qt-2 Fe2O3-3						
惣作-4	山茶碗	碗	9型式	3	2	1
タイプ II:Qt-1 Fe2O3-2						
巡間E-22	山茶碗	片口鉢	9型式	2	1	2
タイプ II:Qt-2 Fe2O3-2						
笠松東-3	山茶碗	碗	9型式	2	2	2
タイプ II:Qt-3 Fe2O3-1						
惣作-6	山茶碗	碗	9型式	1	3	2
タイプ II:Qt-3 Fe2O3-2						
笠松東-2	山茶碗	碗	9型式	2	3	2
タイプ III:Qt-2 Fe2O3-2						
惣作-7	山茶碗	碗	9型式	2	2	3
タイプ IV:Qt-2 Fe2O3-2						
巡間E-11	山茶碗	碗	9型式	2	2	4
タイプ V:Qt-4 Fe2O3-1						
巡間E-14	山茶碗	碗	9型式	1	4	5

第8表 組成分類表(2)

第2節 炭化物の放射性炭素年代測定

1.02A 区・03B 区測定資料

a. はじめに

総作鐘場遺跡より検出された炭化物の加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を実施した。

b. 試料と方法

試料は 02A 区 SB208 のカマドから採取した炭化物 1 点、同 SB210 のカマドから採取した炭化物 1 点、同 SB217 床面から出土した炭化物 1 点、03B 区 SB035 から採取した炭化物 2 点、同 SB039 から採取した炭化物 1 点、同 SB041 カマドから採取した炭化物 1 点、同 SB045 カマドから採取した炭化物 1 点の併せて 8 点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨 (グラファイト) に調整した後、加速器質量分析計 (AMS) にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。

c. 結果

第 9 表に、各試料の同位体分別効果の補正值 (基準値 -25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C 年代値 (yrBP) の算出は、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、計数値の標準偏差 σ に基づいて算出し、標準偏差 (One sigma) に相当する年代である。これは、試料の ^{14}C 年代が、その ^{14}C 年代誤差範囲内に入る確率が 68% であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正し、より正確な年代を求めるために、 ^{14}C 年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚の U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて ^{14}C 年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}C 年代を暦年代に較正した年代の算出に CALIB 4.3 (CALIB 3.0 のバージョンアップ版) を使用した。なお、暦年代較正值は ^{14}C 年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、 1σ 暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10% 未満についてはその表示を省略した。 1σ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

d. 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した 1σ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

(本小節は (株) パレオ・ラボ 山形秀樹氏の報告を酒井俊彦がまとめたものである。)

引用文献

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎 . 日本先史時代の 14C 年代、 p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended 14C Database and Revised CALIB3.0 14C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-1644 (AMS)	炭化物 IISCK02A SB208カマド	-24.3	1415 \pm 30	cal AD 645	<u>cal AD 620 - 660 (100%)</u>
PLD-1645 (AMS)	炭化物 IISCK02A SB210カマド	-27.0	1300 \pm 30	cal AD 690	<u>cal AD 675 - 720 (65.6%)</u> <u>cal AD 745 - 765 (34.3%)</u>
PLD-1673 (AMS)	炭化物 IISCK02A SB217	-24.6	1810 \pm 30	cal AD 235	calAD135-160(27.6%) calAD170-200(30.4%) calAD210-240(42.0%)
PLD-2878 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB035 サンプル 1	-27.3	1,545 \pm 35	cal AD 535	cal AD 435 - 455 (15.2%) <u>cal AD 460 - 520 (59.3%)</u> cal AD 525 - 545 (18.3%)
PLD-2879 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB035 サンプル 2	-26.3	1,605 \pm 35	cal AD 430	cal AD 420 - 440 (28.8%) cal AD 450 - 470 (21.0%) <u>cal AD 480 - 530 (50.2%)</u>
PLD-2880 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB039	-28.9	1,535 \pm 35	cal AD 540	cal AD 465 - 500 (28.2%) <u>cal AD 530 - 565 (37.9%)</u> cal AD 570 - 580 (10.1%)
PLD-2881 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB041カマド	-29.1	1,630 \pm 30	cal AD 420	<u>cal AD 385 - 440 (77.5%)</u> cal AD 450 - 465 (10.2%)
PLD-2882 (AMS)	炭化物 IISCK03B SB045カマド	-26.5	1,540 \pm 35	cal AD 540	cal AD 440 - 450 (11.7%) <u>cal AD 460 - 520 (51.3%)</u> cal AD 530 - 560 (35.4%)

第 9 表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

2.02A 区・02B 区・02D 区測定資料

a. はじめに

惣作鐘場遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

b. 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表 1 のとおりである。試料は調整後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

c. 結果

第 11 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}C$)、同位体分別効果の補正を行った 14C 年代、14C 年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、第 262 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。14C 年代 (yrBP) の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した 14C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の 14C 年代がその 14C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された 14C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。14C 年代の暦年較正には OxCal3.10 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された 14C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は 14C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

d. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。なお PLD-6218 については年代値が古く、較正曲線範囲外であったため 14C 年代を暦年代に較正した年代範囲は得られなかった。

(パレオ・ラボ 小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫)

参考文献

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, *Radiocarbon*, 37, 425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43, 355-363.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎, 日本先史時代の 14C 年代, 3-20.

Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE

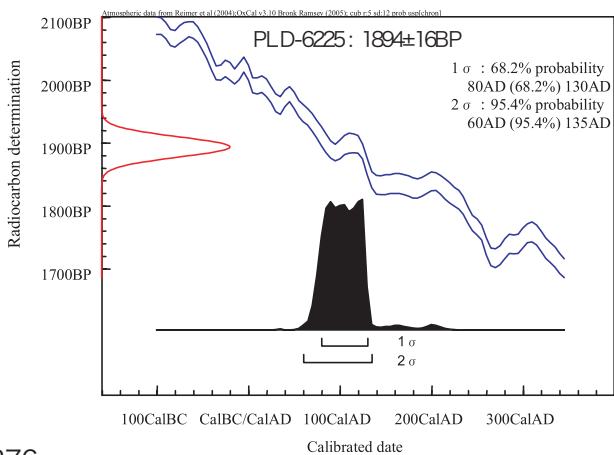
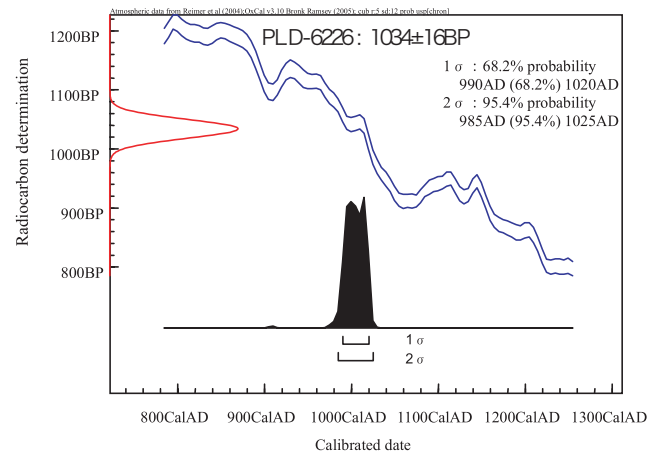
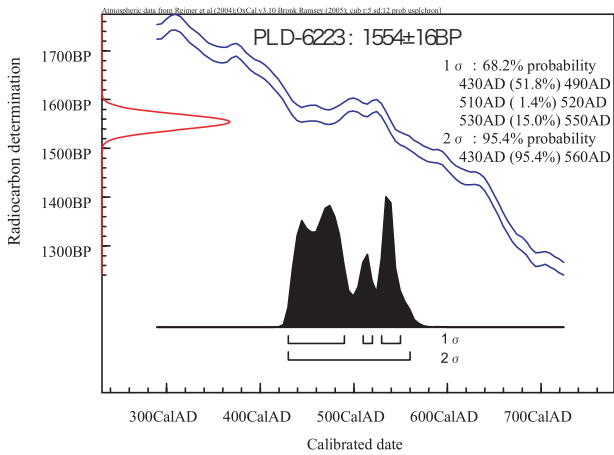
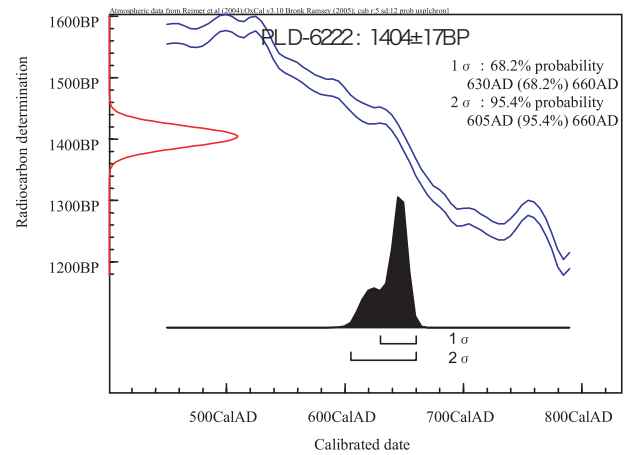
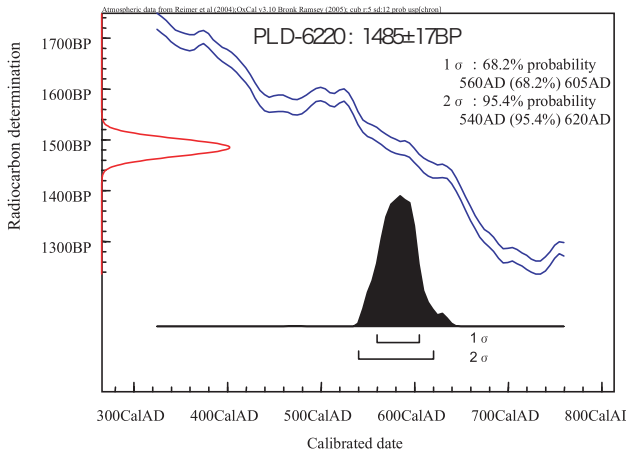
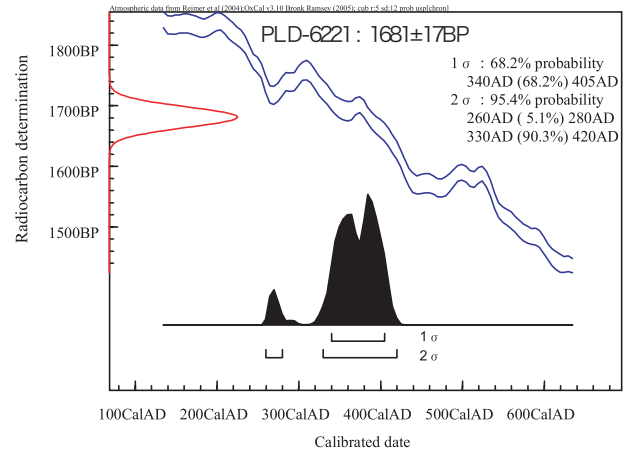
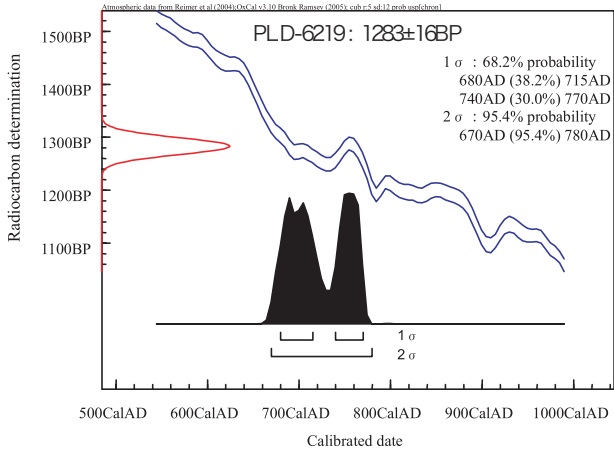
Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, Radiocarbon, 46, 1029-1058.

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-6218	位置: XJ7f 遺構: SX11北側 (旧河道) その他: 「SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6219	位置: XJ10d 遺構: 掘下「 No.262周辺 その他: 「SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6220	位置: XJ12b 遺構: SX02内 北東炉 その他: 「SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6221	位置: XJ14a 遺構: SB10 その他: 「SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6222	位置: XJ15a 遺構: SD01 その他: 「SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6223	位置: XJ15a 遺構: SD01 その他: 「SSK02A	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: dry カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6225	位置: III13i 遺構: SD08 その他: 「SSK02B	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: wet カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH
PLD-6226	位置: VIE3s 遺構: SK65 その他: 「SSK02D	試料の種類: 炭化物・材 試料の性状: 最外以外部位不明 状態: wet カビ: 無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC製コンパクトAMS・ 1.5SDH

第 10 表 測定試料及び処理

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
PLD-6218	-24.55 \pm 0.16	54360 \pm 970	較正曲線範囲外	較正曲線範囲外	54361 \pm 965
PLD-6219	-25.76 \pm 0.15	1285 \pm 15	680AD(38.2%)715AD 740AD(30.0%)770AD	670AD(95.4%)780AD	1283 \pm 16
PLD-6220	-26.32 \pm 0.16	1485 \pm 15	560AD(68.2%)605AD	540AD(95.4%)620AD	1485 \pm 17
PLD-6221	-25.54 \pm 0.14	1680 \pm 15	340AD(68.2%)405AD	260AD(5.1%)280AD 330AD(90.3%)420AD	1681 \pm 17
PLD-6222	-28.46 \pm 0.14	1405 \pm 15	630AD(68.2%)660AD	605AD(95.4%)660AD	1404 \pm 17
PLD-6223	-26.37 \pm 0.16	1555 \pm 15	430AD(51.8%)490AD 510AD(1.4%)520AD	430AD(95.4%)560AD	1554 \pm 16
PLD-6225	-24.85 \pm 0.14	1895 \pm 15	80AD(68.2%)130AD	60AD(95.4%)135AD	1894 \pm 16
PLD-6226	-26.47 \pm 0.14	1035 \pm 15	990AD(68.2%)1020AD	985AD(95.4%)1025AD	1034 \pm 16

第 11 表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果



第3節 植物珪酸体分析

1.00A 区

a. はじめに

今回の分析目的は、赤津川左岸の段丘上(標高約170m)に位置する惣作・鐘場遺跡における古墳時代～平安時代頃の周辺植生に関する情報を得ることにある。調査は、本時期の土坑内堆積物(覆土)と、遺物包含層を対象として、植物珪酸体分析を実施する。

b. 試料

分析試料は、古墳時代～平安時代に構築された4基の土坑(SK63・SK189・SK203・SK219)覆土と、各遺構周囲の古墳時代～平安時代の遺物包含層から採取された10点である。各試料の詳細は、結果と共に第12表に示す。なお、各土坑の機能・用途としては、遺構の形態や出土遺物などから、墓として利用されたものの可能性が考えられている。

c. 分析方法

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後に、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)、および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

同定・計数結果、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(植物珪酸体密度)を求める。結果は、検出された植物珪酸体の種類とその密度を一覧表として示す。また、各遺構における植物珪酸体密度の層位変化をみるため図示する。

d. 結果

結果を第表、第図に示す。植物珪酸体含量値は約5,000～90,000個/gと試料間で差が大きい。保存状態はいずれの試料も悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。以下に、各土坑およびその周囲の包含層における産状を述べる。

SK63

覆土の植物珪酸体密度は下層が33,406個/g、上層が94,418個/gであり、上層で増加する。各種類では、覆土下層・上層ともに、ネザサ節を含むタケ亜科の密度が高い。栽培植物のイネ属、ヨシ属、ススキ属などが低密度で出現する。また、上層では稲稈殻に形成されるイネ属類珪酸体も認められる。SK63東側肩部の包含層では、植物珪酸体密度が140個/gと極めて少ない。

SK189

覆土の植物珪酸体密度は、下層が32,558個/g、上層が70,732個/gであり、上層で増加する。各種類では、ネザサ節を含むタケ亜科の密度が高く、ヨシ属・ススキ属などが低密度で出現する。覆土下層からは低密度であるが栽培植物のイネ属が出現する。一方、SK189南側の包含層では、植物珪酸体密度は32,965個/gであり、SK198覆土下層とほぼ同様の値を示す。組成も類似する。

SK203

覆土の植物珪酸体密度は13,911個/gである。各種類ではネザサ節を含むタケ亜科の密度

が高く、栽培植物のイネ属、ヨシ属やススキ属などが低密度で出現する。SK02北側の包含層では、植物珪酸体密度は5,101個/gであり、覆土試料に比較して少ない。各種類ではネザサ節を含むタケ亜科の密度が高い。

SK219

覆土の植物珪酸体密度は、下層で40,436個/g、上層で54,561個/gであり、上層でやや高くなる。各種類では上層・下層とも、ネザサ節を含むタケ亜科の密度が高く、ヨシ属、ススキ属などが低密度で出現する。

e. 考察

(1) 植物珪酸体含量密度

古墳時代～平安時代に構築された土坑覆土の植物珪酸体含量密度は、SK63・SK189・SK203では覆土下層に比べ覆土上層で高く、SK219でも顕著ではないが高くなる傾向を示した。これは土坑覆土の特徴の一つといえる。このような覆土下部と上部の産状の違いは、覆土上層と下層の堆積環境の違いや形成時期における周辺植生の違いを反映している可能性が考えられる。すなわち、覆土下層と上層が同様な堆積環境であったとすれば、何らかの理由により覆土上層ほど植物体が多く取り込まれていることになる。逆に堆積環境が異なっていたとすれば、下層に比較して上層の方が長期間に亘って植物珪酸体が蓄積していくような状況にあったことになる。この点については、発掘調査時の覆土の堆積・土壌構造の観察結果に基づいて検討する必要がある。

一方、土坑覆土と包含層における植物珪酸体含量密度を見ると、SK63では包含層の方が低く、SK189とSK203では、ほぼ等しいか包含層の方がやや少ないという結果が得られた。覆土下層の由来は特定できないが、包含層に由来するものとするれば、今回の結果は調和的といえる。また、この結果からみても、覆土上層は、今回の覆土下層や包含層とは異なる成因のものであることが窺われる。

(2) 古植生

古墳時代～平安時代の土坑覆土および、その周囲の包含層の植物珪酸体組成は、いずれもネザサ節を含むタケ亜科の含量密度が高かった。土坑覆土が人為的な埋土ではなく、機能期から放置期に形成されたものだとすれば、覆土形成期を通じて、遺構周辺の緩斜面にはネザサ節を含むタケ亜科植物が分布していたことが推定される。このほか、ヨシ属・ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども植生構成要素として分布していたことが推定される。

また、各土坑からは栽培種のイネ属が検出されている。SK63では覆土上層で稲籾に形成される穎珪酸体も確認されている。これらのイネ属珪酸体の含量密度は低く、調査区の立地環境を考慮すると、調査地点周辺に分布していたと考えるよりも、何らかの目的で持ち込まれたものが堆積物中に混入したと考えられる。また、覆土上層や包含層については、調査区の広い範囲で近年の耕作による攪乱の影響が及んでいる可能性もあることから、上層からの落ち込みの影響も含めて評価する必要がある。

ところで、本地域の古墳時代～平安時代頃古植生については、本遺跡北側に位置する上品野蟹川遺跡において花粉分析に基づく検討結果がある(新山1999)。その結果に基づくと、本地域では、鎌倉時代頃までカシ類などを主体する暖温帯性の植生が成立していたことが推定されている。今回の土坑覆土や包含層からは、樹木起源の植物珪酸体が確認されなかったことから、少なくとも遺構近辺に林分が成立しておらず、林域は離れた場所に存在した可能性が考えられる。当時の植生については、今後の調査事例の蓄積をもって検証していくことが大切と考える。

引用文献

近藤錬三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.

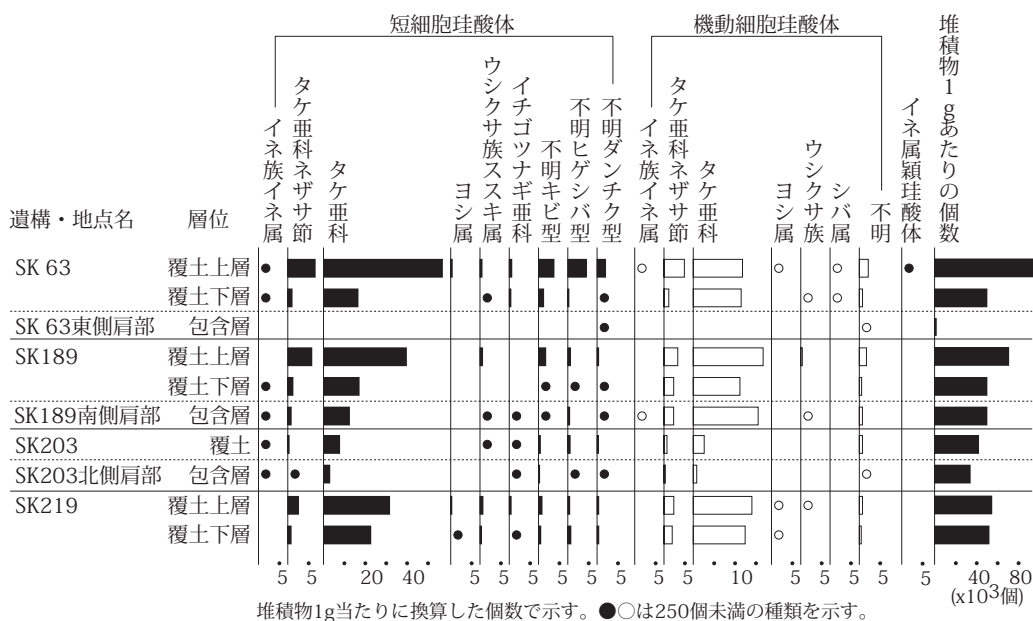
新山雅広 (1999) 上品野蟹川遺跡の花粉群集. 「上品野蟹川遺跡2 財団法人瀬戸市埋蔵文化

財センター調査報告書第 21 集」財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

(個/g)

種 類	上段：遺構・地点名、下段：層位									
	SK63		SK63 東側肩部	SK189		SK189 南側肩部	SK203	SK203 北側肩部	SK219	
	覆土上層	覆土下層	包含層	覆土上層	覆土下層	包含層	覆土	包含層	覆土上層	覆土下層
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属	238	127	0	0	61	62	119	108	0	0
タケ亜科ネザサ節	6,540	1,018	0	5,732	1,219	810	317	72	2,538	788
タケ亜科	56,841	16,480	0	39,635	17,010	12,401	7,689	2,982	31,595	22,581
ヨシ属	357	0	0	0	0	0	0	0	254	66
ウシクサ族ススキ属	476	127	0	610	0	187	198	0	698	328
イチゴツナギ亜科	595	382	0	0	0	125	198	36	444	131
不明キビ型	3,686	1,209	0	1,707	122	125	436	251	825	525
不明ヒゲシバ型	4,400	255	0	610	61	436	555	108	444	722
不明ダンチク型	2,022	64	70	366	61	62	317	180	381	394
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属	119	0	0	0	0	62	0	0	0	0
タケ亜科ネザサ節	4,875	1,145	0	3,293	2,317	2,306	713	323	2,347	1,969
タケ亜科	11,773	11,453	0	16,708	11,157	15,517	2,616	826	14,021	12,407
ヨシ属	119	0	0	0	0	0	0	0	127	66
ウシクサ族	0	191	0	366	0	125	0	0	127	0
シバ属	238	191	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	2,140	764	70	1,707	549	748	753	216	761	460
合 計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	75,154	19,662	70	48,659	18,535	14,208	9,829	3,736	37,178	25,535
イネ科葉身機動細胞珪酸体	19,264	13,744	70	22,073	14,023	18,757	4,082	1,365	17,383	14,901
総 計	94,418	33,406	140	70,732	32,558	32,965	13,911	5,101	54,561	40,436
組 織 片										
イネ属類珪酸体	238	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第 12 表 各地点の植物珪酸体含量



第 263 図 各地点の植物珪酸体含量

2.01A 区

a. はじめに

今回の調査は SX001 の埋土について珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を行い、当時の古環境に関する情報を得ることを目的にする。

b. 試料

試料は、惣作鐘場遺跡 (II SSK01A) の SX001 から採取された試料 20 点である。試料番号 6～9 は褐色の中粒砂からなるが、それ以外は有機物の分解が進んだ黒褐色の砂質シルトからなる。

c. 分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で 7g 前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸 600 倍あるいは 1000 倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に 100 個体以上同定・計数する (化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか (1998)、Krammer (1992)、Krammer and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991) などを参照する。

同定結果は、海水生種、海水～汽水生種、汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並び、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度 (pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。堆積環境の解析は、海水～汽水生種については小杉 (1988)、淡水生種については安藤 (1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性については、Asai and Watanabe (1995) の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

試料約 10 g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛：比重 2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス (無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液) 処理の順に物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類 (Taxa) について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表として示す。複数の種類をハイフォンで結んだものは、両者の区別がつかないものである。

(3) 植物珪酸体分析

湿重 5 g 前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理 (70W, 250KHz, 1 分間)、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム, 比重 2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後に、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤・佐瀬 (1986) の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された植物珪酸体の種類とその個数の一覧表で示す。また、内容物や古植生について検討するために、植物珪酸体群集図を作成する。

d. 結果

(1) 珪藻分析

結果を第 13・14 表、第 264 図に示す。珪藻化石は、試料番号 20 で 100 個体以上産出するものの、他の試料からはほとんど産出しない。産出分類群数は 20 属 83 種類である。試料番号 20 では淡水生種が多産する。全体的には、貧塩不定性種 (少量の塩分があってもこれによく耐えることができる種)、好+真アルカリ性種、流水不定性種 (止水域にも流水域にも生育する種) が多産する。中でも、陸生珪藻 B 群 (伊藤・堀内, 1991)・好汚濁性種 (Asai and Watanabe, 1995) の *Navicula confervacea* が約 30% 産出する。その他は、好流水性種・中～下流性河川指標種 (安藤, 1990)・好清水性種 (Asai and Watanabe, 1995) の *Achnanthes lanceolata*、流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、真止水性種・好清水性種の *Tabellaria flocculosa* などが 10% 前後産出する。なお、陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻であり、中でも、乾燥に耐性のある種が A 群とされる。陸生珪藻 A 群に随伴し、湿った環境にも水中にも生育する種が B 群とされる。好汚濁性種は有機的に汚濁した環境で生育する種であり、好清水性種は有機的に清浄な環境に生育する種である。中～下流性河川指標種とは、主に中～下流部、すなわち、河川沿いに河成段丘・扇状地・自然堤防・後背湿地といった地形が見られる環境で生育する種とされる。

(2) 花粉分析

結果を第 15 表に示す。花粉化石は試料番号 20 を除くと検出数が少なく、保存状態も悪い。試料番号 1～19 においては、全体的に針葉樹花粉、イネ科花粉、シダ類胞子がわずかに検出される。これは、針葉樹花粉やシダ類胞子は広葉樹花粉に比べて風化に強く (徳永・山内, 1971 など)、一方、イネ科花粉は形態が特徴的なため風化を受けても種類の特定がしやすいためである。試料番号 20 は、これらに比べると保存状態は良い。木本花粉は、ほとんどがマツ属 (複維管束亜属) からなり、スギ属、ヤマモモ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが産出する。種類構成は単調である。草本花粉も種類構成が単調である。その中ではイネ科が多産し、カヤツリグ科・キク亜科のほか、栽培種のソバ属が産出する。

(3) 植物珪酸体分析

結果を第 16 表、第 264 図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、全般に保存状態が悪く、表面に多数の小孔 (溶食痕) が認められるものが多い。各試料の産状はほぼ同様であり、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つ。特に、試料番号 1～8 ではネザサ節の短細胞珪酸体、あるいは機動細胞珪酸体の産出が目立つ。また、ヨシ属やススキ属なども認められる。

e. 考察

(1) 微化石の産状について

今回分析を行った試料は全般に化石の保存状態が悪く、特に花粉化石と珪藻化石は試料番号 20 以外からはほとんど産出しなかった。このような化石の産状の原因については、SX01 遺構埋土の堆積・土壌構造の観察結果を踏まえた評価が必要である。ただし、花粉化石の保存状態を見る限り、風化作用の影響を受けていることが窺える。花粉化石は、空気に触れる酸化条件下では風化作用の影響により分解消失することが知られている。一方、珪藻化石も保存状態が悪かった。土壌中の珪酸分は、溶脱や沈殿、再結晶化などによって徐々に風化すると考えられている (千木良, 1995)。これらことから、SX01 埋土中の珪藻や花粉化石は、風化作用により消失している可能性が高いと判断される。

以上のことから、遺構埋土の形成期には、乾湿を繰り返すような水文環境が形成され、離水時に地表面が大気に曝される期間が一定期間続くような土壌環境であったと考えられる。また、産出した珪藻化石の種類構成をみると、同一試料から水域に生息する種類と陸域に生息する種類が産出するなど、異なる生態性をもつ種群が混在しており、かつ多産種が確認されないといった傾向が確認される。このような群集組成は、河川の氾濫などによって短期間に堆積した一過性の堆積物や水田耕作土などで特徴的に観察される混合群集の特徴に類似する(堀内ほか,1996)。このことから、遺構埋土が氾濫性の堆積物に由来する可能性が考えられるが、この点については遺構埋土の堆積・土壌構造を踏まえて評価する必要がある。一方、試料番号20は他の試料と比べると化石の保存状態が良く、堆積状況が異なる可能性が考えられる。珪藻化石群集は、上述の混合群集の様相を示しており、氾濫性の堆積物に由来する可能性が考えられる。

(2) 植生について

花粉化石が比較的多産した試料番号20は、二次林の代表的な樹種であるマツ属復維管束亜属が多産し、種類構成も単調であったことから、当時の遺跡周辺の植生は、人為的ないし自然攪乱が及んだ植生であったことが推定される。栽培植物のソバ属が産出しており、本種類が虫媒性で花粉生産量が少ない種類であることから、遺構周辺ではソバ属が分布しており、畑作が行われていた可能性がある。

一方、植物珪酸体組成をみると、クマザサ属やネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立つことから、これらの種類が付近に分布していたことが推定される。また、ヨシ属やススキ属なども分布していたことが窺える。

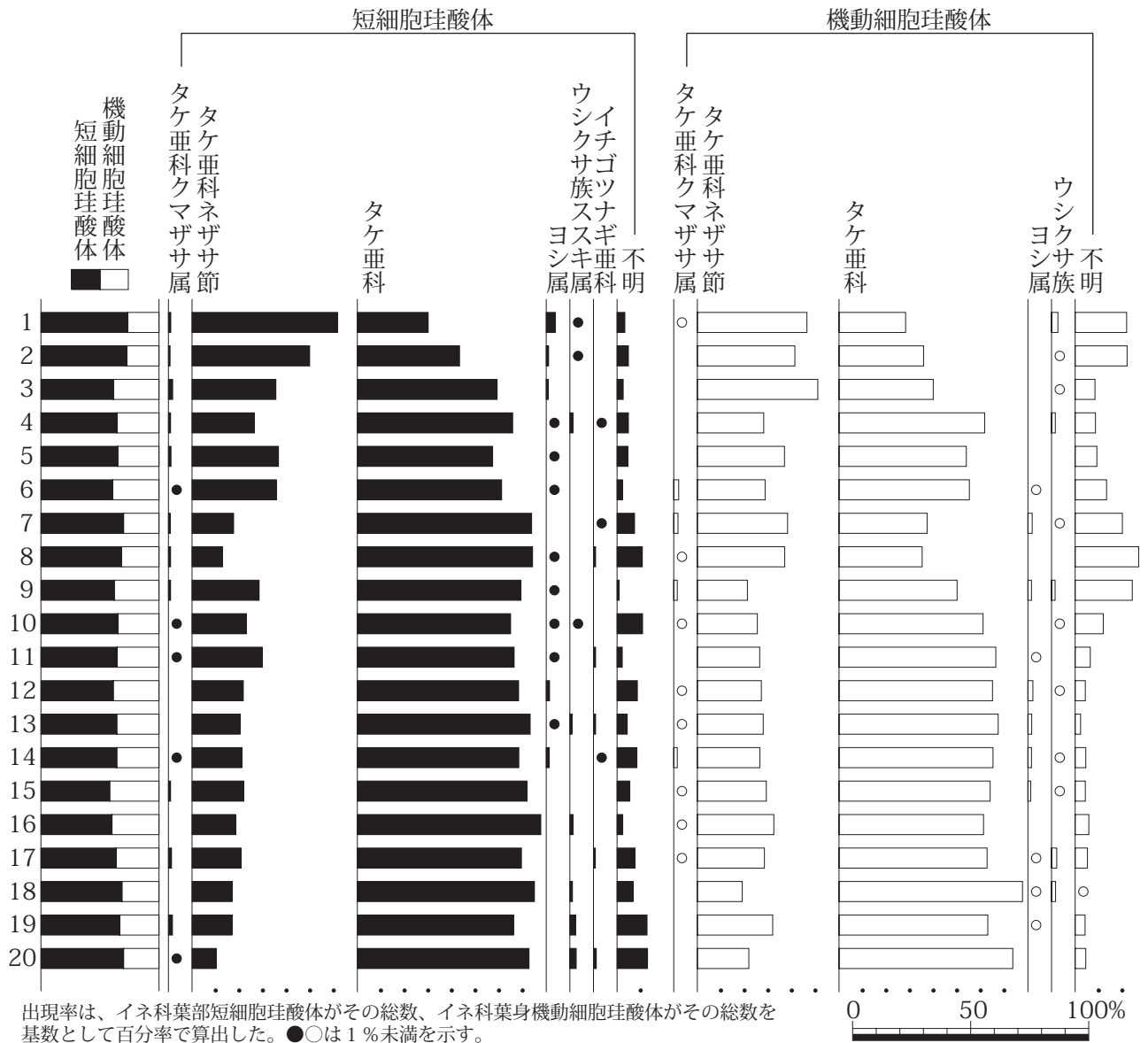
引用文献

- 安藤一男(1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- Asai, K. and Watanabe, T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
- 千木良 雅弘,1995, 風化と崩壊. 近未来社,204p.
- 原口和夫・三友 清・小林 弘(1998) 埼玉の藻類 珪藻類. 「埼玉県植物誌」, p.527-600., 埼玉県教育委員会.
- 堀内誠示・高橋 敦・橋本真紀夫(1996) 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について -混合群集の認定と堆積環境の解釈-. 日本文化財科学会, 第13回大会研究発表要旨集, p.62-63.
- 伊藤良永・堀内誠示(1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.
- 近藤鍊三・佐瀬 隆(1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.
- Krammer, K.(1992)PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353., BERLIN・STUTTGART.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1986)Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1988)Bacillariophyceae, Teil 2,

Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

Krammer, K. and Lange-Bertalot, H.(1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae)und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.



第 264 図 植物珪酸体群集

種 類	試料番号																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
木本花粉																				
ツガ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	1	3	1
マツ属単維管束亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
マツ属複維管束亜属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	99
マツ属 (亜属不明)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	3	2	109
コウヤマキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	1	1	3
スギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	7
ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ニレ属ケヤキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6
エノキ属ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ガズミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
草本花粉																				
イネ科	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	5	-	2	2	-	1	4	4	1	23
カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
キク亜科	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
タンポポ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
不明花粉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
シダ類胞子																				
ヒカゲノカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
イノモトソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
他のシダ類胞子	-	-	-	1	2	-	-	4	-	3	1	1	2	3	10	17	19	39	50	152
合 計																				
木本花粉	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	2	1	4	2	8	10	232
草本花粉	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	5	0	2	3	1	1	4	4	2	31
不明花粉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
シダ類胞子	0	0	0	1	2	0	0	4	0	3	1	1	2	3	10	19	19	39	50	155
総計 (不明を除く)	0	0	0	3	2	0	1	4	2	4	7	4	4	8	12	24	25	51	62	418

第 15 表 花粉分析結果

種 類	試料番号																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
イネ科葉部短細胞珪酸体																				
タケ亜科クマザサ属	3	2	4	2	3	1	2	2	2	1	1	-	-	1	2	-	3	-	4	1
タケ亜科ネザサ節	189	145	81	61	96	79	45	30	61	51	68	48	47	50	49	39	49	45	40	26
タケ亜科	92	126	135	152	150	135	189	173	149	144	152	151	169	162	161	164	164	198	157	186
ヨシ属	12	3	2	1	1	1	-	1	1	1	1	3	1	3	-	-	-	-	-	-
ウシクサ族ススキ属	1	1	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	3	-	3	6	7
イチゴツナギ亜科	-	-	-	1	-	-	1	2	-	-	2	-	2	1	-	-	2	-	-	3
不明キビ型	-	3	3	3	6	2	6	7	1	6	1	7	3	7	5	3	6	10	14	17
不明ヒゲシバ型	5	5	2	3	4	1	9	7	-	11	3	6	2	7	3	2	4	5	11	10
不明ダンチク型	5	6	1	5	2	2	4	11	1	7	1	6	5	6	4	-	8	3	5	6
イネ科葉身機動細胞珪酸体																				
タケ亜科クマザサ属	1	-	-	-	-	3	2	1	2	1	-	1	1	2	1	1	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節	51	45	73	36	52	41	42	40	28	30	33	38	36	35	47	45	38	23	38	24
タケ亜科	31	39	57	79	76	79	41	38	66	72	83	91	87	86	103	85	84	94	75	81
ヨシ属	-	-	-	-	-	1	2	-	2	-	1	3	2	2	-	-	1	1	1	-
ウシクサ族	3	1	1	2	-	-	1	-	2	1	-	1	-	1	1	-	3	2	-	-
不明	24	24	12	11	13	19	22	29	32	14	8	6	3	6	7	8	7	1	5	5
合 計																				
イネ科葉部短細胞珪酸体	307	291	228	231	262	221	256	233	215	222	229	221	231	237	224	211	236	264	237	256
イネ科葉身機動細胞珪酸体	110	109	143	128	141	143	110	108	132	118	125	140	129	132	161	139	134	121	119	110
総 計	417	400	371	359	403	364	366	341	347	340	354	361	360	369	385	350	370	385	356	366

第 16 表 植物珪酸体分析結果

第4節 惣作・鐘場遺跡における古環境変遷

1. はじめに

瀬戸市惣作町・鐘場町の惣作・鐘場遺跡調査地点にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、放射性炭素年代測定から新たな知見が得られたので報告する。

2. 試料および分析方法

惣作鐘場遺跡の地下層序解析のため、各調査区において遺構検出面からバックホーにより掘削し、層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは放射性炭素年代測定用試料を採取した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析 (AMS) 法により測定を行なった。加速器質量分析法は 125 μm の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨 (グラファイト) に調整後、加速器質量分析計にて測定した。測定された 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した 14C 濃度を用いて 14C 年代を算出した。14C 年代値の算出には、14C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。14C 年代の暦年代への較正には CALIB4.3 を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ (Code No.; PLD) に依頼した。

3. 分析結果

惣作鐘場遺跡の深掘層序

惣作鐘場遺跡の調査区全体では 4 地点 (00A 区・01D 区・04B 区・04D 区) の深掘層序断面を得たが、各地点の地下層序全体は砂や礫の粗い粒子から構成されているため、年代測定に有効な試料を採取することができなかった。それらのうち堆積年代の得られた 01D 区 (第 265 図) の地下層序について下位層より述べる。

調査区北端の地点 1 では深度約 1.5m の層序断面を得た (第 266・267 図)。下位層より、標高 177.39-177.44m までは灰色の中礫サイズの礫の混じる粘土質シルト層である。堆積構造はみられなかった。標高 177.44-177.63m は灰褐色を呈するシルト質細粒砂層である。シルト成分に比べて砂成分が優勢である。標高 177.63-177.77m は灰褐色の粘土層であり、塊状であり、堆積構造はみられない。標高 177.77-177.89m は黒褐色粘土層で、塊状・均質である。標高 177.89-178.08m は褐色を呈する粘土ないしシルトの混じる細粒砂層である。堆積構造はみられない。標高 178.08-178.36m は黒褐色の細粒砂混じりの粘土層である。本層も塊状・均質であり、堆積構造は確認できなかった。標高 178.36-178.59m は黄色の細粒砂層である。堆積構造はみられない。標高 178.59-178.72m は褐色のシルト質極細粒砂層である。標高 178.72-178.81m は黒褐色シルト層、標高 178.81-179.07m は褐色を呈する粗粒砂 - 極粗粒砂の混じるシルト層である。なお、標高 177.89-178.08m の褐色粘土 - シルト混じり細粒砂層と、その上位を覆う標高 178.08-178.36m の黒褐色細粒砂混じり粘土層からは縄文時代中期の遺物が出土している (宇佐見ほか, 2002)。

4. 放射性炭素年代測定

01Da 区の層序断面において 3 試料の放射性炭素年代値を得た (第 17 表)。最下位層で

ある標高 177.39-177.44m の中礫混じり粘土質シルト層の標高 177.44m から採取した炭化物は 8325, 8305, 8300, 8260, 8250, 8240, 8215 cal yrs(BC 6375, 6355, 6350, 6310, 6300, 6290, 6265)(PLD-1502) と、全試料中でもっとも古い年代値を示した。また、標高 177.77-177.89m の黒褐色粘土層の標高 177.84m より採取した炭化物が 3830, 3785, 3780 cal yrs BP(BC 1880, 1835, 1830)(PLD-1504)、縄文時代中期の遺物が出土している標高 178.08-178.36m の黒褐色細粒砂混じり粘土層において、標高 178.28m から採取した炭化物が 3960, 3950, 3930 cal yrs BP(BC 2010, 2000, 1980)(PLD-1503) と約 3900-3700 年前代の数値年代であった。

5. 堆積層序から推定される惣作鐘場遺跡調査地点の古環境

01Da 区の層序断面の最下位には粘土質シルト層 (標高 177.39-177.44m) がみられたが、その後実施したバックホーによる深掘により、この粘土質シルト層のさらに下位には層厚約 1m の大礫 - 巨礫層が確認された。礫層とその直上を覆う粘土質シルト層との境界は、柱状図作成地点を最深部とするような下に凸の形態をしていた。このことより柱状図の作成地点では礫層からなる流路があり、その後の流路の変遷によってとり残された流路跡に細粒堆積物が埋積していったものと推定できる。また、この流路跡を埋積する堆積物は柱状図を見ても明らかなように、層厚約 20cm の細粒砂層と層厚 10-20cm 程度の砂混じりの粘土層とが交互に繰り返して堆積していることが確認できる (図 3)。この事実は、礫を運搬していた流路が放棄され放棄河道となった凹地に、洪水時に短期間で細粒砂層が堆積し、それ以外のときには砂粒子の混じる粘土層が堆積していたものと推定される。埋積の始まった時期は放射性炭素年代測定により最下位層の中礫の混じる粘土質シルト層で約 8300-8200 年前代、黒褐色を呈する粘土層で約 3900-3700 年前代を示し、その頃に埋積されたものであることがわかった。

さて、惣作鐘場遺跡の調査範囲の西側には赤津川が北から南へ流下している。赤津川は名古屋市北部を流れる矢田川の最上流部にあたり、惣作鐘場遺跡の調査地点北方の瀬戸市凧山町において東から西への流れを北東から南西方向へと変化させる。凧山町付近よりも東側には中生代白亜紀 - 新生代古第三紀の領家帯の花こう岩類が広範囲に露出して (仲井, 1970; 領家研究グループ, 1972; Nakai, 1976; 仲井, 1982)、標高 200m 以上の山地を形成している。ところで、瀬戸市地域には花こう岩類などの基盤岩類に囲まれた盆地状構造を示す地形が多く認められており、調査地点は赤津盆地と呼称されている (水野ほか, 1986)。本盆地は瀬戸市凧山町・中畑町から惣作町・鐘場町を通り、塩草町に至る北東 - 南西方向に延びた盆地状構造を呈している。今回の惣作鐘場遺跡の調査地点はこの盆地北東部の基盤岩類との縁辺部にあたっており、堆積盆地縁辺の堆積層序と堆積物から得られた放射性炭素年代測定により約 8000 年前代から約 3900-3700 年前代の堆積年代値が得られた。また、約 3900-3700 年前代を示す堆積物から縄文時代中期頃の遺物が出土した事実はたいへん意義のあるものである。

鬼頭 剛 (愛知県埋蔵文化財センター)・森 勇一 (愛知県立津島東高等学校)

謝辞

本論を作成するにあたり、名古屋大学大学院環境学研究科の海津正倫氏には惣作・鐘場遺跡の地下層序について現地にてご助言・ご討論いただいた。愛知県埋蔵文化財センター調査研究員の酒井俊彦氏には惣作鐘場遺跡に関する考古学的情報を教えていただいた。試料の整理・保管と図面作成では整理補助員の服部久美子・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚

くお礼申し上げます。

文献

水野 収・伊藤竹次・深見洋治郎・片 征治・石川輝海, 1986, 。大地, 瀬戸市史資料編二 自然, 瀬戸市, 1-100.

仲井 豊, 1970, 愛知県三河地方の花崗岩類, 地球科学, 24, 139-145.

Nakai Y., 1976, Petrographical and petrochemical studies of the Ryoke granites in the Mikawa-Tono district, central Japan, Bull. Aichi Univ. Educ., (Nat. Sci.), 25, 97-112.

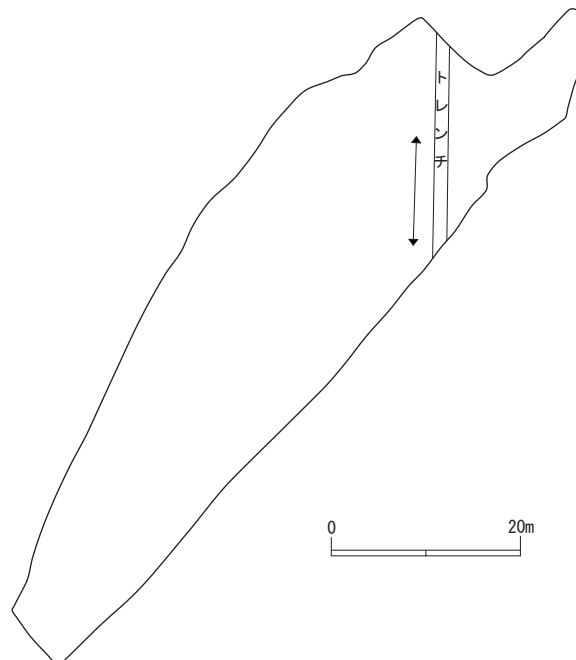
仲井 豊, 1982, 中部地方領家帯の武節花崗岩, 日本地質学会第 89 年学術大会講演要旨, 404.

領家研究グループ, 1972, 中部地方領家帯の花崗岩類の相互関係, 地球科学, 26, 1-21.

宇佐見 守・藤岡幹根・織部匡久, 2002, 惣作鐘場遺跡, 平成 13 年度愛知県埋蔵文化財センター「年報」, 愛知県埋蔵文化財センター, 32-39.

標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C年代 (yrs BP)	δ ¹³ C PDB (‰)	暦年代較正值 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正值 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (cal AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
177.44	中礫混じり 粘土質シルト層	炭化物	7460±50	-	BC 6375, 6355, 6350, 6310, 6300, 6290, 6265	8325, 8305, 8300, 8260, 8250, 8240, 8215	BC 6320-6250(55.0%) BC 6385-6330(45.0%)	8270-8200(55.0%) 8335-8280(45.0%)	PLD-1502(AMS)
177.84	黒褐色粘土層	炭化物	3530±50	-26.4	BC 1880, 1835, 1830	3830, 3785, 3780	BC 1845-1770(57.4%) BC 1920-1860(42.6%)	3795-3720(57.4%) 3780-3810(42.6%)	PLD-1504(AMS)
178.28	黒褐色細粒砂混じり 粘土層	炭化物	3630±50	-26.6	BC 2010, 2000, 1980	3960, 3950, 3930	BC 2040-1920(91.3%)	3990-3870(91.3%)	PLD-1503(AMS)

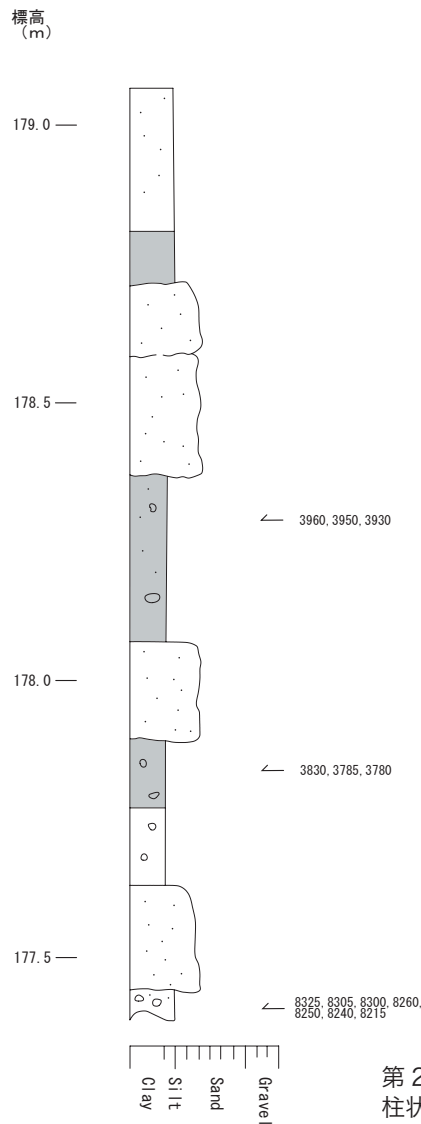
第 17 表 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における放射性炭素年代測定結果



第 265 図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図作成地点
矢印の範囲は図 2 の写真撮影範囲を示す。



第 266 図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区の層序断面写真
 撮影地点は図 1 を参照(北東方向から撮影)。
 中央の黒褐色を呈する粘土層より縄文時代中期の遺物が出土する。



第 267 図 惣作・鐘場遺跡 01Da 区における柱状図
 柱状図右側の数値は暦年代較正值 (cal yrs BP) を示す。

第5章 まとめ

今回の調査は期間5年、21調査区、調査面積約3万m²におよぶ。出土遺物は旧石器時代から江戸時代にわたる。各時代の現在の問題点をあげる。

1. 旧石器時代～縄文時代初頭

有舌尖頭器が南部地区6点、北部地区2点出土した。00A区で2点集中して出土したが、全体として分散した出土状況である。遺構および石器剥片などが集中して出土する地点は確認できない。遺物の出土状況と洪積段丘上の分布のあり方などが今後の課題である。

2. 縄文時代

南部地区00A区2棟と01A区5棟の中期の竪穴住居が検出された。また、同時期の袋状ピット2基が00A区で検出された。01A区に隣接する02D区では後期以降の土器埋設遺構が2基検出され、遺存状況が悪いが、竪穴住居に伴う可能性がある。南部地区全体に削平が著しいため確定できないが、遺物の量としては少ないことから中期、後期とも短期間の小規模な集落と考えられる。また、02D区の調査では少量であるが、早期末から前期初頭の土器を検出している。北部地区では、01D区で赤津川沿いの自然河道斜面の包含層中より中期後半の土器がまとまって出土した。調査区内からは同時期の遺構は検出されておらず、丘陵斜面からの流れ込みと考えられる。近接した地区に集落が展開していた可能性が大きい。また、包含層中より前期の土器が少量出土した。また、02A区より縄文後期土器が出土しているが、遺構は検出されない。調査区全体としてこの時代の遺物が少量認められ、一時期の集落は存在するが、継続的な居住はなかったものと推定される。

3. 弥生時代

北部地区の02B区に集中し、後期の竪穴住居2棟、溝1条が検出された。遺物は04Ab区で若干検出されるが、遺構としては確認できない。住居は舌状の河岸段丘の先端にあり、先端の直下の谷部で溝が集落の周囲をめぐる。集落の一部しか検出されてないため確定できないが、溝は環濠としての機能をもっていたものと考えられる。溝は後期の時期に属し、最下層からこの時期の土器が検出されている。惣作川の谷筋にあり、谷に沿って流れ下った土石流によって一時埋没したあと、再掘削されており、最終的に古墳時代前半に放棄された。機能停止後の埋没過程で、土器類が投棄され、溝の上層より一括して出土している。南部地区では、03B区で竪穴住居が検出されている。調査区北西側の瀬戸市埋文センターで確認された集落の一部であるが、調査区内の端で検出されており、それ以外の遺構は確認されない。また、04B区および04Ca区の東側の下位段丘面の黒ボク面で少量の弥生土器が検出される。中世以降は水田として利用されており、弥生時代に生産域が展開していた可能性が高い。それ以外では、自然河道などで土器が少量出土している。南部地区は遺構、遺物は少ないが、集落および水田域が確認され、未調査部分に集落および生産域、墓域などが広がる可能性がある。

4. 古墳時代

竪穴住居が調査区全域で検出される。時期的に前半と後半で集落の展開が異なる。古墳時代前半では、遺構は北部地区のみに集中する。弥生時代集落の位置する段丘面を中心に継続し

て営まれる。後半の5世紀半ば以後は南部地区にも展開すると同時に、北部地区でも遺跡の北部に竪穴住居が広がり、01D区で竪穴住居と掘立柱建物が確認される。01D区から02A区、04A区では7世紀代の竪穴住居が集中するが、遺構のきりあいが少なく、同一時期の集落としては数棟の小規模なものである。南部地区は03Bから04C区に6世紀代の竪穴住居が集中する。遺構のきりあいは少なく、一時期の集落としては小規模であるが、周囲の未調査の部分の広がりから全体像は確定できない。04D区では5世紀代の竪穴住居が3棟検出され、ほぼ同一時期と考えられる。また、01C区から00A区の上位段丘面上に7世紀代の竪穴住居が2～4棟の群で検出される。小時期ごとに地点を変えて集落が展開した結果と考える。遺物は包含層から須恵器を中心に5世紀から7世紀代の遺物が検出される。上位段丘面全体にこの時期の集落が広がるものとする。

5. 古代

主な遺構としては、竪穴住居が南部地区00A、03B、04Cb区に各1棟、北部地区02B区に1棟、04A区に4棟検出された。前時代に比較して遺構は少なく、南部地区では単独で検出される。未調査部分を考慮しても、前時代より小規模な集落であり、この現象が今後の検討課題となる。

6. 中世

04C・04D区で中世の溝によって囲まれた集落を確認した。13世紀代の遺構は少数ながら認められ、遺構は14世紀後半から増大し、15世紀中葉に溝で囲まれる集落が形成される。15世紀後半に盛期を迎え、16世紀前葉に遺構が激減して廃絶する。掘立柱建物の柱穴は溝に囲まれる範囲に集中する。溝の変遷は4時期が認められるが、遺物からは確定しえない。十数年程度の間隔で溝の掘り直しによって溝の構成が変化する。細かい構成の変化による集落の防御機能の変遷をたどることが今後の課題である。01A区では数棟から構成される掘立柱建物群が検出された。やや古い時期で14世紀代である。03A区では中世溝と単独の中世の掘立柱建物が検出される。また、00Aから02Cの上位段丘から下位段丘にかけての斜面に、15世紀代の包含層が検出されたが、遺構そのものは遺存状況が悪く、あまり検出されない。同じ状況は01A区の南東側の赤津川河谷斜面、02D区南側の門前川河谷斜面、02A区北側の赤津川河谷斜面にも認められる。14世紀から15世紀にかけて、段丘面上と縁辺の斜面の土地改変が行われたことが推測される。また、北部地区の02B区の下位段丘面上に15世紀代の集落が認められる。上位段丘の縁に沿う溝をともない、南部地区の溝で囲まれた集落との関連が考えられるが、大部分が調査区外であり、今後の検討課題である。

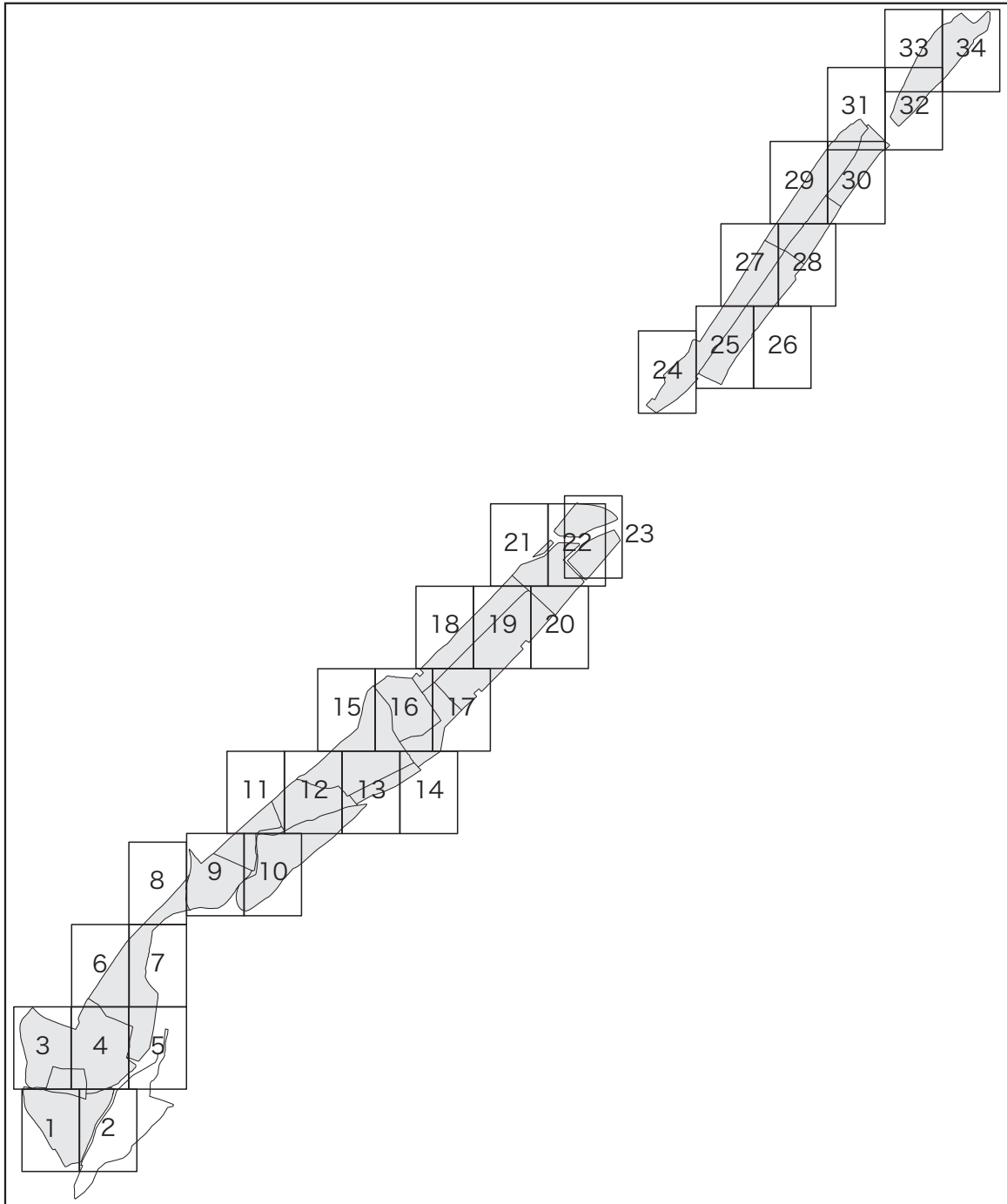
7. 近世

04Cb区および04D区で江戸時代前半の掘立柱建物などが検出された。遺構の密度は低いが、施釉陶器、土師器鍋、木製品などが検出され、集落が形成されていたことが予想される。04Db区から04Cb区の南西端に遺構が多く検出され、瀬戸市埋文センターの調査結果とも合わせて調査区の北西側の上位段丘面に遺構が展開するものと考えられる。また、04B区の水田溝より19世紀中葉の幕末の施釉陶器類がまとまって出土し、集落が存在したことが予想される。(酒井俊彦)

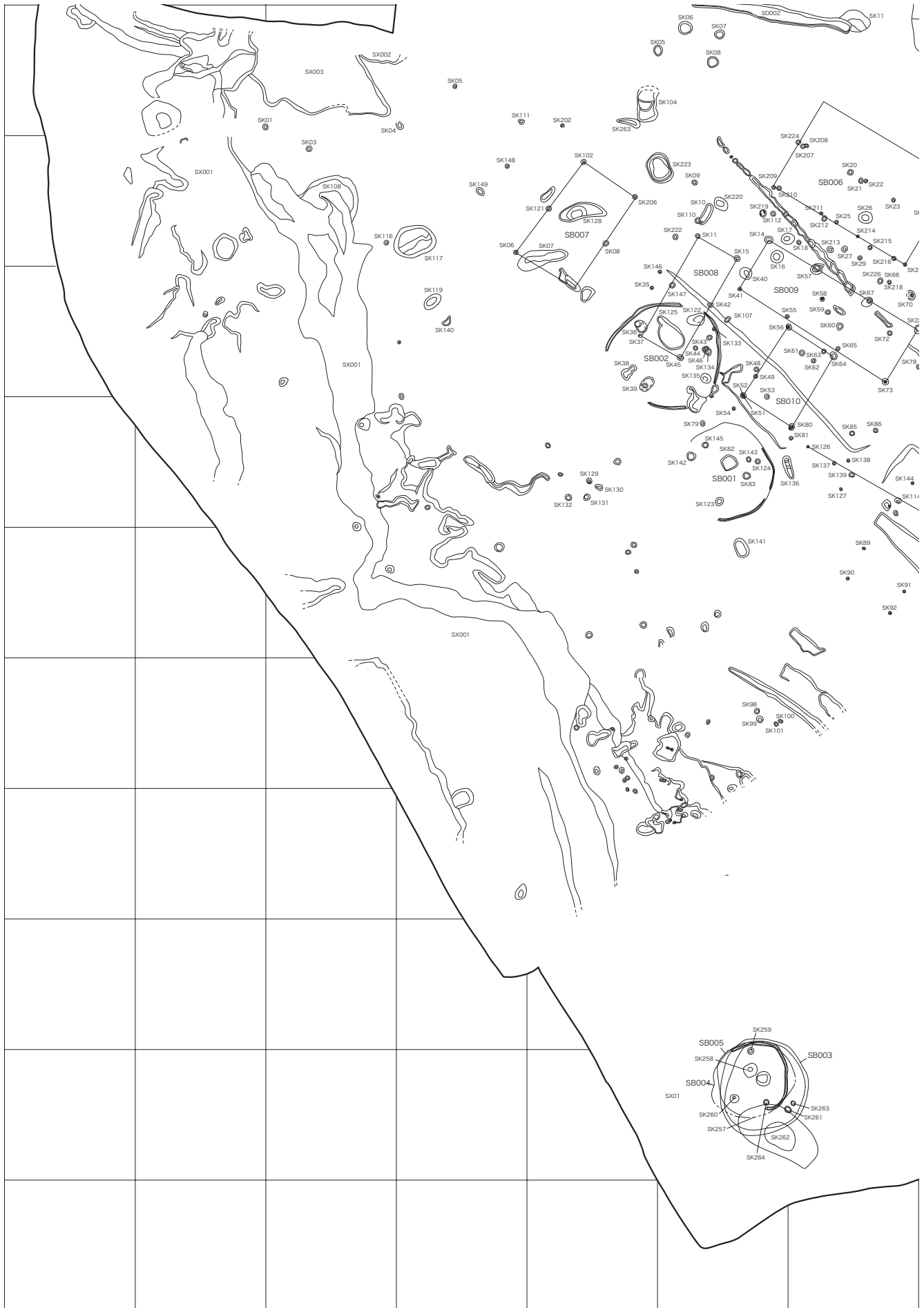
図版

遺構図版 PL 1 ~ 34 (縮尺 1/200)

写真図版 PL 35 ~ 86



遺構図版割り付け図





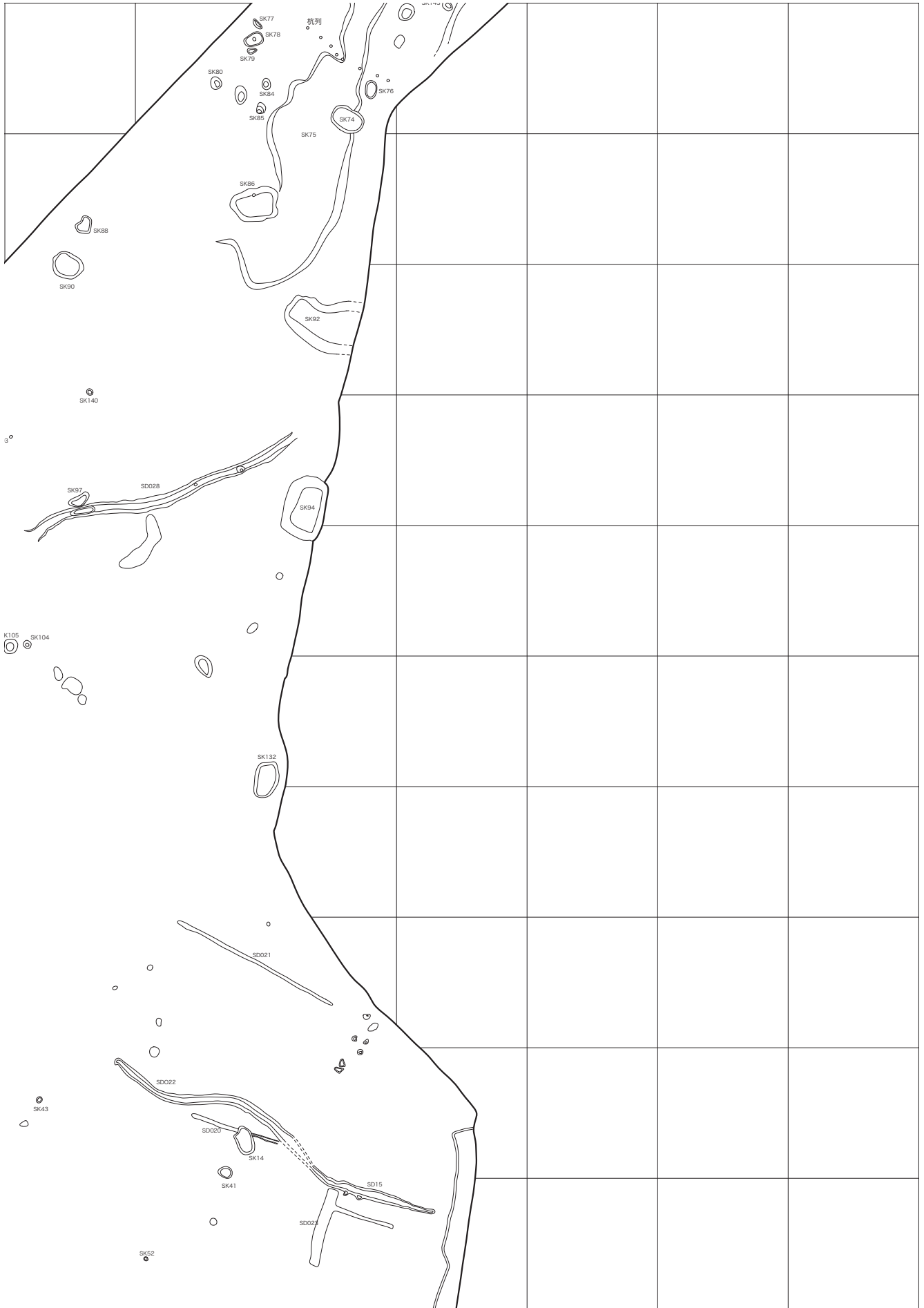
PL 3

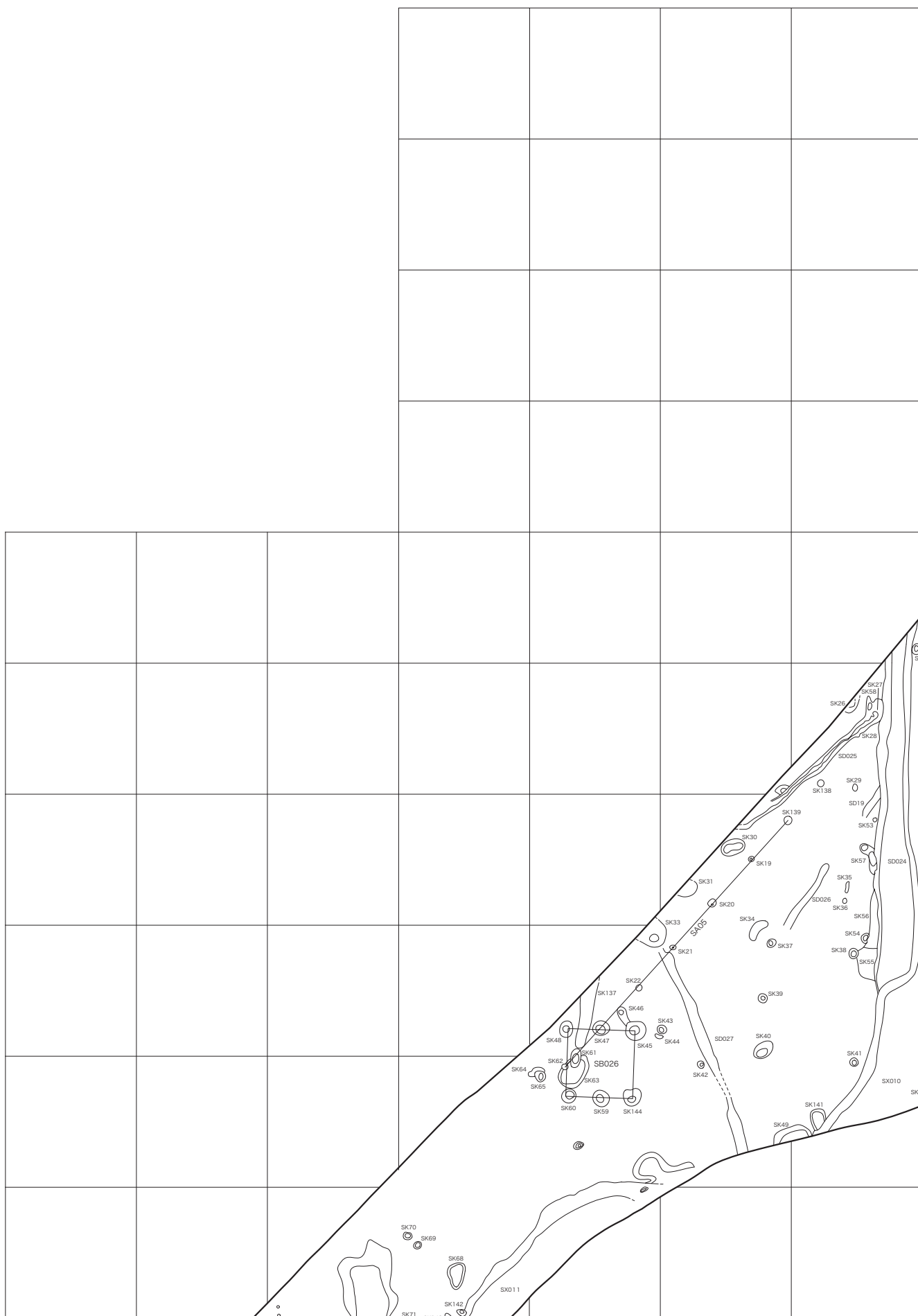


PL 5



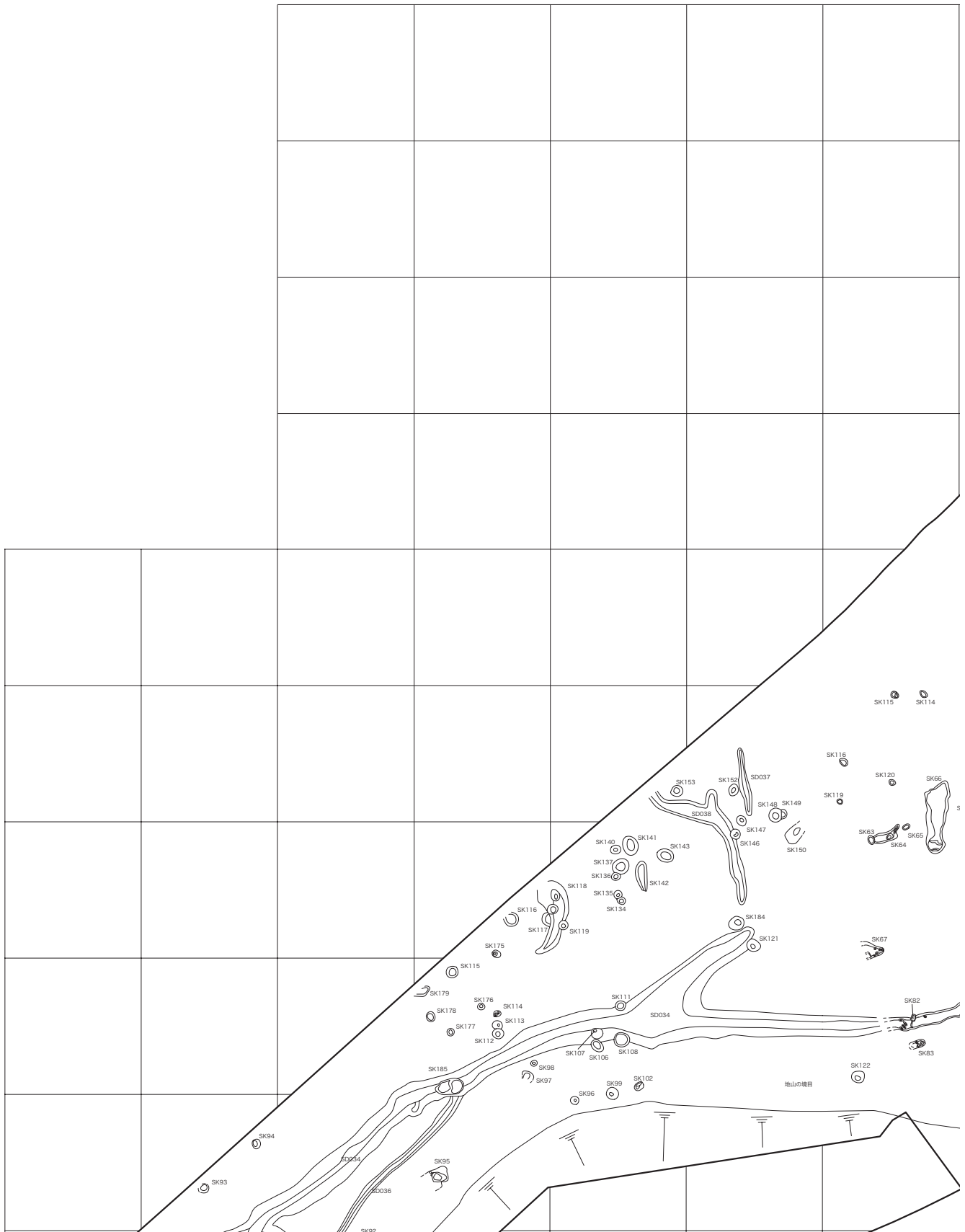
PL 7







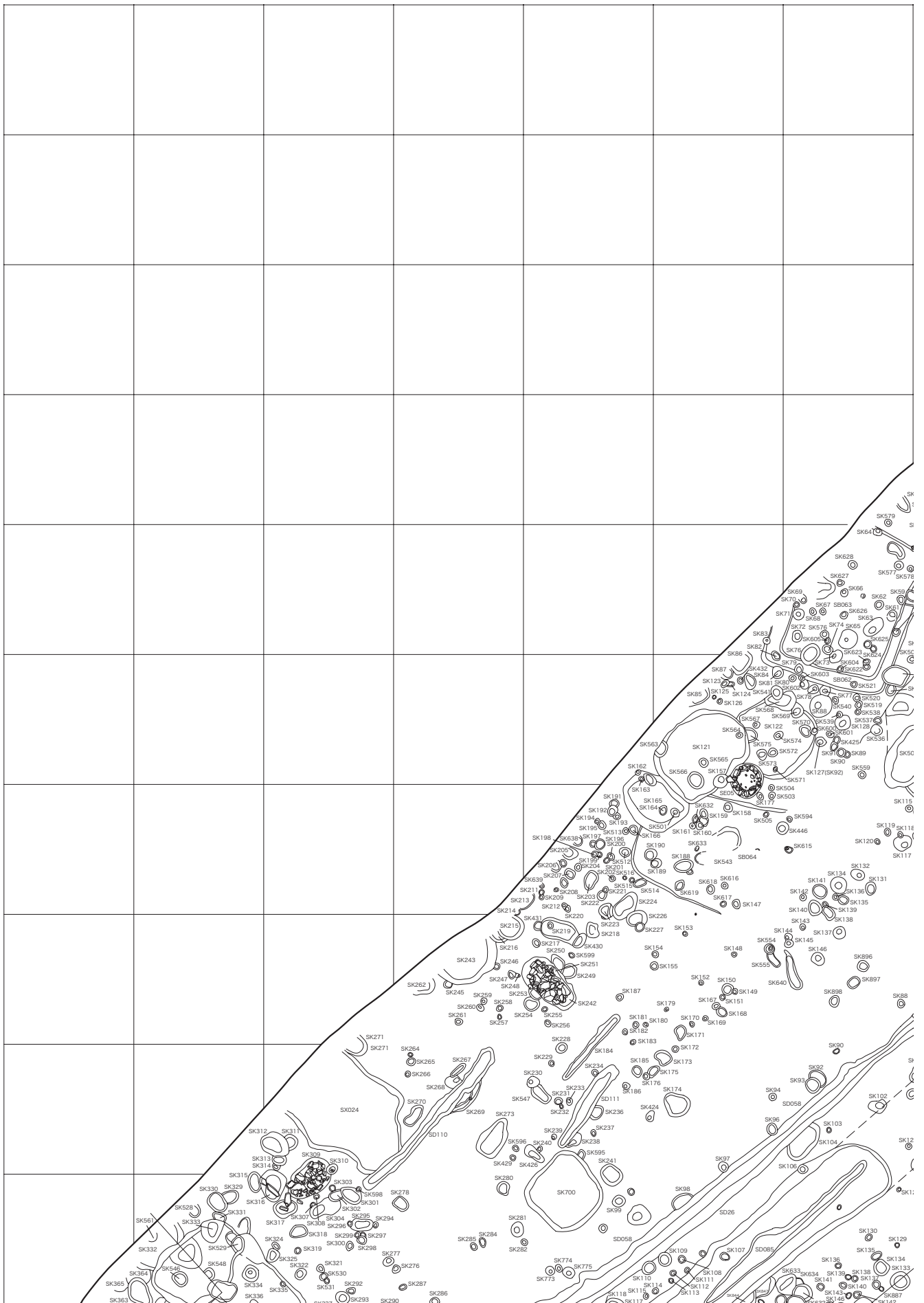


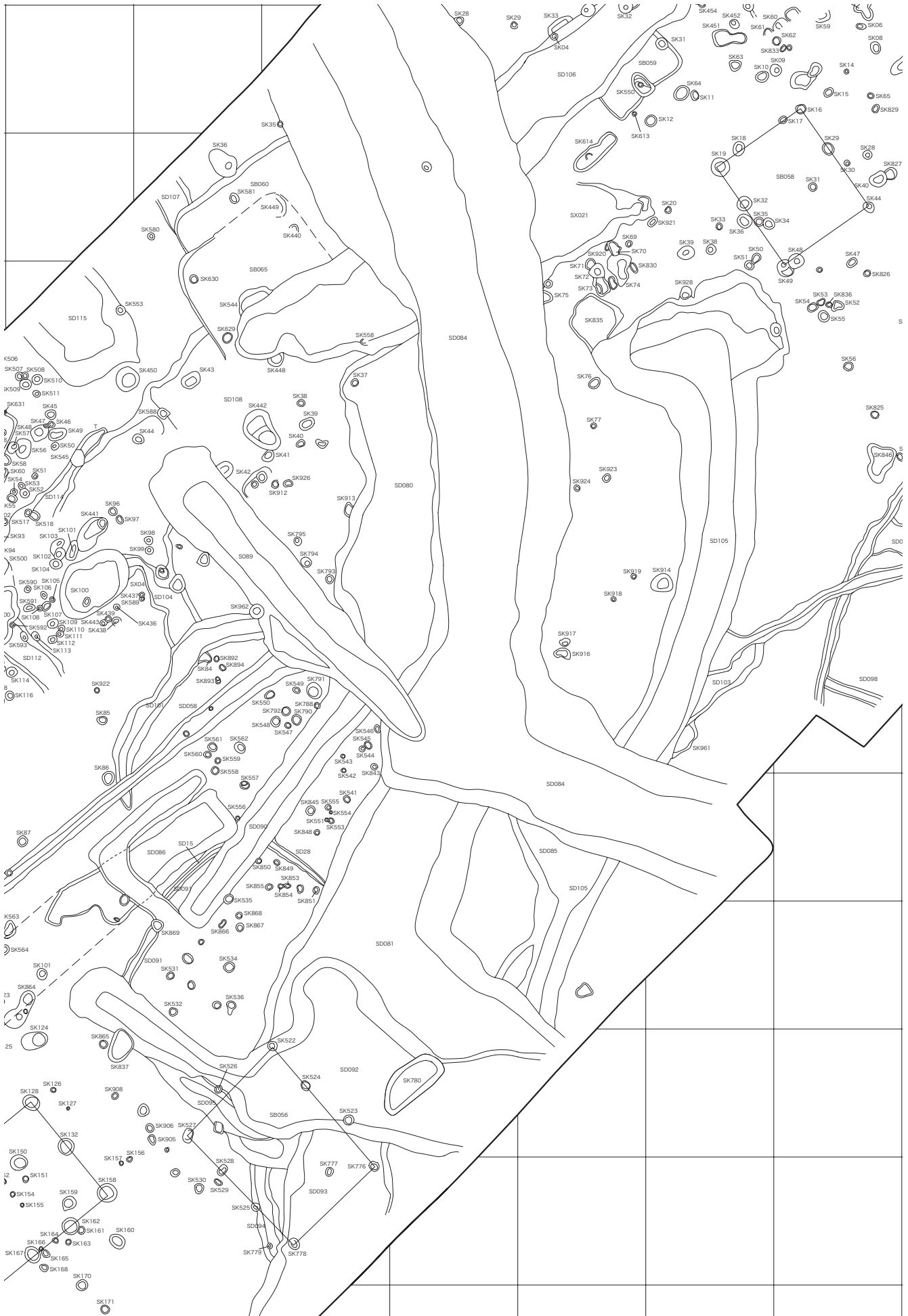


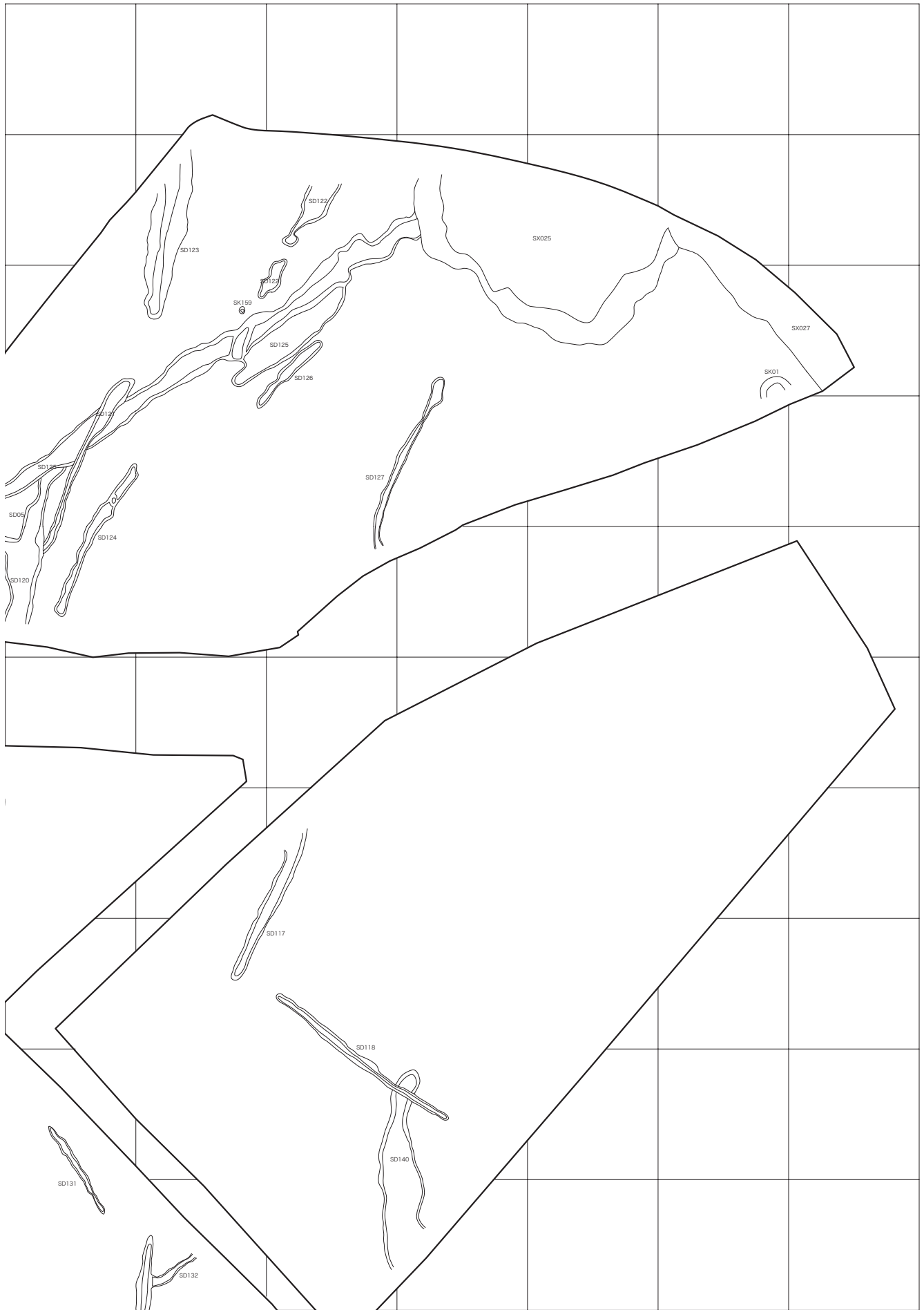




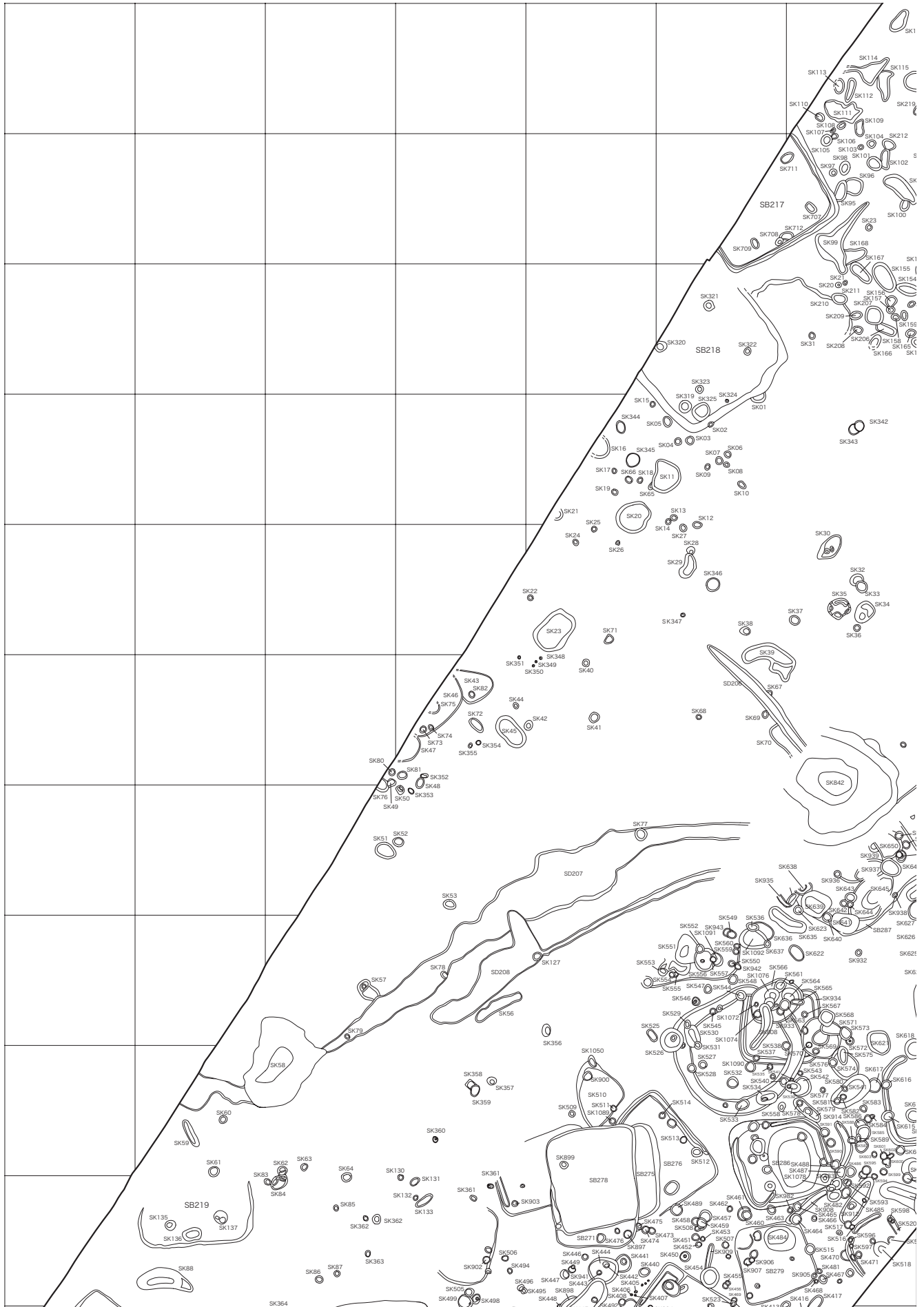


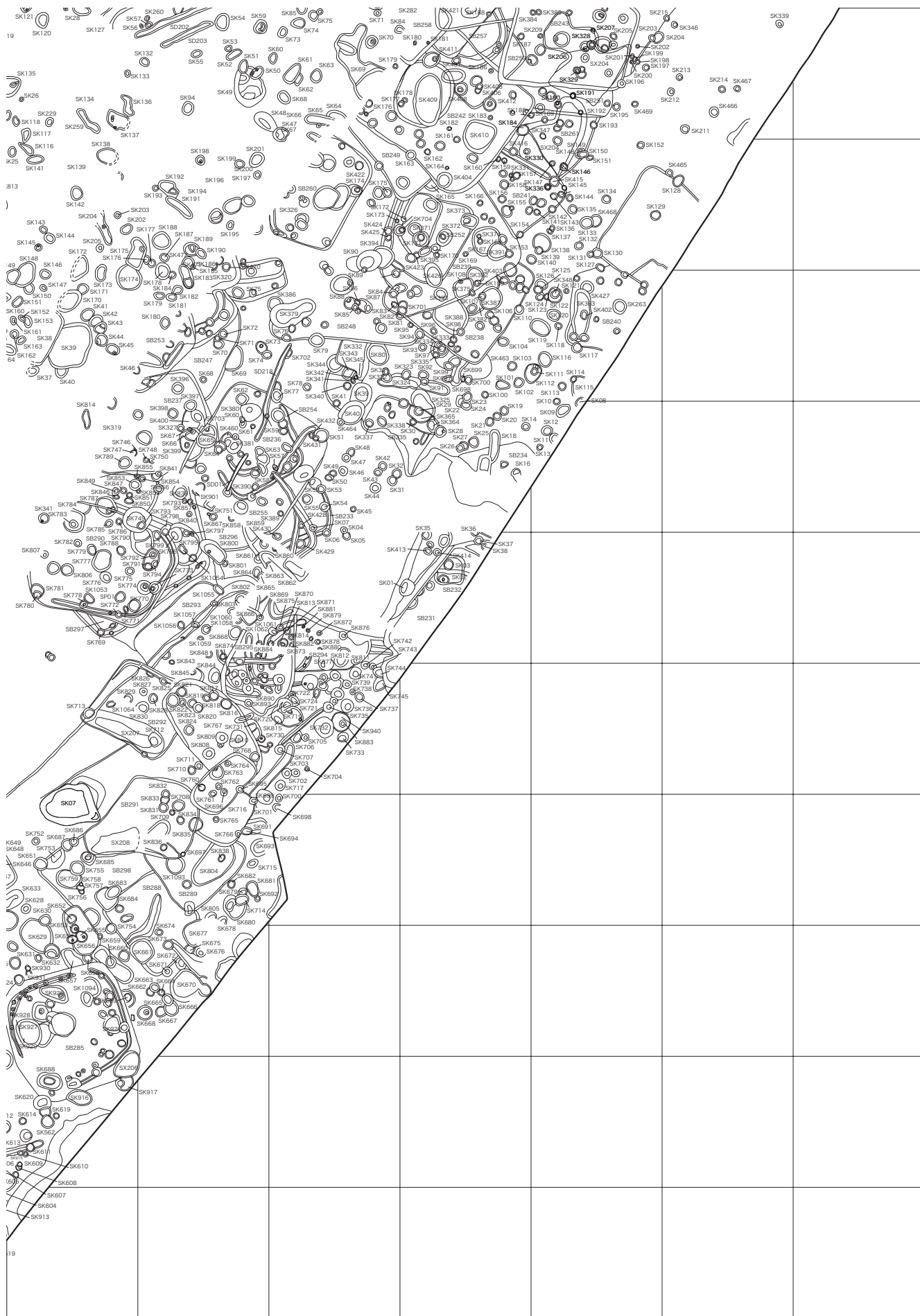


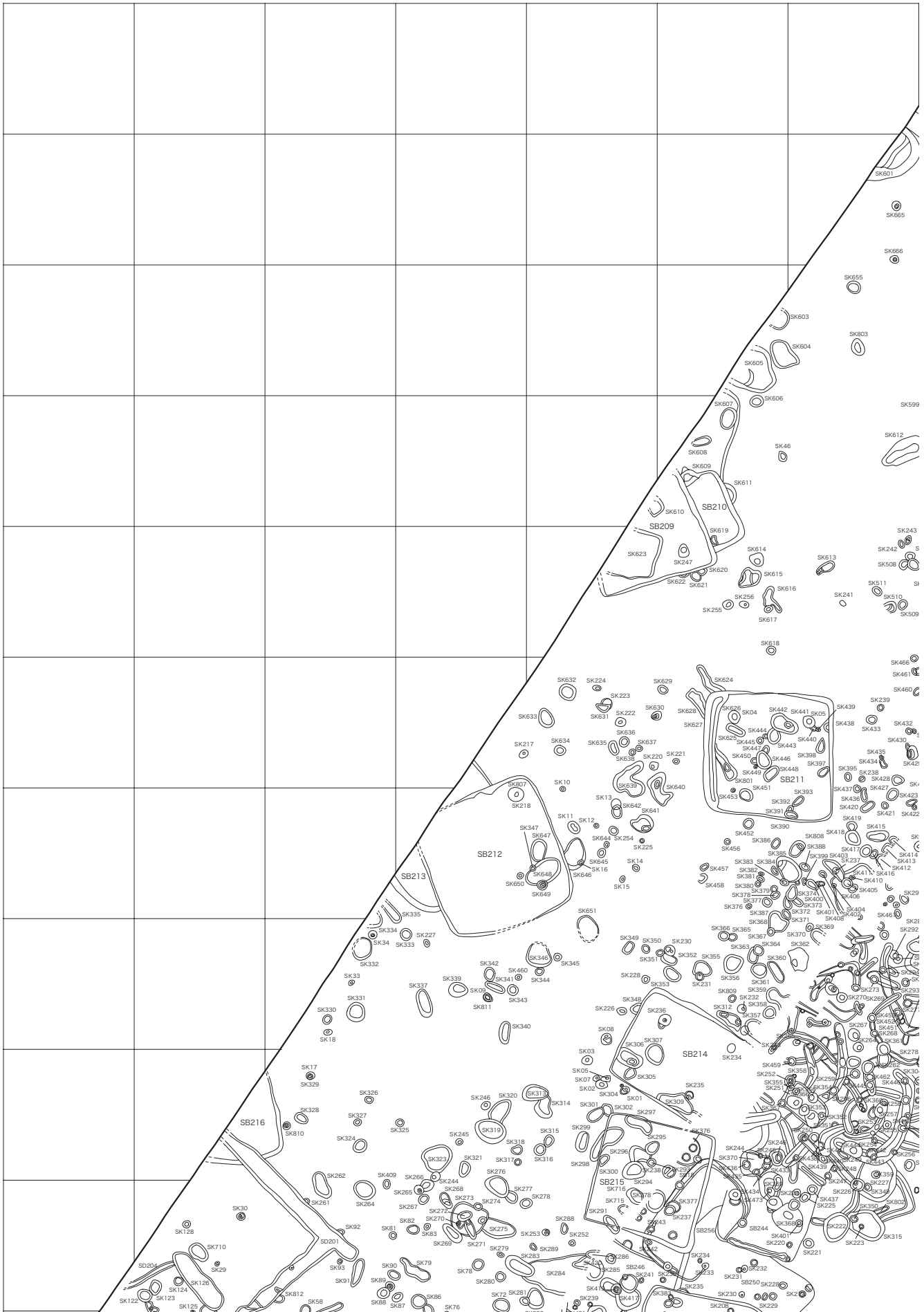


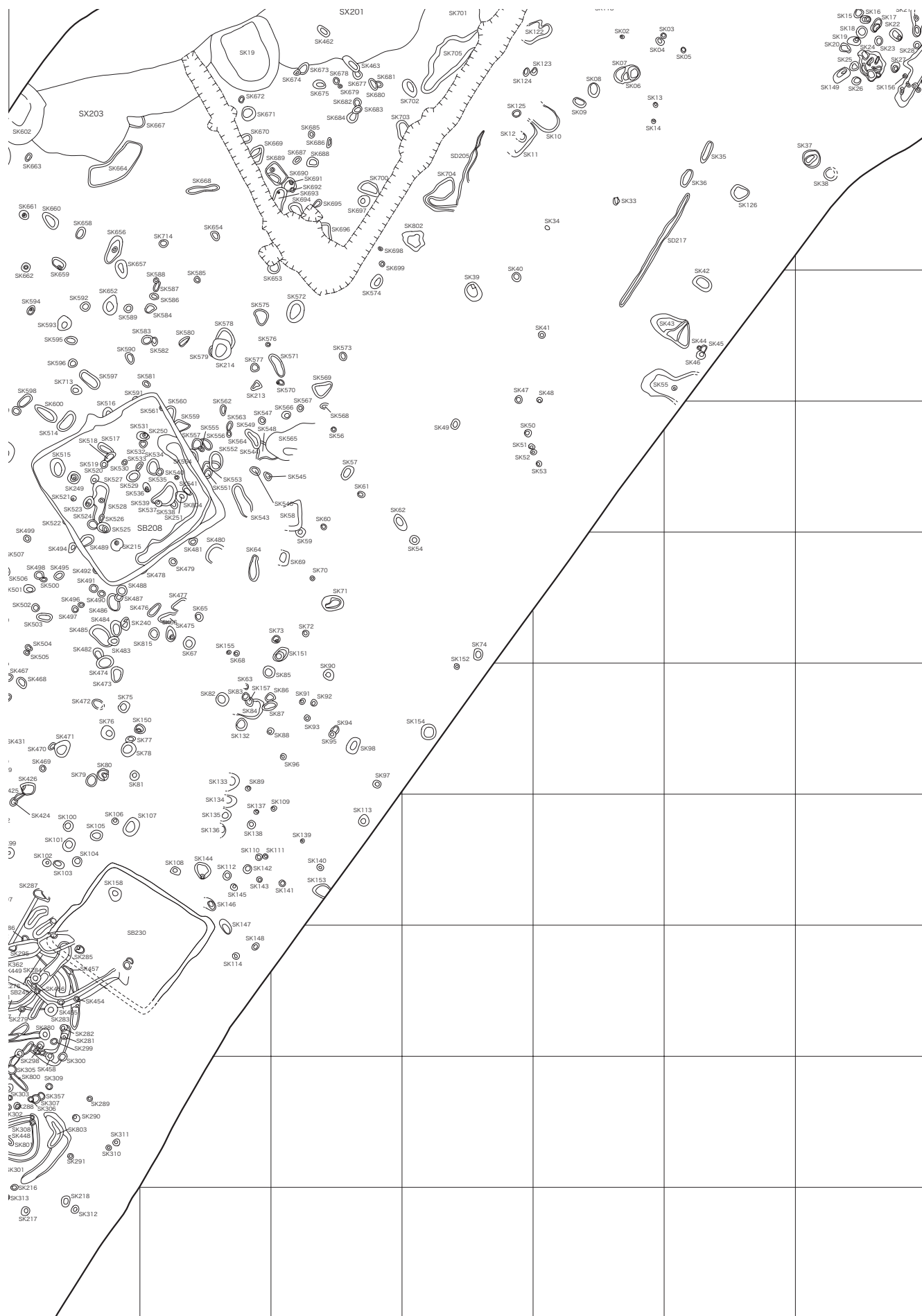


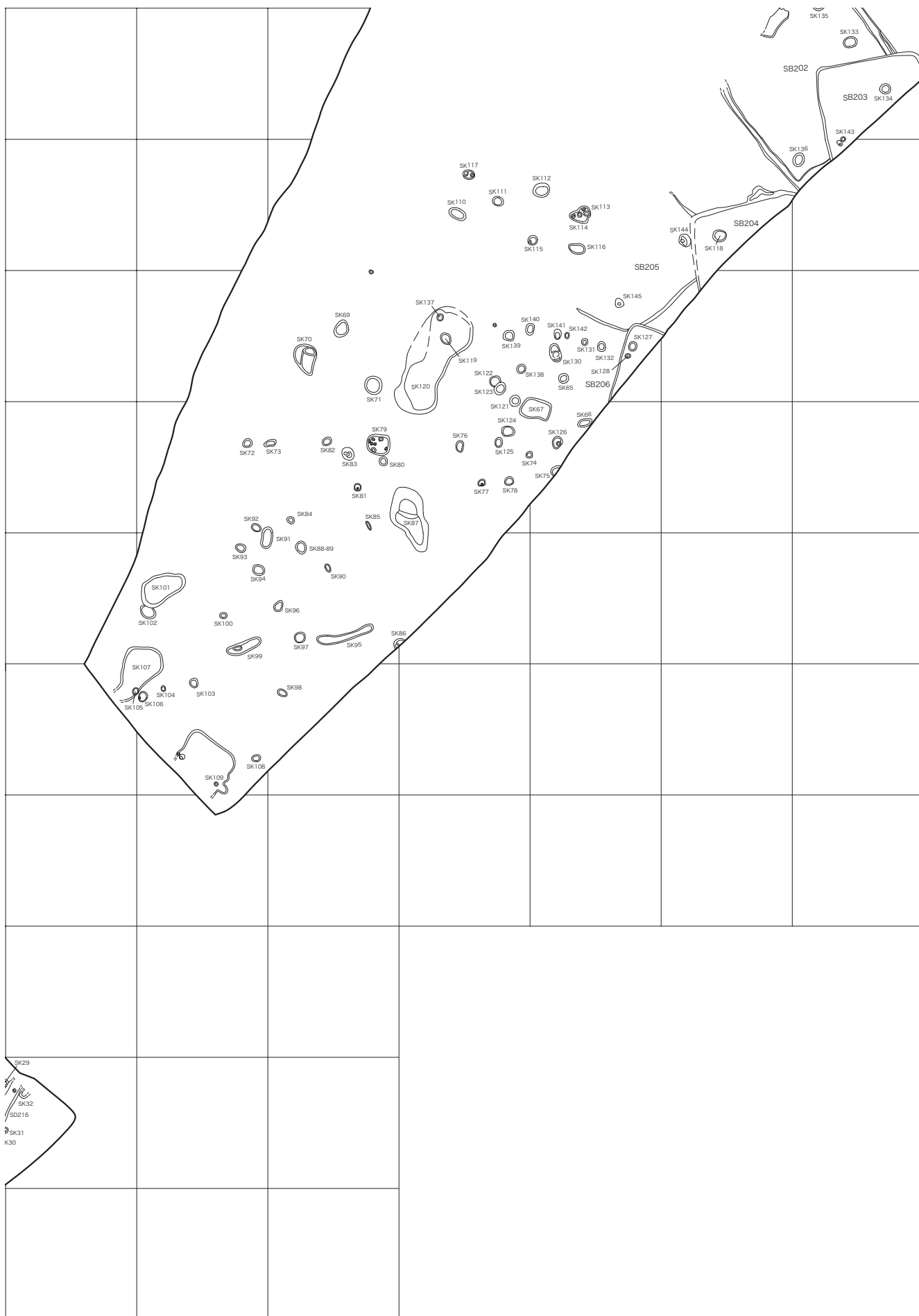


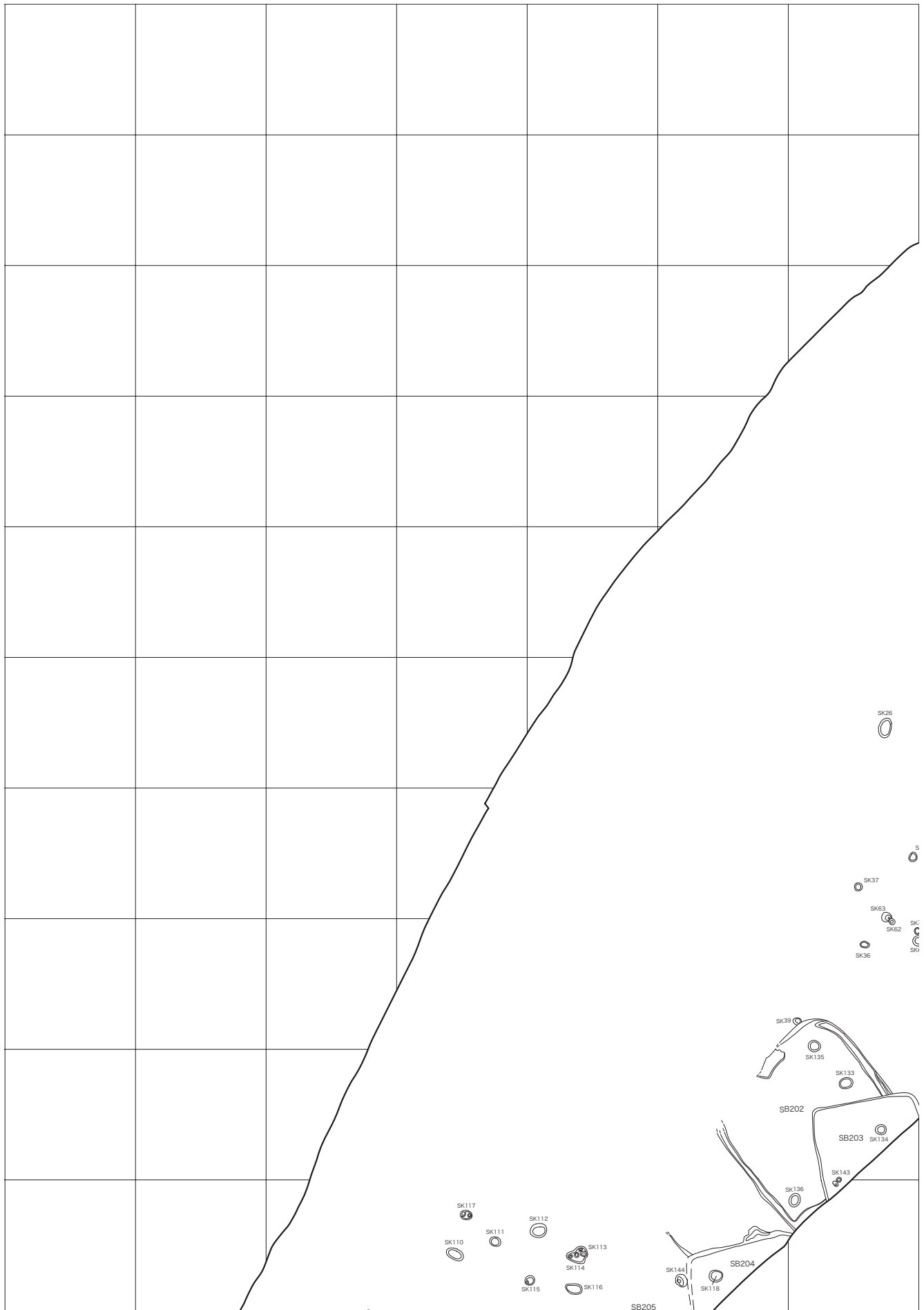
















00A区全景(南)



01A区全景(北)



01B区全景(南)



01C区全景(南)



01Da 区全景 (南)



01Db 区全景 (北東)



02A 区下面全景 (北東)



02B 区全景 (北東)



02C 区全景 (東)



03Aa 区全景 (北)



03Ab 全景 (北)



03B区全景 (南西)



03C 全景 (南西)



04Aa 区全景 (南西)



04Ab 全景 (北東)



04B 区全景 (南西)



04Ca 全景 (南西)



04Cb 区全景 (南西)



04Da 全景 (西)



04Db 区全景 (東)



O4E 全景 (北東)



O4F 区全景 (北)



SB001(南西)



01A区 SK82(南西)



SB002(南東)



SB003(北)



SB004(北西)



SB005(北東)



SB001・002(東)



SB017(南西)



SB219(北)



SB220(西)



SB220(北)



SD212(東)



SD212(東)



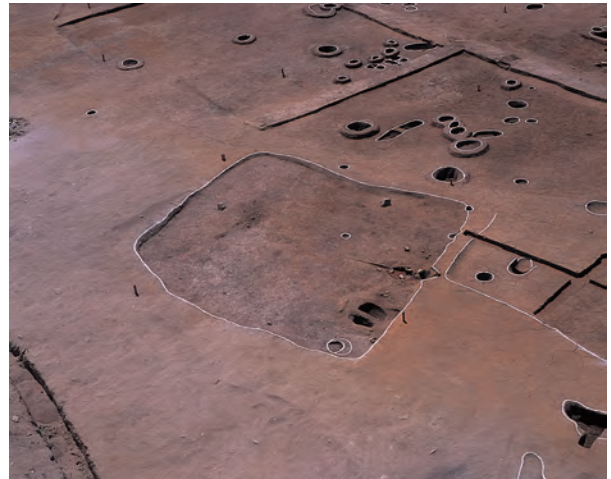
SB011・012(南西)



SB013・014(南)



SB025(西)



SB027(東)



SB031(南西)



SB031 竈(北東)



SB032(南西)



SB033(南東)



SB035(南西)



SB035(南東)



SB036(西)



SB037(南東)



SB037竈(南西)



SB038(南西)



SB039・042(南東)



SB041(南)



SB044(南西)



SB051(南)



SB052(西)



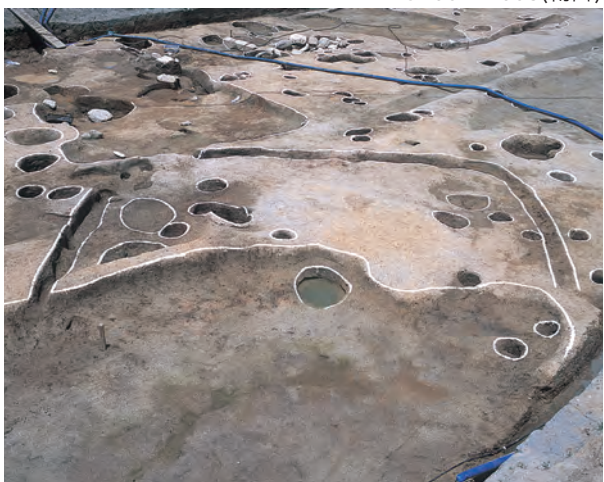
SB053(南)



SB051~053(南西)



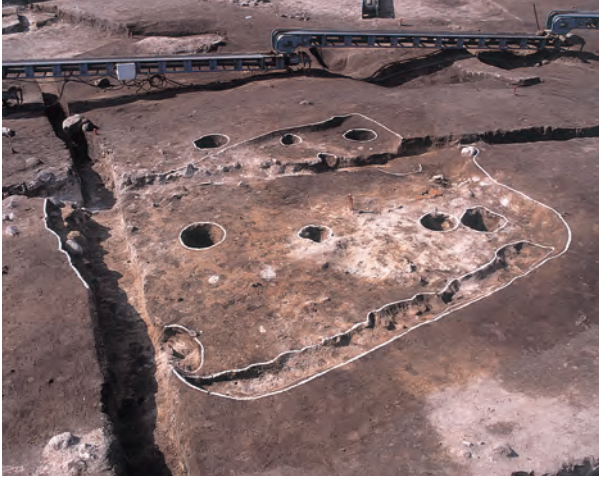
SB060・065(南東)



SB061(南)



SB062・063(南)



SB201(東)



SB204(南)



SB205(南)



SB202・203(北)



SB208(南)



SB209・210(東)



SB211(南)



SB212(南)



02A 区古墳時代竪穴住居群 (北東)



SB213(東)



SB214(北西)



SB215(南)



SB216(南)



02B区竪穴住居群(北東)



SB217(南)



SB218(南東)



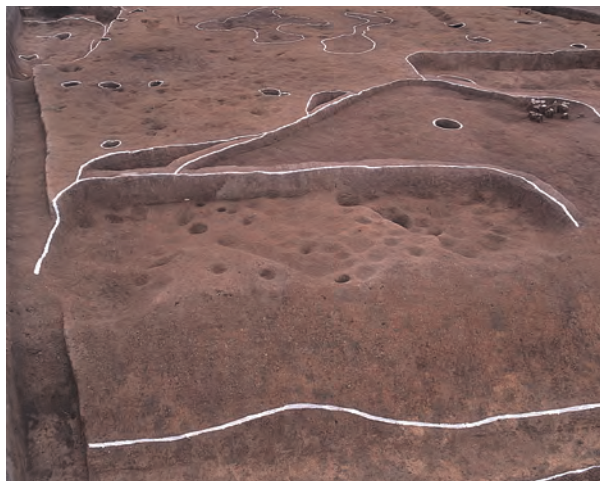
SB221(南東)



SB222(南西)



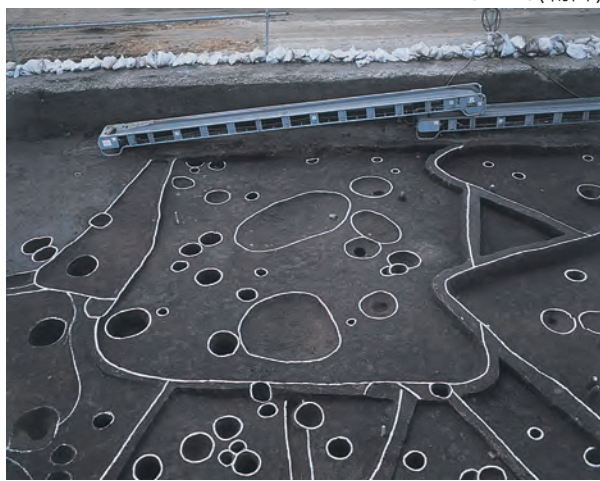
SB223・224(南西)



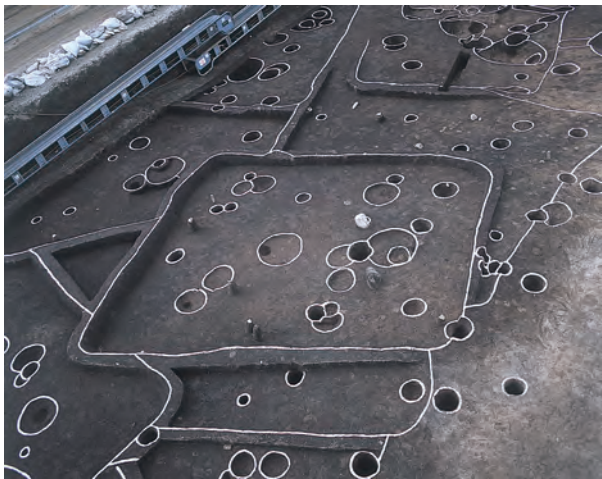
SB225(南西)



SB227(東)



SB242(東)



SB243(南)



SB267(北)



SB279(北)



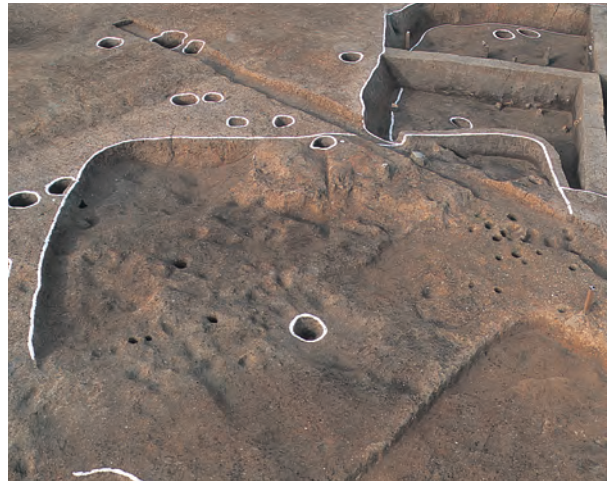
SB285(北)



SB018(南東)



SB018 竈 (南東)



SB043(南)



SB263(西)



SB278(南)



04Ca区大溝群(北)



SD084(東)



SB055(南)



SB056(北西)



SB263(西)



04Ca区 SK964(南)



04Cb区 SK500(南)



02B区 SK58(北東)



SE01(南西)



SE03(東)



SE04(西)



SE07(南)



SD003(南西)



SX024(南東)



SE05(北西)



SE06(東)



1



163



172



141



177



147



179





229



248



239



249



240



257



241



260



242



261





301



319



302



323



304



324



305



353



316



364





466



484



471



485



473



490



481



511



482



512



513



533



517



534



528



562



531



576



532



618



620



715



642



721



677



730



680



731



681



735





772



826



773



828



807



829



808



809



845





957



1073



993



1083



999



1086



1067



1103



1070



1104





1285



1382



1318



1439



1360



1472



1361



1475



1373



1556













2295



2341



2296



2343



2302



2346



2336



2348



2339



2349



2356



2362



2357



2363



2359



2365



2360



2366



2361



2367



2368



2373



2369



2374



2370



2375



2371



2408



2372



2412



2415



2428



2484



2523

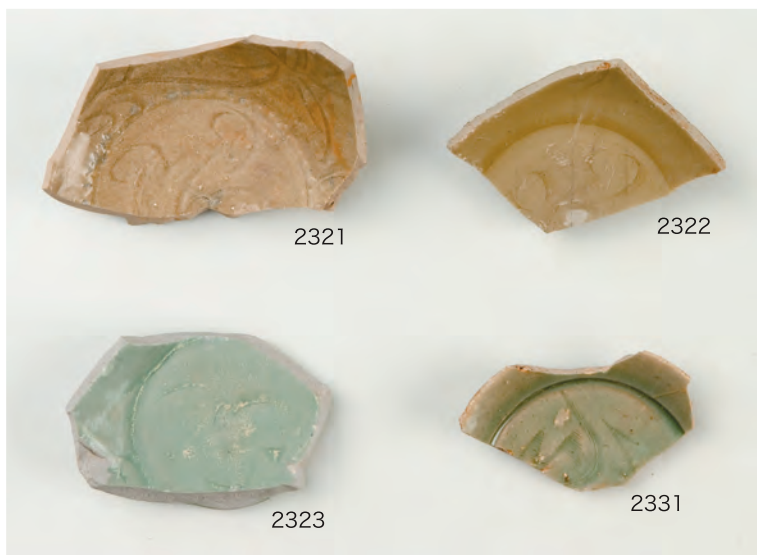


2310

2311

2312

2313



2321

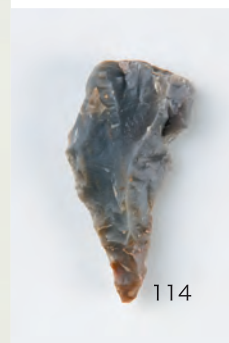
2322

2323

2331







81







報告書抄録

ふりがな	そうさくかねばいせきに							
書名	惣作・鐘場遺跡II							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第150集							
編著者名	酒井俊彦							
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	m ²	調査原因
惣作・鐘場遺跡	せとしそうさくちようかねばちよう 瀬戸市惣作町・鐘場町	03	03792	35° 12' 47"	137° 07' 47"	20011120～ 20040931	28650	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
惣作・鐘場遺跡	集落	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 鎌倉時代～室町時代 江戸時代		竪穴住居 竪穴住居 溝 竪穴住居 竪穴住居 竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝 掘立柱建物 土坑 溝		有舌尖頭器 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 土師器 須恵器 土師器 須恵器 灰釉陶器 山茶碗 古瀬戸施釉陶器 土師器 木製品 瀬戸窯産施釉陶器 土師器鍋		中期集落 後期集落 集落 集落 集落 集落 集落
文書番号	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財 保管証	埋蔵文化財 認定		
	12埋セ163-1 12.11.1	12教生216-39 12.12.7	12埋セ 13.3.30	12埋セ 13.3.30	12埋セ 13.3.30	12教生216-39 13.5.28		
	12埋セ208-5 13.3.9	12教生216-48 13.3.30	13埋セ 13.10.24	13埋セ 13.10.24	13埋セ 13.10.24	12教生216-48 13.12.11		
	13埋セ174 14.3.1	14教生36-28 14.3.14	14埋セ101 14.10.21	14埋セ99 14.10.21	14埋セ100 14.10.21	14教生72-8 14.12.27		
	15埋セ8 15.4.30	15教生72-2 15.5.12	15埋セ118 16.3.25	15埋セ118 16.3.25	15埋セ118 16.3.25	15教生72-2 16.3.31		
	15埋セ111 16.2.25	15教生72-10 16.3.5	16埋セ61 16.10.21	16埋セ61 16.10.21	16埋セ61 16.10.21	16教生1787 17.1.27		
要約	旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代から近世の各時代に渡って集落が展開する。中心となる時代は古墳時代と室町時代である。室町時代に多数の掘立柱建物が展開し、15世紀中葉に集落の周囲に大溝を巡らせ、16世紀前半に廃絶する。							

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第150集

惣作・鐘場遺跡Ⅱ

2008年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 新日本法規出版株式会社